静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集

佛ヶ尾遺跡

第二東名No.147地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－1

2007

中日本高速道路株式会社 横浜支社

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集

佛ヶ尾遺跡

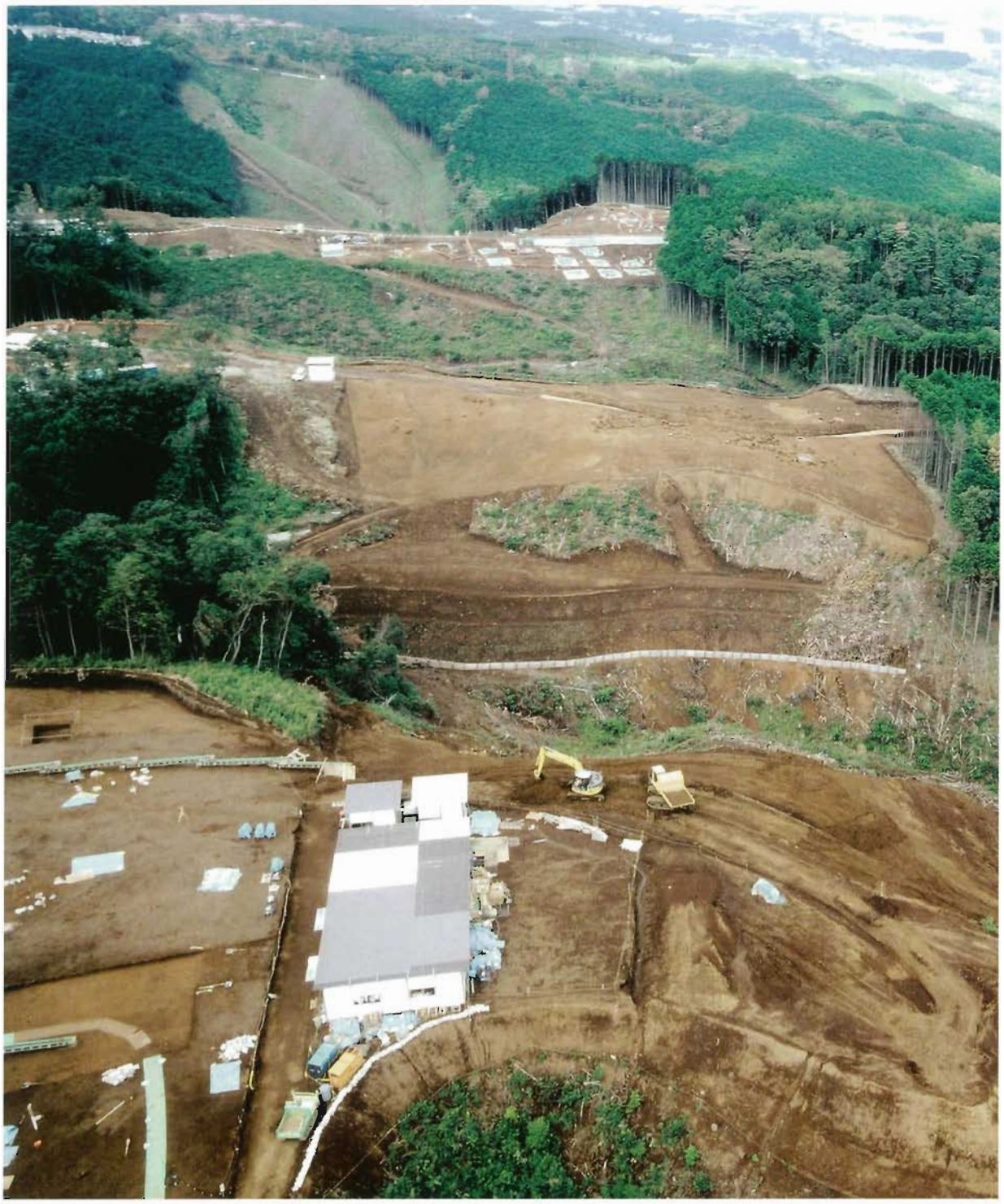
第二東名No.147地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－1

2007

中日本高速道路株式会社 横浜支社
財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



裾野市大畑の第二東名関連遺跡群

（奥から佛ヶ尾遺跡（第二東名No.147地点）、下ノ大窪遺跡（同No.146地点）、老平遺跡（同No.145地点））

巻頭図版 2

縄文時代集落全景

打越式土器

序

第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は裾野市域では20地点で行われた。裾野市域には多くの遺跡が分布しており、特に愛鷹山南東麓における旧石器時代および縄文時代の埋蔵文化財包蔵地の発掘はその成果に期待が寄せられている。

佛ヶ尾遺跡（第二東名No.147地点）は旧石器時代から縄文時代早期にかけて遺物、遺構が検出された。その中でも白眉は縄文時代早期末葉の集落跡である。当該期の集落は静岡県東部地域において確認されているものはあるが、関東系の土器形式である打越式土器を主体とするものは全国でも稀であり、関東系および東海系の土器分布を考察する上でも非常に有益であると考える。打越式土器は関東地方を中心に多くの遺跡で散見されるが、本遺跡のごとく遺物の多くの割合を占めるものが打越式土器であるという様相をしめすことは稀である。さらにそれが静岡県東部で検出されたということにどのような意義があるのであろうか。本報告書を活用していただき、研究者間で活発な議論がなされることを大いに期待するところである。

佛ヶ尾遺跡と谷をはさんで南側にある下ノ大窪遺跡（第二東名No.146地点）もまた、打越式土器を主体とした集落跡である。両者には若干の時期的な差が存在すると考えられ、隣接した尾根に形成される集落の様子から縄文時代の人々がどのような考えの下に居住場所を決定していたのかを考えるよい資料ともなるであろう。

本遺跡では縄文時代草創期に該当する石器が検出されている。さらに遡れば後期旧石器時代の遺物、遺構も確認されている。これらの時代の遺物、遺構の有り様は縄文時代早期末葉と大きく異なる。同じ場所に集まった人々ではあるが、時代によりその土地の活用の仕方や地域に期待するものが異なることをあらわすのであろう。周辺の気候を含めた環境をも考慮にいれて検討すれば、その時代ごとのマクロな視点からの生活パターン復元への参考になるかもしれない。

現地調査および資料整理、本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社横浜支社（旧日本道路公団静岡建設局）・静岡県教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関各位に多大なるご援助、ご理解を得ている。この場をかりて深く感謝申し上げる次第である。また調査にご理解をいただいた地元の皆様、現地での発掘作業、地道な整理作業にあたられた方々に、この機会に厚くお礼申し上げたい。

平成19年３月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長　斎藤　忠

例　　言

1．本書は、静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾に所在する佛ヶ尾（第二東名№147地点）遺跡の発掘調査報告書である。第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の作成は、地区（市町村）単位にて実施している。裾野地区では本書が１冊目であり、よって「第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書裾野市－１」とした。

2．調査は第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、日本道路公団静岡建設局の委託を受けて、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、裾野市教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3．佛ヶ尾遺跡の確認調査・本調査および資料整理の期間は以下のとおりである。

確認調査　　平成15年４月～５月

本調査Ⅰ期　平成15年６月～16年３月

本調査Ⅱ期　平成16年４月～７月

資料整理・本報告書作成　平成17年４月～平成19年３月

4．本遺跡調査担当者は下記のとおりである。

平成15年度（確認調査）

所長：斎藤　忠　副所長：飯田英夫　常務理事：粂田徳幸

総務課長：鎌田英巳　総務課員：鈴木秋博

調査研究部長：山本昇平　調査研究部次長：栗野克己　中嶋郁夫（兼調査一課長）　佐野五十三

主任調査研究員：前嶋秀張

平成15年度（本調査Ⅰ期）

所長：斎藤　忠　副所長：飯田英夫　常務理事：粂田徳幸

総務課長：鎌田英巳　総務課員：鈴木秋博

調査研究部長：山本昇平　調査研究部次長：栗野克己　中嶋郁夫（兼調査一課長）　佐野五十三

主任調査研究員：前嶋秀張　調査研究員：野田正人

平成16年度（本調査Ⅱ期）

所長：斎藤　忠　副所長：飯田英夫　常務理事：平松公夫

総務課長：鎌田英巳　総務課員：中鉢京子

調査研究部長：山本昇平　調査研究部次長：栗野克己　中嶋郁夫（兼調査一課長）　佐野五十三

主任調査研究員：前嶋秀張　調査研究員：野田正人

平成17年度（資料整理）

所長：斎藤　忠　常務理事：平松公夫

総務課長：鈴木大二郎　総務課員：中鉢京子

調査研究部長：石川素久　調査研究部次長：栗野克己　中嶋郁夫（兼調査一課長）　佐野五十三

主任調査研究員：笹原芳郎　調査研究員：野田正人　成田修一

平成18年度（資料整理）

所長：斎藤　忠　常務理事：平松公夫

総務課長：鈴木大二郎　総務課員：中鉢京子

調査研究部長：石川素久　調査研究部次長：佐野五十三　及川　司（兼調査課長）　稲葉保幸

調査課係長：前嶋秀張　中鉢賢治　調査研究員：成田修一　矢島　一

5．執筆は野田正人、成田修一、及川　司、西尾太加二が行った。なお、執筆分担は下記のとおりであるが、執筆者が複数名にわたる箇所は文末に執筆者名を記した。

野 田 正 人：第１章、第２章、第４章　第５章、第６章、第７章

成 田 修 一：第２章２節、第３章、第５章第２節１、第７章

及 川　　司：第１章１節

西尾太加二：自然化学分析（樹種同定）

6．黒曜石の原産地分析は、独立行政法人沼津工業高等専門学校教授　望月明彦氏に、放射性炭素年代測定は株式会社加速器研究所に依頼した。また石器実測は前嶋秀張が作業員を指揮して行ったが、作業の迅速化を図るため一部を株式会社アルカに委託した。出土炭化物の樹種同定は、当研究所保存処理室長　西尾太加二が行った。

7．調査で実施した委託事項および委託先は下記のとおりである。

掘削作業委託

確認調査　　大岡建設工業株式会社

本調査Ⅰ期・Ⅱ期　　株式会社川村組

測量・遺構実測業務および写真撮影業務委託

確認調査　　本調査Ⅰ期・Ⅱ期　　大成エンジニアリング株式会社

8．遺物写真は当研究所沼津現地事務所にて調査研究員　矢島　一が撮影した。

9．本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

10．発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管する。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1．調査区の方眼設定は、国家座標（平面直角座標Ⅷ系）を基準に、国家座標（−90200.00,35580.00）＝（A，0）と設定した。

2．出土遺物は各層ごとに５桁の通し番号を付して取り上げ、土器Ｐ、石器Ｓ、礫Ｒ、炭化物Ｃの略号を付した。本文中の５桁の遺物番号は、現場での取り上げ番号をそのまま使用した。

3．石器の実測は原則として第三角投影図法に拠った。

4．出土遺物の縮尺は原則として、土器は1/3、石器は小型石器を4/5、中型石器を1/3、大型石器を1/5とし、それぞれスケールを付してある。

5．挿図の縮尺は各図に示す通りである。

6．出土遺物の写真図版は、石器は実測図と同縮尺、土器は任意縮尺で掲載した。

7．本文中もしくは観察表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修　1992）を使用した。

8．本文中の遺構・遺物に関する表記は以下の通りである。

RG　礫群　　BL　石器ブロック　　SB　住居跡　　TA　竪穴状遺構　　SF　土坑

SY　集石遺構　　FP　焼土跡　　PS　土器集中

9．石器の石材分類は有石器石材研究所の柴田　徹氏と山本　薫氏による石材標準資料を用いて、当研究所技術員　森嶋富士夫が実施した。

10．黒曜石の産地判別群は独立行政法人沼津工業高等専門学校　望月明彦氏の分類によるものである。判別群の略号は次表の通りである。

黒曜石原産地判別群略号

長　野	和田鷹山群	WDTY	神奈川	箱根畑宿群	HNHJ
	和田小深沢群	WDKB		箱根鍛冶屋群	HNKJ
	和田芙蓉ライト群	WDHY	静　岡	天城柏峠群	AGKT
	諏訪星ヶ台群	SWHD	東　京	神津島恩馳島群	KZOB

11. 本文中・挿図中の石材・層名の略号は以下のとおりである。

番号	和　名	英　名	標準資料略号	番号	和　名	英　名	標準資料略号
1	アプライト	Aplite	Ap	18	多孔質玄武岩	Vesicular Basalt	VBa
2	ガラス質黒色安山岩	Glassy black Andesite	GAn	19	流紋岩	Rhyolite	Rhy
3	黒曜石	Obsidian	Ob	20	閃緑岩	Diorite	Di
4	石英	Quartz	Qt	21	細粒斑レイ岩	Fine Gabbro	FG
5	水晶	Rock Crystal	RC	22	粘板岩	Slate	Sl
6	チャート	Chert	Ch	23	珪質粘板岩	Silicious Slate	SSl
7	チャート(赤色)	Chert (Red)	Ch(Re)	24	凝灰岩	Tuff	Tu
8	デイサイト	Dacite	Da	25	緑色凝灰岩	Green Tuff	GT
9	ホルンフェルス	Hornfels	Hor	26	細粒凝灰岩	Fine Tuff	FT
10	多孔質安山岩	Vesicular Andesite	VAn	27	火山礫凝灰岩	Lapilli Tuff	LT
11	角閃石安山岩	Hornblend Andesite	An(Ho)	28	硬質細粒凝灰岩	Hard Fine Tuff	HFT
12	輝石安山岩	Pyroxene Andesite	An(py)	29	細粒砂岩	Fine Sandstone	FSS
13	細粒安山岩	Fine Andesite	FAn	30	中粒砂岩	Medium Sandstone	MSS
14	頁岩	Shale	Sh	31	粗粒砂岩	Course Sandstone	CSS
15	珪質頁岩	Silicious Shale	SSh	32	軟質細粒凝灰岩	Soft Fine Tuff	SFT
16	赤色頁岩	Red Shale	RSh	33	タルク溶岩(滑石)	Talc	Ta
17	玄武岩	Basalt	Ba				

12. 礫の観察にあたり、受熱・赤化の状態は次表を用いて判別した。

記　号		①赤化の状態	②赤化色調
①	②	(観察表の状態欄)	(観察表の色調欄)
A		非赤化完形礫	観察で焼けていないと判断された礫。
B		非赤化破損礫	色調は記載しない。
A	—	非赤化完形礫	受熱している可能性は有るが観察上赤化または白化が見られなく焼けて無いように見える礫。
B	—	非赤化破損礫	色調は記載しないが上のABと区別するために横棒線で表記。
C	A	赤化完形礫	A…淡い赤化または白化 灰白色(Hue7.5Y8/1)または淡く赤みがかかる 灰白色(Hue5Y7/2)または淡く赤みがかかる
D	A	全赤化破損礫	灰白色(HueN7/　)または淡く赤みがかかる。
E	A	割れ面非赤化礫	灰色(Hue5Y4/1)または淡く赤みがかかる
C	B	赤化完形礫	B…黄褐色に赤みがかかった赤化
D	B	全赤化破損礫	鈍い黄褐色(Hue10YR5/4)に赤みがかかる
E	B	割れ面非赤化礫	黄褐色(Hue2.5Y5/3)に赤みがかかる
C	C	赤化完形礫	C…非常に赤化 鈍い赤褐色(Hue5YR5/3)
D	C	全赤化破損礫	赤褐色(Hue10R4/3)
E	C	割れ面非赤化礫	明褐色(Hue7.5YR5/6)
F	D	全付着完形礫	D…黒褐色 全面にススやタール状物質が付着する礫は観察表の色調欄に「D」と記載し、付着が全面あるいは一部であっても観察表のススの欄に「ス ス」または「タール」と記載する。
G	D	全付着破損礫	
H	D	割れ面非付着礫	
ヒビ		ヒビがある場合は観察表備考欄に「ヒビ」と記載	

13. 層位名の略号は、土層の説明とともに、「第２章３節　基本層序」に明示する。

目　　次

巻頭図版／序／例言／凡例

第１章　調査に至る経緯

第１節　第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯 …… 1
第２節　調査の方法と経過
１．調査の方法 …… 3
２．確認調査 …… 3
３．本調査 …… 3
４．整理作業 …… 4

第２章　遺跡の概要

第１節　地理的環境 …… 6
第２節　歴史的環境 …… 7
第３節　基本層序 …… 11

第３章　旧石器時代の遺構と遺物

第１節　第Ⅲ黒色帯（BBⅢ）～第Ⅰ黒色帯（BBⅠ）の遺物 …… 15
第２節　第Ⅰスコリア層の（SCⅠ）の遺構と遺物 …… 18
第３節　休場層（YL）の遺構と遺物 …… 21
第４節　細石器期の遺物 …… 36

第４章　縄文時代草創期の遺構と遺物

第１節　遺構 …… 40
第２節　遺物 …… 43

第５章　縄文時代早期の遺構と遺物

第１節　遺構
１．竪穴住居跡 …… 50
２．竪穴状遺構 …… 73
３．陥穴状土坑 …… 83
４．土坑・小穴 …… 91
５．集石遺構 …… 95
６．焼土跡 …… 111

7．石器ブロック …… 114
8．土器集中 …… 114
第2節　遺物
1．土器 …… 119
2．石器 …… 184

第6章　弥生時代以降の遺構と遺物

第1節　遺構 …… 244
第2節　遺物 …… 245

第7章　総括 …… 247

附編　分析

出土黒曜石製石器産地推定分析　独立行政法人　沼津工業高等専門学校　教授　望月明彦 …… 277
出土土器放射性炭素年代測定　株式会社　加速器分析研究所 …… 286
出土炭化物樹種同定　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所　西尾太加二 …… 289

写真図版

挿図目次

第１図　調査区及びグリッド配置図 …… 5
第２図　裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡 …… 8
第３図　佛ヶ尾遺跡と周辺の地形 …… 9
第４図　基本土層柱状図 …… 13
第５図　土層堆積状況 …… 14
第６図　第Ⅲ黒色帯～第Ⅰ黒色帯の遺物分布図 …… 16
第７図　第Ⅲ黒色帯～第Ⅰ黒色帯の石器 … 16
第８図　第Ⅰスコリア層遺構遺物分布図 … 18
第９図　第Ⅰスコリア層礫群 …… 18
第10図　第Ⅰスコリア層石器 …… 19
第11図　休場層土坑 …… 21
第12図　休場層礫群 …… 23
第13図　休場層礫群及び単独礫分布図 …… 24
第14図　休場層石器分布図 …… 25
第15図　休場層石器(1)　ナイフ形石器 …… 26
第16図　休場層石器(2)　尖頭器 …… 27
第17図　休場層石器(3) …… 28
第18図　休場層石器(4)　剥片類 …… 30
第19図　休場層石器(5)　礫石器 …… 32
第20図　休場層エリア概念図 …… 35
第21図　細石器期の遺物分布図 …… 36
第22図　細石器期の石器 …… 37
第23図　縄文時代草創期遺構遺物分布図 … 41
第24図　縄文時代草創期石器ブロック及び関連遺物 …… 42
第25図　縄文時代草創期石器(1) …… 44
第26図　縄文時代草創期石器(2) …… 45
第27図　縄文時代草創期石器(3) …… 47
第28図　縄文時代遺構全体図 …… 51
第29図　縄文時代遺構配置図－１ …… 52
第30図　縄文時代遺構配置図－２ …… 53
第31図　縄文時代遺構配置図－３ …… 54
第32図　１号住居跡 …… 55
第33図　１号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 56
第34図　１号住居跡出土遺物(2) …… 57
第35図　１号住居跡出土遺物(3) …… 58
第36図　２号住居跡 …… 60
第37図　２号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 61
第38図　２号住居跡出土遺物(2) …… 62
第39図　３号住居跡 …… 63
第40図　３号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 64
第41図　３号住居跡出土遺物(2) …… 65
第42図　４号住居跡 …… 66
第43図　４号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 67
第44図　４号住居跡出土遺物(2) …… 68
第45図　４号住居跡出土遺物(3) …… 69
第46図　５号住居跡 …… 70
第47図　５号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 71
第48図　５号住居跡出土遺物(2) …… 72
第49図　６号住居跡 …… 74
第50図　６号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 75
第51図　６号住居跡出土遺物(2) …… 76
第52図　１号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 78
第53図　１号竪穴状遺構出土遺物(2) …… 79
第54図　２号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物(1) …… 80
第55図　２号竪穴状遺構出土遺物(2) …… 81
第56図　３号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物 …… 82
第57図　陥穴状土坑(1)及び出土遺物 …… 84
第58図　２号陥穴状土坑出土遺物 …… 85
第59図　陥穴状土坑(2)及び出土遺物 …… 86
第60図　陥穴状土坑(3) …… 88
第61図　陥穴状土坑(4)及び出土遺物 …… 89
第62図　陥穴状土坑(5)及び出土遺物 …… 90
第63図　土坑(1)及び出土遺物 …… 91
第64図　土坑(2) …… 92

第65図　小穴(1) …… 93
第66図　小穴(2)及び出土遺物 …… 94
第67図　集石遺構・礫分布図 …… 96
第68図　集石(1)及び出土遺物 …… 98
第69図　集石(2)及び出土遺物 …… 99
第70図　集石(3)及び出土遺物 …… 101
第71図　集石(4)及び出土遺物 …… 105
第72図　集石(5)及び出土遺物 …… 107
第73図　焼土跡(1)及び出土遺物 …… 112
第74図　焼土跡(2) …… 113
第75図　石器ブロック及び出土遺物 …… 114
第76図　土器集中及び出土遺物(1) …… 115
第77図　土器集中出土遺物(2) …… 117
第78図　集落域遺物出土状況 …… 120
第79図　土器型式別分布図１ …… 123
第80図　土器型式別分布図２ …… 124
第81図　土器型式別分布図３ …… 125
第82図　土器型式別分布図４ …… 126
第83図　土器型式別分布図５ …… 127
第84図　縄文土器(1) …… 129
第85図　縄文土器(2) …… 131
第86図　縄文土器(3) …… 133
第87図　縄文土器(4) …… 134
第88図　縄文土器(5) …… 135
第89図　縄文土器(6) …… 137
第90図　縄文土器(7) …… 138
第91図　縄文土器(8) …… 139
第92図　縄文土器(9) …… 140
第93図　縄文土器(10) …… 142
第94図　縄文土器(11) …… 143
第95図　縄文土器(12) …… 144
第96図　縄文土器(13) …… 145
第97図　縄文土器(14) …… 146
第98図　縄文土器(15) …… 147
第99図　縄文土器(16) …… 148
第100図　縄文土器(17) …… 149
第101図　縄文土器(18) …… 151
第102図　縄文土器(19) …… 153
第103図　縄文土器(20) …… 155
第104図　縄文土器(21) …… 156
第105図　縄文土器(22) …… 157
第106図　縄文土器(23) …… 159
第107図　縄文土器(24) …… 160
第108図　縄文土器(25) …… 161
第109図　縄文土器(26) …… 163
第110図　縄文土器(27) …… 165
第111図　縄文土器(28) …… 166
第112図　縄文土器(29) …… 168
第113図　縄文土器(30) …… 170
第114図　縄文時代石槍・石鏃産地
　石材別分布図 …… 186
第115図　縄文時代石槍・石鏃産地
　石材別分布図（集落域） …… 187
第116図　縄文時代石器(1)石槍・石鏃１ …… 188
第117図　縄文時代石器(2)石鏃２ …… 189
第118図　縄文時代削器・掻器他分布図 …… 192
第119図　縄文時代削器・掻器他
　分布図（集落域） …… 193
第120図　縄文時代石器(3)削器１ …… 194
第121図　縄文時代石器(4)削器２ …… 195
第122図　縄文時代石器(5)削器３ …… 196
第123図　縄文時代石器(6)削器４ …… 197
第124図　縄文時代石器(7)削器５
　掻器・石匙・石錐・耳飾 …… 198
第125図　縄文時代石核石材別分布図 …… 201
第126図　縄文時代石核石材別
　分布図（集落域） …… 202
第127図　縄文時代石器(8)石核１ …… 203
第128図　縄文時代石器(9)石核２ …… 204
第129図　縄文時代石器(10)石核３ …… 205
第130図　縄文時代石器(11)石核４ …… 206
第131図　縄文時代石器(12)石核５ …… 207
第132図　縄文時代石器(13)両面調整石器 …… 208
第133図　縄文時代楔形石器
　加工痕のある剥片
　使用痕のある剥片分布図 …… 210
第134図　縄文時代楔形石器
　加工痕のある剥片
　使用痕のある剥片
　分布図（集落域） …… 211
第135図　縄文時代石器(14)楔形石器１ …… 212
第136図　縄文時代石器(15)楔形石器２ …… 213

第137図　縄文時代石器⑯
　　加工痕のある剥片1 …… 214
第138図　縄文時代石器⑰
　　加工痕のある剥片２ …… 215
第139図　縄文時代石器⑱
　　使用痕のある剥片 …… 217
第140図　縄文時代石器⑲打製石斧１ …… 218
第141図　縄文時代石器⑳打製石斧２ …… 219
第142図　縄文時代石器㉑礫器１ …… 221
第143図　縄文時代石器㉒礫器２ …… 222
第144図　縄文時代石器㉓礫器３ …… 223
第145図　縄文時代磨石類分布図 …… 224
第146図　縄文時代磨石類
　　分布図（集落域） …… 225
第147図　縄文時代石器㉔磨石類１ …… 226
第148図　縄文時代石器㉕磨石類２ …… 227
第149図　縄文時代石器㉖磨石類３ …… 228
第150図　縄文時代石器㉗磨石類４ …… 229
第151図　縄文時代石器㉘磨石類５ …… 230
第152図　縄文時代石皿類分布図 …… 232
第153図　縄文時代石皿類
　　分布図（集落域） …… 233
第154図　縄文時代石器㉙石皿１ …… 234
第155図　縄文時代石器㉚石皿２ …… 235
第156図　縄文時代石器㉛石皿３
　　台石・砥石 …… 236
第157図　石器接合図－１ …… 237
第158図　石器接合図－２ …… 238
第159図　円形土坑 …… 244
第160図　弥生時代以降の遺物 …… 246
第161図　縄文時代土器接合図（Ｐ194） …… 249
第162図　佛ヶ尾遺跡出土磨石類
　　形状分布図 …… 255
第163図　磨石類形状別重量分布 …… 255
第164図　磨石類形状別分布図（集落域） …… 257
第165図　石皿分類概念図 …… 258
第166図　石皿類形状別分布図（集落域） …… 260
第167図　縄文時代土器接合図（Ｐ130） …… 264
第168図　佛ヶ尾遺跡周辺
　　石材入手候補地位置図 …… 268
第169図　放射性炭素年代測定実施土器 …… 274

図版目次

巻頭図版　裾野市大畑の第二東名関連遺跡群／縄文時代集落全景／打越式土器

写真図版

図版１　⑴土層堆積状況（谷部）表土～休場層中層
⑵土層堆積状況（丘陵部）
休場層～第Ⅰスコリア層
⑶土層堆積状況　第Ⅱスコリア層～中部ローム
図版２　⑴休場層遺物出土状況
⑵南斜面テストピット完掘
図版３　⑴旧石器時代　１号礫群
⑵旧石器時代　４号礫群
⑶旧石器時代　土坑
図版４　⑴縄文時代　遺物出土状況
⑵縄文時代　北西部遺物出土状況
図版５　⑴縄文時代　１号住居跡
⑵縄文時代　２号住居跡
図版６　⑴縄文時代　３号住居跡
⑵縄文時代　４号住居跡
図版７　⑴縄文時代　５号住居跡
⑵縄文時代　６号住居跡
図版８　⑴縄文時代　１号竪穴状遺構
⑵縄文時代　２号竪穴状遺構
図版９　⑴縄文時代　３号竪穴状遺構
⑵縄文時代　１号住居跡遺物出土状況
⑶縄文時代　３号住居跡遺物出土状況
⑷縄文時代　８号陥穴状土坑
⑸縄文時代　９号陥穴状土坑（半截状況）
⑹縄文時代　９号陥穴状土坑
⑺縄文時代草創期　石器ブロック
⑻縄文時代　３号集石遺構
図版10　⑴縄文時代　５号集石遺構
⑵縄文時代　13号集石遺構
⑶縄文時代　14号集石遺構
⑷縄文時代　１号焼土跡
⑸縄文時代　２号土器集中
⑹縄文時代　４号土器集中
⑺縄文時代　４号住居跡床面直上
打越式土器検出状況
⑻縄文時代　遺物包含層　打越式土器検出状況
図版11　旧石器時代　石器１
図版12　旧石器時代　石器２
図版13　縄文時代草創期　石器１
図版14　縄文時代草創期　石器２
図版15　縄文時代　石器１
図版16　縄文時代　石器２
図版17　縄文時代　石器３
図版18　縄文時代　石器４
図版19　縄文時代　石器５
図版20　縄文時代　石器６
図版21　縄文時代　石器７
図版22　縄文時代　石器８
図版23　縄文時代　石器９
図版24　縄文時代　石器10
図版25　縄文時代　石器11
図版26　縄文時代　石器12
図版27　縄文時代　石器13
図版28　縄文時代　石器14
図版29　縄文時代　石器15
図版30　縄文時代　石器16
図版31　縄文時代　土器１
図版32　縄文時代　土器２
図版33　縄文時代　土器３
図版34　縄文時代　土器４
図版35　縄文時代　土器５
図版36　縄文時代　土器６
図版37　縄文時代　土器７
図版38　縄文時代　土器８
図版39　縄文時代　土器９
図版40　縄文時代　土器10
図版41　縄文時代　土器11
図版42　縄文時代　土器12
図版43　縄文時代　土器13
図版44　縄文時代　土器14
図版45　縄文時代　土器15
図版46　縄文時代　土器16
図版47　縄文時代　土器17
図版48　縄文時代　土器18
図版49　縄文時代　土器19
図版50　縄文時代　土器20
図版51　縄文時代　土器21
図版52　縄文時代　土器22
図版53　縄文時代　土器23
図版54　縄文時代　土器24
図版55　縄文時代　土器25
図版56　縄文時代　土器26
図版57　縄文時代　土器27
図版58　縄文時代　土器28
図版59　縄文時代　土器29
図版60　縄文時代　土器30
図版61　縄文時代　土器31
図版62　縄文時代　土器32
図版63　縄文時代　土器33
図版64　縄文時代　土器34

挿表目次

第１表　遺跡地名表 …… 9
第２表　旧石器時代石器一覧 …… 15
第３表　第Ⅲ黒色帯　掻器 …… 17
第４表　第Ⅱ黒色帯　剥片 …… 17
第５表　第Ⅰ黒色帯　ナイフ形石器 …… 17
第６表　第Ⅰスコリア層　剥片 …… 19
第７表　礫群計測表 …… 20
第８表　休場層　ナイフ形石器 …… 27
第９表　休場層　尖頭器 …… 27
第10表　休場層　石刃・石刃状剥片 …… 29
第11表　休場層　削器 …… 29
第12表　休場層　掻器 …… 29
第13表　休場層　加工痕のある剥片 …… 29
第14表　休場層　剥片類 …… 31
第15表　休場層　礫石器類 …… 32
第16表　細石核 …… 36
第17表　細石刃 …… 36
第18表　彫器 …… 37
第19表　礫器 …… 37
第20表　旧石器時代礫計測表 …… 39
第21表　縄文時代草創期石器一覧 …… 40
第22表　縄文時代草創期石器観察表 …… 48
第23表　縄文時代草創期礫計測表 …… 49
第24表　土坑・小穴一覧 …… 91
第25表　１号集石遺構 …… 97
第26表　２号集石遺構 …… 97
第27表　３号集石遺構 …… 97
第28表　４号集石遺構 …… 100
第29表　５号集石遺構 …… 100
第30表　６号集石遺構 …… 102
第31表　７号集石遺構 …… 102
第32表　８号集石遺構 …… 103
第33表　９号集石遺構 …… 103
第34表　10号集石遺構 …… 104
第35表　11号集石遺構 …… 104
第36表　12号集石遺構 …… 106
第37表　13号集石遺構 …… 106
第38表　14号集石遺構 …… 107
第39表　集石構成礫計測表 …… 108
第40表　遺構編掲載土器遺物編対応表 …… 118
第41表　土器分類基準 …… 121
第42表　グリッド別出土土器一覧 …… 122
第43表　土器観察表 …… 172
第44表　縄文時代石器一覧 …… 184
第45表　磨石類形状別分類 …… 230
第46表　縄文時代早期石器観察表 …… 239
第47表　土器・陶磁器観察表 …… 245
第48表　石製品観察表 …… 245
第49表　愛鷹山東南麓・箱根西麓の
　石鏃の様子 …… 251
第50表　石鏃形状別一覧 …… 253
第51表　石鏃石材別細部調整一覧 …… 254
第52表　形状別欠損部位出現一覧 …… 254
第53表　住居跡及び竪穴状遺構
　出土遺物等一覧 …… 262
第54表　住居跡等遺構新旧推測表 …… 265
第55表　下ノ大窪遺跡（No.146地点）
　との比較 …… 267
第56表　磨石類石材別個数・割合 …… 269
第57表　集石遺構
　石材別個数・割合 …… 269
第58表　磨石採集実験地点別
　石材個数・割合 …… 269
第59表　放射性炭素年代測定土器一覧 …… 274

第１章　調査に至る経緯

第１節　第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

混雑化する東名・名神高速道路の抜本的な対策として、昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。その後、第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道路建設法の一部改正等を経て、平成元年１月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、飛島村～神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市に至る延長約270kmの第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170kmである。この基本計画策定を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置したが、教育委員会文化課もメンバーとして協議に参加した。

その後、第二東名の基本計画については、文化財を含む環境影響調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図った上、平成３年９月24日には静岡県長泉町～引佐町間の都市計画決定告示がなされた。

こうした環境影響調査と並行する形で、埋蔵文化財の分布状況の把握作業もなされている。第二東名建設に関する調査の指示を受けた日本道路公団は、平成４年２月17日付で文化庁へ通知を行うとともに、平成４年５月11日付で、日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長あてに、長泉町～引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。また、平成４年８月27日付で日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長から静岡県教育委員会教育長あてに、「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けて県教育委員会は、平成４年９月29日に関係市町村教育委員会を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。踏査結果については、各市町村教育委員会からの回答を基に協議を行い、県教育委員会が取りまとめたものを平成５年３月18日付で、静岡県教育委員会教育長から日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長あてに回答がなされている。この時点での調査対象箇所は136箇所、調査対象総面積が1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町～引佐町間については、平成５年11月19日付で日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で、埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について協議されるとともに、発掘調査の実施については日本道路公団が㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所へ委託を行うことが確認されている。しかしながら、第二東名建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が想定され、そのための調査体制をどのように確保していくかが、大きな課題となった。

さらに平成６年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について、具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告・取りまとめがなされている。こうした状況調査やあらたな踏査結果を基に見直しがなされた結果、この段階での調査対象地点は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となっている。

平成７年度後半には、路線の一部では幅杭の打設が開始されており、埋蔵文化財の調査の開始についてもかなり見通しがでてきた。こうした状況の中で、第二東名建設に係る埋蔵文化財の取り扱いを協議する場として、日本道路公団静岡建設所（平成６年２月設置）と県教育委員会文化課による「第二東名

関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第１回の協議が平成７年12月13日に行われている。これ以降、細かい埋蔵文化財の取扱いについては、この会議において協議していくこととなった。なお、日本道路公団静岡建設所は平成８年７月１日をもって、日本道路公団静岡建設局に改組されている。

平成８年度には、第二東名建設に係る埋蔵文化財の調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、平成８年９月24日付で第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについての確認書を締結した。さらに調査実施機関である㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた三者は、平成８年９月25日付で第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成８年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半には、掛川市倉真のNo.94地点、浜北市大平のNo.136地点、同市四大地のNo.137地点の確認調査が実施されている。その後、平成９年度からは、発掘調査も本格化し、県内各地に於いて確認調査から順次着手していった。

一方、長泉町～御殿場市間についても日本道路公団に対し、平成９年１月31日付で建設に係る調査開始指示が出され、さらに平成９年12月25日付で施行命令が出されている。この区間については、建設省の依頼により平成６年度後半に踏査が行われ、調査対象地点のリストアップが行われていたが、調査開始指示を受けて、再度平成10年９月２日付で日本道路公団静岡建設局より静岡県教育委員会教育長あてに「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けて、県教育委員会文化課は、関係する市町村教育委員会に平成10年９月25日付で再踏査の依頼をするとともに、10月２日には踏査の実施に関する打ち合せ会を行った。11月上旬には、長泉町・裾野市・御殿場市教育委員会から踏査結果についての報告がなされたが、県教育委員会文化課はそれを取りまとめ、平成10年12月17日付で県教育長から日本道路公団静岡建設局長あての回答を行った。この区間で埋蔵文化財調査の対象となった箇所は21地点、調査対象総面積は108,734㎡であった。関係者協議の結果、これらの調査対象地点についても、㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとし、平成11年３月５日付で協定変更を行っている。

なお、第二東名に係る埋蔵文化財の調査は、関係者協議の結果、基本的には本線及びサービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路及び取付道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかず、本線部分の一部について、沼津市や静岡市、浜北市、富士宮市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応してもらうとともに、特に東部地域を中心に、民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、裾野市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、佛ヶ尾遺跡（第二東名No.147地点）の調査が行われた。（及川・野田）

第２節　調査の方法と経過

１．調査の方法

遺跡全体を把握するため日本測地系（改正前）を用い、国土平面直角座標系ＸⅢ系のＸ＝－90200.0、Ｙ＝35590.0上を（Ａ、１）として、Ｘ軸方向にアルファベット、Ｙ軸方向に数字を付し遺跡全体に10ｍ方眼を設定、グリッドとした。地理座標に準じているため、南北方向にＸ軸、東西方向にＹ軸としている。

本遺跡では日本道路公団から東経35720.0ラインより東側を先行引き渡しラインとして設定されていたため、先行引き渡しラインの東側をⅠ期分、西側をⅡ期分と区分した。平成15年４月から５月に確認調査を行い、同年６月から本調査として引き渡しライン東側の縄文時代の調査を開始した。

遺物の取り上げ・地形測量は㈱シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用い、光波測定器によって実施した。遺物には層位別に土器＝Ｐ、石器＝Ｓ、礫＝Ｒ等の略号と５桁の通し番号を付け、Ｘ・Ｙ座標値と標高値（Ｈ）を記録し取り上げた。地形測量は遺構検出面での測量を基本とし、１ｍメッシュで測量した。ともにコンピューターデータとして保管している。個別遺構図は平面図・立面図等を縮尺1/20を基本として手実測により図化し、微細図は縮尺1/10で作成し保管している。

写真記録撮影は６×７判（白黒）と35㎜（カラーネガ、カラースライド、白黒）を組み合わせて行い、遺構写真等は適宜ローリングタワーを使用して高所から撮影した。また各遺構面終了時には適宜ラジコンヘリコプターを用いて空中写真撮影を行った。

２．確認調査

佛ヶ尾遺跡は平成15年４月から５月の２ヶ月間に渡って確認調査を行った。本遺跡の中心部は東側丘陵部にあると考えられたため、そこを中心に18ヶ所のテストピット（４ｍ×４ｍ）を設定し、遺構・遺物の範囲を確認した。その結果、調査区東側を中心に全域で縄文土器・石器・礫が出土し、併せて陥穴が検出された。また、南側斜面地のＧ-008グリッドに設定したテストピットからは旧石器時代に相当する第Ⅲ黒色帯より石器が出土した。この状況を静岡県教育委員会文化課に報告したところ、確認調査対象範囲の全域を本格的に調査するように指導があり、本調査実施に至った。

３．本調査

本調査は平成15年度、16年度に亘って調査が行われた。そのうち、平成15年度調査範囲の5,630㎡を本調査Ⅰ期、平成16年度調査範囲の2,270㎡を本調査Ⅱ期とした（以下、Ⅰ期、Ⅱ期）。

Ⅰ期は確認調査終了後の平成15年６月２日より開始した。調査区を設定し、重機による表土除去を行うと同時に現地作業員棟や駐車場を設置し、順次資機材等の搬入を行った。調査区は愛鷹山南東麓の枝尾根上に存在し、進入路である裾野市道2144号線（以下、裾野市道）は非常に起伏の激しい道であるため、作業員は尾根裾に設けた駐車場に集合し、そこから４輪駆動車で調査区まで移動した。

本調査ではⅠ期、Ⅱ期ともに表土除去を行った後、人力掘削を行った。遺物包含層の人力掘削は表土除去が終了した部分より随時開始された。調査区東側丘陵頂部からは縄文土器、石器、礫が大量に出土した。また、遺物集中域を中心に遺構検出作業を試みたところ、住居跡６基、竪穴状遺構３基、その他に陥穴状土坑、ピット、集石遺構、焼土跡などが検出された。

東側丘陵頂部は確認調査において縄文時代の遺物の検出が多く、そのため旧石器時代面の確認を行うには至らなかった。そのため、本調査では縄文時代遺物包含層掘削後、グリッドに１つの割合でテストピットを設定し、掘削を行った。その結果、旧石器時代のナイフ形石器や礫群が出土し、出土したテス

トピット周辺は随時拡張を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査区南東側の斜面地においても調査を試みたが、遺物の出土は僅少であった。テストピットを掘削したところ、大きな地割れが多数入り込んでいることが判明した。遺構・遺物の検出が期待できないことやまた急斜面における危険な作業を回避するため、斜面地では中部ローム層までの掘削は断念した。一部の平坦な部分では、第Ⅰスコリア層において礫群が検出されている。

調査区中央部からは縄文時代遺物包含層を中心に、縄文土器及び礫が検出された。この部分で出土した土器は東側丘陵頂部で出土したものとは型式を異としている。また集石遺構も検出された。調査区中央部には北から南へと下る埋没谷が存在し、その谷筋に沿って礫が多く出土した。そこで谷に沿って南北にトレンチを設定して掘削した結果、礫の多数は調査区西側丘陵部よりの流れ込みであると判断するに至った。そのため、南端部である裾野市道南側はトレンチを休場層上層まで掘削して調査を終了した。裾野市道北側の埋没谷の谷頭周辺は平坦なところがあるため、縄文時代遺物包含層掘削後、平坦部を選んでテストピットを掘削した。その結果、旧石器時代面より石器や礫群が検出された。本調査Ⅰ期は調査区中央部付近までの調査を行い、平成16年３月22日に終了した。

調査区西側丘陵部及び西側市道南の斜面地は本調査Ⅱ期の対象となった。Ⅱ期は平成17年４月より開始された。Ⅰ期で検出された調査区中央部埋没谷出土遺物は、Ⅱ期の対象である西側丘陵部よりの流れ込みであると考えていたため、多くの遺物の出土が予想された。しかし遺物の出土量は予想を大きく下回るものであった。そのため縄文時代遺物包含層掘削後、グリッドごとに１つのテストピットを設定し、掘削を行った。テストピットからは休場層において石器の出土が見られ、礫群も検出されたが出土量は少なかった。また確認調査において第Ⅲ黒色帯から遺物が出土していたことから、下位の層でも遺物出土が見込まれたが、遺物は見られなかった。そのためⅡ期は当初予定されていた８ヶ月の調査期間を短縮し、７月末に終了した。

４．整理作業

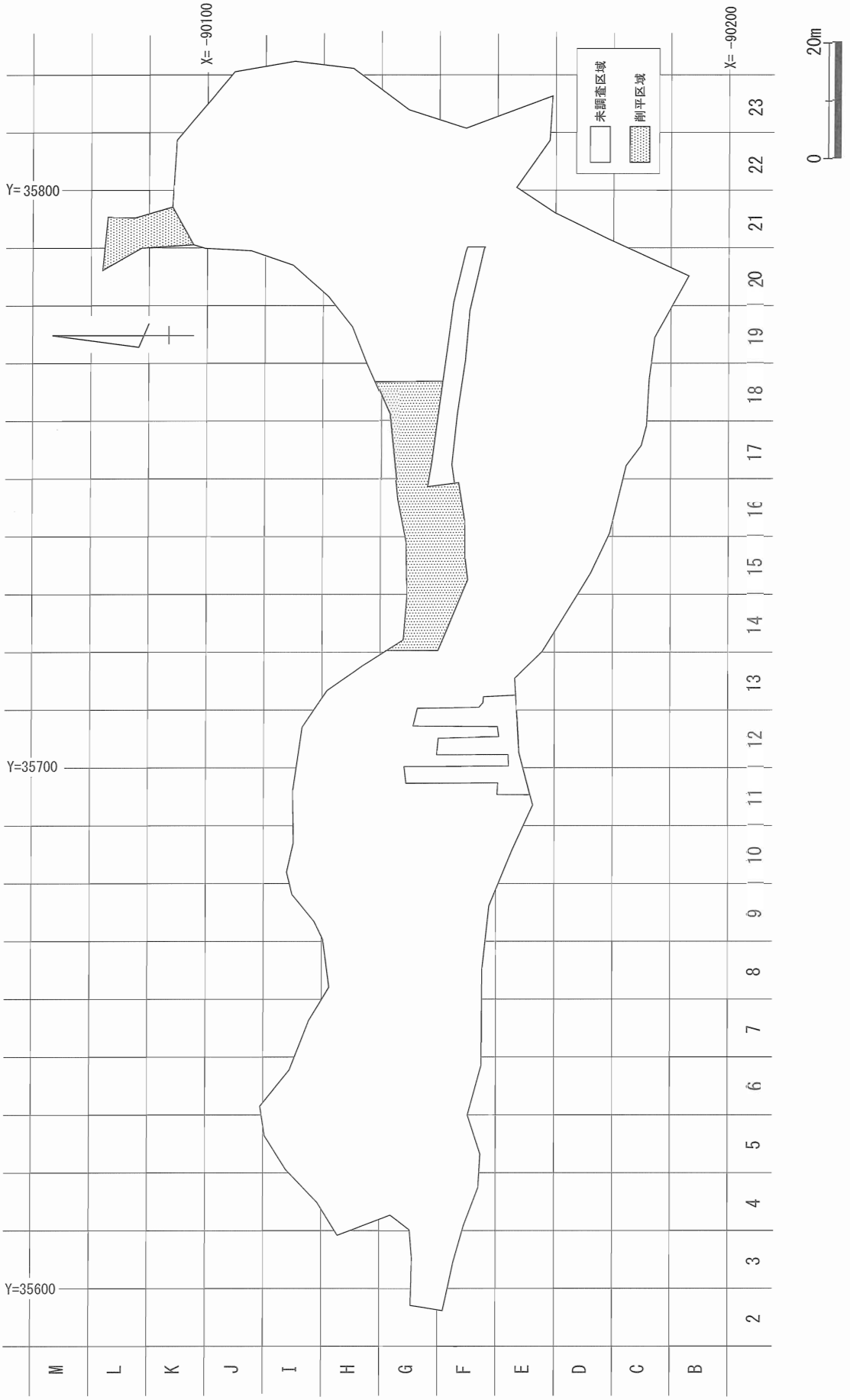
資料整理・報告書作成は平成17年４月～平成19年３月にかけて行った。出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器44点、礫71点、縄文時代草創期の石器112点、礫３点、縄文時代早期以降の土器8,435点、石器6,596点、礫4,519点、炭化物３点、弥生時代以降の遺物は土器１点、陶磁器３点、石製品２点であった。それらをまとめると出土遺物総点数は19,789点であった。

石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の製品については薬品処理（PARALOID B-72、ワッカーOH-100）によって遅延劣化措置を施した。

次に石器、礫の石材分類や層位ごとの分類を行い、あわせて接合作業も行った。石器は調整・加工の施されているもの、接合状態に特徴があるものなどを中心に実測図を作成した。また黒曜石製石器については、独立行政法人沼津工業高等専門学校教授　望月明彦氏に依頼して、産地推定分析を行った。縄文時代の石器については調整・加工のあるもの、旧石器時代に関しては全てを分析の対象にした。

土器は型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。また、残存状態が良好な二個体に関しては復元を試みた。また、一部の土器において、付着炭化物の年代測定を行った。測定業務は株式会社加速器分析研究所に委託し、C14年代測定（AMS法）を用いた。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。遺構図面に関しては、手取り実測図とシステムデータを統合した「遺構カード」を作成した。また、調査現場で用いた光波測定機の記録データはCADで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、ソフト上で図版の編集を行った。



第１図　調査区及びグリッド配置図

第２章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

佛ヶ尾遺跡（以下、本遺跡）は静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾に所在する遺跡である。ＪＲ裾野駅より北西方向約３㎞の愛鷹山東南麓における比較的緩やかな尾根上に位置する。愛鷹山東側を流下する黄瀬川にある五竜の滝付近の大畑集落から北西に尾根を登るところにあり、調査区北側の谷には谷津川が流れ、川をはさんで北西の尾根上には東急千福ニュータウンが存在する。また、調査区の西方0.6㎞には裾野市美化センターがある。調査区全体は東西に枝尾根が走り、尾根上は裾野市道2144号線として利用されている。

愛鷹山は数10万年前の更新世後期に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した壮年期の円錐形をした成層火山である。愛鷹山は、玄武岩質や凝灰角礫岩の噴出物と安山岩質の噴出物によって形成されたと推定されている。そして、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山が形成されている。中でも約８万年前に活動していた古富士火山及び約１万年前に活動していた新富士火山を供給源とする愛鷹ローム層は上部ローム層という。今までのところ、この上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されている。愛鷹山南麓および東南麓は富士市・沼津市・長泉町・裾野市の３市１町にまたがって連なっており、東西方向約16㎞に及ぶ。北麓は富士山東南麓と接する。山頂は複数の峰に分岐しており、主峰は愛鷹岳で標高1,187.5ｍを測り、最高峰である越前岳は標高1,504ｍを測る。複数の山頂より生ずる湧き水等は無数の小さな水系となり、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成し、黄瀬川などの主流となる水系に合流する。

愛鷹山東南麓は枝尾根が多く入り組み、尾根上の平坦な場所を選ぶかのようなかたちで遺跡が存在する。本遺跡のごとく旧石器時代及び縄文時代の遺跡の多くはこのような立地条件で形成されている。また、愛鷹山東側は富士山・愛鷹山と箱根山系とに挟まれた低地が平野部として南北に走り、東西日本を結ぶ交通路として活用されてきた歴史があることから、中世に入ると地形の持つ重要性から各地に多くの城砦が設けられた。

本遺跡は愛鷹山東南麓の標高約240～260ｍに位置する。近年、第二東名建設工事に伴う発掘調査が進むにつれ、愛鷹山東南麓には非常に多くの遺跡が存在することが確認されている。今後、本遺跡を始めとした、新たに発見された遺跡の検証が進めば、愛鷹先史時代の理解が大きく進むと考えられる。

第２節　歴史的環境

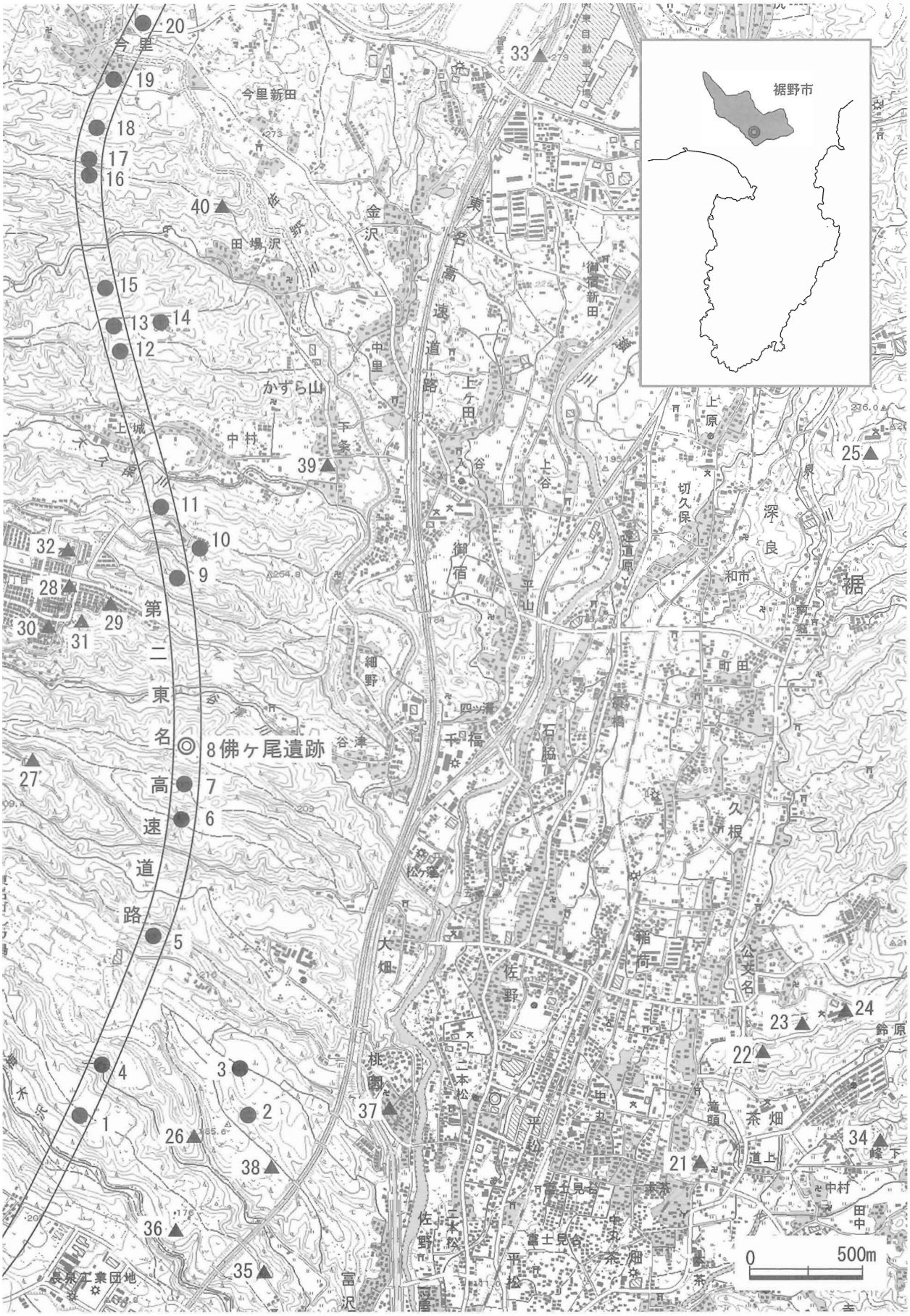
本遺跡の所在する裾野市域は、愛鷹山東南麓の緩斜面、箱根山系との間の平地、箱根山系の枝尾根など地形の変化に富み、多くの遺跡が築かれてきた。市内の遺跡を取り上げながら、旧石器時代から縄文時代までの裾野市を概観する。

(1)　旧石器時代

愛鷹山東南麓での人間の営みは３万年以上前まで遡ることができる。人間が生活していた痕跡は、主に黒色土層帯から確認することができる。当地域の上部ローム層は古期富士火山を主たる供給源としている。そしてこの上部ローム層は、休場層と呼称される黄褐色のローム層を除き、火山砕屑物であるスコリアにより形成されている。したがって、富士山が激しく噴火を繰り返した時期にはスコリアが大量に降下し、休止期にはスコリア上面に形成された生活面が植物などによって腐食・土壌化し、黒色帯として残る。そのため当地では、火山灰と黒色帯の地層が互層をなしており、比較的妥当性の高い文化層設定が可能となっている。

愛鷹山東南麓における旧石器時代の遺跡調査の端緒となったのは、本遺跡の東南東約６㎞の位置に存在する沼津市休場遺跡である。現在、国指定遺跡の認定を受けている休場遺跡の調査は1964年に実施され、黄褐色のローム層から細石刃や石囲い炉が検出された。旧石器時代の炉跡は当時日本での初例であり、検出層位であるこの黄褐色土層は休場層と呼称されるようになった。その後「愛鷹ローム団研グループ」による愛鷹ローム層のレポートが発表されたことにより層序の大枠が把握され、また全国的な層位的発掘の流れにも影響され、愛鷹山麓での調査は休場層以下も対象とされるようになった。

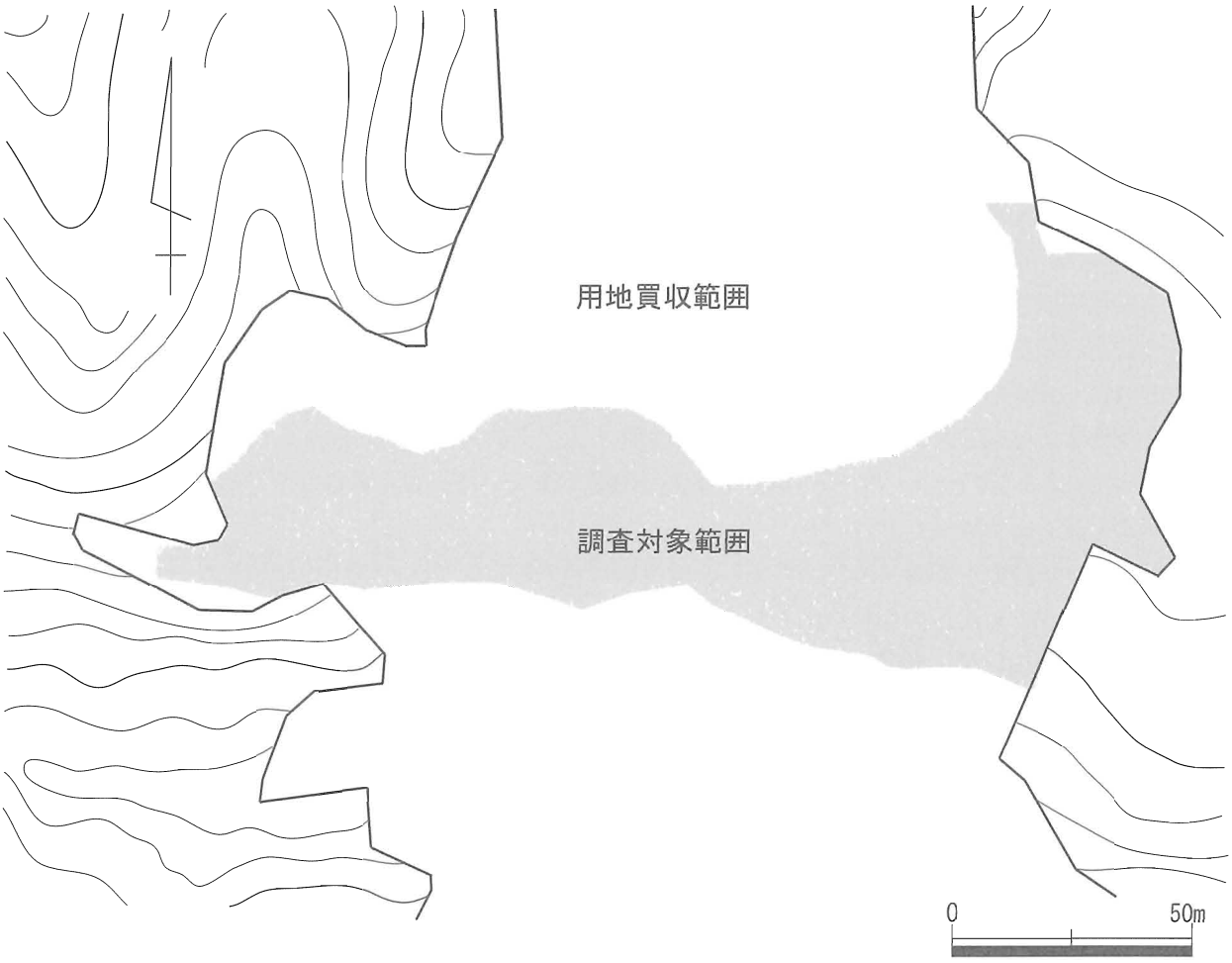
1974年に行われた長泉町西願寺遺跡の調査では休場層以下第Ⅲスコリア帯まで掘り下げられ、本地域で初めて休場層以下の文化層を確認した。これ以降、本地域における旧石器時代の発掘調査は上部ローム層の深い部分まで行われるようになり、沼津市域、長泉町域では数多くの文化面が確認されている。これまで裾野市域では休場層以下はもとより、旧石器時代の文化層確認の報告例も無かったが、近年の第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査により、多くの遺跡でその存在が確認されている。現在では本遺跡を始めとして多くの遺跡で休場層以下の文化面が確認されており、土-３地点遺跡では第Ⅰ黒色帯上面と第Ⅲスコリア帯スコリア２層上面で石器を伴う礫群を検出している。また塚松遺跡（第二東名No.144地点）では第Ⅲ黒色帯で礫群・石器ブロックを検出したほか、陥穴と思われる土坑が多数検出されている。この層位での陥穴状土坑の検出は、国内のみならず、世界でも類例のきわめて少ない重要な遺構である。さらに入ノ洞Ｂ遺跡（第二東名No.144-2地点）では第Ⅳ～第Ⅴ黒色帯層において約29,000年前のものと比定される局部磨製石斧が出土している。これらの遺跡はNo.147地点遺跡の南方に位置し、距離はそれぞれ土-３地点遺跡までが1.5㎞、塚松遺跡までが約２㎞、入ノ洞Ｂ地点遺跡までが約１㎞と比較的近接している。上記の遺跡以外にも休場層以下の文化面が検出された遺跡が存在する。また休場層から遺構・遺物が検出されている遺跡は枚挙にいとまが無い。中でも本遺跡に近接するものとしては、南側の隣接した尾根に立地する下ノ大窪遺跡（第二東名No.146地点）、さらにその南の尾根に立地する老平遺跡（第二東名No.145地点）が挙げられる。



第２図　裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡

第１表　遺跡地名表

1	第二東名No.144地点	塚松遺跡	21	道場山遺跡
2	第二東名土-3地点		22	天神山・屯屋敷遺跡
3	第二東名CR36地点		23	日向遺跡
4	第二東名No.144-3地点		24	丸山Ⅱ遺跡
5	第二東名No.144-2地点	入ノ洞B遺跡	25	城ヶ尾遺跡
6	第二東名No.145地点	老平遺跡	26	富沢内野山Ⅰ遺跡
7	第二東名No.146地点	下ノ大窪遺跡	27	中畑遺跡
8	第二東名No.147地点	佛ヶ尾遺跡	28	千福市場平第一遺跡
9	第二東名No.148地点	細ノ沢遺跡	29	千福市場平第二遺跡
10	第二東名No.148-3地点	南山Ⅲ遺跡	30	千福小杉平第一遺跡
11	第二東名No.148-2地点		31	千福小杉平第二遺跡
12	第二東名No.149地点	上條遺跡	32	細野沢遺跡
13	第二東名No.150地点	大端ケⅠ遺跡	33	上川遺跡
14	第二東名No.150-2地点	藤畑遺跡	34	峰下遺跡
15	第二東名No.151地点	大端ケⅡ遺跡	35	富沢平林・平林Ⅰ遺跡
16	第二東名No.152地点	北ノ沢遺跡	36	平林Ⅱ遺跡
17	第二東名No.153-2地点		37	尾畑遺跡
18	第二東名No.153地点	棚返遺跡	38	細山遺跡
19	第二東名No.154地点	薬師海道遺跡	39	下条遺跡
20	第二東名No.155地点	曲久保遺跡	40	田場沢裏山遺跡



第３図　佛ヶ尾遺跡と周辺の地形

(2) 縄文時代

現在、愛鷹東南麓では多くの縄文時代遺跡が確認されている。中でも早期と中期の遺跡数の多さが特徴的である。しかしその遺跡数は決して安定したものではなく、草創期から早期にかけて急激に増加した後、前期には一度その数を減らすという推移を見せている。また、中期に再び隆盛を迎えるが後期、晩期という時間の経過につれて再び急激にその数を減らしている。しかしこの特徴は静岡県の特に愛鷹山麓に顕著な様相であり、東京、神奈川、山梨、長野など愛鷹山麓に隣接する関東甲信の周辺都県はこれとは別の様相を示している。これら周辺都県では草創期から早期にかけて、愛鷹山麓ほど急激な遺跡数の増加は見られない。また、愛鷹山麓のように前期において急減期を迎えるようなことも無い。すなわちこの相違点が愛鷹山麓における縄文時代の特徴と言える。

次に、愛鷹山麓の縄文時代遺跡を時期別に概観する。愛鷹山麓での草創期遺跡の多くは愛鷹山南麓の沼津市に存在している。該期の遺跡では葛原沢第Ⅳ遺跡、清水柳北遺跡、尾上イラウネ遺跡などがある。住居跡は葛原沢第Ⅳ遺跡で検出されており、他の遺跡でも石器とともに該期の土器が検出されている。また土器は検出されなかったものの、石器やその他の遺構の検出状況から草創期の生活面が想定される遺跡も数多く存在している。裾野市域ではこれまで該期の土器は検出されていなかったが、土-３地点遺跡で土器片が土坑や集石とともに検出されている。また、上川遺跡からも該期のものと思われる土器片の出土があったようだが詳細は不明である。

早期における遺跡数の増加は急激なものであり、その傾向は特に後半で顕著になる。早期前葉の遺跡からは草創期の流れをひく駿豆地方独特の縄文と撚糸文を持つ土器が見られる。裾野市域の該期の遺跡としては、撚糸文土器を出土する千福小杉平第二遺跡や老平遺跡（第二東名No.145地点）などが挙げられる。中葉に入ると押型文土器が丸山Ⅱ遺跡、城ヶ尾遺跡、No.144-3地点遺跡など多くの遺跡から検出されている。また、中葉の終わり頃には沼津市清水柳遺跡を標式とする清水柳Ｅ類が分布するようになる。また老平遺跡では判ノ木山西式に含まれる可能性のある中部高地系の土器も出土している。

早期後葉に入ると胎土に繊維を混入させる手法が目立つようになり、条痕文土器が多く見られるようになる。該期の愛鷹山麓では野島式や茅山上層式、下層式土器が多く見られる。また、打越式土器や東海系の入海式、天神山式土器等を出土する遺跡も多く見られる。該期の遺跡としては上川遺跡、日向遺跡、富沢内野山遺跡、下ノ大窪遺跡などがあり、本遺跡でも該期の住居跡を検出している。

続く前期は前述したように、遺跡が激減する時期である。該期の遺跡には沼津市清水柳北遺跡、同平沼吹上遺跡、長泉町鉄平遺跡など木島式土器を伴うものが多く見られる。またその後半では諸磯式土器を伴う遺跡も多く見られ、裾野市域では細野沢遺跡、入ノ洞Ｂ遺跡（第二東名No.144-2地点）、大端ケⅡ遺跡（第二東名No.151地点）で諸磯式期の住居跡が確認されている。また少量ながら関西系とされる北白川下層式土器を出す遺跡も存在する。

中期は再び遺跡数が増加する時期である。前半では長泉町柏窪遺跡や同上山地遺跡などがあり、五領ヶ台式、勝坂式、東海系の北屋敷式の各土器が出土している。後半になると長泉町中峰遺跡、同桜畑上遺跡、三島市押出シ遺跡などがあり、これらの遺跡では曾利式の土器が主体となっている。裾野市域での出土遺物の中で、一際異彩を放っているのが、この中期の出土遺物である。尾畑遺跡出土の顔面把手付土器や翡翠の大珠、また翡翠の大珠が収められていたとされる大型土器、大畑熊野神社に伝わる土偶の頭部、細山遺跡近辺で採取された香炉形土器などは稀少な遺物である。

後期、晩期になると遺跡数は再び激減し、愛鷹山麓でもわずかな住居跡とともに遺物が散発的に出土しているのみという様相となる。この傾向は裾野市域でも顕著で、特に晩期の遺跡は現在のところ確認されていない。

第３節　基本層序

本研究所では、静岡県東部愛鷹山南麓から東麓周辺で調査を行う場合、愛鷹ローム団研グループ（愛鷹ローム団研グループ1969）により、火山灰層序学的区分に準拠し設定された考古学基本土層を用いることを標準としている。この基本土層はスコリア礫・軽石礫・ガラス質火山灰鍵層を根拠に定義されたものである。本遺跡の基本層序は、当地域の考古学基本土層と一致するが、埋没腐植土の発色が悪く、色調が薄い。これは桃沢川以北の愛鷹山東麓に立地する遺跡に共通する特徴である。また休場層は北に向かって厚くなる（愛鷹ローム団研グループ1969）という指摘通り、１ｍ以上の層厚を測る。また、休場層上層・中層・下層の分層基準となるスコリア層を明瞭に識別できることも特徴である。

本遺跡の堆積土層は２つに大別される。すなわち東西丘陵中央部の平坦面と、調査区中央にある南側斜面地に入り込む埋没谷の堆積土である。どちらもほぼプライマリーな状態で堆積を見せるが、埋没谷ではより良好な堆積を把握することができた。

第１層　表土

第２層　暗褐色土層（SNZ層）　色調10YR3/4　締まりあり、粘性あり

砂沢スコリア（2830±140yrBP）を包含する非常に硬質な層である。丘陵部では認められず、南側斜面地のみ認められた。奈良～平安時代以降の円形土坑はこの層を掘り込む形で検出された。

第３層　暗褐色土層（KGP層）　色調10YR4/4　締まりあり、粘性あり

カワゴ平パミスを包含する層である。砂沢スコリア層と同様に、丘陵部では認められなかった。第４層と比較して、やや白みがかった色調を呈する。

第４層　暗褐色土層（SSC層）　色調10YR3/4　締まりややあり、粘性あり

微量のカワゴ平パミス・少量の仙石スコリアを含有する層である。

第５層　暗褐色土層（AN～KU相当層）　色調7.5YR3/4　締まりあり、粘性あり

愛鷹山麓標準土層の暗褐色土層（AN層）～栗色土層（KU層）に相当するものではあるが、変化に乏しく分層が不可能であった。本層上面で集石と陥穴が検出された。

第６層　黒褐色土層（FB相当層）　色調10YR2/3　締まりあり、粘性ややあり

愛鷹山麓標準土層の富士黒土層（FB層）に相当し、縄文時代の遺物包含層である。本遺跡においては第５層と第６層の分層はきわめて困難であるため、調査区の大部分ではこの２層を一括して調査を行った。谷部では土層の良好な堆積状況が確認されたため、その区域のみ第５層と第６層とに分層した。

第７層　褐色土層（ZN層）　色調7.5YR4/4　締まりあり、粘性ややあり

愛鷹標準土層の漸移層である。本層上面が住居跡、竪穴状遺構の検出面であった。南側斜面地の谷部では、丘陵部に比べ色調が明るい傾向にある。

第８～12層　暗褐色土層（YLU層～YLL層）　色調7.5YR3/4　締まりあり、粘性あり

愛鷹標準土層の休場層である。層厚は最大で170cmを測る。堆積状況が良好なため分層の基準となるスコリア層が明確に識別でき、スコリア層を境に上層（YLU）、中層（YLM）、下層（YLL）と分層した。基準となるスコリア層は赤褐色スコリアがパッチ状に堆積するYLs１、黄褐色・赤褐色スコリアがパッチ状に堆積し、乾燥するとSCⅠに酷似するYLs2である。

第13層　暗褐色土層（BB０相当層）　色調7.5YR3/4　締まりあり、粘性あり

愛鷹標準土層の休場層下部黒色帯に相当する。本層は黒色の発色が極めて悪く、休場層下層との分層は難しいが、削った際にはBBⅠと類似する特有の感触が認められた。

第14層　褐色土層（SC Ⅰ層）　色調7.5YR4/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅰスコリア層である。上部に黒褐色スコリアが10cm程度の塊でパッチ状に入り、また黄色粒子が見られる。下部は赤褐色スコリアが中心となる。

第15層　暗褐色土層（BB Ⅰ層）　色調7.5YR3/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅰ黒色帯である。層内にスコリアやニセローム層の巻き上がりが散在するが、含有物・色調により分層は容易であった。層圧は最大で50cmを測る。

第16～17層　褐色土層（NLa～b層）　色調10YR4/6　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層のニセローム層である。パッチ状に入るスコリアの塊により上下に分層できるが、一部には分層不能な区域もあった。広域テフラである姶良丹沢パミス（AT）は下層に多く認められる。

第18層　褐色土層（BB Ⅱ層）　色調7.5YR4/6　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅱ黒色帯である。層全体にスコリアが散在している

第19層　褐色土層（SC Ⅱ層）　色調7.5YR4/6　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅱスコリア層である。上下にスコリアが散在しているが若干のまとまりが識別可能で、第Ⅱ黒色帯・第Ⅲ黒色帯との分層は可能である。

第20層　暗褐色土層（BB Ⅲ層）　色調7.5YR3/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲ黒色帯である。上部にスコリアが散在している。しまりは強い。

第21層　褐色土層（SC Ⅲs1層）　色調7.5YR4/6　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲスコリア帯スコリア１である。粒径１～10㎜の赤褐色スコリアを少量に含む。一部でパッチ状になっているところもある。

第22層　暗褐色土層（SC Ⅲb1層）　色調7.5YR3/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲスコリア帯黒色帯１である。スコリアを含むが、パッチ上にはならない。第Ⅲスコリア帯スコリア１よりも若干暗い色調を呈する。

第23層　暗褐色土層（SC Ⅲs2層）　色調7.5YR3/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲスコリア帯スコリア２である。　粒径１～５㎜の赤褐色スコリアを多量に含む。

第24層　褐色土層（SC Ⅲb2～s3層相当層）　色調7.5YR4/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲスコリア帯黒色帯２～スコリア３に相当する。スコリアが散在し、SC Ⅲb2とSC Ⅲs3の分層は不可能であった。上部のSC Ⅲb2と思われる部分は赤褐色スコリアが中心的で、下部のSC Ⅲs3と思われる部分は黒色スコリアが中心的であった。

第25層　褐色土層（SC Ⅲs4層）　色調7.5YR4/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹標準土層の第Ⅲスコリア帯スコリア４である。粒径１～10㎜の黒褐色スコリアが中心であるが、粒径１㎜の黄色粒子が微量に含まれる。乾燥すると黄色がより明確になり、分層が可能であった。

第26層　暗褐色土層（BB Ⅳ相当層）　色調10YR3/4　締まり強い、粘性あり

愛鷹山麓標準土層の第Ⅳ黒色帯に相当する。黒色帯特有の感触はあまり認められなかったが、上下層に明確なスコリア層が認められたため、その間層をBB Ⅳ層とした。

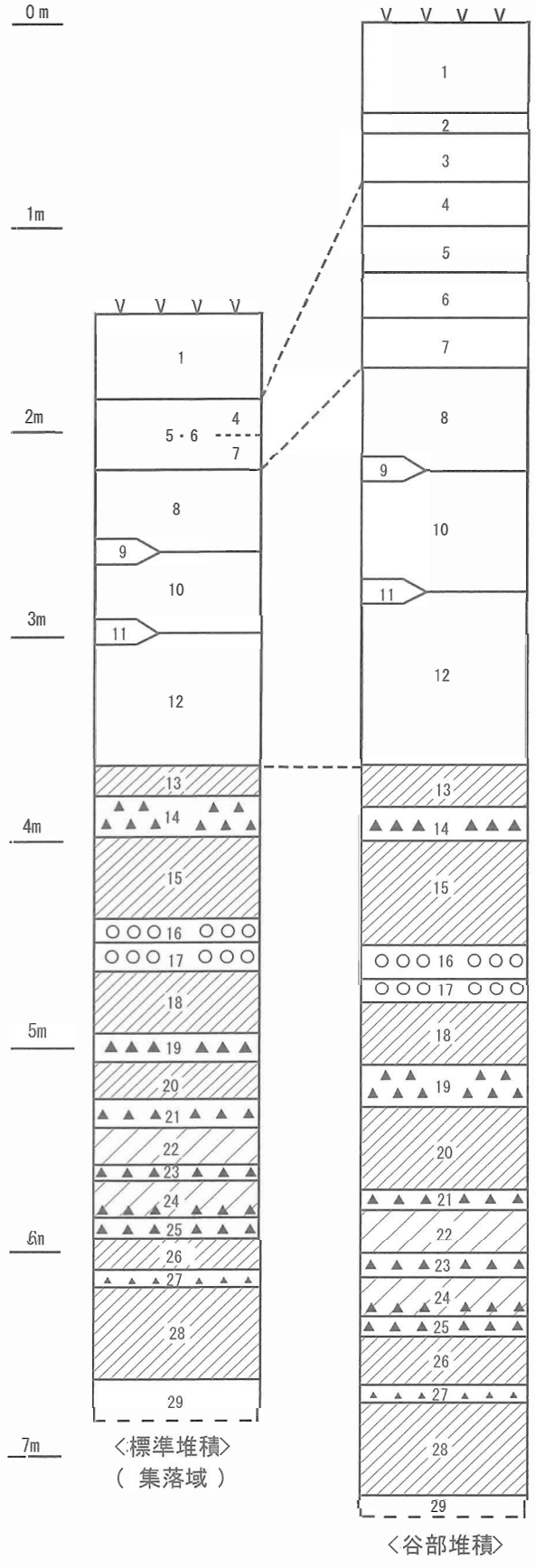
第27層　暗褐色土層（SC層）　色調10YR3/4　締まり強い、粘性あり

第Ⅳ黒色帯下部のスコリア層である。褐色スコリアが10cm程度の塊でパッチ状に含まれる。

第28層　暗褐色土層（BB Ⅴ層～BB Ⅶ層相当層）　色調7.5YR3/4　締まり強い、粘性強い

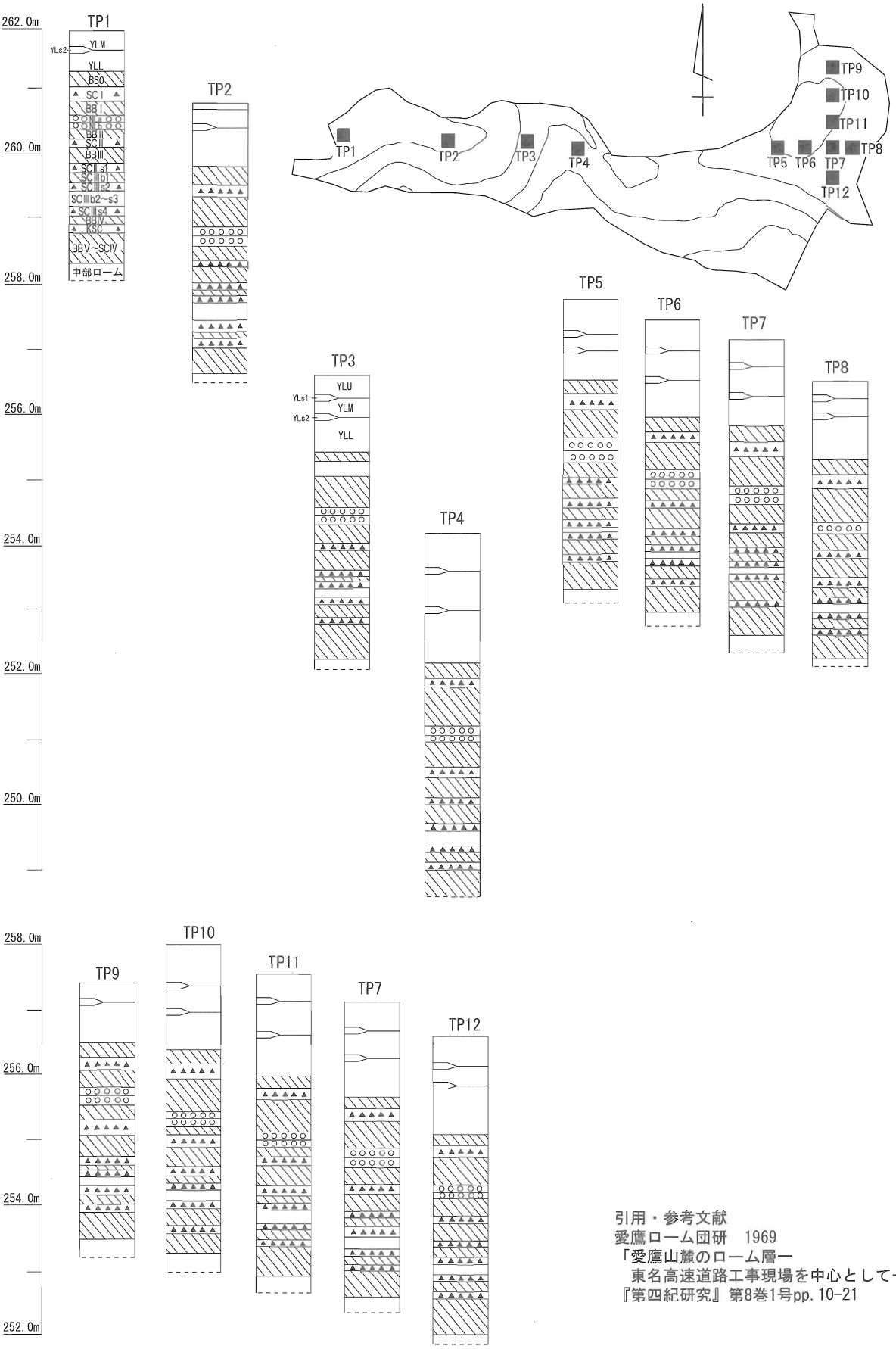
愛鷹山麓標準土層の第Ⅴ黒色帯～第Ⅶ黒色帯に相当する。黒色帯特有の感触は見られる。スコリアの含有量により３層に分層が可能であるが、明確なスコリア帯の貫入が見られなかった。上部には黒褐色スコリアが、中ほどには赤褐色スコリアが多かった。また下部にはスコリアはほとんど見られなかった。

第29層　褐色土層　色調7.5YR4/4　締まり強い、粘性強い。中部ローム層である。



	層　名		色　調
1	表土		
2	暗褐色土層(SNZ層)	2	10YR3/4
3	暗褐色土層(KGP層)	3	10YR4/4
4	暗褐色土層(SSC層)	4	10YR3/4
5	暗褐色土層(AN～KU相当層)	5	7.5YR3/4
6	黒褐色土層(FB相当層)	6	10YR2/3
7	褐色土層(Zn層)	7	7.5YR4/4
8	暗褐色土層(YLU層)	8	10YR3/4
9	暗褐色土層(YLs1層)	9	7.5YR3/4
10	暗褐色土層(YLM層)	10	7.5YR3/4
11	暗褐色土層(YLs2層)	11	7.5YR3/4
12	暗褐色土層(YLL層)	12	7.5YR3/4
13	暗褐色土層(BBO相当層)	13	7.5YR3/4
14	褐色土層(SCⅠ層)	14	7.5YR4/4
15	暗褐色土層(BBⅠ層)	15	7.5YR3/4
16	褐色土層(NLa層)	16	10YR4/6
17	褐色土層(NLb層)	17	10YR4/6
18	褐色土層(BBⅡ層)	18	7.5YR4/6
19	褐色土層(SCⅡ層)	19	7.5YR4/6
20	暗褐色土層(BBⅢ層)	20	7.5YR3/4
21	褐色土層(SCⅢs1層)	21	7.5YR4/6
22	暗褐色土層(SCⅢb1層)	22	7.5YR3/4
23	暗褐色土層　(SCⅢs2層)	23	7.5YR3/4
24	褐色土層　(SCⅢb2～s3相当層)	24	7.5YR4/4
25	褐色土層(SCⅢs4層)	25	7.5YR4/4
26	暗褐色土層(BBⅣ相当層)	26	10YR3/4
27	暗褐色土層(SC層)	27	10YR3/4
28	暗褐色土層(BBⅤ～BEⅦ相当層)	28	7.5YR3/4
29	褐色土層(中部ローム層)	29	7.5YR4/4

第４図　基本土層柱状図



引用・参考文献
愛鷹ローム団研　1969
「愛鷹山麓のローム層ー
東名高速道路工事現場を中心としてー」
『第四紀研究』第8巻1号pp. 10-21

第５図　土層堆積状況

第３章　旧石器時代の遺構と遺物

概要

旧石器時代の遺構は、第Ⅰスコリア層、休場層で検出されている。第Ⅰスコリア層では礫群が１基検出された。休場層では礫群４基とともに、土坑が１基検出されている。

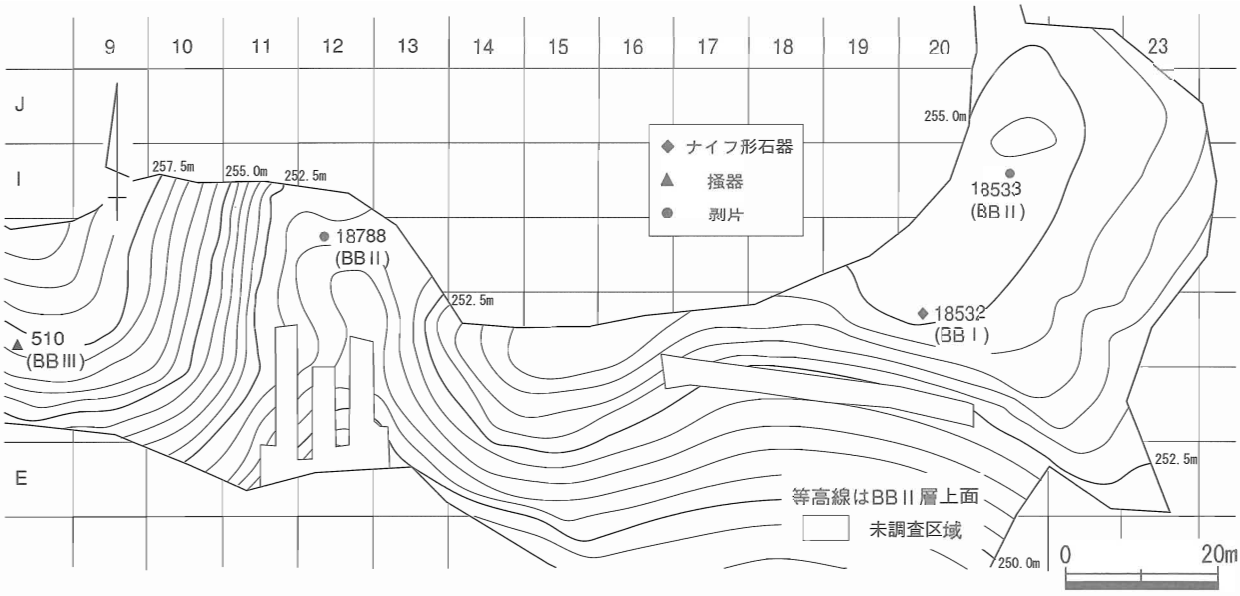
遺物は休場層を中心に出土しているが、総量は石器・礫合わせて115点と少ない。これら旧石器時代の遺物はすべて個体別分類を実施したが、積極的に同一個体であると認められるものは少なかった。同一個体と認めた遺物については、各遺物の文章内で触れた。黒曜石については、旧石器時代のものと思われるものすべてについて蛍光Ｘ線による原産地分析を行った。

第２表　旧石器時代石器一覧

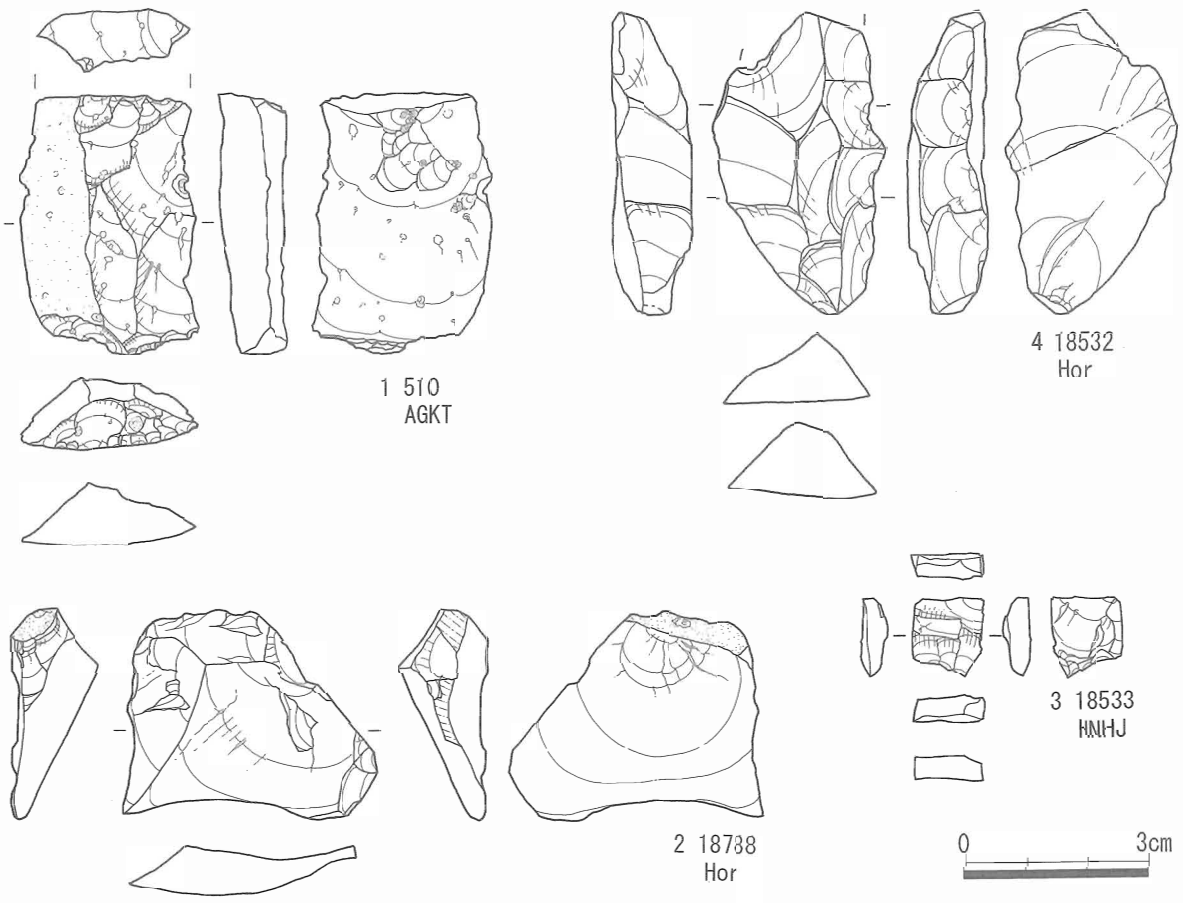
石質		ナイフ形石器	加工痕のある剥片	細石核	細石刃	削器	使用痕のある剥片	石刃	石刃状剥片	尖頭器	掻器	彫器	剥片	磨石	礫器	
黒曜石(Ob)	諏訪星ヶ台群(SWHD)	1					1			1			2			5
	和田鷹山群(WDTY)									1	1		2			4
	箱根畑宿群(HNHJ)	1				1							1			3
	神津島恩馳島群(KZOB)			1								1	1			3
	天城柏峠群(AGKT)										1					1
	和田芙蓉ライト群(WDHY)	1														1
	和田小深沢群(WDKB)												1			1
	分析不可				1								1			2
ホルンフェルス(Hor)		4						1	1	1			8			15
輝石安山岩(An (py))														1	2	3
細粒凝灰岩(FT)			1										2			3
チャート(Ch)													1			1
玄武岩(Ba)														1		1
流紋岩(Rhy)													1			1
総計		7	1	1	1	1	1	1	1	3	2	1	20	2	2	44

第１節　第Ⅲ黒色帯(BBⅢ)～第Ⅰ黒色帯(BBⅠ)の遺物

第Ⅰ黒色帯以下を一括して取り上げる。本遺跡では第Ⅰ黒色帯以下からは遺構の検出は無かった。遺物は第Ⅲ黒色帯（BBⅢ)、第Ⅱ黒色帯（BBⅡ)、第Ⅰ黒色帯（BBⅠ）の各層より検出されているが、出土量は僅少である。各黒色帯の間にはニセローム層やスコリア層が貫入しており、各層ごとに独立した文化層が存在したと思われる。また、これらの層において遺構は確認されなかった。３つの黒色帯からは４点の石器が出土したが、その出土地点はいずれも良好な堆積を見せており、遺物の帰属時期もそれぞれの出土層位に従うものと考えられる。石材は黒曜石が２点、ホルンフェルスが２点である。原産地分析や肉眼による観察を試みたが、同一個体と考えられるものはなかった。



第６図　第Ⅲ黒色帯～第Ⅰ黒色帯の遺物分布図



第７図　第Ⅲ黒色帯～第Ⅰ黒色帯の石器

(1)　第Ⅲ黒色帯出土遺物（第７図）

掻器１点のみの出土である。出土地点はG-008グリッド内に位置し、調査区西側の丘陵地域である。510は石刃素材であり、端部に鈍角の粗いスクレーパーエッジを作出している。左側縁には微細な使用痕

が観察される。また、一部に自然面を残している。天城柏峠群。

第３表　第Ⅲ黒色帯　掻器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
510	Ob	AGKT	BBⅢ	G-008	14.3	4.4	2.9	1.2	−90136.866	35662.553	256.828

⑵　第Ⅱ黒色帯出土遺物（第７図）

剥片２点のみの出土である。２点の出土地点には直線にして約90ｍの距離があり、石材も異なっている。そのため、積極的に同一の生活面であると認められる要素は少ない。

18788はホルンフェルス製である。自然面を打面とし、裏面には打瘤の著しい発達が見られる。ハードハンマーを用いて剥片を作出していることが予想される。また、表面には多方向からの剥離が見られ、打面を頻繁に移動しつつ、剥離作業を行っていたことが推定される。

18533は左右両側縁に折れが認められる。黒曜石製、箱根畑宿群。

第４表　第Ⅱ黒色帯　剥片

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18788	Hor		BBⅡ	H-012	14.3	3.2	4.2	1.5	−90122.432	35703.463	251.182
18533	Ob	HNHJ	BBⅡ	I-021	0.7	1.3	1.2	0.4	−90113.954	35794.844	255.422

⑶　第Ⅰ黒色帯出土遺物（第７図）

第Ⅰ黒色帯文化層は、ナイフ形石器１点のみの出土である。出土地点はG-020グリッド内に位置し、調査区東側地域である。ナイフ形石器18532はホルンフェルス製である。素材は厚く、また打点側を基部としているが、欠損部分が多い。残存部分の形状から、製作当初は尖頭状を呈しており、左側面上部欠損部分に刃部が形成されていたことが推定される。なお、右側面には急斜度で鋸歯縁状の縁辺部が見られる。

第５表　第Ⅰ黒色帯　ナイフ形石器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18532	Hor		BBⅠ	G-020	16.7	5.0	2.8	1.3	−90132.657	35783.336	255.72

⑷　第Ⅰ黒色帯以下のまとめ

第Ⅲ黒色帯は、石器１点の出土であり文化層の内容は不明であるが、天城柏峠産の黒曜石は該当する愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年第２期（静岡県考古学会シンポジウム実行委員会1995）に中心的に用いられた素材である。

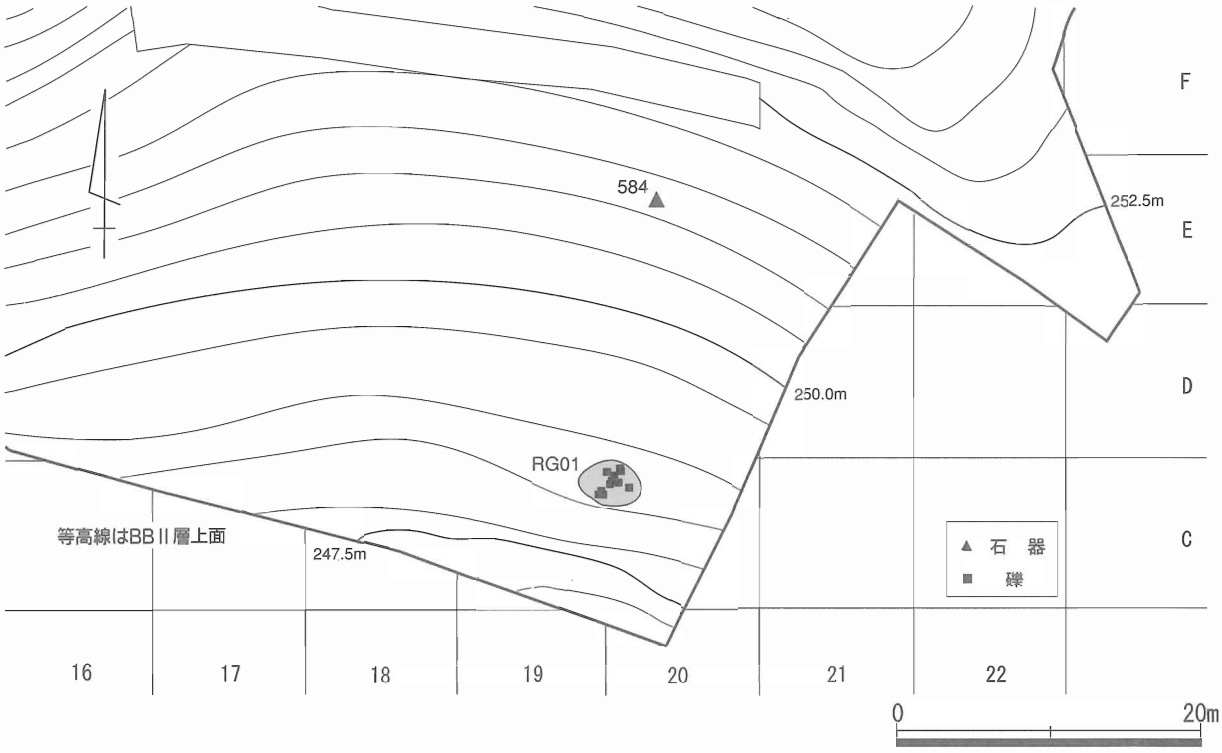
第Ⅱ黒色帯も遺物量が少ないが、黒曜石製石器の原産地は箱根畑宿である。第Ⅲ黒色帯同様に、在地の黒曜石が用いられている。周辺遺跡でも在地の黒曜石が支配的である様相が報告されている。

第Ⅰ黒色帯では黒曜石製石器の出土はなかったが、出土したナイフ形石器がその帰属時期を端的に表わしている。この石器の素材の厚さや鋸歯縁状の縁辺部などは、第Ⅰ黒色帯の時期に特徴的なものであり、愛鷹・箱根第３期Ｂ段階（笹原2005）の典型的な一例と言える。

以上のように本節で取り上げた第Ⅰ黒色帯以下は、どの黒色帯においても周辺の愛鷹山麓の遺跡と同様の様相が推測できる。該期の本遺跡も、周辺の遺跡と極めて近い文化内容を持ち、類似する活動が展開されていたことが予想される。

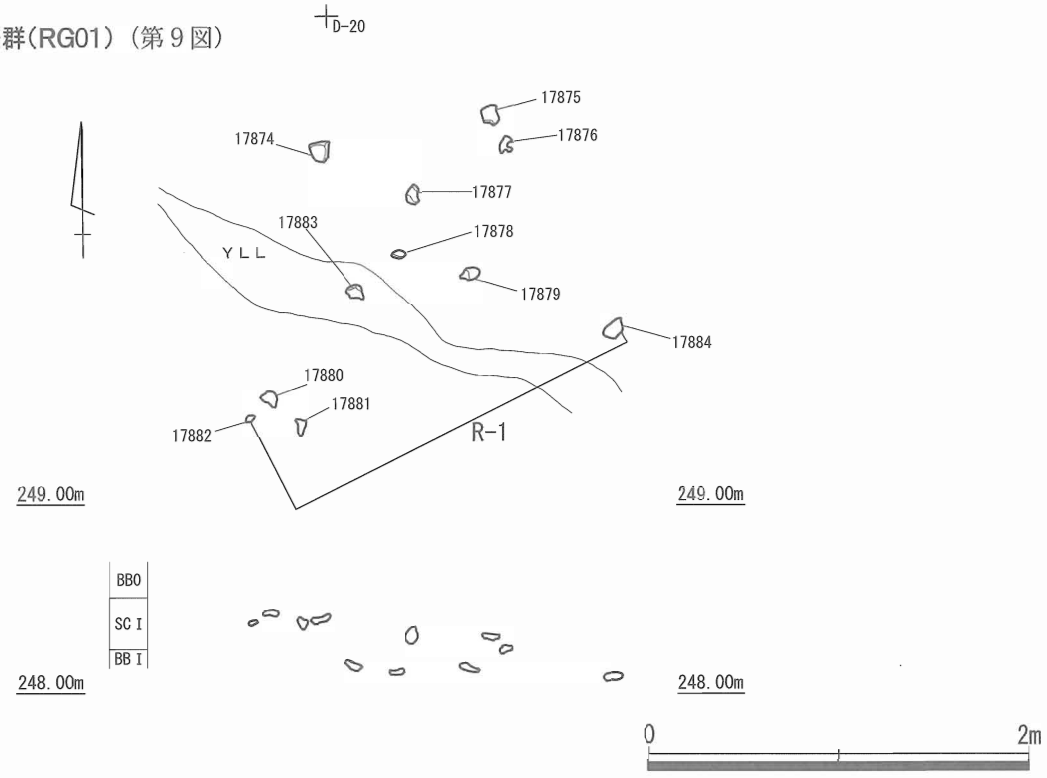
第２節　第Ｉスコリア層(SCＩ)遺構と遺物

スコリア層内に文化層を想定した。その根拠となったのは第Ｉスコリア層下層で検出された礫群RG01である。また、礫群から約35ｍの距離をとって、黒曜石の剥片も出土している。



第８図　第Ｉスコリア層遺構遺物分布図

(1)　１号礫群(RG01)（第９図）



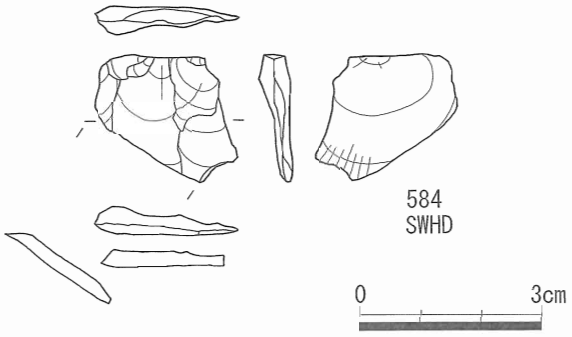
第９図　第Ｉスコリア層礫群

１号礫群（RG01）はC-019・020グリッドから検出された。ここは調査区の南端であり、南側を流れる沢に向かって斜面が形成されている。標高は約248mで、これは本遺跡で最も標高の低い場所となっている。礫群は11点の礫で構成され、212cm×180cmの範囲にまばらに広がっている。石材は玄武岩が多く、輝石安山岩、多孔質玄武岩からなる。礫は比較的亜角のものが多く、最も重いものは560ｇで、逆に最も軽いものは50ｇである。平均すると約289ｇになる。

１号礫群は本遺跡の礫群の中では最大の高低差を持つ。17882と17884との間に接合関係が見られるが、この２点は本礫群の東端と西端に位置し、約30cmの高低差も見られる。距離と高低差を併せ持つ２点が同一個体と認められたことから、この２点に近接する残り９点も同一礫群として認定した。

礫はすべてが赤化しているが、赤化の程度の激しいものは少ない。また、一部にはススの付着も認められる。なお完形礫は４点であり、残り７点は破損礫である。このうち、割れ面が赤化していないものに接合した２点がある。残り５点の全面赤化の破損礫に接合関係は見られない。

⑵　第Ｉスコリア層出土遺物（第10図）



584は、やや幅広の剥片であり、単設打面の石核から作出されたと推測される。黒曜石製、諏訪星ヶ台群。

第10図　第Ｉスコリア層石器

第６表　第Ｉスコリア層　剥片

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
584	Ob	SWHD	SC1	E-020	1.4	2.1	2.3	2.3	−90152.699	35783.203	251.084

⑶　第Ｉスコリア層のまとめ

前述したとおり、スコリア層内に文化層の存在を想定したが、スコリアは非常に短期間に降下したと考えられるので、スコリア層中に生活面を想定することは難しいかもしれない。本節では現地調査者の所見や調査記録等から遺構を検出面である第Ｉスコリア層に帰属させたが、礫群を構成する礫の中には出土層位がBBⅠ層に相当するものもある。火山噴出物のワンフォールユニットとしての第Ｉスコリア層という見地から考えると、第Ｉ黒色帯上面を生活面として考えるべきかもしれない。帰属時期が不明であるとしても礫群が存在している以上、当該期に何らかの生活が営まれていたことは明らかである。しかし他に遺構がないことや、出土遺物も黒曜石剥片１点のみであることから、第Ｉ黒色帯以下と同様に、詳細は不明とせざるを得ない。

出土した剥片は諏訪星ヶ台産である。当該期の愛鷹山麓の遺跡には、黒曜石の入手先に漸移的な変化が訪れている。それまでの伊豆系・箱根系が支配的であった状態が、信州系が主体を占めるように変化している。愛鷹山麓当該期の著名な遺跡である沼津市子ノ神遺跡では、第１黒色帯において在地の黒曜石が支配的であったのに対し、休場層下部黒色帯下部では霧ヶ峰系（諏訪星ヶ台産）が支配的となっている（池谷・望月1998）。本遺跡は遺物の出土量が僅少ではあるが、このような状況から見て、第Ｉスコ

リア層出土の剥片は第Ⅰ黒色帯層～休場層下部黒色帯の間に帰属時期を持つものとして妥当であるように思われる。同時に、本遺跡で１号礫群が営まれた時期も周辺遺跡の文化層と類似する活動が行われていたことが推測される。

なお、長泉町東野遺跡（第二東名№143地点遺跡）において、本遺跡と同様に第１スコリア層下層において礫群が検出された。未報告の遺跡であるため詳細は公表できないが、調査者によると本遺跡と同様に谷に向かう南側斜面から検出したとのことである。愛鷹山東麓において、第Ⅰ黒色帯上面から第Ⅰスコリア層下層にかけて、何らかの生活面が広範囲に営まれていた可能性が示唆される。

〈本遺跡検出の礫群について〉

旧石器時代面で検出された礫群の傾向について、本項でまとめて記述する。休場層出土の４基の礫群については22・23ページで取り上げているので御参照されたい。現地調査時には礫が３個以上まとまっており、周囲の遺物の分布と比較して相対的に集中が見られるものを礫群と認定した。

旧石器時代面で検出された礫は礫群を構成するものも含めて71点である。このうち、９点を除く62点に赤化が認められた。なお礫群構成礫にはすべて赤化が認められた。本遺跡では、５号礫群（RG05）を除くすべての礫群において割れ面が赤化していない破損礫が認められることから、本遺跡の礫群は、複数回使用の可能性は低いと見られる。また１号礫群（RG01）、４号礫群（RG04）には全面赤化の破損礫が見られる。礫群の使用が一度のみであると仮定すると、何らかの理由により破損された状態で使用されたということになる。石材入手段階で破損礫を含んでいた可能性や、礫の大きさを均一にする等の理由から意図的に破損行為をなした可能性も考えられる。

以上は、礫の赤化に主眼をおいた分析から得られた見解である。本報告書内での赤化状態の判断は統一基準の下でなされているが、赤化判断については報告者の主観による危険性も指摘されている。本遺跡に関しても更なる検討が必要かもしれない。

礫群構成礫の石材は輝石安山岩、多孔質安山岩、玄武岩、多孔質玄武岩、細粒斑レイ岩が確認されている。休場層中層以下の礫群では玄武岩質の石材の組成が多く、休場層上層の礫群は安山岩質と玄武岩質の石材が拮抗する。また、遺跡の縄文時代集石でも休場上層と同じ状況が示されている。遺跡の南北には沢が流れているが、ともに玄武岩質、安山岩質の石材が容易に入手できる。本遺跡ではこれらの沢を石材入手先としている可能性がある。なお、本遺跡の石材入手先に関しての考察は、総括にてまとめて取り扱う。

また、県西部の磐田原台地に立地する遺跡からは礫群が大量に検出する遺跡の報告がなされている。これらの報告書では、重量が900ｇまたは１kgを超える礫については配石として礫群とは遺構認定を別にしている遺跡もある。本遺跡においても礫群内から重量が１kgを超える礫が検出しているため、同様の手法を試みたが、いずれも赤化破損礫であるため配石とは認定せず礫群を構成する礫として扱った。

第７表　礫群計測表

遺構名	礫数	完形	状態			色調			石材					出土層位
			C	D	E	A	B	C	An(py)	VAn	Ba	VBa	FG	
RG01	11	4	4	5	2	1	7	3	3	0	7	1	0	YLL～SC Ⅰ
RG02	3	2	2	0	1	0	1	2	0	0	1	1	1	YLM
RG03	4	1	1	1	2	0	1	3	3	0	1	0	0	YLU
RG04	12	2	2	7	3	0	3	9	3	1	4	4	0	YLM～YLL
RG05	4	4	4	0	0	0	2	2	2	0	0	2	0	YLU

※状態・色調・石材は凡例を参照。状態でA・B、色調でDに相当するものは無かった。

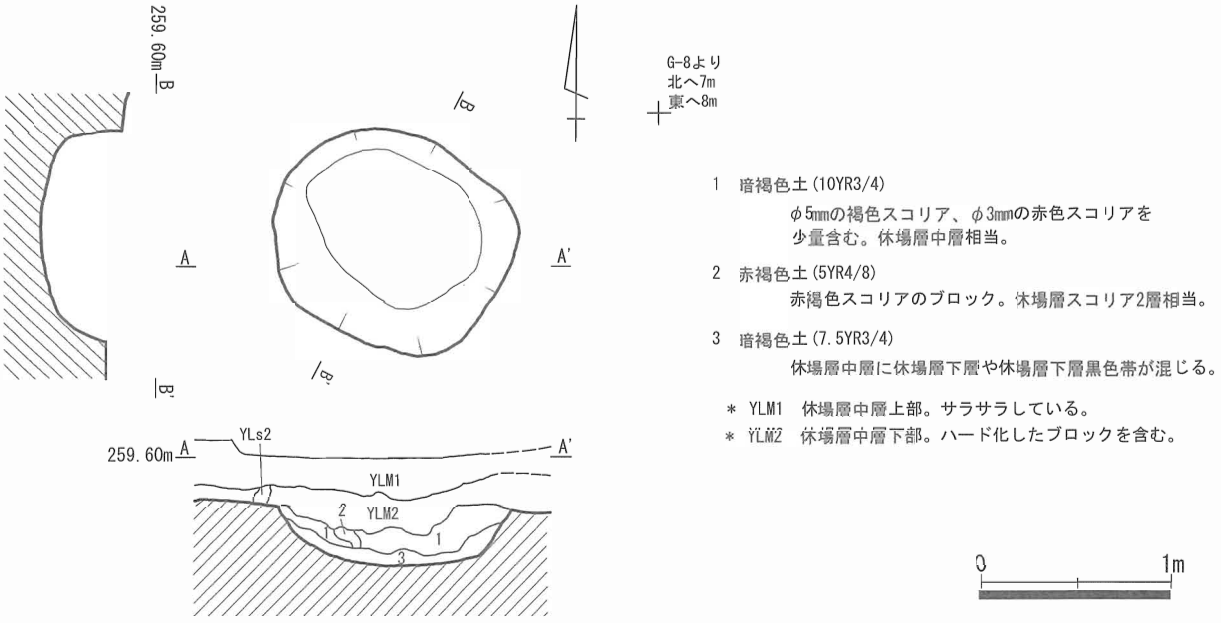
第３節　休場層(YL)の遺構と遺物

休場層は本遺跡旧石器時代の主体をなしており、土坑１基、礫群４基が検出された。遺物は石器35点、礫61点の計96点が出土している。休場層は上層（YLU）・中層（YLM）・下層（YLL）の３層に分層され、遺物も層位にしたがって取り上げている。しかし、休場層はその土壌特性から遺物の上下動が激しく、本遺跡においてもその状況が想定される。現に個体別分類において同一個体と判断された遺物が複数の層にまたがっている例も多数見受けられる。そのため、休場層出土遺物を一括して報告する。また、縄文時代遺物包含層から出土した遺物の中にも、遺物の特徴等を考慮して休場層の石器として報告したものもある。現地調査における遺物の出土層位はそれぞれの観察表に付してあるので、そちらを御参照いただきたい。

(1)　土坑（第11図）

円形の土坑が１基検出された。G-008グリッドに位置し、長径133cm、短径110cmである。また検出面よりの深さは42cmで、休場層下部黒色帯まで掘り込んでいる。検出面は休場層スコリア２層（YLs2）直上であり、検出面もしくは、その上層にあたる休場層中層に掘り込み面があったと推定される。覆土は休場層中層の土が主であるが、底面近くでは休場層下層や休場層下部黒色帯の土も混入している。遺物の出土はなく、逆茂木痕も見られなかった。また、他の遺構に関係するような痕跡も認められなかった。掘り込みが浅いことから、貯蔵用途であった可能性がある。また２m北に４号礫群（RG04）が近接している。同時期の遺構であると思われる。

休場層土坑(SF32)



第11図　休場層土坑

(2)　礫群（第12図）

休場層からは４基の礫群が検出された。小規模なものもあり、使用法は明確ではない。礫群に限らず、旧石器時代出土礫はすべて接合を試みた。礫群構成礫は同一礫群内での接合関係が見られた他は接合するものはなかった。

１．２号礫群（RG02）

２号礫群はF-022グリッドから検出された。調査区東部の東側斜面に位置し、標高は約256ｍである。出土層位は休場層中層である。礫群は３点の礫で構成され、38cm×12cmの範囲に広がっている。石材は玄武岩、多孔質玄武岩、細粒斑レイ岩からなる。礫は430ｇのものと200ｇのものがある。平均すると約278ｇになる。接合関係は見られない。礫は比較的赤化の程度の激しいものが多い。２点は完形礫であるが、残り１点の破損礫には割れ面の赤化が見られない。接合関係も見られないことから、欠落礫の存在が推定される。破損後に何らかの理由によりに遺跡外へ持ち出されたものと思われる。

２．３号礫群（RG03）

３号礫群はF-022グリッドから検出された。調査区中央部の尾根上に位置し、標高は約254ｍである。出土層位は休場層中層である。礫群は４点の礫で構成され、135cm×28cmの範囲に帯状に広がっている。石材は輝石安山岩、玄武岩からなる。礫は１kgを超えるものが２点あり、最も重いものは1,370ｇである。最も軽いものでも550ｇである。平均すると約1,032ｇになる。接合関係は見られない。礫は比較的赤化の程度の激しいものが多い。２点は完形礫であるが、残り２点の破損礫には割れ面の赤化が見られない。２号礫群同様に欠落礫の存在が推定される。破損礫は１kgを超えるものであり、構成礫の平均重量が大きいこととあわせて、本礫群の特徴となっている。

３．４号礫群（RG04）

４号礫群はH-008・G-008グリッドから検出された。調査区西部の尾根上に位置し、標高は約260ｍである。出土層位は休場層中層～下層である。礫群は12点の礫で構成され、192cm×73cmの範囲に広がっている。石材は輝石安山岩、多孔質安山岩、玄武岩、多孔質玄武岩からなり、最も重いものは740ｇで、最も軽いものは60ｇである。平均すると約387ｇになる。19152と19153の間に接合関係が見られる。礫は赤化の程度の激しいものが多い。なお完形礫は２点のみであり、残り10点は破損礫である。このうち、割れ面が赤化していないものは３点で、うち２点は接合した。残り７点は全面赤化破損礫である。ここでも、欠落礫の存在が推定される。

本礫群に伴って、大量の炭化物が検出されている。炭化物の中心域と礫群の中心域とは、若干ずれているが検出層位は同一であり、関連があったと見られる。土壌には、受熱した形跡は認められなかった。

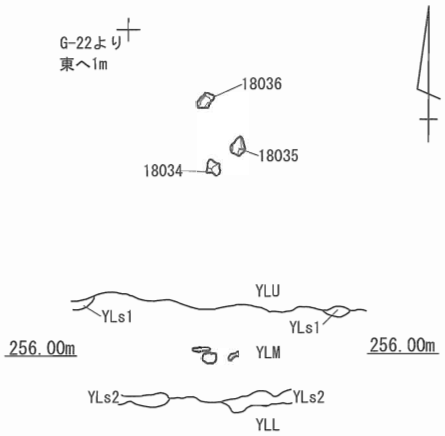
４．５号礫群（RG05）

５号礫群はH-008グリッドから検出された。調査区西部の尾根上に位置し、標高は約260ｍである。出土層位は休場層中層である。４号礫群の２ｍ程度北側に位置するが４号礫群よりも若干層位が高い。周囲には撹乱部分があり、本礫群の一部も影響を受けている可能性がある。４点の礫で構成され、76cm×40cmの範囲に広がっている。石材は輝石安山岩、多孔質玄武岩からなり、最も重いものでも180ｇと軽量で、最も軽いものは110ｇである。平均すると約163ｇになる。４点すべてが完形の礫であり、比較的赤化の程度の激しいものが多い。本礫群構成礫の相対的に軽量であり、３号礫群と対照的である。

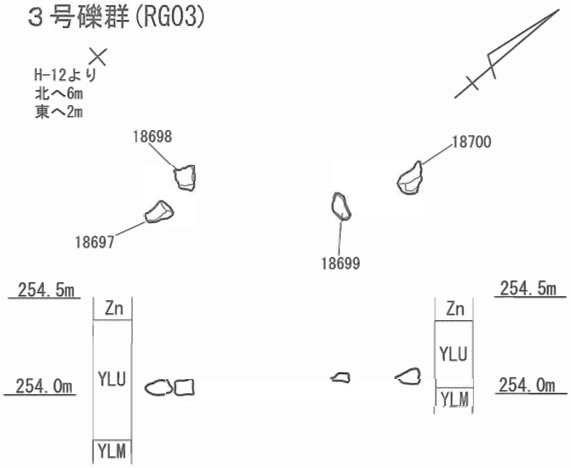
５．単独礫

本遺跡における単独礫37点はすべて休場層文化層に出土層位を持ち、28点には赤化が認められる。石材、重量ともに礫群構成礫と同じ様相を呈しており、石材ごとの比率もほとんど変わらない。礫群構成礫と同様の目的を持って遺跡に搬入されたと推定される。接合は２個体で見られたが、出土地点が隣接するもの同士の接合であった。なお、礫の計測表は章末に掲載した。

２号礫群(RG02)

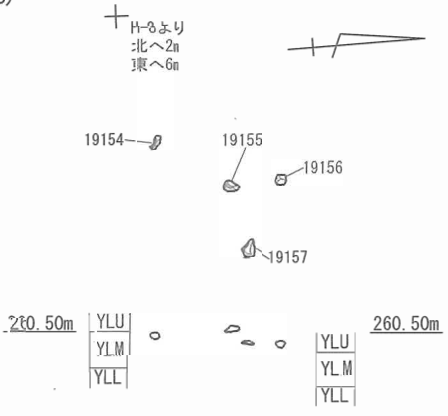


３号礫群(RG03)

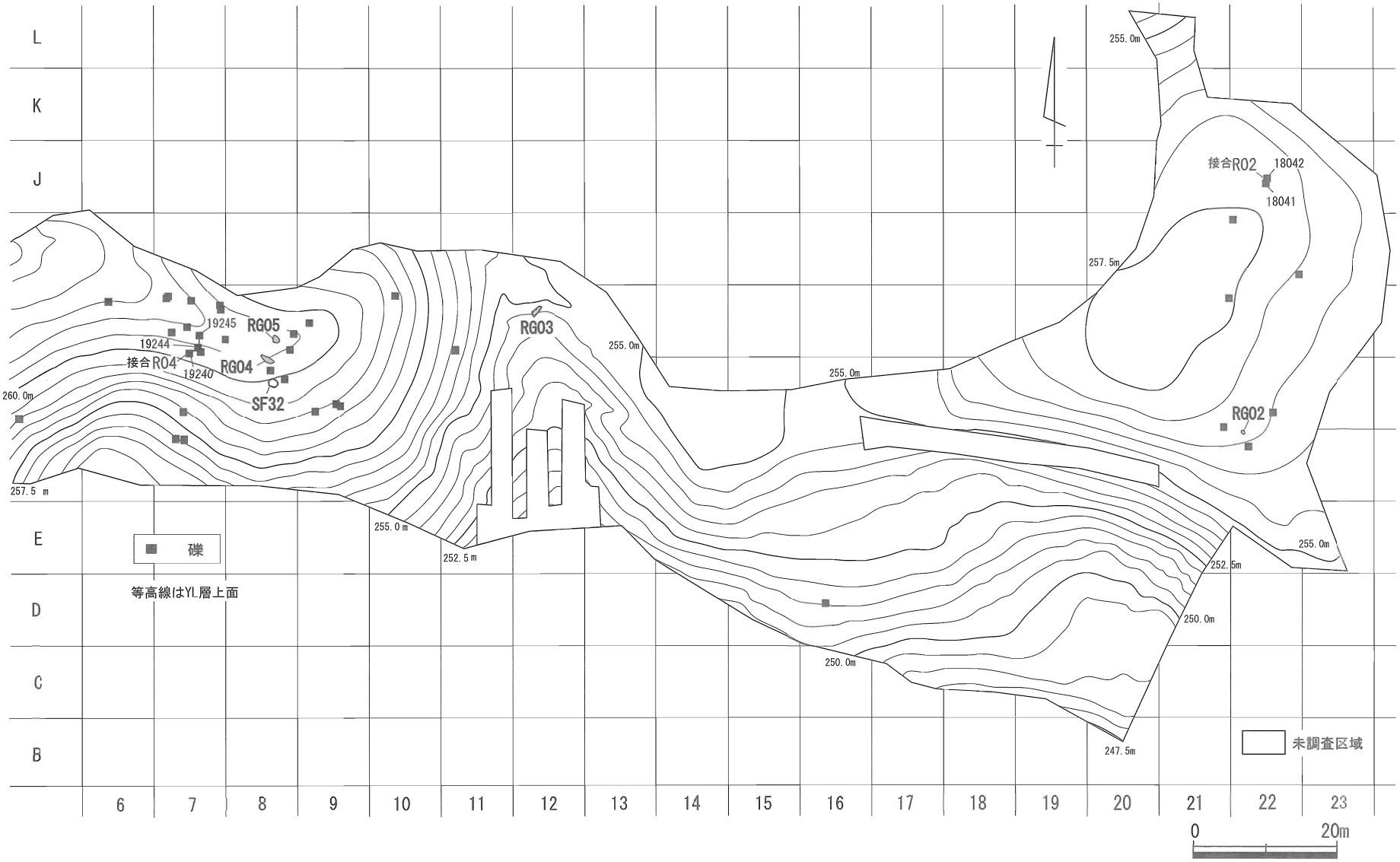


４号礫群(RG04)

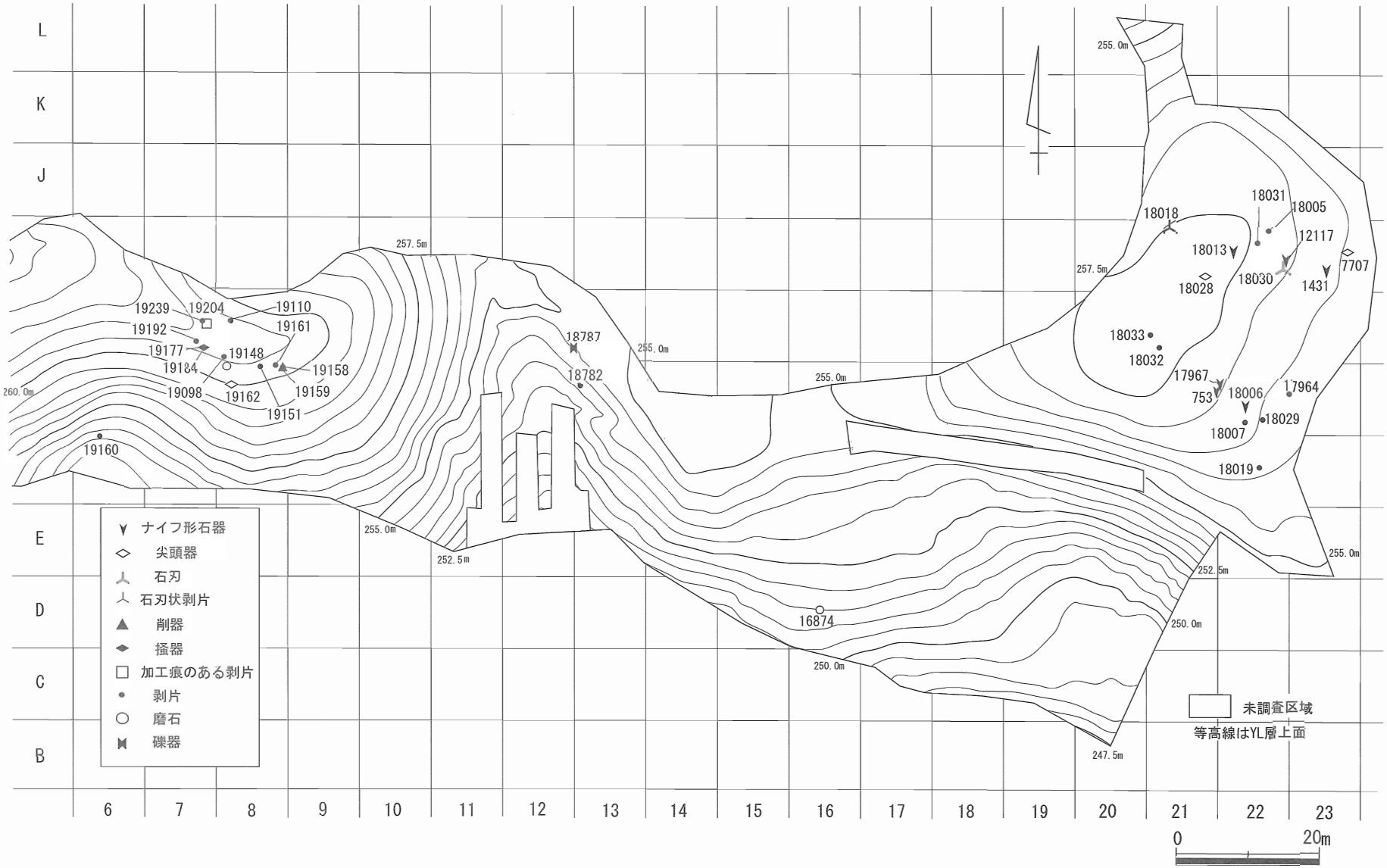
５号礫群(RG05)



第12図　休場層礫群



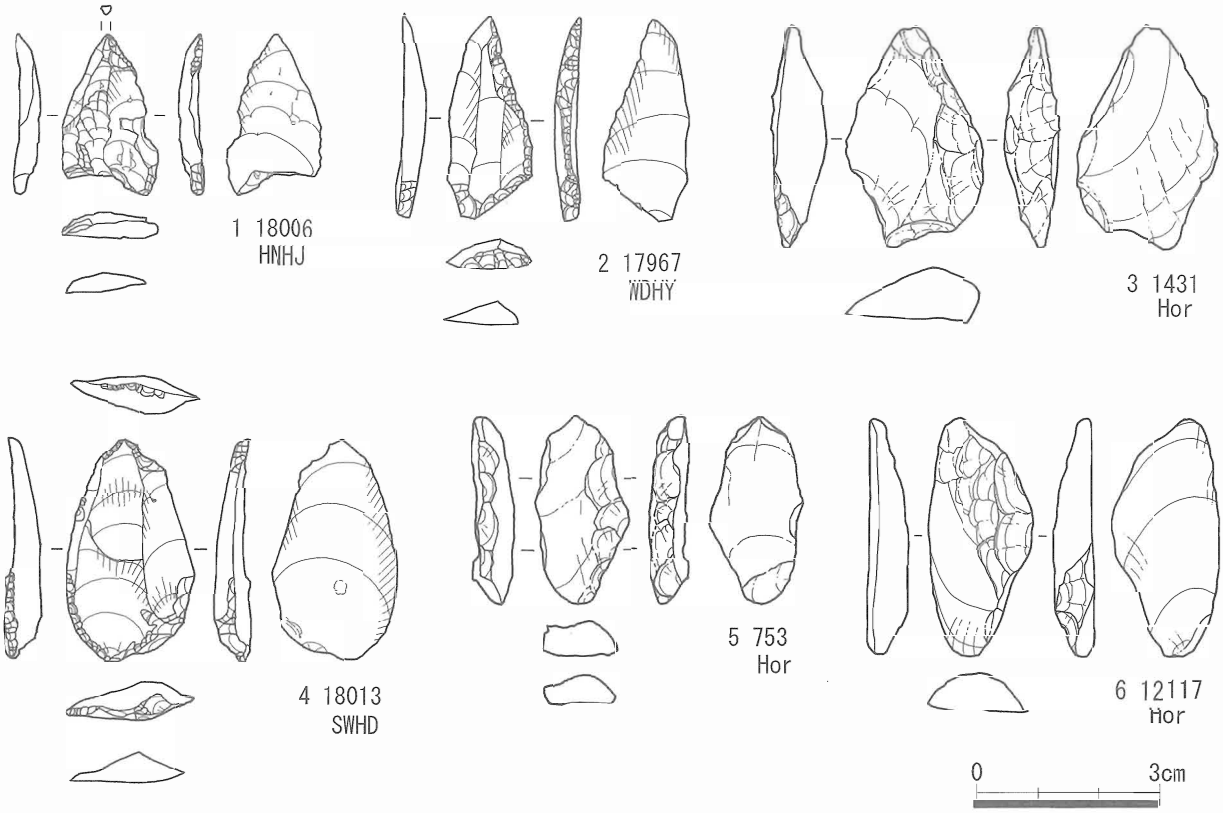
第13図　休場層礫群及び単独礫分布図



第14図　休場層石器分布図

(3) 休場層出土石器（第15～19図）

休場層に比定される石器は35点である。器種は多岐に亘るが、６点のナイフ形石器の存在が注目される。他では尖頭器が３点、石刃・石刃状剥片・掻器・削器・加工痕のある剥片が各１点ずつ出土している。礫石器類では磨石２点、礫器１点がそれぞれ出土している。残りの18点は剥片類である。



第15図　休場層石器(1)　ナイフ形石器

ナイフ形石器（第15図）

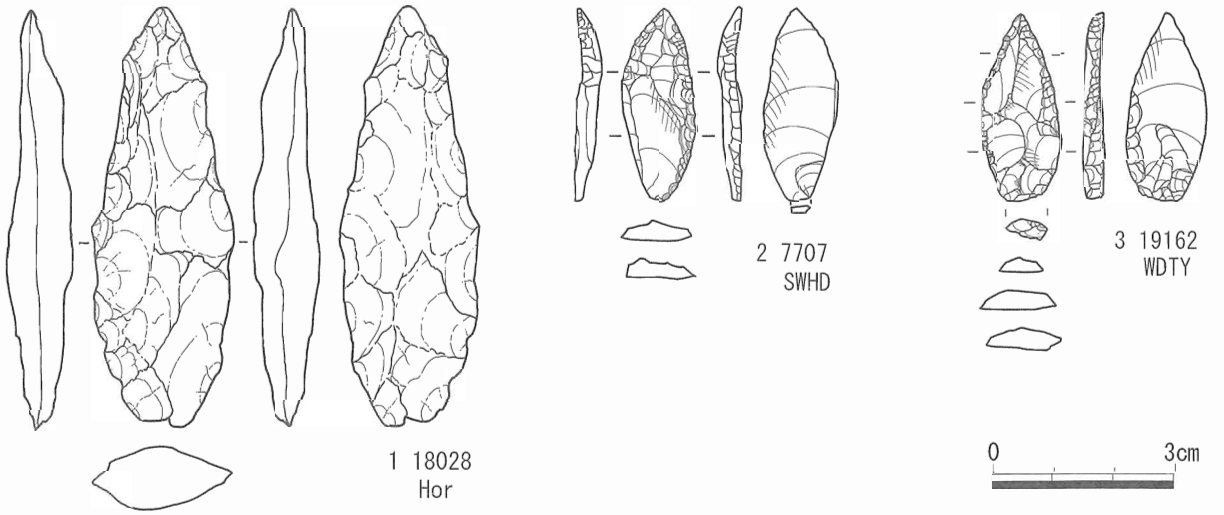
本文化層では６点のナイフ形石器の出土を見た。出土地点は調査区東側地域に密集し、後述する縄文時代の集落域に重なる。このエリアが旧石器、縄文の時代を問わず優れた立地条件を有していたことがうかがい知れる。遺物は黒曜石製、ホルンフェルス製それぞれ３点ずつ出土したが、黒曜石に関しては３点すべて原産地が異なっている。またホルンフェルス製のものは総じて風化が激しく、使用痕その他の詳細な観察はできなかった。

ホルンフェルス製のものは753・1431・12117の３点である。753は二側縁加工が施されているが、剥落が激しく、詳細は不明である。1431も同様に二側縁加工が施され、基部にも剥離が見られる。素材剥片の打面を上位にしてナイフ形石器が作出されており、本遺跡では唯一の例である。12117は一側縁加工であり、打点側を基部として用いている。基部には急斜度の剥離が施され、右側面部には平坦剥離が施されている。黒曜石製のものは、18006・17967・18013の３点である。18006・18013は、共に縦長剥片を素材とし、右側縁部にブランディング加工が施されている。18006の基部は折れており、不明である。18006は箱根畑宿群。18013は諏訪星ヶ台群。17967は石刃を素材としている。剥片を斜めに横断するようにブランディングが施されている。和田芙蓉ライト群。

愛鷹・箱根編年第４期のナイフ形石器は比較的、二側縁加工のものが多い（前嶋2000）とされる。本遺跡のナイフ形石器もこれに該当するが、周辺遺跡のものと比較すると、全体的に小形であり、時期的にナイフ形石器終末期に近いと思われる。

第８表　休場層　ナイフ形石器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18006	Ob	HNHJ	YLL	G-022	1.3	2.7	1.6	0.4	−90135.984	35803.777	255.770
17967	Ob	WDHY	YLM	G-022	1.4	3.4	1.4	0.4	−90133.060	35800.356	256.200
1431	Hor		AN~FB	I-023	6.8	3.7	2.3	0.9	−90117.059	35815.104	257.316
18013	Ob	SWHD	YLM	I-022	2.7	3.7	2.1	0.6	−90114.416	35802.113	256.851
753	Hor		AN~FB	G-021	3.4	3.1	1.6	0.7	−90134.050	35799.838	257.660
12117	Hor		AN~FB	I-022	5.1	3.9	1.7	0.7	−90115.698	35809.516	257.387



第16図　休場層石器(2)　尖頭器

尖頭器（第16図）

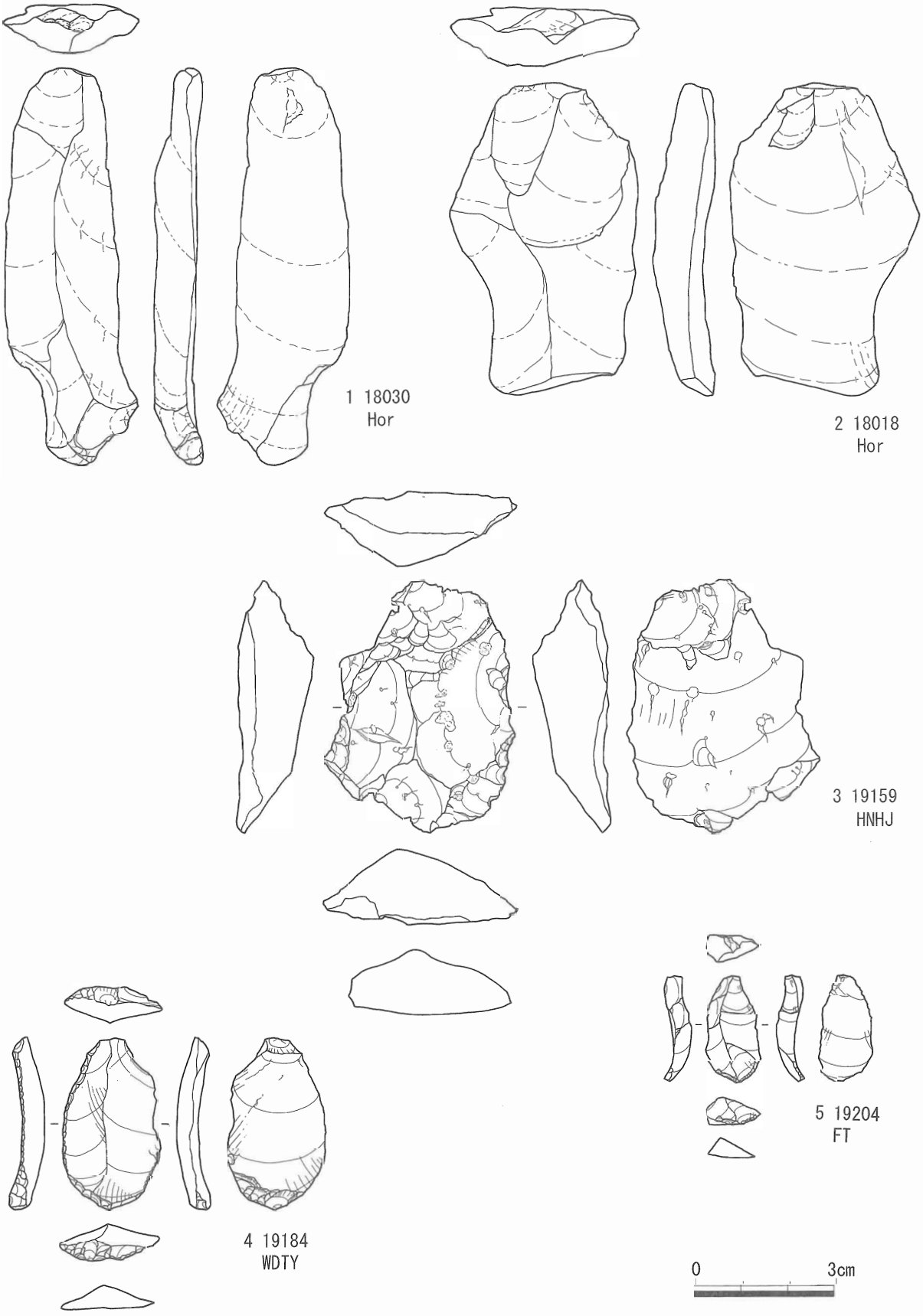
尖頭器は３点の出土である。うち２点が黒曜石製で、１点がホルンフェルス製である。出土地点は調査区の東西に大きく分かれている。

ホルンフェルス製の18028は完形品で柳葉形を呈する。黒曜石製の２点が小形であるのに対し、大形である。他のホルンフェルス製品同様に風化が激しく、剥落部も多い。両面調整が施されているが、裏面に残された剥離よりも表面のものの方が大きいことが看取できる。このことから、表面に比較的大きな剥離を施して成形した後、裏面に小さな剥離を施して形を整えたことが推測される。

黒曜石製の7707と19162はともに、やや幅広の縦長剥片を素材としている。ともに打面を基部とし、周辺部加工を施して先端部を作出している。なお、刃部は主要剥離面側からの片面加工である。7707は諏訪星ヶ台群。19162は和田鷹山群。

第９表　休場層　尖頭器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18028	Hor		YLs1	I-021	13.5	6.9	2.3	1.1	−90117.797	35798.169	257.160
7707	Ob	SWHD	AN~FB	I-023	1.2	3.2	1.2	0.4	−90114.379	35818.058	256.817
19162	Ob	WDTY	YLM	G-008	1.4	3.1	1.3	0.4	−90133.225	35662.379	259.652


1 18030
Hor
2 18018
Hor
3 19159
HNHJ
4 19184
WDTY
5 19204
FT
0
3cm

第17図　休場層石器(3)

石刃・石刃状剥片（第17図）

石刃、石刃状剥片ともに調査区東側部分からの出土である。これら２点は同一個体と判断した。さらに休場層中層出土の剥片18005もこの２点と同一個体であると思われるが、接合関係は見られなかった。

石刃18030は同一個体とされたものの中で最も大きい。下部両側面に剥離面があるが、左側面のものは、本遺物が作出される以前より存在したものと推定される。逆に右側面のものは新しい剥離である。石刃作出時に端部が大きく右に曲がってしまったため、これを除去した時の剥離面であると思われる。

石刃状剥片18018は中央の稜線と両側縁が平行し、石刃技法により作出された石器の特徴を有している。そのため石刃状剥片とした。底部には平坦面が存在するが、石核の調整段階に剥離した面であり、剥片として作出される以前より存在したものと推定される。

第10表　休場層　石刃・石刃状剥片

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18030	Hor		YLL	I-022	20.0	8.6	2.6	0.8	−90116.668	35809.391	256.128
18018	Hor		YLM	I-021	2.9	6.8	3.9	1.1	−90110.938	35793.310	257.349

削器（第17図）

19159は調査区中央やや西よりの尾根から出土している。やや幅広の剥片を素材とし、主に右側縁に二次加工を施し、刃部を作出している。箱根畑宿群。

第11表　休場層　削器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
19159	Ob	HNHJ	YLM	G-008	24.3	5.5	4.1	1.7	−90130.749	35669.646	259.806

掻器（第17図）

19184は調査区西側部分から出土している。石刃素材で下面端部に鈍角のスクレーパーエッジを作出している。形態等からいわゆる先刃式掻器に該当すると思われる。左側縁には二次加工が施され、削器的に利用された可能性もある。主要剥離面側に刃部の再生と思われる細かな調整を伴う。和田鷹山群。

第12表　休場層　掻器

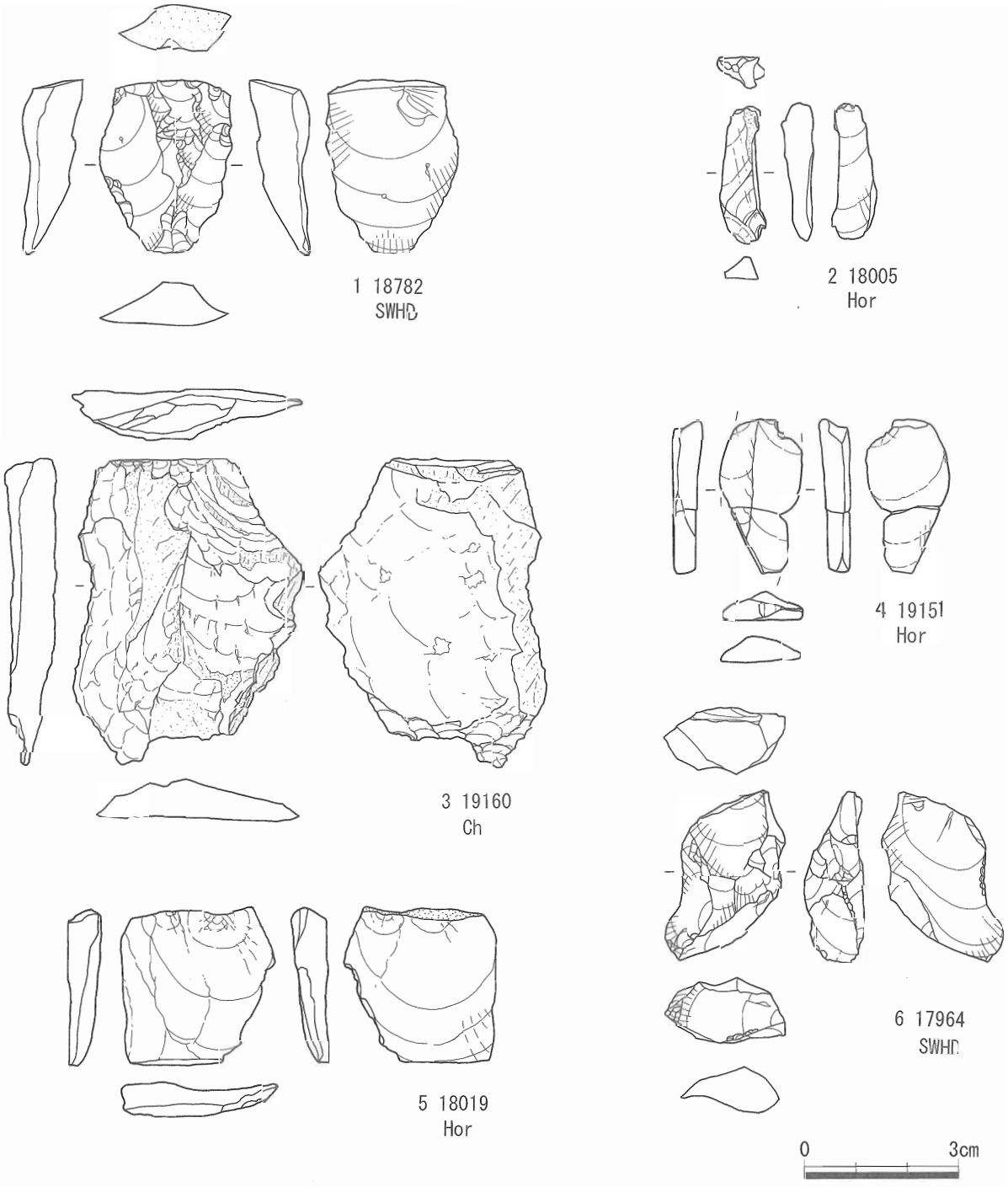
遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
19184	Ob	WDTY	YLM	H-007	3.9	3.7	2.1	0.7	−90128.078	35658.643	260.365

加工痕のある剥片（第17図）

19204は調査区西側部分から出土している。石材は細粒凝灰岩である。下面に細かい連続した剥離があり、形状から掻器的な利用が想定される。なお、底部にある平坦面は石核調整時のものと想定される。

第13表　休場層　加工痕のある剥片

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
19204	FT		YLM	H-007	1.0	2.3	1.1	0.4	−90124.813	35659.031	260.275



第18図　休場層石器(4)　剥片類

剥片類のうち、使用痕が認められる18782・17964を含む19160・18005・18019・19151の計６点について図示した。18782と17964は使用痕と思われる剥離を有する。ともに産地は諏訪星ヶ台群である。18782は自然面打面の石核から作出された縦長剥片を素材としている。左側縁に使用痕が残る。17964も同様だが、右側縁にも、細かな剥離が観察される。19160はチャート製であるが節理が発達し、石器石材として良好ではない。やや幅広の縦長剥片を素材としている。表面上部には石核段階での頭部調整の剥離が見られる。18019は左端部を欠損している。打面に自然面が残る。19151は石刃技法を用いて作出されたと思われる剥片である。母岩に節理があり、下面・左側面などが欠損している。18005も同様と考えられるが、小片であり、詳細は不明である。

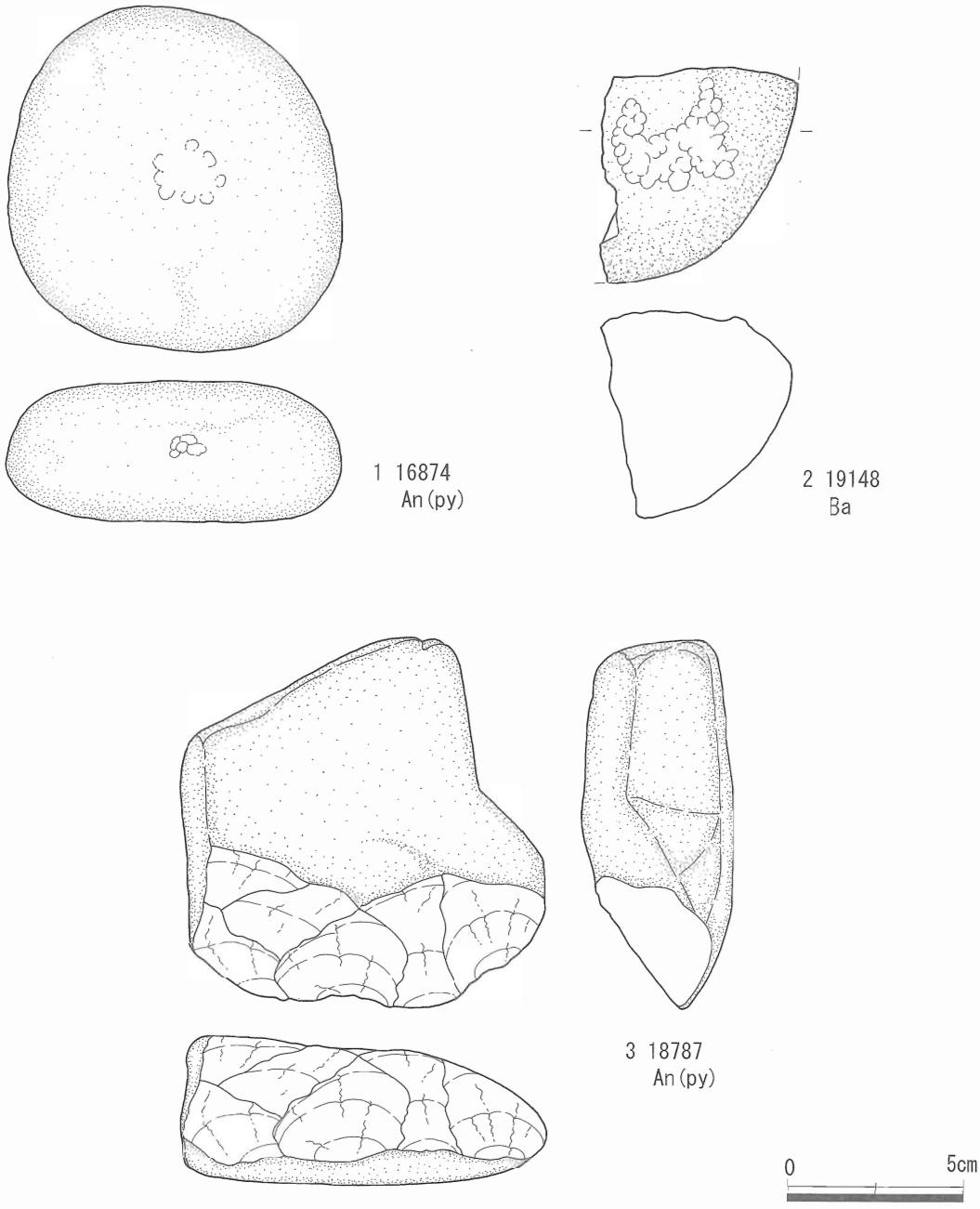
第14表　休場層　剥片類

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
18031	Hor		BB0	I-022	0.8	1.4	1.2	0.6	−90113.294	35805.614	255.381
18007	Ob	KZOB	YLL	G-022	0.8	1.4	0.7	0.5	−90138.101	35803.709	255.499
18782	Ob	SWHD	YLs2	G-013	7.7	3.9	2.6	1.2	−90133.361	35711.096	252.757
19160	Ch		YLM	F-006	23.4	5.9	4.3	0.8	−90140.414	35644.003	255.308
19192	FT		YLM	H-007	2.1	2.4	2.1	0.7	−90127.221	35657.618	260.313
19239	FT		YLM	H-007	2.5	2.8	1.8	0.4	−90124.435	35658.464	260.578
18005	Hor		YLM	I-022	1.2	0.8	2.7	0.7	−90111.644	35807.137	256.762
18019	Hor		Zn	F-022	6.6	3.0	2.9	0.6	−90144.386	35805.725	256.104
19151	Hor		YLM	G-008	2.6	3.0	1.6	0.6	−90130.717	35666.387	259.804
19161	Hor		YLM	G-008	1.0	1.0	1.0	0.3	−90130.543	35668.661	259.806
17964	Ob	SWHD	YLM	G-022	5.8	3.4	2.4	1.2	−90134.313	35809.953	255.807
18032	Ob	WDKB	YLM	H-021	1.0	1.2	2.1	0.5	−90127.761	35791.749	257.040
18033	Ob	WDTY	YLM	H-021	0.1	1.0	0.6	0.2	−90126.003	35790.505	257.174
19158	Ob	測定不可	YLM	G-008	>0.1	0.5	0.4	>0.1	−90130.791	35669.671	259.817
19177	Ob	WDTY	YLM	H-007	>0.1	0.8	0.5	>0.1	−90128.053	35658.657	260.381
18029	Rhy		YLM	G-022	0.5	1.2	1.1	0.4	−90137.735	35806.183	255.699
19098	Hor		YLU	H-008	4.3	2.4	2.4	0.8	−90129.363	35661.383	260.605
19110	Hor		YLU	H-008	6.6	2.1	2.8	0.8	−90124.385	35662.265	260.591

上記第14表は、剥片類の観察表である。ここには図示しなかった剥片も一括して掲載されている。18031は休場層下部黒色帯出土のホルンフェルスである。本来であれば、別に取り上げるべきかもしれないが、他に休場層下部黒色帯で検出された遺物も無いことから休場層の剥片類と合わせて、本表に掲載した。サイズが小さく、風化も非常に激しいため、図化せずに本表のみでの報告となる。

礫石器類（第19図）

16874は輝石安山岩製である。使用痕跡から磨石、敲石、台石として複数の機能を有していたと見られる。19148は玄武岩製である。破損しており、3/4程度欠損している。被熱の可能性がある。



第19図　休場層石器(5)　礫石器

18787は調査区中央部からの出土で、輝石安山岩を素材としている。刃部は片面にのみ作出されるいわゆるチョッパーである。亜角礫を素材とし、複数回の大きな剥離の後、比較的小さな剥離を繰り返して刃部を作出している。

第15表　休場層　礫石器類

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
16874	An(py)		YLU	D-016	580.0	9.9	9.4	3.9	−90164.347	35744.301	251.396
19148	Ba		YLU	G-008	240.0	6.0	7.2	5.7	−90130.270	35661.706	259.931
18787	An(py)		YLU	H-013	620.0	10.5	10.0	4.2	−90128.190	35710.179	254.298

⑷　休場層のまとめ

休場層下層から上層にかけての遺構・遺物を一括して取り扱った。石器はナイフ形石器が３点出土しているが、休場層下層に伴うとされる樋状剥離のある尖頭器や上ヶ屋型彫器、小坂型彫器、先刃式掻器、抉入削器は見られない。また、ナイフ形石器も小形のものが多く、石器群の主体は休場層中層にあると理解できる。

〈休場層の土坑について〉

休場層期の土坑は全国的にも類例の少ない、きわめて希少なものである。旧石器時代面の調査が進んでいる愛鷹山麓の遺跡においても休場層からの土坑の検出は極めて少ない。報告例も沼津市子ノ神遺跡、同柏葉尾遺跡、長泉町大岡元長窪線桜畑上遺跡が挙げられる程度である。報告書未刊行の遺跡での検出例もあるがいずれも検出数は僅少である。しかしながら、その形態はバリエーションに富んでいる。プランは円形、楕円形、方形とあり、さらに掘り込み面では円形であるが、底面では方形と掘削途中で形状を変えるものもある。また、深さも様々である。

土坑の用途に関しては、落し穴とする説と貯蔵穴とする説がある。愛鷹・箱根山麓ではＡＴ降灰以前の第Ⅲ黒色帯に掘り込み面を持つ落し穴が多数確認されている。落し穴は縄文時代やそれ以降の時代にも普遍的に存在するものであり、むしろ休場層期に存在しないことの方に違和感がある。休場層期の土坑で積極的に落し穴と認めえないものは、土坑そのものの深さが原因となる。検出状況にもよるが、本遺跡検出の浅い土坑の類は、動物を落とすことをイメージしたとはやや認めがたい。一方、貯蔵穴説に関しても多くの研究者が指摘するとおり、旧石器時代の遊動生活において貯蔵という行為が存在したのかという疑問がある。

磐田原台地に立地する高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡では休場層期を含む旧石器時代面から10基の土坑が検出されている（富樫1998）。報告者の富樫孝志氏は高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡の円形・楕円の土坑と、方形の土坑とで深さが異なっていることに注目した。円形・楕円形の土坑は深さが１ｍに満たないが、方形のものは深さが２ｍに達するものがある。また円形・楕円形の土坑は遺物の集中域から10～20ｍほどの距離に位置するのに対し、方形のものは30～50ｍも離れている。以上のようなデータから、富樫氏は円形・楕円形の土坑は貯蔵穴、方形の土坑は落し穴の可能性があるとしている。

ところで愛鷹山麓では旧石器時代面において石囲炉が検出されている遺跡が少なからず存在する。中でも、沼津市銭神遺跡（第二東名27-2地点遺跡）や長泉町野台遺跡、同上野遺跡、函南町柳沢Ｃ遺跡ではナイフ形石器を伴っており、本遺跡休場層文化層とほぼ同時期と考えられる。この時期の石囲炉の形成に関して、複数の狩猟集団の結合の結果とする考察がある（笹原・瀬川1992）。狩猟の重要性がひときわ高まる冬季に、狩猟の効率化を目的とした集団の結合が起こる。そして、集団同士のコミュニケーションの場として、石囲炉が成立する。石囲炉の作製は、彼らがそこに回帰することを想定していたことになる。三島市観音洞Ｂ遺跡では、休場層下層の文化層から黒曜石原材の埋納土坑が検出されている。これらの状況から、休場層期の愛鷹・箱根山麓をフィールドとした人々は未来の自分たちの行動を予測して、生活を送っていたと考えられる。

本遺跡の土坑は円形で浅く、また遺物の集中域に近接しており高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡において貯蔵目的とされた土坑に類似する。近年の自然環境分析によれば、休場層中層期ごろの関東地方以南の平野部から九州にかけては冷温帯落葉樹林が卓越していた（米倉伸之・辻誠一郎・岡村道雄1997）ようであり、愛鷹山麓においてもクルミ等の堅果類が比較的容易に入手できる環境であったと考えられる。未来を見据えた生活を送っていた旧石器人が、植生環境の変化に対応し、植物性食料の貯蔵を行ったと考えたい。本遺跡での土坑の検出は１基のみであるため、あくまでも可能性に止まるが、貯蔵目的であった可能性を提示しておきたい。

〈休場層のエリア〉

休場層の遺物は調査区全域で検出されているが、比較的遺物が集中している地域として３つのエリアがある。１つは調査区西部の尾根のやや平坦な部分で、G-008グリッドを中心とした部分である。このエリアには土坑、４号礫群、５号礫群が検出されている。２つの礫群に時期差が想定されるため、４号礫群に伴う休場層中層検出の石器群と、５号礫群に伴う休場層上層の石器群との２つの文化層に細分が可能かもしれない。しかし、石器の特徴からはそれを裏付けるような資料は得られなかった。石器は尖頭器、掻器、削器、加工痕のある剥片、磨石が出土している。剥片石器の石材は黒曜石、ホルンフェルス、細粒凝灰岩である。黒曜石は和田鷹山産のものが多い。細粒凝灰岩は本遺跡においては希少な石材である。エリア南端の土坑が出土した場所では、縄文時代面の調査で焼土跡や集石が検出されている。時代を問わず、良好な立地であったことが理解できる。

他方、調査区東部にも比較的遺物が集中している地域が認められる。この地域は縄文時代に竪穴住居が立地していた場所であり、本遺跡内でもっとも平坦な地形である。この地域をさらに細かく見ていくと、やや北寄りのI-022グリッド付近を中心とした地域と、やや南寄りのG-022グリッドを中心とした地域の２つのエリアの存在が考えられる。I-022グリッドを中心したエリアでは遺構の検出はない。石器はナイフ形石器３点と尖頭器２点が出土しており、他に石刃と石刃状剥片が出土している。石材はホルンフェルスが卓越している。また同一個体と見られるものもあり、剥片の作出作業が行われた可能性がある。石材では他に諏訪星ヶ台産の黒曜石がある。

南寄りのG-022グリッドを中心としたエリアでは、２号礫群が検出されている。石器はナイフ形石器３点である。石材は黒曜石を中心とするがその産地は様々である。他にホルンフェルス、流紋岩がある。

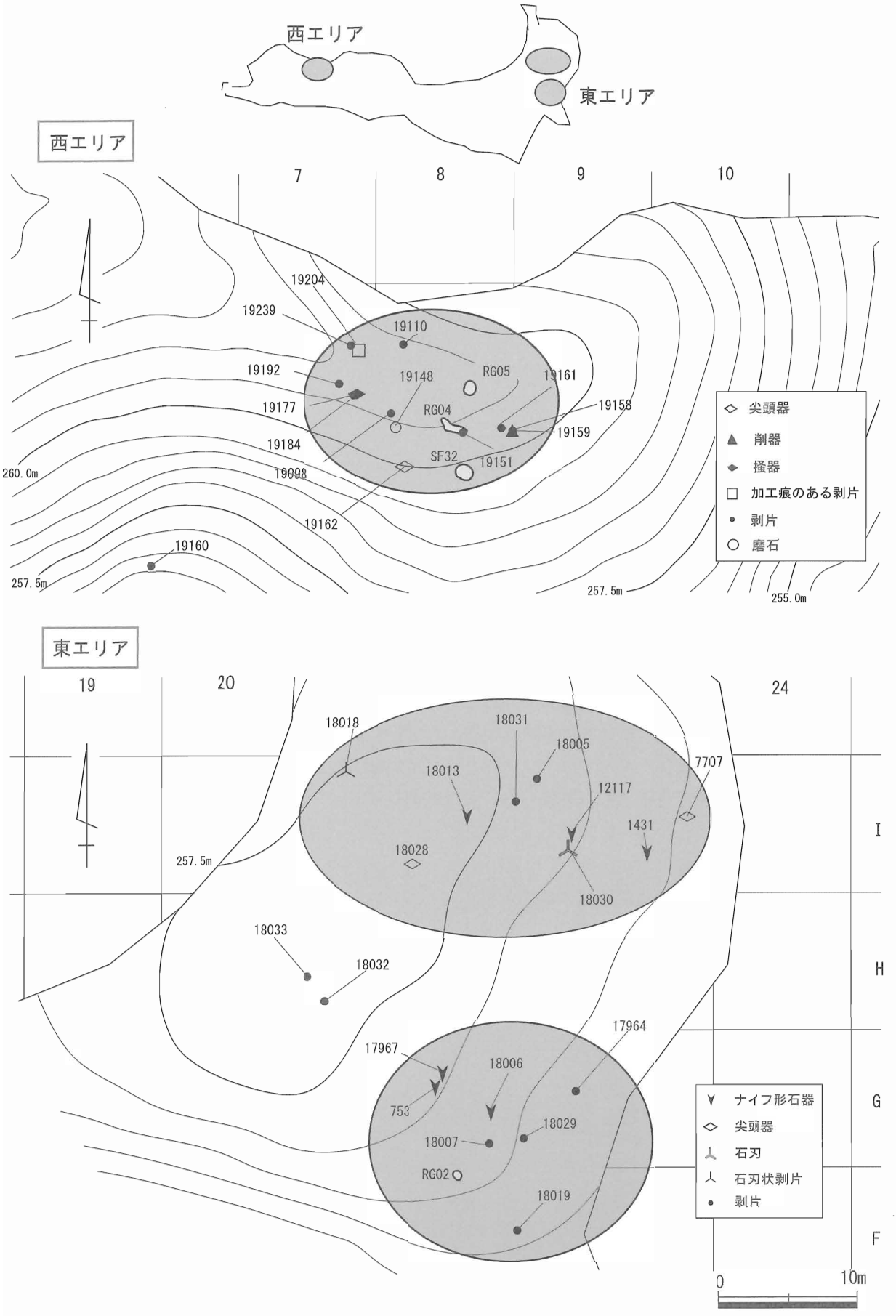
これら調査区東部の２つのエリアは前述したとおり、縄文時代に住居が設営された区域と近接する。この地域の旧石器時代の特徴を持つ石器類の中には、縄文時代遺物包含層から検出されたものもあり、竪穴住居形成による影響を受けている可能性もある。そのため、縄文時代遺物として報告した剥片類の中にも旧石器時代のものが含まれている可能性がある。

〈休場層の石器組成より―欠落しているもの―〉

本文化層における石器組成の特徴としては、石核が出土していないことが挙げられる。縄文時代面において55点出土している石核が、本文化層においてはまったく出土していない。休場層期の本遺跡において剥片の作出作業が行われた可能性は否定できないが、剥片石器類は製品の状態か、もしくは剥片の段階で持ち込まれたものと考えられる。池谷信之氏は該期の愛鷹・箱根山麓における黒曜石製ナイフ形石器と石核との間で現れている諸現象を整理し（池谷2001）、ナイフ形石器の製作地を長野県鷹山遺跡M地点等の黒曜石原産地遺跡と想定している。本遺跡においても黒曜石製ナイフ形石器に和田峠付近を原産地とするものがある。また該期の出土黒曜石の７割以上が信州産である。本遺跡に搬入された黒曜石製石器類は、信州の原産地付近で製作されたと思われる。石核が無い事実は、黒曜石原産地域から比較的安定的に、製品または素材剥片の供給が行われていたことを意味するのではないだろうか。

また石核同様、楔形石器の出土も見られない。旧石器時代面全体を見ても出土が無く、縄文時代面において82点の出土があるのと対照的である。楔形石器に関しては、木製、骨角製の代用品の存在を想定するのは難しい。したがって、該期の本遺跡においては楔形石器が必要とされる行動が欠落していたと推定される。

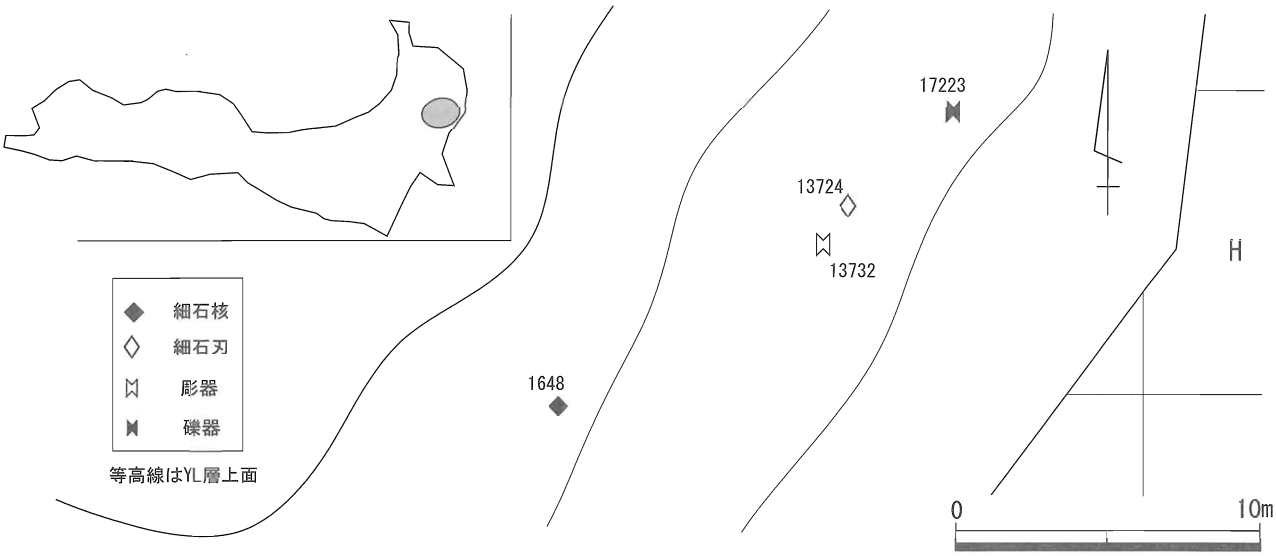
逆に縄文時代においては楔形石器を必要とする活動が行われていたということになるが、残念ながら現時点ではその活動内容の想定は難しい。原産地にまで及ぶ広範な交流が想定される反面、本遺跡内における旧石器人の活動内容は、限定的なものであったのかもしれない。



第20図　休場層エリア概念図

第４節　細石器期の遺物

縄文時代遺物包含層下部から細石核、細石刃が出土した。これらに細石器に伴うと思われる２点を加え、合計４点を本節で報告する。



第21図　細石器期の遺物分布図

(1)　細石器文化層出土石器（第22図）

細石核（第22図）

1648は野岳・休場型に分類される細石核である。調査区東部からの出土であり、検出面は縄文時代遺物包含層であった。比較的肉厚な剥片を素材とし、右側縁に細石刃を剥離させた作業面が認められる。上下両端に線状の打面及び、対向するリングが密集した剥離面が認められることから、最終的には、楔形石器に転用されたと考えられる。黒曜石製、神津恩馳島産群。

第16表　細石核

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
1648	Ob	KZOB	AN~FB	G-022	3.9	2.6	1.8	0.8	−90130.207	35801.151	257.568

細石刃（第22図）

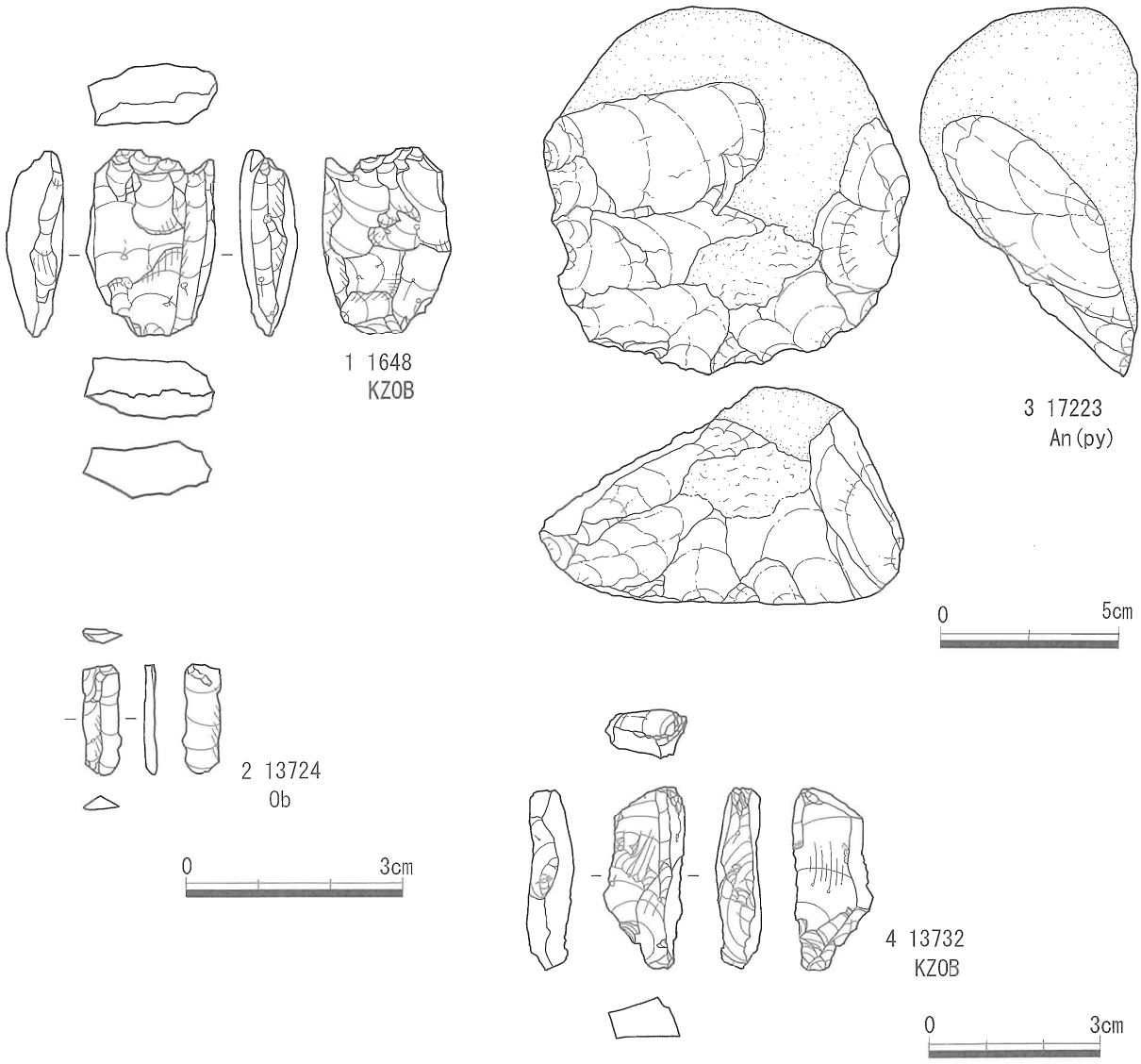
13724は細石核同様、縄文時代遺物包含層よりの検出である。ほぼ完形に近い形態を残していると思われる。黒曜石製、原産地不明。

第17表　細石刃

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
13724	Ob		AN~FB	H-023	>0.1	1.5	0.6	0.2	−90123.568	35810.565	256.955

彫器（第22図）

13732はやや縦長の剥片を素材とする。剥片端部に打面を設定して彫刀面を作出している。彫刀面には微細な剥離が認められる。形態は小坂型彫器に類似する。黒曜石製、神津恩馳島群。



第22図　細石器期の石器

第18表　彫器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
13732	Ob	KZOB	Zn	H-022	3.2	3.2	1.4	0.8	−90125.019	35809.545	257.012

礫器（第22図）

17223は輝石安山岩製である。刃部は片面のみに作出されており、いわゆるチョッパーである。甲高の楕円礫を素材とし、複数回の大きな剥離の後、比較的小さな剥離を繰り返して刃部を作出している。形態は細石器に伴う礫器として適当なものであるため、本文化層に含めた。

第19表　礫器

遺物番号	石材	産地	層位	グリッド	重量	長径	短径	厚さ	X座標	Y座標	Z座標
17223	An (py)		Zn	H-023	603.0	10.7	10.6	5.5	−90120.638	35813.776	256.756

(2) 細石器期のまとめ

細石器期の遺物は、調査区東部の狭い部分で検出された。検出層位は縄文時代の土層であり、縄文時代の集落域と重なるエリアである。遺物は４点のみであり、他の時代と同様に詳細は不明であるが、愛鷹山麓で多く出土している野岳・休場型石核が出土していることから、愛鷹・箱根第５期の文化層が広がっていたことが推定される。本地域では第５期の遺物が休場層上層から富士黒土層下半で出土する。本遺跡の標準土層に対応させると、第６層の黒褐色土層の最下層から第８層の暗褐色土層（休場層上層）がこれに相当する。本遺跡においてはこれらの層位からの出土遺物は膨大な数に上る。しかしこれらの層位から縄文時代草創期と見られる遺物や、縄文時代早期の遺物も検出されている。そのため、細石器期の遺物として判断材料を有する４点の製品のみを本節で報告した。したがって、本文化層に含めるべき剥片類などが、縄文時代の草創期または早期として報告されている可能性もある。

《参考文献》

鈴木忠司編1980　『寺谷遺跡発掘調査報告書』　平安博物館・磐田市教育委員会

石川治夫1982　『子ノ神・大谷津・山崎Ⅱ・丸尾Ⅱ』　沼津市教育委員会

山下秀樹他1985　『広野北遺跡発掘調査報告書』　平安博物館・豊田町教育委員会

石川治夫1985　『寺林南遺跡発掘調査報告書』　沼津市教育委員会

笹原芳郎・瀬川裕市郎1992　「旧石器時代後期の炉跡・焚火跡―特に愛鷹南麓・箱根西麓を中心として―」　『考古学ジャーナル』351

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会1995　静岡県考古学会シンポジウムIX『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年』予稿集

鈴木忠司・竹内直文1996　『匂坂中遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　静岡県企業局・磐田市教育委員会

横山秀昭他1996　『下原遺跡Ⅱ』　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

米倉伸之・辻誠一郎・岡村道雄1997　「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」の趣旨『第四紀研究』36　日本第四紀学会

池谷信之・望月明彦1998　「愛鷹山麓における石材組成の変遷」『静岡県考古学研究』30　静岡県考古学会

富樫孝志1998　『高見丘Ⅲ・Ⅳ遺跡』　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

笹原芳郎1999　『西洞遺跡（ｂ区－１）発掘調査報告書』　沼津市教育委員会

前嶋秀張2000　「愛鷹・箱根の石器群とその地域性」―休場層下部の石器群について―『石器文化研究会』９　石器文化研究会

第７回石器文化研究交流会しずおか実行委員会2001　『第７回石器文化研究交流会』―発表要旨―　石器文化研究会

笹原千賀子2004　「愛鷹・箱根山麓第３期の石器群」―第３期から第４期へ、寺林遺跡の編年的位置―静岡県埋蔵文化財調査研究所20周年記念論文集

笹原芳郎2005　「東海東部（愛鷹・箱根山麓）」シンポジウム『ナイフ形石器文化終末期再考―ナイフ形石器終末期石器群の変動―石器文化研究会11』　石器文化研究会

笹原芳郎2005　「愛鷹・箱根旧石器時代編年の現状と課題」『地域と文化の考古学Ⅰ』　明治大学文学部考古学研究室編

第20表　旧石器時代礫計測表

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス	X座標	Y座標	Z座標
17874	C-019	SC I	RG01	An(py)		398	8.8	8.3	4.6	亜角	D	B		−90170.725	35779.963	248.354
17875	C-020	SC I	RG01	An(py)		560	10.8	8.8	5.3	亜角	D	A		−90170.509	35780.807	248.253
17876	C-020	SC I	RG01	Ba		240	9.0	7.8	4.4	亜角	D	C		−90170.672	35780.868	248.193
17877	C-020	SC I	RG01	An(py)		560	11.3	8.2	5.5	亜円	C	B		−90170.960	35780.434	248.278
17878	C-020	SC I	RG01	VBa		50	5.3	3.6	3.5	亜角	D	C		−90171.285	35780.326	248.104
17879	C-020	SC I	RG01	Ba		140	6.8	5.7	3.4	亜円	C	B	有	−90171.419	35780.714	248.107
17880	C-019	SC I	RG01	Ba		230	8.0	7.3	4.6	亜角	C	B		−90172.083	35779.609	248.384
17881	C-019	SC I	RG01	Ba		380	9.3	6.2	6.5	亜円	C	B	有	−90172.207	35779.714	248.326
17882	C-019	SC I	RG01	Ba	R01	50	5.6	4.1	3.0	亜角	E	B		−90172.154	35779.478	248.357
17884	C-020	SC I	RG01	Ba	R01	340	9.3	6.6	5.6	亜角	E	B		−90171.751	35781.410	248.044
17883	C-020	YLL	RG01	Ba		230	8.0	6.6	4.6	亜角	D	C		−90171.468	35780.113	248.113
18034	F-022	YLM	RG02	FG		430	8.4	7.8	6.5	亜円	C	B		−90140.704	35801.561	255.935
18035	F-022	YLM	RG02	Ba		200	10.2	7.0	3.0	亜角	E	C		−90140.616	35801.576	255.967
18036	F-022	YLM	RG02	VBa		200	8.5	5.5	4.1	亜角	C	C		−90140.364	35801.422	256.005
18697	H-012	YLU	RG03	An(py)		1370	13.9	11.1	8.6	亜円	E	C		−90124.301	35702.835	253.998
18698	H-012	YLU	RG03	An(py)		1350	14.8	9.6	8.0	亜角	E	C		−90124.112	35702.842	253.997
18699	H-012	YLU	RG03	Ba		550	13.6	8.8	5.6	亜角	C	C		−90123.539	35703.442	254.072
18700	H-012	YLU	RG03	An(py)		860	17.1	10.5	8.2	亜角	D	B		−90123.222	35703.613	254.073
19164	G-008	YLL	RG04	Ba		320	11.8	7.1	4.2	亜角	D	B		−90130.690	35666.574	259.728
19165	G-008	YLL	RG04	VBa		400	12.2	7.8	5.0	亜角	C	C		−90130.698	35666.389	259.761
19166	G-008	YLL	RG04	Ba		690	13.6	9.5	6.4	亜角	D	B		−90130.423	35666.217	259.786
19167	G-008	YLL	RG04	VAn		740	14.3	9.3	6.2	亜角	D	C		−90130.463	35665.882	259.755
19168	G-008	YLL	RG04	VBa		320	13.4	8.5	4.3	亜角	D	C		−90130.607	35665.857	259.761
19169	G-008	YLL	RG04	Ba		410	11.4	6.0	5.0	亜円	C	B		−90130.484	35665.316	259.783
19170	G-008	YLL	RG04	VBa		390	12.0	9.0	4.7	亜円	E	C		−90130.195	35665.379	259.814
19171	H-008	YLL	RG04	An(py)		190	9.5	6.7	2.5	亜角	D	C		−90129.955	35665.281	259.891
19172	H-008	YLL	RG04	VBa		500	11.6	8.2	5.5	亜角	D	C		−90129.982	35665.083	259.837
19173	H-008	YLL	RG04	Ba		300	12.2	6.7	4.5	亜円	E	C		−90129.770	35664.975	259.874
19152	G-008	YLM	RG04	An(py)	R03	60	8.4	5.2	2.0	亜角	E	C		−90130.741	35665.938	259.856
19153	G-008	YLM	RG04	An(py)	R03	320	13.5	8.0	4.5	亜角	E	C		−90130.661	35666.042	259.791
19154	H-008	YLU	RG05	VBa		110	7.2	4.8	3.3	亜円	C	C		−90127.878	35666.678	260.466
19155	H-008	YLU	RG05	An(py)		180	7.8	6.6	4.4	亜角	C	B		−90127.527	35666.952	260.502
19156	H-008	YLU	RG05	An(py)		180	8.8	5.8	3.1	亜角	C	B		−90127.250	35666.899	260.423
19157	H-008	YLU	RG05	VBa		180	6.3	5.6	4.5	亜円	C	C		−90127.423	35667.256	260.440
18037	G-022	YLL	包含層	Ba		30	4.7	2.6	2.2	亜円	D	B		−90137.813	35805.641	255.386
18053	F-022	YLL	包含層	Ba		160	8.3	6.6	3.1	亜角	D	C		−90142.404	35802.233	255.111
18040	I-022	YLM	包含層	FG		100	9.0	2.9	3.8	亜角	D	A		−90118.609	35809.237	256.331
18041	J-022	YLM	包含層	Ba	R02	910	14.7	9.5	6.3	亜角	E	C		−90105.817	35804.719	257.011
18042	J-022	YLM	包含層	Ba	R02	290	9.8	7.0	5.5	亜角	E	C		−90105.472	35804.801	256.998
18043	I-022	YLM	包含層	An(py)		130	6.3	5.4	3.3	亜角	A			−90110.945	35800.128	257.057
18044	H-021	YLM	包含層	VBa		80	5.3	5.0	4.2	亜円	A			−90121.866	35799.535	256.705
18045	G-021	YLM	包含層	VBa		50	4.7	4.3	3.1	亜角	A			−90139.777	35798.759	256.067
17827	D-016	YLU	包含層	An(py)		790	15.8	9.8	4.1	亜角	B			−90164.199	35743.393	251.076
595	H-010	YLU	包含層	An(py)		260	8.7	6.3	6.0	亜角	C	C		−90121.616	35683.538	258.783
19141	G-005	YLM	包含層	An(py)		70	5.0	4.2	3.3	亜角	E	C		−90138.617	35631.005	258.446
18783	G-009	YLM	包含層	An(py)		680	9.8	9.0	6.4	亜円	C	C		−90137.575	35672.420	258.930
18784	G-007	YLM	包含層	An(py)		400	11.8	8.0	5.2	亜角	B			−90137.630	35654.153	257.371
18785	F-007	YLM	包含層	VBa		450	9.8	7.4	6.0	亜角	D	B		−90141.502	35654.214	256.644
18786	F-007	YLM	包含層	An(py)		1060	11.3	10.3	7.4	亜角	B			−90141.349	35653.057	256.378
19146	H-008	YLU	包含層	Ba		350	8.7	8.3	6.0	亜角	C	C		−90129.098	35664.822	260.212
19145	H-011	YLU	包含層	Ba		10	3.8	3.0	1.2	亜角	E	B		−90129.127	35691.894	256.282
19140	H-006	YLU	包含層	VAn		10	3.0	2.4	1.6	亜角	A			−90122.415	35643.644	261.312
19127	H-007	YLM	包含層	VBa		270	9.3	6.6	5.0	亜角	C	B		−90121.943	35651.772	260.910
19128	H-007	YLM	包含層	An(py)		330	9.6	8.0	3.4	亜角	C	B		−90121.688	35652.000	260.961
19149	G-009	YLL	包含層	Ba		120	7.3	5.2	3.6	亜円	C	C	有	−90136.590	35675.319	258.350
19150	G-009	YLL	包含層	An(py)		1020	16.0	12.2	5.3	亜角	E	C		−90136.856	35675.945	258.242
19178	H-007	YLM	包含層	An(py)		20	4.6	3.0	1.5	亜角	E	C		−90127.606	35659.894	260.436
19147	H-007	YLU	包含層	VBa		150	7.0	5.5	4.2	亜円	C	C		−90123.502	35659.214	260.729
19175	G-008	YLL	包含層	An(py)		820	10.0	9.0	7.6	亜角	B			−90131.864	35666.196	259.501
19176	G-008	YLL	包含層	An(py)		840	11.7	8.0	7.6	亜角	C	B		−90133.084	35668.175	259.355
19163	H-008	YLM	包含層	Ba		330	9.3	7.6	4.1	亜角	D	B		−90129.023	35668.909	260.001
19240	H-007	YLM	包含層	Ba	R04	200	8.0	6.5	4.2	亜角	E	C		−90129.542	35654.908	259.519
19243	H-007	YLM	包含層	Ba		500	11.5	8.4	5.3	亜角	E	C		−90129.336	35656.472	259.619
19244	H-007	YLM	包含層	Ba	R04	100	6.0	5.5	4.0	亜角	E	C		−90128.725	35656.087	259.753
19245	H-007	YLM	包含層	Ba	R04	400	10.8	9.5	4.7	亜角	E	C		−90127.061	35656.303	260.063
19246	H-007	YLM	包含層	An(py)		330	9.3	8.5	4.7	亜角	C	B		−90125.904	35654.604	260.454
19251	H-007	YLM	包含層	VAn		160	8.6	5.5	3.5	亜円	C	C		−90122.907	35659.090	260.472
19252	H-007	YLM	包含層	An(py)		470	8.6	7.5	6.8	亜角	C	C		−90126.642	35652.496	260.163
19255	H-009	YLM	包含層	An(py)		20	4.5	2.7	1.1	亜角	B			−90125.337	35671.597	259.885
19174	H-008	YLU	包含層	VBa		120	8.8	7.2	2.0	亜角	C	C	有	−90126.831	35669.429	260.418
19247	H-007	YLU	包含層	Ba		390	9.0	8.3	5.0	亜円	C	C		−90122.272	35655.158	260.941

第４章　縄文時代草創期の遺構と遺物

概要

住居跡を中心とした縄文時代早期末葉の遺構が確認された層位よりも比較的下位の層位より、早期末葉とは時期が異なる遺物が検出された。遺物を仔細に検討した結果、縄文時代草創期の遺物であると考えられるためにここにまとめた。なお、草創期の土器は確認されなかった。

遺構は石器ブロックが１基確認された。遺物は総数111点である。

なお、本章で扱う遺物の内、層位が休場層上層のものは旧石器時代の遺物の可能性もあるが、器種、産地や出土様相などからここで扱うことにしたものを含んでいることを付記しておく。また、中には早期に帰属する遺物も含まれている可能性を指摘しておきたい。

第21表　縄文時代草創期石器一覧

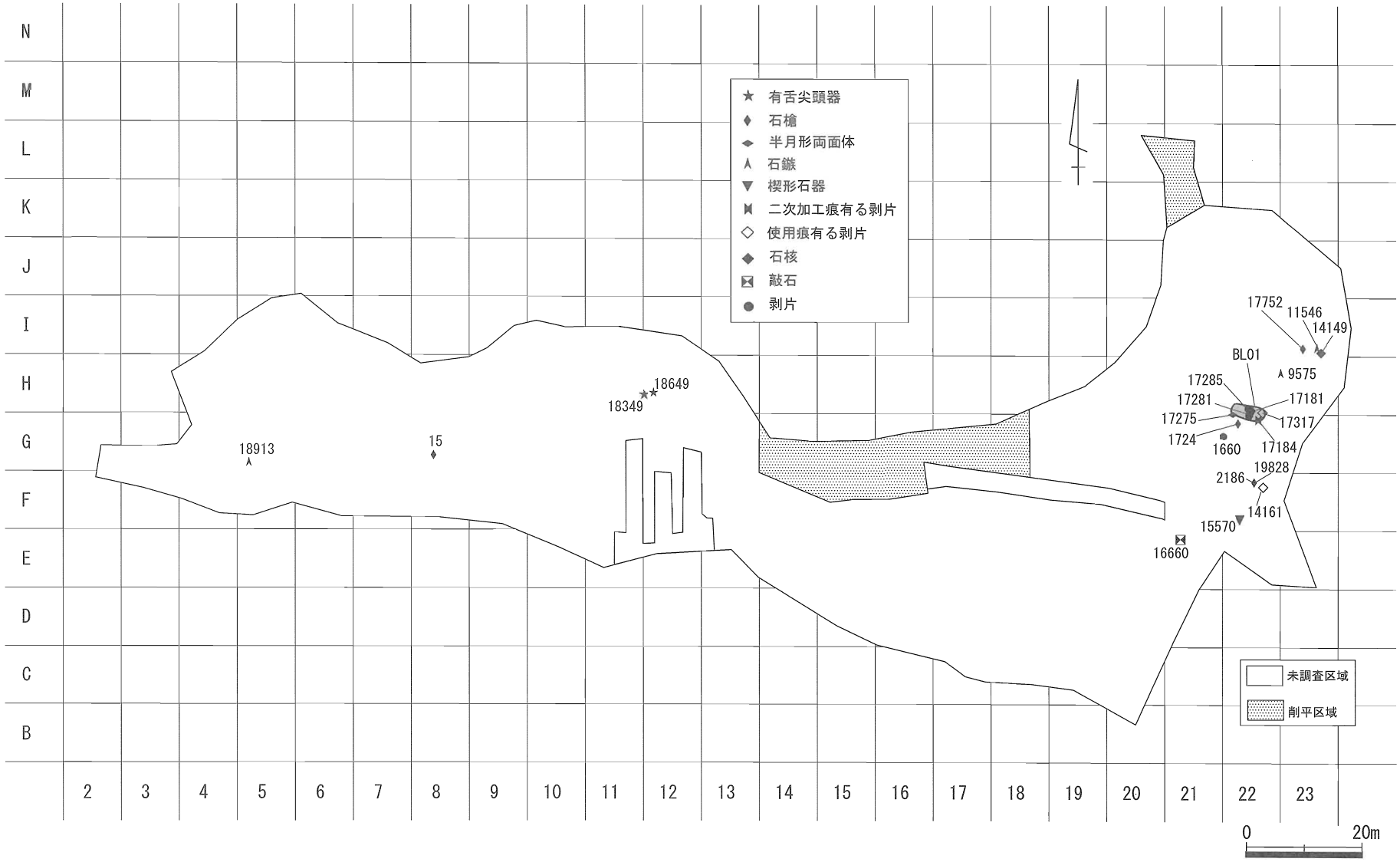
石質		有舌尖頭器	石槍	半月形両面体	石鏃	楔形石器	加工痕のある剥片	使用痕のある剥片	石核	敲石	剥片	
黒曜石(Ob)	神津島恩馳島群(KZOB)		1		1	1					4	7
	天城柏峠(AGKT)							1				1
	諏訪星ヶ台(SWHD)				1							1
	分析不可										3	3
ホルンフェルス(Hor)									1		2	3
ガラス質黒色安山岩(GAn)			3	1								4
チャート(Ch)		1										1
粘板岩(Sl)			2									2
玄武岩(Ba)										1		1
流紋岩(Rhy)					1							1
硬質細粒凝灰岩(HFT)								1				1
軟質細粒凝灰岩(SFT)							1				85	86
合計		1	6	1	3	1	1	2	1	1	94	111

第１節　遺構

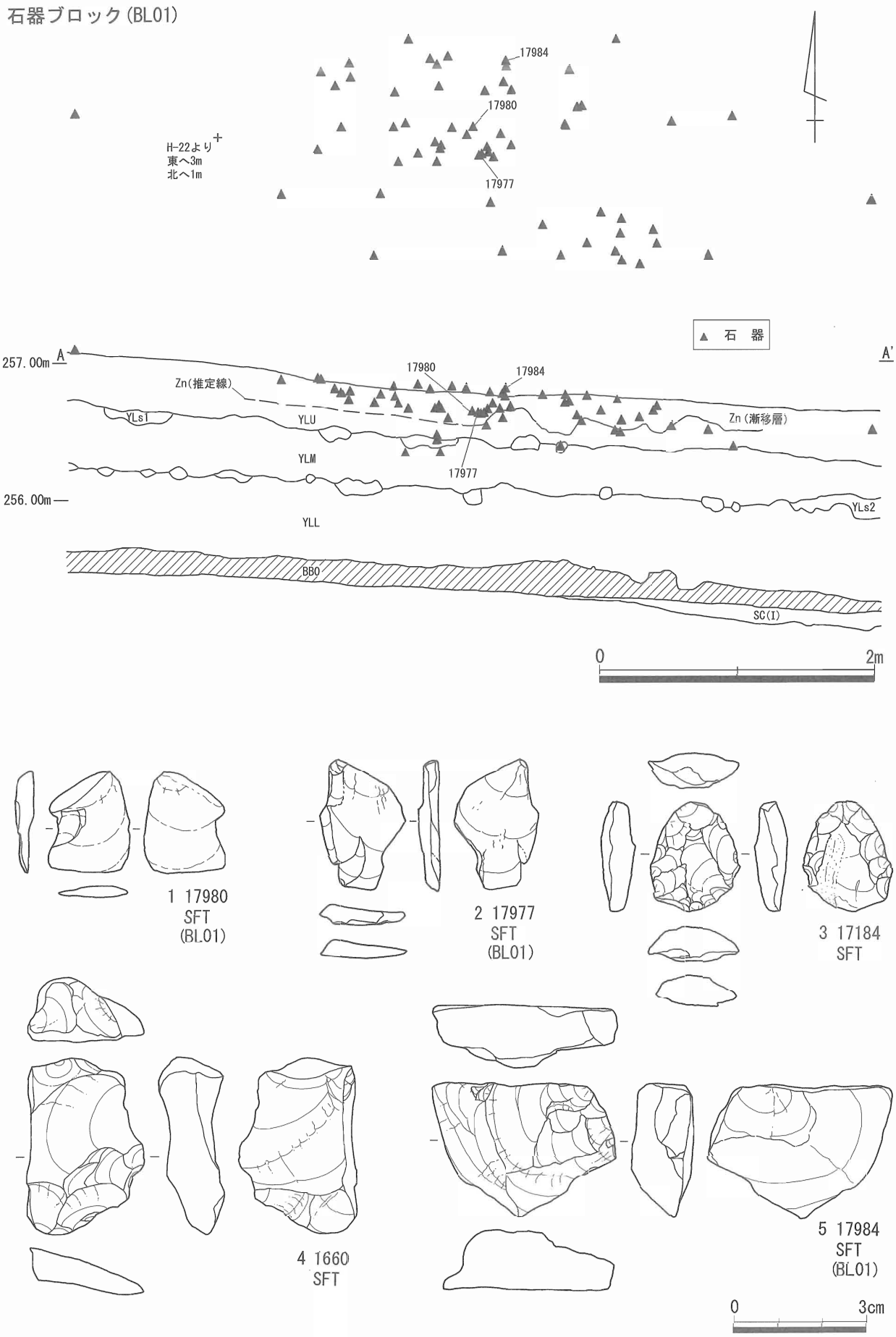
石器ブロック（BL01）

第１号石器ブロックは、調査区東側のH-022グリッド内の南側に位置し、丘陵頂部平坦面に占地する。ブロックの規模は長軸約6.0m、短軸約1.6mで、南北に長い長楕円形の範囲に分布する。出土層位は漸移層から休場層中層に及び、垂直分布は標高256.700m付近を中心に約50cmのレベル差を形成していた。出土層位の中心は漸移層である。確認された石器群は剥片が53点である。石材は52点が軟質細粒凝灰岩、１点がホルンフェルスであった。縄文時代早期末５号住居跡内で同一石材が８点出土していることから、同住居により一部撹乱されている可能性がある。いずれの個体も風化が著しく、接合を試みたが、接合関係は見出せなかった。

なお、石器ブロックの主体となった軟質細粒凝灰岩は、石器ブロック以外でも33点が出土しているが、これらも同一の遺構のものである可能性が高い。この、包含層出土遺物の中には、押圧剥離を有する加工痕のある剥片が１点含まれており、その加工技術を根拠に旧石器時代のものではなく縄文時代草創期のものであると認識した。以下では、石器ブロックに関連する遺物を一括して掲載した。



第23図　縄文時代草創期遺構遺物分布図



第24図　縄文時代草創期石器ブロック及び関連遺物

第２節　遺物

草創期に該当すると思われる遺物は全部で111点であり、その内訳は有舌尖頭器１点、石槍６点、半月形両面体１点、石鏃３点、楔形石器１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片２点、石核１点、敲石１点、剥片94点である。遺物の出土様相は石器ブロック以外は特別に集中部はなく、調査区東側丘陵部にほとんど全てが散漫に分布している。

なお、石材を鑑定した森嶋富士夫によると、ガラス質黒色安山岩は極めて質の良い点などから産地として神奈川県西部の岩海岸や米神海岸といった箱根山東側で産出するガラス質黒色安山岩に類似しており、本遺跡の草創期石器のガラス質黒色安山岩産地としては箱根山麓である可能性が高いと指摘している（前嶋・森嶋2005）。また、有舌尖頭器に使用されているチャートについても、周辺では神奈川県西部の丹沢山系から良質のものが産出しておりそれを使用していると思われる。草創期における石材入手先については箱根山東側・神奈川県西部地域と強い関連があることが予想される。

有舌尖頭器（第25図１）

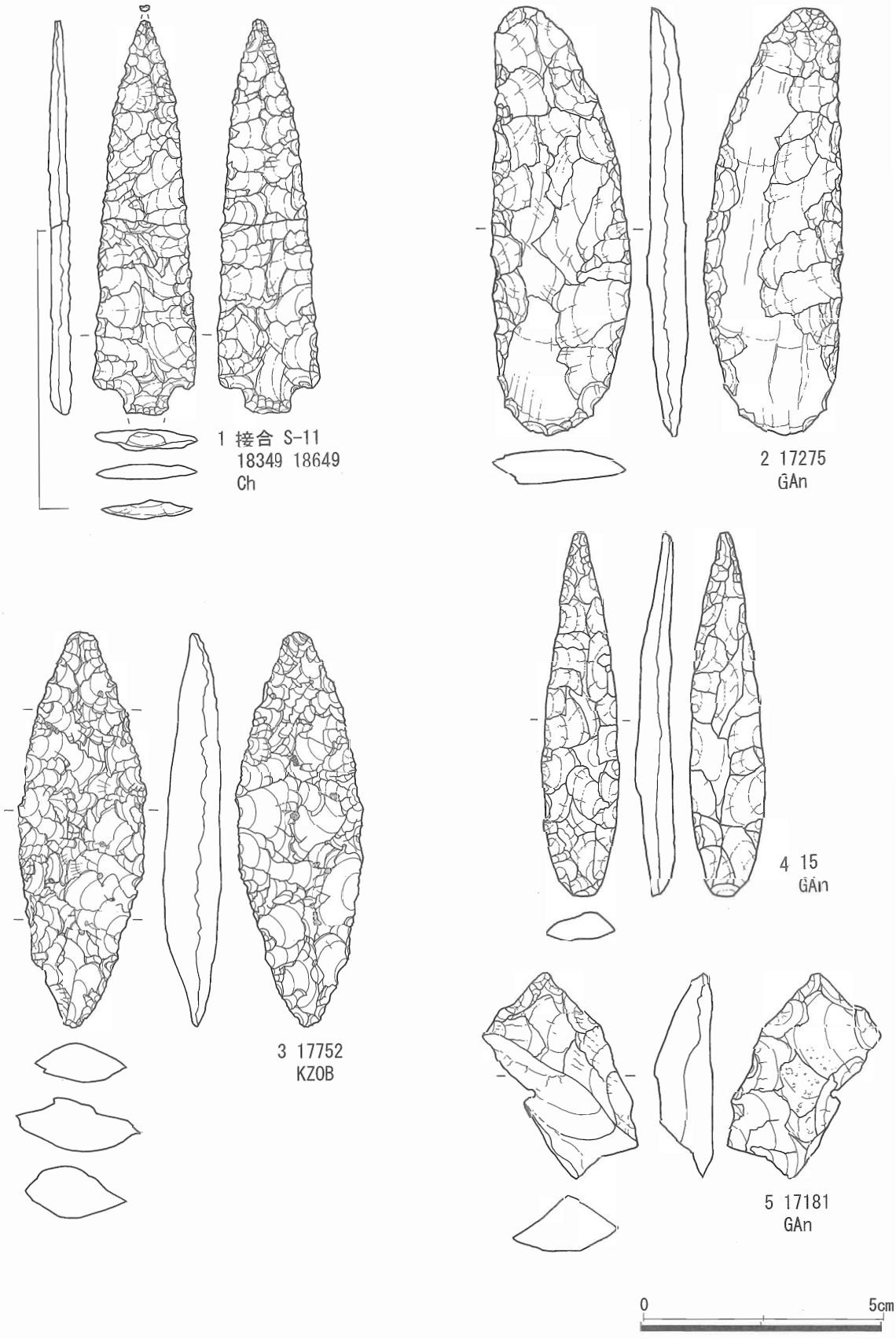
１点出土している。小瀬が沢型有舌尖頭器に類似している。縁辺部より押圧で丁寧に平坦剥離を施しており、裏面は左右両側縁からの調整が中央で揃うようにして稜線を整えている。中央部で裏面側より折れており、先端部側は漸移層より，基部側は仙石スコリア層より出土した。先端部および茎部は欠損している。チャート製。

半月形両面体（第25図２）

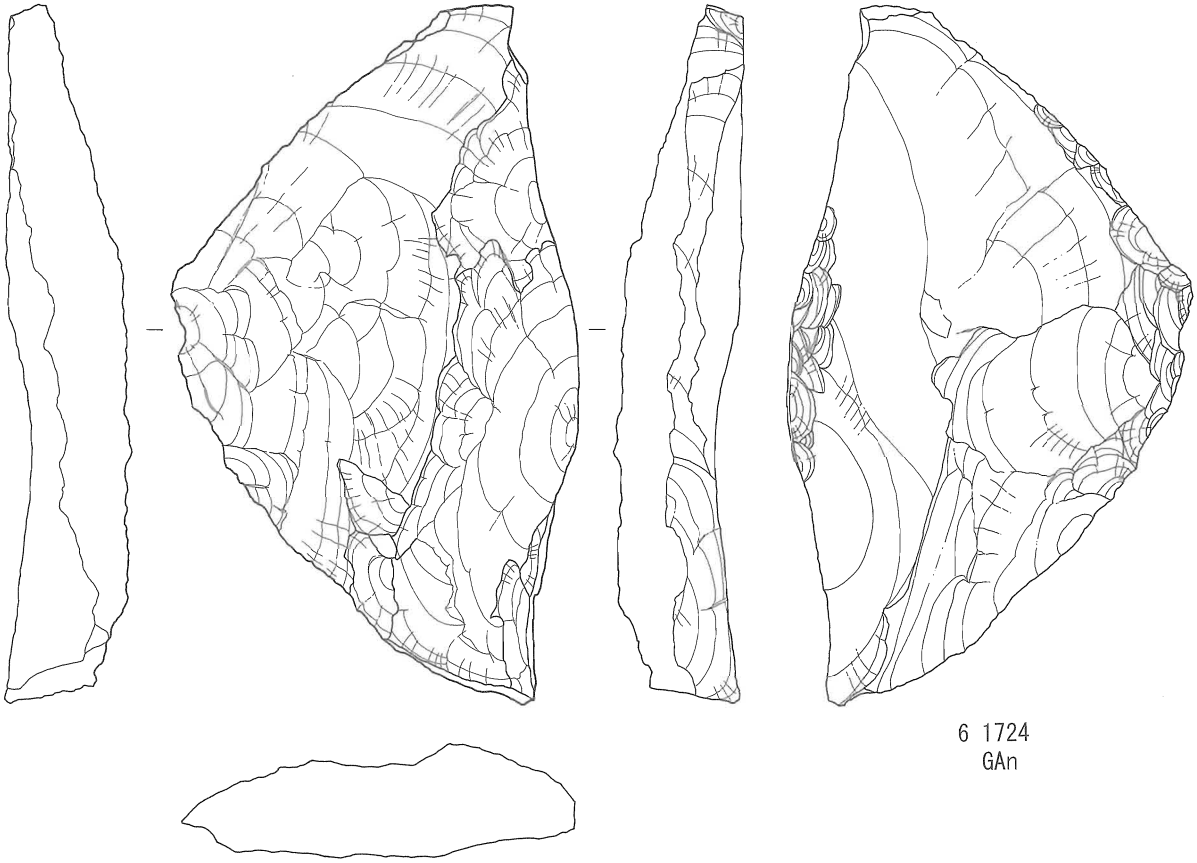
１点出土している。石槍の様でもあるが明確な尖頭部を持たないことから本分類とした。縦長の剥片を素材とし、左側縁は直線的な、右側縁は湾曲した刃部としている。表面は左側縁で周縁部を主として調整し、右側縁で剥片内部まで平坦剥離を施している。一方、裏面は左側縁が周縁部加工、右側縁が奥までの平坦剥離となっており、素材剥片の厚さを利用しながらも断面左側の厚い部分を取り去り平坦な形状を作り出そうとしている。外形はゆるい曲線を描いており、突き刺す用具というより側縁部を刃としたナイフのような用具であった可能性がある。ガラス質黒色安山岩製。

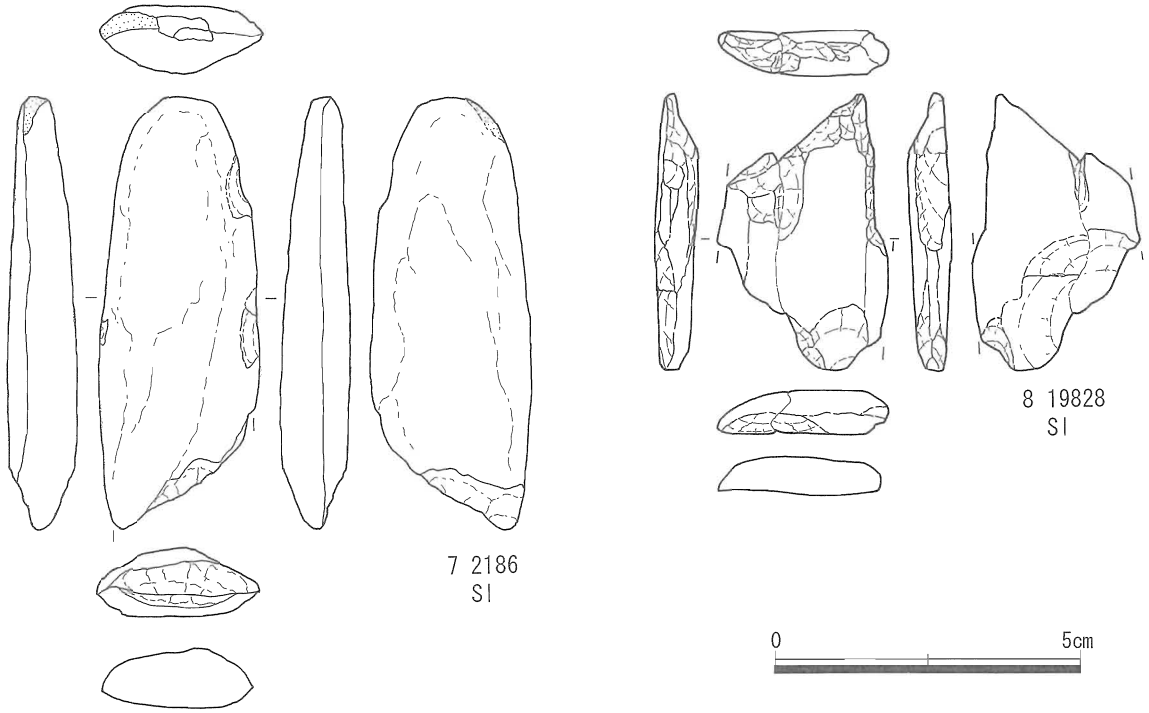
石槍（第25図３～第26図８）

６点出土している。３は表面左側縁部が細部調整なのに対して裏面右側縁部は粗調整であり、正面左側縁部の刃部については裏面側で大方の形状を作り、表面側で刃部を整える作業をしていたことがわかる。反対に表面右側縁部の刃部については表裏で粗調整、細部調整が入れ替わっており、刃部調整の際に裏返しながら稜線をそろえようとしていたと思われる。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。４は主に裏面側の粗調整で大きく形を作り、返して表面側で細部調整を施し形状を整えている。最終的に細かい剥離で先頭部を作出している。ガラス質黒色安山岩製。５は先端部のみの石槍。ガラス質黒色安山岩製。６は石槍の未製品であると思われる。幅広の剥片を素材とし、左側縁を表裏両面から敲打して剥片を薄くしながら刃部として整形している。右面は裏面側より折り取られており、全体に折れ面を残す。表面側右側縁は全体に調整の跡が見られ、裏面側は中央部に集中的に敲打痕があることから右側縁からも剥片を薄く整形しようと試みている。全体的に剥片自体が素材として薄いことと小さいことから作業途中で製作を断念していると考えられる。削器に転用した可能性もある。ガラス質黒色安山岩製。７は周縁部より剥離がなされていることと細長い形状から石槍とした。８は７と隣り合って出土しており、同一固体と思われる。両者は風化が進み、損傷が激しい。ともに粘板岩製。



第25図　縄文時代草創期石器(1)





第26図　縄文時代草創期石器(2)

石鏃（第27図１～３）

縄文時代早期の遺物よりも比較的下層で出土しているもの、あるいは有舌尖頭器のように、鋸歯状に刃部を作出している特徴的な石鏃を草創期の遺物として認定した。３点が該当する。

１は凹基の縦長の石鏃。表面は左右両側縁より丁寧な平行平坦剥離が施され、中央に稜線をあわせている。裏面は表面に比べて左側縁が粗調整、右側縁が細部調整で形状を整えている。刃部は鋸歯状となっている。先端部は検出時における欠損。出土層位は漸移層。流紋岩製。２は脚部欠損の凹基縦長の石鏃である。形状を整えた後、主に正面側への調整で刃部に鋸歯を作出している。黒曜石製、産地は諏訪星ヶ台群。３は鋸歯状で平面形状が正三角形に近い凹基の石鏃。正面側で粗調整の後、裏面側で細部調整を施している。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

楔形石器（第27図４）

休場層上層より１点出土している。不定形剥片を素材としている。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

使用痕のある剥片（第27図５・６）

漸移層より２点出土している。５は幅広の剥片の下部を刃部として使用している。硬質細粒凝灰岩製。６は右側縁に微細剥離が見られることからここを刃部として使用していたと思われる。黒曜石製、産地は天城柏峠群。

石核（第27図７）

漸移層より１点出土している。自然面をそのまま打面として用いており、正面左側縁や裏面などで作業した後、最終的には正面を最終作業面として貝殻状剥片を剥離している。ホルンフェルス製。

敲石（第27図８）

休場層上層より１点出土したものをここに載せた。下面に敲打痕が見られる。全体は赤化しているが、折れ面は赤化、スス付着等の変質は見られない。玄武岩製。

石器ブロック関連遺物

加工痕のある剥片（第24図３）

漸移層より１点出土している。不定形な剥片を素材とし、表裏両面ともに周縁部から押圧剥離と思われる調整が施されている。石鏃の未製品の可能性がある。軟質細粒凝灰岩製。

剥片（第24図１・２・４・５）

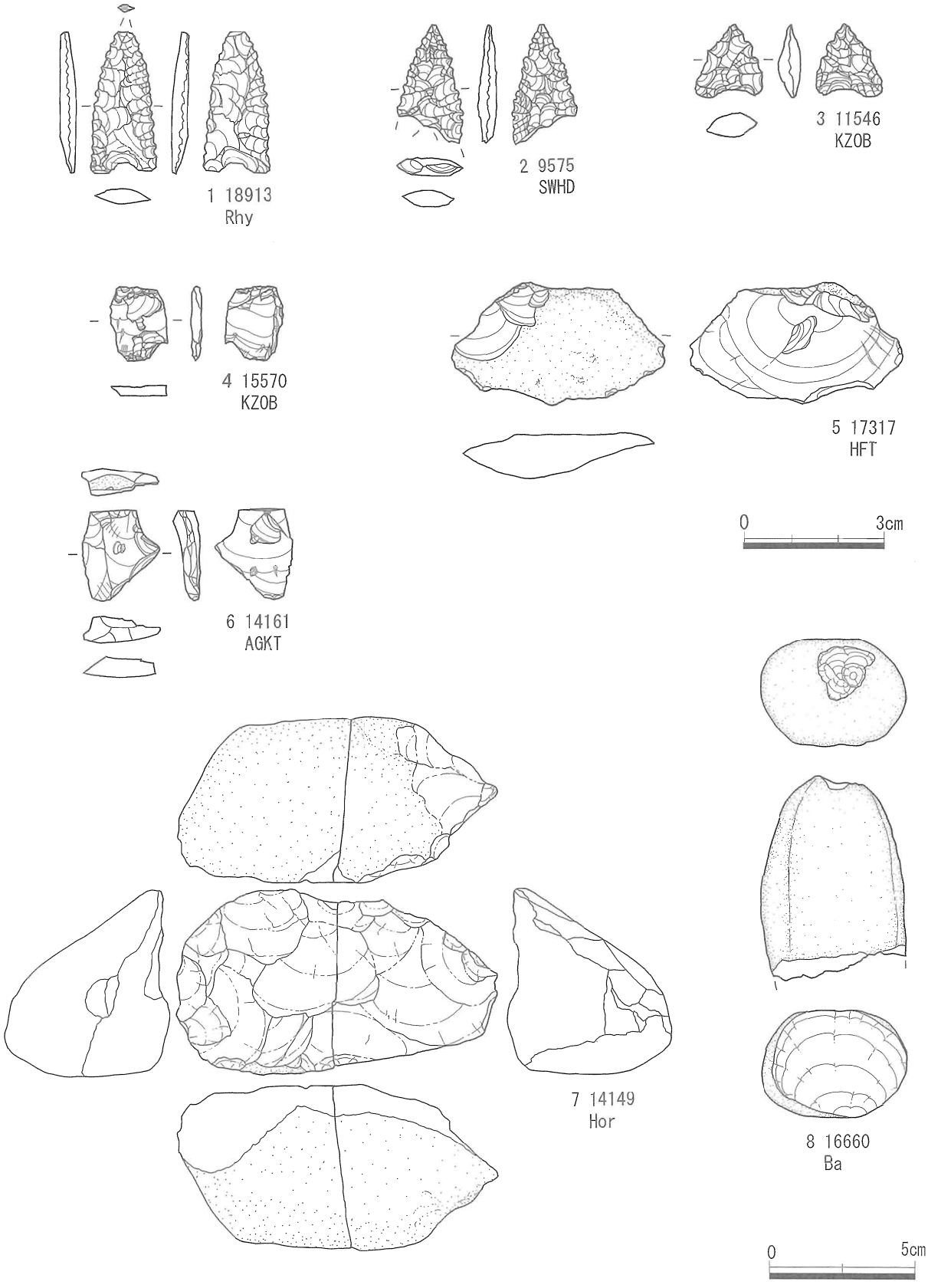
軟質細粒凝灰岩製の剥片の中から、比較的大きく剥離の様子が明瞭なものを４点図化した。剥片の形状は不定形であるが、どちらかといえば幅広のものを意図しているようである。臨機的に剥離を行っている様子がうかがわれる。

《参考文献》

加藤新平・鶴丸俊明1994『図録　石器入門辞典　先土器』柏書房

鈴木道之助1991『図録　石器入門辞典　縄文』柏書房

前嶋秀張・森嶋富士夫2005「ガラス質黒色安山岩の入手先を明らかにする」財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『研究紀要』



第27図　縄文時代草創期石器(3)

第22表　縄文時代草創期石器観察表

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	層位	調査区遺構	石材	産地	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標
第25図 1	18649	有舌尖頭器(先端部)	H-012	ZN	包含層	Ch		S11	5.0	—	—	—	-90126.233	35702.222	254.390
第25図 1	18349	有舌尖頭器(基部)	H-012	SSC	包含層	Ch		S11	3.2	8.3	2.1	0.4	-90126.569	35700.557	255.031
第25図 2	17275	半月形両面体	H-022	ZN	包含層	GAn			24.6	8.9	2.9	0.8	-90129.830	35802.122	257.178
第25図 3	17752	石槍	I-023	ZN	包含層	Ob	KZOB		21.3	8.3	2.7	1.2	-90118.595	35814.189	256.677
第25図 4	15	石槍	G-008	YLU	包含層	GAn			9.1	7.6	1.6	0.8	-90137.068	35664.384	259.168
第25図 5	17181	石槍	H-022	ZN	包含層	GAn			9.8	2.2	4.1	1.2	-90129.230	35805.447	256.830
第26図 6	1724	石槍	G-022	AN～FB	包含層	GAn			127.1	1.2	0.7	0.2	-90131.328	35802.995	257.443
第26図 7	2186	石槍	F-022	AN～FB	包含層	Sl			22.2	7.1	2.7	1.2	-90141.562	35805.705	256.514
第26図 8	19828	石槍	F-022	AN～FB	包含層	Sl			8.0	4.6	2.8	0.7	-90141.562	35805.705	256.514
第27図 1	18913	石鏃	G-005	ZN	包含層	Rhy			1.5	3.0	1.4	0.4	-90138.289	35632.648	259.084
第27図 2	9575	石鏃	H-023	AN～FB	包含層	Ob	SWHD		1.0	2.5	1.4	0.4	-90122.699	35810.313	257.168
第27図 3	11546	石鏃	I-023	AN～FB	包含層	Ob	KZOB		0.8	1.6	1.4	0.5	-90118.443	35816.536	256.821
第27図 4	15570	楔形石器	F-022	YLU	包含層	Ob	KZOB		0.5	1.6	1.2	0.2	-90147.949	35803.217	255.841
第27図 5	17317	使用痕のある剥片	H-022	ZN	包含層	HFT			10.1	3.1	3.8	1.1	-90129.502	35807.106	256.719
第27図 6	14161	使用痕のある剥片	F-022	ZN	包含層	Ob	AGKT		1.1	1.9	1.6	0.6	-90142.370	35807.270	256.312
第27図 7	14149	石核	I-023	ZN	包含層	Hor			410.5	7.4	10.9	5.5	-90119.276	35817.233	256.575
第27図 8	16660	敲石	E-021	YLU	包含層	Ba			180.0	6.8	5.1	4.1	-90151.366	35793.021	254.101
第24図 3	17184	加工痕のある剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			2.5	2.6	2.0	0.8	-90130.729	35806.407	256.745
第24図 1	17980	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			1.1	2.5	2.2	0.4	-90128.940	35804.844	256.659
第24図 2	17977	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			1.5	3.0	1.8	0.3	-90129.148	35804.887	256.650
第24図 4	1660	剥片	G-022	AN～FB	包含層	SFT			8.8	2.7	4.0	0.2	-90133.531	35800.507	257.518
第24図 5	17984	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			13.3	4.6	3.2	1.4	-90128.459	35805.082	256.767
	17281	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.2	1.8	0.7	0.3	-90129.849	35805.061	256.785
	17285	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			1.3	1.8	1.9	0.6	-90128.998	35804.799	256.826
	17802	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			5.4	3.1	1.5	1.3	-90129.789	35805.680	256.769
	17803	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90129.491	35804.972	256.797
	17804	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	0.8	0.5	0.1	-90129.133	35804.445	256.849
	17805	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90128.946	35804.691	256.836
	17806	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90128.497	35805.085	256.824
	17942	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.2	1.0	0.5	0.5	-90128.641	35804.597	256.699
	17943	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			1.2	2.1	1.5	0.5	-90129.193	35804.301	256.715
	17944	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.7	1.4	0.9	0.4	-90128.844	35801.949	257.110
	17945	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1	0.7	0.4	0.2	-90128.442	35804.533	256.815
	17946	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	0.4	0.7	0.2	-90128.941	35804.266	256.838
	17947	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.4	1.9	0.1	0.2	-90128.684	35804.275	256.766
	17948	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	0.1	0.6	0.2	-90129.429	35804.170	256.782
	17954	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	0.8	0.6	0.2	-90129.051	35804.569	256.679
	17955	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90129.074	35804.613	256.676
	17956	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.2	1.4	0.7	0.2	-90129.882	35804.125	256.721
	17957	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.3	1.8	0.9	0.3	-90129.434	35803.453	256.885
	17958	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90129.103	35803.717	256.897
	17959	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	0.6	0.8	0.3	-90128.939	35803.884	256.791
	17960	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90128.538	35803.740	256.889
	17961	剥片	H-022	ZN	BL01	Hor			0.2	1.1	1.0	0.2	-90128.639	35803.841	256.819
	17962	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90128.577	35803.949	256.804
	17963	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	1.0	0.5	0.4	-90128.474	35803.940	256.741
	17972	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			8.5	2.8	3.7	1.3	-90128.852	35806.738	256.401
	17973	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			0.7	2.2	1.1	0.5	-90128.909	35806.297	256.548
	17974	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90128.796	35805.607	256.628
	17975	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90128.425	35804.662	256.606
	17976	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90129.193	35804.582	256.486
	17978	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.8	2.4	1.3	0.5	-90129.160	35804.992	256.716
	17979	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			15.0	4.2	1.6	1.6	-90129.126	35804.955	256.675
	17981	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			2.8	2.2	3.4	0.9	-90128.992	35805.044	256.679
	17982	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90129.074	35805.121	256.695
	17983	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90128.303	35804.375	256.676
	17985	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.3	1.5	1.2	0.3	-90128.675	35804.930	256.649
	17986	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			4.5	3.3	1.9	1.4	-90128.670	35805.123	256.688
	17987	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1	0.9	0.4	0.0	-90128.936	35805.524	256.776
	17988	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			6.8	3.4	2.6	0.9	-90128.526	35805.551	256.728
	17990	剥片	H-022	YLM	BL01	SFT			<0.1				-90128.913	35804.354	256.355
	17991	剥片	H-022	YLM	BL01	SFT			0.3	1.7	1.0	0.3	-90129.099	35804.606	256.358

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	層位	調査区遺構	石材	産地	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標
	17992	剥片	H-022	YLM	BL01	SFT			0.1	0.9	0.5	0.2	-90128.484	35804.583	256.452
	17993	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			6.0	2.6	3.1	1.2	-90129.486	35807.756	256.525
	17997	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			10.4	3.7	2.6	1.3	-90129.795	35806.187	256.695
	17998	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			<0.1				-90129.657	35805.359	256.776
	17999	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.4	1.4	0.8	0.6	-90129.915	35805.930	256.595
	18000	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.2				-90129.613	35805.930	256.589
	18001	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.1	1.0	0.8	0.3	-90129.567	35805.781	256.663
	18002	剥片	H-022	YLM	BL01	SFT			0.1	0.7	0.6	0.2	-90129.880	35805.487	256.401
	18003	剥片	H-022	YLM	BL01	SFT			0.1				-90129.881	35806.558	256.519
	18004	剥片	H-022	ZN	BL01	SFT			0.6	0.5	0.2	0.4	-90129.942	35806.060	256.614
	18046	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			0.9	1.9	1.7	0.5	-90129.138	35804.907	256.642
	18047	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90128.611	35805.065	256.610
	18048	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90128.787	35805.639	256.587
	18049	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90128.922	35805.520	256.720
	18050	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			0.1				-90129.694	35806.161	256.661
	18051	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90129.850	35805.884	256.518
	18052	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90129.720	35805.922	256.504
	18054	剥片	H-022	YLU	BL01	SFT			<0.1				-90129.087	35804.946	256.557
	15155	剥片	H-022	覆土	SB03	SFT			1.5	2.3	2.3	0.4	-90128.790	35804.620	257.027
	15660	剥片	H-022	床面	SB03	SFT			0.6	1.5	1.2	0.4	-90129.879	35804.900	256.875
	15661	剥片	H-022	床面	SB03	SFT			0.6	1.8	1.4	0.4	-90129.062	35805.103	256.912
	15752	剥片	G-022	覆土	SB03	SFT			<0.1				-90130.354	35805.006	256.983
	16755	剥片	H-022	床面	SB03	SFT			1.9	2.2	1.5	0.8	-90128.979	35805.196	256.888
	17039	剥片	H-022	床面	SB03	SFT			0.1				-90128.983	35805.251	256.888
	17134	剥片	G-022	床面	SB03	SFT			9.0	3.2	3.6	1.0	-90130.216	35805.090	256.841
	19826	剥片	H-022	覆土	SB03	SFT			<0.1				-90129.320	35804.307	257.116
	2462	剥片	G-022	AN～FB	包含層	SFT			1.9	2.0	1.0	0.4	-90130.225	35806.483	257.272
	7186	剥片	H-022	AN～FB	包含層	SFT			2.0	2.7	1.8	0.6	-90126.557	35808.156	257.290
	10702	剥片	G-023	YL	包含層	Ob	測定不可		<0.1	0.5	0.6	0.1	-90132.461	35813.295	256.411
	10703	剥片	G-023	YL	包含層	Ob	測定不可		<0.1				-90132.645	35813.361	256.411
	12069	剥片	G-022	AN～FB	包含層	SFT			2.5	2.9	1.2	0.9	-90131.429	35809.794	256.824
	12969	剥片	H-022	AN～FB	包含層	SFT			0.2				-90129.421	35804.699	257.211
	14177	剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			6.3	3.9	1.6	1.2	-90131.733	35802.382	257.158
	15571	剥片	F-022	YLU	包含層	Ob	推定不可		1.3	1.9	1.3	0.7	-90148.623	35802.105	255.584
	15618	剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			4.5	3.8	1.8	0.8	-90130.639	35805.892	256.369
	15848	剥片	H-022	ZN	包含層	SFT			0.3	1.2	0.8	0.3	-90129.543	35807.226	256.913
	16756	剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			0.4	1.7	0.7	0.7	-90130.647	35805.878	256.364
	16953	剥片	H-022	ZN	包含層	SFT			2.6	4.4	1.4	0.7	-90128.892	35805.963	257.326
	17180	剥片	H-022	ZN	包含層	SFT			0.5	1.3	0.9	0.6	-90129.203	35805.542	256.359
	17185	剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			0.3	1.2	1.0	0.7	-90131.008	35806.635	256.804
	17280	剥片	H-022	ZN	包含層	SFT			0.3	1.2	0.9	0.3	-90129.157	35805.084	256.831
	17297	剥片	H-022	ZN	包含層	SFT			0.4	2.2	0.8	0.2	-90128.594	35802.998	257.075
	17753	剥片	G-022	ZN	包含層	SFT			1.7	2.5	1.6	0.7	-90131.327	35805.726	256.698
	17905	剥片	G-023	ZN	包含層	SFT			0.8	1.6	0.5	0.5	-90134.074	35811.166	256.079
	17965	剥片	F-022	YLU	包含層	Ob	KZOB		0.5	1.2	1.2	0.4	-90143.495	35803.560	256.075
	17994	剥片	H-022	YLU	包含層	SFT			1.0	1.7	1.3	0.5	-90128.459	35801.715	256.826
	17995	剥片	H-022	YLU	包含層	Ob	KZOB		0.1	0.9	0.8	0.2	-90128.034	35801.124	257.052
	18025	剥片	H-022	YLU	包含層	Ob	KZOB		0.1	0.9	0.6	0.2	-90121.207	35809.846	256.753
	18027	剥片	I-022	YLU	包含層	Hor			0.1				-90111.994	35809.271	256.916
	19362	剥片	G-022	YLU	包含層	Ob	KZOB		0.3	1.1	1.0	0.4	-90138.167	35801.712	256.792

第23表　縄文時代草創期礫計測表

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス	X座標	Y座標	Z座標
15663	E-020	YLU	包含層	An(py)		50.0	49.0	41.0	21.0	亜角	A			-90152.011	35786.275	252.789
16566	D-020	YLU	包含層	VBa		110.0	65.0	50.0	41.0	亜円	C	C		-90163.323	35784.089	249.508
18038	G-022	YLU	包含層	VBa		280.0	92.0	78.0	44.0	亜角	C	C		-90139.752	35803.658	255.926

第５章　縄文時代早期の遺構と遺物

第１節　遺構

概要

検出した遺構は、竪穴住居跡６基、竪穴状遺構３基、土坑28基（うち陥穴と推定されるもの９基）、集石遺構14基（うち土坑を伴うもの１基）、焼土跡５基、石器ブロック１基である。竪穴住居跡は調査区東側丘陵頂部平坦面の東寄りを中心に占地する（第28図～31図）が、その他の遺構は崩落している南東側緩斜面地を除いて全域に認められる。一部に、他の時期と判断することもできる遺構を含むが、ほとんどの遺構が早期末葉の時期に該当すると思われる。紙幅の関係上、一括して本章にまとめた。

本節では、遺構図に合わせて遺構内出土遺物も掲載しているが、その掲載基準等について以下で説明する。

土器：出土量が膨大なため、残存最大長が３cmに満たない小破片のうち、文様要素が明確でないものに関しては割愛した。土器に関しては、同じ遺物番号を持っていながら、本節で掲載した図面と次節で掲載した図面とが異なるものがある。これは、本節で掲載される図面があくまでも同一遺構内で出土、接合した状態に限定して作成されており、一方、次節（遺物編）で掲載される図面には遺構内、遺構外を問わずその土器が最も接合した状態で作成されているからである。本節の末尾には、遺構編出土土器の遺物編掲載図面との対応表を付してあるのでご参照いただきたい。

石器：製品に関しては、遺構内で出土のものはすべて図面を掲載している。またそれらの遺物は、次節遺物編でも器種別にすべて掲載されている。

１．竪穴住居跡（第32～51図）

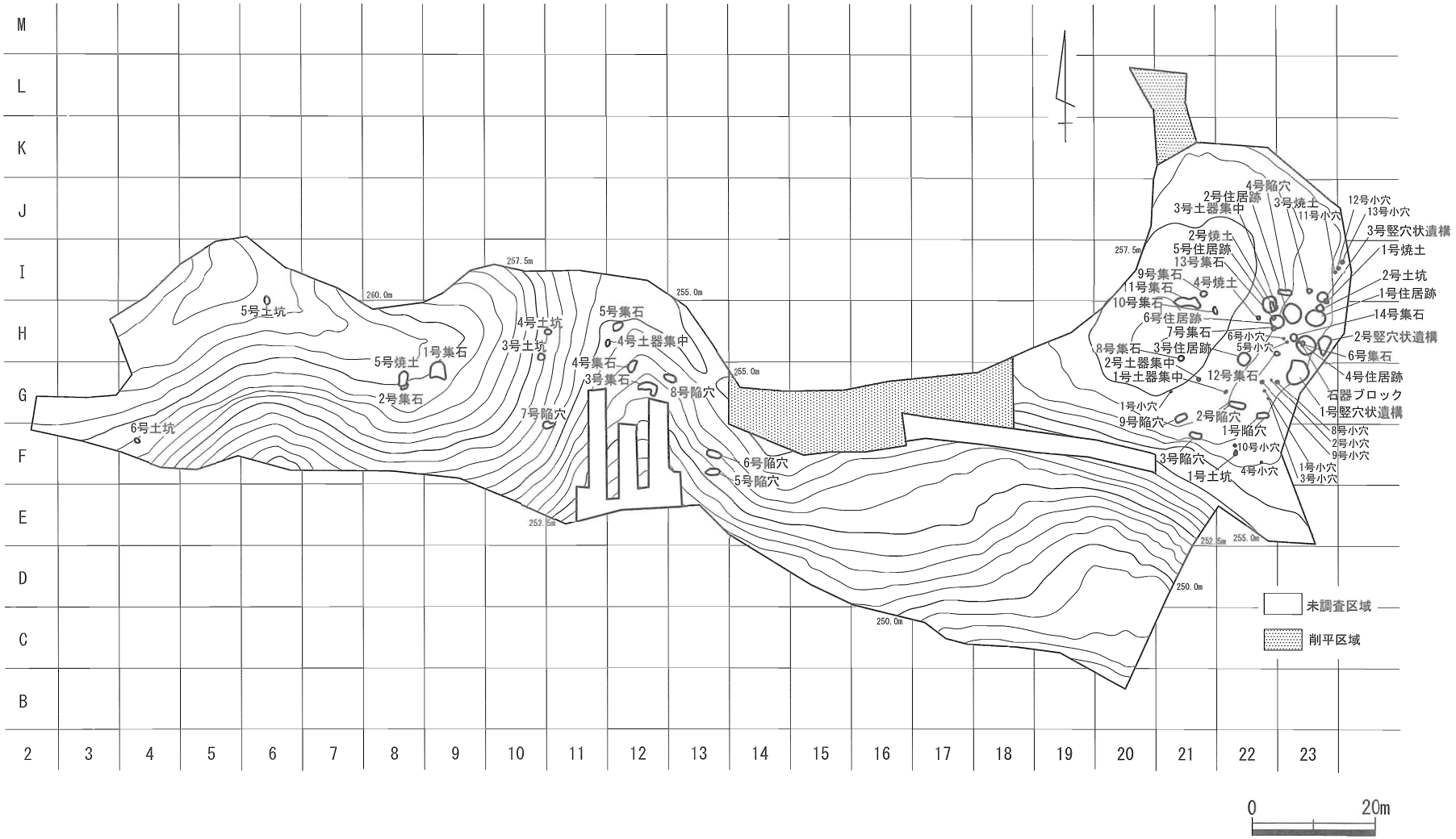
竪穴住居跡は計６基検出した。すべて調査区東側丘陵部に占地しており、出土土器から縄文時代早期末葉に位置づけられるものと考えられる。覆土は標準土層第５・６層（AN～FB相当層）を主体とし、標準土層第７層（Zn層）を掘り込む形で検出された。愛鷹山東南麓、梅の木沢川以北に位置する本遺跡では埋没腐植土の発色が悪く、平面プランの検出は困難を極めた。そのため平面的に土色が僅かに暗く、しかも炭化物や焼土粒子、土器片などの遺物が集中する箇所を住居跡と想定し、調査を進めた。遺構検出は土層観察用ベルトを設定し、それに沿ってサブトレンチを入れ床面および壁面立ち上がりを確認したうえで順次掘り下げるという方法を採った。

なお住居跡で検出された柱穴については、住居覆土最下層と若干土質の違うもののみ、セクション図に反映させて注記した。特に柱穴について注記の無いものは検出した柱穴直上の土層と同じである。

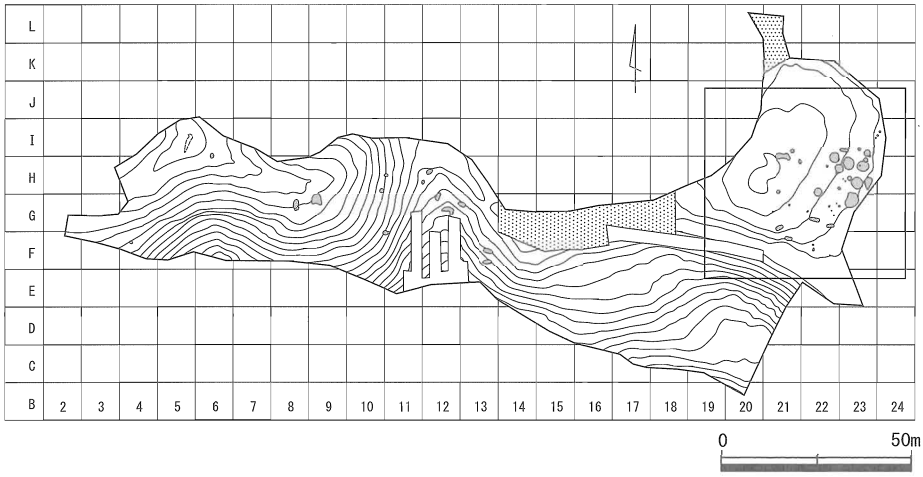
(1)　１号住居跡（SB01）（第32～35図）

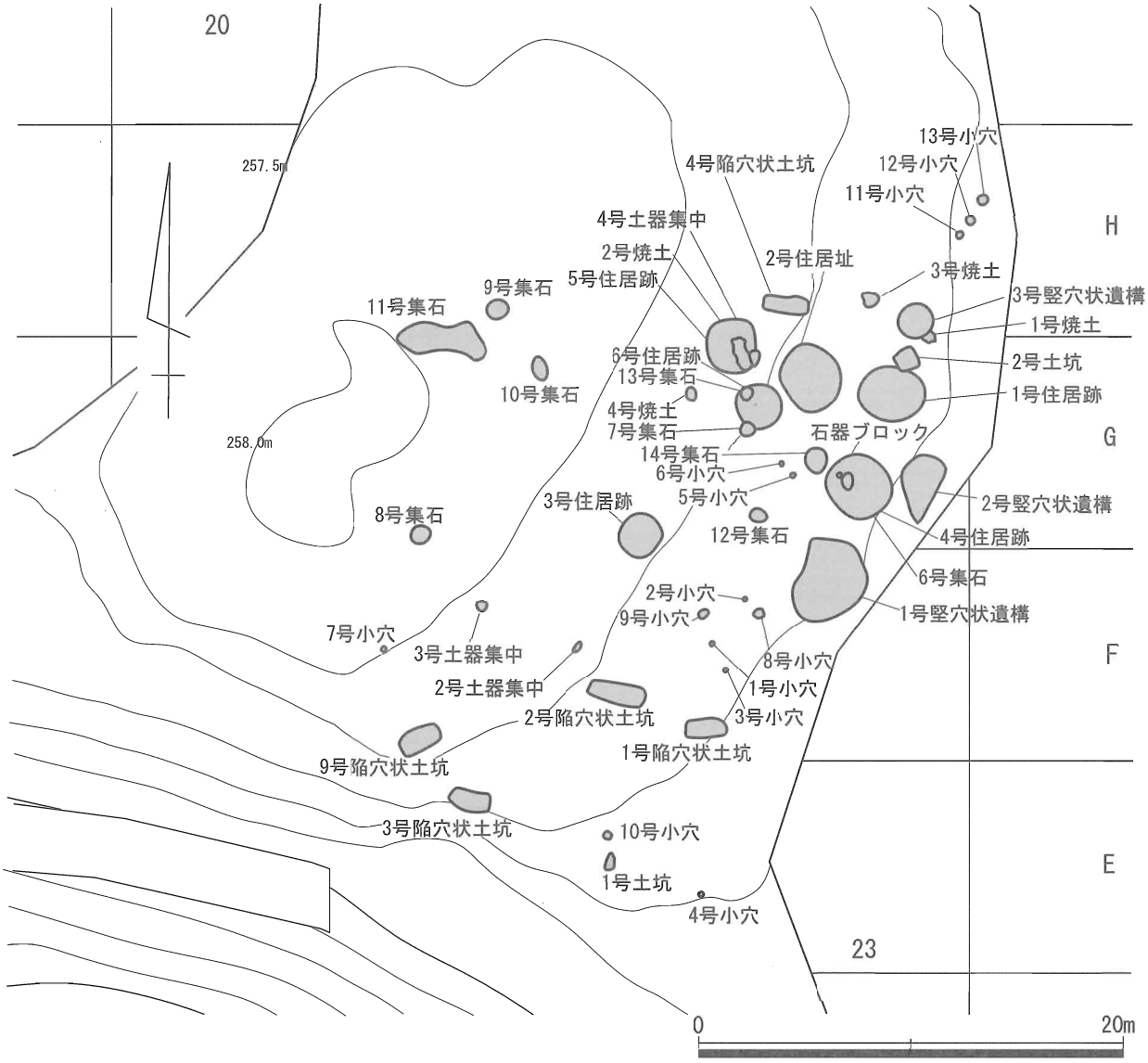
１号住居跡は調査区東側のH-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の南東側に占地する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.80mである。住居跡の平面形態は長軸を東西とする楕円形を呈し、長軸3.00m、短軸2.58mを測る。残存する壁の高さは最高36cmで、地形的に標高の高い西側が高く、東側に向かって次第に低くなる。床面は全体的に軟弱で、地形に沿って北東側へ傾斜する。柱穴は壁を廻るように７本検出された。径20cm、深さ20cmを測る。住居跡覆土は３層に分けられ焼土粒子や炭化物を含む。

炉跡は住居跡のほぼ中央で検出された。平面形態はほぼ楕円形を呈し、径50cm、深さ10cmを測る。断面皿状の地床炉である。焼土粒子は少ないが、微粒の炭化物が多い。焼土はそれほど発達していない。

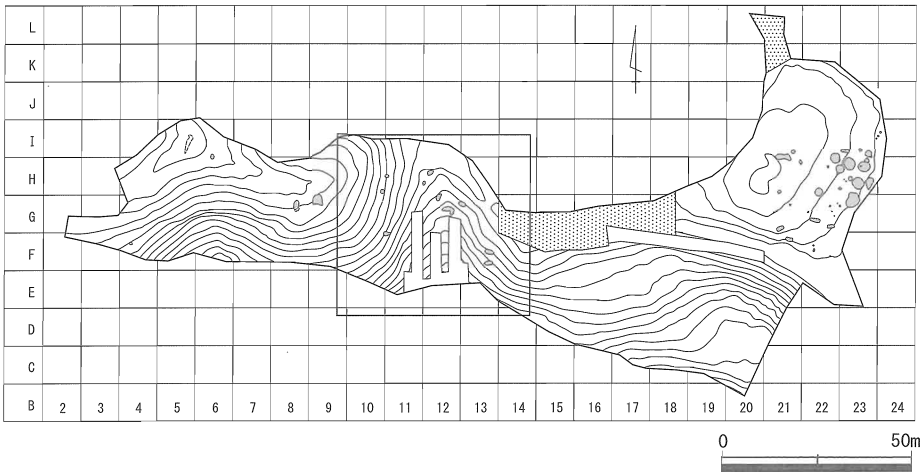


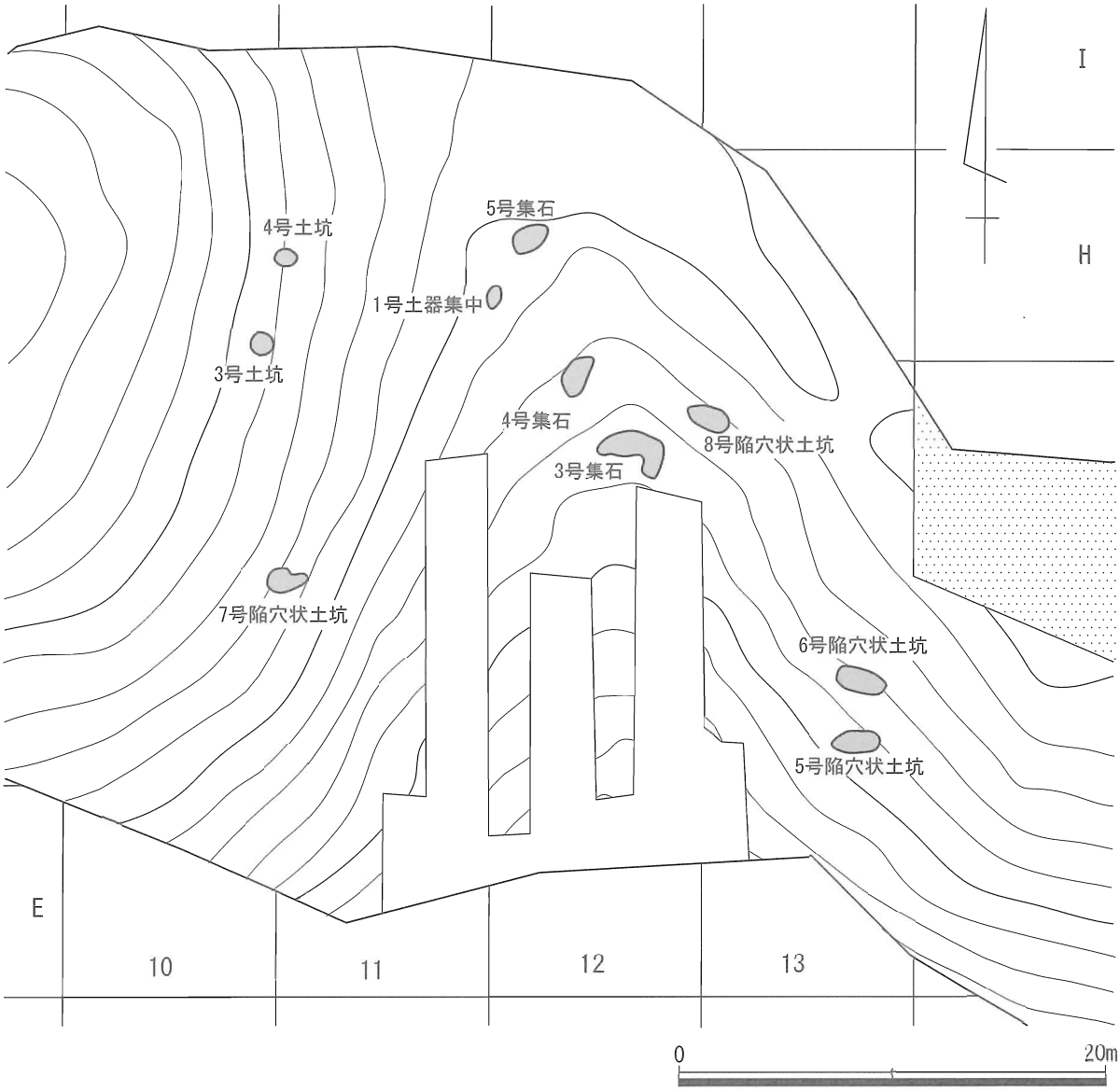
第28図　縄文時代遺構全体図



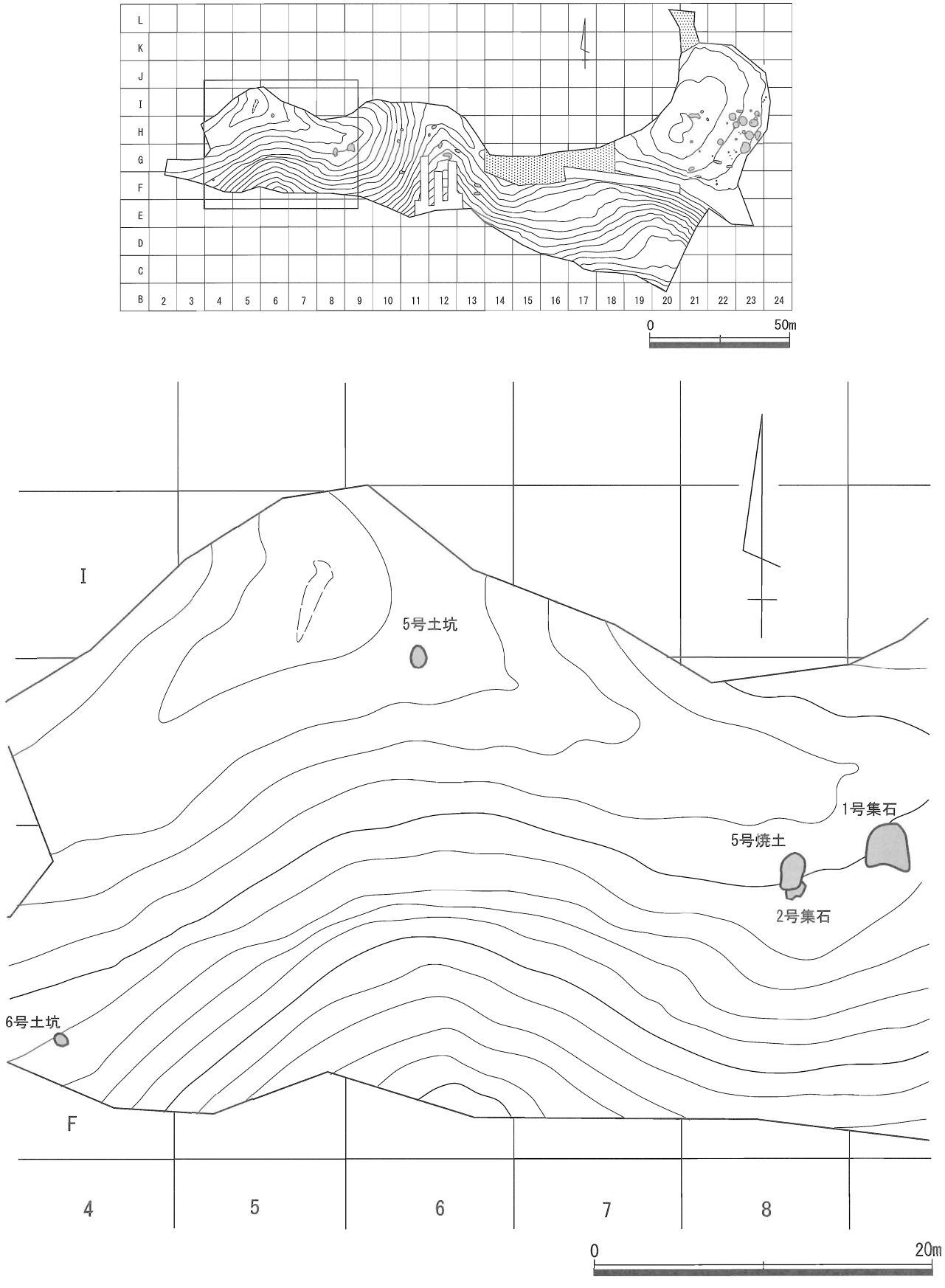


第29図　縄文時代遺構配置図－1



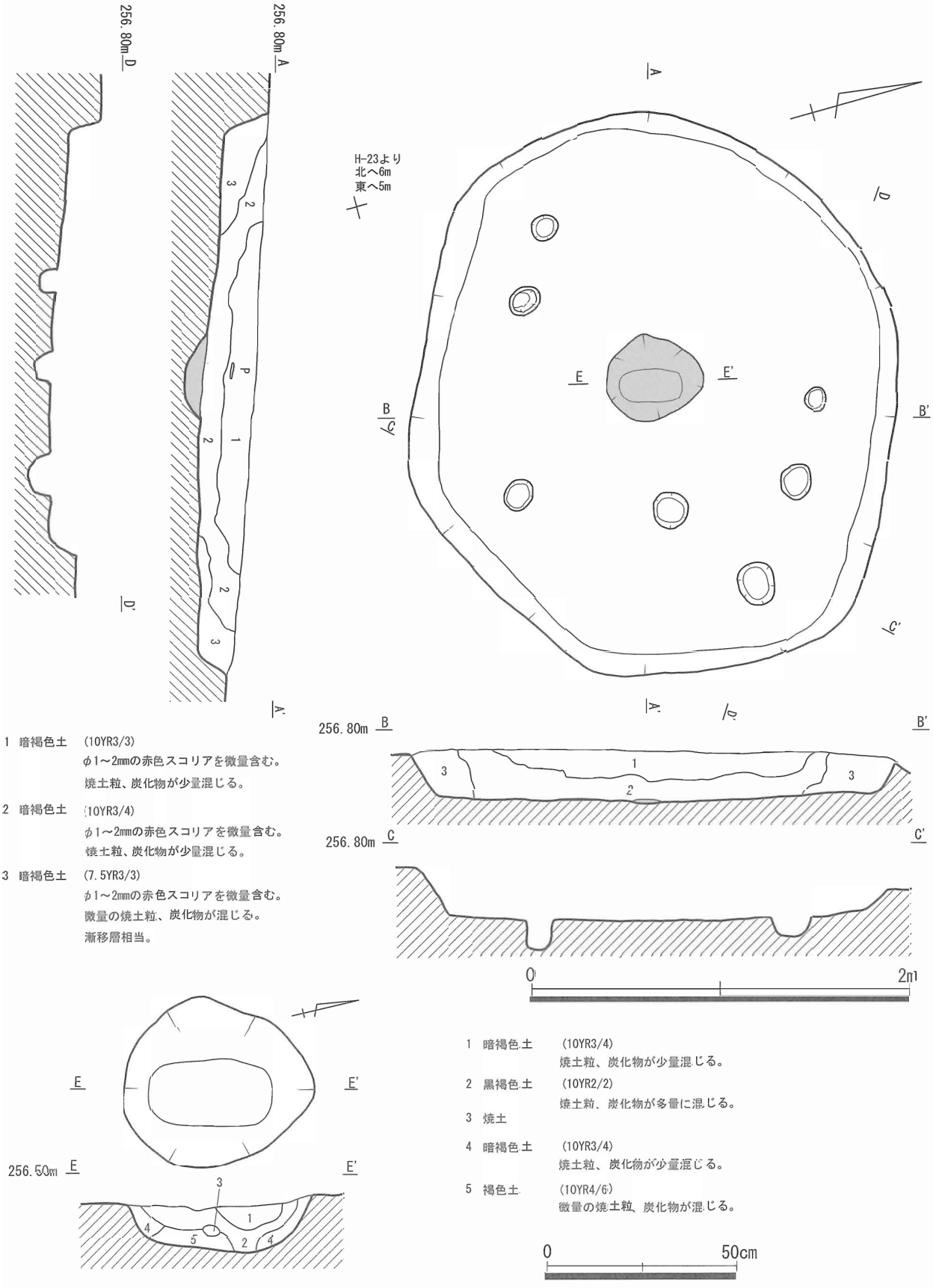


第30図　縄文時代遺構配置図－２



第31図　縄文時代遺構配置図－３

１号住居跡(SB01)



1　暗褐色土　(10YR3/3)
φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。
焼土粒、炭化物が少量混じる。

2　暗褐色土　(10YR3/4)
φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。
焼土粒、炭化物が少量混じる。

3　暗褐色土　(7.5YR3/3)
φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。
微量の焼土粒、炭化物が混じる。
漸移層相当。

1　暗褐色土　(10YR3/4)
焼土粒、炭化物が少量混じる。

2　黒褐色土　(10YR2/2)
焼土粒、炭化物が多量に混じる。

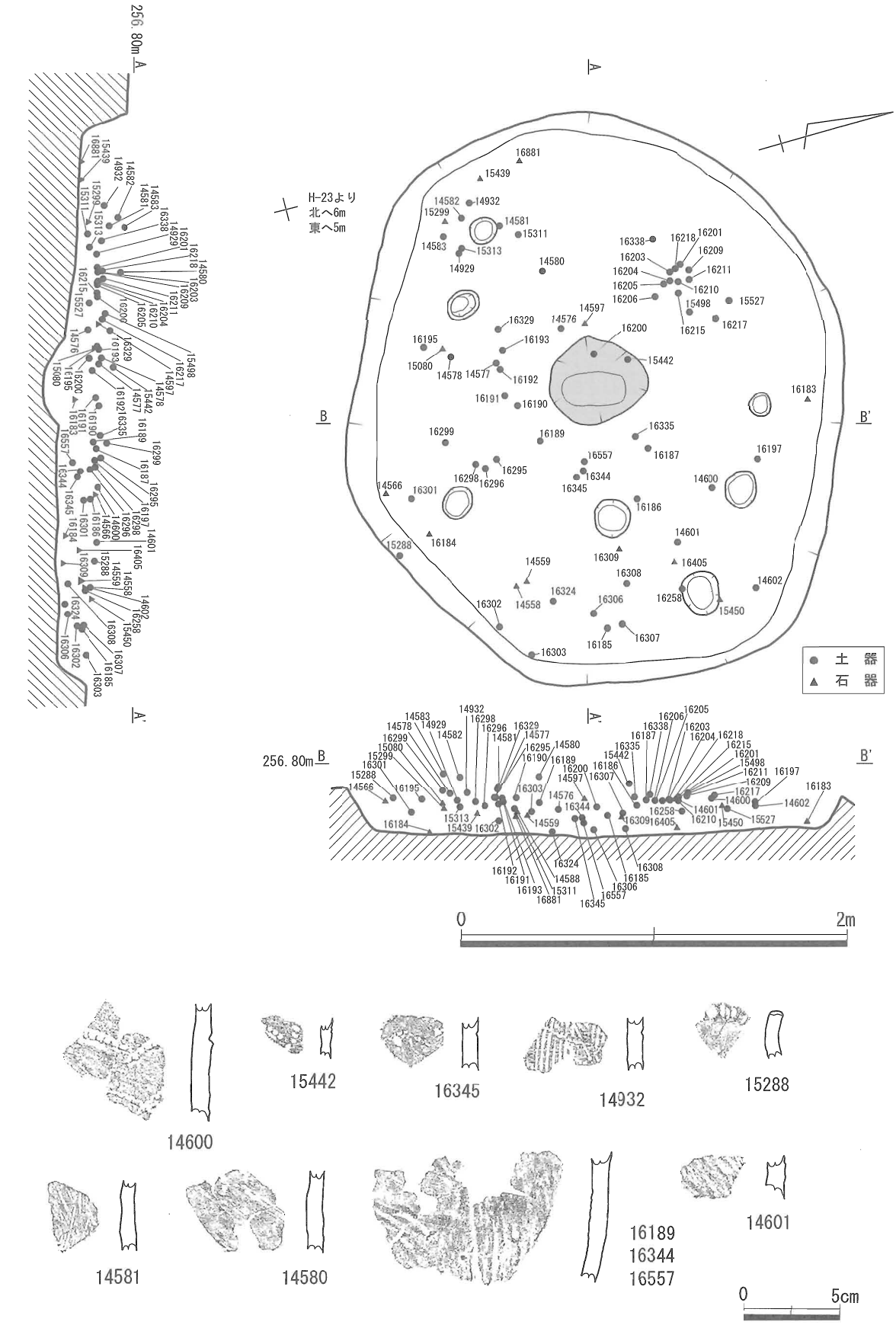
3　焼土

4　暗褐色土　(10YR3/4)
焼土粒、炭化物が少量混じる。

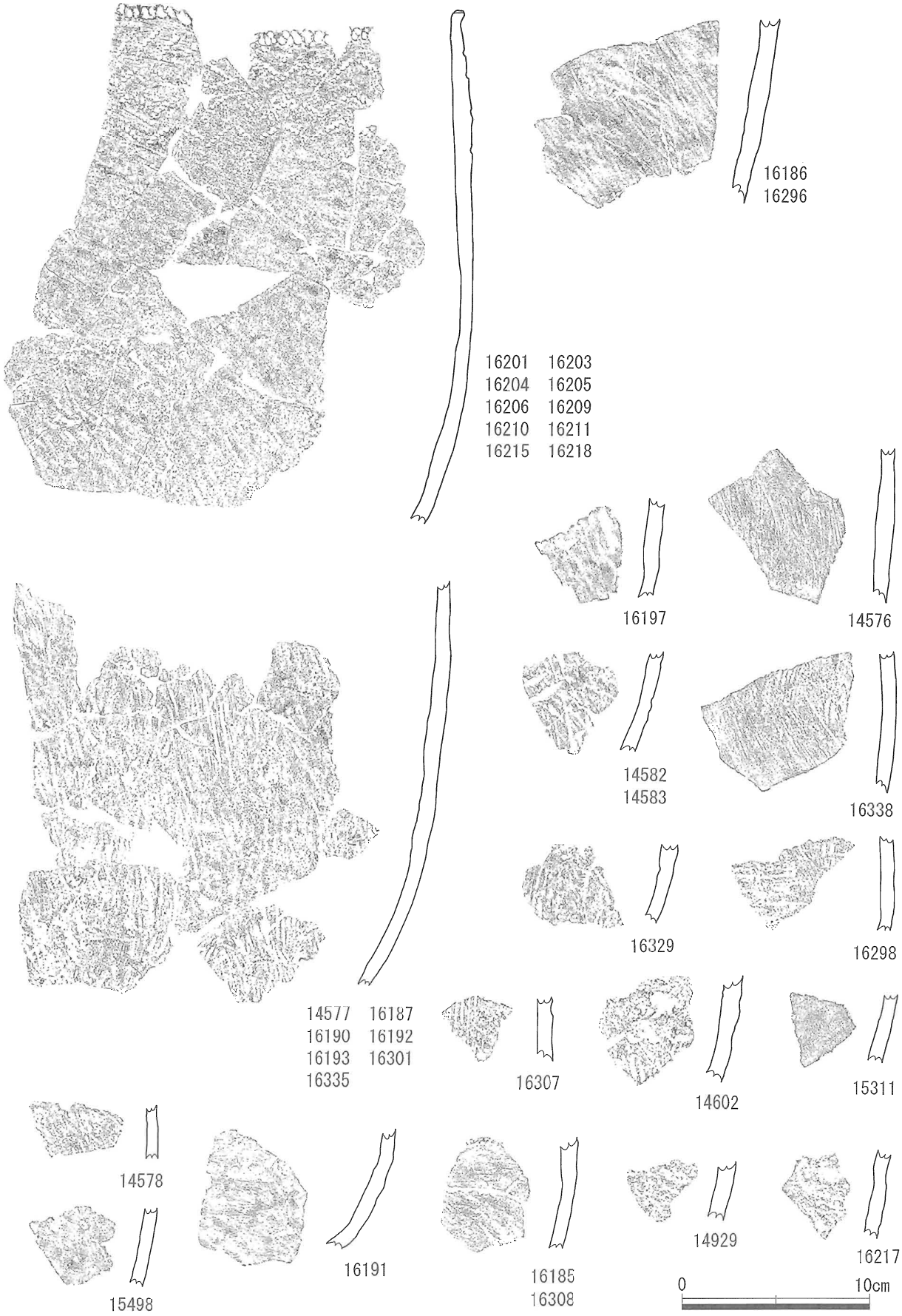
5　褐色土　(10YR4/6)
微量の焼土粒、炭化物が混じる。

第32図　１号住居跡

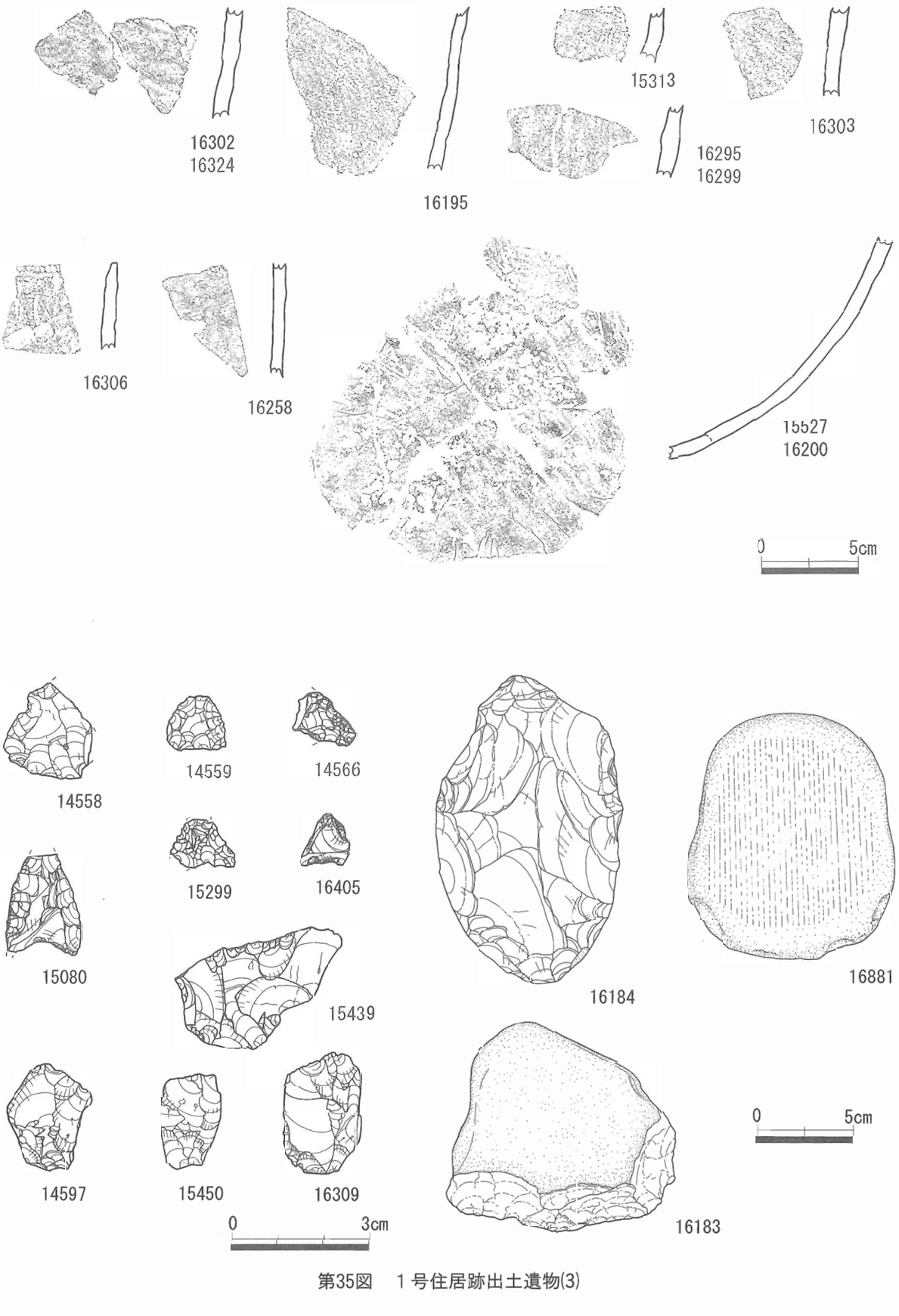
1号住居跡(SB01)



第33図　1号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第34図　１号住居跡出土遺物(2)



第35図　1号住居跡出土遺物(3)

出土遺物としては土器片108点が出土している。床面直上で検出されたものは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器あるいは並行期土器の無文胴部の破片と、第Ⅲ群Ｂ類１種石山式土器である。覆土の中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｅ無文口縁、第Ⅲ群Ａ類３種ｆ無文胴部、第Ⅲ群Ｂ類３種東海系無文胴部が出土している。土器片は覆土上層に、大きく接合するものが存在した。

石器は総数242点が出土した。内訳は石鏃６点、楔形石器４点、両面調整石器１点、礫器１点、磨石１点、その他剥片229点となっている。製品の内、床面直上からは黒曜石製の石鏃１点、黒曜石製の楔形石器１点、ホルンフェルス製の両面調整石器１点が出土している。石鏃、楔形石器ともに神津島恩馳島群産。覆土中・上層からは黒曜石製石鏃４点、流紋岩製石鏃１点、黒曜石製楔形石器３点、礫器１点、磨石１点が出土している。黒曜石製石鏃は産地判別不可が１点、神津島恩馳島群３点、楔形石器も神津島恩馳島群である。

礫は16点が出土した。

遺物の出土様相は住居跡内にまんべんなく分布するが、一部北西部にまとまって出土している。

出土土器の主体を占めるものは打越式併行期のものである。よって本住居跡は早期末打越式期に位置づけておきたい。なお本住居跡から石山式土器が出土しているところから、集落域全体の住居跡の中では比較的早い段階のものと予想されるが判然としなかった。

⑵　２号住居跡（SB02）（第36～38図）

２号住居跡は調査区東側のＨ-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の南東側に占地する。間隔が６号住居跡と40cm、５号住居跡と140cmと近接する。遺構検出面は漸移層で、標高は257ｍである。住居跡の平面形態は南北を長軸とする楕円形を呈し、長軸3.17ｍ、短軸2.78ｍを測る。残存する壁は最高で27cmである。床面はほぼ平坦だが、全体的に軟弱である。柱穴は炉を絡めて中央で十字に交差するような配列で７本検出された。径20cm、深さ30cmを測る。住居跡覆土は６層に分けられ、焼土粒子や炭化物を含む。

炉跡は中央から住居跡長軸線上の南寄りで検出された。平面形態は楕円形を呈し、径60cm、深さ10cmを測る。断面皿状の地床炉である。焼土粒子、炭化物ともに多い。

出土遺物としては土器片が37点出土している。覆土の中・上層からは第Ⅲ群第Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類２種ｃ、第Ⅲ群Ａ類３種ｆの打越式土器あるいは並行期の土器の無文胴部、第Ⅲ群Ｂ類２種東海系の天神山式土器、第Ⅲ群Ｂ類３種東海系土器無文胴部が出土している。床面直上からは無文胴部以外は検出されなかった。いずれも大きく接合するようなものは無かった。

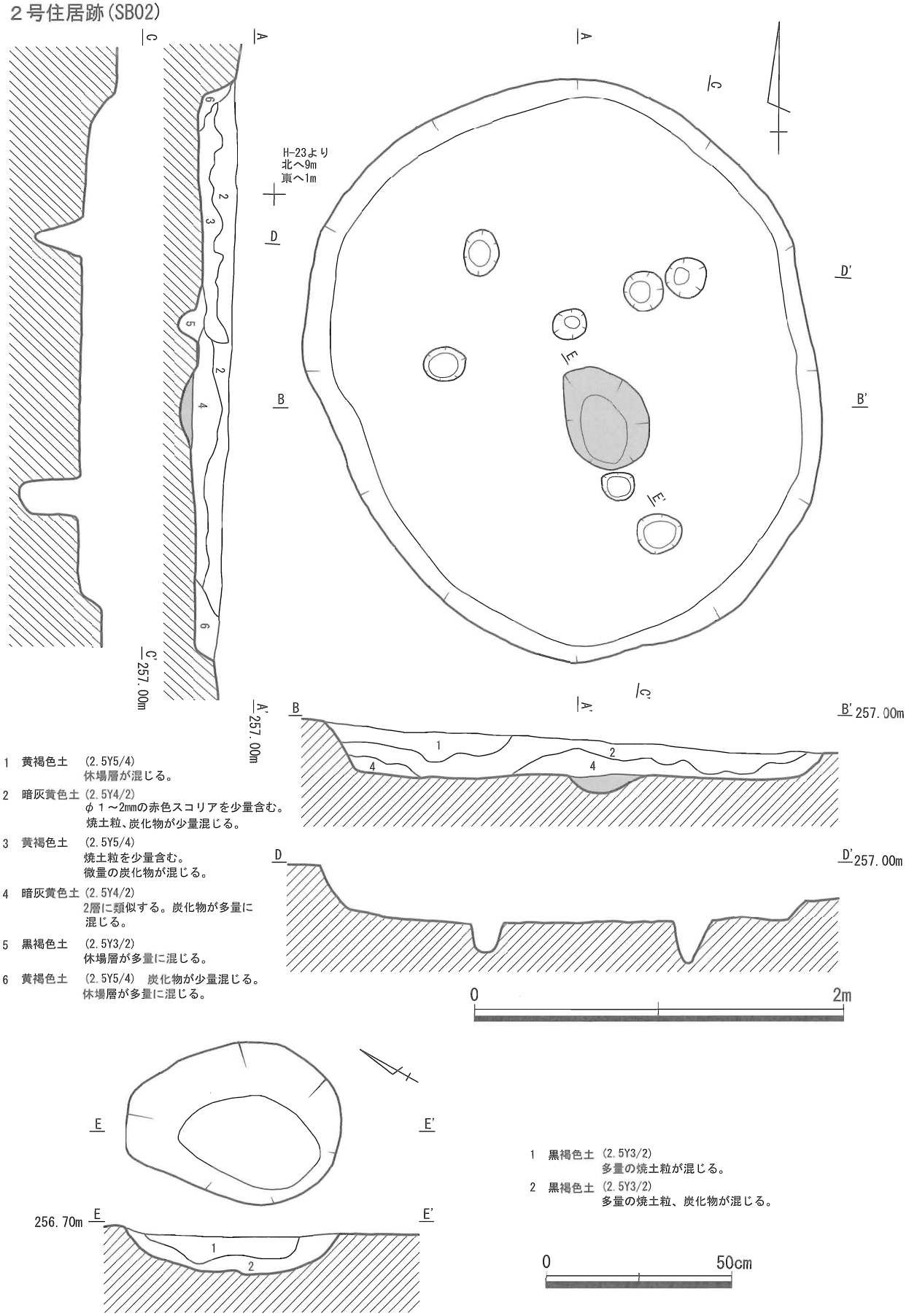
石器については総数105点を数える。内訳は黒曜石製石鏃２点、黒曜石製の使用痕のある剥片１点、黒曜石製の石核１点、敲石２点、剥片99点である。黒曜石製製品は全てが神津島恩馳島群を産地とする。床面直上からの石器は剥片を除けば検出されなかった。

礫は８点が出土した。

遺物は住居跡内にまんべんなく分布し、そのほとんどが覆土上層から中層で出土しており、本遺構に直接伴うものかどうか明確ではないが、すべて同一時期の所産と考えられることから、本住居跡は早期末打越式期に位置づけておきたい。

なお、先述したが６号住居跡との間隔は40cmと非常に近接する。上屋を葺いた状態を考慮すれば互いに干渉することが予想され、同時に存在したとは考えられないが、新旧関係は判然としなかった。

２号住居跡(SB02)



1　黄褐色土　(2.5Y5/4)
休場層が混じる。

2　暗灰黄色土 (2.5Y4/2)
φ１～2mmの赤色スコリアを少量含む。
焼土粒、炭化物が少量混じる。

3　黄褐色土　(2.5Y5/4)
焼土粒を少量含む。
微量の炭化物が混じる。

4　暗灰黄色土 (2.5Y4/2)
2層に類似する。炭化物が多量に
混じる。

5　黒褐色土　(2.5Y3/2)
休場層が多量に混じる。

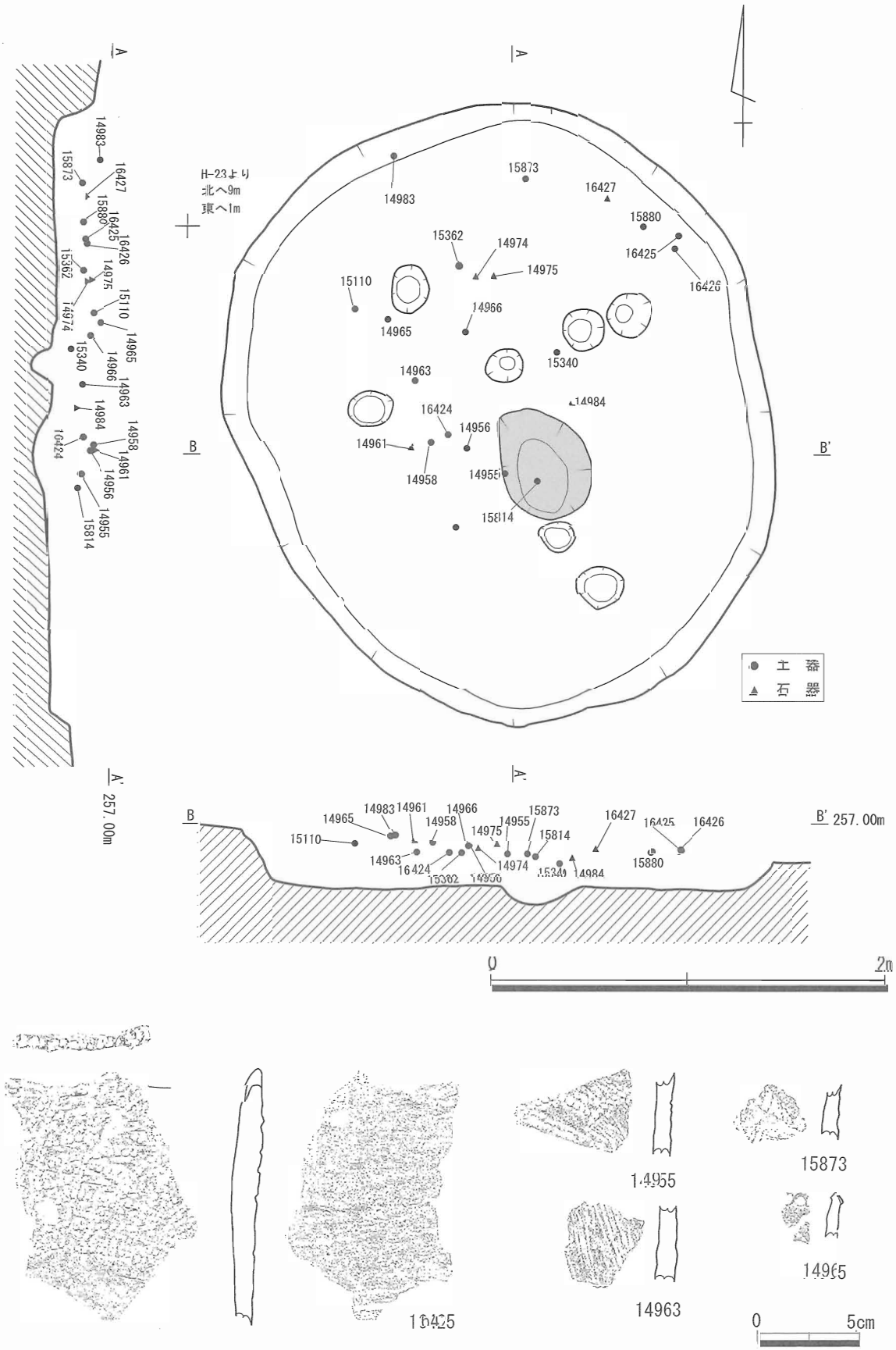
6　黄褐色土　(2.5Y5/4)　炭化物が少量混じる。
休場層が多量に混じる。

1　黒褐色土 (2.5Y3/2)
多量の焼土粒が混じる。

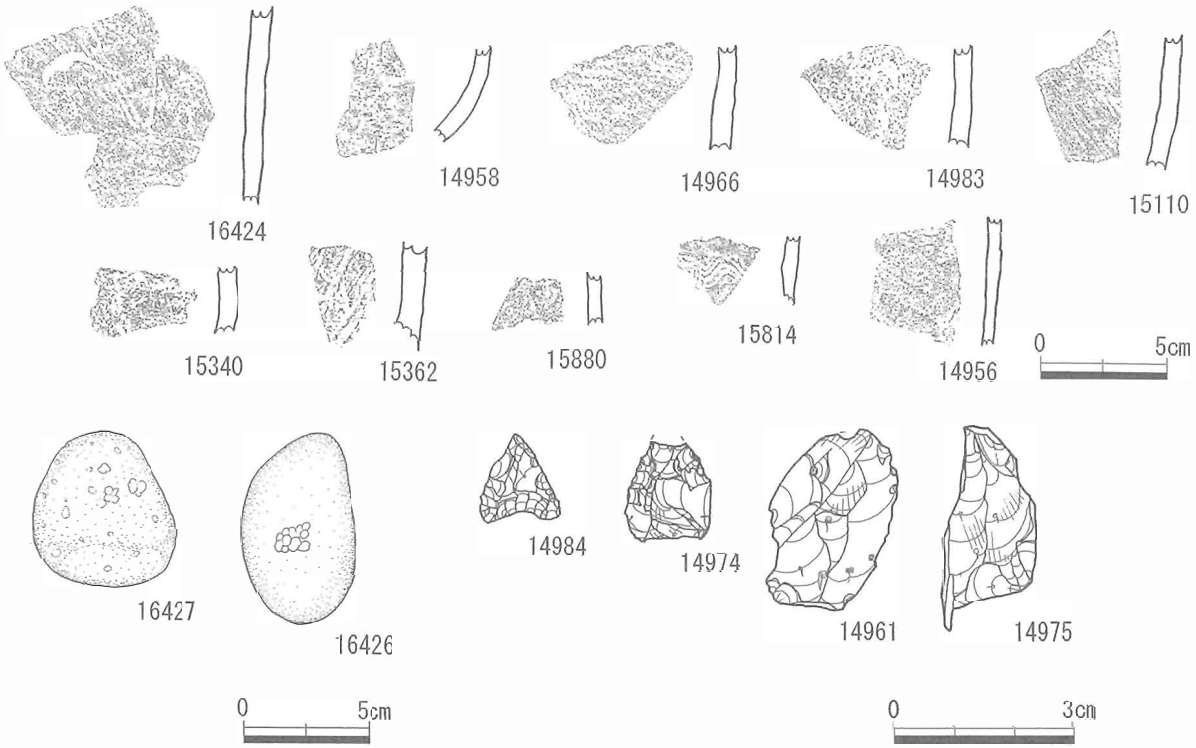
2　黒褐色土 (2.5Y3/2)
多量の焼土粒、炭化物が混じる。

第36図　２号住居跡

２号住居跡(SB02)



第37図　２号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第38図　２号住居跡出土遺物(2)

(3)　３号住居跡（SB03）（第39～41図）

３号住居跡は調査区東側のG-022・H-022グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の南側に占地する。他の７軒が比較的近接する中、やや離れた地点に位置する。遺構検出面は漸移層で、標高は257.20ｍである。住居跡の平面形態は楕円形を呈し、長軸2.08ｍ、短軸1.93ｍを測る。残存する壁の高さは最高で30cmである。床面は全体的に軟弱であり、地形に沿って北東側へ傾斜する。柱穴は壁に沿うように５本検出された。径25cm、深さ20cmを測る。東側の柱穴のみ炉跡に近接するが、他の柱穴はほぼ等間隔に配置されている。住居跡覆土は６層に分けられ、全体的に焼土粒子や炭化物を含んでいる。規模は小さいが最も残存状況の良かった住居跡である。

炉跡は住居跡の長軸線上の一方に寄るように、住居跡中央から南寄りで検出された。平面形態は楕円形を呈し、径40cm、深さ10cmを測る。断面皿状の地床炉である。よく焼けており、明確な焼土塊が認められた。

出土遺物としては土器片が61点出土している。床面直上からは第Ⅲ群第Ａ類３種ｆの打越式土器あるいは並行時期の無文胴部が、覆土の中層及び上層からは第Ⅲ群Ａ類１種打越式土器が出土している。土器の接合は覆土上層の土器ではあるが、比較的大きく接合するものが見られた。

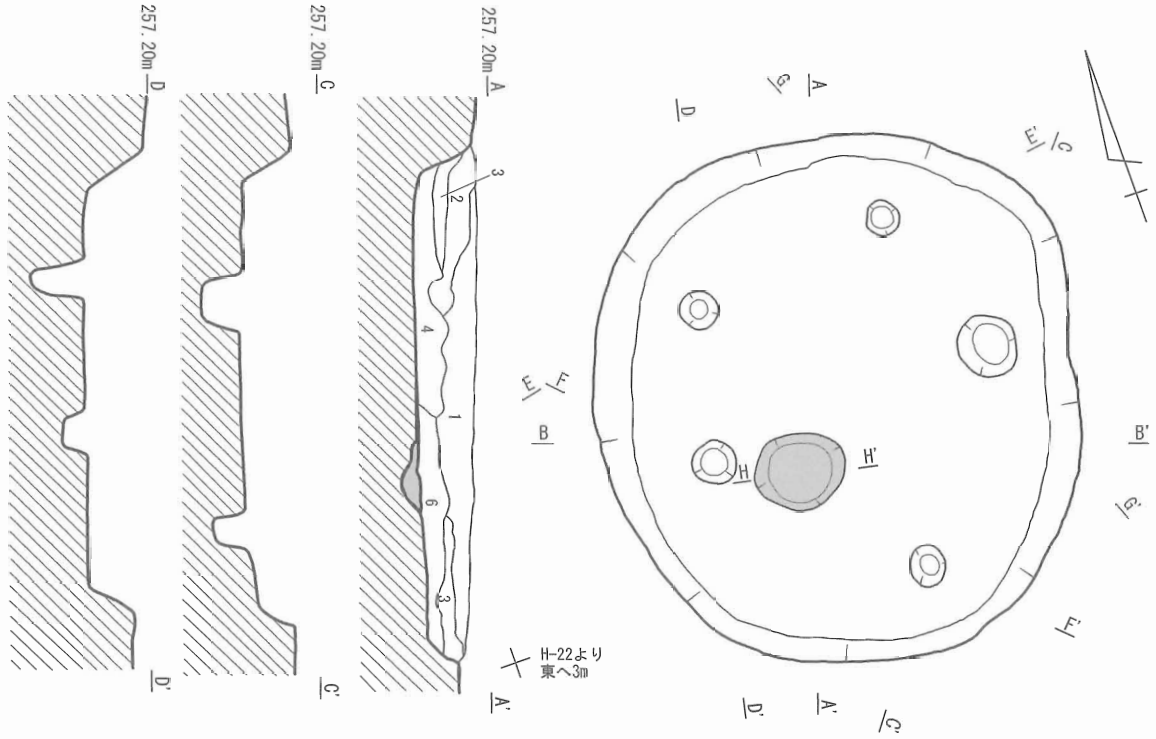
石器は48点出土し、内訳は磨石類４点、剥片44点である。床面直上からは磨石、敲石が１点ずつ、覆土の中・上層からも磨石、磨敲石が１点ずつ出土している。剥片石器は出土しなかった。

礫は６点出土した。

床面直上の出土土器は先述の通り無文胴部ではあるが、早期末葉の打越式土器の無文胴部または並行期のものと考えられることから、本住居跡は早期末打越式期に位置づけたい。

なお、出土した石器の組成が植物質食料加工に関わるもののみであるという点、本住居跡の北側および南側で玦状耳飾が出土している点、本住居跡南東に近接して石皿が集中している点などは住居の性格を考える上で参考になるものと考える。第７章　総括において考察する。

３号住居跡(SB03)



1　黄褐色土　(2.5Y5/4)
φ2～3mmの黒色スコリアを少量含む。
微量の焼土粒が混じる。

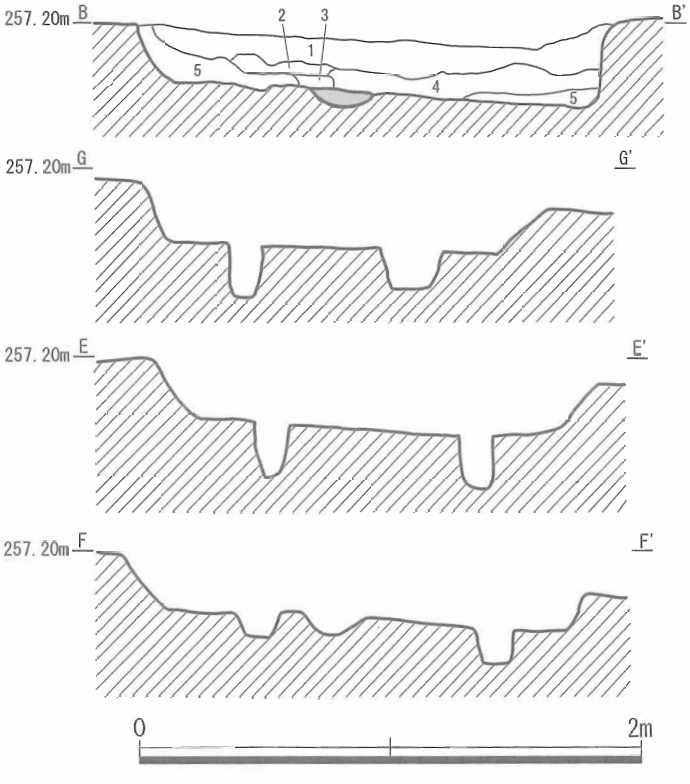
2　オリーブ褐色土　(2.5Y4/3)
微量の炭化物が混じる。

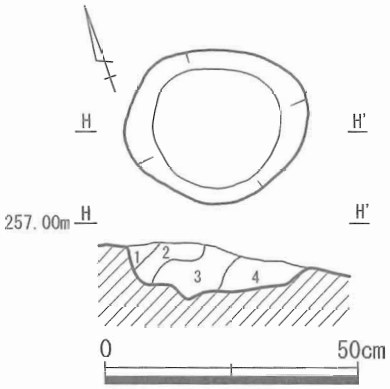
3　黄褐色土　(2.5Y5/4)
微量の炭化物が混じる。休場層が少量混じる。

4　にぶい黄色土　(2.5Y6/4)
φ1～2mmの赤色スコリアを少量含む。
休場層が多量に混じる。

5　黄褐色土　(2.5Y5/4)
焼土粒、炭化物が多量に混じる。

6　にぶい黄色土　(2.5Y6/4)
赤色スコリアを多量に含む。
休場層が多量に混じる。





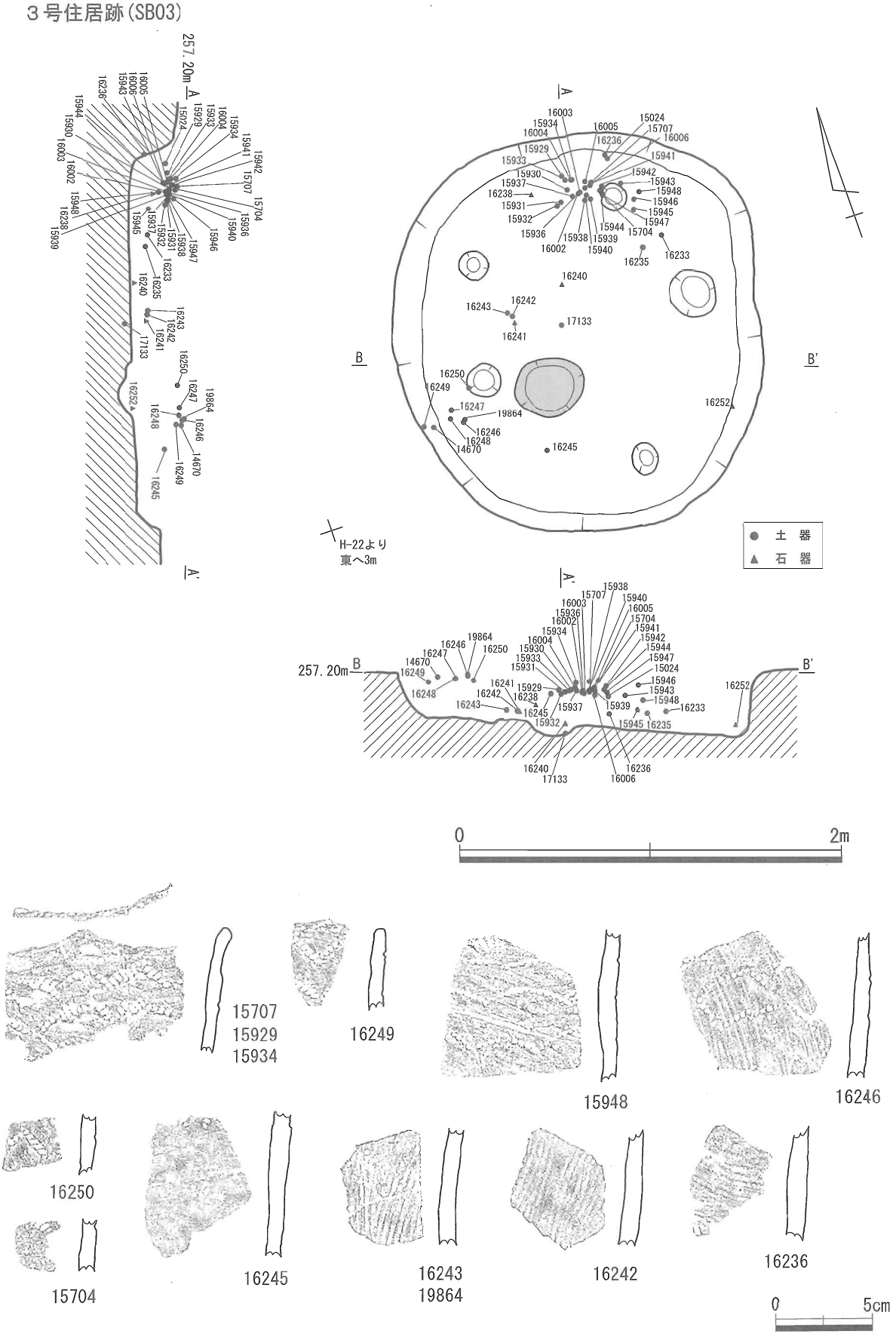
1　褐色土　(7.5YR4/6)
焼土粒、炭化物が混じる。

2　焼土

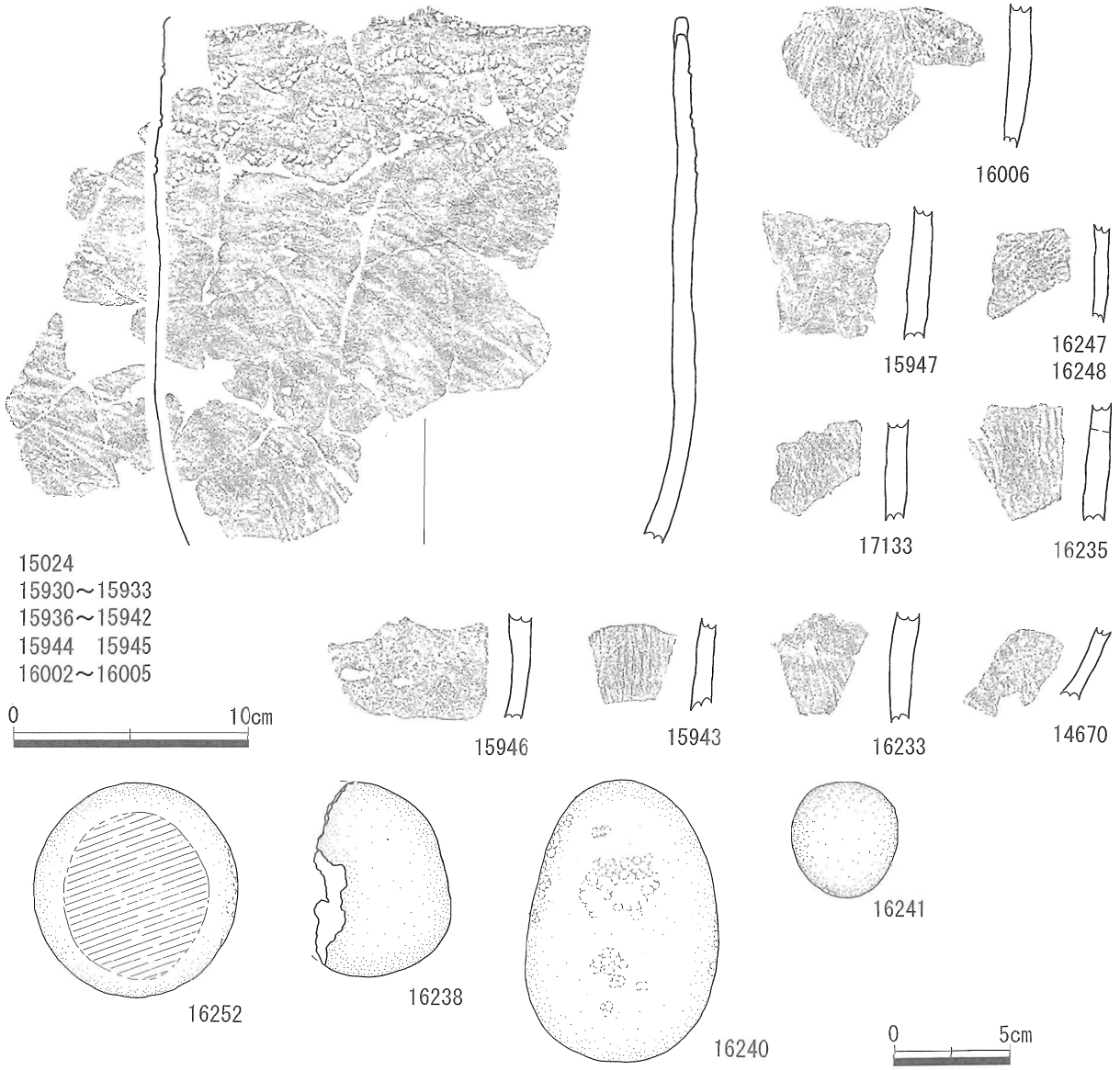
3　褐色土　(7.5YR4/6)
焼土粒、炭化物が混じる。ボソボソとした土。

4　褐色土　(7.5YR4/6)
焼土粒、少量の炭化物が混じる。

第39図　３号住居跡



第40図　３号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第41図　３号住居跡出土遺物(2)

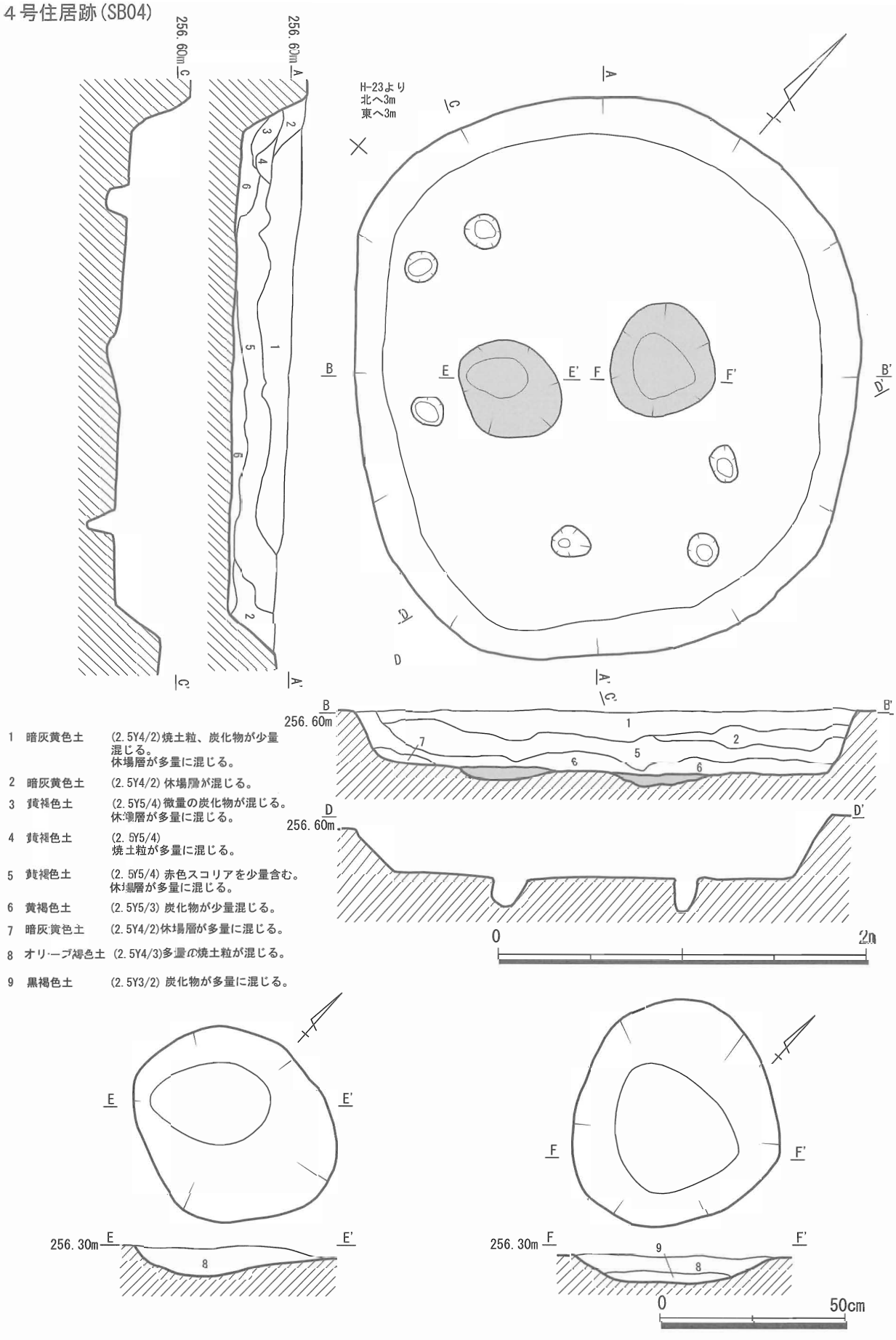
(4)　４号住居跡（SB04）（第42～45図）

４号住居跡は調査区東側のH-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東南側に占地する。２号竪穴状遺構との間隔は50cmと近接する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.70mである。住居跡の平面形態はほぼ円形を呈し、長軸3.04m、短軸2.75mを測る。残存する壁の高さは最高で42cmである。床面はほぼ平坦、北側が若干硬質であったが大方軟弱であった。柱穴は壁に沿うように６本検出された。径20cm、深さ20cmを測る。住居跡覆土は７層に分けられ、全体的に焼土粒子や炭化物を含んでいる。

炉跡は住居跡短軸線上に一対の計２基検出されている。中央北寄りで１基、南西寄りで１基である。いずれも平面形態は楕円形を呈し、径50cm前後、深さ10cmを測る。断面皿状の地床炉である。焼土粒子、炭化物ともに多い。

出土遺物としては土器片が48点出土している。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｂの条痕文土器、第Ⅲ群Ｂ類４種東海系無文胴部が出土している。覆土中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃの打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｆの打越式土器あるいは並行期の土器の無文胴部、第Ⅲ群Ａ類３種ａの格子目状の条痕文土器、同じくｃの貝殻条痕文が波状に施されているものが出土している。

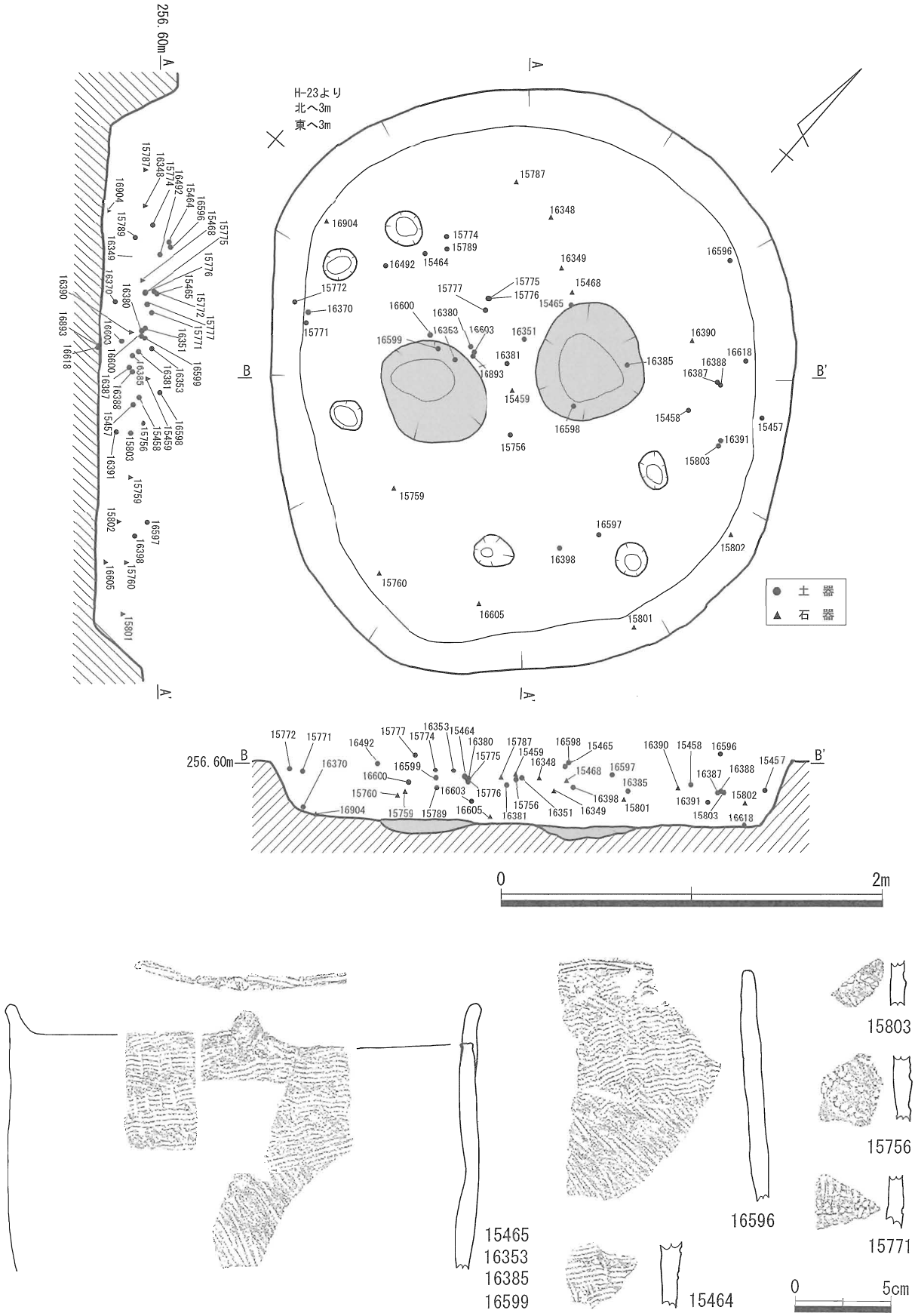
４号住居跡(SB04)



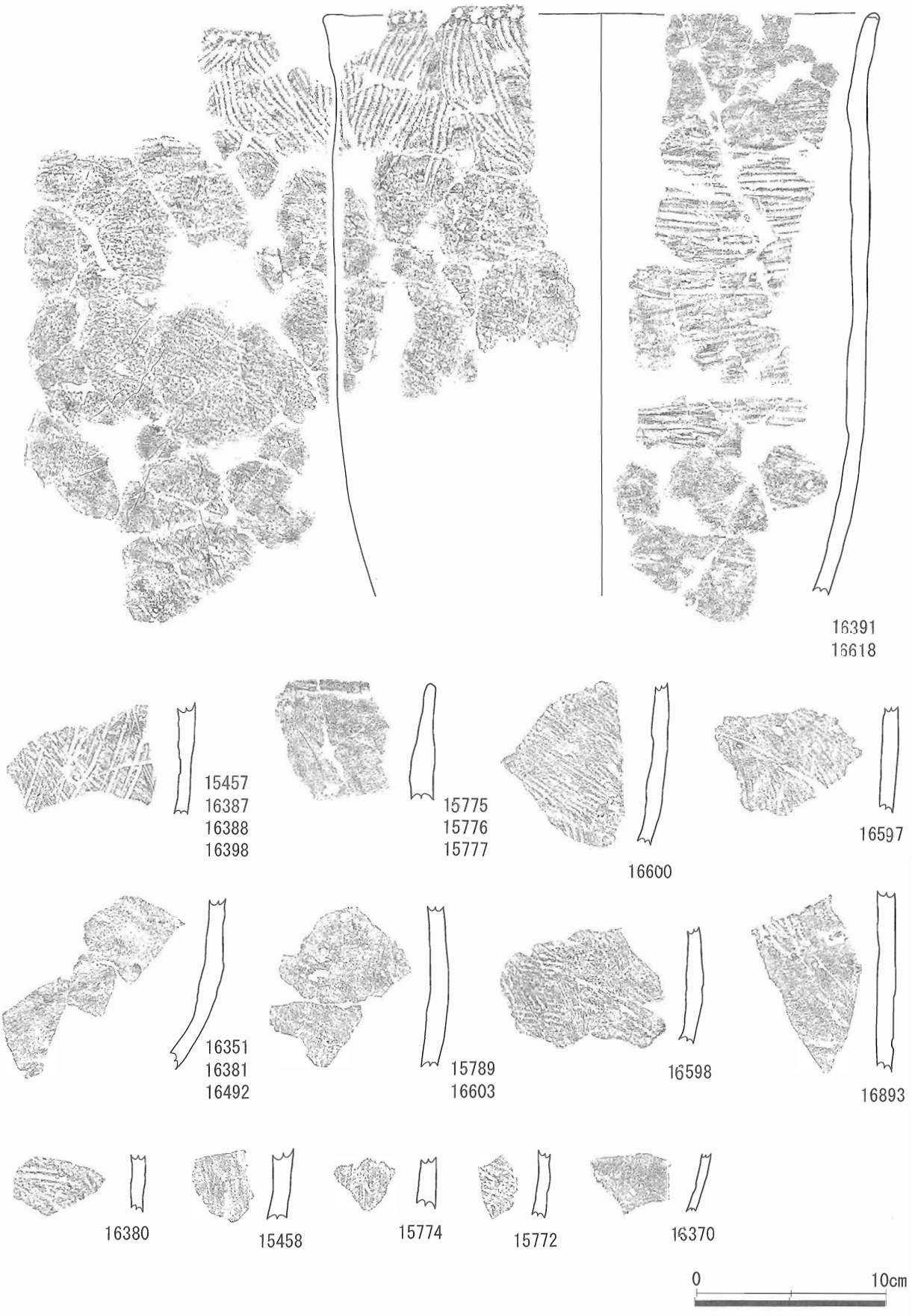
1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)焼土粒、炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。
2 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 休場層が混じる。
3 黄褐色土 (2.5Y5/4)微量の炭化物が混じる。休場層が多量に混じる。
4 黄褐色土 (2.5Y5/4) 焼土粒が多量に混じる。
5 黄褐色土 (2.5Y5/4) 赤色スコリアを少量含む。休場層が多量に混じる。
6 黄褐色土 (2.5Y5/3) 炭化物が少量混じる。
7 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)休場層が多量に混じる。
8 オリーブ褐色土 (2.5Y4/3)多量の焼土粒が混じる。
9 黒褐色土 (2.5Y3/2) 炭化物が多量に混じる。

第42図　４号住居跡

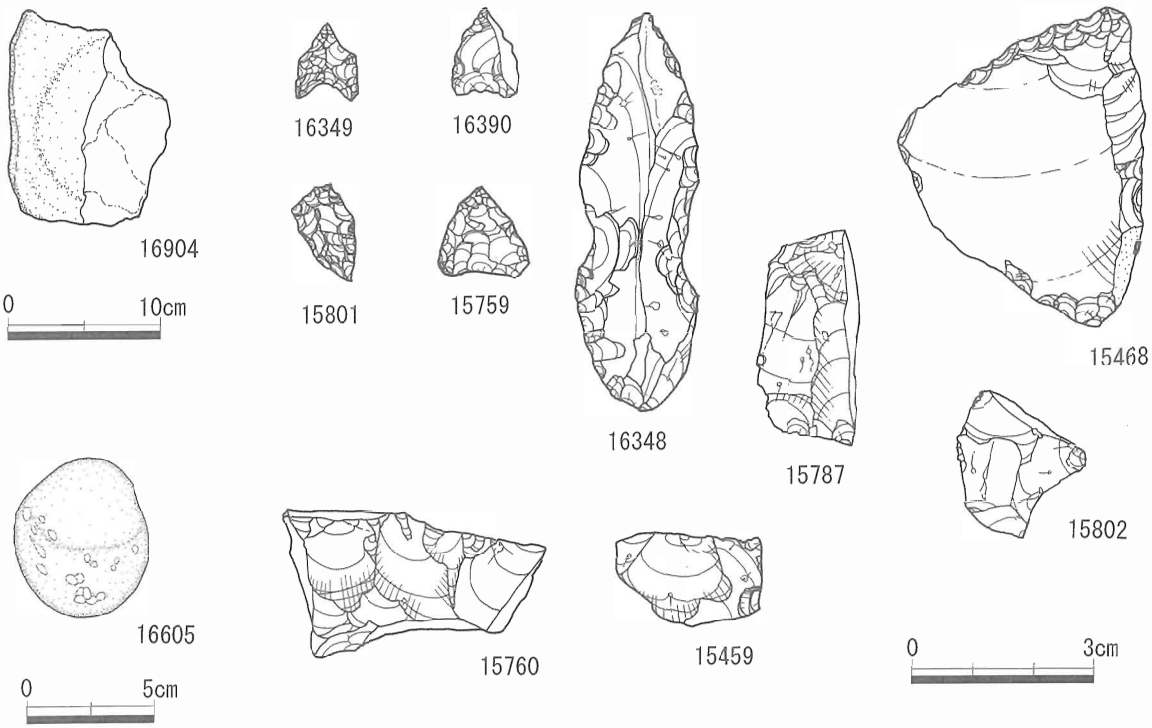
４号住居跡(SB04)



第43図　４号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第44図　４号住居跡出土遺物(2)



第45図　４号住居跡出土遺物(3)

16618は第Ⅲ群Ａ類３種ｂの条痕文土器である。床面直上から出土し、大きく接合した。口縁部文様帯には斜位に条痕が施されている。条痕の方向は一定ではない。口唇部文様帯より下は横方向の調整による条痕。口唇上には篦状口具を刺突した刻み目が施されている。内面は横方向の調整による条痕。本遺跡においては特異な文様形態ではあるが、出土様相などから打越式土器と並行期の土器と考えられる。この土器は住居が廃絶して時を隔てずに廃棄されたものと考えられる。

石器は102点出土した。内訳は砥石１点、石鏃４点、石槍１点、楔形石器１点、削器１点、使用痕のある剥片１点、敲石１点、石核２点、剥片は90点である。床面直上からは敲石、砥石が各１点出土した。他はみな覆土中・上層からの出土である。16349の石鏃がチャート製で、刃部の角度が途中で変えられている。着柄しやすいように加工したものかと思われるが、刃部破損によるリダクションの可能性もある。他では、15468の削器がガラス質黒色安山岩製のほかはすべて神津島恩馳島群の黒曜石製である。

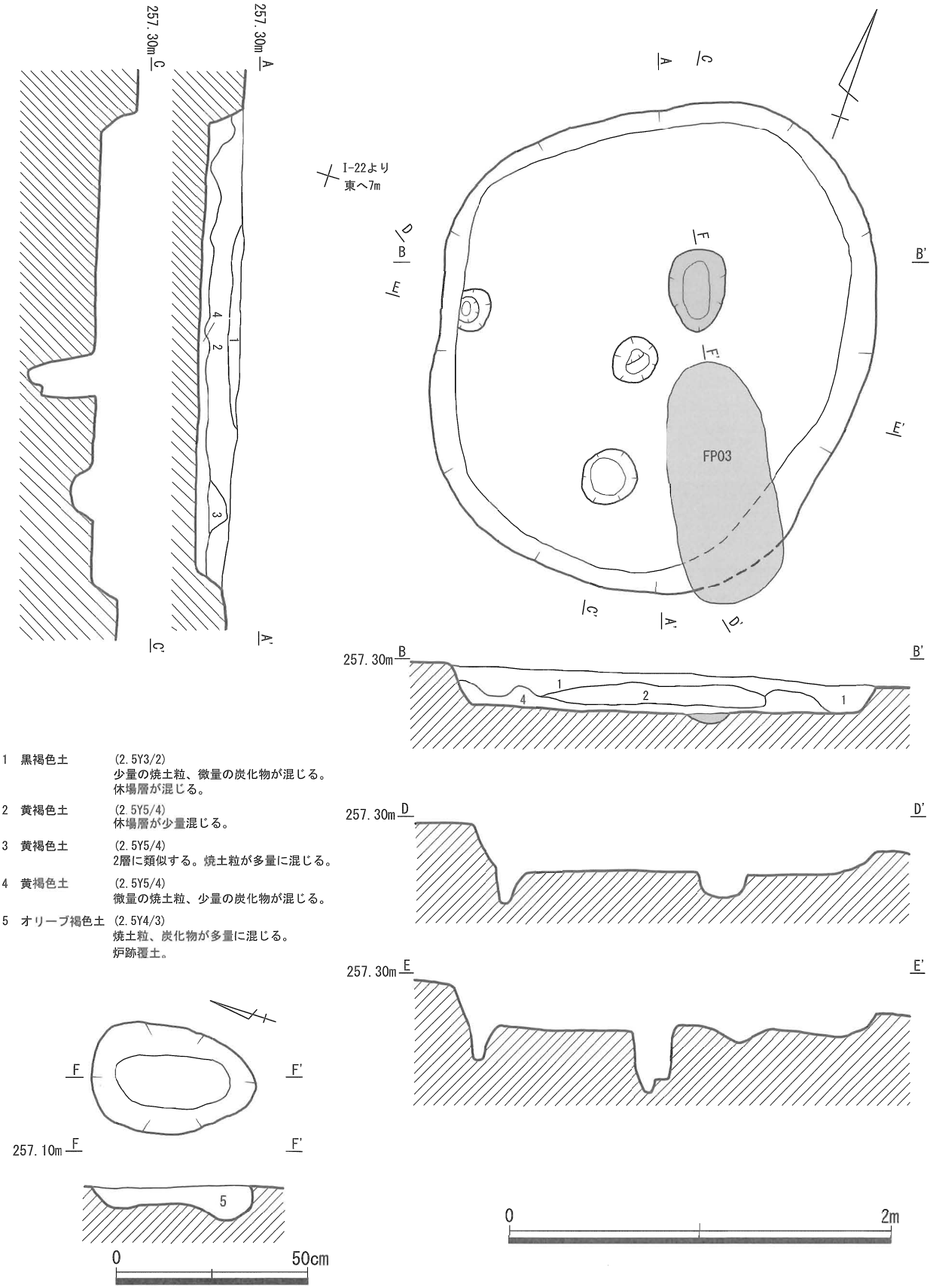
礫は11点出土した。

遺物の出土様相は覆土の中・上層に多いため、時期について明確にすることは出来なかったが、床面直上の土器から、本住居跡の時期は早期末打越式期とほぼ同時期のものであると考える。

最後にこの住居跡についていくつかの特徴をまとめておきたい。①炉が２基存在することである。２基の炉が近接して同時に存在することは考えにくいことから、どちらか一方を利用した後にもう一方を利用するといったように時間差が予想される。この時間差は住居跡をほぼそのまま再利用した時間と考えれば掘り込みはおろか上屋までが存在しつづけている程度、となろう。②天神山式土器を模倣したと思われる特徴的な土器が出土していることである。文様の構成は天神山式土器に似ているが厚手であり胎土は打越式土器に近い。遺跡全体でみてもあまり出ていないので、集中的に本遺構より出るのは注意したい。③床面直上から大ぶりの条痕文土器が出土していることである。1/3～1/4程度ではあるが本遺跡では大きいほうであり、且つ床面直上から出土した大ぶりなものは他には皆無である。

本遺構は特に②から、集落内では相対的に新しいものである可能性が高い。

５号住居跡(SB05)



1　黒褐色土　(2.5Y3/2)
少量の焼土粒、微量の炭化物が混じる。
休場層が混じる。

2　黄褐色土　(2.5Y5/4)
休場層が少量混じる。

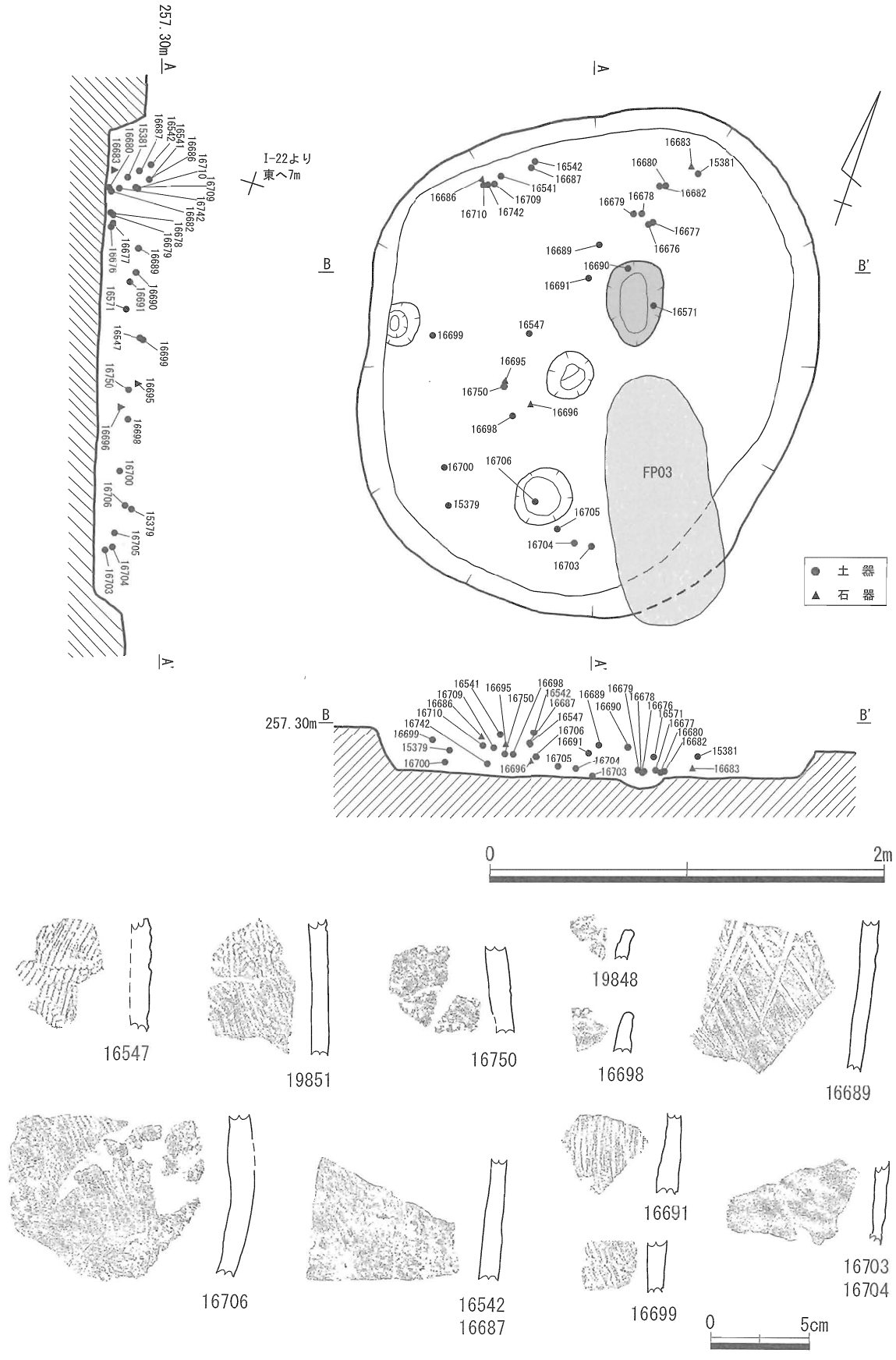
3　黄褐色土　(2.5Y5/4)
2層に類似する。焼土粒が多量に混じる。

4　黄褐色土　(2.5Y5/4)
微量の焼土粒、少量の炭化物が混じる。

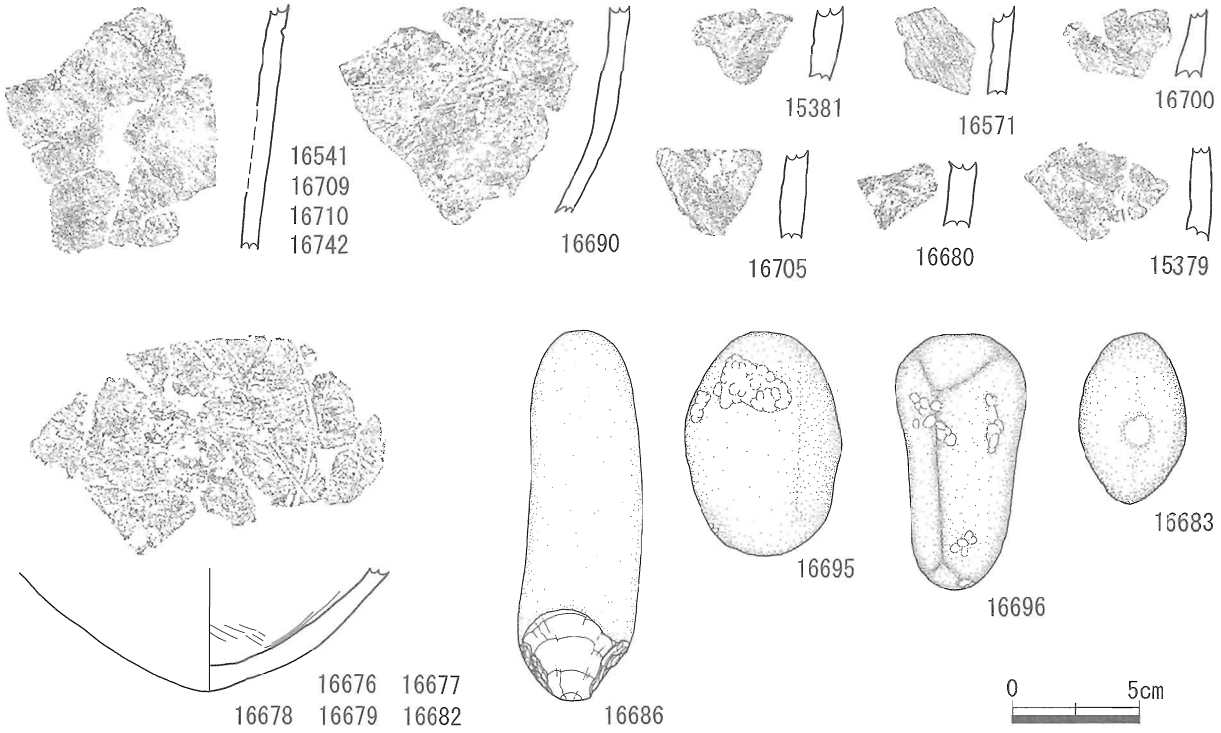
5　オリーブ褐色土　(2.5Y4/3)
焼土粒、炭化物が多量に混じる。
炉跡覆土。

第46図　５号住居跡

５号住居跡(SB05)



第47図　５号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第48図　５号住居跡出土遺物(2)

⑸　５号住居跡（SB05）（第46～48図）

５号住居跡は調査区東側のH-022・I-022グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。間隔が２号住居跡と140cm、６号住居跡と70cmと隣接する。遺構検出面は漸移層で、標高は257.3mである。３号焼土坑により東側が切られているが、残存部位より平面形態は楕円形を呈し、長軸2.55m、短軸2.24mと推定される。残存する壁の高さは最高24cmである。床面はほぼ平坦だが、全体的に軟弱である。柱穴は中央１、壁付近に２の計３本検出された。径23cm、深さ35cmを測る。配置に規則性は認められないが、中央部がもっとも深いことから主柱穴と思われる。住居跡覆土は４層に分けられる。

炉跡は住居跡長軸線上の一方によるように検出された。平面形態は楕円形を呈し、径43cm、深さ9.5cmを測る。断面皿状の地床炉である。

本住居跡を切る２号焼土跡の焼土粒子や炭化物が６号住居跡北側の覆土に多く含まれていること、ならびに本遺構覆土から出土した土器16690が６号住居跡覆土出土の19846と接合したことから、５号住→６号住→２号焼土跡・13号集石遺構の順に構築された可能性がある（13号集石遺構及び２号焼土跡の頁参照）。この変遷は出土する土器型式の変化には反映されていないため、型式に表れない短期間での構築変遷かと思われる。

出土遺物としては土器片が44点出土している。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器および並行期無文胴部が、覆土中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ａ条痕文土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｅ無文口縁が出土している。

石器は60点出土した。内訳は床面直上からは磨石が１点、覆土の中・上層からは敲石３点、剥片は56点である。剥片石器は出土しなかった。礫は19点出土した。

遺物は３号焼土坑に切られた東側を除いて、平面的には遺構内にまんべんなく分布するが、覆土上層から中層で多くが出土しており、本遺構に直接伴うものかどうか明確ではない。しかしすべて同一時期の所産と考えられることから、本住居跡は早期末打越式期に位置づけたい。

なお出土石器が植物質加工に関わるものがほとんどである点、土器や石器の出土点数が合計で100点強と少ない点が３号住居跡と共通しており、住居の性格を考える上で参考になるかと思われる。総括において考察したい。

⑹　６号住居跡（SB06）（第49～51図）

６号住居跡は調査区東側のＨ-022・Ｈ-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。間隔が２号住居跡と40cm、５号住居跡と70cmと近接する。遺構検出面は漸移層で、標高は257.0ｍである。住居跡の平面形態は円形を呈し、長軸2.18m、短軸2.05ｍを測る。残存する壁の高さは最高28cmである。床面はほぼ平坦、全体的に軟弱である。柱穴は４本検出された。径16cm、深さ32cmを測る。配置に規則性は認められない。住居跡覆土は７層に分けられる。

炉跡は住居跡の中央南東寄りで検出された。平面形態は円形を呈し、径70cm、深さ８cmを測る。断面皿状の地床炉である。

本住居跡検出面に９号集石遺構が位置すること、５号住居跡を切る２号焼土跡側の６号住北側覆土に焼土粒子や炭化物を多く含んでいること、ならびに出土遺物の接合関係から５号住→６号住→２号焼土跡・13号集石遺構の順に構築された可能性がある。

出土遺物としては土器片が35点出土している。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器および並行期の土器の無文胴部が、覆土の中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ａの条痕文土器、第Ⅲ群Ｂ類２種東海系の天神山式土器が出土している。破片の接合状態は不良で、小さい破片が多い。16718は第Ⅲ群Ｂ類２種天神山式土器の無文胴部である。遺構外の文様のある土器片と接合した。

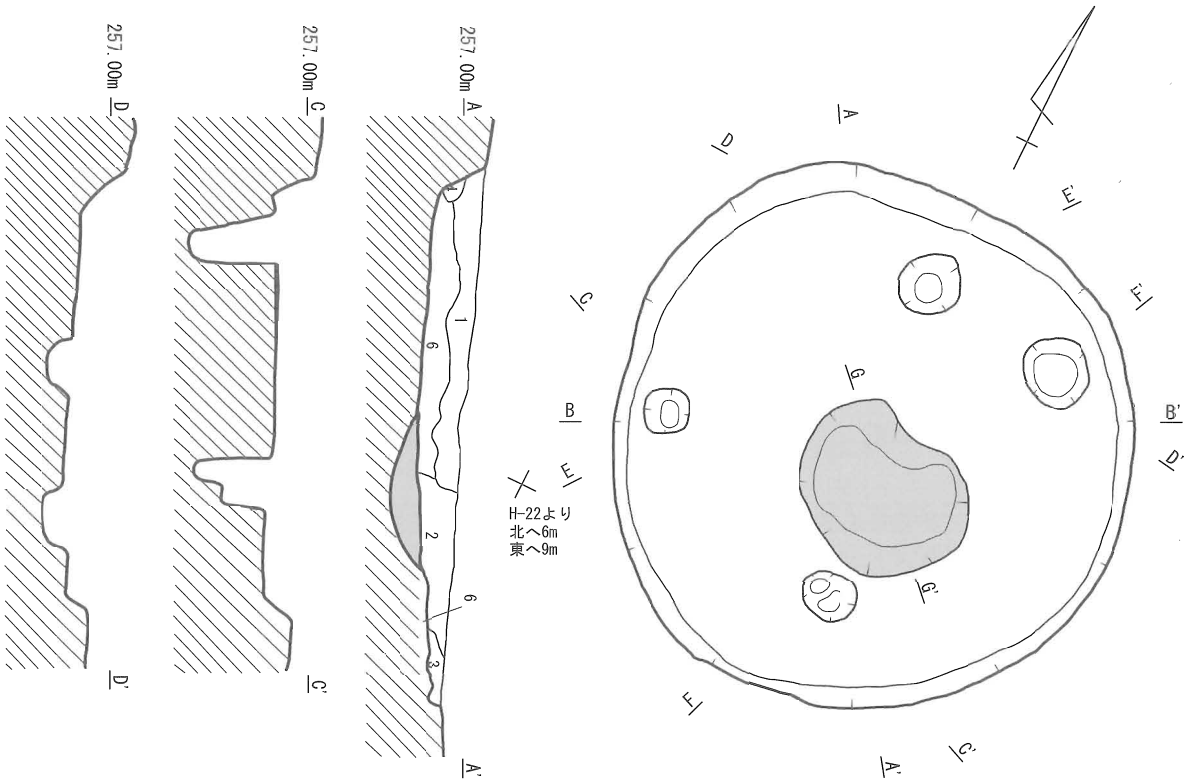
石器は101点が出土した。石鏃２点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、楔形石器２点、石核１点、磨敲石１点、石皿１点、その他剥片92点である。床面直上からは黒曜石製の石鏃１点、石核１点、楔形石器１点、磨敲石１点、石皿１点である。黒曜石製の製品は産地判別不可の石核を除いて、神津島恩馳島群である。覆土の中・上層からは石鏃１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、楔形石器１点が出土している。全て黒曜石で、産地は神津島恩馳島群である。礫は24点出土した。

遺物の出土状況は住居跡内北側にやや集中して分布する。特筆すべきは床面直上より石皿・磨石が出土していることである。石皿は磨り面を上に向けておりその出土状況から本住居跡に直接伴う可能性が高い。その他の遺物は覆土上層から中層で出土しているため、本遺構に直接伴うものかどうか明確ではない。しかしすべて同一時期の所産と考えられることから、本住居跡は早期末打越式期に位置づけたい。

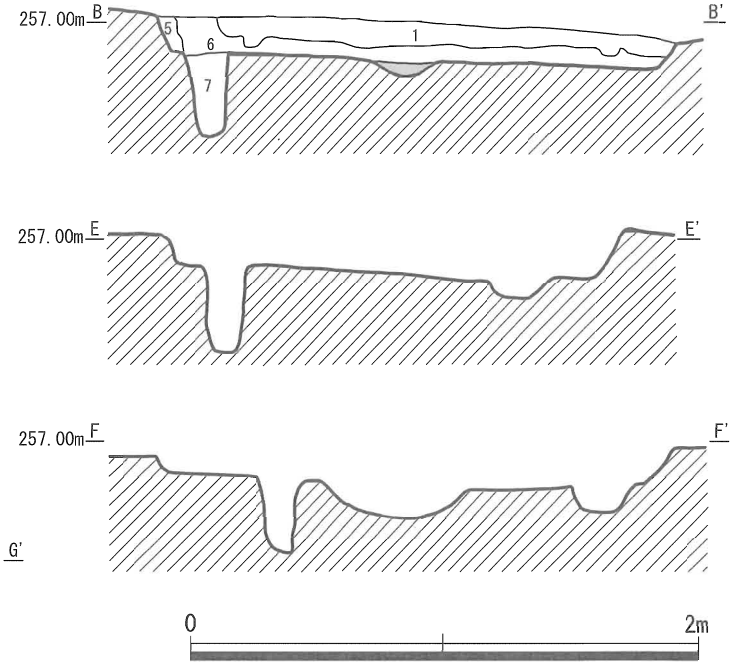
２．竪穴状遺構（第52～56図）

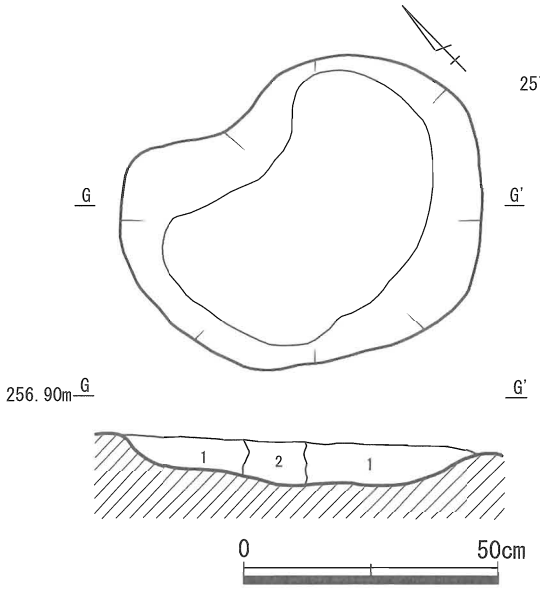
竪穴状遺構は計３基検出した。住居跡と同じく、すべてが調査区東側丘陵部に占地する。本分類の遺構のうち、１号および２号竪穴状遺構は遺物の集中している点や掘り込みの様子あるいは大きさなどから住居跡である可能性は高い。しかしいずれも炉、柱穴を欠き、はっきりと住居跡と認定するに至らなかった。３号竪穴状遺構は大きさ、掘り込みの深さから言って、若干性格を異にするようである。

６号住居跡(SB06)



1　黒褐色土　(2.5Y3/2)
　　少量の焼土粒、微量の炭化物が混じる。
　　休場層が混じる。
2　黄褐色土　(2.5Y5/4)
　　少量の休場層が混じる。
3　黄褐色土　(2.5Y5/4)
　　多量の休場層が混じる。
4　黄褐色土　(2.5Y5/4)
　　休場層が混じる。ポソポソとしている。
5　黄褐色土　(2.5Y5/4)
　　4層に類似する。焼土が少量混じる。
6　黄褐色土　(2.5Y5/4)
　　焼土粒、炭化物が多量に混じる。
7　褐灰色土　(2.5Y5/4)
　　φ0.5～1mmの赤色スコリアを含む。
　　休場層が少量混じる。柱穴覆土。

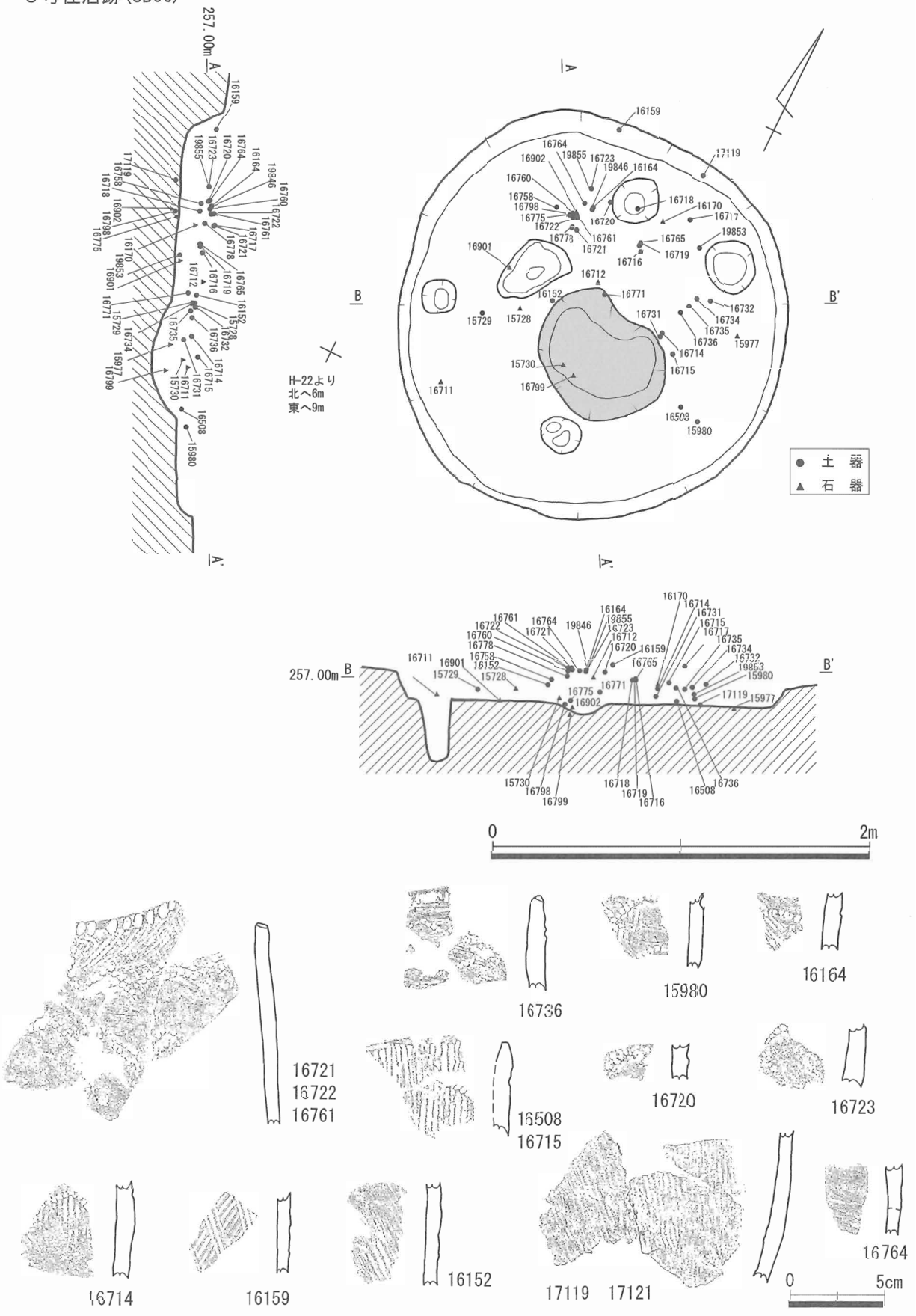




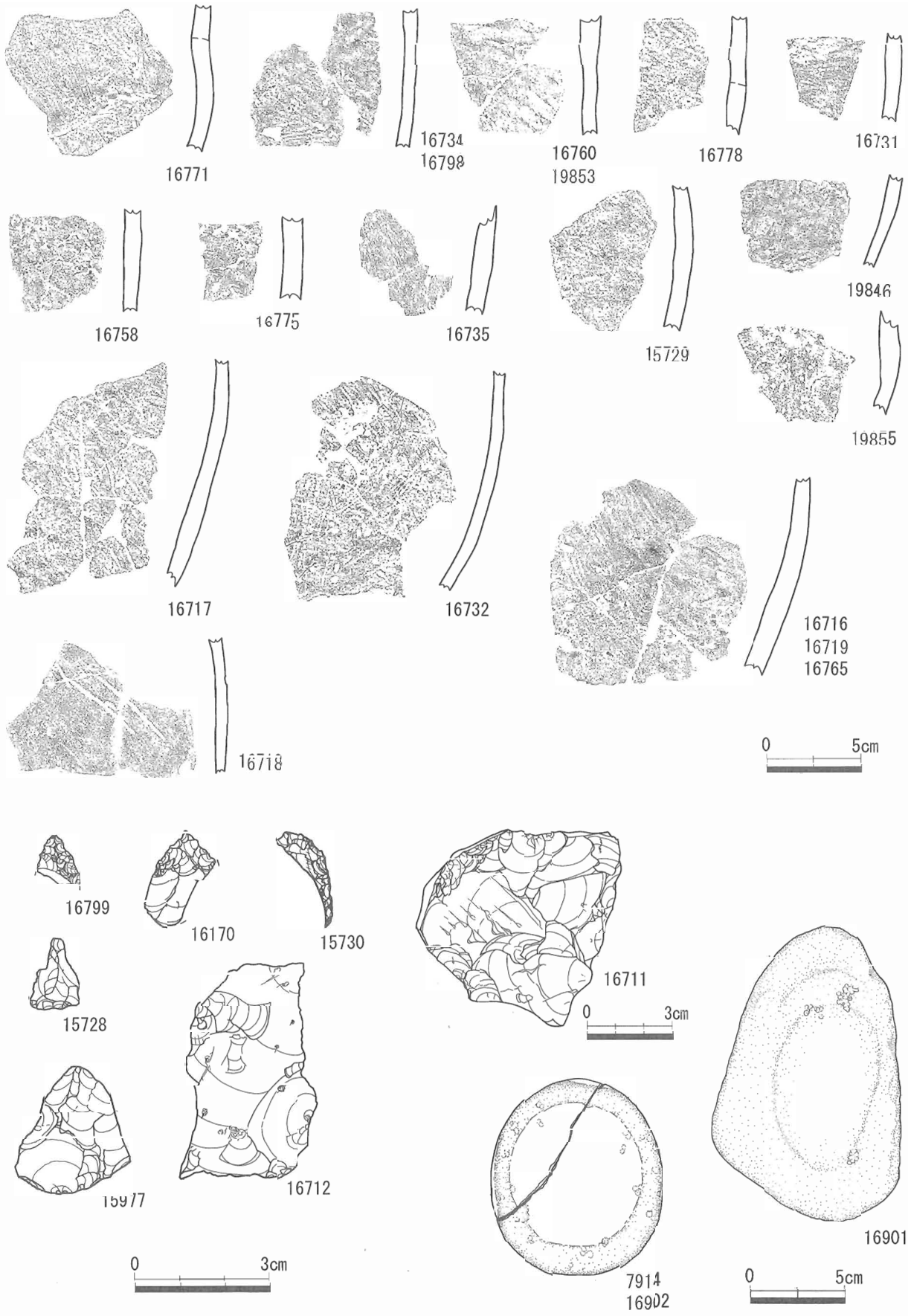
1　オリーブ褐色土 (2.5Y4/3)焼土粒が多量に混じる。
2　焼土

第49図　６号住居跡

６号住居跡(SB06)



第50図　６号住居跡遺物出土状況及び出土遺物(1)



第51図　６号住居跡出土遺物(2)

⑴　１号竪穴状遺構（TA01）（第52・53図）

１号竪穴状遺構は調査区東側のＧ-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東南側に占地する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.80ｍである。南側の一部に撹乱を受け、南東部が調査区域外に広がるため完掘はできなかった。検出できた残存部より平面形態は不整形の楕円形を呈し、長軸3.80ｍ、短軸3.55ｍと推測される。残存する壁の高さは最高28㎝で、地形的に標高の高い北西側が高く、南東側に向かって次第に低くなる。壁面の立ち上がりは弱く、やや皿状を呈する。床面は比較的平坦だが、全体的に軟弱であり、一部凹凸があることからはっきりと住居跡とは認定できなかった。覆土は５層に分けられ、焼土粒子や炭化物を含む。柱穴・炉跡は検出できなかった。

出土遺物としては土器片が69点出土している。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器あるいは並行期土器の胴部無文、覆土の中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ａの垂下隆帯を持つ土器、第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｂ条痕文土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｄの縦位沈線のある土器、第Ⅲ群Ｂ類１種石山式土器が出土している。遺構内ではあまり接合が見られなかった。

石器は263点出土した。剥片は246点。床面直上出土石器は剥片のみ。覆土の中・上層からは石鏃５点、石匙１点、加工痕のある剥片１点、使用痕のある剥片１点、楔形石器２点、磨石５点、磨石と凹石を兼ねたもの１点である。13441石鏃は箱根畑宿、残りは全て神津島恩馳島群の黒曜石である。

礫は26点出土した。

遺構内遺物分布は遺構中央に偏る傾向が見て取れる。ほとんどが覆土上層から中層で出土しており、本遺構に直接伴うものかどうか明確ではない。だがすべて同一時期の所産と考えられることから、本遺構は早期末打越式期に位置づけておきたい。

本遺構は環状に出土する遺物の分布の中央部空白空間に位置すること、また形状が他の住居跡とは異なることから、他の住居跡とは性格あるいは用途が異なるものであった可能性をここで指摘しておく。生活空間についての考察は第７章総括で扱う。

⑵　２号竪穴状遺構（TA02）（第54・55図）

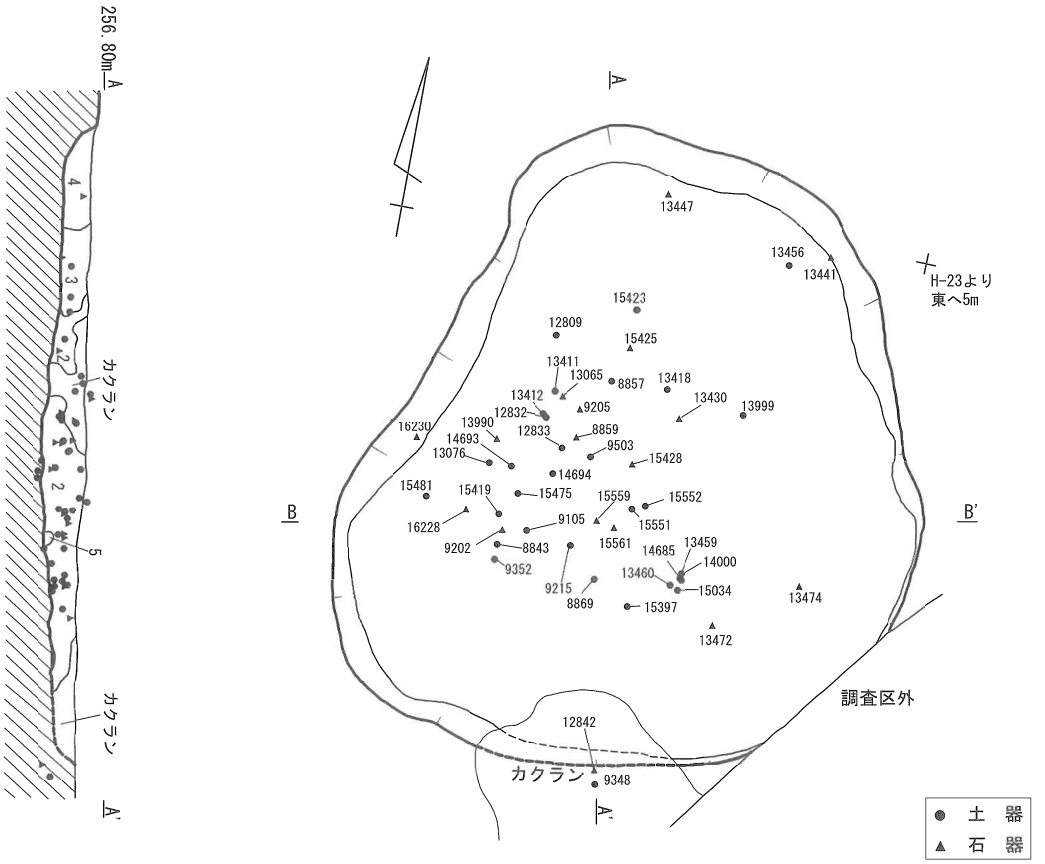
２号竪穴状遺構は調査区東側のＨ-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の南東側に占地する。４号竪穴住居跡との間隔は50㎝と近接する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.50ｍである。南東部が調査区域外に広がるため完掘できなかった。検出した壁面から、平面形態は長楕円形を呈し、調査できた範囲は長軸2.01ｍ、短軸2.42ｍであった。残存する壁の高さは最高30㎝を測る。床面は平坦だが、全体的に軟弱である。覆土は６層に分けられ、焼土粒子や炭化物を含む。柱穴・炉跡は検出できなかった。

出土遺物としては土器片が69点出土している。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器あるいは並行期土器の無文胴部、第Ⅲ群Ａ類２種ｃの土器が出土している。覆土の中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｂ条痕文土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｆ無文胴部が出土している。

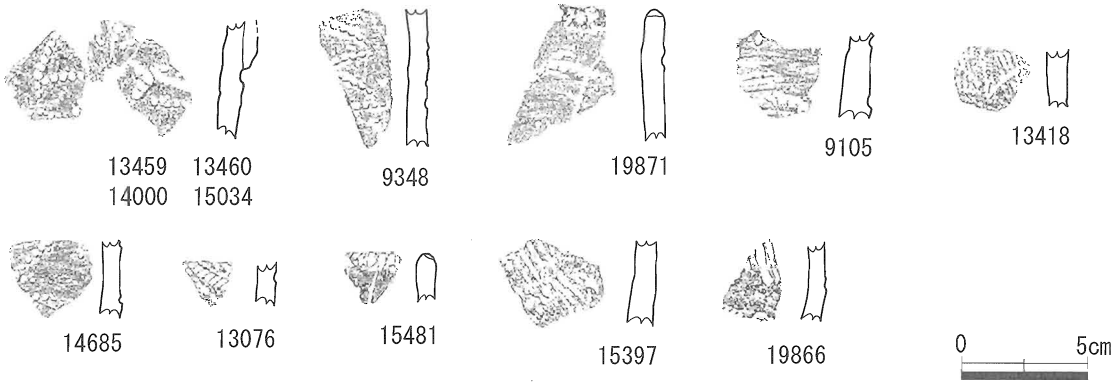
石器は164点出土した。磨石１点、石鏃３点、削器１点、加工痕のある剥片２点、石核１点、その他の剥片156点である。床面直上からは石鏃１点、削器１点、加工痕のある剥片１点が出土した。いずれも黒曜石製であり、前者２点は神津島恩馳島群、後者１点は産地判別不可であった。その他の石器は覆土の中・上層から出土した。礫は３点出土した。

遺物は住居跡北西部に偏在する。そのほとんどが覆土上層から中層で出土しており、本遺構に直接伴うものかどうか明確ではないが、すべて同一時期の所産と考えられることから、本遺構は早期末打越式期に位置づけておきたい。

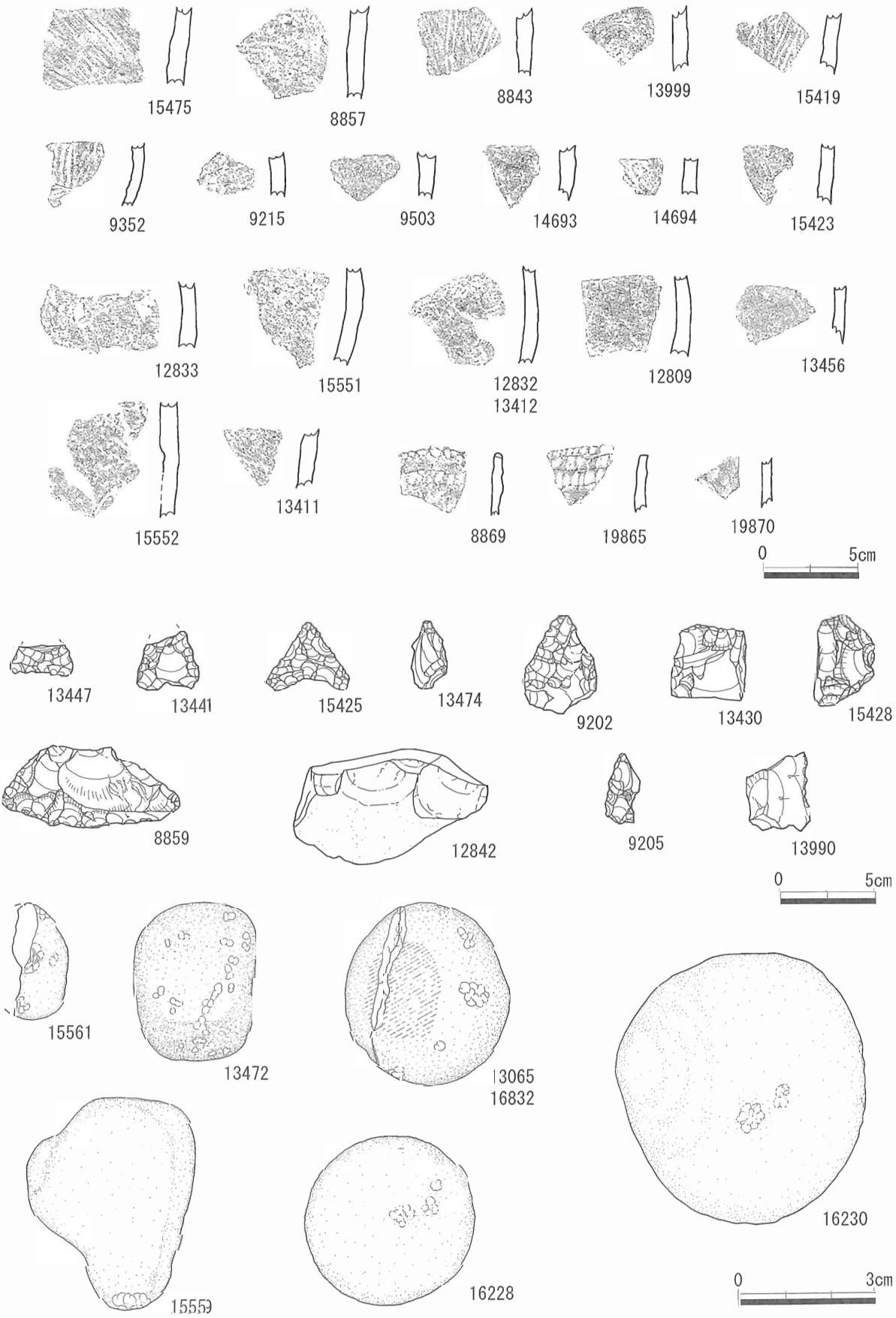
１号竪穴状遺構(TA01)



1　暗褐色土（10YR3/3）　φ1～2mmの赤色スコリアを含む。少量の炭化物が混じる。
2　暗褐色土（10YR3/3）　φ1～5mmの赤色スコリアを含む。炭化物が多量に混じる。
3　暗褐色土（10YR3/4）　φ1～10mmの赤色スコリアを含む。炭化物が多量に混じる。
4　褐色土　（10YR4/4）　φ1～2mmの赤色スコリアを含む。炭化物が混じる。
5　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒、炭化物が混じる。

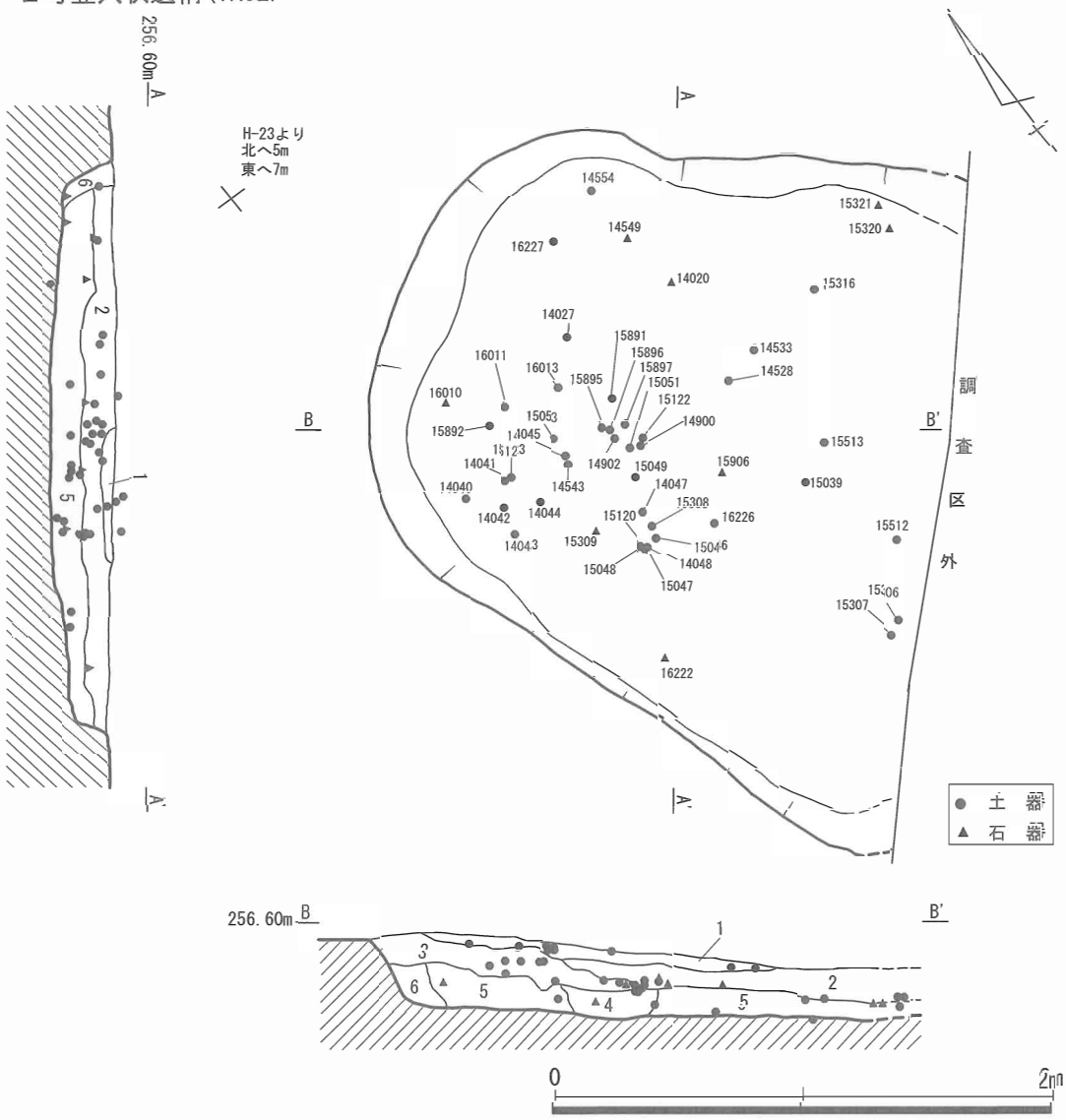


第52図　１号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物(1)



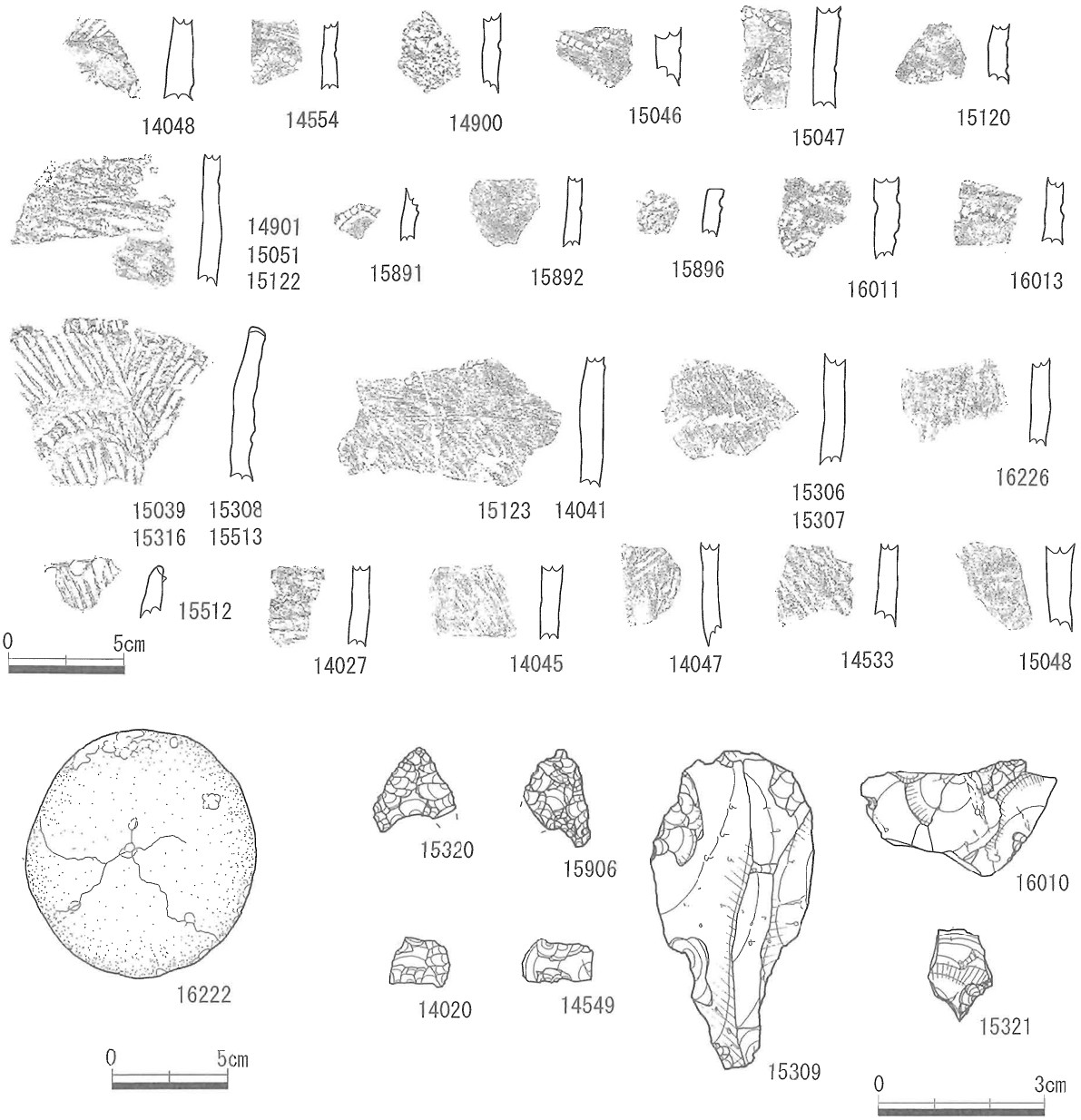
第53図　１号竪穴状遺構出土遺物(2)

２号竪穴状遺構(TA02)



1　暗褐色土　(10YR3/3)　φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。微量の焼土粒、炭化物が混じる。
2　暗褐色土　(10YR3/4)　φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。焼土粒、炭化物が少量混じる。
3　暗褐色土　(10YR3/3)　φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。焼土粒、炭化物が多量に混じる。
4　黒褐色土　(10YR2/3)　焼土粒、炭化物が混じる。
5　暗褐色土　(7.5YR3/3)　φ1～2㎜の赤色スコリアを微量含む。焼土粒、炭化物が少量混じる。
6　暗褐色土　(7.5YR3/3)　φ1～2㎜の赤色スコリアを含む。微量の焼土粒、炭化物が混じる。漸移層に相当。

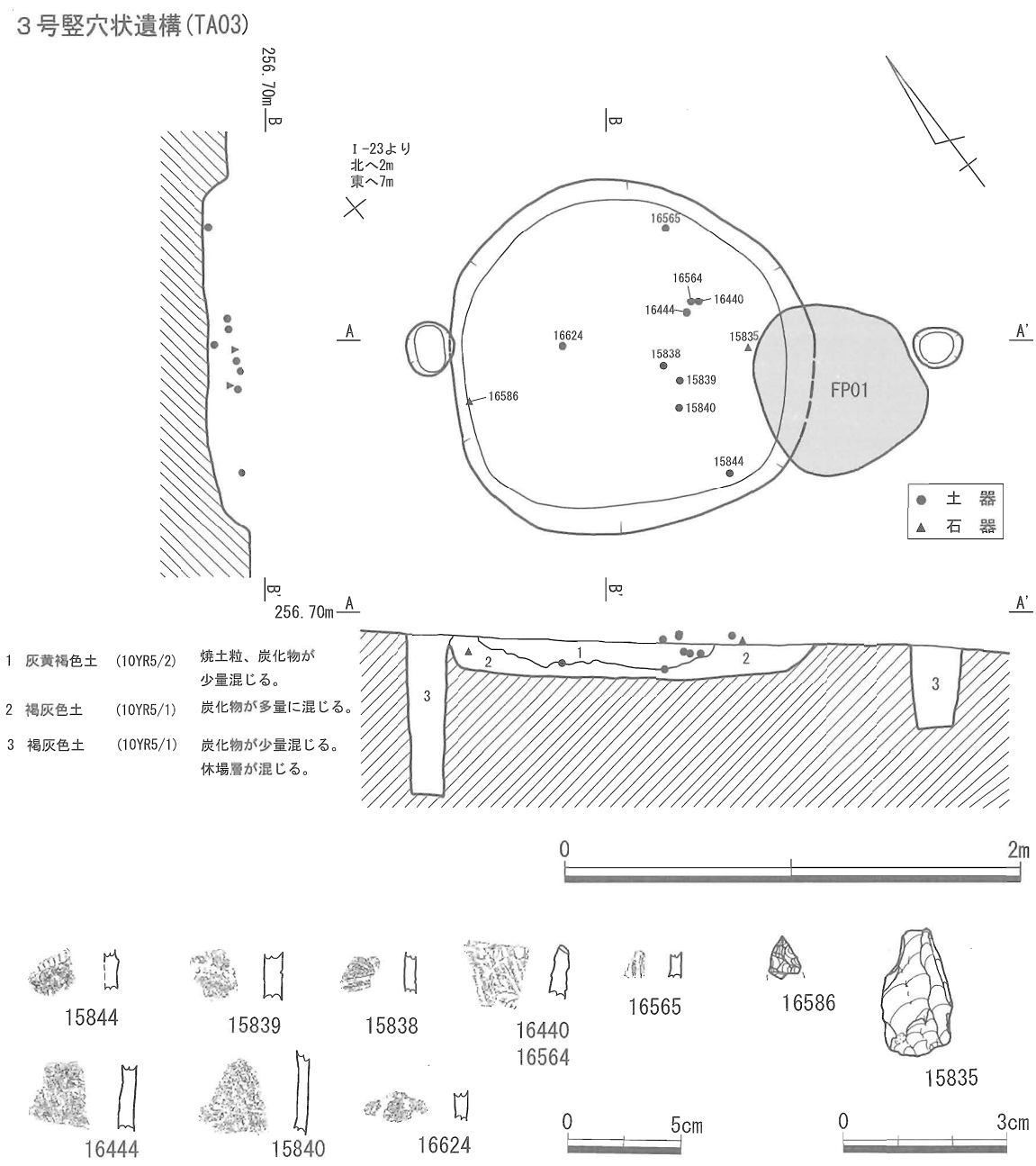
第54図　２号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物(1)



第55図　２号竪穴状遺構出土遺物(2)

(3)　３号竪穴状遺構（TA03）（第56図）

３号竪穴状遺構は調査区東側のI-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.70mである。平面形態は円形を呈し、長軸1.60m、短軸1.55mを測る。残存する壁の高さは最高16cmである。床面はほぼ平坦、全体的に軟弱である。柱穴は検出されなかった。本遺構を挟むように隣接してピットが２基検出された。深いほうは径20cm、深さ70cmを測る。この２つのピットは近接していることから本遺構で扱うが、別の時期のものである可能性はある。また、本遺構南東側には１号焼土跡（FP01）がある。１号焼土は３号竪穴状遺構の壁を一部切っていること、１号焼土跡を完掘した後、周辺を全体的に下げたところで３号竪穴状遺構が検出されたことなどから、遺構の構築順序は３号竪穴状遺構→１号焼土跡の順番であったと考える。本遺構の覆土はピットを含めると３層に分けられる。



第56図　３号竪穴状遺構遺物出土状況及び出土遺物

出土遺物については土器片が18点出土した。床面直上からは第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器あるいは並行期土器の無文胴部、第Ⅲ群Ｂ類４種東海系土器の無文胴部が出土した。覆土の中・上層からは第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｂ条痕文土器、第Ⅲ群Ａ類３種ｆ無文胴部、第Ⅲ群Ｃ類の石山式併行期の土器が出土した。その第Ⅲ群Ｃ類とした15840、16624だが、薄手であり、第Ⅲ群Ｃ類の典型例とは少し異なっている。

石器は28点出土した。石鏃１点、楔形石器１点はともに黒曜石製で、その他剥片26点である。製品石器は覆土の中・上層から出土している。16586の石鏃は産地不明、15835の楔形石器は神津島恩馳島群。

礫は１点出土した。

遺物の多くが覆土中・上層から出土しており、本遺構に直接伴うものであるかどうか明確ではないが、すべて同一時期の所産と考えられることから、本遺構は早期末打越式期に位置づけておきたい。

土坑に関して

調査時には人為的に掘り込まれた遺構を、略号SFとして遺構認定を行った。調査の結果SFは１～32まで検出されたが、報告書刊行にあたりこれらを「陥穴状土坑」、「土坑」、「小穴」、「円形土坑」に分類した。陥穴状土坑は長軸が２メートル弱で長方形を呈するものをこれに該当させた。土坑と小穴はともに楕円形をとるが、長軸が70㎝程度を超えるものを土坑、それ以外を小穴とし、それぞれに該当させた。円形土坑はいわゆる中世土坑と呼ばれるもので、弥生時代以降の遺構とした。

３．陥穴状土坑（第57図～第62図）

陥穴状土坑は計９基検出した。崩落していた南東側緩斜面地を除いて、遺跡内全域に認められた。検出面は縄文層から漸移層である。形態は長楕円形を呈し、検出面での平均規模は長軸２ｍ、短軸１ｍ、深さ0.9ｍを測る。すべて、形態・規模・長軸方向（東西）に共通性が認められるが、逆茂木を持つと思われるものとそうでないものに分けられる。逆茂木を持つものは１号、８号、９号である。その他のものについては検出されなかった。しかし先述のような共通性があることから他のものにも逆茂木があった可能性は否定できない。

９基の中には、遺物を伴うものと、まったくあるいはごく少数しか伴わないものとがある。特に調査区東側丘陵頂部の集落域周辺では、土坑検出面直上の遺物包含層には多くの遺物があるにもかかわらず、遺物が入り込んでいるものとそうでないものとがあることは注目したい。遺物が多く入り込んでいる陥穴状土坑は１号、２号、９号であり、あまり入り込んでいないものは３号、４号である。入り込んでいないものは逆茂木を検出することが出来なかった。埋没時期、あるいは何らかの用途の違いを考えさせる資料である。

調査区中央に入り込む谷では谷頭を囲むように集中的に分布する。その類似性と覆土の堆積状況、また覆土に打越式土器が含まれるものがあることから、すべて早期末葉をそう下らない時期に位置づけられるものと思われる。

１号陥穴状土坑から９号陥穴状土坑は集落周辺の調査区東側から西側への順序で番号をふった。９号陥穴状土坑は出土土器から若干時期が新しいことが予想されるため遺構番号を後ろにしたが、時期は他の土坑や住居跡と大きく隔たりがあるものではないと考える。

⑴　１号陥穴状土坑（第57図　SF01）

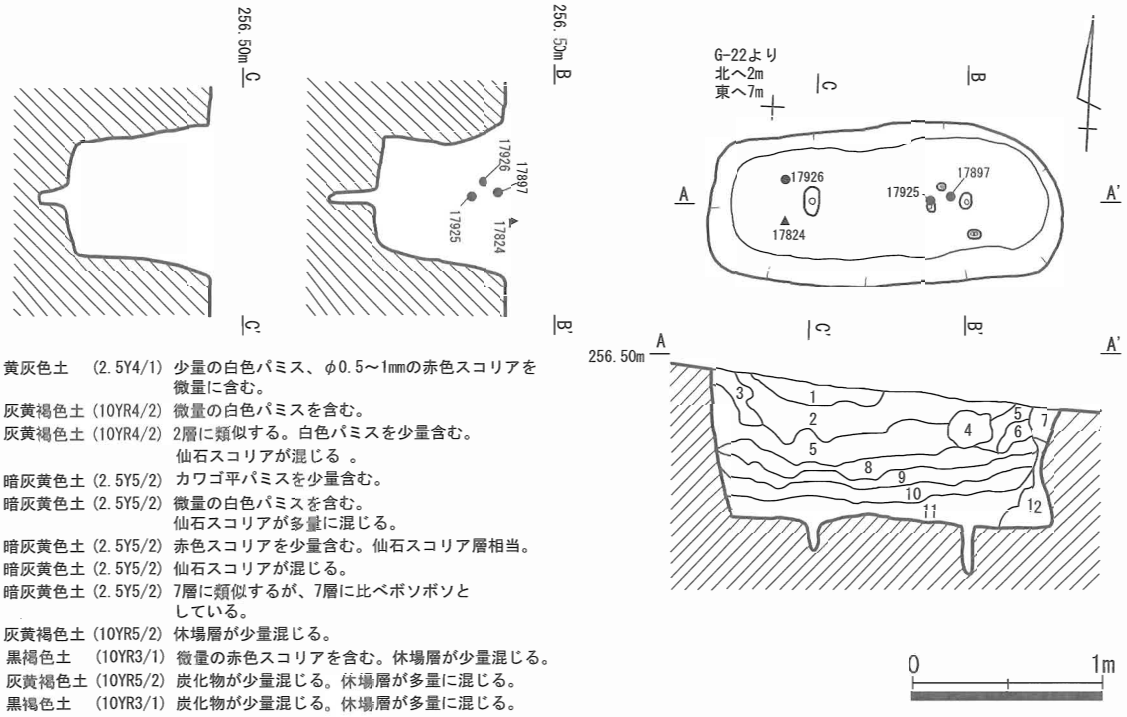
１号陥穴状土坑は調査区東側のG-022グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。住居跡のあるところからは南東に位置する。遺構検出面は標準土層５・６層の混層で、標高は256.50ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸1.87ｍ、短軸0.85ｍ、深さは0.90ｍを測る。覆土は12層に分層され、１層から８層はカワゴ平パミス包含層から仙石スコリア包含層に、９層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部には計５基の小さいピットが検出された。逆茂木を設置したものであったと思われる。ピットは計８㎝、深さ25㎝を測る.

覆土中より出土した遺物は土器７点、石器９点、礫２点であった。土器３点、石器１点を図示する。土器３点はともに早期末葉に位置づけられる。石鏃は神津島恩馳島群の黒曜石製である。

⑵　２号陥穴状土坑（第57～58図　SF04）

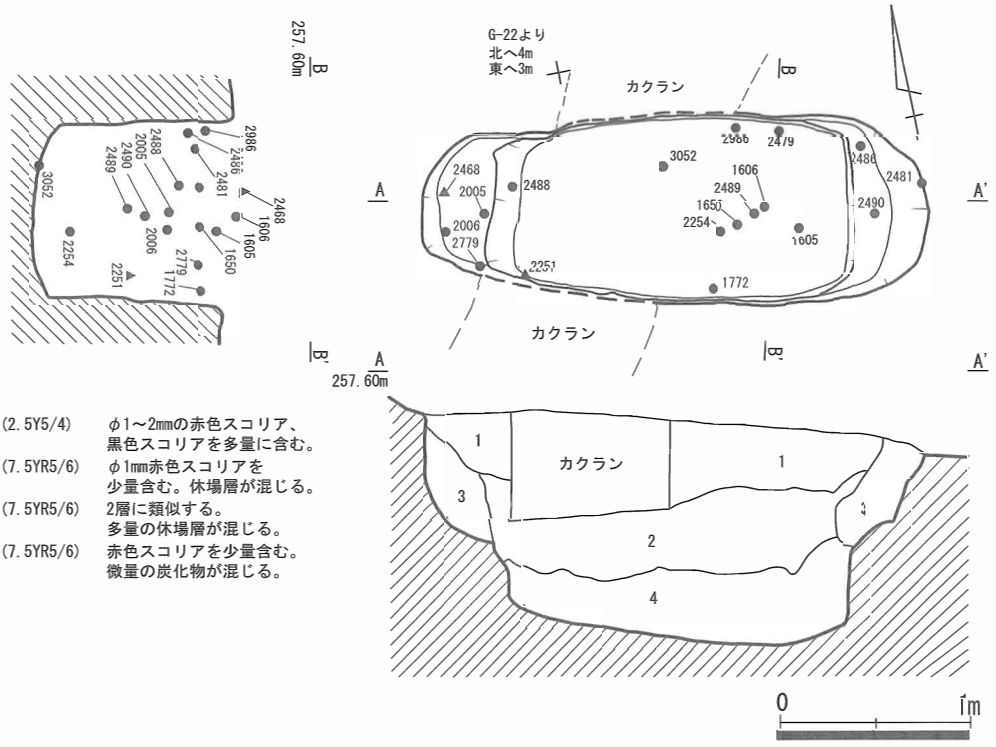
２号陥穴状土坑は調査区東側のG-022グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。住居跡のあるところからは南東に位置する。遺構検出面は標準土層５・６層の混層で、標高は257.60ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸2.65ｍ、短軸1.00ｍ、深さは1.15ｍを測る。覆土は４層に分層され、

1号陥穴状土坑(SF01)



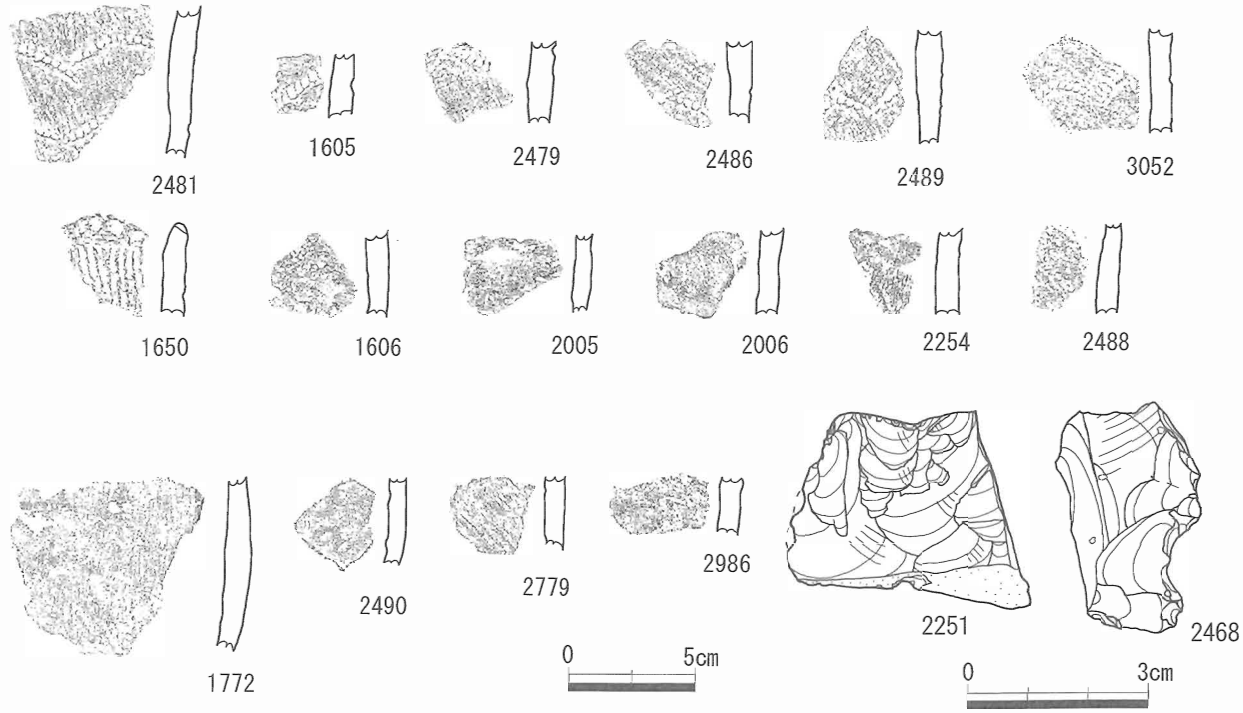
1　黄灰色土　(2.5Y4/1)　少量の白色パミス、φ0.5～1mmの赤色スコリアを微量に含む。
2　灰黄褐色土 (10YR4/2)　微量の白色パミスを含む。
3　灰黄褐色土 (10YR4/2)　2層に類似する。白色パミスを少量含む。仙石スコリアが混じる 。
4　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　カワゴ平パミスを少量含む。
5　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　微量の白色パミスを含む。仙石スコリアが多量に混じる。
6　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　赤色スコリアを少量含む。仙石スコリア層相当。
7　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　仙石スコリアが混じる。
8　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　7層に類似するが、7層に比べボソボソとしている。
9　灰黄褐色土 (10YR5/2)　休場層が少量混じる。
10　黒褐色土　(10YR3/1)　微量の赤色スコリアを含む。休場層が少量混じる。
11　灰黄褐色土 (10YR5/2)　炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。
12　黒褐色土　(10YR3/1)　炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。

2号陥穴状土坑(SF04)



1　黄褐色土 (2.5Y5/4)　φ1～2mmの赤色スコリア、黒色スコリアを多量に含む。
2　明褐色土 (7.5YR5/6)　φ1mm赤色スコリアを少量含む。休場層が混じる。
3　明褐色土 (7.5YR5/6)　2層に類似する。多量の休場層が混じる。
4　明褐色土 (7.5YR5/6)　赤色スコリアを少量含む。微量の炭化物が混じる。

第57図　陥穴状土坑(1)及び出土遺物



第58図　２号陥穴状土坑出土遺物

１層は仙石スコリア包含層に、３層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部にピットは検出されなかった。本遺構上には耕作による撹乱があり、南北の壁面を一部破壊している。東西端に段があるような形状であるが、これは地山の崩落によるものであり、構築当初の形状ではないと考える。

覆土中より出土した遺物は土器39点、石器23点、礫４点であった。土器16点、石器２点を図示する。土器はすべてが早期末葉に属すると思われる。石器2点のうち、2468は黒曜石製の削器である。神津島恩馳島群。2251はチャート製の使用痕のある剥片である。

⑶　３号陥穴状土坑（第59図　SF02）

３号陥穴状土坑は調査区東側のF-021グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。住居跡のあるところからは南東に位置する。遺構検出面は標準土層５・６層の混層で、標高は257.00mである。平面形状は長方形を呈し、長軸1.91m、短軸0.85m、深さは1.75mを測る。本遺跡の中では陥穴状土坑としてはもっとも深いものである。覆土は６層に分層され、１層、２層は仙石スコリア包含層に、３層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部にピットは検出されなかった。

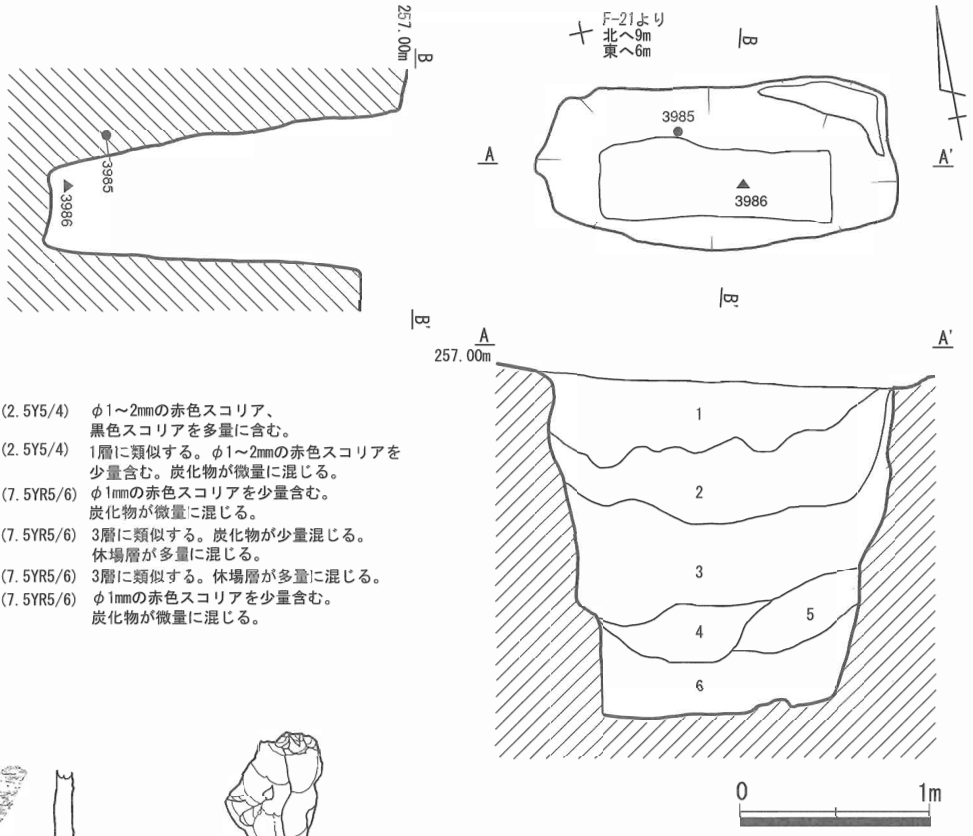
覆土中より出土した遺物は土器２点、石器１点であった。土器１点、石器１点を図示する。

土器は早期末葉に属するものである。3986は黒曜石製の楔形石器である。神津島恩馳島群。

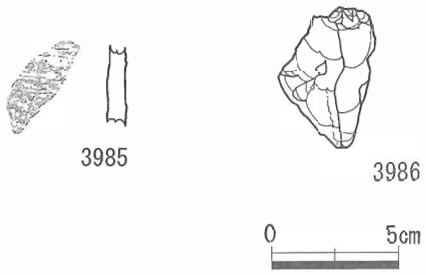
⑷　４号陥穴状土坑（第59図　SF03）

４号陥穴状土坑は調査区東側のI-023グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。住居跡のあるところからは北に位置し、３号住居跡、７号住居跡北側に隣接する。遺構検出面は標準土層５・６層の混層で、標高は257.60mである。平面形状は長方形を呈し、長軸2.10m、短軸0.70m、深さは0.92mを測る。覆土は２層に分層され、ともに仙石スコリア包含層に相当する点は他の土坑と様子を異にする。底部にピットは検出されなかった。覆土中より出土した遺物は土器２点、石器１点であった。出土は覆土の上層である。土器はいずれも無文、石器は黒曜石の微細な剥片であったため、図化しなかった。

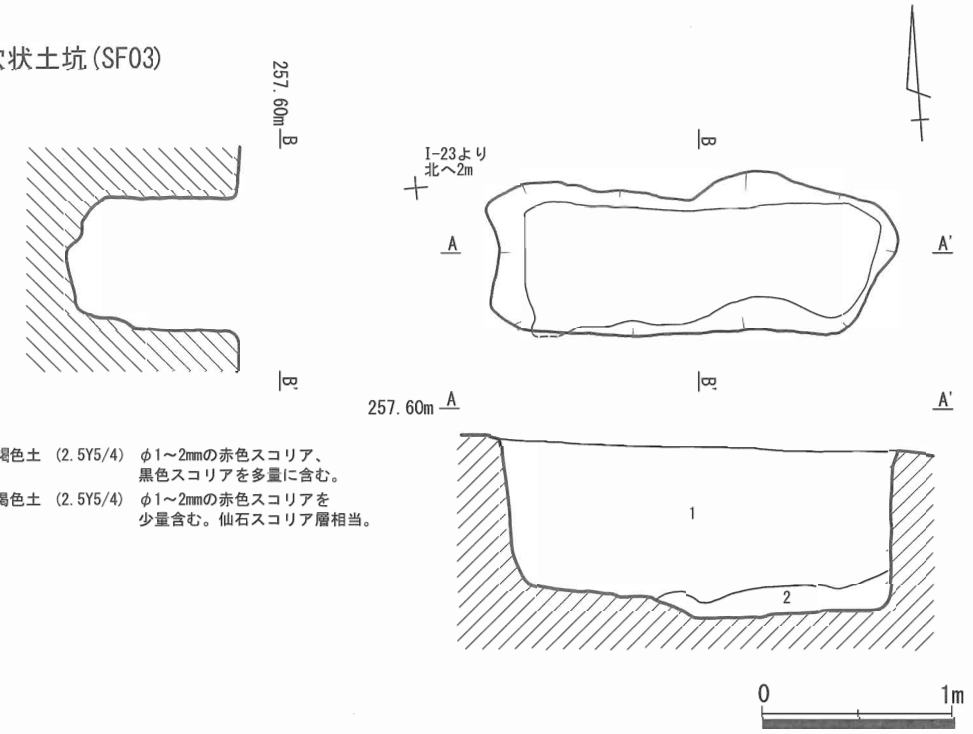
3号陥穴状土坑(SF02)



1　黄褐色土　(2.5Y5/4)　φ1～2mmの赤色スコリア、黒色スコリアを多量に含む。
2　黄褐色土　(2.5Y5/4)　1層に類似する。φ1～2mmの赤色スコリアを少量含む。炭化物が微量に混じる。
3　明褐色土　(7.5YR5/6)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。炭化物が微量に混じる。
4　明褐色土　(7.5YR5/6)　3層に類似する。炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。
5　明褐色土　(7.5YR5/6)　3層に類似する。休場層が多量に混じる。
6　明褐色土　(7.5YR5/6)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。炭化物が微量に混じる。



4号陥穴状土坑(SF03)



1　黄褐色土　(2.5Y5/4)　φ1～2mmの赤色スコリア、黒色スコリアを多量に含む。
2　黄褐色土　(2.5Y5/4)　φ1～2mmの赤色スコリアを少量含む。仙石スコリア層相当。

第59図　陥穴状土坑(2)及び出土遺物

本遺構検出位置上層の遺物包含層には多くの土器片や剥片を中心とした石器が出土している。しかし、覆土にはほとんど遺物が含まれていないことから他との埋没過程の違いを予想させる。

⑸　５号陥穴状土坑（第60図　SF24）

５号陥穴状土坑は調査区中央F-013グリッドに位置し、埋没谷東側に占地する。６号陥穴状土坑（SF25）と南北並行して設置されている。遺構検出面は漸移層で、標高は253.20ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸2.21m、短軸1.05m、深さは1.10ｍを測る。覆土は８層に分層され、１層は仙石スコリア包含層に、２層および４層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部にピットは検出されなかった。

土坑より遺物は出土しなかった。６号陥穴状土坑と平面形状や大きさが類似し、立地も近接している。

⑹　６号陥穴状土坑（第60図　SF25）

６号陥穴状土坑は調査区中央F-013グリッドに位置し、埋没谷東側に占地する。５号陥穴状土坑（SF24）と南北並行して設置されている。遺構検出面は漸移層で、標高は253.60ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸2.30m、短軸1.05m、深さは1.05ｍを測る。覆土は８層に分層され、１層は仙石スコリア包含層に、２層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部にピットは検出されなかった。遺物は底部付近より礫が１点出土した。５号陥穴状土坑と平面形状や大きさが類似し、立地も近接している。

⑺　７号陥穴状土坑（第61図　SF26）

７号陥穴状土坑は調査区中央付近G-010グリッドに位置し、埋没谷西側に占地する。遺構検出面は漸移層で、標高は256.00ｍである。平面形状は不整形な隅丸長方形を呈していたと推測される。検出した当初、北壁西側が崩落によると思われる張り出した形のプランであり、東側についてははっきりと確認することが出来なかった。そのために半裁の設定を誤り、壁面を壊してしまった。長軸は推定1.90m、短軸1.10m、深さは0.70ｍを測る。覆土は４層に分層され、１層はカワゴ平パミス包含層に、２層は仙石スコリア包含層に、３層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部にピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

⑻　８号陥穴状土坑（第61図　SF27）

８号陥穴状土坑は調査区中央付近G-013グリッドに位置し、埋没谷頭東側に占地する。遺構検出面は漸移層で、標高は254.00ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸2.10m、短軸1.02m、深さは1.25ｍを測る。覆土は５層に分層され、１層はカワゴ平パミス包含層に、２層は仙石スコリア包含層に、３層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部には計９基の小さいピットが検出された。逆茂木を設置したものであったと思われる。ピットは径４㎝、深さ40㎝を測る。

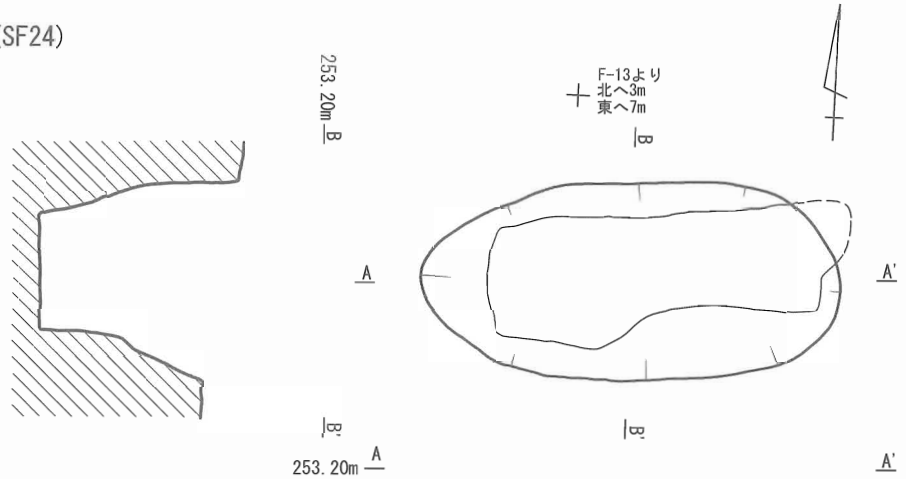
遺物は貝殻腹縁文土器１点が覆土中上層より出土した。

⑼　９号陥穴状土坑（第62図　SF23）

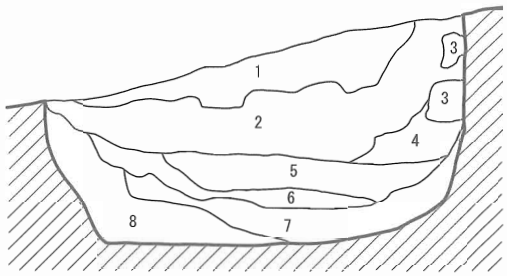
９号陥穴状土坑は調査区東側のG-021グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。住居跡のあるところからは南東に位置する。遺構検出面は漸移層で、標高は257.10ｍである。平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸1.94m、短軸1.03m、深さは0.80ｍを測る。覆土は７層に分層され、１層はカワゴ平パミス包含層に、２層は仙石スコリア包含層に、３層以下は標準土層５・６層の混層に相当する。底部には４基のピットが検出された。径12㎝、深さ28㎝を測る。

覆土中より出土した遺物は土器８点、石器９点、礫７点であった。土器８点、石器４点を図示する。

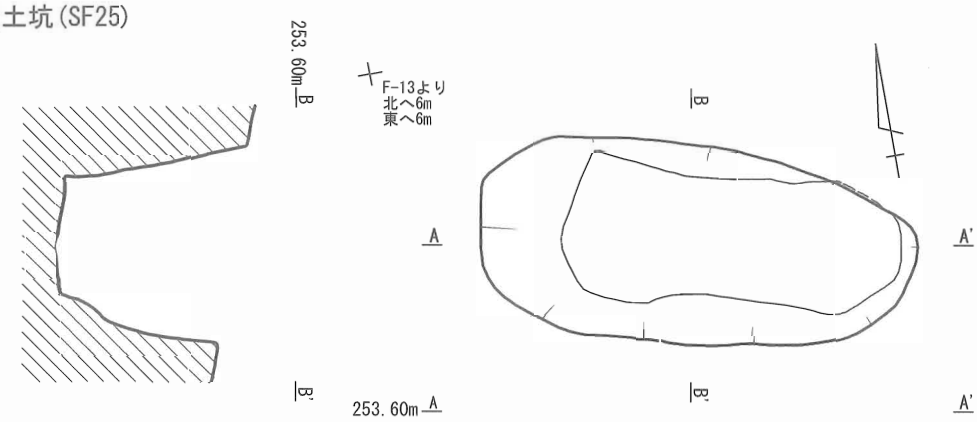
５号陥穴状土坑(SF24)



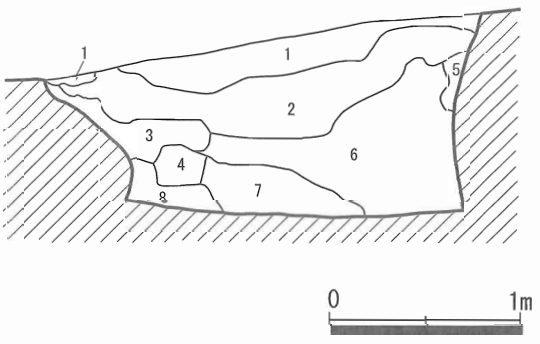
1　黄褐色土　(2.5Y5/4)　少量の白色パミス、φ1mmの赤色スコリアを多量に含む。
2　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　微量の白色パミスを含む。炭化物が少量混じる。
3　明黄褐色土 (2.5Y7/6)　休場層のブロック。
4　暗灰黄色土 (2.5Y5/2)　2層に類似する。休場層が多量に混じる。
5　黄褐色土　(2.5Y5/4)　炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。
6　灰黄褐色土 (10YR5/2)　休場層が混じる。
7　明黄褐色土 (2.5Y7/6)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。休場層が多量に混じる。
8　黄褐色土　(2.5Y5/4)　休場層が混ざり、ボソボソとしている。



６号陥穴状土坑(SF25)

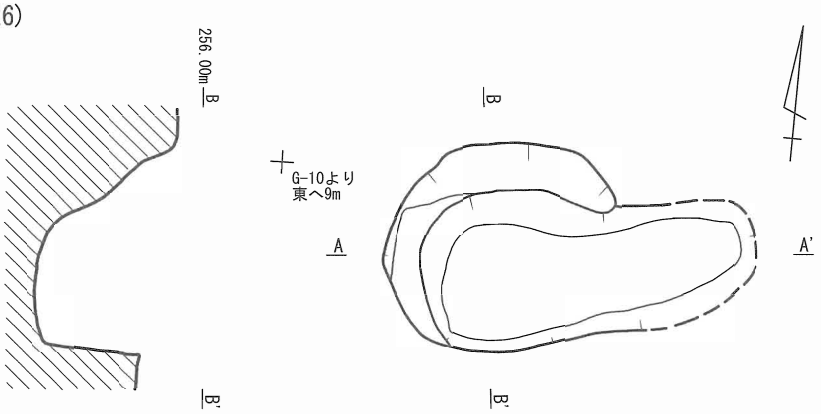


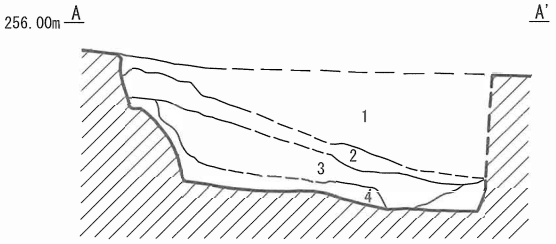
1　黄褐色土　(2.5Y5/3)　少量の白色パミスを含む。微量の炭化物が混じる。
2　暗灰黄色土 (2.5Y4/2)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。微量の炭化物が混じる。
3　明黄褐色土 (2.5Y6/6)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。休場層が多量に混じる崩落土。
4　暗灰黄色土 (2.5Y4/2)　φ1mmの赤色スコリアを少量含む。
5　明黄褐色土 (2.5Y6/6)　3層に類似する。炭化物が少量混じる。崩落土。
6　暗灰黄色土 (2.5Y4/2)　炭化物が少量混じる。
7　明黄褐色土 (2.5Y6/6)　3層に類似する。崩落土。
8　明黄褐色土 (2.5Y6/6)　3層に類似するが、しまり弱く、ボソボソとしている。崩落土。



第60図　陥穴状土坑(3)

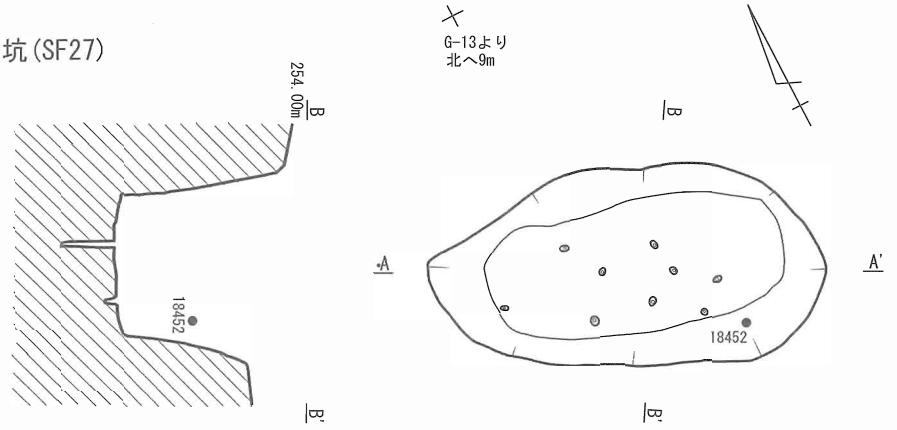
７号陥穴状土坑(SF26)

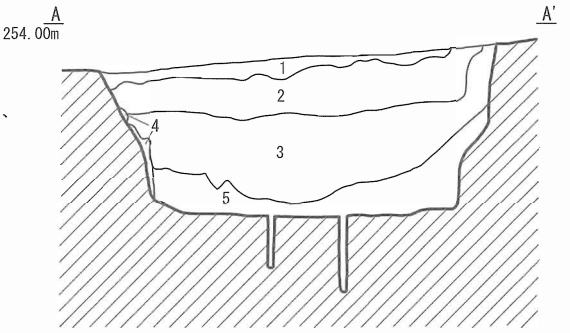




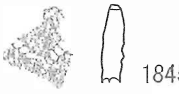
1　浅黄色土　(2.5Y7/4)　白色パミス、φ0.5㎜の赤色スコリアを少量含む。
2　にぶい黄色土　(2.5Y6/4)　1層に類似する。白色パミス、φ0.5㎜の赤色スコリアをごく少量含む。
3　灰黄褐色土　(10YR4/2)　φ0.5㎜の赤色スコリアを少量含む。微量の炭化物が混じる。
4　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　3層に類似する。休場層が少量混じる。

８号陥穴状土坑(SF27)





1　浅黄色土　(2.5Y7/4)　白色パミス、φ0.5㎜の赤色スコリアを少量含む。
2　にぶい黄色土　(2.5Y6/4)　1層に類似する。白色パミス、φ0.5㎜の赤色スコリアをごく少量含む。
3　灰黄褐色土　(10YR4/2)　φ0.5㎜の赤色スコリアを少量含む。微量の炭化物が混じる。
4　にぶい黄褐色土　(10YR4/3)　3層に類似する。暗褐色土に休場層が少量混じる。
5　黄橙色土　(10YR7/8)　休場層が多量に混じる。

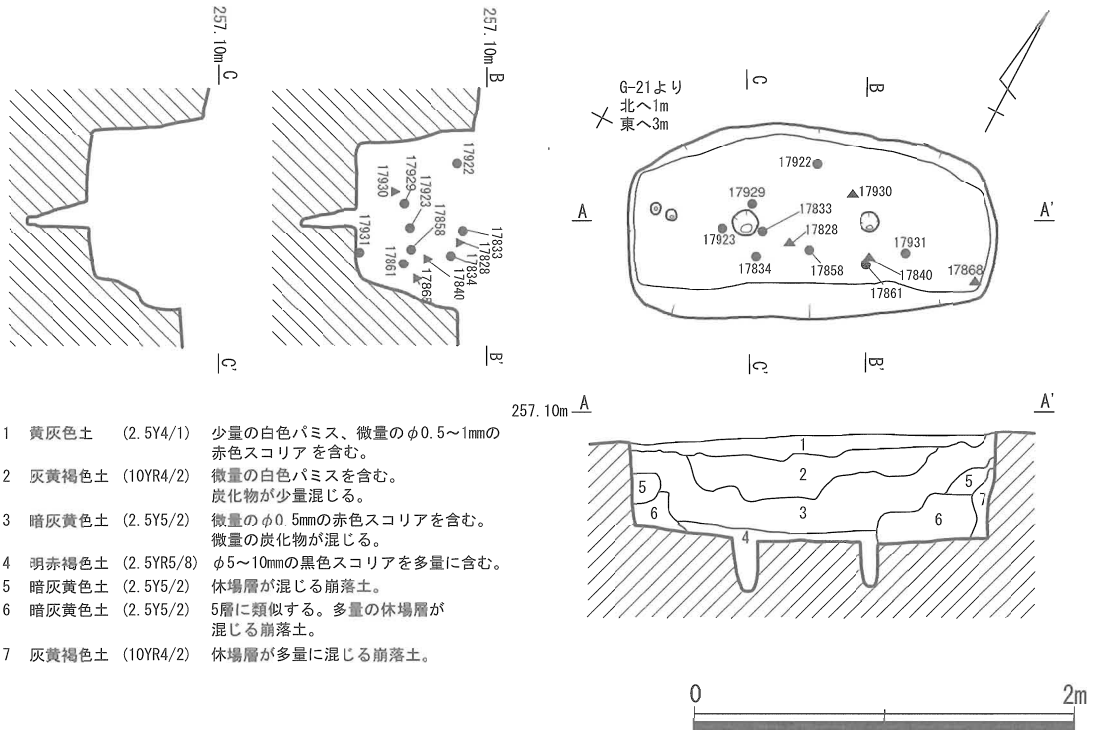


0　5㎝

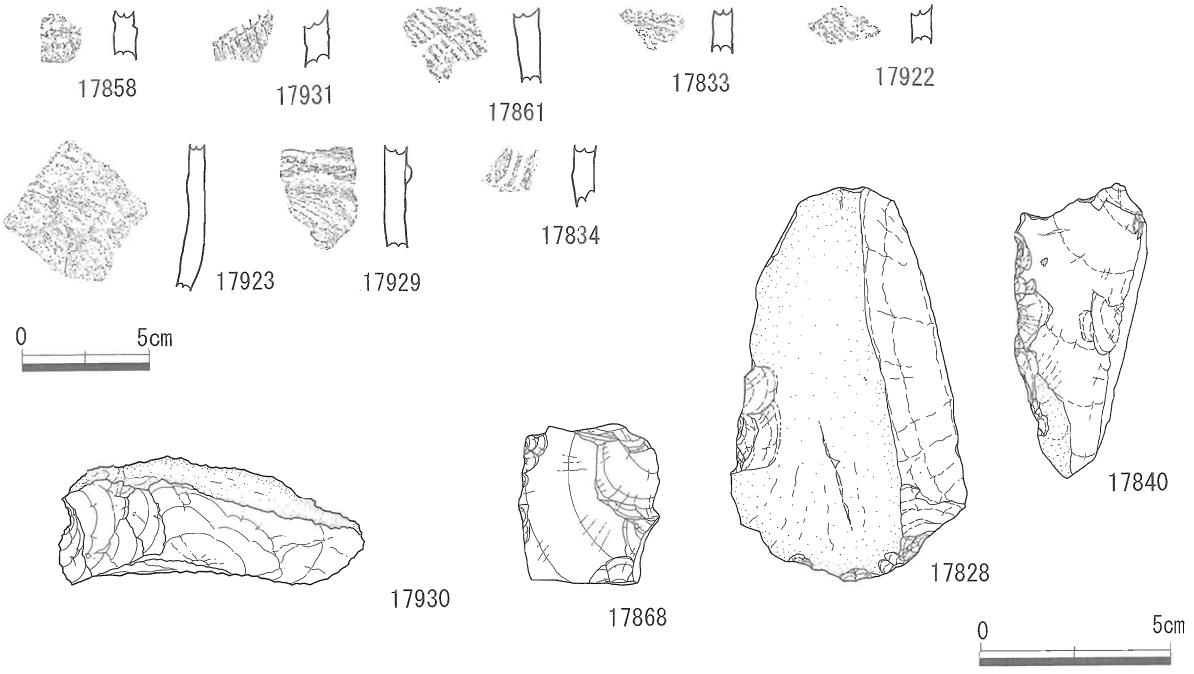
0　2m

第61図　陥穴状土坑(4)及び出土遺物

９号陥穴状土坑(SF23)



1　黄灰色土　(2.5Y4/1)　少量の白色パミス、微量のφ0.5～1mmの赤色スコリアを含む。
2　灰黄褐色土　(10YR4/2)　微量の白色パミスを含む。炭化物が少量混じる。
3　暗灰黄色土　(2.5Y5/2)　微量のφ0.5mmの赤色スコリアを含む。微量の炭化物が混じる。
4　明赤褐色土　(2.5YR5/8)　φ5～10mmの黒色スコリアを多量に含む。
5　暗灰黄色土　(2.5Y5/2)　休場層が混じる崩落土。
6　暗灰黄色土　(2.5Y5/2)　5層に類似する。多量の休場層が混じる崩落土。
7　灰黄褐色土　(10YR4/2)　休場層が多量に混じる崩落土。



第62図　陥穴状土坑(5)及び出土遺物

土器はすべて、早期末葉に帰属すると思われるが、17929は第Ⅲ群Ａ類４種神之木台式土器である。横位に断面かまぼこ状の隆帯が貼付されており、その下部に貝殻条痕文が斜位に施されている。神之木台式の検出は本遺跡では稀少である。17858、17931などの打越式土器と共伴し、注目される。

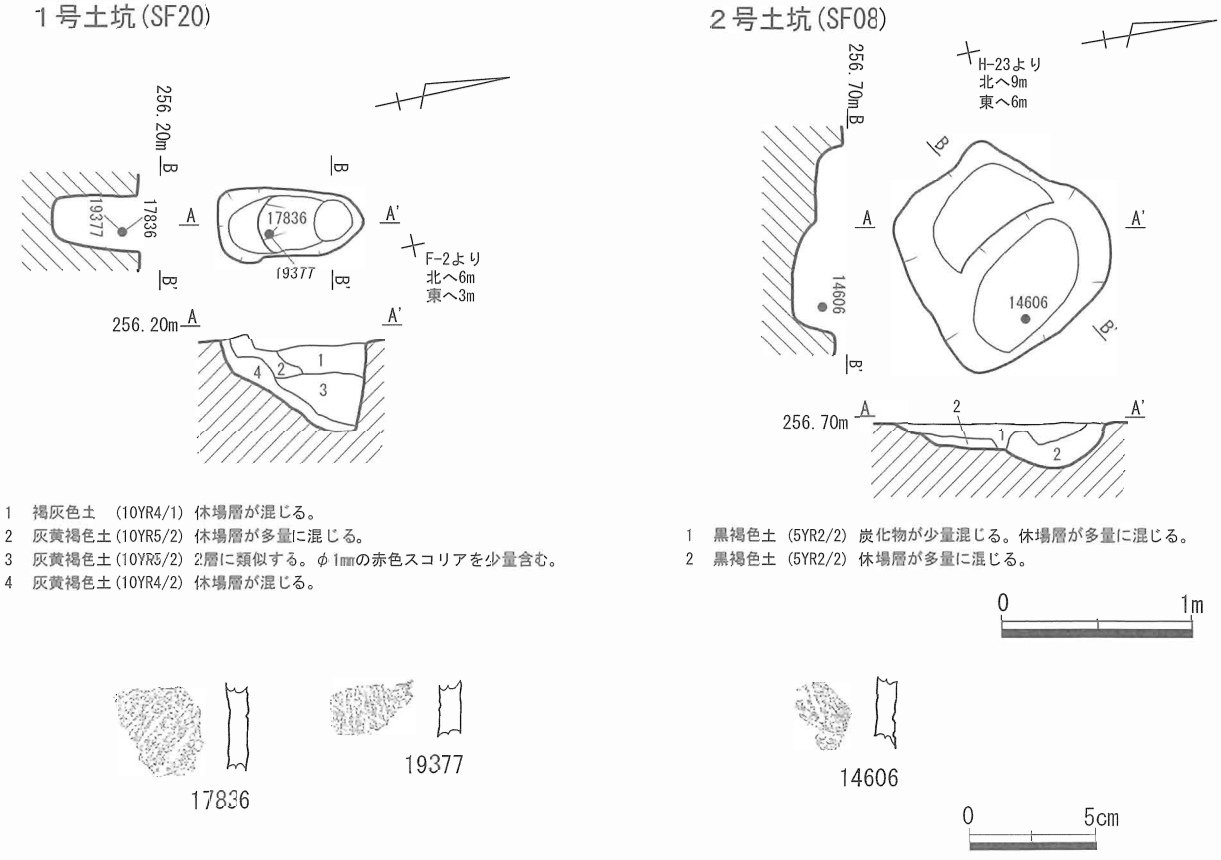
石器は、削器が３点出土している。17828は細粒安山岩製、17840はガラス質黒色安山岩製、17868は輝石安山岩製である。また、17930はガラス質黒色安山岩製の剥片であるが、G-022グリッド遺物包含層出土の打製石斧（遺物番号7987）と接合した。

４．土坑・小穴

調査区全域において用途不明の土坑・小穴が19基検出された。ここでは集落の存在した調査区東側から、また比較的小さいものから並べて図示した。遺物を伴うものは少ない。遺物が少ないため、正確な時期はわからないが、覆土は多くが標準土層５・６層の混層であることから縄文時代早期末葉として大きく隔たりがないと考える。なお検出面が休場層上層のものもあるが、本来の掘り込み面は他の遺構と同じように標準土層５・６層の混層中にあったと考えられる。

第24表　土坑・小穴一覧

遺構番号	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	備　　考　(出土遺物他)
１号土坑	YLU層	0.76	0.36	0.45	土器4点(ⅢA3f)、石器2点(剥片)、礫2点
２号土坑	Zn層	1.00	0.95	0.25	土器2点(ⅢA1c)、石器12点(剥片)、礫1点。1号住居跡に隣接する。
３号土坑	AN～FB層	1.04	1.01	0.25	
４号土坑	AN～FB層	0.97	0.72	0.70	
５号土坑	YLU層	(0.98)	0.90	0.38	一部テストピットにかかる。
６号土坑	Zn層	0.89	0.66	0.17	
１号小穴	YLU層	0.20	0.20	0.23	
２号小穴	YLU層	0.18	0.15	0.49	
３号小穴	YLU層	0.19	0.15	0.20	
４号小穴	YLU層	0.23	0.20	0.20	
５号小穴	YLU層	0.23	0.20	0.35	
６号小穴	YLU層	0.21	0.18	0.20	
７号小穴	YLU層	0.23	0.21	0.20	
８号小穴	Zn層	0.48	0.40	0.35	
９号小穴	YLU層	0.43	0.37	0.41	
10号小穴	YLU層	0.35	0.35	0.38	土器1点(ⅢA1c)
11号小穴	Zn層	0.31	0.27	0.30	
12号小穴	Zn層	0.35	0.35	0.24	
13号小穴	Zn層	0.45	0.42	0.32	

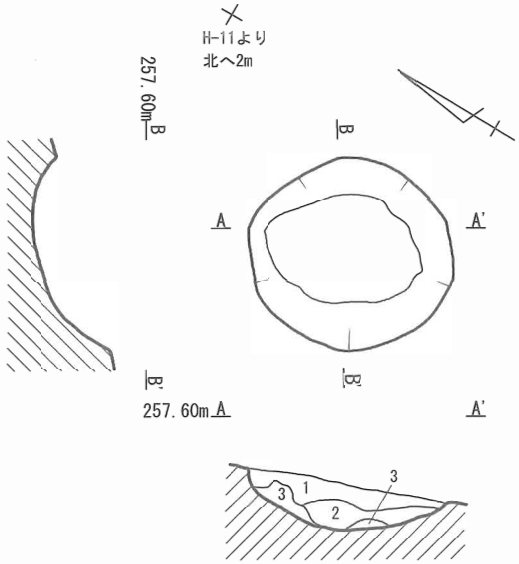


1　褐灰色土　(10YR4/1)　休場層が混じる。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　休場層が多量に混じる。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　2層に類似する。φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　休場層が混じる。

1　黒褐色土　(5YR2/2)　炭化物が少量混じる。休場層が多量に混じる。
2　黒褐色土　(5YR2/2)　休場層が多量に混じる。

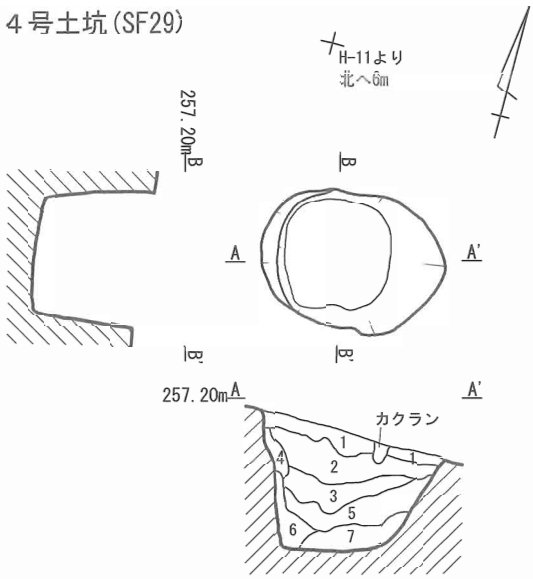
第63図　土坑(1)及び出土遺物

３号土坑(SF28)



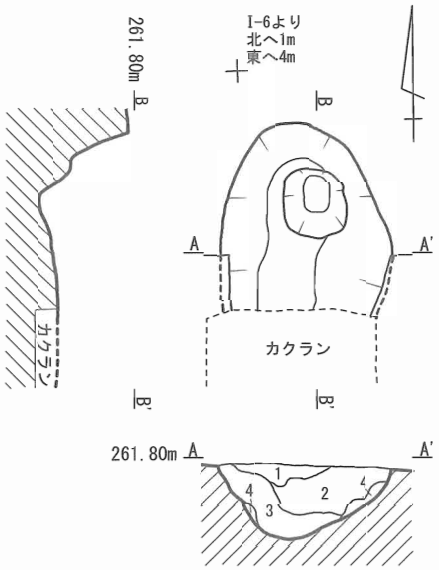
1　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　φ2㎜の黒色スコリア、φ0.5㎜の赤色スコリア、白色パミスを多量に含む。
2　灰黄褐色土　(10YR4/2)　φ0.2～0.5㎜の赤色スコリアを微量に含む。
3　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　φ0.5㎜の赤色スコリアを多量に含む。崩落土。漸移層相当。

４号土坑(SF29)



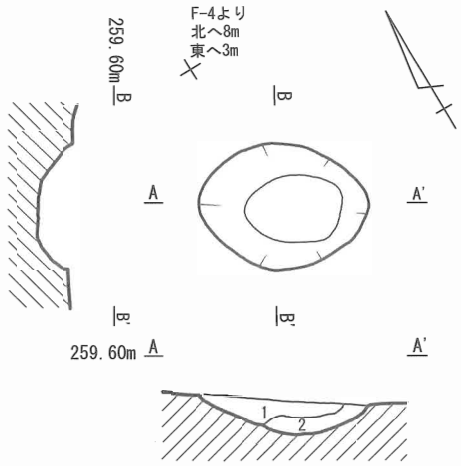
1　暗灰黄褐色土　(2.5Y4/2)　φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。
2　黄褐色土　(2.5Y5/4)　φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。微量の白色パミスを含む。
3　暗褐色土　(10YR3/3)　φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。
4　暗褐色土　(7.5YR3/4)　漸移層相当の崩落土。
5　暗褐色土　(10YR3/3)　φ1㎜の赤色スコリアを多量に含む。
6　暗褐色土　(7.5YR3/4)　微量の炭化物が混じる。漸移層相当の崩落土。
7　暗褐色土　(7.5YR3/4)　微量の焼土粒、少量の炭化物が混じる。漸移層相当の崩落土。

５号土坑(SF30)



1　暗灰黄色土　(2.5Y4/2)　φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。
2　黄褐色土　(2.5Y5/4)　φ1㎜の赤色スコリアを少量、微量の白色パミスを含む。
3　暗褐色土　(10YR3/3)　φ1㎜の赤色スコリアを少量含む。
4　にぶい黄褐色土　(10YR5/4)　地山崩落土。漸移層に相当する。

６号土坑(SF31)

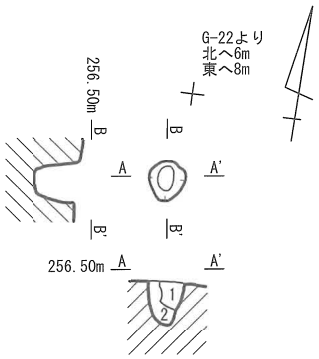


1　褐色土　(7.5YR4/6)　φ2㎜の橙色スコリアを少量含む。休場層が混じる。
2　暗褐色土　(10YR3/3)　φ10㎜の黒色スコリア、φ2～5㎜の橙色スコリアを含む。休場層スコリア1層以下の土が混じる。

0　1m

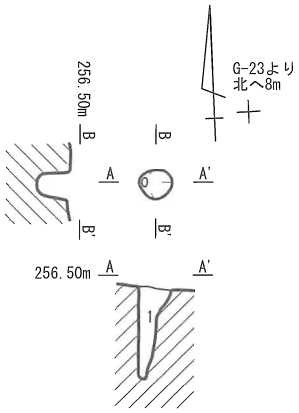
第64図　土　坑(2)

１号小穴(SF14)



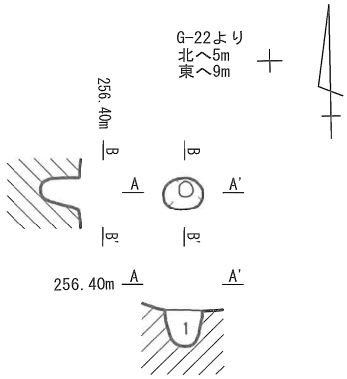
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
休場層が少量混じる。
2 黒褐色土 (2.5Y3/2)
休場層が混じる。

２号小穴(SF15)



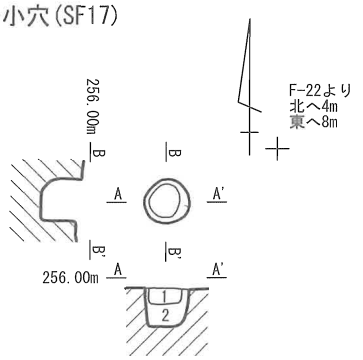
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
休場層が少量混じる。

３号小穴(SF16)



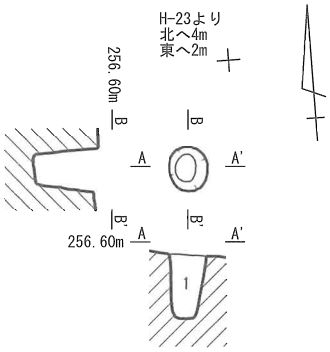
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
休場層が少量混じる。

４号小穴(SF17)



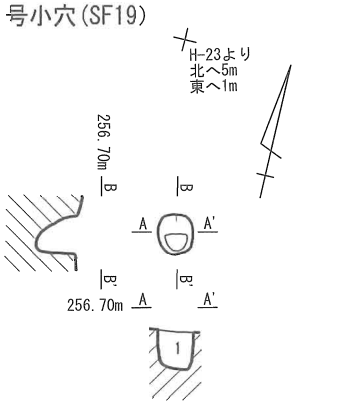
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
休場層が少量混じる。
2 黒褐色土 (2.5Y3/2)
休場層が混じる。

５号小穴(SF18)



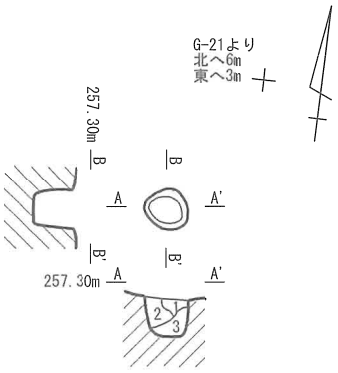
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
φ1mmの赤色スコリアを少量含む。
炭化物が少量混じる。
休場層が少量混じる。

６号小穴(SF19)



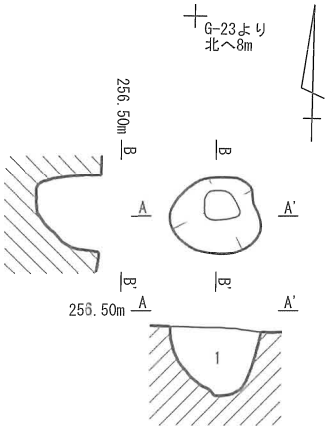
1 黄褐色土 (2.5Y5/4)
φ1mmの赤色スコリアを少量含む。
炭化物が少量混じる。
休場層が少量混じる。

７号小穴(SF22)



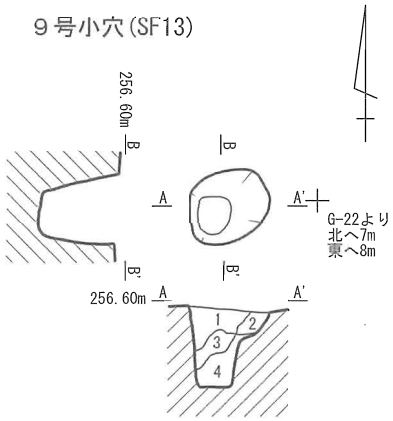
1 灰黄褐色土 (10YR5/2)
微量の炭化物が混じる。
休場層が多量に混じる。
2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
休場層が少量混じる。
3 暗褐色土 (10YR3/3)
φ1mmの赤色スコリアを微量に含む。
微量の炭化物が混じる。
休場層が少量混じる。

８号小穴(SF12)



1 褐灰色土 (10YR5/1)
炭化物が少量混じる。
休場層が混じる。

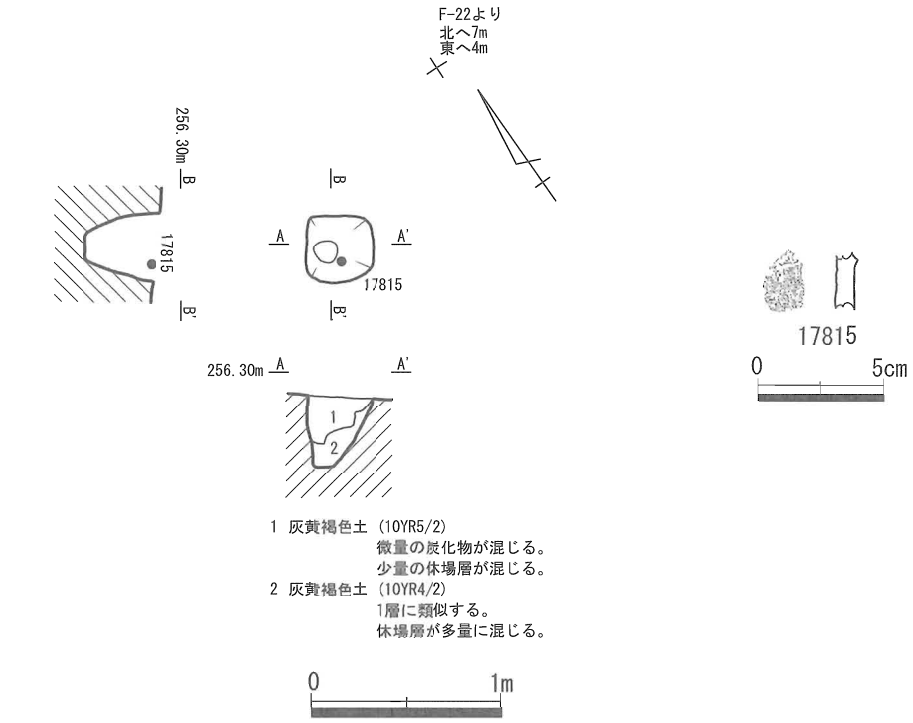
９号小穴(SF13)

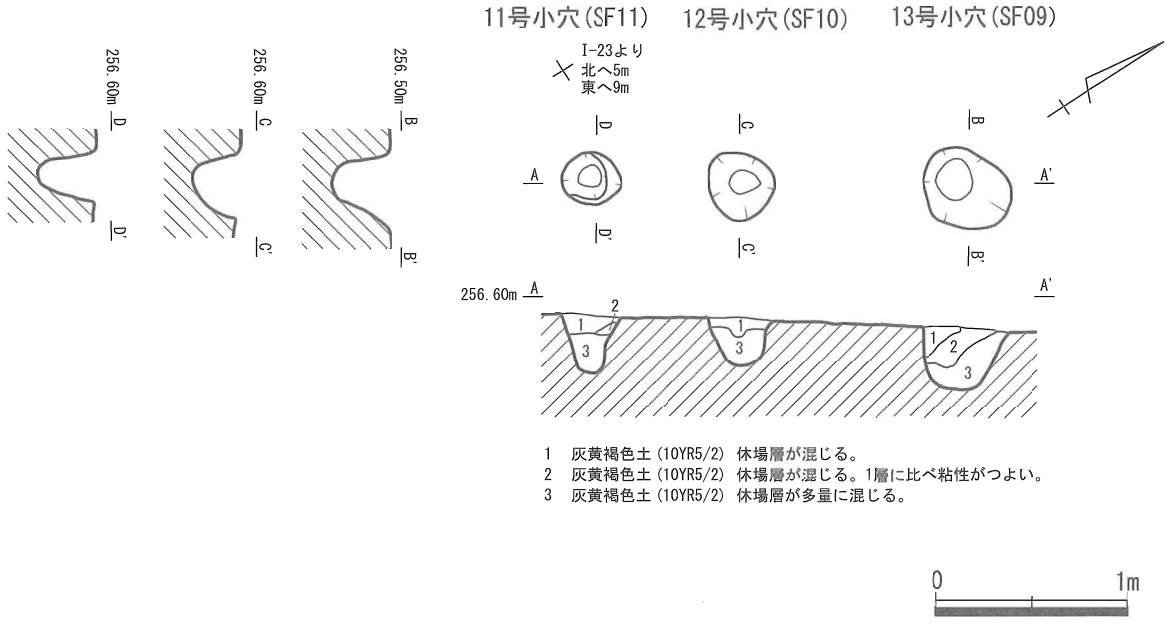


1 黄褐色土 (2.5Y5/4) 休場層が混じる。
2 黒褐色土 (2.5Y3/2) φ0.5～1mmの赤色スコリアを少量含む。
休場層が混じる。
3 黒褐色土 (2.5Y3/2) 2層に類似する。
休場層が少量混じる。
4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 休場層が少量混じる。

第65図　小　穴(1)

10号小穴(SF21)





第66図　小穴(2)及び出土遺物

５．集石遺構（第67～72図）

集石遺構は計14基検出された。調査区東側丘陵部ならびに中央谷頭に占地している。集石遺構の使用方法については民族事例などから石蒸し料理に利用されたと考えられており、具体的な使用方法についても多くの文献で紹介がなされている（笹原千賀子2000、笹原芳郎2004）。

集石遺構については谷口康浩氏により形態を基準とした分類がなされている（谷口1986）。その分類におおむね従うと、第１類は明確な掘り込みの中に礫が集中するもの、第２類は掘り込みの上面に礫が平面的に集中するもの、第３類は地面をほとんど掘り込まない、ないしごく緩やかな窪地や斜面に礫が集中するもの、第４類は直径４～５ｍの範囲内に礫が周辺に比較してまとまって出土するものの４つに分類されている。

本遺跡にあてはめると第１類に該当するものはないが、第２類に分類されるものは14号、第３類は３、４、５、６号が当てはまろう。これらに該当しないものは第４類ということになる。検出地点から見ると、第３類集石遺構は調査区ほぼ中央にある埋没谷頭付近に４基の内３基が集中している。また検出面はいずれも標準土層第５層の暗褐色土層（AN～KU相当層）である。第４類に該当するものは調査区西側丘陵頂部では暗褐色土層、調査区東側集落域付近では標準土層第６層の黒褐色土層（FB相当層）から漸移層にかけてであり、形態と立地により時期が異なる可能性がある。しかし、１号は撚糸文の土器を共伴したことから古い時期のものであると思われるが、その他多くの遺構付近からは打越式段階の土器が出土しており、多くの遺構は早期末葉に帰属時期を認定できよう。

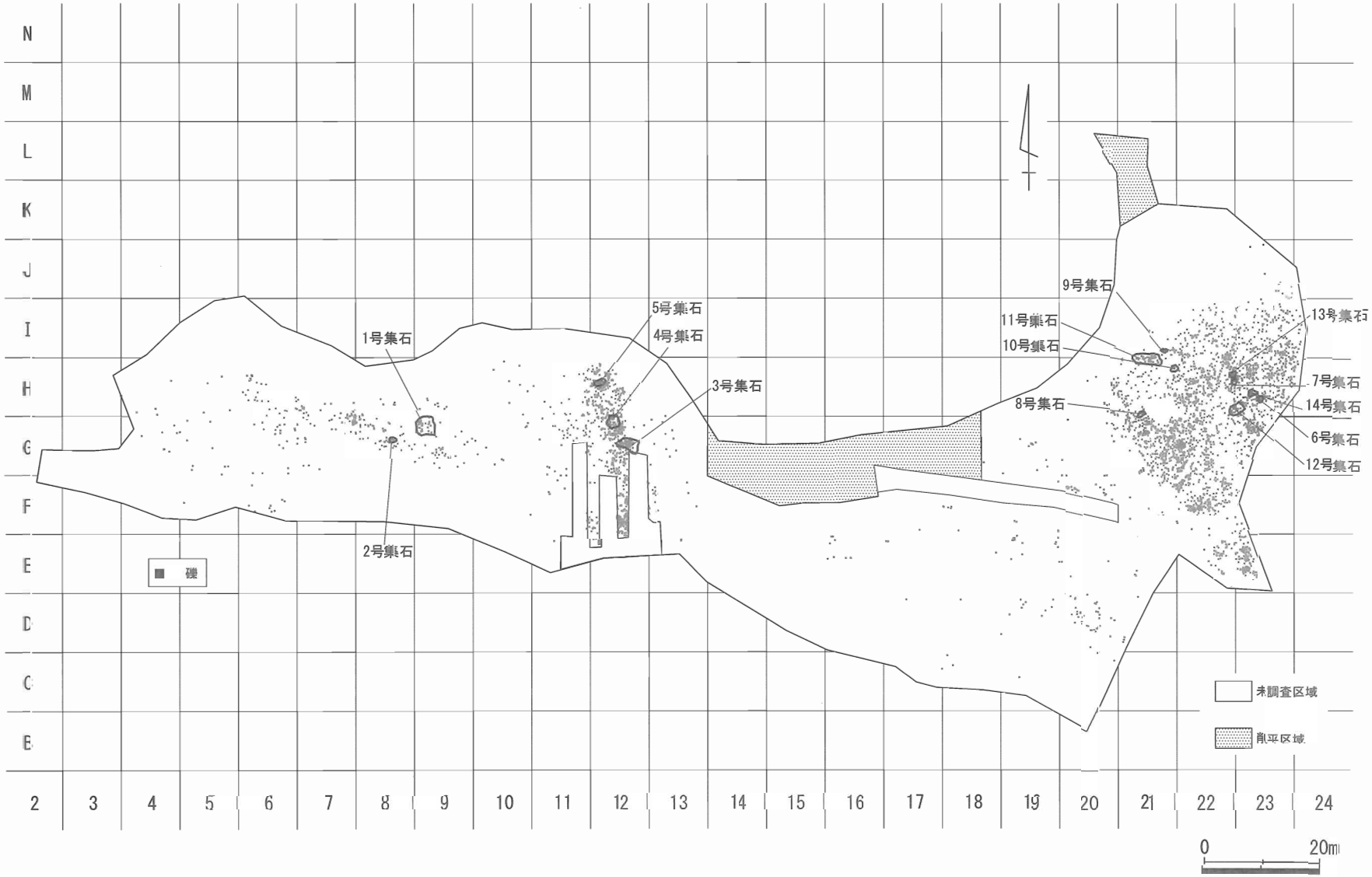
また、使用されている礫の大きさでみると400ｇ以下を小礫、400ｇ台～600ｇ台を中礫、700ｇ以上を大礫と便宜上区分すると、小礫は６、７、10、11、13号、中礫は４、５、８、９号、大礫は３、12、14号となる。中礫を主体とする集石遺構には共通性は見出せないが、小礫のもののうち６、７、13号が住居跡覆土の上に廃棄されたような散漫な集中で存在し、その近くには大礫の12、14号がある。礫の使用方法として加熱することを考えると、礫が小さいと加熱しても大きいものに比べて冷却しやすく、また加熱後の礫の取り出しが煩雑になることなど必ずしも利用に適していない。しかし小礫の６、７、13号のみならず10、11号のいずれも完形の赤化礫が主体を占める。つまりは河原で採取してきたときから小さい礫を主体的に選択していることになる。大きい礫を加熱した際に熱破砕を起こして生じた小さい礫ではないのである。小礫のものと大礫のものが集落域においてのみ言えば別々の用途に使われていたか、もしくはそれぞれを組み合わせた形で使用されていたものである可能性があることをここで指摘しておく。

なお各説明文中に出てくる数値であるが、礫点数横（　）内は総点数に占める割合、接合率とは総点数のうち接合した点数の割合を示す。

(1)　１号集石遺構（第68図　SY13）

１号集石遺構は調査区西側のＧ-009グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。検出面は黒褐色土層から漸移層にかけてである。34点の輝石安山岩礫からなり、亜角の礫を主に構成されている。礫は広範囲に分散しており、内24点の礫が受熱と思われるような赤化をしていた。赤化礫出現率は70.6%である。周囲には若干の炭化物が見られたが本遺構に伴うものであるかどうかはわからなかった。

本遺構に共伴する遺物としては土器１点、石器１点が出土した。18809は第Ⅰ群Ａ類撚糸文土器である。Ｒの撚糸を縦方向に施文している。19055は輝石安山岩の磨石である。伴う遺物から本遺構の時期は早期前葉と考えられる。



第67図　集石遺構・礫分布図

第25表　１号集石遺構(SY13)

石　材	非赤化	赤　化	計	割　合	接合点数
An(py)	10	24	34	100.0	0
計	10	24	34		接合率
比　率	29.4	70.6	100.0		0.0

⑵　２号集石遺構（第68図　SY14）

２号集石遺構は調査区西側Ｇ-008グリッドに位置し、丘陵頂部平坦面の東側に占地する。検出面は暗褐色土層である。９点の輝石安山岩礫からなり、亜角の礫を主に構成されている。

礫は分散しており、内７点の礫が受熱と思われるような赤化をしていた。赤化礫出現率は77.8%である。周囲には若干の炭化物が見られたが本遺構に伴うものであるかどうかはわからなかった。

本遺構は５号焼土跡の下より検出されたことから５号焼土跡より古い遺構である。

第26表　２号集石遺構(SY14)

石　材	非赤化	赤　化	計	割　合	接合点数
An(py)	2	7	9	100.0	0
計	2	7	9		接合率
比　率	22.2	77.8	100.0		0.0

⑶　３号集石遺構（第69図　SY12）

３号集石遺構は調査区中央Ｇ-012グリッドに位置し、埋没谷頭部付近に占地する。検出面は暗褐色土層である。99点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩43点（43.4%）、多孔質安山岩17点（17.2%）、玄武岩20点（20.2%）、多孔質玄武岩16点（16.2%）、火山礫凝灰岩１点（1.0%）、凝灰岩２点（2.0%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は940ｇ、石材別には輝石安山岩675ｇ、多孔質安山岩1,281ｇ、玄武岩952ｇ、多孔質玄武岩1,441ｇ、火山礫凝灰岩40ｇ、凝灰岩60ｇである。比較的大振りの礫を多く使用しており特に多孔質の安山岩と玄武岩が大きいことが際立っている。

遺構の中心と考えることが出来る礫集合とその周囲に分散する礫とで構成されている。土坑は検出されなかった。97点が受熱と思われるような赤化をしており赤化礫出現率は98.0%と高い。割れ面が非赤化の礫は34点（34.3%）、割れ面も赤化していた礫は22点（22.2%）であり、また接合率は34.3%であった。周囲に炭化物はあまりなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

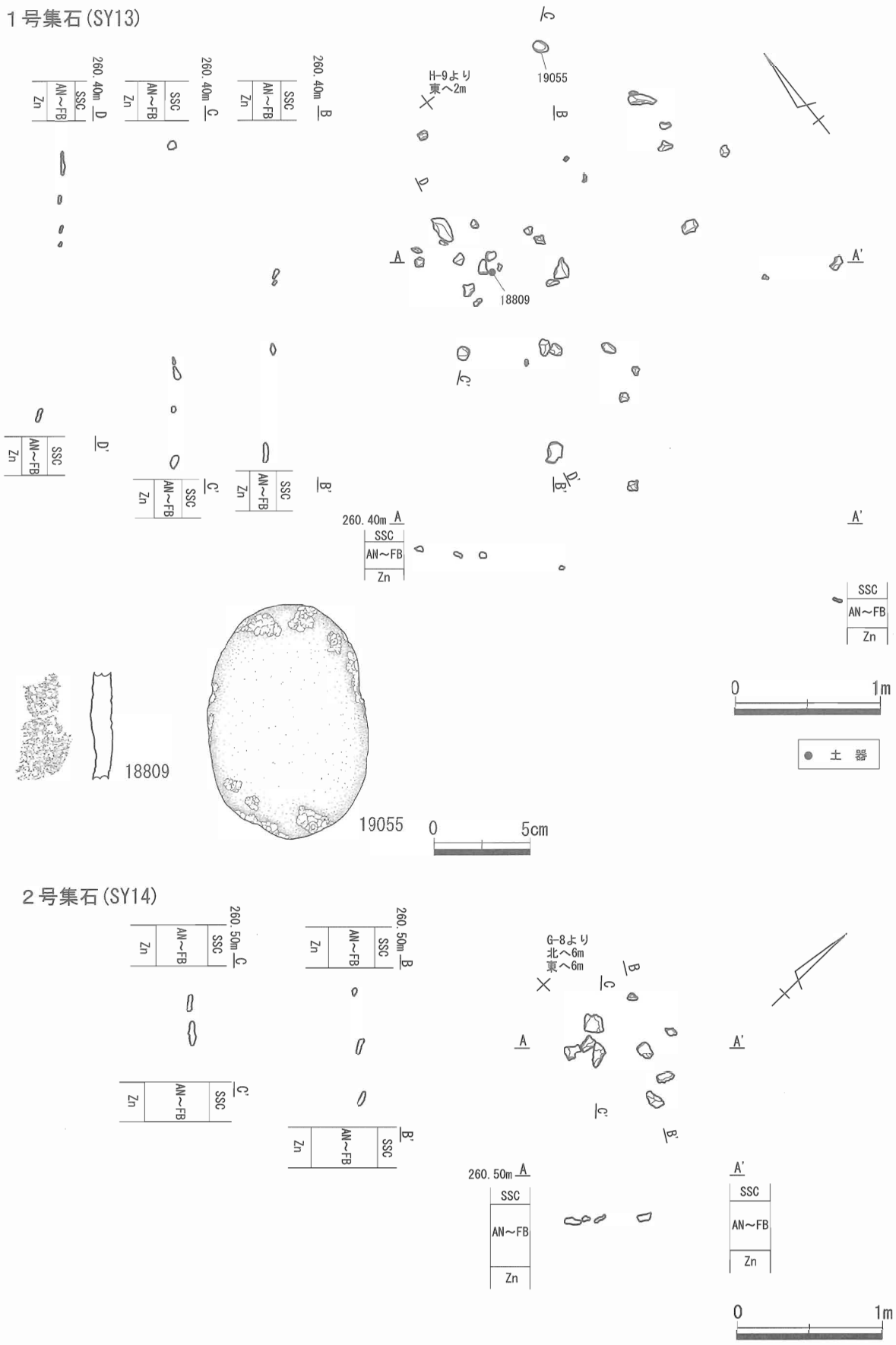
なお、遺構周辺より早期末葉と思われる土器が２点検出された。

第27表　３号集石遺構(SY12)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化 破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)	2	8	12	21	43	43.4	34
VAn		8	3	6	17	17.2	接合率
Ba		9	6	5	20	20.2	34.3
VBa		13	1	2	16	16.2	
LT		1			1	1.0	
Tu		2			2	2.0	
計	2	41	22	34	99	100.0	
比　率	2.0	41.4	22.2	34.3	100.0		

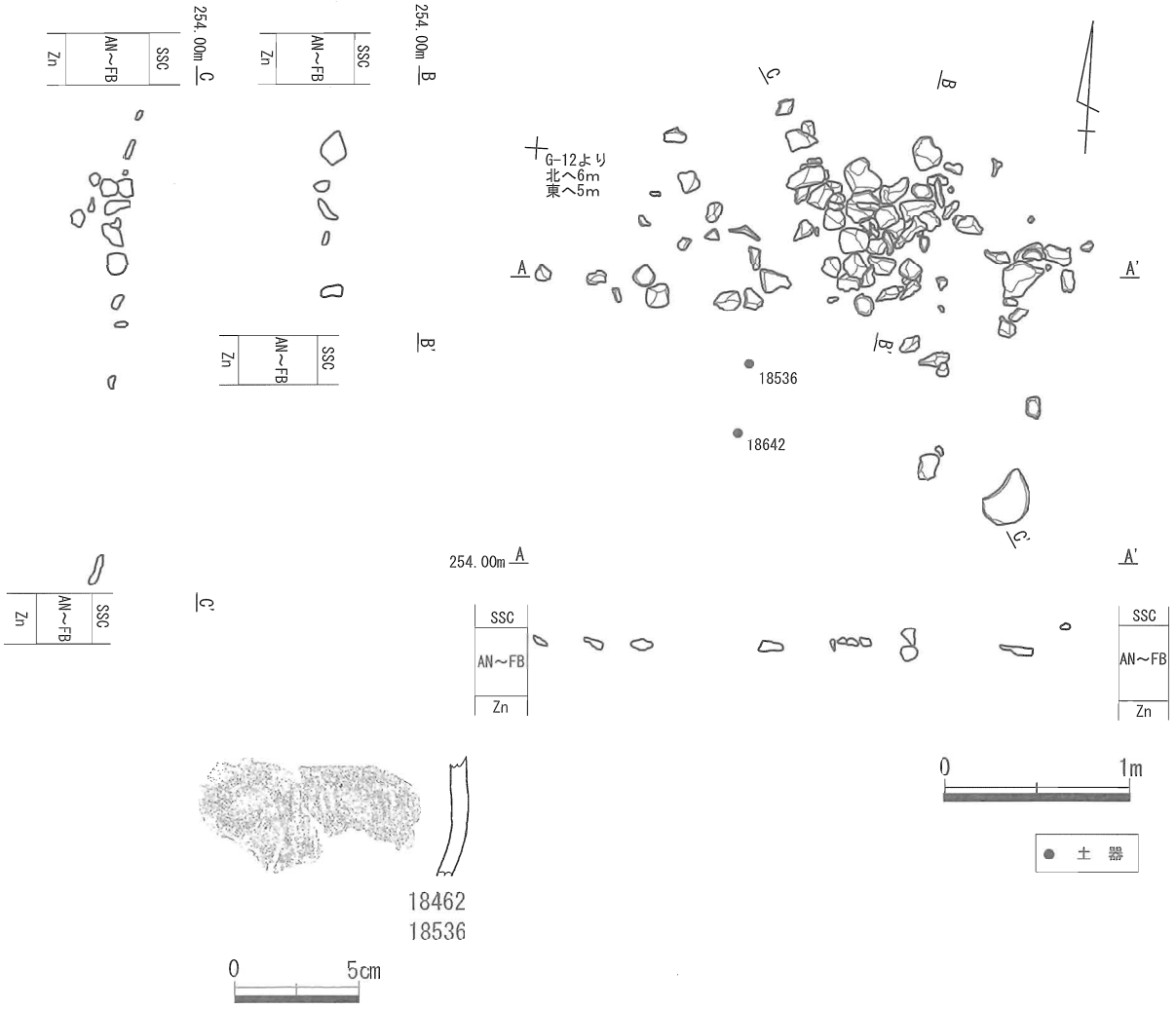
⑷　４号集石遺構（第69図　SY11）

４号集石遺構は調査区中央Ｈ-012グリッドに位置し、埋没谷頭部西側付近に占地する。検出面は暗褐色土層である。32点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩13点（40.6%）、多孔質安山岩2点（6.3%）、

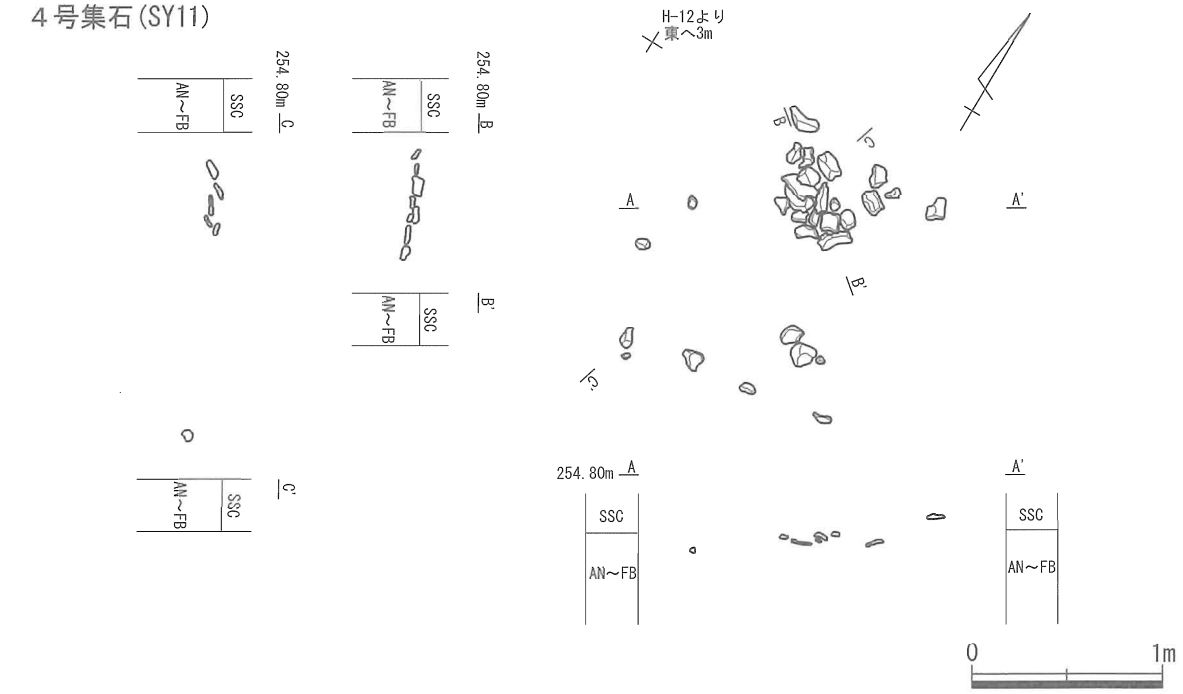


第68図　集石(1)及び出土遺物

３号集石(SY12)



４号集石(SY11)



第69図　集石(2)及び出土遺物

玄武岩14点（43.8%）、多孔質玄武岩3点（9.4%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は428ｇ、石材別には輝石安山岩439ｇ、多孔質安山岩260ｇ、玄武岩452ｇ、多孔質玄武岩377ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫はあまりない。

遺構の中心と考えることが出来る礫集合とその周囲に分散する礫とで構成されている。土坑は検出されなかった。31点が受熱と思われるような赤化をしており、赤化礫出現率は96.9%と高い。割れ面の非赤化の礫は11点（34.4%）、割れ面も赤化していた礫は９点（28.1%）であり、また接合率は15.6%であった。周囲に炭化物は散見する程度で少なく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

第28表　４号集石遺構(SY11)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化 破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)	1	3	1	8	13	40.6	5
VAn		1		1	2	6.3	接 合 率
Ba		5	7	2	14	43.8	15.6
VBa		2	1		3	9.4	
計	1	11	9	11	32	100.0	
比　率	3.1	34.4	28.1	34.4	100.0		

⑸　５号集石遺構（第70図　SY10）

５号集石遺構は調査区中央H-012グリッドに位置し、埋没谷頭部西側付近に占地する。検出面は黒褐色土層である。54点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩21点（38.9%）、多孔質安山岩11点（20.4%）、玄武岩11点（20.4%）、多孔質玄武岩11点（20.4%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は457ｇ、石材別には輝石安山岩523ｇ、多孔質安山岩305ｇ、玄武岩470ｇ、多孔質玄武岩471ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫は少ない。

礫は比較的まとまって検出されている。土坑は検出されなかった。全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。割れ面の非赤化の礫は23点（42.6%）、割れ面も赤化していた礫は18点（33.3%）であり、また接合率は22.2%であった。周囲に炭化物はほとんどなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

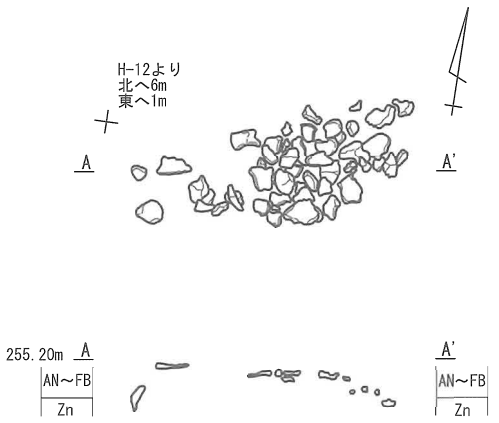
第29表５号集石遺構(SY10)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化 破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)		6	7	8	21	38.9	12
VAn		2	6	3	11	20.4	接 合 率
Ba		3	3	5	11	20.4	22.2
VBa		2	2	7	11	20.4	
計	0	13	18	23	54	100.0	
比　率	0.0	24.1	33.3	42.6	100.0		

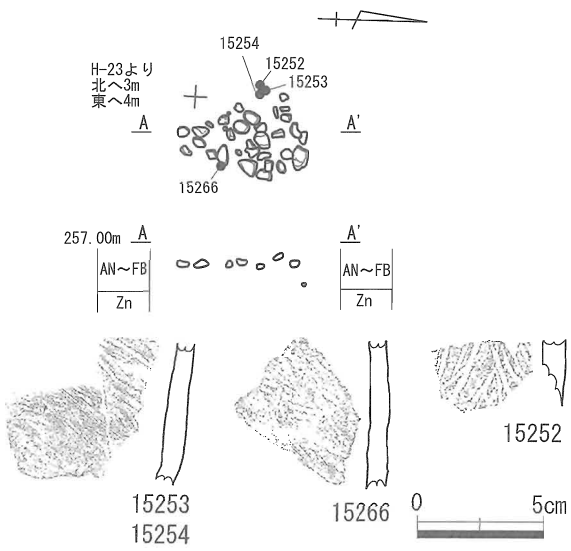
⑹　６号集石遺構（第70図　SY06）

６号集石遺構は調査区東側H-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は暗褐色土層で、４号住居跡の検出面の0.2～0.3m直上に位置する。30点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩５点（16.7%）、多孔質安山岩１点（3.3%）、玄武岩５点（16.7%）、多孔質玄武岩19点（60.0%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は248ｇ、石材別には輝石安山岩130ｇ、多孔質安山岩900ｇ、玄武岩208ｇ、多孔質玄武岩255ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫はなく、小さい礫の集合である。

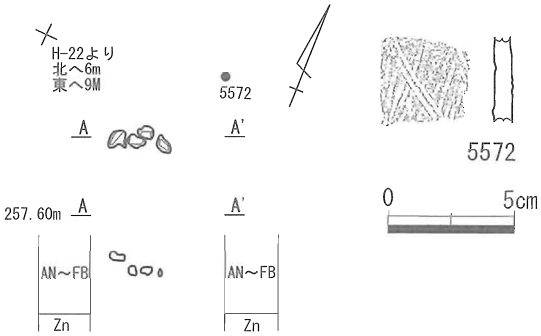
５号集石(SY10)



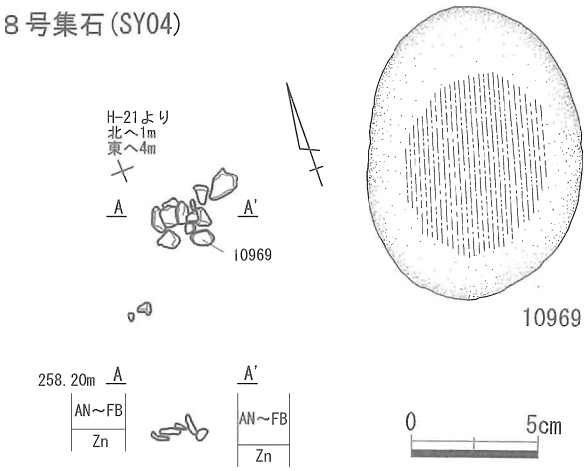
６号集石(SY06)



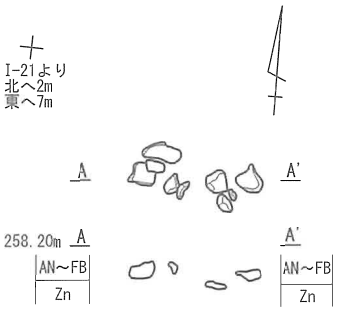
７号集石(SY05)



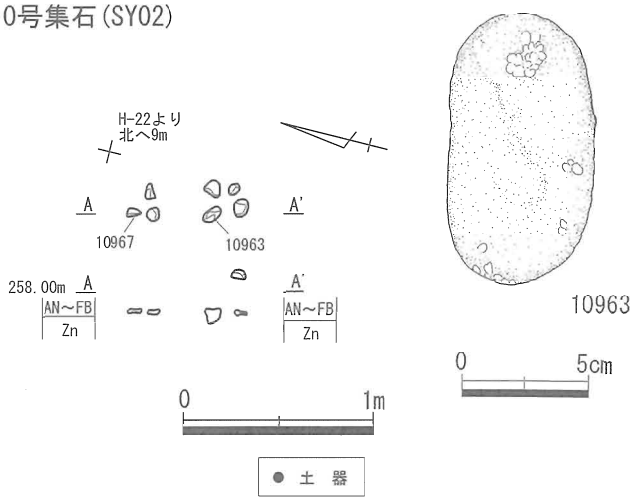
８号集石(SY04)



９号集石(SY01)



10号集石(SY02)



第70図　集石(3)及び出土遺物

玄武岩14点（43.8%）、多孔質玄武岩3点（9.4%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は428ｇ、石材別には輝石安山岩439ｇ、多孔質安山岩260ｇ、玄武岩452ｇ、多孔質玄武岩377ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫はあまりない。

遺構の中心と考えることが出来る礫集合とその周囲に分散する礫とで構成されている。土坑は検出されなかった。31点が受熱と思われるような赤化をしており、赤化礫出現率は96.9%と高い。割れ面の非赤化の礫は11点（34.4%）、割れ面も赤化していた礫は９点（28.1%）であり、また接合率は15.6%であった。周囲に炭化物は散見する程度で少なく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

第28表　４号集石遺構(SY11)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化 破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)	1	3	1	8	13	40.6	5
VAn		1		1	2	6.3	接 合 率
Ba		5	7	2	14	43.8	15.6
VBa		2	1		3	9.4	
計	1	11	9	11	32	100.0	
比　率	3.1	34.4	28.1	34.4	100.0		

⑸　５号集石遺構（第70図　SY10）

５号集石遺構は調査区中央H-012グリッドに位置し、埋没谷頭部西側付近に占地する。検出面は黒褐色土層である。54点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩21点（38.9%）、多孔質安山岩11点（20.4%）、玄武岩11点（20.4%）、多孔質玄武岩11点（20.4%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は457ｇ、石材別には輝石安山岩523ｇ、多孔質安山岩305ｇ、玄武岩470ｇ、多孔質玄武岩471ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫は少ない。

礫は比較的まとまって検出されている。土坑は検出されなかった。全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。割れ面の非赤化の礫は23点（42.6%）、割れ面も赤化していた礫は18点（33.3%）であり、また接合率は22.2%であった。周囲に炭化物はほとんどなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

第29表５号集石遺構(SY10)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化 破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)		6	7	8	21	38.9	12
VAn		2	6	3	11	20.4	接 合 率
Ba		3	3	5	11	20.4	22.2
VBa		2	2	7	11	20.4	
計	0	13	18	23	54	100.0	
比　率	0.0	24.1	33.3	42.6	100.0		

⑹　６号集石遺構（第70図　SY06）

６号集石遺構は調査区東側H-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は暗褐色土層で、４号住居跡の検出面の0.2～0.3m直上に位置する。30点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩５点（16.7%）、多孔質安山岩１点（3.3%）、玄武岩５点（16.7%）、多孔質玄武岩19点（60.0%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は248ｇ、石材別には輝石安山岩130ｇ、多孔質安山岩900ｇ、玄武岩208ｇ、多孔質玄武岩255ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫はなく、小さい礫の集合である。

礫は比較的まとまって検出されている。土坑は検出されなかった。１点を除いてほか全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた（96.6%）。割れ面非赤化礫は２点（6.7%）割れ面も赤化していた礫も２点（6.7%）であり、完形礫が25点（83.3%）とほとんどであったため接合率は低い（13.3%）。小さい礫を意図的に集め、加熱したということになろう。

周囲に炭化物はほとんどなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

共伴した土器は４点で早期末葉に帰属すると思われる。そのうち、15253、15254は第Ⅲ群Ａ類３種ｃの土器で両者は接合し、さらに直下にある４号住居跡内出土土器16596（第43図）、付近の１号竪穴状遺構15745（第53図）と接合した。

第30表　６号集石遺構（SY06）

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・スス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		3	2		5	16.7	4
VAn		1			1	3.3	接合率
Ba		5			5	16.7	13.3
VBa	1	16		2	19	63.3	
計	1	25	2	2	30	100.0	
比　率	3.3	83.3	6.7	6.7	100.0		

(7)　７号集石遺構（第70図　SY05）

７号集石遺構は調査区東側Ｈ-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は暗褐色土層で、６号住居跡検出面の約0.3m上に一部重なるように位置する。本遺構にかかわる新旧関係については13号集石遺構を参照していただきたい。４点の礫からなり、全て亜角礫である。輝石安山岩１点（25.0%）、玄武岩３点（75.0%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は232ｇ、石材別には輝石安山岩180ｇ、玄武岩250ｇである。320ｇ～180ｇの小さい礫の集合である。土坑は検出されなかった。

全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。周囲に炭化物や焼土粒子が少し見られるが、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

共伴した土器は１点であった。5572は第Ⅲ群Ａ類３種ａ条痕文土器である。格子状の条痕が施されている。本遺構付近の下層にある６号住居跡覆土上層出土土器16159（第50図）に似る。

第31表　７号集石遺構（SY05）

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・スス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		1			1	25.0	2
Ba		1		2	3	75.0	接合率
計	0	2	0	2	4	100.0	50.0
比　率	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0		

(8)　８号集石遺構（第70図　SY04）

８号集石遺構は調査区東側Ｈ-021グリッドに位置し、丘陵頂部集落域より西側平坦部に占地する。検出面は黒褐色土層である。13点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩３点（23.1%）、玄武岩８点（61.5%）、多孔質玄武岩２点（15.4%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は469ｇ、石材別には輝石安山岩350ｇ、玄武岩556ｇ、多孔質玄武岩300ｇである。2,000ｇを越える大きな礫を含むが、他は中～小礫の集合である。

礫は比較的まとまって検出されている。土坑は検出されなかった。１点を除いてほか全ての礫が受熱

と思われるような赤化をしていた（92.3%）。割れ面も赤化していた礫はなく、また完形礫が１点と少ない。破損礫は全て破損面が赤化しておらず、その内３点が接合した。接合率は23.1%である。周囲に炭化物はほとんどなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

石器が１点共伴した。10969は多孔質玄武岩の磨石である。黒いタール状のものがこびりついており、磨石としての使用後に集石の礫に転用されたものと考える。

第32表　８号集石遺構（SY04）

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・スス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		1		2	3	23.1	3
Ba				8	8	61.5	接合率
VBa	1			1	2	15.4	23.1
計	1	1	0	11	13	100.0	
比　率	7.7	7.7	0.0	84.6	100.0		

⑼　９号集石遺構（第70図　SY01）

９号集石遺構は調査区東側I-021グリッドに位置し、丘陵頂部集落域の西側平坦部に占地する。検出面は黒褐色土層で、11号集石遺構SY03の北東に位置する。９点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩５点（56.6%）、玄武岩１点（11.1%）、多孔質玄武岩３点（33.3%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は494ｇ、石材別には輝石安山岩610ｇ、玄武岩110ｇ、多孔質玄武岩430ｇである。1,000ｇを越えるような大きな礫はなく、中～小礫の集合である。

礫は比較的まとまって検出されている。土坑は検出されなかった。全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。割れ面が非赤化の礫は４点（44.4%）、割れ面も赤化していた礫は３点（33.3%）であり、また完形礫が２点（22.2%）であった。接合率は22.2%と低い。周囲に炭化物はほとんどなく、この場で火を焚いたとは考えられない。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

第33表　９号集石遺構（SY01）

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・スス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		2		3	5	55.6	2
Ba			1		1	11.1	接合率
VBa			2	1	3	33.3	22.2
計	0	2	3	4	9	100.0	
比　率	0.0	22.2	33.3	44.4	100.0		

⑽　10号集石遺構（第70図　SY02）

10号集石遺構は調査区東側H-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域の西側平坦部に占地する。検出面は黒褐色土層で、11号集石遺構SY03の東に位置する。６点の礫からなり、円礫が多い。輝石安山岩１点（16.7%）、玄武岩５点（83.3%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は181ｇ、石材別には輝石安山岩220ｇ、玄武岩210ｇである。100ｇ～200ｇ内の小さい礫が中心となっている。

礫は散漫に検出されている。土坑は検出されなかった。全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。割れ面も赤化していた礫は２点（33.3%）、また完形礫が４点（66.7%）であった。破損礫は全て破損面が赤化しておらず、その内２点が接合した。接合率は33.3%である。周囲には焼土粒子や炭化物が若干見受けられるが、本遺構に伴うものであるかどうかは不明であり、この場で火を焚いたとは考えにくい。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

石器が２点共伴した。10963、10967は玄武岩の磨石である。10963にはススのようなものが付着しており、磨石としての使用後に集石の礫に転用されたものと考える。

第34表　10号集石遺構(SY02)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ススス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		1			1	16.7	2
Ba		3	2		5	83.3	接合率
計	0	4	2	0	6	100.0	33.3
比　率	0.0	66.7	33.3	0.0	100.0		

⑾　11号集石遺構（第71図　SY03）

11号集石遺構は調査区東側I-21グリッドに位置し、丘陵頂部集落域の西側平坦部に占地する。検出面は黒褐色土層で、10号集石遺構SY01の西に位置する。55点の礫からなり、亜角礫に亜円礫が混ざる。輝石安山岩17点（30.9%）、多孔質安山岩３点（5.5%）、玄武岩18点（32.7%）、多孔質玄武岩17点（30.9%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は119ｇ、石材別には輝石安山岩114ｇ、多孔質安山岩147ｇ、玄武岩113ｇ、多孔質玄武岩117ｇである。100ｇ～200ｇ内の小さい礫が中心となっている。

礫は散漫に検出されている。土坑は検出されなかった。１点を除いてほか全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた（98.2%）。赤化した完形礫が30点（54.5%）、破損礫のうち割れ面も赤化していた礫は10点（18.2%）、破損面が非赤化の礫は14点（25.5%）である。４点が接合した。接合率は7.3%である。周囲には焼土粒子や炭化物が若干見受けられるが、本遺構に伴うものであるかどうかは不明であり、この場で火を焚いたとは考えにくい。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

共伴した遺物は早期末葉に帰属すると思われる土器２点と石器１点である。10916は中粒砂岩の敲石である。

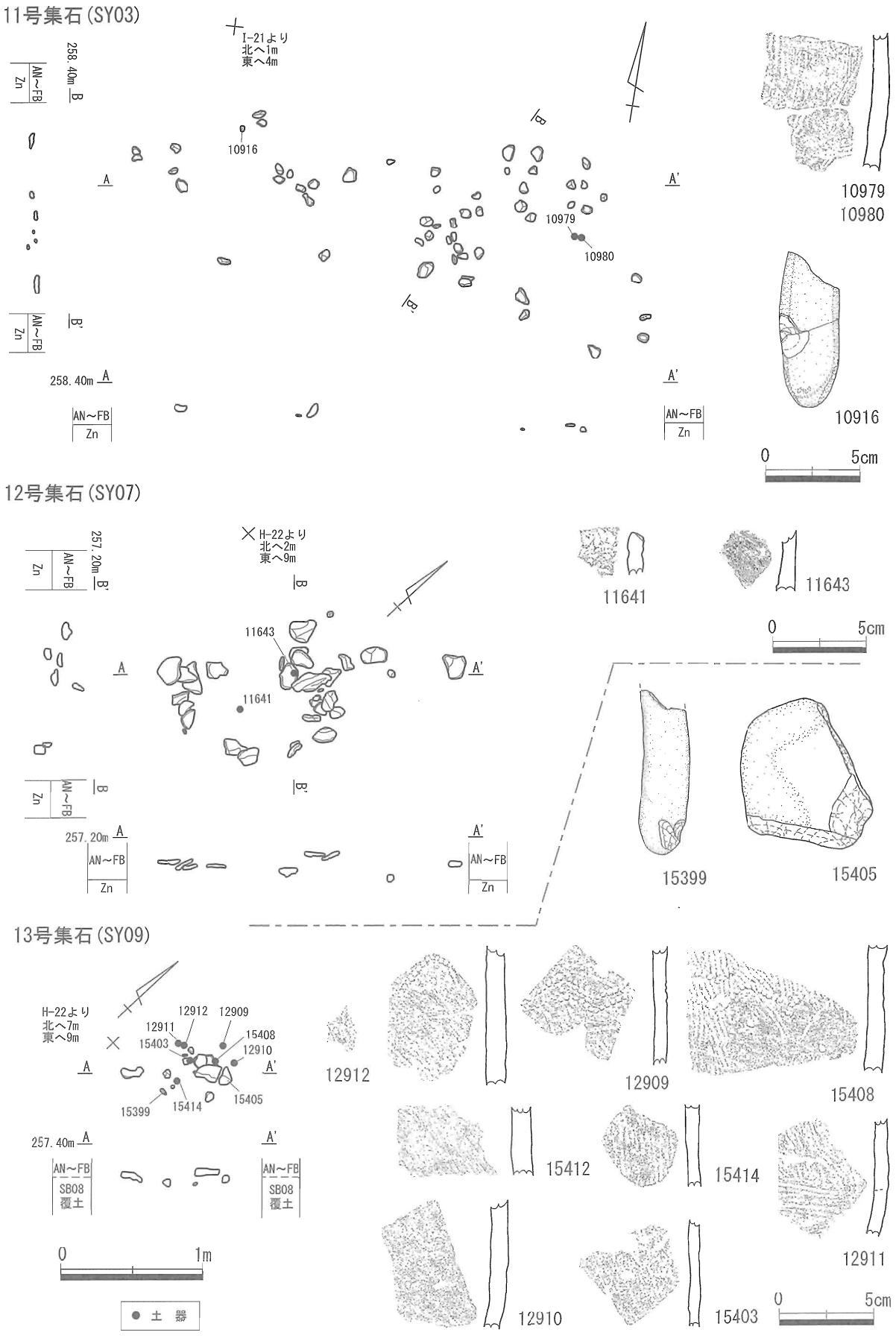
第35表　11号集石遺構(SY03)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ススス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		7	7	3	17	30.9	4
VAn		2		1	3	5.5	接合率
Ba		10	2	6	18	32.7	7.3
VBa	1	11	1	4	17	30.9	
計	1	30	10	14	55	100.0	
比　率	1.8	54.5	18.2	25.5	100.0		

⑿　12号集石遺構（第71図　SY07）

12号集石遺構は調査区東側H-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は黒褐色土層で、環状に位置する集落域の中央部、比較的遺物が少ない場所に位置する。40点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩16点（45.7%）、多孔質安山岩３点（8.6%）、玄武岩５点（14.3%）、多孔質玄武岩10点（28.6%）、火山礫凝灰岩１点（2.9%）、その他５点で構成されている。礫１点あたりの平均重量は881ｇ、石材別には輝石安山岩1,032ｇ、多孔質安山岩997ｇ、玄武岩1,056ｇ、多孔質玄武岩604ｇ、火山礫凝灰岩20ｇである。大振りの礫で構成されている。

礫は径0.5mほどの環状に分布している。土坑は検出されなかった。２点を除いてほか全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた（94.3%）。赤化した完形礫が12点（34.3%）、破損礫のうち割れ面も赤化していた礫は３点（8.6%）、破損面が非赤化の礫は18点（51.4%）である。周囲には焼土粒子や炭化物が若干見受けられるが、本遺構に伴うものであるかどうかは不明であり、この場で火を焚いたとは考えにく



第71図　集石(4)及び出土遺物

い。他の場所で加熱した礫を持ち込んで使用したか、あるいは使用済みの礫をこの場に廃棄したと考える。

共伴した遺物は土器が２点である。11641は第Ⅲ群Ａ類１種ｃ打越式土器である。口唇上は外削ぎに整形され、篦状工具により刻み目が施されている。外面には山形の貝殻腹縁文が施されている。11643は第Ⅲ群Ａ類３種ｆ打越式土器あるいは並行期土器の無文胴部である。

第36表　12号集石遺構(SY07)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)		6	2	8	16	45.7	1
VAn		1		2	3	8.6	接合率
Ba	1	1		3	5	14.3	2.9
VBa	1	3	1	5	10	28.6	
LT		1			1	2.9	
計	2	12	3	18	35	100.0	
比　率	5.7	34.3	8.6	51.4	100.0		

⑬　13号集石遺構（第71図　SY09）

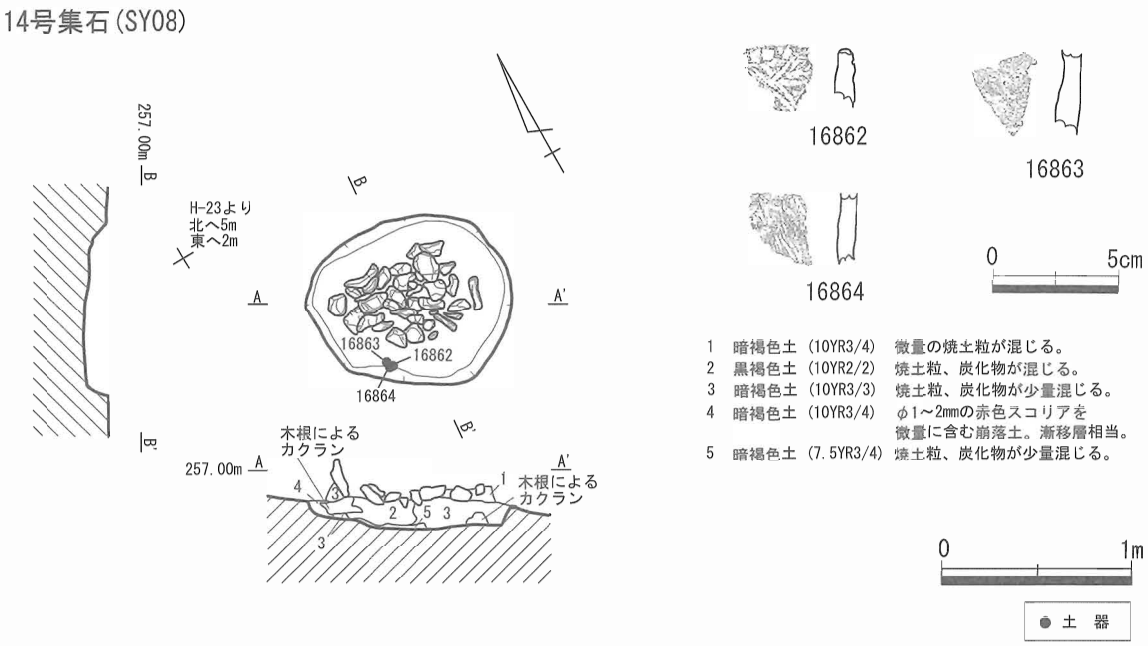
13号集石遺構は調査区東側Ｈ-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は縄文層の下部で、６号住居跡覆土直上に位置する。６号住居跡が使用されなくなり埋没していく過程の最終段階で構築されたものである。８点の礫からなり、亜角礫が多い。輝石安山岩７点（87.5%）、玄武岩１点（12.5%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は263ｇ、石材別には輝石安山岩284ｇ、玄武岩110ｇである。940ｇの大き目の礫１点、その他は中～小礫で構成されている。

礫は比較的集中している。土坑は検出されなかった。全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。赤化した完形礫が４点（50.0%）、破損礫のうち割れ面も赤化していた礫は１点（12.5%）、破損面が非赤化の礫は３点（37.5%）である。１点が６号住居跡覆土中出土の礫と接合した。接合率は15.9%である。周囲には焼土粒や炭化物が多く見受けられる。本遺構北側に５号住居跡とその覆土直上検出の２号焼土跡がある。２号焼土跡から本遺構直下の６号住居跡の北側覆土には焼土粒が非常に多く見られる。これは６号住居跡埋没途中時には５号住居がすでに完全に埋没し、その上（窪地になっていた可能性もある）で火を焚き（２号焼土跡）、その焼土粒が埋没途中の６号住居跡に流れて入り込んだものであると思われる。そのため、本遺構周辺で検出された多くの焼土粒および炭化物は２号焼土跡のものである。その後、本遺構ならびに６号住居跡上の７号集石遺構が構築されたと考えられる。本遺構に関連した新旧関係は５号住居跡→６号住居跡→２号焼土跡・本遺構および７号集石遺構、と推測することが出来る。本遺構と２号焼土跡はあまり時期が隔たらないものであると考えている。７号集石遺構は面的に少し高い位置にあるが、共伴した土器から本遺構とあまり時期は差がないと考える。可能性として、２号焼土跡において加熱した礫を持ち込んで使用した場所、あるいはその礫が使用後廃棄された場所が本遺構および７号集石遺構であると考えられよう。

共伴した遺物は土器が７点であり、打越式を含み、早期末葉に帰属すると思われる土器である。15403は第Ⅲ群Ｂ類３種早期末東海系土器の無文胴部である。

第37表　13号集石遺構(SY09)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ス ス付着破損礫	割れ面非赤化破　損　礫	計	割　合	接合点数
An(py)		3	1	3	7	87.5	1
Ba		1			1	12.5	接合率
計	0	4	1	3	8	100.0	12.5
比　率	0.0	50.0	12.5	37.5	100.0		



第72図　集石(5)及び出土遺物

⑭　14号集石遺構（第72図　SY08）

14号集石遺構は調査区東側H-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は黒褐色土層で、４号住居跡北西に隣接する。40点の礫からなり、輝石安山岩24点（60.0%）、多孔質安山岩４点（10.0%）、玄武岩５点（12.5%）、多孔質玄武岩７点（17.5%）で構成されている。礫１点あたりの平均重量は774ｇ、石材別には輝石安山岩852ｇ、多孔質安山岩988ｇ、玄武岩640ｇ、多孔質玄武岩479ｇである。1,000ｇを越える礫も多く、大きい亜角の礫を主体に構成されている。

土坑が検出された。覆土は５層に分層され、暗褐色土層～黒褐色土層相当の土を主体とする。覆土中央西よりには炭化物、焼土粒が比較的暗い層があり、ここで火を焚いた可能性がある。土坑の掘り方と礫との間が離れており、全ての礫が受熱と思われるような赤化をしていた。礫は密集している。赤化した完形礫が15点（37.5%）、破損礫のうち割れ面も赤化していた礫は10点（25.0%）、破損面が非赤化の礫は15点（37.5%）である。４点が接合した。接合率は10.0%である。

共伴した遺物は土器が３点であり、打越式を含み、早期末葉に帰属すると思われる土器である。

第38表　14号集石遺構(SY08)

石　材	非赤化礫	赤化完形礫	割れ面赤化・ススス付着破損礫	割れ面非赤化破損礫	計	割　合	接合点数
An(py)		7	7	10	24	60.0	4
VAn		2	1	1	4	10.0	接合率
Ba		3	1	1	5	12.5	10.0
VBa		3	1	3	7	17.5	
計	0	15	10	15	40	100.0	
比　率	0.0	37.5	25.0	37.5	100.0		

第39表　集石構成礫計測表

遺物番号	グリッド	層　位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形　態	状態	色調	スス・ヒビ	X座標	Y座標	Z座標
10956	I-021	AN～FB	SY01	VBa	R06	640	15.3	13.2	3.6	亜円	D	B		-90118.656	35798.194	258.038
10957	I-021	AN～FB	SY01	An(py)		160	10.1	8.2	1.8	亜角	E	B		-90118.782	35797.831	258.078
10958	I-021	AN～FB	SY01	An(py)		230	11.2	7.6	2.9	亜角(板状)	C	B		-90118.669	35797.676	258.063
10959	I-021	AN～FB	SY01	An(py)		850	16.2	15.0	4.3	亜角	E	C		-90118.685	35797.678	258.031
10960	I-021	AN～FB	SY01	An(py)		930	20.2	8.7	4.8	亜円	C	C	ヒビ	-90118.568	35797.677	258.031
13202	I-021	AN～FB	SY01	An(py)		880	20.2	11.7	4.5	亜角	E	C		-90118.789	35797.881	257.829
13203	I-021	AN～FB	SY01	VBa	R06	510	13.9	12.4	3.7	亜円	E	C		-90118.698	35798.032	257.959
13204	I-021	AN～FB	SY01	VBa		140	9.7	6.8	2.3	亜角	D	B		-90118.813	35798.062	257.967
13205	I-021	AN～FB	SY01	Ba		110	9.6	5.0	2.7	亜角	D	B		-90118.779	35798.097	257.952
10961	H-021	AN～FB	SY02	Ba		140	6.7	5.8	3.5	円	C	B		-90121.698	35799.943	257.871
10962	H-021	AN～FB	SY02	Ba	R36	140	8.0	7.6	2.5	円	D			-90121.753	35799.858	257.883
10964	H-021	AN～FB	SY02	Ba		500	9.1	8.6	5.7	円	C	B	ス	-90121.595	35799.898	257.858
10965	H-021	AN～FB	SY02	An(py)		220	7.0	5.7	4.7	円	C	B		-90121.260	35799.849	257.878
10966	H-021	AN～FB	SY02	Ba	R36	70	7.6	6.5	1.8	亜円	D	B		-90121.322	35799.740	257.888
13206	H-021	AN～FB	SY02	Ba		200	8.2	5.2	3.4	円	C	B		-90121.827	35799.432	257.855
10901	H-021	AN～FB	SY03	VBa		150	9.8	8.9	2.0	亜角	C	C		-90120.937	35796.814	258.014
10902	H-021	AN～FB	SY03	VBa		250	7.8	6.9	4.1	円	A			-90120.763	35797.180	257.985
10903	H-021	AN～FB	SY03	Ba		180	7.8	7.2	3.5	亜角	C	C		-90120.649	35797.167	257.995
10904	H-021	AN～FB	SY03	Ba		150	7.6	4.9	4.1	亜角	D	C		-90120.382	35797.051	257.993
10905	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		120	6.9	5.5	3.5	亜角	D	C		-90120.703	35796.366	258.049
10906	H-021	AN～FB	SY03	Ba		160	11.2	6.8	2.2	亜角(板状)	E	C		-90120.610	35796.257	258.068
10907	H-021	AN～FB	SY03	Ba	R05	50	6.7	4.8	2.3	亜角	E	B		-90120.575	35795.867	258.170
10908	H-021	AN～FB	SY03	Ba	R05	70	7.4	5.6	2.0	亜角	E	B		-90120.459	35795.902	258.105
10909	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		160	10.8	7.4	2.4	亜角	C	C		-90120.525	35795.577	258.166
10910	H-021	AN～FB	SY03	Ba		90	6.4	5.8	3.6	亜角	C	C		-90120.516	35794.855	258.180
10911	H-021	AN～FB	SY03	VBa		110	7.7	4.4	3.6	亜角	D	B		-90120.657	35794.102	258.180
10912	H-021	AN～FB	SY03	VAn		170	8.3	7.8	3.5	亜角	C	C		-90120.170	35793.754	258.180
10913	I-021	AN～FB	SY03	VBa		150	7.1	6.8	3.8	亜円	C	C		-90119.940	35793.696	258.151
10914	H-021	AN～FB	SY03	VBa	R37	30	5.0	3.5	1.8	亜角	E	C		-90120.035	35793.455	258.163
10915	H-021	AN～FB	SY03	VBa	R37	60	5.7	5.4	2.1	亜角	E	C		-90120.003	35793.425	258.155
10917	I-021	AN～FB	SY03	Ba		90	5.9	4.1	3.3	亜角	F	D		-90119.601	35794.250	258.175
10918	I-021	AN～FB	SY03	VBa		80	8.0	4.8	2.5	亜角	C	B		-90119.665	35794.289	258.169
10919	I-021	AN～FB	SY03	VBa		130	8.4	4.9	3.3	亜角	C	C		-90119.978	35794.454	258.168
10920	H-021	AN～FB	SY03	VBa		120	6.2	4.6	4.0	亜角	C	C		-90120.025	35794.466	258.154
10921	I-021	AN～FB	SY03	VBa		100	6.3	4.5	3.5	亜角	C	C	ヒビ	-90119.965	35794.521	258.186
10922	H-021	AN～FB	SY03	VAn		140	8.7	5.1	4.2	亜角	E	C		-90120.168	35794.697	258.168
10923	H-021	AN～FB	SY03	VBa		130	8.3	5.8	4.3	亜角	E	C		-90120.118	35794.633	258.159
10924	H-021	AN～FB	SY03	VBa		120	6.3	6.2	4.3	亜円	C	C		-90120.043	35794.704	258.158
10925	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		400	10.3	8.4	5.8	亜円	C	C		-90119.943	35794.929	258.158
10926	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		80	7.0	5.4	2.7	亜角	D	A		-90119.813	35795.219	258.164
10927	I-021	AN～FB	SY03	VBa		170	8.6	7.5	4.4	亜角	C	C		-90119.828	35795.523	258.127
10928	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		100	6.8	4.9	3.2	亜角	E	C		-90119.959	35795.570	258.127
10929	H-021	AN～FB	SY03	Ba		200	8.8	5.7	3.8	円	C	C		-90120.179	35795.522	258.110
10930	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		70	7.6	3.1	2.9	亜角	D	C		-90120.287	35795.505	258.122
10931	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		100	5.0	4.8	3.5	亜円	C	C		-90120.304	35795.574	258.104
10932	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		40	7.5	4.5	1.7	亜角	E	B		-90120.198	35795.634	258.100
10933	I-021	AN～FB	SY03	Ba		130	6.9	4.9	3.8	亜角	E	C		-90119.984	35795.844	258.147
10934	H-021	AN～FB	SY03	Ba		90	5.0	4.3	3.9	円	C	C		-90120.075	35795.904	258.118
10935	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		50	6.0	5.4	1.6	亜角	D	C		-90120.088	35795.787	258.151
10936	H-021	AN～FB	SY03	Ba		70	5.8	4.0	3.3	亜角	E	C		-90120.161	35795.735	258.141
10937	H-021	AN～FB	SY03	VBa		60	5.7	4.7	3.0	亜円	C	C		-90120.278	35795.737	258.157
10938	H-021	AN～FB	SY03	Ba		120	8.0	5.1	2.8	亜円	G	D		-90120.357	35795.789	258.125
10939	H-021	AN～FB	SY03	VBa		80	7.5	4.7	2.7	亜円	C	C	ス	-90120.325	35795.726	258.104
10940	H-021	AN～FB	SY03	Ba		100	7.2	4.3	2.9	亜円	C	C		-90120.349	35795.786	258.123
10941	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		60	6.8	5.8	1.8	亜角	D	C	ス	-90120.418	35795.787	258.108
10942	H-021	AN～FB	SY03	Ba		130	7.1	5.7	3.2	亜円	C	C		-90120.364	35795.936	258.122
10943	H-021	AN～FB	SY03	VBa		130	7.1	4.7	4.3	亜角	E	C		-90120.047	35796.261	258.097
10944	I-021	AN～FB	SY03	VBa		120	8.0	7.1	2.9	亜角	C	C		-90119.971	35796.184	258.104
10945	I-021	AN～FB	SY03	Ba		90	6.3	5.4	2.5	亜円	C	C		-90119.754	35796.056	258.063
10946	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		160	10.3	5.5	2.9	亜円	C	C		-90119.620	35796.030	258.106
10947	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		140	6.8	5.5	4.1	亜角	C	C	ヒビ	-90119.605	35796.261	258.077
10948	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		120	5.8	4.6	3.8	亜円	C	B	ヒビ	-90119.714	35796.221	258.077
10949	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		100	6.8	4.7	4.1	亜角	E	C		-90119.812	35796.192	258.088
10950	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		70	6.3	6.1	2.0	亜角	D	C		-90119.910	35796.525	258.071
10951	I-021	AN～FB	SY03	Ba		60	6.9	5.1	1.6	亜角	E	C		-90119.928	35796.652	258.051
10952	I-021	AN～FB	SY03	An(py)		60	5.4	3.6	3.1	亜角	C	C		-90119.843	35796.774	258.050
10953	I-021	AN～FB	SY03	Ba		180	6.1	5.8	4.5	亜円	C	C		-90119.756	35796.592	258.070
10954	I-021	AN～FB	SY03	VAn		130	6.3	5.3	4.5	円	C	B		-90119.786	35796.527	258.080
10955	I-021	AN～FB	SY03	Ba		80	6.3	3.8	3.1	亜円	C	C		-90119.608	35796.615	258.080
13201	H-021	AN～FB	SY03	An(py)		110	8.4	4.8	2.5	亜角	D	C		-90120.058	35793.747	258.073
10968	H-021	AN～FB	SY04	Ba		460	14.3	9.7	3.6	亜角(板状)	E	C		-90129.375	35794.101	257.966
10970	H-021	AN～FB	SY04	Ba	R07	420	13.0	9.6	3.6	亜角	E	C		-90129.402	35794.328	257.958
10971	H-021	AN～FB	SY04	Ba	R07	40	7.5	5.0	1.5	亜角	E	C		-90129.300	35794.282	257.980
10972	H-021	AN～FB	SY04	Ba	R07	130	9.3	8.8	1.8	亜角	E	C		-90129.338	35794.266	257.982
10973	H-021	AN～FB	SY04	An(py)		410	12.0	8.3	3.3	亜角(板状)	E	C	ス	-90129.297	35794.240	257.982
10974	H-021	AN～FB	SY04	An(py)		520	13.1	10.1	3.5	亜円	E	C		-90129.288	35794.191	257.964
10975	H-021	AN～FB	SY04	VBa		510	18.0	8.7	5.0	亜角	E	C		-90129.311	35794.085	257.923
10976	H-021	AN～FB	SY04	Ba		290	11.7	8.6	2.8	亜角(板状)	E	C		-90129.241	35794.353	257.964
10977	H-021	AN～FB	SY04	Ba		2020	22.8	17.1	5.6	亜角(板状)	E	C		-90129.225	35794.518	257.922
10978	H-021	AN～FB	SY04	Ba		360	13.9	8.7	2.3	亜角(板状)	E	B		-90129.353	35794.298	257.952
10981	H-021	AN～FB	SY04	Ba		730	15.2	15.1	4.3	亜角	E	C		-90129.290	35794.157	257.944
10982	H-021	AN～FB	SY04	VBa		90	7.3	5.3	2.3	亜角	B			-90129.737	35793.788	257.957
13207	H-021	AN～FB	SY04	An(py)		120	6.4	5.4	3.8	亜円	C	C		-90129.742	35793.872	257.922
10992	H-022	AN～FB	SY05	An(py)		180	10.9	9.9	2.0	亜角	C	C		-90124.341	35809.812	257.270
10993	H-022	AN～FB	SY05	Ba		320	9.2	9.2	4.6	亜角	C	C	ス	-90124.310	35809.705	257.285
10994	H-022	AN～FB	SY05	Ba	R08	200	10.1	8.5	3.6	亜角	E	C		-90124.397	35809.668	257.292
10995	H-022	AN～FB	SY05	Ba	R08	230	10.3	9.2	3.0	亜角	E	C		-90124.396	35809.566	257.324
15251	H-023	AN～FB	SY06	VBa		70	5.5	4.7	3.8	亜角	C	C		-90126.592	35813.969	256.789
15255	H-023	AN～FB	SY06	Ba		260	9.5	5.3	5.0	亜角	C	C		-90126.564	35814.148	256.845
15256	H-023	AN～FB	SY06	VAn		900	13.3	9.0	7.5	亜角	C	B		-90126.490	35814.337	256.836
15257	H-023	AN～FB	SY06	VBa		120	7.3	6.9	3.1	亜角	C	B		-90126.557	35814.354	256.853
15258	H-023	AN～FB	SY06	VBa		290	8.2	7.4	6.1	亜角	C	C		-90126.611	35814.404	256.839
15259	H-023	AN～FB	SY06	VBa		230	8.2	7.3	5.3	亜円	C	C		-90126.662	35814.383	256.845
15260	H-023	AN～FB	SY06	VBa	R09	180	8.8	5.8	3.9	亜角	E	C		-90126.682	35814.330	256.843
15261	H-023	AN～FB	SY06	VBa	R09	130	7.5	5.2	3.0	亜角	E	C		-90126.597	35814.215	256.888
15262	H-023	AN～FB	SY06	VBa		730	11.0	10.6	7.7	亜角	C	C		-90126.695	35814.249	256.849
15263	H-023	AN～FB	SY06	VBa	R38	40	6.0	5.6	1.9	亜円	C	C		-90126.760	35814.277	256.904
15264	H-023	AN～FB	SY06	VBa		870	11.5	9.3	8.7	亜円	C	C		-90126.783	35814.415	256.823
15265	H-023	AN～FB	SY06	Ba		270	9.0	7.1	4.6	亜円	C	B		-90126.880	35814.374	256.800
15267	H-023	AN～FB	SY06	VBa	R38	80	6.5	5.8	2.9	亜角	C	B		-90126.860	35814.232	256.858
15268	H-023	AN～FB	SY06	Ba		70	5.3	4.3	3.6	亜角	C	B		-90126.841	35814.329	256.859
15269	H-023	AN～FB	SY06	VBa		310	8.6	8.0	5.4	亜円	C	C		-90126.826	35814.144	256.850
15270	H-023	AN～FB	SY06	VBa		120	6.8	6.0	4.0	亜角	C	C		-90126.754	35814.126	256.901
15271	H-023	AN～FB	SY06	VBa		160	7.3	5.7	4.1	亜円	C	C	ス	-90126.814	35814.049	256.872
15272	H-023	AN～FB	SY06	An(py)		100	6.6	5.6	3.5	亜角	C	B		-90126.865	35814.082	256.867
15273	H-023	AN～FB	SY06	Ba		300	8.5	7.6	1.9	亜円	C	C	ス	-90126.913	35814.126	256.852
15274	H-023	AN～FB	SY06	VBa		70	5.3	4.8	3.1	亜角	C	C		-90126.988	35814.156	256.882
15275	H-023	AN～FB	SY06	VBa		360	9.8	6.3	6.4	亜角	C	B	ス	-90127.032	35814.199	256.855
15276	H-023	AN～FB	SY06	An(py)		70	5.1	4.2	4.0	亜角	C	B		-90127.110	35814.197	256.855
15277	H-023	AN～FB	SY06	Ba		140	6.3	6.1	5.1	円	C	C		-90127.053	35814.270	256.836
15278	H-023	AN～FB	SY06	VBa		250	8.0	6.2	6.1	亜円	A			-90127.100	35814.330	256.826
15300	H-023	AN～FB	SY06	An(py)		80	5.4	3.8	3.1	亜角	C	A	ス	-90126.901	35814.197	256.836
15301	H-023	AN～FB	SY06	An(py)		350	8.6	6.7	4.1	亜角	D	C		-90126.716	35814.464	256.822
15409	H-023	AN～FB	SY06	VBa		190	8.7	6.3	4.1	亜角	C	C		-90126.711	35814.159	256.840
15410	H-023	AN～FB	SY06	VBa		330	9.7	7.8	4.1	亜角	C	B		-90126.742	35814.287	256.824
15411	H-023	AN～FB	SY06	VBa		310	7.8	7.0	5.7	亜角	C	C	ス	-90126.480	35814.202	256.720
15503	H-023	AN～FB	SY06	An(py)		50	5.7	4.1	2.1	亜角	D	C		-90126.719	35814.166	256.836
5645	H-022	AN～FB	SY07							未計測				-90128.446	35809.984	257.350
5646	H-023	AN～FB	SY07							未計測				-90128.331	35810.035	257.207
5647	H-023	AN～FB	SY07							未計測				-90128.296	35810.273	257.195
5648	H-023	AN～FB	SY07							未計測				-90128.524	35810.264	257.177
5649	H-023	AN～FB	SY07							未計測				-90128.429	35810.620	257.273
6311	H-023	覆土	SY07							未計測				-90128.815	35810.793	257.032
6369	H-023	覆土	SY07	Ba		＞10	3.4	1.5	1.1	亜角	B			-90128.875	35810.261	257.087
17073	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		2680	19.8	17.1	7.5	亜角	E	C		-90127.623	35810.605	256.905
17074	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		990	13.6	11.3	4.5	亜角	D	C		-90127.979	35810.203	256.976
17075	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		610	16.3	11.7	5.0	亜角	E	D		-90128.187	35810.155	256.939
17076	H-022	AN～FB	SY07	Ba		1760	23.0	15.6	6.6	亜角	E	C		-90128.265	35809.740	256.985
17077	H-022	AN～FB	SY07	VBa		1030	22.2	14.9	3.8	亜角	C	B		-90128.411	35809.989	257.060
17078	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		20	5.6	3.4	1.5	亜角	E	C		-90128.409	35810.136	257.102
17079	H-023	AN～FB	SY07	VBa		1480	19.4	16.6	4.9	亜角	E	C		-90128.494	35810.226	257.062
17080	H-023	AN～FB	SY07	VBa		330	14.8	9.2	3.0	亜角(板状)	B			-90128.606	35810.208	257.017
17081	H-023	AN～FB	SY07	VAn	R15	750	17.0	14.0	3.7	亜角	E	C		-90128.587	35810.423	256.922
17082	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		580	14.5	11.0	5.0	亜角	E	C		-90128.302	35810.091	257.022
17083	H-022	AN～FB	SY07	Ba		1020	18.8	11.6	5.4	亜円	C	C		-90128.355	35809.852	256.929
17084	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		570	14.8	11.2	3.1	亜角	D	B		-90128.832	35809.552	256.993
17085	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		1260	22.5	15.3	3.5	亜角(板状)	C	C		-90129.144	35809.318	256.999
17086	H-022	AN～FB	SY07	VAn		1230	17.5	10.9	5.9	亜角	C	C		-90129.222	35809.647	256.992
17087	H-022	AN～FB	SY07	VBa		840	13.1	9.8	6.9	亜円	C	C		-90129.168	35809.549	256.998
17088	H-022	AN～FB	SY07	VAn		1010	20.0	13.0	6.4	亜角	E	C		-90129.065	35809.357	256.950
17089	H-022	AN～FB	SY07	Ba		1850	24.0	14.6	5.3	亜角	E	C		-90129.149	35809.539	256.936
17090	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		2410	20.3	16.7	6.9	亜角(板状)	E	C	ス	-90129.057	35809.497	256.939
17091	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		1130	19.8	16.0	3.9	亜角	E	C		-90129.084	35810.091	256.910
17092	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		1650	21.1	9.3	7.8	亜角	C	C		-90129.113	35810.031	256.880

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス・ヒビ	X座標	Y座標	Z座標
17355	H-012	AN～FB	SY10	VAn	R17	80	6.6	5.7	2.6	亜角	D	B		-90124.375	35701.913	255.036
17356	H-012	AN～FB	SY10	VBa	R18	70	5.4	5.4	3.5	亜円	E	C		-90124.168	35701.812	255.084
17357	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		380	14.5	8.0	1.4	亜角	D	C		-90124.091	35701.974	255.108
17358	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		460	13.1	8.2	6.2	亜角	C	C		-90124.148	35701.859	255.086
17359	H-012	AN～FB	SY10	Ba		370	12.5	11.2	2.6	亜角	C	B		-90124.349	35702.020	255.058
17360	H-012	AN～FB	SY10	Ba		100	7.3	6.6	2.1	亜角	D	B		-90124.271	35702.042	255.099
17361	H-012	AN～FB	SY10	Ba		730	12.2	8.1	3.9	亜角	E	C		-90124.236	35701.914	255.065
17362	H-012	AN～FB	SY10	Ba		110	8.5	5.0	3.9	亜角	E	C		-90123.986	35701.922	255.096
17363	H-012	AN～FB	SY10	VBa	R19	40	6.5	3.8	1.8	亜角	E	C		-90124.051	35701.921	255.094
17364	H-012	AN～FB	SY10	VBa	R19	230	12.5	8.7	2.8	亜角	E	C	ス	-90124.072	35701.833	255.089
17365	H-012	AN～FB	SY10	VBa	R19	>10	2.8	1.8	1.0	亜角	E	C		-90124.072	35701.916	255.090
17366	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		430	14.4	5.6	5.3	亜角	E	C		-90123.908	35702.053	255.070
17367	H-012	AN～FB	SY10	Ba		590	13.0	11.5	4.7	亜角	D	C	ス	-90123.924	35702.072	255.029
17368	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		310	14.2	10.0	5.5	亜角	C	C		-90123.923	35702.171	255.001
17369	H-012	AN～FB	SY10	Ba		460	15.6	9.3	3.4	亜角	E	C		-90124.118	35702.096	255.102
17370	H-012	AN～FB	SY10	VAn		460	17.5	7.2	3.7	亜角	E	C		-90124.074	35701.997	255.078
17371	H-012	AN～FB	SY10	Ba		610	14.6	9.0	4.3	亜角	C	C		-90124.400	35702.210	255.038
17372	H-012	AN～FB	SY10	VAn		270	12.3	8.7	3.5	亜角	D	B		-90124.283	35702.167	255.052
17373	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		670	12.3	6.8	6.2	亜角	C	C	ス	-90124.251	35702.101	255.057
17374	H-012	AN～FB	SY10	VBa	R18	880	12.4	10.8	8.2	亜角	E	C		-90124.136	35702.207	255.051
17375	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		250	12.3	8.2	2.3	亜角	C	B		-90123.992	35702.161	255.046
17376	H-012	AN～FB	SY10	VAn		90	7.6	5.0	3.0	亜角	E	B		-90123.806	35702.284	255.093
17377	H-012	AN～FB	SY10	Ba		360	11.5	8.0	4.5	亜円	E	B	ス	-90123.900	35702.281	255.025
17378	H-012	AN～FB	SY10	An(py)	R20	1040	18.8	10.5	6.8	亜角	E	C		-90123.847	35702.465	255.039
17379	H-012	AN～FB	SY10	An(py)	R20	530	13.4	11.0	5.4	亜角	E	C		-90123.818	35702.542	255.034
17380	H-012	AN～FB	SY10	An(py)	R16	750	15.6	11.9	3.5	亜角	E	C		-90124.055	35702.414	255.028
17381	H-012	AN～FB	SY10	VAn		90	9.5	5.9	23.0	亜角	D	B		-90124.135	35702.347	255.034
17382	H-012	AN～FB	SY10	Ba		980	16.5	11.3	4.6	亜角	C	B		-90124.269	35702.343	255.014
17383	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		320	14.5	7.2	2.8	亜角	D	B		-90124.112	35702.323	255.015
17384	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		60	8.5	4.1	2.2	亜角	E	B	ス	-90124.166	35702.304	255.019
17385	H-012	AN～FB	SY10	VAn		640	20.5	12.3	3.2	亜角	D	B		-90124.086	35702.357	255.002
17386	H-012	AN～FB	SY10	VAn		320	12.3	10.1	3.0	亜角	C	B		-90124.070	35702.468	254.957
17387	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		940	14.5	10.6	6.5	亜角	C	B		-90124.155	35702.487	254.894
17388	H-012	AN～FB	SY10	Ba		240	13.4	7.3	2.6	亜角	D	C		-90124.111	35702.583	254.804
17451	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		430	15.7	9.7	4.1	亜角	D	C		-90124.299	35701.164	254.922
17452	H-012	AN～FB	SY10	VBa		1120	17.8	12.7	4.6	亜角	C	B		-90124.481	35701.209	254.915
17453	H-012	AN～FB	SY10	VBa		260	11.0	7.6	3.8	亜角	C	B		-90124.375	35701.705	255.019
17454	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		330	12.4	8.3	3.3	亜角	E	B		-90124.410	35701.629	254.995
17455	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		480	13.7	8.5	5.9	亜角	C	C		-90123.927	35702.152	254.969
17456	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		100	9.1	7.5	1.8	亜角	D	C		-90124.173	35701.928	255.074
17457	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		60	7.4	4.3	1.7	亜角	E	B		-90124.239	35701.879	255.044
17458	H-012	AN～FB	SY10	VAn		670	18.1	12.2	4.2	亜角	E	C		-90124.426	35702.089	255.023
17459	H-012	AN～FB	SY10	VAn		450	14.8	8.3	5.0	亜角	C	C		-90124.401	35701.519	254.897
18419	G-012	AN～FB	SY11	VAn		30	5.0	3.8	2.0	亜角	E	C		-90131.517	35703.718	254.248
18420	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		500	14.3	5.8	5.6	亜角	E	C		-90131.410	35703.666	254.261
18421	G-012	AN～FB	SY11	VBa		780	15.0	11.9	6.3	亜角	C	C		-90131.393	35704.063	254.213
18422	G-012	SSC	SY11	VBa		180	7.7	6.0	4.4	亜円	C	C		-90130.949	35703.509	254.360
18423	G-012	AN～FB	SY11	Ba		230	8.5	6.9	3.8	亜角	C	C		-90130.620	35703.645	254.377
18424	G-012	SSC	SY11	An(py)		20	5.3	3.4	1.0	亜角	E	B		-90130.971	35704.636	254.327
18425	G-012	SSC	SY11	VAn		490	15.2	11.4	3.1	亜角	C	C		-90130.034	35704.711	254.526
18426	H-012	AN～FB	SY11	VBa		170	8.6	5.1	4.0	亜角	D	C		-90129.994	35704.495	254.420
18427	H-012	AN～FB	SY11	An(py)		550	13.3	11.5	5.1	亜角	D	C	ス	-90129.977	35704.336	254.399
18428	G-012	AN～FB	SY11	Ba		680	14.6	10.8	4.3	亜角	D	C		-90130.093	35704.362	254.396
18429	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		110	10.6	6.3	2.2	亜角(板状)	D	B		-90130.134	35703.954	254.437
18430	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		330	12.0	8.6	3.9	亜角	E	C		-90130.098	35704.008	254.436
18431	G-012	AN～FB	SY11	Ba		770	14.3	12.3	5.5	亜角	E	C		-90130.119	35704.050	254.413
18432	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		630	14.5	12.3	4.0	亜角	C	C		-90130.073	35704.161	254.412
18433	G-012	AN～FB	SY11	Ba	R22	60	7.8	6.9	1.1	亜角(板状)	D	B		-90130.342	35704.019	254.453
18434	G-012	AN～FB	SY11	Ba		260	7.9	7.2	5.2	亜円	D	C		-90130.219	35704.276	254.426
18435	G-012	AN～FB	SY11	Ba		300	17.2	8.6	2.5	亜角	C	C		-90130.179	35704.179	254.429
18436	G-012	AN～FB	SY11	Ba		700	14.2	8.6	6.7	亜円	C	B		-90130.415	35704.252	254.373
18437	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		20	7.9	5.0	0.6	亜角(板状)	B			-90130.395	35704.287	254.398
18438	G-012	AN～FB	SY11	An(py)	R23	860	17.6	12.1	4.7	亜角	E	C		-90130.440	35704.341	254.381
18439	G-012	AN～FB	SY11	Ba		490	11.0	9.7	4.7	亜角	E	C		-90130.256	35704.395	254.397
18440	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		1020	22.3	12.3	5.4	亜角	C	C		-90130.221	35704.008	254.415
18441	G-012	AN～FB	SY11	Ba	R22	560	15.7	15.0	2.3	亜角(板状)	C	B		-90130.245	35704.044	254.395
18442	G-012	AN～FB	SY11	Ba		360	8.3	7.7	4.7	亜角	E	B		-90130.360	35704.114	254.376
18443	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		830	16.0	7.8	6.8	亜角	E	B		-90130.296	35704.175	254.391
18444	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		520	14.0	11.9	3.8	亜角	C	B		-90130.343	35704.239	254.379
18445	G-012	AN～FB	SY11	Ba	R22	90	11.0	4.0	1.8	亜角(板状)	D	B		-90130.217	35704.095	254.396
18446	G-012	AN～FB	SY11	An(py)	R23	110	12.2	4.8	2.3	亜角	E	C		-90131.242	35704.802	254.148
18447	G-012	AN～FB	SY11	An(py)		210	8.3	5.3	4.2	亜角	E	C		-90131.316	35704.390	254.139
18448	G-012	AN～FB	SY11	Ba		550	15.2	13.3	3.3	亜角	D	C		-90131.020	35704.492	254.216

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス・ヒビ	X座標	Y座標	Z座標
17093	H-023	AN～FB	SY07	VBa		390	13.8	12.6	3.5	亜角	D	C		-90128.488	35810.224	256.918
17094	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		2210	23.2	18.0	6.0	亜角	C	C		-90128.474	35809.988	256.855
17095	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		330	11.8	10.9	2.8	亜角	E	C	ス	-90128.502	35809.840	256.883
17207	H-023	AN～FB	SY07	VBa		150	6.6	5.4	4.0	亜円	C	C		-90127.975	35810.410	256.867
17208	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		30	5.4	3.4	2.1	亜円	C	C		-90128.000	35809.817	256.983
17209	H-022	AN～FB	SY07	An(py)		1050	13.8	9.5	7.1	亜円	C	C		-90128.361	35809.895	256.836
17210	H-023	AN～FB	SY07	VBa		450	15.3	12.5	2.8	亜角	E	C		-90128.512	35810.270	256.788
17211	H-023	AN～FB	SY07	VBa		110	9.7	5.2	3.1	亜角	E	C		-90128.460	35810.123	256.870
17212	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		590	12.2	10.7	4.1	亜角	E	C	ス	-90128.480	35810.219	256.809
17213	H-023	AN～FB	SY07	VBa		430	14.7	12.3	2.8	亜角	E	C		-90128.810	35810.283	256.839
17214	H-022	AN～FB	SY07	LT		20	3.1	2.9	1.9	亜円	C	D		-90129.253	35809.374	256.869
17215	H-022	AN～FB	SY07	VBa		830	20.1	9.5	4.5	亜角	E	C		-90129.057	35809.420	256.904
17261	H-023	AN～FB	SY07	An(py)		400	13.9	12.5	3.1	亜角	C	C		-90128.800	35810.307	256.782
17262	H-023	AN～FB	SY07	Ba		650	14.7	12.5	4.5	亜角	E	C		-90128.476	35810.372	256.685
16866	H-023	AN～FB	SY08	VBa		720	14.8	10.3	6.5	亜角	E	C	ス	-90125.954	35812.744	256.903
16867	H-023	AN～FB	SY08	VBa		500	14.6	9.3	5.0	亜角	E	C		-90125.996	35813.362	256.876
16868	H-023	AN～FB	SY08	An(py)		410	10.7	8.6	4.8	亜円	C	C		-90125.936	35812.368	256.863
16869	H-023	AN～FB	SY08	An(py)	R13	620	20.3	9.2	4.6	亜角	E	C		-90125.788	35812.796	256.844
16870	H-023	AN～FB	SY08	Ba		580	11.8	10.0	6.2	亜角	C	C	ス	-90125.851	35812.726	256.858
16871	H-023	AN～FB	SY08	Ba		750	12.1	9.2	6.0	亜角	H	D	ス	-90125.964	35812.383	256.866
16872	H-023	AN～FB	SY08	VAn		840	12.4	12.4	6.0	亜円	C	C		-90125.991	35812.397	256.845
16873	H-023	AN～FB	SY08	VBa		220	12.6	8.3	2.8	亜角	E	C		-90126.049	35812.395	256.877
16896	H-023	覆土	SY08	VAn		1390	21.4	17.1	5.3	亜角	C	B		-90125.745	35812.389	256.868
16897	H-023	覆土	SY08	An(py)	R13	750	18.5	10.8	3.6	亜角	E	C		-90125.959	35813.103	256.818
16898	H-023	覆土	SY08	An(py)	R14	620	12.1	9.4	5.3	亜円	E	C		-90125.944	35813.362	256.817
16899	H-023	覆土	SY08	An(py)		670	20.9	8.9	4.2	亜角	E	C		-90125.896	35812.345	256.844
16983	H-023	覆土	SY08	VAn		730	15.3	12.2	4.6	亜角	E	B		-90125.874	35812.395	256.876
16984	H-023	覆土	SY08	An(py)		1020	15.2	13.3	6.5	亜角	E	C		-90125.927	35813.139	256.806
16985	H-023	覆土	SY08	An(py)		1000	18.4	8.2	5.6	亜角	E	C	ス	-90125.945	35813.249	256.877
16986	H-023	覆土	SY08	An(py)		660	13.6	11.7	5.3	亜角	D	C		-90125.843	35813.387	256.919
16987	H-023	覆土	SY08	An(py)		1290	19.1	13.4	5.0	亜角	E	C		-90125.690	35813.390	256.930
16988	H-023	覆土	SY08	An(py)		360	13.9	10.3	3.1	亜角	D	C	ス	-90125.639	35813.159	256.939
16989	H-023	覆土	SY08	An(py)		270	15.2	6.4	2.4	亜角	D	C	ス	-90125.787	35813.181	256.875
16990	H-023	覆土	SY08	An(py)		1280	16.4	11.6	7.1	亜角	C	C	ス	-90125.840	35813.199	256.828
16991	H-023	覆土	SY08	An(py)		650	16.2	9.7	4.8	亜角	C	C	ヒビ	-90125.506	35812.773	256.924
16992	H-023	覆土	SY08	An(py)		1110	14.1	13.4	6.3	亜角	C	B		-90125.563	35812.381	256.868
16993	H-023	覆土	SY08	An(py)		330	15.8	10.3	2.4	亜角	C	C	ス	-90125.541	35812.396	256.895
16994	H-023	覆土	SY08	An(py)		1530	17.6	15.0	6.2	亜角	D	C		-90125.632	35812.336	256.849
16995	H-023	覆土	SY08	VBa		490	12.5	11.1	3.6	亜角	C	C	ス	-90125.629	35813.125	256.900
16996	H-023	覆土	SY08	An(py)		1500	19.4	11.2	7.3	亜角	C	C	ス	-90125.736	35813.166	256.839
16997	H-023	覆土	SY08	An(py)		650	13.8	9.8	5.0	亜角	D	C	ス	-90125.724	35813.113	256.837
16998	H-023	覆土	SY08	Ba		970	14.6	13.1	5.9	亜角	C	C	ス	-90125.678	35812.926	256.815
16999	H-023	覆土	SY08	An(py)		1100	14.2	11.8	6.3	亜角	E	C	ヒビ	-90125.819	35813.007	256.825
17000	H-023	覆土	SY08	An(py)		1020	13.3	11.0	6.7	亜円	C	C		-90125.843	35813.113	256.803
17001	H-023	覆土	SY08	An(py)	R14	930	12.6	12.0	6.2	亜円	E	C		-90125.682	35812.804	256.856
17002	H-023	覆土	SY08	Ba		410	10.8	7.3	4.4	亜角	C	C		-90125.733	35812.804	256.837
17003	H-023	覆土	SY08	VBa		400	11.2	8.5	7.2	亜角	D	C		-90125.713	35812.846	256.831
17004	H-023	覆土	SY08	Ba		490	11.4	10.0	5.0	亜角	D	C	ス	-90125.798	35812.870	256.834
17005	H-023	覆土	SY08	An(py)		1870	18.8	16.3	6.4	亜角(扁状)	D	C	ス	-90125.510	35812.749	256.867
17006	H-023	覆土	SY08	VBa		470	15.3	11.5	3.6	亜角	C	C		-90125.544	35812.693	256.870
17007	H-023	覆土	SY08	VAn		990	20.8	14.5	5.0	亜角	D	B		-90125.627	35812.635	256.876
17008	H-023	覆土	SY08	An(py)		800	18.8	10.5	4.9	亜角	E	C	ス	-90125.596	35812.751	256.848
17009	H-023	覆土	SY08	VBa		550	13.4	12.0	4.0	亜角	C	C		-90125.671	35812.771	256.845
17061	H-023	覆土	SY08	An(py)		>10	2.5	1.7	0.4	剥片				-90125.851	35813.411	256.797
15398	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		380	17.0	7.5	2.4	亜角	C	C		-90122.963	35809.291	257.140
15400	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		>10	3.8	2.5	1.0	亜角	E	C		-90122.861	35809.542	257.171
15401	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		290	8.7	7.8	5.5	亜角	C	C		-90122.827	35809.424	257.095
15404	H-022	AN～FB	SY09	Ba		110	7.8	5.7	2.8	亜角	E	C		-90122.728	35809.747	257.145
15406	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		940	18.9	15.1	3.4	亜角	E	C		-90122.647	35809.657	257.162
15407	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		290	13.0	11.0	2.6	亜角	D	C		-90122.640	35809.524	257.171
15501	H-022	AN～FB	SY09	An(py)	R10	30	5.8	3.8	2.0	亜角	E	C		-90122.682	35809.539	257.098
15502	H-022	AN～FB	SY09	An(py)		60	4.4	3.8	3.2	亜円	C	C		-90122.606	35809.407	257.079
17344	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		700	18.2	10.5	4.8	亜角	D	C		-90124.218	35701.369	255.104
17345	H-012	AN～FB	SY10	An(py)	R16	260	12.6	6.6	3.3	亜角(扁状)	E	C		-90124.393	35701.534	255.185
17346	H-012	AN～FB	SY10	VBa		820	14.8	12.0	5.2	亜角	D	B		-90124.306	35701.533	255.076
17347	H-012	AN～FB	SY10	Ba		610	16.5	9.2	4.6	亜角	E	C		-90124.339	35701.365	255.065
17348	H-012	AN～FB	SY10	VBa		760	15.6	12.9	4.0	亜角	E	C		-90124.063	35701.370	255.073
17349	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		720	14.5	13.0	4.9	亜角	D	B		-90124.279	35701.315	255.059
17350	H-012	AN～FB	SY10	VAn	R17	160	9.5	7.2	2.8	亜角	D	C		-90124.373	35701.354	255.049
17351	H-012	AN～FB	SY10	VAn	R17	130	9.8	7.4	2.7	亜角	D	B		-90124.448	35701.303	255.028
17352	H-012	AN～FB	SY10	An(py)		1170	28.0	18.4	6.3	亜角	D	C		-90124.437	35702.342	255.065
17353	H-012	AN～FB	SY10	VBa		830	14.9	9.4	7.0	亜角	E	B		-90124.289	35701.951	255.092
17354	H-012	AN～FB	SY10	VBa		170	11.7	9.2	2.1	亜角	D	B		-90124.354	35701.911	255.074

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス・ヒビ	X座標	Y座標	Z座標
18449	G-012	AN～FB	SY11	Ba		250	12.2	7.3	2.9	亜角	D	C		-90130.953	35704.405	254.227
18450	H-012	AN～FB	SY11	Ba		930	15.3	8.8	7.9	亜角	C	B		-90129.965	35703.893	254.297
18546	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R24	310	11.6	8.5	3.3	亜角	E	C		-90133.905	35705.734	253.675
18547	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R25	770	13.4	12.0	5.5	亜円	E	C		-90134.151	35705.849	253.543
18548	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		30	5.9	4.4	1.4	亜角(板状)	B			-90134.213	35705.660	253.712
18549	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		60	7.3	4.0	3.0	亜角	B			-90134.388	35705.592	253.685
18550	G-012	AN～FB	SY12	VBa		750	11.7	9.0	5.6	亜角	C	C		-90134.262	35705.961	253.518
18551	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		130	8.8	6.5	2.6	亜角(板状)	D	B		-90134.452	35705.998	253.614
18552	G-012	AN～FB	SY12	Ba		150	7.6	5.3	3.7	亜角	C	C		-90134.510	35705.805	253.617
18553	G-012	AN～FB	SY12	VBa		1620	14.8	14.0	8.7	亜円	C	C	ビヒ	-90134.750	35705.695	253.441
18554	G-012	AN～FB	SY12	Ba		690	10.6	9.8	7.0	亜円	E	C		-90134.666	35705.577	253.505
18555	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R26	350	10.3	7.8	4.1	亜角	E	C		-90134.686	35705.374	253.496
18556	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		130	8.3	5.5	3.5	亜角	E	C		-90134.791	35705.429	253.489
18557	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R26	280	10.5	8.9	4.3	亜角	E	C		-90134.695	35705.082	253.538
18558	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		660	15.0	9.6	5.8	亜角	D	B		-90134.437	35706.134	253.505
18559	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R41	530	13.8	8.6	5.3	亜角	E	C		-90134.542	35706.199	253.495
18560	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		1790	14.0	13.6	10.0	亜円	C	C		-90134.774	35706.062	253.485
18561	G-012	AN～FB	SY12	VAn		840	12.0	10.3	7.2	亜円	C	C		-90134.753	35706.188	253.506
18562	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R41	820	17.2	13.6	5.3	亜角	E	C		-90134.699	35706.372	253.499
18563	G-012	AN～FB	SY12	VAn		700	16.2	10.2	7.5	亜円	C	B		-90134.583	35706.612	253.492
18564	G-012	AN～FB	SY12	VAn		380	13.4	8.8	3.5	亜角	E	C		-90134.689	35706.814	253.523
18565	G-012	AN～FB	SY12	Ba		850	15.0	13.2	5.4	亜角	C	B		-90134.730	35706.917	253.518
18566	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R39	1460	15.5	12.1	10.3	亜角	E	B	ビヒ	-90134.669	35707.078	253.498
18567	G-012	AN～FB	SY12	Ba		420	9.5	7.0	5.8	亜円	C	C		-90134.660	35707.219	253.507
18568	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R27	70	5.5	4.0	3.6	亜角	D	B		-90134.830	35707.249	253.463
18569	G-012	AN～FB	SY12	VBa		150	7.8	6.8	3.0	亜角	E	C		-90135.121	35707.266	253.442
18570	G-012	AN～FB	SY12	Ba		1160	17.2	11.0	6.6	亜角	D	C		-90135.068	35707.257	253.440
18571	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R25	380	12.6	8.3	4.2	亜角	E	C		-90135.033	35707.046	253.499
18572	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R28	660	12.4	10.0	4.8	亜円	E	B		-90134.783	35706.775	253.507
18573	G-012	AN～FB	SY12	Ba		30	5.3	3.0	2.3	亜円	E	B		-90134.792	35706.624	253.464
18574	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		20	5.0	4.0	1.2	亜角(剥片)	D	A		-90135.559	35707.297	253.486
18575	G-012	AN～FB	SY12	Ba		850	14.0	12.6	5.4	亜角	C	C		-90135.638	35707.215	253.387
18576	G-012	AN～FB	SY12	Ba		3990	29.8	21.5	4.9	亜角(板状)	C	B		-90135.886	35707.636	253.348
18577	G-012	AN～FB	SY12	Ba		1160	14.8	12.2	7.4	亜角	D	B		-90135.308	35707.739	253.431
18578	G-012	AN～FB	SY12	VBa		490	11.5	7.3	6.5	亜角	D	C		-90134.889	35707.556	253.418
18579	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R29	420	10.6	9.5	4.9	亜角	D	B		-90134.795	35707.684	253.459
18580	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		2000	25.0	18.0	5.4	亜角	C	C		-90134.639	35707.683	253.475
18581	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R27	210	9.5	5.2	4.6	亜角	D	B		-90134.724	35707.609	253.470
18582	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R27	650	13.5	8.0	4.9	亜角	D	B	ビヒ	-90134.502	35707.531	253.505
18583	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		2100	16.6	15.5	9.8	亜角	C	C		-90134.429	35707.817	253.525
18584	G-012	AN～FB	SY12	VAn		550	10.3	8.5	6.6	亜円	C	B		-90134.453	35707.718	253.589
18585	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R28	280	11.4	9.2	2.9	亜角	E	A		-90134.544	35707.925	253.617
18586	G-012	AN～FB	SY12	Tu		80	6.4	5.0	4.0	亜円	C	C		-90134.404	35708.019	253.508
18587	G-012	AN～FB	SY12	Tu		40	5.2	4.2	2.5	亜円	C	C		-90134.274	35707.695	253.584
18588	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R30	50	8.5	4.8	1.5	亜角	E	C		-90133.978	35707.503	253.559
18589	G-012	AN～FB	SY12	Ba		880	13.8	10.5	7.4	亜角	C	B		-90134.368	35707.362	253.560
18590	G-012	AN～FB	SY12	VAn		160	12.2	4.7	3.3	亜角	E	B		-90134.250	35707.244	253.497
18591	G-012	AN～FB	SY12	VAn		40	5.5	3.5	3.0	亜角	C	C		-90134.150	35707.268	253.507
18592	G-012	AN～FB	SY12	Ba	R31	130	9.6	5.2	2.4	亜角	E	B		-90133.994	35707.240	253.529
18593	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R39	3980	20.0	15.8	11.9	亜角	E	B	スス	-90133.909	35707.105	253.528
18594	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R41	1550	21.0	12.0	5.3	亜角	E	C		-90134.143	35707.192	253.448
18595	G-012	AN～FB	SY12	VBa		1270	12.4	10.0	7.9	亜円	E	C		-90134.124	35707.110	253.492
18596	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		30	6.6	2.8	1.8	亜角	E	B		-90134.437	35707.109	253.489
18597	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R32	70	8.8	4.5	1.4	亜角	D	B	スビヒ	-90134.449	35707.116	253.493
18598	G-012	AN～FB	SY12	VAn		750	24.0	10.4	4.4	亜円	C	B	スビヒ	-90134.420	35706.962	253.527
18599	G-012	AN～FB	SY12	VBa		3120	17.6	15.9	10.8	亜角	C	C	ビヒ	-90134.435	35706.718	253.492
18600	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R32	60	7.3	5.2	2.9	亜角	E	B		-90134.327	35706.828	253.573
18601	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R32	270	11.6	4.9	4.3	亜角	E	B		-90134.234	35706.814	253.544
18602	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R40	11	8.5	4.6	3.8	亜角	E	B		-90134.213	35706.652	253.516
18603	G-012	AN～FB	SY12	VBa		2220	15.5	11.2	10.1	円	C	B		-90134.306	35706.641	253.452
18604	G-012	AN～FB	SY12	VBa		660	14.3	9.4	5.5	亜角	C	B		-90134.390	35706.473	253.488
18605	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		2370	17.7	14.3	10.3	亜角	C	B		-90134.211	35706.544	253.484
18606	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R24	2660	19.6	10.5	9.2	亜角	E	C	スス	-90134.049	35706.532	253.553
18607	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R32	750	13.9	12.6	4.6	亜角	E	C		-90133.914	35706.451	253.588
18608	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R30	320	15.9	10.1	2.6	亜角	E	C		-90133.745	35706.342	253.650
18609	G-012	AN～FB	SY12	LT		40	5.2	4.1	3.3	亜円	C	C		-90134.533	35707.799	253.499
18610	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R29	340	9.3	7.9	3.7	亜角	D	B		-90134.433	35707.776	253.548
18611	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R29	1670	21.3	16.5	6.1	亜角	D	C		-90134.464	35707.730	253.452
18612	G-012	AN～FB	SY12	VBa		1950	15.0	12.2	10.3	亜円	C	B		-90134.035	35707.209	253.466
18613	G-012	AN～FB	SY12	Ba	R31	600	16.3	10.2	3.8	亜角	E	C		-90134.349	35707.216	253.474
18614	G-012	AN～FB	SY12	Ba		5230	21.2	17.0	14.2	亜角	C	B		-90134.226	35707.034	253.428
18615	G-012	AN～FB	SY12	Ba		580	17.9	8.2	5.3	亜角	D	B		-90134.513	35706.922	253.465
18616	G-012	AN～FB	SY12	Ba		800	13.7	10.1	6.2	亜角	C	C		-90134.338	35706.799	253.482

遺物番号	グリッド	層位	調査区遺構	石材	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	形態	状態	色調	スス・ヒビ	X座標	Y座標	Z座標
18617	G-012	AN～FB	SY12	VBa		290	13.8	7.4	7.4	亜角	C	C		-90134.191	35706.837	253.495
18618	G-012	AN～FB	SY12	VAn		6090	22.5	17.6	15.0	亜角	C	C	ヒビ	-90134.044	35706.772	253.402
18619	G-012	AN～FB	SY12	VBa		990	12.0	10.9	8.1	亜角	C	C		-90134.254	35706.921	253.474
18620	G-012	AN～FB	SY12	VAn		5810	23.5	19.5	15.6	亜角	C	B		-90134.134	35706.934	253.402
18621	G-012	AN～FB	SY12	VBa		5480	23.1	16.5	15.6	亜角	C	B		-90134.292	35706.820	253.393
18622	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R32	30	4.8	3.8	2.6	亜角	E	C		-90134.426	35706.747	253.471
18623	G-012	AN～FB	SY12	VBa		1700	16.0	12.8	9.9	亜角	C	B	スス	-90134.409	35706.834	253.450
18624	G-012	AN～FB	SY12	VAn	R28	1900	15.4	11.5	10.6	亜角	E	B		-90134.608	35706.731	253.464
18625	G-012	AN～FB	SY12	Ba		560	14.4	9.8	5.4	亜角	E	C		-90134.704	35706.659	253.445
18626	G-012	AN～FB	SY12	Ba		60	7.2	4.3	3.0	亜角	D	B		-90134.705	35706.968	253.527
18627	G-012	AN～FB	SY12	VAn		800	15.0	13.0	4.5	亜角	E	C		-90134.760	35706.974	253.447
18628	G-012	AN～FB	SY12	VBa		1380	14.2	10.8	9.8	亜円	C	B		-90134.589	35706.852	253.433
18629	G-012	AN～FB	SY12	VBa		70	6.3	3.7	3.0	亜円	C	C		-90134.423	35706.522	253.495
18630	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		370	14.5	6.3	3.8	亜角	C	A		-90134.183	35706.423	253.517
18631	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R24	130	8.2	4.8	3.4	亜円	E	B		-90134.020	35706.532	253.557
18632	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		410	18.0	17.5	11.8	亜円	C	C		-90134.379	35706.940	253.418
18633	G-012	AN～FB	SY12	Ba		220	11.3	6.8	2.8	亜角	D	B		-90134.353	35707.293	253.484
18634	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		920	11.4	12.4	6.8	亜角	C	C	スス	-90134.349	35707.146	253.438
18635	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		890	10.6	9.5	7.7	亜円	D	C		-90134.628	35707.058	253.441
18636	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R33	90	6.3	4.8	3.6	亜円	D	B		-90134.365	35706.783	253.443
18637	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R33	60	4.0	3.9	3.9	亜円	D	B	スス	-90134.327	35706.868	253.448
18638	G-012	AN～FB	SY12	Ba		30	6.2	4.3	1.4	亜角	D	A		-90134.314	35706.601	253.439
18639	G-012	AN～FB	SY12	VBa		910	13.2	9.8	7.7	亜円	C	B		-90134.034	35706.526	253.467
18640	G-012	AN～FB	SY12	VAn		380	11.4	7.2	5.0	亜円	C	C		-90133.852	35706.462	253.495
18641	G-012	AN～FB	SY12	Ba		640	9.4	8.3	8.1	亜円	C	C		-90134.061	35706.446	253.404
18643	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		420	9.8	7.3	5.5	亜円	D	C		-90134.207	35706.631	253.378
18644	G-012	AN～FB	SY12	An (py)	R40	330	12.1	7.4	4.7	亜角	E	B		-90134.143	35706.632	253.386
18646	G-012	AN～FB	SY12	An (py)		500	10.3	9.0	5.8	亜円	D	C		-90134.220	35706.604	253.323
18808	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90132.412	35673.017	260.000
19028	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.748	35671.277	260.252
19029	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.830	35671.262	260.259
19030	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90130.721	35671.505	260.240
19031	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.803	35671.471	260.215
19032	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.858	35671.706	260.210
19033	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90130.978	35671.455	260.222
19034	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.095	35671.659	260.204
19035	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90131.145	35671.574	260.214
19036	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.228	35671.383	260.222
19037	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.316	35671.395	260.190
19038	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.551	35671.100	260.180
19039	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.825	35671.561	260.130
19040	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.886	35671.599	260.099
19041	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90132.445	35671.149	260.057
19042	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90132.115	35671.909	260.027
19043	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.494	35671.892	260.115
19044	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.490	35671.951	260.109
19045	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.238	35671.998	260.132
19046	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.118	35671.960	260.139
19047	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90131.124	35672.513	260.134
19048	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.897	35673.142	260.036
19049	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90131.170	35673.150	259.996
19050	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.257	35673.030	260.024
19051	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.512	35673.380	259.929
19052	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90131.795	35672.896	260.002
19053	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90132.534	35673.491	259.903
19054	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90130.150	35671.804	260.233
19114	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測		赤化		-90132.977	35671.409	259.881
19115	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90132.433	35671.793	259.930
19116	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90132.363	35671.942	259.905
19117	G-009	AN～FB	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90131.860	35671.404	260.072
19118	G-009	ZN	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90130.830	35673.159	259.947
19119	G-009	ZN	SY13	An (py)						SY13は未計測				-90130.103	35673.106	260.039
19101	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90133.622	35666.460	260.166
19102	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90133.999	35666.417	260.178
19103	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90134.093	35666.588	260.179
19104	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測				-90134.096	35666.529	260.176
19105	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90134.159	35666.461	260.179
19106	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90133.615	35666.852	260.197
19107	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90133.822	35666.837	260.194
19108	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測				-90133.842	35667.067	260.188
19109	G-008	AN～FB	SY14	An (py)						SY14は未計測		赤化		-90134.004	35667.148	260.212

６．焼土跡（第73～74図）

焼土跡は全部で５基検出された。調査区東側丘陵頂部の集落域に４基、調査区西側丘陵頂部に１基である。ロームが赤化した焼土塊は１号焼土跡、２号焼土跡には顕著であるが、他は焼土粒が多く見られるといった程度である。

⑴　１号焼土跡（第73図　FP01）

１号焼土跡は調査区東側Ｈ-023・Ｉ-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は黒褐色土層で、３号竪穴状遺構を一部切る形で重なる。焼土塊が形成されていた。長軸0.76m、短軸0.75m、深さ0.24mである。

本遺構からは土器が４点出土した。15130は第Ⅲ群Ａ類１種ｄ打越式土器である。口唇上は篦状工具により刻み目が施され、外面には貝殻腹縁を用いた波状貝殻文が縦位に密に施文されている。本遺構は３号竪穴状遺構を一部切っているが、竪穴状遺構からは貝殻腹縁文の山形が角度を緩やかにしたものが出土している。縦位に密な施文を施す本遺構出土土器が時間的にやや新しいことが予想される。

⑵　２号焼土跡（第73図　FP03）

２号焼土跡は調査区東側Ｈ-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。検出面は漸移層であり、５号住居跡直上に位置し、一部住居跡の床面を掘り抜いている。焼土跡東側の輪郭は一部明確ではなかったため破線とした。残存部長軸0.76m、短軸0.75m、深さ0.24mである。焼土塊が形成されていた。覆土は５号住居と若干異なることや掘り込みを伴うような形状ではあるが、土坑を伴うか否かは判然としなかった。

本遺構からは打越式を含み早期末葉に帰属すると思われる土器が３点出土した。先述したが本遺構は５号住居跡を一部切っており、本遺構は住居跡より新しいことになる。また、本遺構の焼土粒は周辺に散っており、特に等高線が下る方向にある６号住居跡までの間、および６号住居跡の本遺構側（北側）覆土にまで広がっていた。６号住居跡の埋没過程で本遺構の焼土粒が流れ込んだことになる。上記から５号住居跡→６号住居跡→本遺構・７号集石遺構および13号集石遺構と考えられる。

⑶　３号焼土跡（第74図　FP02）

３号焼土跡は調査区東側Ｉ-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域の北側に占地する。検出面は漸移層であり、一部撹乱により壊されていた。残存部は長軸0.62m、短軸0.60m、深さ0.18mである。覆土は黒褐色土層を主体とすることから掘り込みを伴うような様子ではあるが、調査の段階では土坑を伴うものであるかは明確にはわからなかった。

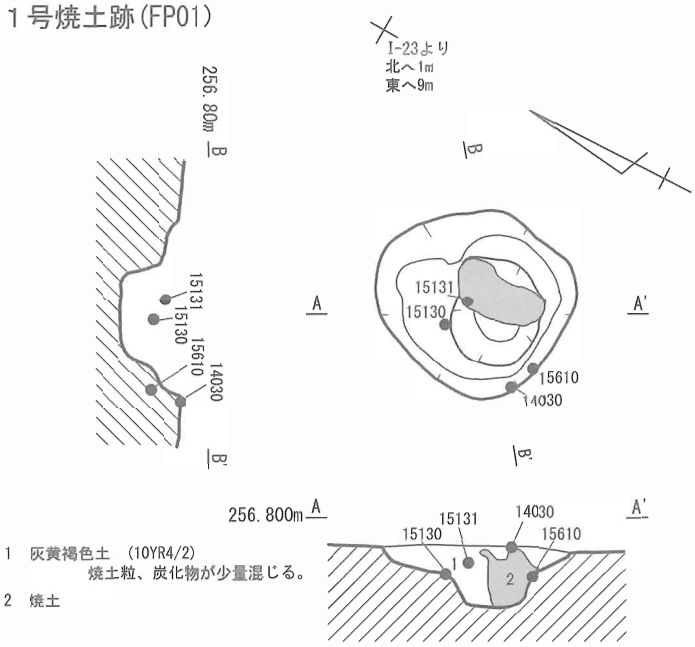
⑷　４号焼土跡（第74図　FP04）

４号焼土跡は調査区東側Ｈ-022グリッドに位置し、丘陵頂部集落域の５号住居南西に占地する。検出面は漸移層である。残存部は長軸0.58m、短軸0.44m、深さ0.05mである。覆土は黒褐色土層を主体とすることから掘り込みを伴うような様子ではあるが、土坑を伴うか否かは判然としなかった。

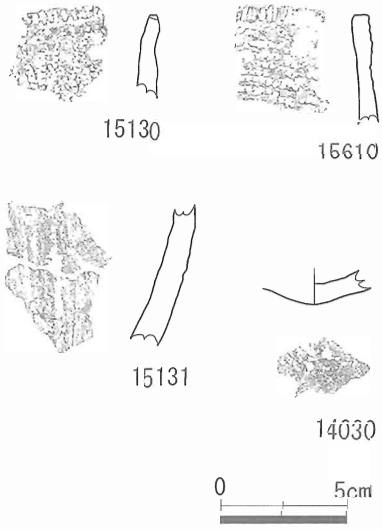
⑸　５号焼土跡（第74図　FP05）

５号焼土跡は調査区東側Ｇ-008グリッドに位置し、西側丘陵頂部に占地する。検出面はカワゴ平パミス層であり、２号集石遺構の上に一部重なっている。残存部は長軸2.36m、短軸1.34m、深さ0.25mである。覆土はカワゴ平パミス包含層を主体とすること、仙石スコリア包含層以下を掘り込んでいることから土坑を伴うものである。

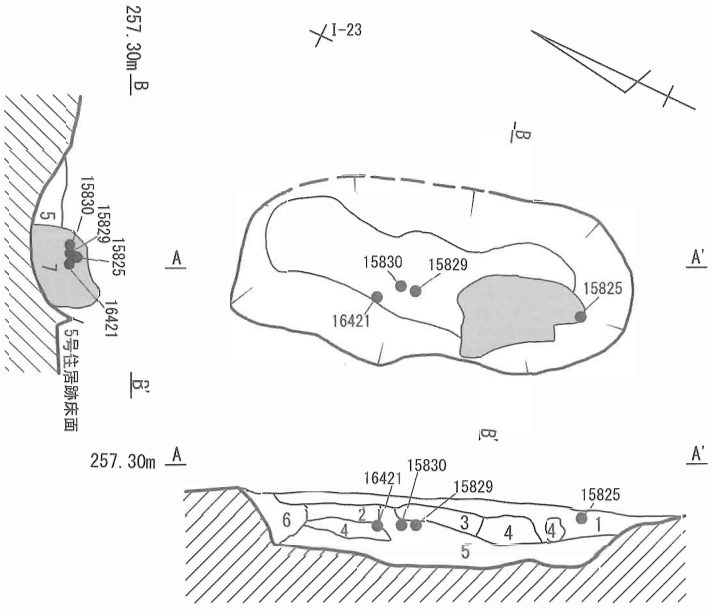
1号焼土跡(FP01)



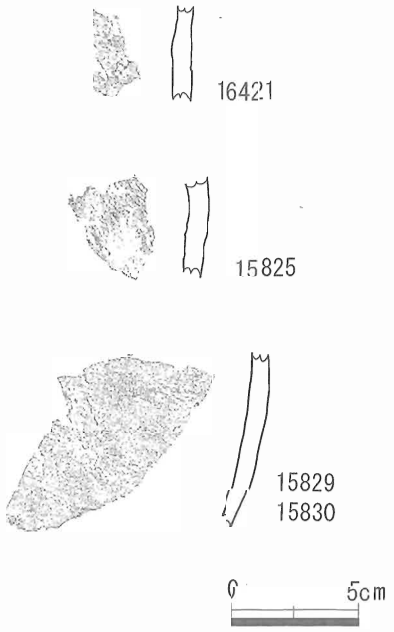
1　灰黄褐色土　(10YR4/2)
　　焼土粒、炭化物が少量混じる。
2　焼土



2号焼土跡(FP03)

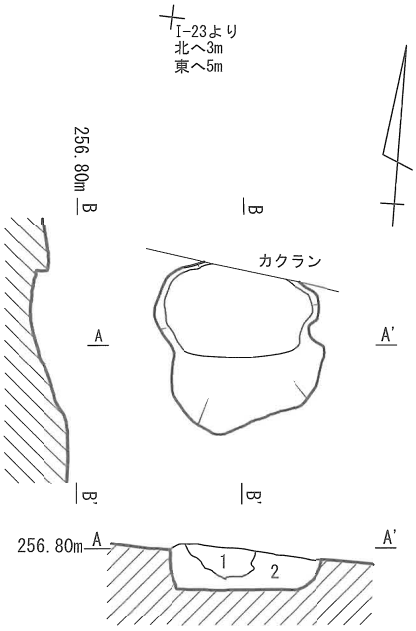


1	灰黄褐色土	(10YR4/2)	微量の焼土粒が混じる。
2	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	焼土粒、炭化物が少量混じる。
3	にぶい黄褐色土	(10YR5/4)	2層に類似する。少量の焼土粒、微量の炭化物が混じる。
4	明赤褐色土	(2.5YR5/8)	焼土粒が多量に混じる。
5	黒褐色土	(5YR2/2)	炭化物が多量に混じる。
6	にぶい黄褐色土	(10YR5/3)	休場層が混じる。
7	焼土		



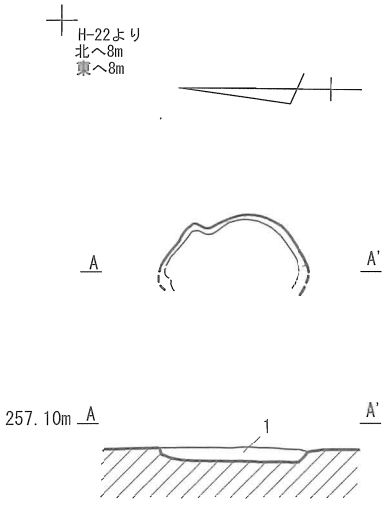
第73図　焼土跡(1)及び出土遺物

３号焼土跡(FP02)



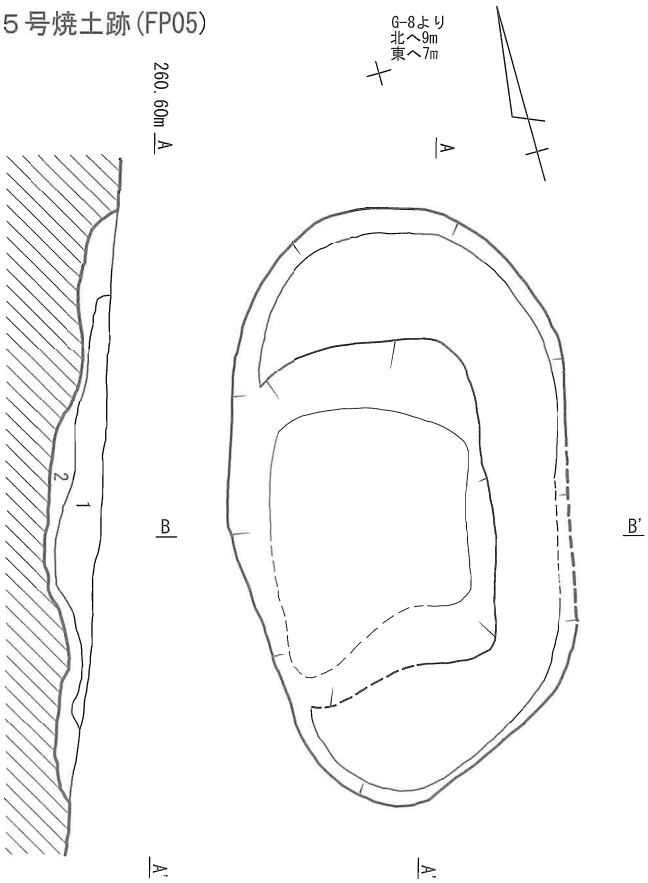
1　褐灰色土　(10YR5/1)　休場層が少量混じる。
2　褐灰色土　(10YR5/1)　φ1～2mmの赤色スコリアを少量含む。
炭化物が少量混じる。

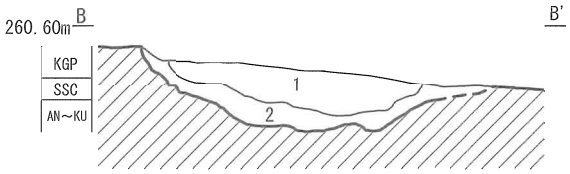
４号焼土跡(FP04)



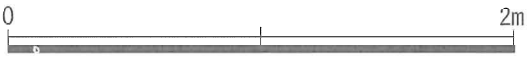
1　褐灰色土　(10YR5/1)　微量の炭化物が混じる。

５号焼土跡(FP05)





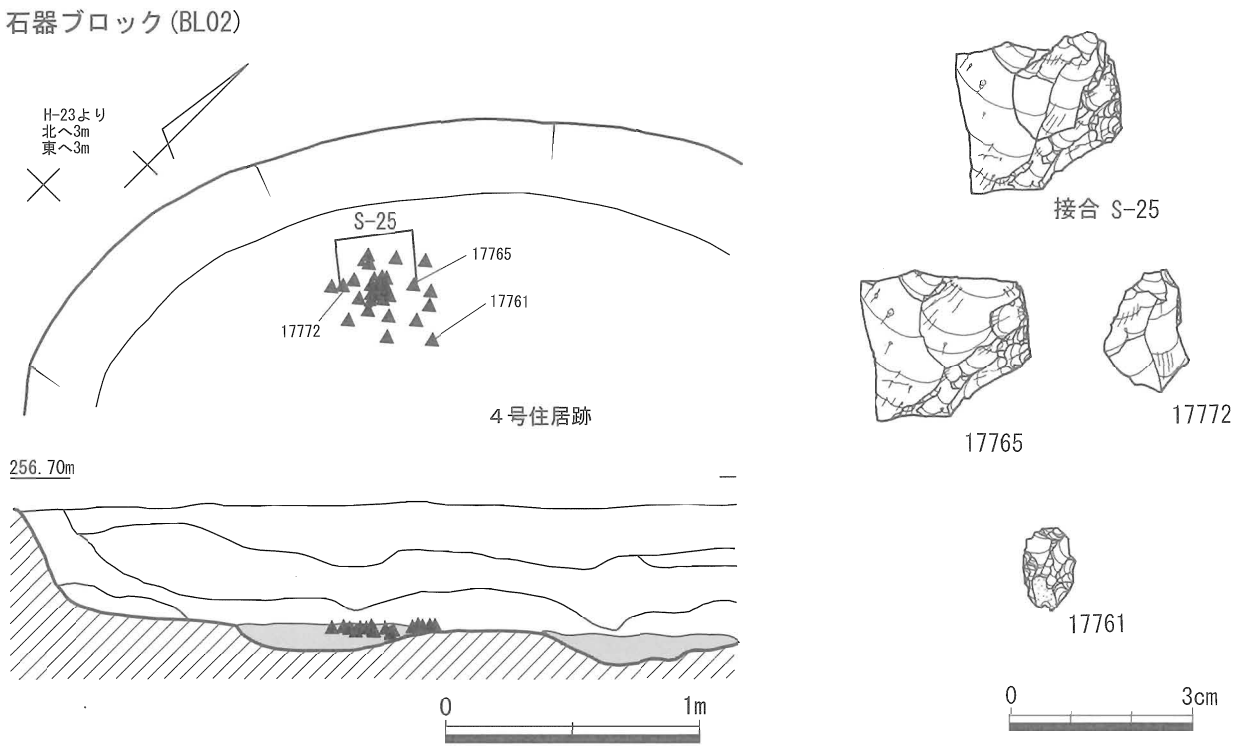
1　褐色土　(7.5YR4/4)　φ2～10mmの焼土粒が多量に混じる。
2　褐色土　(7.5YR4/4)　φ2～3mmの焼土粒が少量混じる。



第74図　焼土跡(2)

7．石器ブロック（第75図　BL02）

黒曜石が特に集中している箇所について、縄文時代ではあるが石器ブロックとして扱うこととした。早期に該当するものとしては１基が確認されている。本遺構は調査区東側H-023グリッドに位置し、丘陵頂部集落域内に占地する。４号住居跡の床面を取り去った所より検出された。検出面は漸移層であり、径0.3m程度の円形に遺物が分布している。出土した遺物は黒曜石の石核１点、同じく黒曜石の剥片26点である。石核は産地が神津島恩馳島群であった。他の剥片は分析してないが、肉眼観察の限りでは神津島であろうと思われる。剥片は微細なものが多い。その中から石核と剥片２点を図示した。
17765は石核で17772の剥片と接合した。その他の剥片を詳細に観察したところ、石鏃製作時に見られる連続した平坦剥離を背に持つ剥片が３点確認された。17761はその中の顕著なものである。石鏃製作作業を行った跡であるといえる。なお、住居内の施設の一部であった可能性も否定できない。



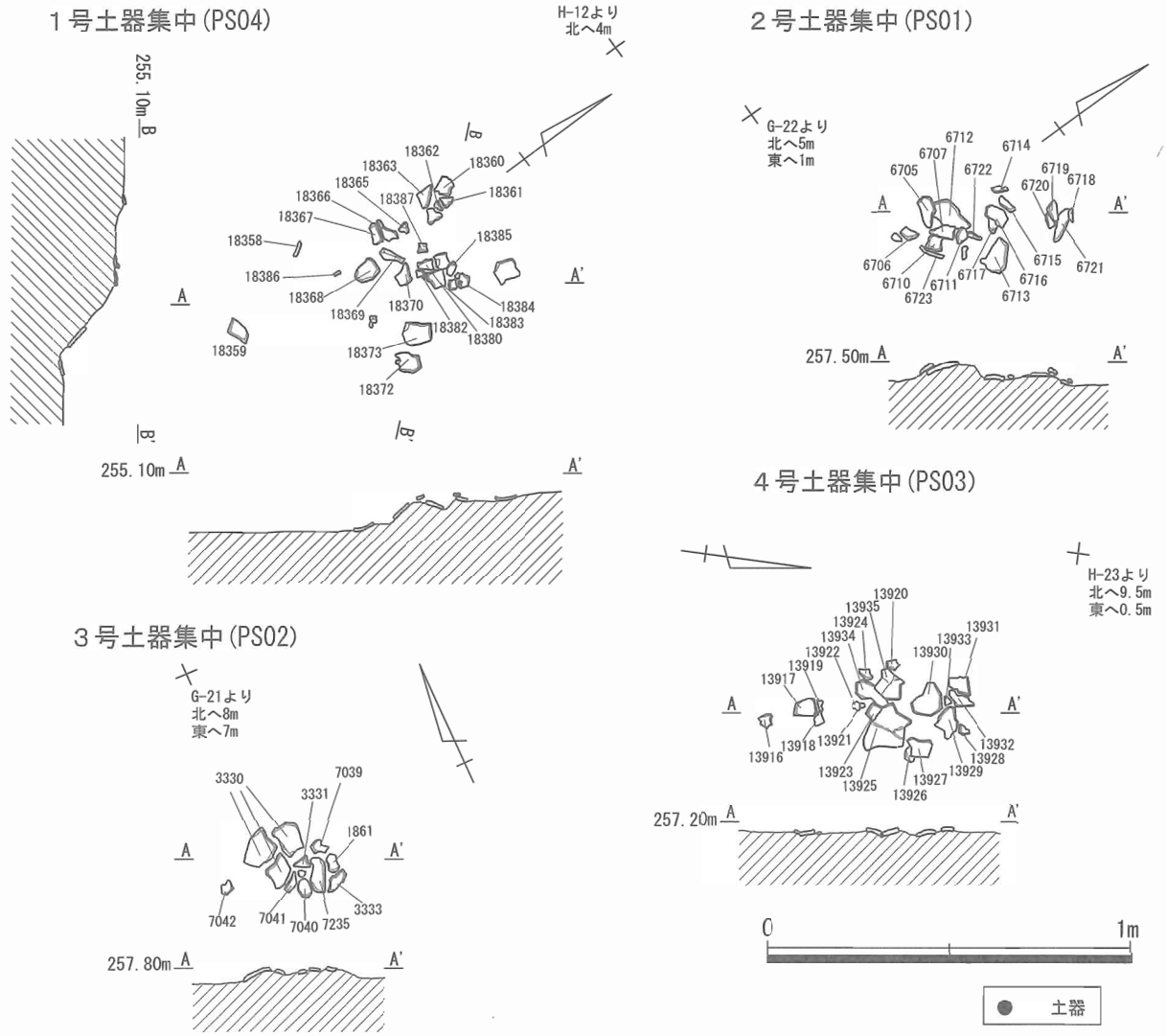
第75図　石器ブロック及び出土遺物

8．土器集中（第76～77図）

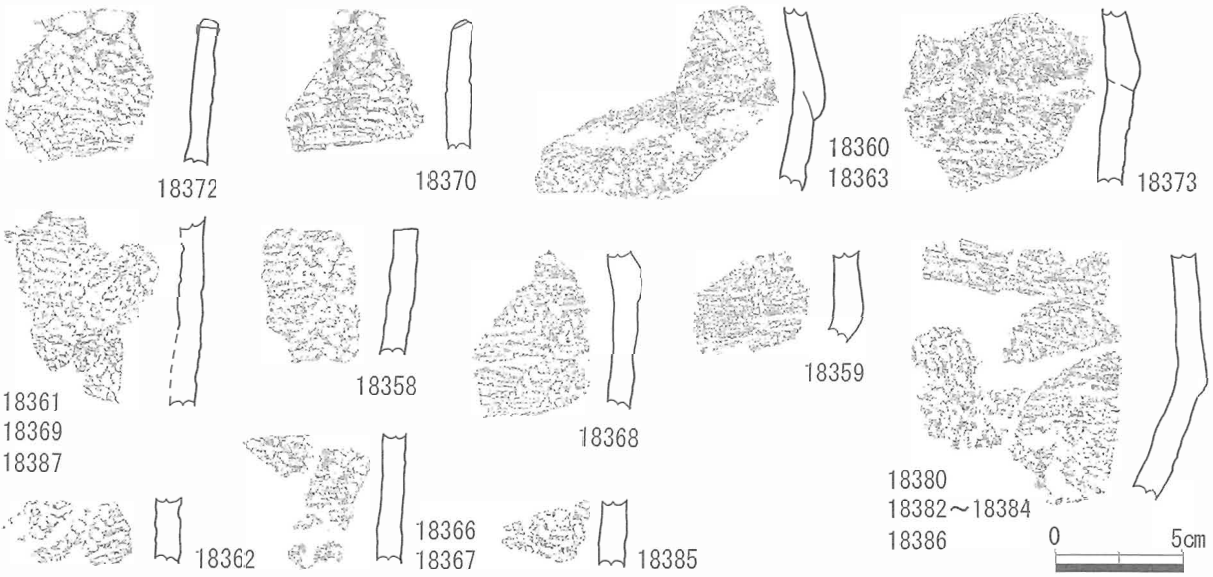
土器が集中的に出土したところを土器集中という遺構として認識し、ここにまとめた。全部で４基が検出された。調査区全体を見渡すと土器は小さい破片で出土することが多く、大きく接合するものであっても離れた場所から出土したものが小さい土器片が接合した結果であることが多く、１個体がまとまって出土したことはまれである。そのような状況の中で、例外的に１個体～数個体がまとまって出土すること、あるいは複数個体の土器片であっても折り重なるようにまとまって出土することは他と異質であると考え、遺構とした。時期は早期後葉の茅山式が１基、他の３基は早期末葉の打越式であった。

(1)　１号土器集中（第76図　PS04）

本遺構は調査区中央H-012グリッドに位置し、中央埋没谷頭の西側に占地する。検出面は仙石スコリア包含層である。出土した遺物は第Ⅱ群Ｃ類１種茅山下層式土器である。



１号土器集中



第76図　土器集中及び出土遺物(1)

(2)　2号土器集中（第76～77図　PS01）

本遺構は調査区東側G-022グリッドに位置し、早期末葉の集落域南側に占地する。検出面は標準土層5・6層の混層である。出土した土器は19点であり、そのうち13点を図化した。6715他は第Ⅲ群A類1種c①の打越式土器であり、接合した。口唇は平坦面が作出され、篦状工具により刻み目が施されている。口縁部には3列の貝殻腹縁文が山形に施文されている。その他のものは第Ⅲ群A類3種f打越式土器あるいは並行期土器の無文胴部である。

多くの個体が接合することが無く、複数個体がバラバラの破片状態でこの場所にまとめて廃棄されたと考える。

(3)　3号土器集中（第76～77図　PS02）

本遺構は調査区東側G-021グリッドに位置し、早期末葉の集落域南西側に占地する。検出面は標準土層5・6層の混層である。出土した土器は9点であり、そのうち5点を図化した。3331他は第Ⅲ群A類1種c①の打越式土器であり、接合した。口唇は平坦面が作出され、篦状工具により刻み目が施されている。口縁部には3列の貝殻腹縁文が山形に施文されている。器面全体にわたり条痕を磨り消した痕跡が見られる。7042も打越式土器である。斜位の条痕が施された上に2列の貝殻腹縁文が山形に施文されている。

2個体以上が含まれていると思われ、バラバラな破片となる前に破損した土器をこの場所に廃棄したものと考える。

(4)　4号土器集中（第76～77図　PS03）

本遺構は調査区東側H-022・H-023グリッドに位置し、早期末葉の集落域内に占地する。検出面は標準土層5・6層の混層である。5号住居跡の南東側に一部重なり、住居跡検出面から直上0.1mにある。出土した土器は20点であり、そのうち16点を図化した。13916他は第Ⅲ群A類1種c①の打越式土器である。外面には全体に器面調整による擦痕が見られ、その上に2列の貝殻腹縁文が山形に施文されている。内面にも擦痕が見られる。13935も打越式土器である。擦痕の上に貝殻腹縁文が山形に施文されている。

2個体以上が含まれていると思われ、比較的大ぶりな破片となった土器をこの場所に廃棄したものと考える。

5号住居跡出土土器と本遺構とで比較すると、住居跡からは条痕文のある土器が出土しているが本遺構には明確な条痕文は無い。このことから条痕文が施文されている打越式土器は古いものである可能性はある。しかし住居跡出土の条痕文のある土器片は覆土の上層から出土しており、住居に伴うものである可能性が低く層位で時期を判断するのが難しく、また本遺構の土器も口唇が欠損しており条痕文が間違いなく無いと言えない資料であることから、あくまでも一つの可能性として述べるにとどめておく。

《参考・引用文献》

水野正好1986「縄文時代集落復原への基礎的操作」　斎藤忠編『日本考古学論集2　集落と衣食住』

金井安子1993「竪穴住居の間取り」『季刊考古学』44号

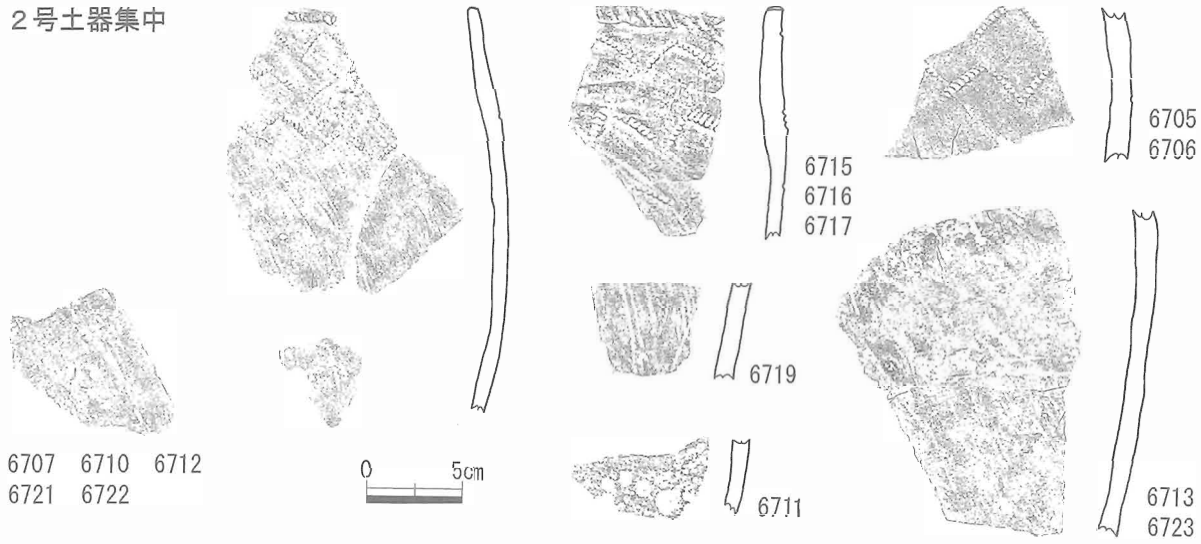
谷口康弘1986「縄文時代『集石遺構』に関する試論」『東京考古』第4号　東京考古会

笹原千賀子2000『池田B遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

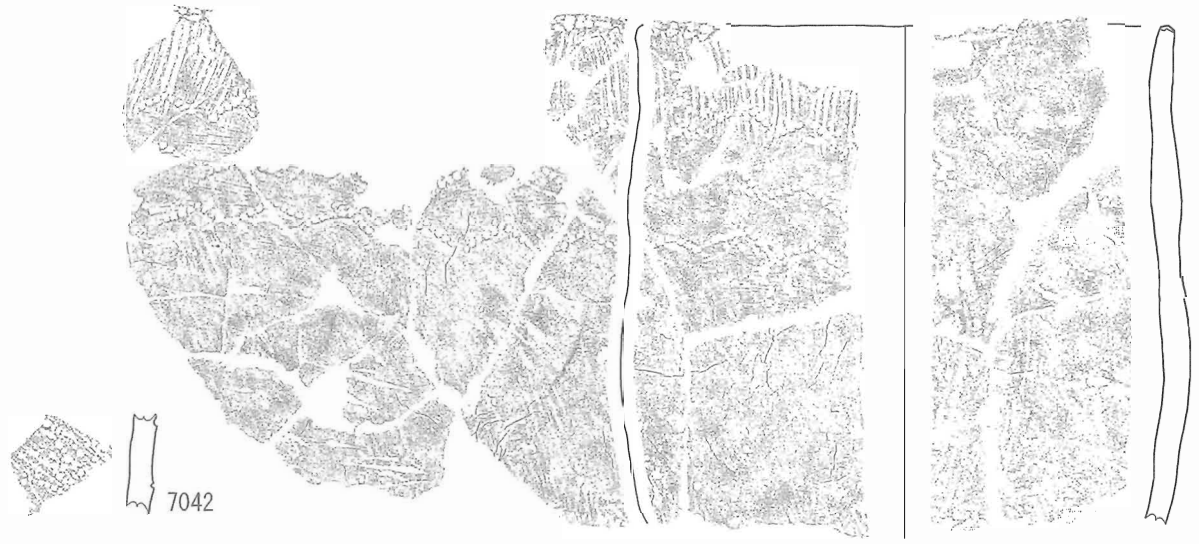
笹原芳郎2004「石蒸し料理覚え描き―パプア・ニューギニア旅行から―」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

清嶋邦夫2004「縄文時代の集石遺構の形態について」『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　設立20周年記念論文集』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

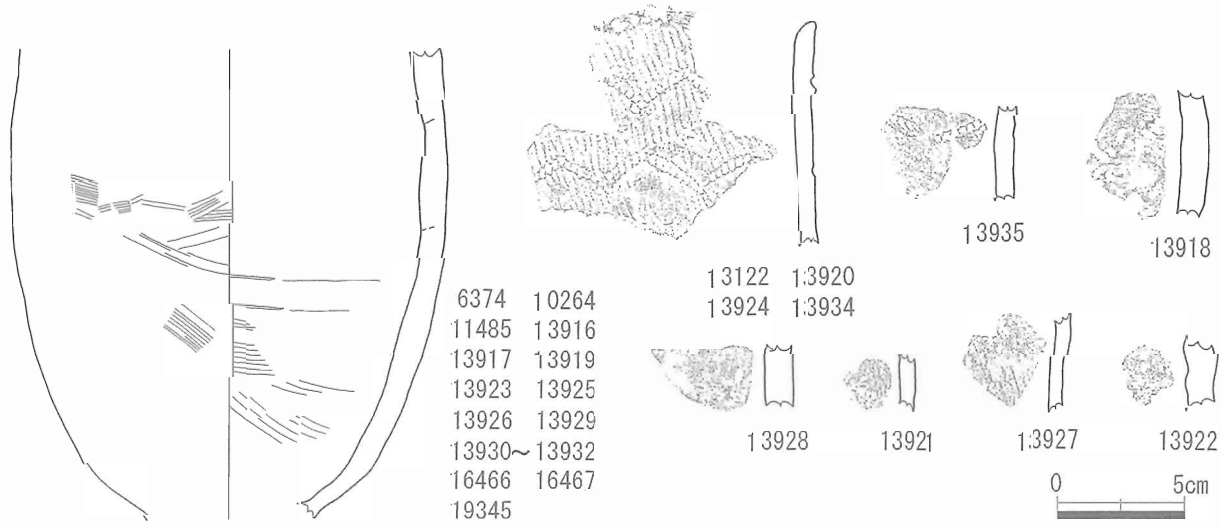
２号土器集中



３号土器集中



４号土器集中



第77図　土器集中出土遺物(2

第40表　遺構編掲載土器遺物編対応表

遺物番号	遺　構	分　類	図版No.	番号	遺構との接合	包含層との接合
16201他	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第94図	181		
16186他	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第97図	272		
14600	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第97図	276		
15288	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種e	第107図	547		
14577他	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第108図	553		
15527他	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第108図	558		
16306	1号住居跡	第Ⅲ群B類1種	第109図	582		
14955	2号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	304		
16425	2号住居跡	第Ⅲ群A類1種c⑥	第102図	423		
15873	2号住居跡	第Ⅲ群A類2種c	第102図	447		
16246	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第90図	140		
15024他	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第93図	176		
15707他	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第93図	177		
16249	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第93図	178		
15948	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	300		
15756	4号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第100図	376		
15771	4号住居跡	第Ⅲ群A類1種c⑤	第101図	411		
16618他	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	第103図	448		
15457他	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	第104図	477		
16596	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種c	第106図	506	1号竪穴状遺構　6号集石	有
15465他	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種c	第106図	507		
15464	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種c	第106図	510		
15775他	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種e	第107図	539		
16547	5号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第90図	107		
19851	5号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	161		
16689	5号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	第104図	468		有
16690	5号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第108図	556	6号住居跡	
16676他	5号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第108図	557		
16714	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	159		
15980	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	160		
17119他	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第92図	171		
16723	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	305		
16721他	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c④	第101図	396		有
16159	6号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	第104図	479		
16717他	6号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第107図	552		
19846	6号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	第108図	556	5号住居跡	
16718	6号住居跡	第Ⅲ群B類2種	第110図	615		
13459他	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種a	第86図	58		
15397	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	158		
19871	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第94図	183		有
13076	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第100図	351		
9348	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c②	第101図	388		
19866	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類3種b	第105図	486		有
15475	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類3種c	第106図	506	4号住居跡　6号集石	有
19865	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	第109図	571		
8869	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	第109図	574		
19870	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	第109図	588		

遺物番号	遺　構	分　類	図版No.	番号	遺構との接合	包含層との接合
14040他	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第96図	267		
15049	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第96図	268		
15895	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第96図	269		
14044他	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第97図	277		
15122他	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	第97図	278		
15039他	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類2種c	第102図	442		
15512	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類3種b	第105図	492		
16440他	3号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類3種b	第105図	493		
15840	3号竪穴状遺構	第Ⅲ群C類	第111図	644		
16624	3号竪穴状遺構	第Ⅲ群C類	第111図	645		
17925	1号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種a	第86図	51		
2481	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	142		有
2489	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	306		
3052	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	307		
2479	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	308		
2486	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	309		
1650	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類3種b	第105図	494		
18452	8号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第96図	270		
17861	9号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	第91図	157		
17929	9号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類4種	第109図	567		
17834	9号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類4種	第109図	568		
18809	1号集石遺構	第Ⅰ群A類２種	第84図	5		
15253他	6号集石遺構	第Ⅲ群A類３種c	第106図	506	4号住居跡　1号竪穴状遺構	有
5572	7号集石遺構	第Ⅲ群A類３種a	第104図	482		
15412	13号集石遺構	第Ⅲ群A類１種c①	第88図	90		有
15408	13号集石遺構	第Ⅲ群A類１種c①	第89図	104		有
12912	13号集石遺構	第Ⅲ群A類１種c①	第99図	302		
12909	13号集石遺構	第Ⅲ群A類１種ｃ④	第101図	394		有
16862	14号集石遺構	第Ⅲ群A類３種a	第104図	463		
15130	1号焼土跡	第Ⅲ群A類１種d	第102図	431		
18372	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	17		
18370	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	18		
18360他	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	20		
18359	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	22		
18380他	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	23		
18373	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	24		
18358	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	25		
18368	1号土器集中	第Ⅱ群C類１種	第84図	28		
6707他	2号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第93図	175		有
6715他	2号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第94図	182		有
6719	2号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第98図	290		有
6705他	2号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第98図	292		有
3331他	3号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第89図	97		有
7042	3号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第99図	310		
13122他	4号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第89図	100		
13916他	4号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	第97図	271		

第2節　遺　物

概観

本遺跡で検出された早期末葉の集落は、調査区東側丘陵部に位置する。この丘陵部の土器、石器の出土状況にはいくつかの特徴がある。出土様相の詳細は総括に譲るが、集落域を環状に見立てると、その中央部は遺物の出土が相対的に少ない。中央部は環状集落における広場のような空間を意識していたと考えられる。

１．土器

出土状況

今回の調査で出土した縄文時代の土器は総点数8,435点を数える。以下では土器について分類とその分布状況についてふれてみたい。なお出土点数は特別な説明のない限り、破片数を基本とする。

第Ⅰ群：早期前葉～中葉の土器（第79図）

出土総数は11点である。遺構に絡むものは１点の検出があった。撚糸文土器と押型文土器が出土した。集落域である東側丘陵部からの出土が多く見られるが、一部の撚糸文土器は、調査区中央付近から出土している。

第Ⅱ群：早期後葉の土器（第79図）

出土総数は119点である。住居跡や集石遺構などに絡むものはないが、調査区中央部の土器集中１及びその付近からは茅山下層式土器が集中的に検出された。野島式や茅山上層式のものは集落域である東側丘陵部からの出土が多く見られる。

第Ⅲ群：早期末葉の土器（第80・81・82図）

出土総数は8,209点であり、本遺跡の中心的な部分を占める。そのほとんどが打越式またはその併行期の土器と見られる。住居跡をはじめとして、遺構に絡むものも多数検出されている。集落域である東側丘陵部から多く出土しているが、遺跡全域にわたって出土が見られる。また、打越式併行期の東海系搬入品と見られる土器は石山式・天神山式であり、517点がここに相当する。

第Ⅳ群：前期前葉～後葉の土器（第83図）

出土総数は60点である。遺構に絡むものの検出はなかった。東側の集落域からの出土は皆無であり、中央の谷部からの出土が多い。また、西側の尾根からも検出があるが、これらはすべて諸磯式である。

第Ⅴ群：前期末葉～中期の土器（第83図）

出土総数は36点である。遺構に絡むものの検出はなかった。十三菩提式～五領ヶ台式と思われる土器は中央の谷部から出土している。また中期中葉・後葉の土器は東側の集落域から出土している。

分類

本遺跡において主体となるのは早期末葉の土器群である。本遺跡出土の土器には、打越式土器と認定できるもののほか、そのバリエーションと捉えることのできる土器や、また併行期と思われる土器が多数且つ複数種にわたって存在する。本報告書では便宜上「貝殻腹縁による山形施文を施している土器型式」を打越式の中心にすえて分類・報告することにする。なお、本書に掲載した分類は非常に煩雑なものとなってしまっている。これは、出土量が多かった打越式を分類することを目的として作成された分類をそのまま報告書に援用したからである。そのため、各群ごとに細分の度合いに不均衡が生じていることを予めお詫びしたい。

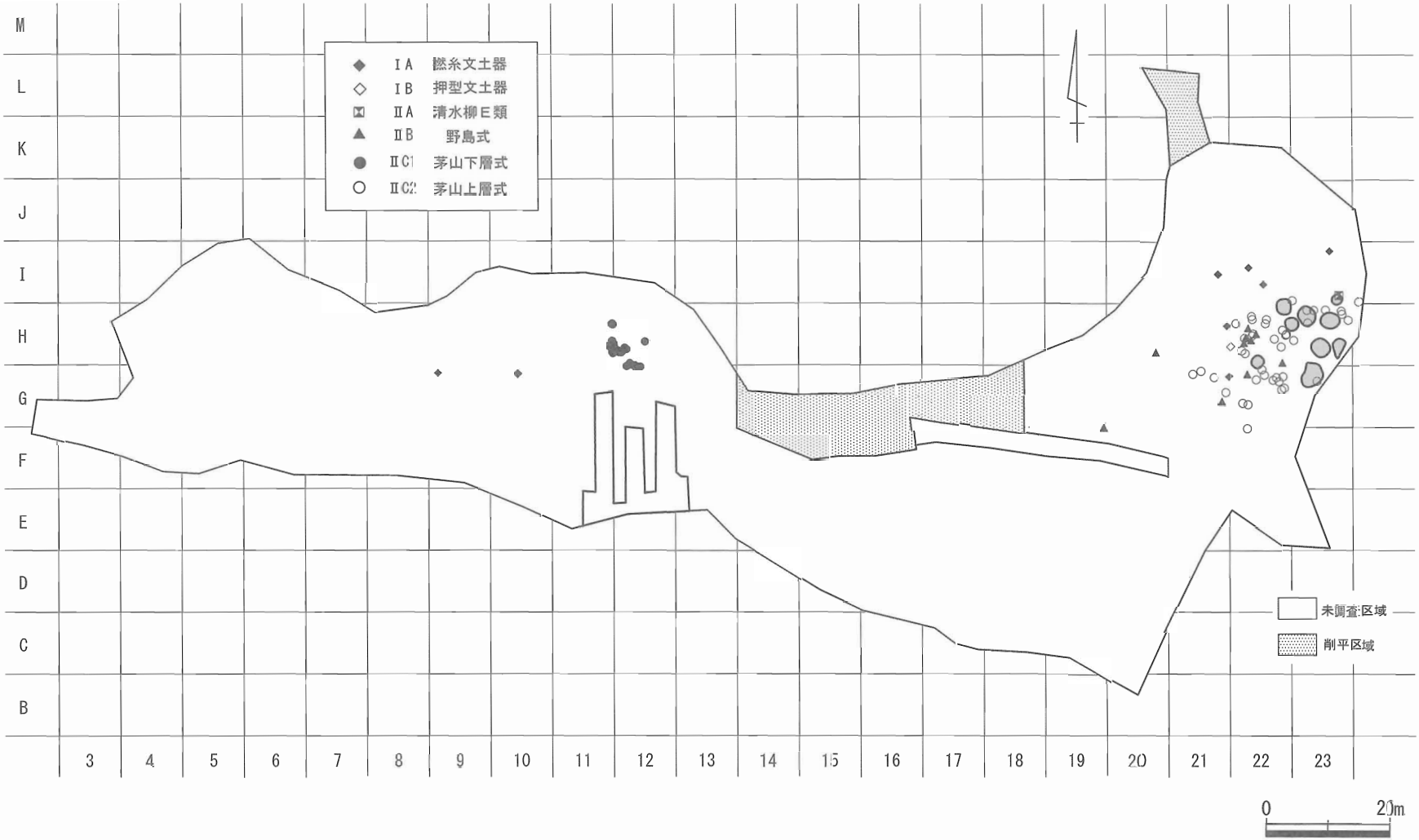
第78図　集落域遺物出土状況

第41表　土器分類基準

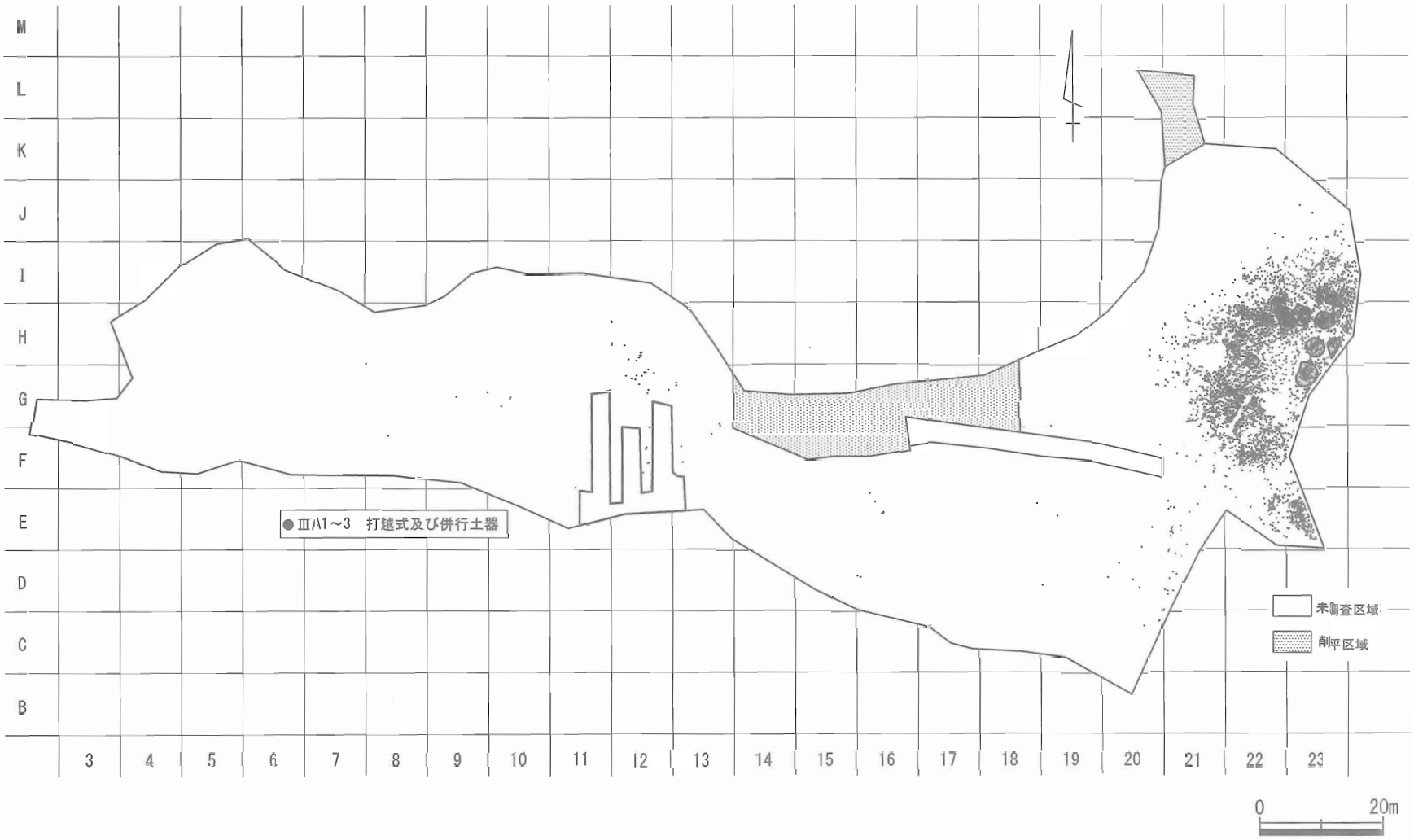
群	類	種			点数
第Ⅰ群 早期前葉 ～中葉	A類　撚糸文	1種　施文間隔が密なもの			8
		2種　施文間隔がまばらなもの			2
	B類　押型文				1
第Ⅱ群 早期後葉	A類　清水柳第2群E類				1
	B類　野島式				11
	C類　茅山下層式 茅山上層式	1種　茅山下層式			63
		2種　茅山上層式			44
第Ⅲ群 早期末葉	A類　条痕文系土器	1種　貝殻腹縁文	a　貝殻腹縁文が施され、口唇から垂下する隆帯が貼付されるもの		
			b　貝殻腹縁文が施文されているもののうち、腹縁文下部を意図的に盛り上げているもの		
			c　貝殻腹縁文が施文されているもの	①　貝殻腹縁文が山形に施文されているもの	
				②　貝殻腹縁文が菱形状に施文されているもの	
				③　貝殻条痕文が目結文状に施文されているもの	
				④　貝殻腹縁文が近接した2列で1単位となり、山形文を表出しているもの	
				⑤　貝殻腹縁文が山形に施文されているもののうち、山形文の上または下に文様帯を区画するように貝殻腹縁で横位沈線が施されているもの	
				⑥　その他．不定形なもの	7642
			d　貝殻腹縁文が縦位に密な波状に施されているもの		
		2種　貝殻腹縁文土器を意匠としながらも貝殻腹縁以外の施文手法をとるもの	a　山形文を細い沈線で表現しているもの		
			b　菱目文を細い沈線で表現しているもの		
			c　山形文あるいは波状文を幅広の浅い沈線で表現しているもの		
		3種　貝殻腹縁文を意匠としないまたは有さないもの	a　口唇直下より貝殻条痕文が格子目状に施文されているもの		
			b　口唇直下より貝殻条痕文が縦位あるいは斜位に一方向施文されているもの		
			c　貝殻条痕文が波状に施文されているもの		
			d　口唇直下より縦位の沈線が篦状工具を用いて施されているもの		
			e　口唇から胴部にかけて文様の施されていないもの		
			f　打越式土器あるいは併行時期の土器の無文胴部及び底部		
		4種　神之木台式			3
		5種　条痕文系不明土器			5
	B類　東海系土器	1種　石山式			43
		2種　天神山式			100
		3種　早期末東海系無文胴部			374
	C類　石山式併行土器				38
第Ⅳ群 前期前葉 ～後葉	A類　上ノ坊式				5
	B類　諸磯式	1種　諸磯b式			14
		2種　諸磯c式			13
		3種　諸磯式不明土器			4
	C類　北白川下層式				24
第Ⅴ群 前期末葉 ～中期	A類　十三菩提式～五領ヶ台式				31
	B類　藤内式				3
	C類　曽利式				2
	土師器				1
	瀬戸美濃				3
	総点数				3435

第42表　グリッド別出土土器一覧

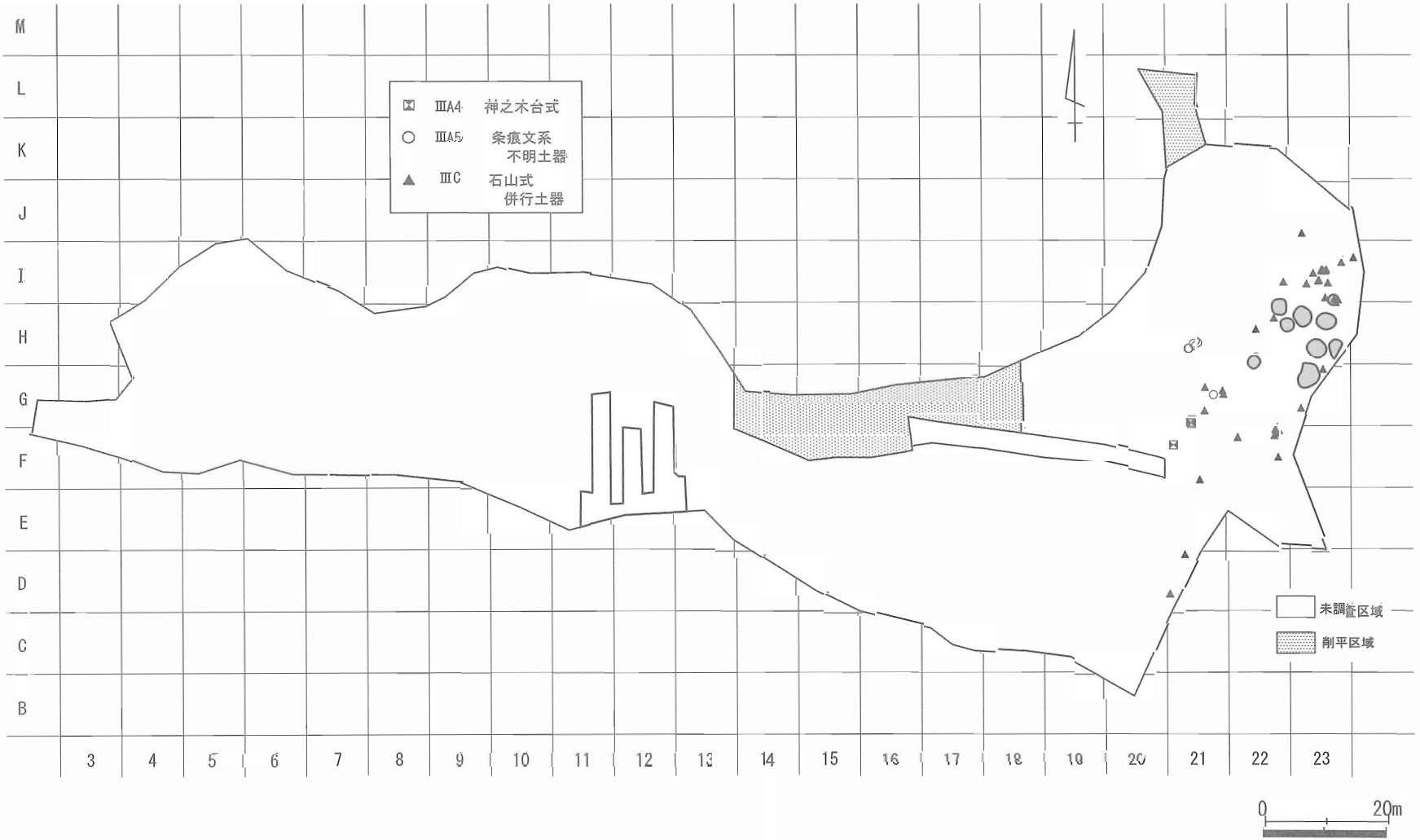
	撚糸文 IA	押型文 IB	清水柳E類 IIA	野島 IIB	茅山下層 IIC1	茅山上層 IIC2	打越または打越併行 IIIA1～IIIA3	神之木台 IIIA4	条痕文系 IIIA5	石山 IIIB1	天神山 IIIB2	東海系無文 IIIB3	石山併行 IIIC	上ノ坊 IVA	諸磯b IVB1	諸磯c IVB2	諸磯不明 IVB3	北白川下層 IVC	十三菩提～五領ヶ台 VA	藤内 VB	曽利 VC	弥生以降	土器合計
G-4															3	7							10
H-4																1							1
G-5															9	1	1						11
H-5																						1	1
F-6																1							1
H-6							1																1
F-8							1																1
H-8							1																1
G-9	1						1																2
G-10	1						1																2
F-11							1												1				2
G-11							3											1					4
H-11					5										1			1					7
E-12																			3				3
F-12							8							4				2					14
G-12							14								1		2	20	24	2			63
H-12					58		23									2			2				85
F-13							3																3
G-13							4																4
D-16							2																2
E-16							8																8
E-18							1																1
D-19							1																1
E-19							1																1
F-19																						1	1
G-19				1			1																2
C-20							4																4
D-20							4					1											5
E-20							2																2
F-20							1																1
G-20							4																4
H-20				1			11																12
D-21							13					1	2										16
E-21							18																18
F-21							69	1		1		3	1										75
G-21	1			1		4	500	2	1	2	1	22	4										538
H-21	1	1					188		4			14											208
I-21	2						4																6
E-22							115				1	1											117
F-22						1	617			4	6	27	6							1			662
G-22				1		11	1169			2	7	24											1214
H-22				6		17	1685				19	65	2										1794
I-22	2					1	328			1	1	23	2										358
J-22							2																2
E-23							281			1		6											288
F-23							16					1											17
G-23						1	236			5		31	2										275
H-23						8	1326			12	58	93											1497
I-23	1		1				718			11	3	38	17								2		791
J-23							12				1		1										14
H-24							29				2	7											38
I-24						1	90			2		9	1										103
表採	1			1			125			2	1	8		1		1	1		1			2	144
合計	10	1	1	11	63	44	7642	3	5	43	100	374	38	5	14	13	4	24	31	3	2	4	8435



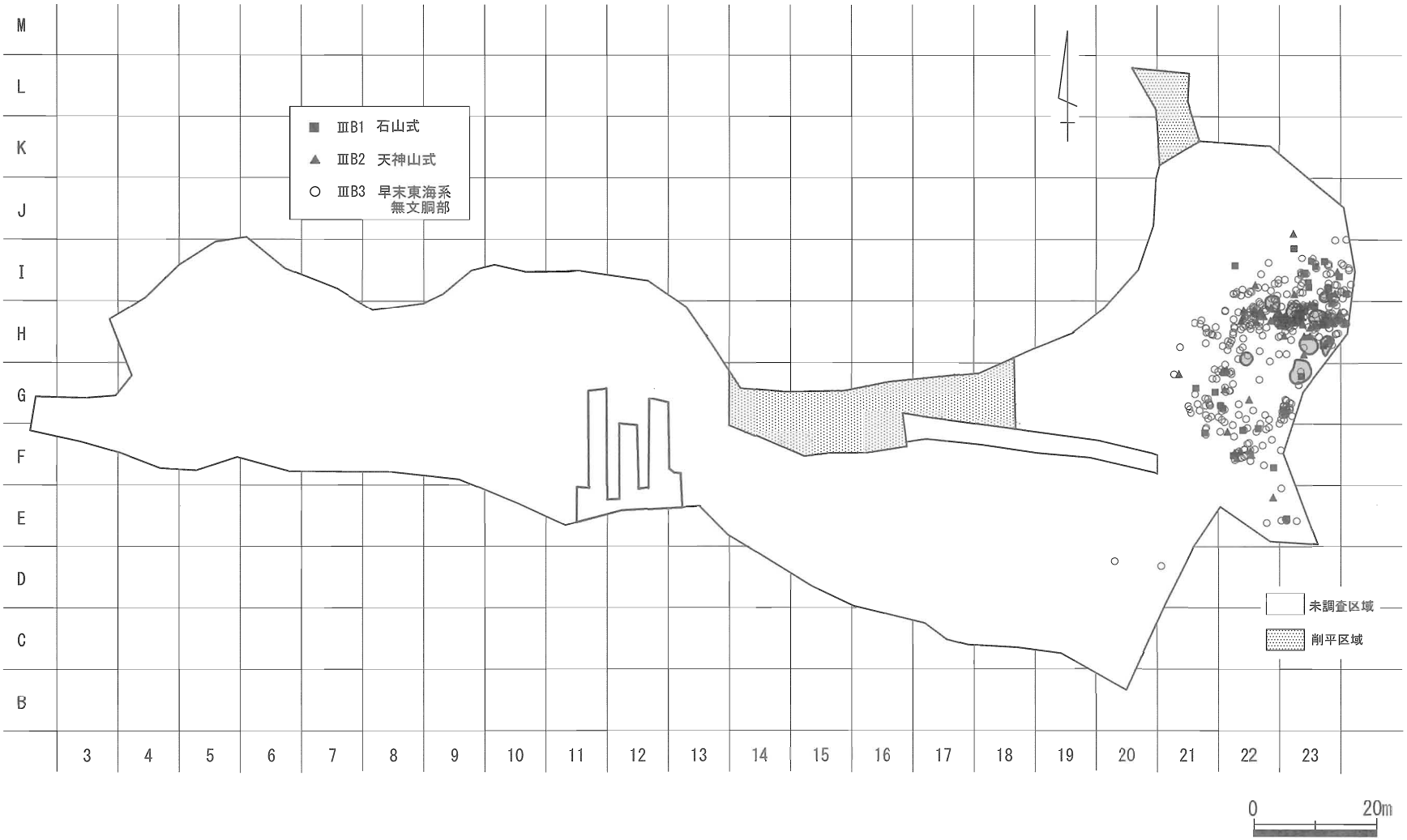
第79図　土器型式別分布図１



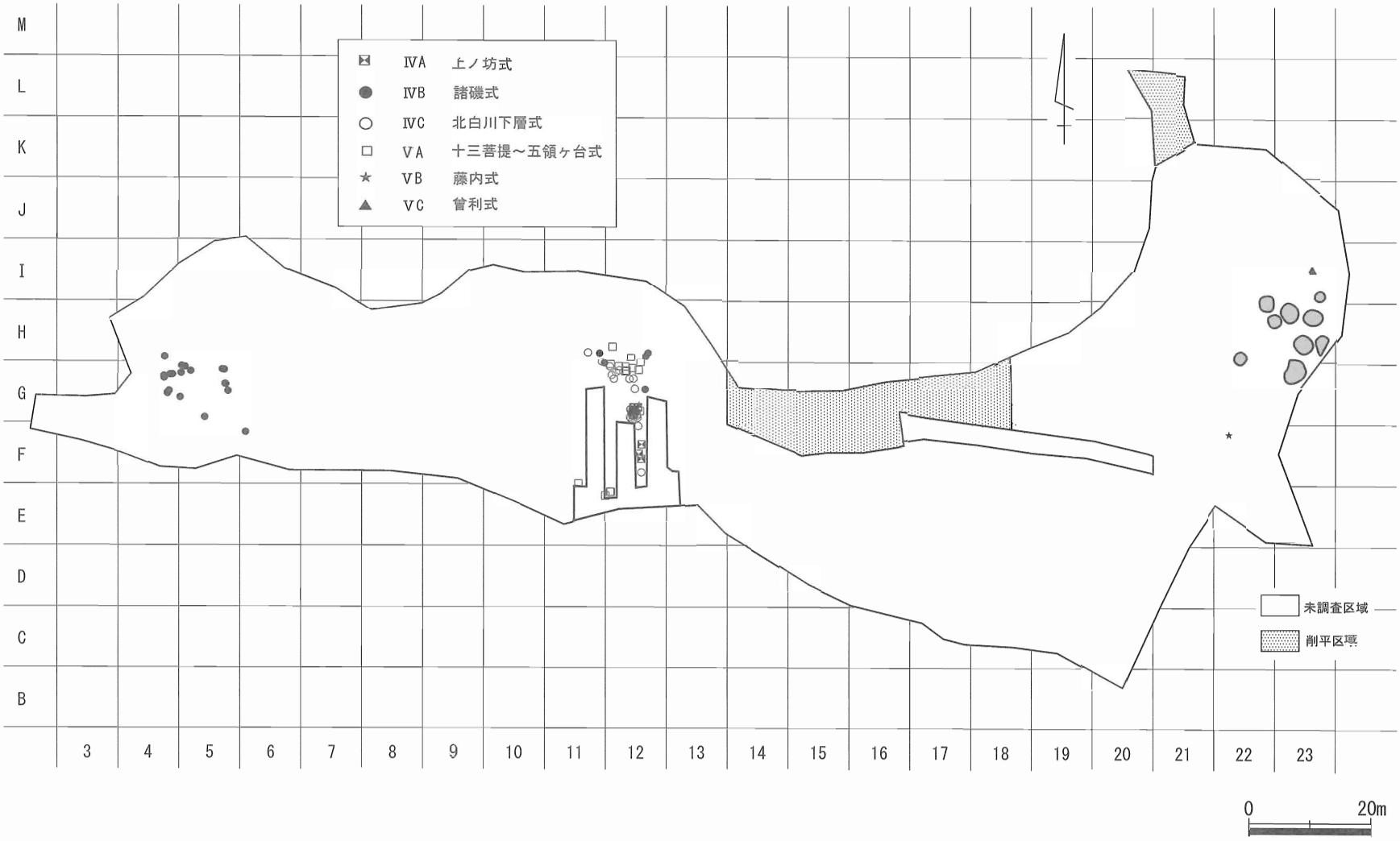
第80図　土器型式別分布図２



第81図　土器型式別分布図３



第82図　土器型式別分布図4



第83図　土器型式別分布図５

第Ⅰ群　早期前葉～中葉の土器（第84図１～７）

11点の出土があり、うち10点が撚糸文の土器であり、１点が押型文土器である。

A類　撚糸文土器（第84図１～６）

１種　撚糸の施文間隔が密なもの（第84図１～４）

撚糸文土器10点のうち施文間隔が狭いものは８点検出されている。井草Ⅱ式またはそれに併行する土器であると考えられるが、口縁部が残存せず詳細は不明である。すべてRの撚糸を縦方向に施文している。これらの土器はすべて、調査区東側のなだらかな丘陵地で検出された。

２種　撚糸の施文間隔がまばらなもの（第84図５・６）

比較的施文間隔がまばらなものは５・６の２点検出された。夏島式～稲荷台式またはそれに併行する土器であると考えられるが、１種同様に破片のみの出土であり、詳細は不明である。１種のものと同様にRの撚糸を縦方向に施文している。５は１号集石にて検出された。この２点の土器は同一個体であると思われ、調査区中央の谷部に近いところで検出されている。

B類　押型文土器（第84図７）

押型文土器は小破片１点のみの出土であり詳細は不明であるが、楕円押型文に属するもので、細久保式～高山寺式に併行するものであると思われる。調査区東側のなだらかな丘陵地で検出された。（第79図）。

第Ⅱ群　早期後葉の土器（第84図８～第85図）

A類　清水柳E類（第84図８）

清水柳E類土器は８の１点のみの検出である。小破片であるが、破片中央に絡条体の圧痕が残されており、破片の上端にもその痕跡が残る。調査区東側のなだらかな丘陵地で検出された（第79図）。

B類　野島式土器（第84図９～16）

野島式土器は11点の出土で、分布は調査区東側の丘陵部である（第79図）。条痕を地文とし、やや幅の広い沈線を交叉させている。内面は丁寧に器面調整されており、擦痕が残るが、残存状態は良好ではなく、一部が剥落しているものも多い。９～12は口縁部が残存する。口唇には貝殻腹縁の刺突が見られるが、11は口唇の一部が剥落しており、定かではない。15は若干外反する様子が見られる。屈曲部を持つ土器の破片とも考えられる。

C類　茅山下層式・上層式土器（第84図17～第85図）

茅山下層式・上層式合わせて107点が出土した。接合関係も多く見られたが、口縁部が残存している破片は少なく、器形が推定できるほど復元できたものはなかった。下層式、上層式ともに縄文施文されているものが検出されたが、胴部に屈曲を持つものを中心とし、調査区中央部から出土した茅山下層式と、屈曲部を持たず、集落域から出土した茅山上層式とに分類した（第79図参照）。

１種　茅山下層式土器（第84図17～28）

調査区中央部から検出されている。現地調査で破片が密集したところを土器集中として遺構認定した。土器集中と包含層は互いに接合も多い。上層式と比較すると、胎土の色調が全体的に赤みを帯びている。元もとの個体数は少ないと想定され、ここに分類した破片すべてが、同一個体である可能性

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
0
5cm

第84図　縄文土器(1)

もある。原体は、軸を斜位にしたRLの単節斜縄文を使用していると見られる。内面は総じて、条痕が施されている。

17・18は口縁部が残存する。ともに円頭状の口唇部に太い丸棒状口具による刻みが施文されている。外面は横方向の調整と思われる条痕の上に、軸を斜位にしたRLの単節斜縄文を押し当てて施文している。内面には横方向の調整条痕が見られる。20～24は屈曲部を持つものである。外面より粘土を貼り付けて下部に被せるようにして上部と下部を接合し、段を作出している。上下段ともに軸を斜位にしたRLの単節斜縄文を左から右へ転がして施文しているものが多いが、上段には17・18の口縁部と同じように、原体を押し当てただけのようなものも見られる。23や24もそれに該当する。25は上端破損面を研磨しており、角頭状に仕上げている。

2種　茅山上層式土器（第85図29～46）

調査区東側の丘陵部で出土している。条痕のみのものと、縄文施文されているものの2種類が存在する。29～38は条痕のみのものである。比較的大きく接合した29をはじめとして、口唇部が残存する破片が29～34と相対的に多い。口唇はみな円頭状に仕上げられるが、刺突等は見られない。口縁部は条痕が横走するが、口唇直下ではナデ消されているものもある。口縁部以下の条痕は、左上から右下がりのものが施される。35～38は胴部の破片である。39～44は縄文が施文されているものである。胎土の色調は赤みが強く、条痕のみの一群とはまったく異なる。外面にはRLの単節斜縄文が隙間無く施され、内面には条痕が横走する。39～41は口縁部である。39と41は杯状の突起を持つ。40は口唇に棒状工具による浅い刺突が見られ、これは39にも部分的に見られる。42～44は破片である。45・46は底部であり、45の底径は6.0cm、46は6.4cmと推定される。胎土の状況から推測すると、条痕のみの一群の底部であると思われる。

第Ⅲ群　早期末葉の土器（第86～111図）

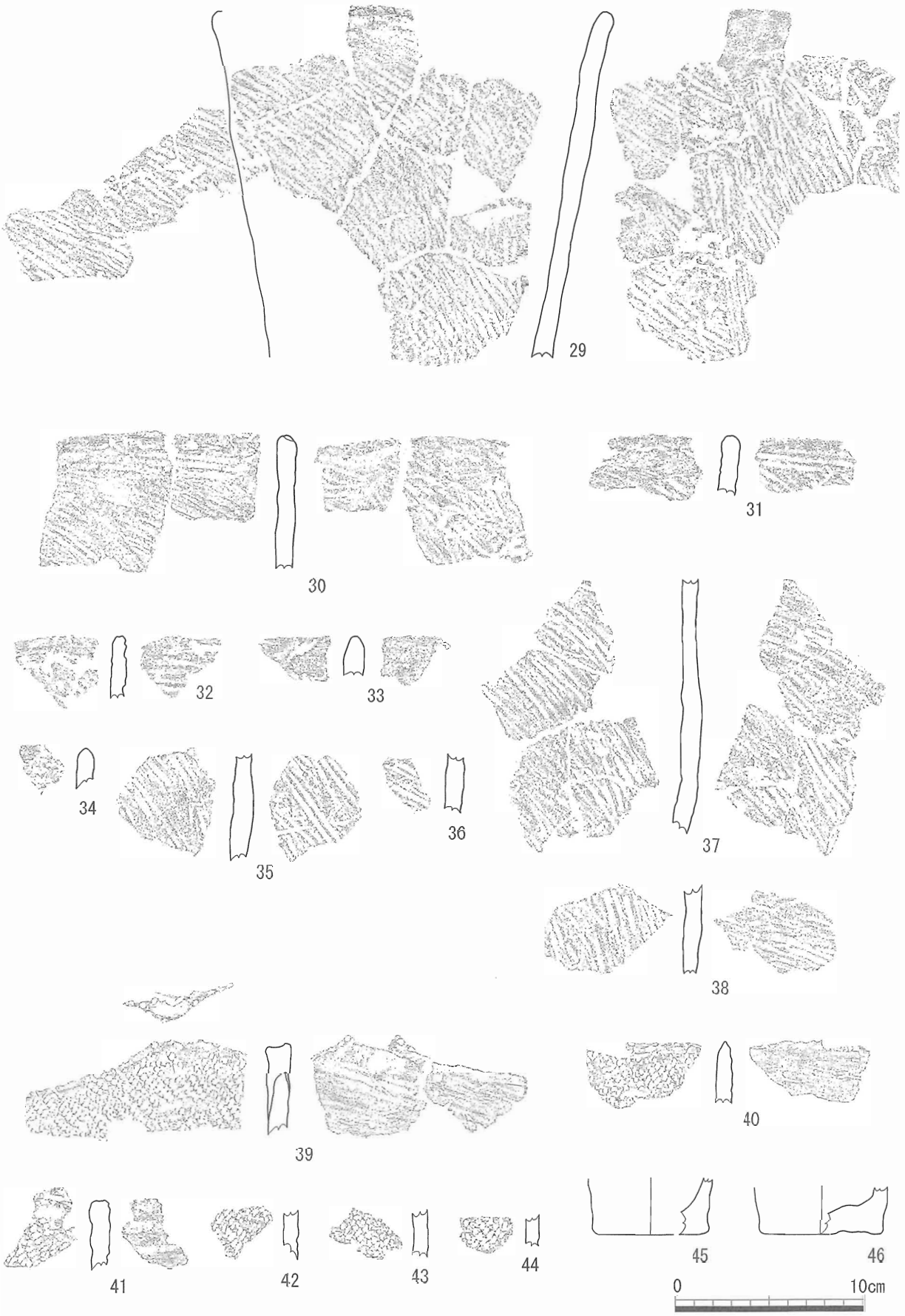
A類　条痕文系土器（第86～108図）

早期の関東地方に多く見られる条痕文形土器群の系譜に連なるものをまとめた。打越式の象徴である貝殻腹縁文を有するものを1種、貝殻腹縁を用いず、沈線を用いて施文しているものを2種、条痕のみで施文しているものを3種とした。また4種には神之木台式と思われるもの、5種には不明なものを分類した。

1種　貝殻腹縁文を有する土器

a　隆帯を有する土器（第86図47～62）

本遺跡では、貝殻腹縁文に隆帯を伴う土器が15点出土している。13点が垂下隆帯を持つもので、残り2点は環状突起をもつものである。47は口縁の波頂部に口縁形態に沿って垂下隆帯を2つ貼付している。隆帯には棒状工具での刺突が加えられ、2つの隆帯の間には貝殻腹縁が縦位に施文がなされている。胎土は赤く、他の土器とは異なった印象を受ける。48～50・52～55は格子目条痕文を伴う。48は隆帯・口唇上ともに貝殻腹縁での刺突が見られる。49・50は同一個体と思われる。ともに隆帯・口唇上に貝殻腹縁での刺突が見られる。52も同様の施文がなされ、また腹縁文の刺突の特徴から、49・50と同一個体の可能性もある。53～55も同一個体と見られる。隆帯には篦状工具、口唇には棒状工具で刻目がつけられる。53は頂部に杯状の突起を持つ。54と同一個体であるとすると、一個体内に波頂部の形態が杯状のものとそうでないものが混在すると考えられる。55は垂下隆帯を有さないが、53・54と同一個体と思われるため、ここに掲載した。51・56・57・60は口唇に棒状工具による刻みが見ら



第85図　縄文土器(2)

れるものである。このうち、56を除いて隆帯にも同様の刻みが見られる。56のみは、隆帯に貝殻腹縁が刺突される。58・59は口縁部が残存しない。58の貝殻腹縁文はやや菱目状に施文される。59は２列１組の山形文を配している。破片左上端部に貝殻腹縁の施文が見られる。

61・62はともに環状突起を持つ破片である。ともに、0.7cm程度の器厚をもつ部分に、１cm弱の高さの環状突起が貼付されている。突起上には篦状工具による刻みが施されている。61には破片上部に条痕が見られる。また62には、突起の右外縁に貝殻腹縁の刺突が見られる。施文時に、無意図的に加え、残されたものであると見られる。

また、図版103-449として掲載した土器にも垂下隆帯が見られる。貝殻腹縁文を有さないため分類からはずれているが格子目条痕文が発達した好資料である。

ｂ　腹縁下部を意図的に盛り上げている土器（第86図63・64）

貝殻腹縁文を強く刺突して、腹縁下部を盛り上げているものをここに掲載する。２点出土しているが、これらは同一個体であると思われる。63・64ともに口縁に平行して貝殻腹縁を用いた類沈線が施され、下位には山形の貝殻腹縁文が施文される。また、口唇直下からは条痕文が施文されている。口唇上面は自然に摘み上げたような成形である。本遺跡において、腹縁下部を意図的に盛り上げるような土器は他に類例が無く、この部分があたかも隆帯を模したものであるように見えるため、ここに分類した。なお、本遺跡においては、横位隆帯を貼付する土器はまったく検出されなかった。

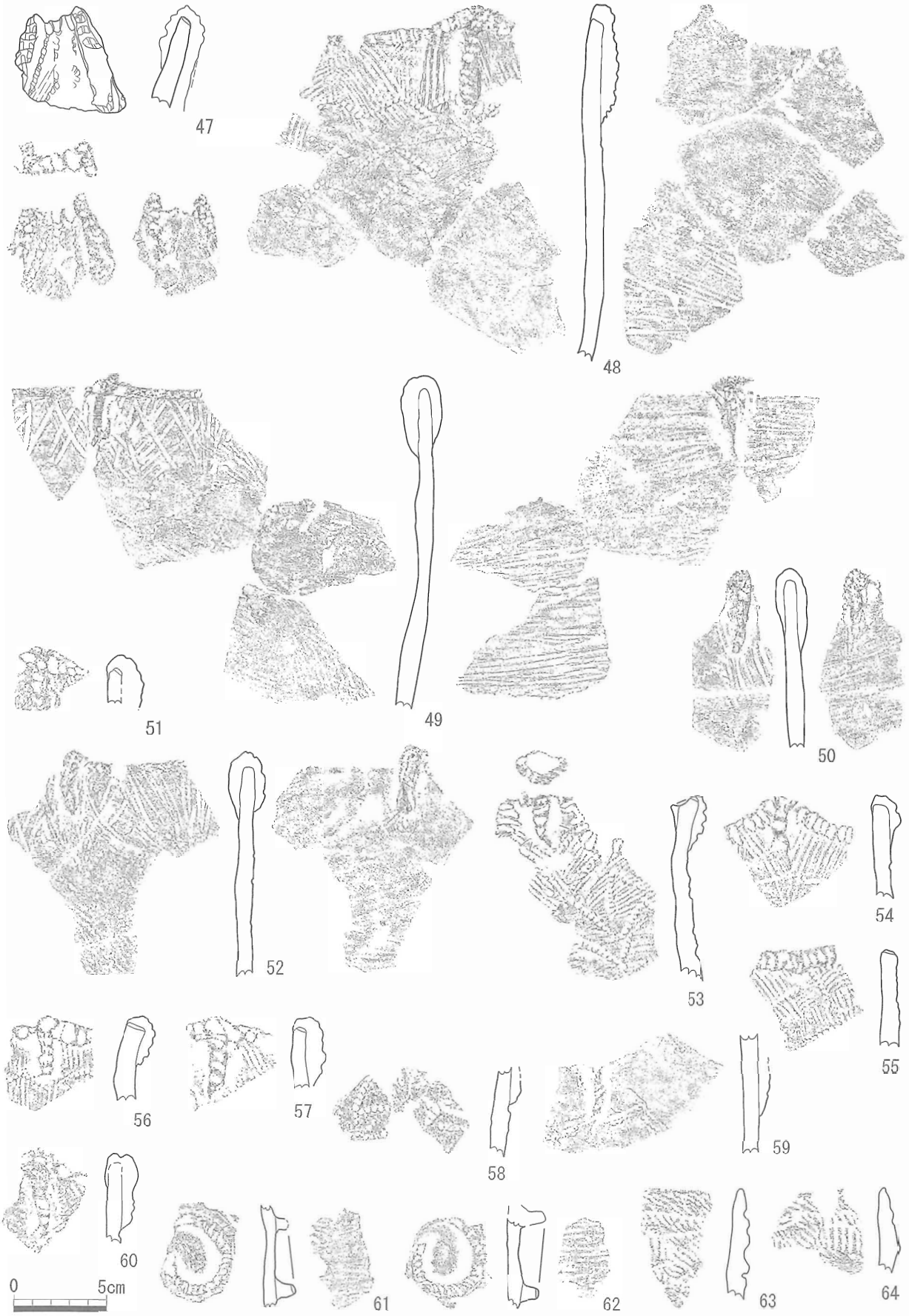
ｃ　貝殻腹縁文が施文されているもの（第87～102図）

貝殻腹縁文が施されている土器を一括した。なお、上記ａ類、ｂ類に掲載済みの土器と、ｄ類で掲載されるものは除く。貝殻腹縁文を有する土器は多量検出されている。図版は「貝殻腹縁文と、格子目状の条痕文を併せ持つもの」を先頭に、「貝殻腹縁文と、交叉しない一方向（斜位が多い）の条痕を併せ持つもの」、「貝殻腹縁文に条痕を伴わないもの」という順番で構成されている。例外として、文様構成に特徴があるものは、第103図～105図にまとめて掲載している。文様構成に特徴があるものとは、貝殻腹縁が「菱形状に施文されるもの」、「目結文状に施文されるもの」、「近接する２列１組の山形文が施文されるもの」、「山形文の上位または下位に貝殻腹縁文で類沈線を施されるもの」、「その他不定形のもの」である。

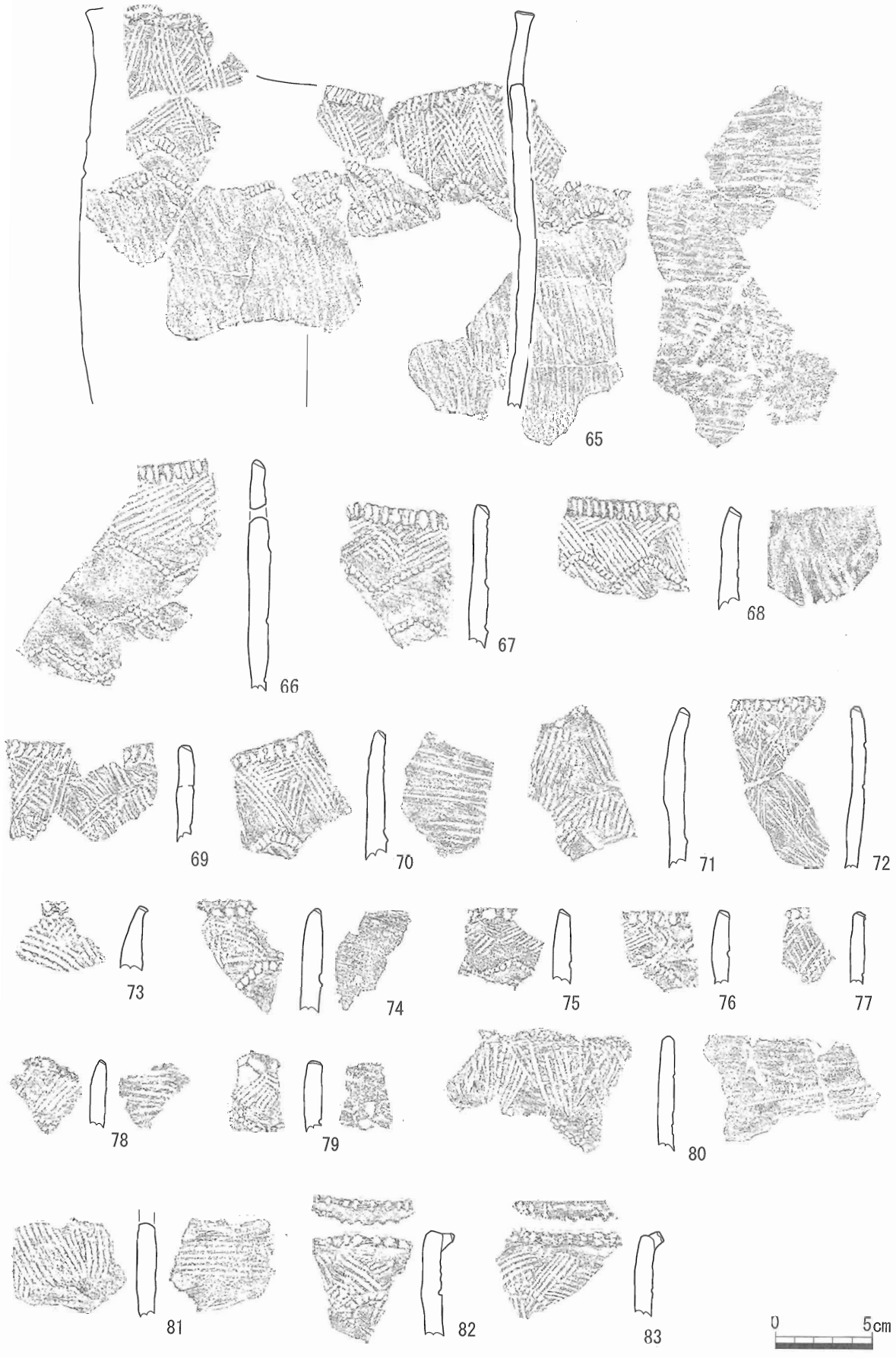
〈貝殻腹縁文と格子目状の条痕文を併せ持つもの〉（第87～88図88）

口唇直下から交叉する格子目状の条痕文が施文され、その下位に貝殻腹縁文が施文されるものをまとめた。貝殻腹縁文は山形に配される。65は比較的大きく接合したものである。格子目条痕文の下位に貝殻腹縁文が山形に２列配される。口唇は平坦面が作出され、篦状工具による刺突が見られる。拓本左上端部の口唇には指で押しつぶされたような部分がある。意図的なものかどうかは判断できないが、その部分の刺突はなで消されている。66・67も65と同様な文様構成をとる。66には補修孔が残る。68も原則的には他のものと同様だが、貝殻腹縁文の下位にも条痕が斜走している。条痕文施文域に貝殻腹縁文が配される例である。口唇への刺突は、65～72は篦状工具、71・80は貝殻腹縁、73～79は棒状工具が用いられる。このうち、77は篦状工具を斜めに寝かせて刺突している可能性もある。また、78・81は口唇が一部破損しており、詳細は分からない。

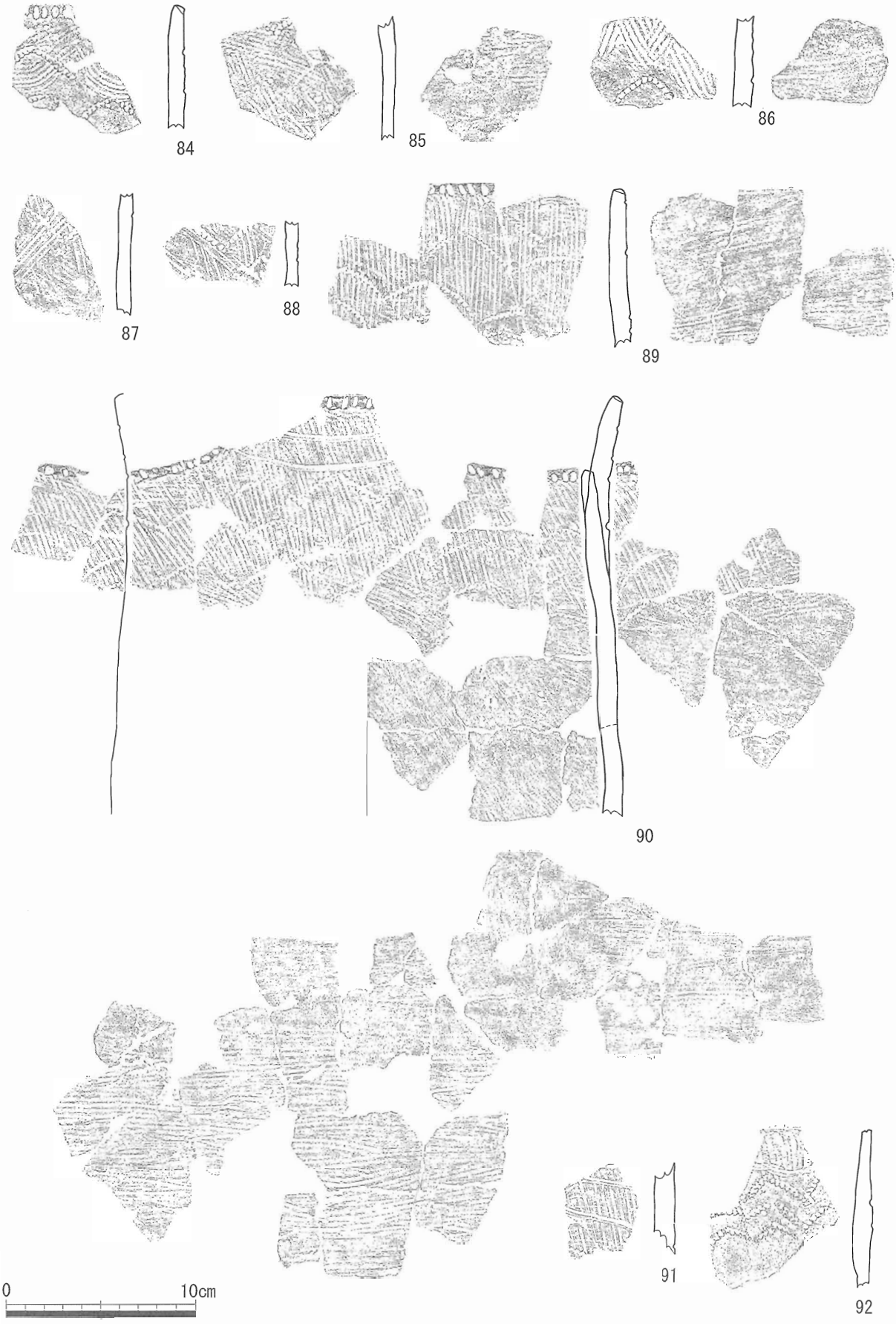
82・83は口唇が外側に張り出すように隆帯が貼付されるものである。本遺跡において、口唇に隆帯が貼付される打越式土器は、垂下隆帯のものを除くと、この２点のみである。ともに貝殻腹縁による刺突が口唇外端に見られる。さらに82には内面端部にも貝殻腹縁による刺突が見られる。



第86図　縄文土器(3)



第87図　縄文土器(4)



第88図　縄文土器(5)

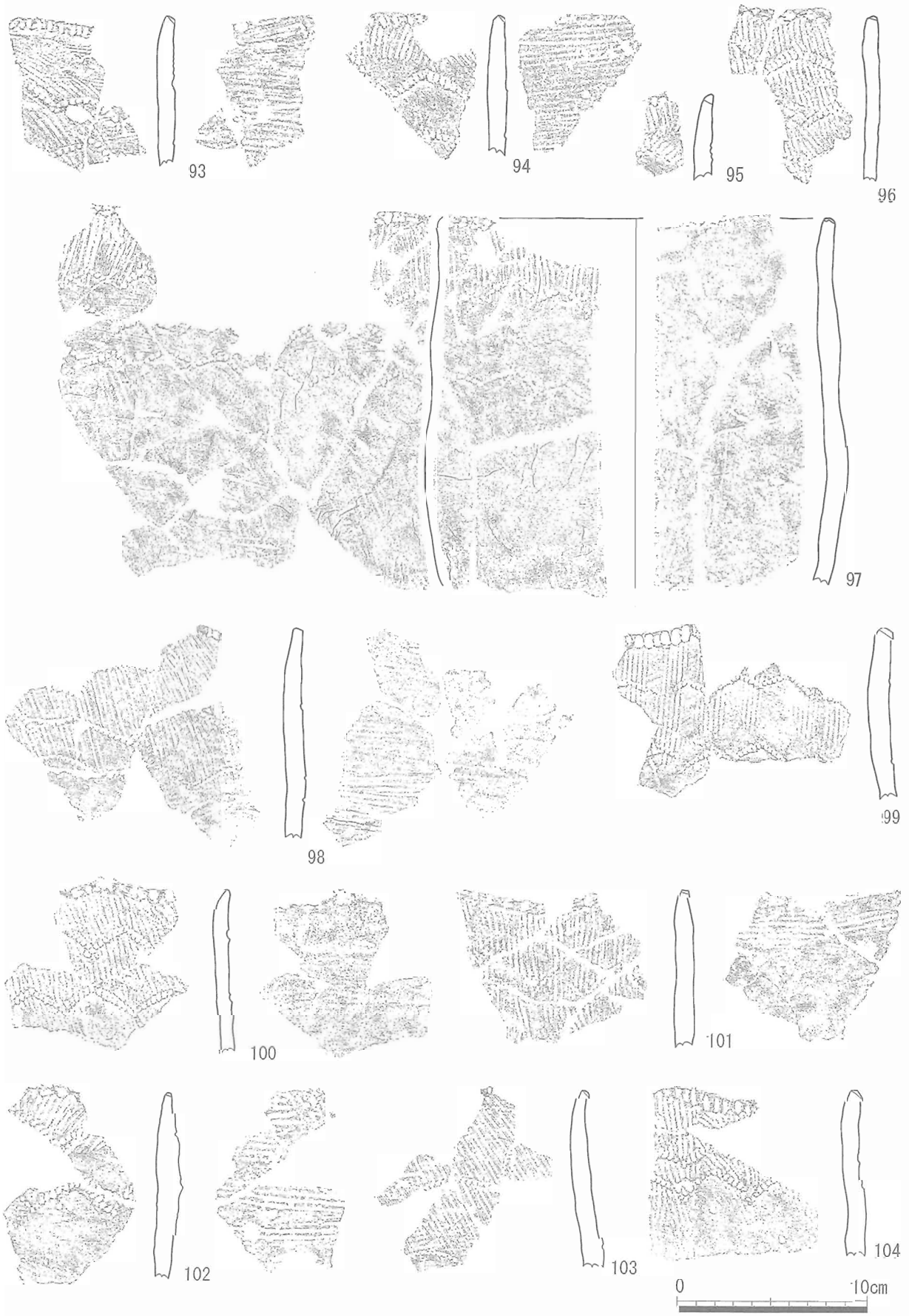
84は格子目状と言うよりも、波状の条痕が施文されている。このような条痕を持つ土器は、第106図511～522に掲載されているが、84には貝殻腹縁文が施文されているところが異なる。口唇には棒状工具による刺突が加えられる。85～88は口唇が残存しない破片である。

〈貝殻腹縁文と交叉しない（一方向の）条痕文を併せ持つもの〉（第88図89～第92図）

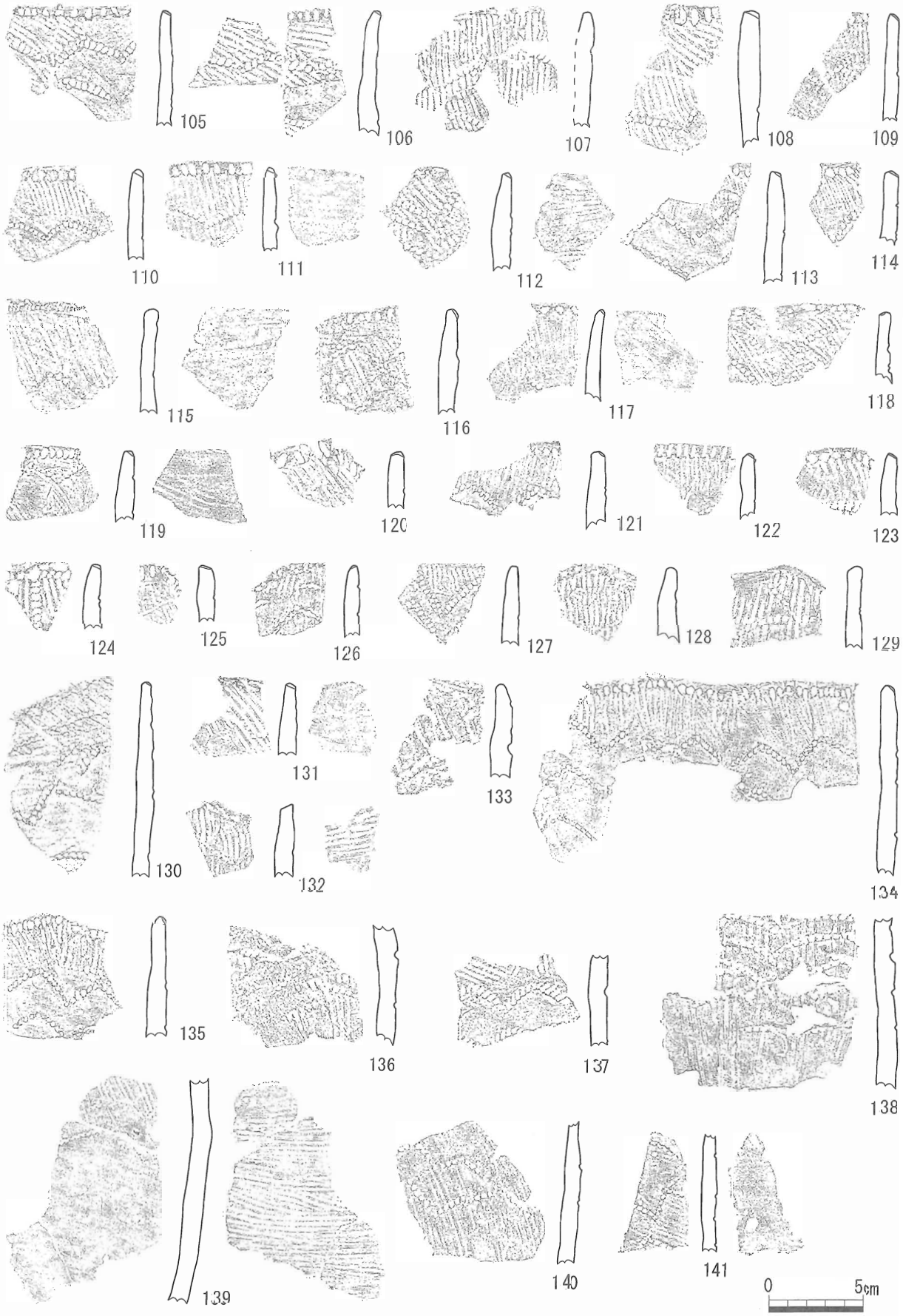
口唇直下から施される条痕文が交叉しないもので、その下位に貝殻腹縁文が施文されるものをまとめた。貝殻腹縁文は山形に配される。89は条痕文が縦位に隙間無く施文され、その上に貝殻腹縁文が山形に２列施文されている。90・91と同一個体と目される。90は条痕施文の後に、２列の沈線が施される。この沈線は波頂部に配され、貝殻腹縁文の列の上位に位置する。89・90ともに角頭状の口唇に棒状工具による刺突がなされる。92も沈線が施されるもので、貝殻腹縁文が３列以上配される。口唇への刺突は磨耗により不明である。97は比較的大きく接合している。３号土器集中よりの検出であり、推定復元値は口径20.6cm、胴部最大径は22.4cmである。残存高は19.6cm、器厚は1.1cmである。縦位の条痕が施文された下位に山形の貝殻腹縁文が３列配される。口唇への刺突も貝殻腹縁である。98と103は90・91と同一個体である可能性がある。また、125もそれらと同一個体の可能性がある。134・135は同一個体であると思われる。口唇直下に条痕が施文されるが、その文様帯は狭い。またこの条痕には交叉ともいえるような部分がある。

口唇への刺突は93・94・105・106が篦状工具、95・96・98～104・108～111・113・114・116・117・119～125、134・135が棒状工具、112・115・118・126～128が貝殻腹縁による刺突が見られる。また、130から133は貝殻条痕が引かれる。129は口唇に刺突が見られず、丁寧になでられている。また、114・125は平坦面が作出され、角頭状に成形されている。107は磨耗により口唇への施文は不明である。136～161は口唇が残存しない破片である。しかし条痕と腹縁文が施文されていることから口唇に近い、胴部上半の部分であると考えられる。ほとんどのものが条痕文施文域に貝殻腹縁文を重ねて配している。162～164は条痕が口縁に沿って横走するものである。口唇への刺突は162が貝殻腹縁、163が棒状工具による刺突である。165～170は条痕が口唇から縦走するものを掲載している。ここに掲載されている６点は条痕による施文だと思われるが、中には半截竹管状工具による施文のように見えるものもある。本遺跡からは、第Ⅲ群Ａ類３種ｄ（第107図523～528）のように、縦位の沈線を持つものが出土しているため、その可能性も考えられる。165を除いてみな口唇が残存するが、条痕は縦位で短い。口唇の残存状態が良好なものは少ないが、167・169・170の口唇には貝殻条痕を引いたような施文が見られる。

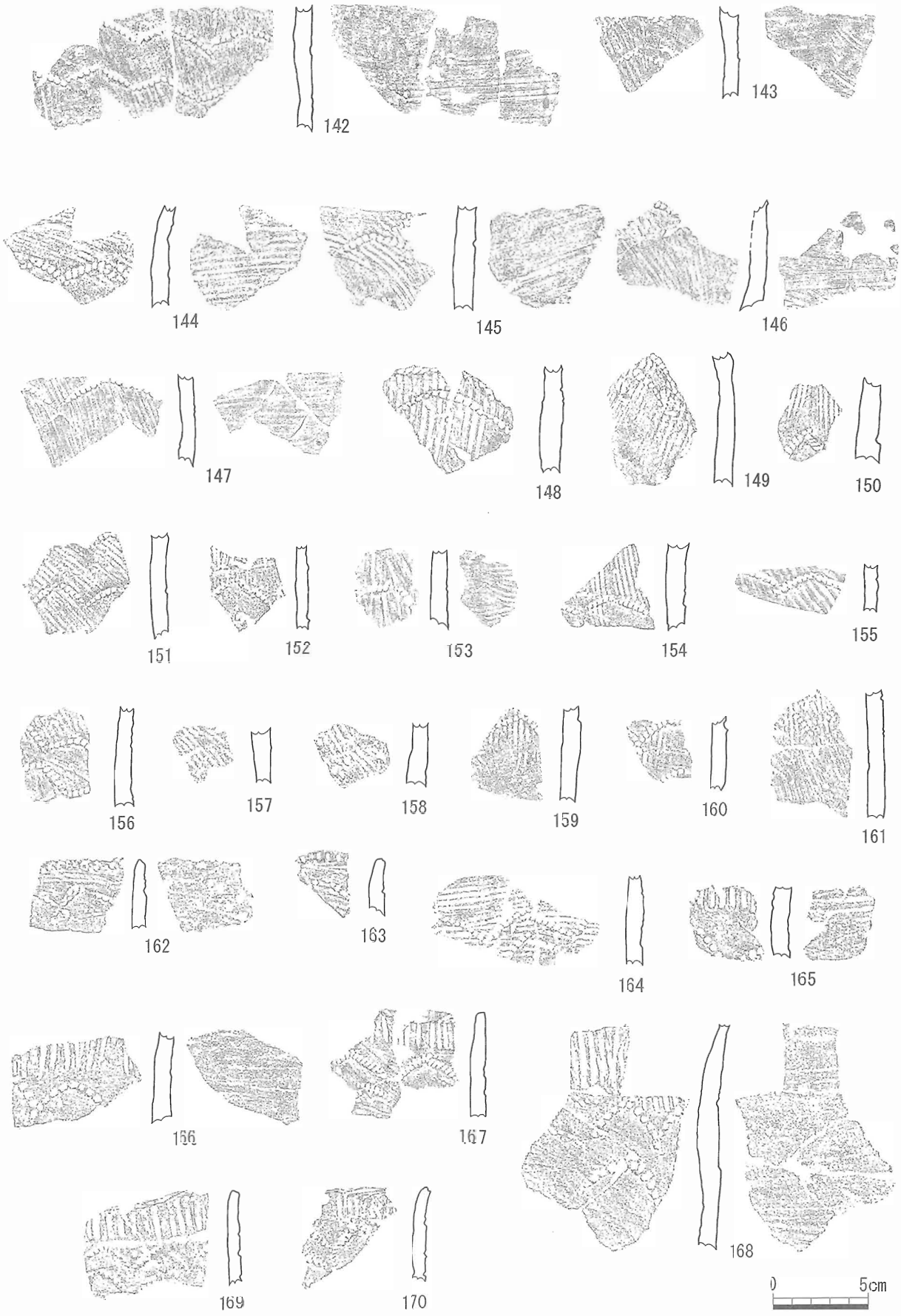
第92図に掲載した171～174は、部分的に条痕が残されたものである。意図的な文様構成の結果であると思われるが詳細は不明である。171は大きく接合している。胴部上半は条痕がナデ消されているが、波頂部の右下部分には、斜位の条痕が一部残る。口唇への刺突は貝殻腹縁である。胴部下半には条痕が残る。内面は条痕が口唇に平行するように横走するが、底部近くになると、やはり調整の方向が縦位に近いものになる。172・173ともに破片であるが、ともに腹縁文上部に一部分のみ、縦位の条痕を施している。174は口唇が残存する。口唇直下は無文であるが、山形の貝殻腹縁文の下位に条痕を施している。条痕はなでられたように磨耗しているが人為的なものであるか否かは分からない。この部分から施文を開始したものではなく、口唇直下から施文されていた条痕文が貝殻腹縁施文域だけ不十分にナデ消されたものである可能性がある。口唇への刺突は171同様貝殻腹縁である。



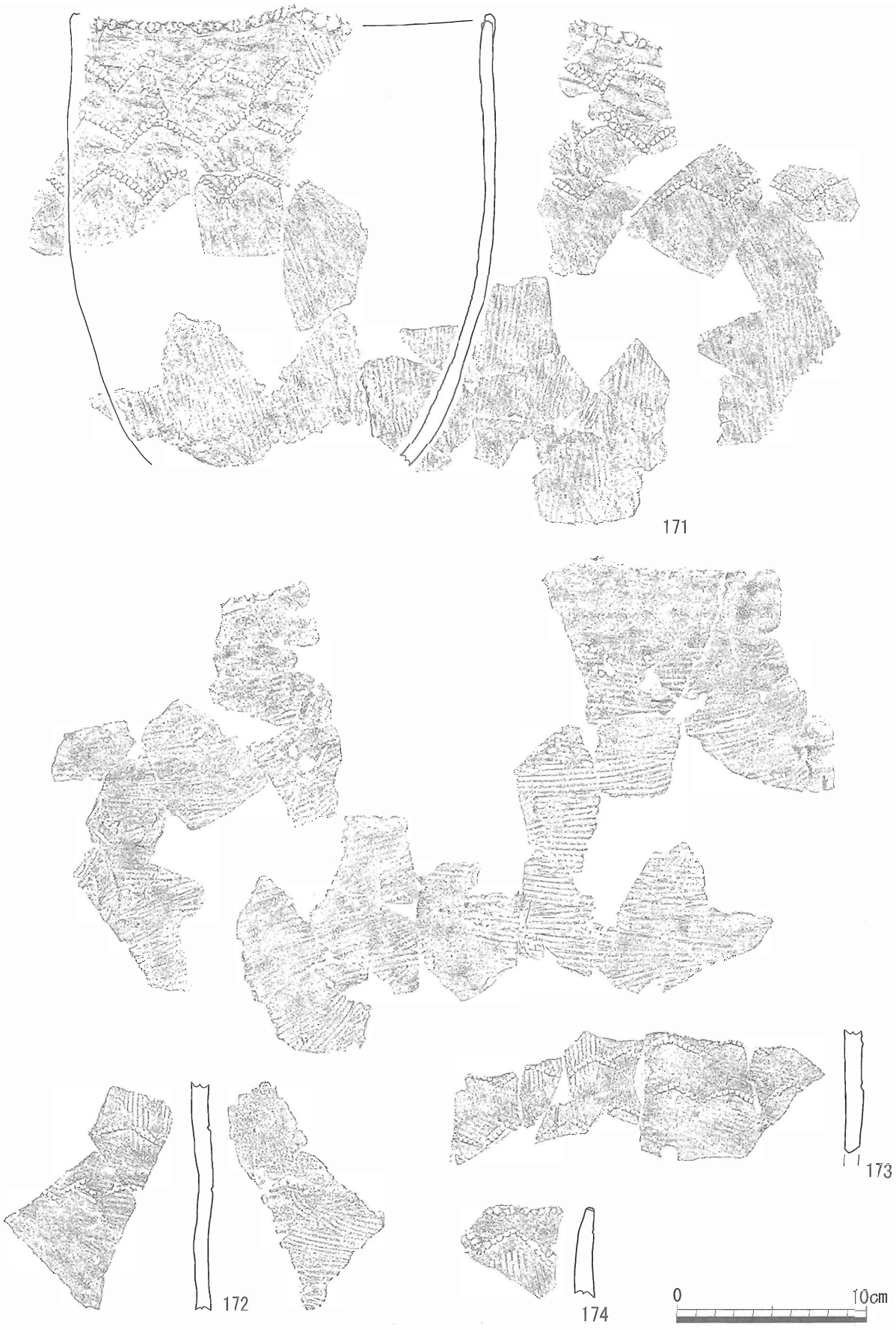
第89図　縄文土器(6)


105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
0
5cm

第90図　縄文土器7)


142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
0
5cm

第91図　縄文土器(8)



第92図　縄文土器(9)

〈貝殻腹縁文以外に明確な文様要素を持たないもの〉（第93図～第100図）

貝殻腹縁文は施されるが、それ以外は明確な文様要素を持たないものをまとめた。器面は条痕がナデ消されているものや、器面調整の条痕・擦痕がわずかに残るのみというようなものが多い。比較的大きく接合したものの中には、条痕が胴部上半はきれいにナデ消されている半面、胴部下半に条痕が残るものが見られるが、文様施文域が無文であることを理由として、ここにまとめている。大きく接合したものから推測すると、山形の貝殻腹縁文が３列施文されるものが多く、本遺跡の主体を占めているものと思われる。

175は大きく接合した個体である。３号土器集中でまとまって出土した個体であるが、包含層との接合関係も多い。山形の貝殻腹縁文が３列にわたって施文される。器面は条痕がナデ消されている。口唇への刺突は篦状工具による。176も大きく接合している。復元推定値は口径が22.0cm、胴部最大径が23.0cmと推定される。残存高は22.6cm、器厚は1.0cmである。この個体も山形の貝殻腹縁文を３列にわたって施文するが、175と比して、貝殻の押引が深い。177は176と同一個体と思われるものである。179の貝殻の押引は浅い。176～179の口唇への刺突は貝殻腹縁が用いられる。

181は１号住居跡出土の遺物である。胴部下半にいたるまでの大きな接合を得た。山形の貝殻腹縁文が３列にわたって施文されるが、口唇直下から左下がりの腹縁文が施文される。第102図に不定形な文様構成をとる一群をまとめて掲載したが、あるいはそちらで報告されるべきかもしれない。口唇には棒状工具による刺突が見られる。182も山形の貝殻腹縁文が３列施文される。口唇には篦状工具による刺突が見られる。183は１号竪穴状遺構出土の破片を含んで接合している。山形の貝殻腹縁文が３列にわたって施文される。184も同様に山形の貝殻腹縁文が３列施文される。本個体の腹縁文の施文は下方への押引が主であるが、刺突の深さは深いものから浅いものまで多様である。

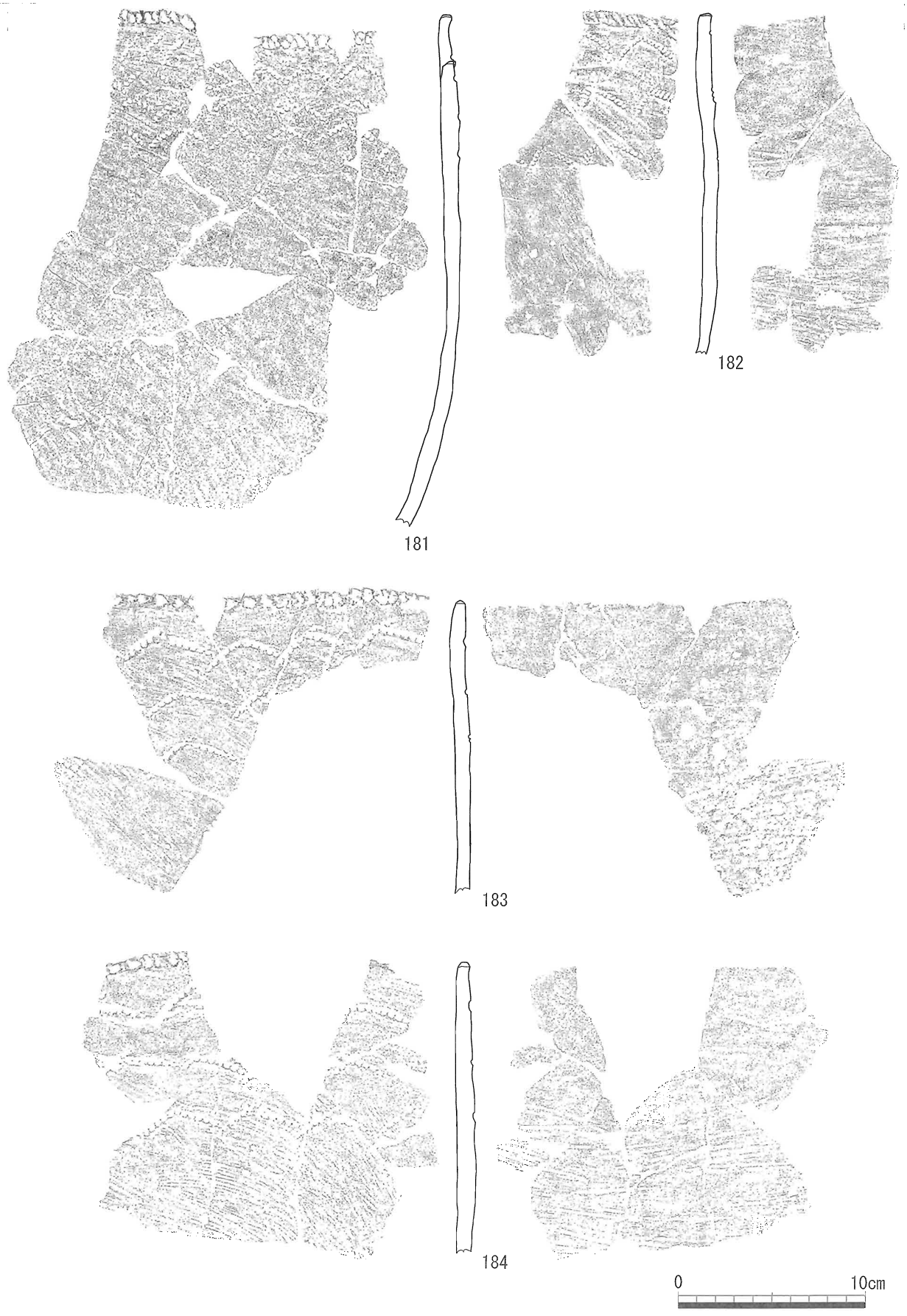
大きく接合しなかったもののうち、口唇が残存しているのが、185～270である。

194は外削ぎの口縁である。このように急斜度に削がれているものは本遺跡では珍しく、該期のものはこれ１点のみである。195は口唇から胴部上半までの接合が見られているが、山形の貝殻腹縁文は主体となる２列である。239は波頂部の破片である。波頂の口唇がつまみ上げられるように薄く整形される。255は口唇の残存が良好ではないが、口縁部がやや外反することから口唇が残存するものとした。この固体に施文される山形の貝殻腹縁文は２列である。

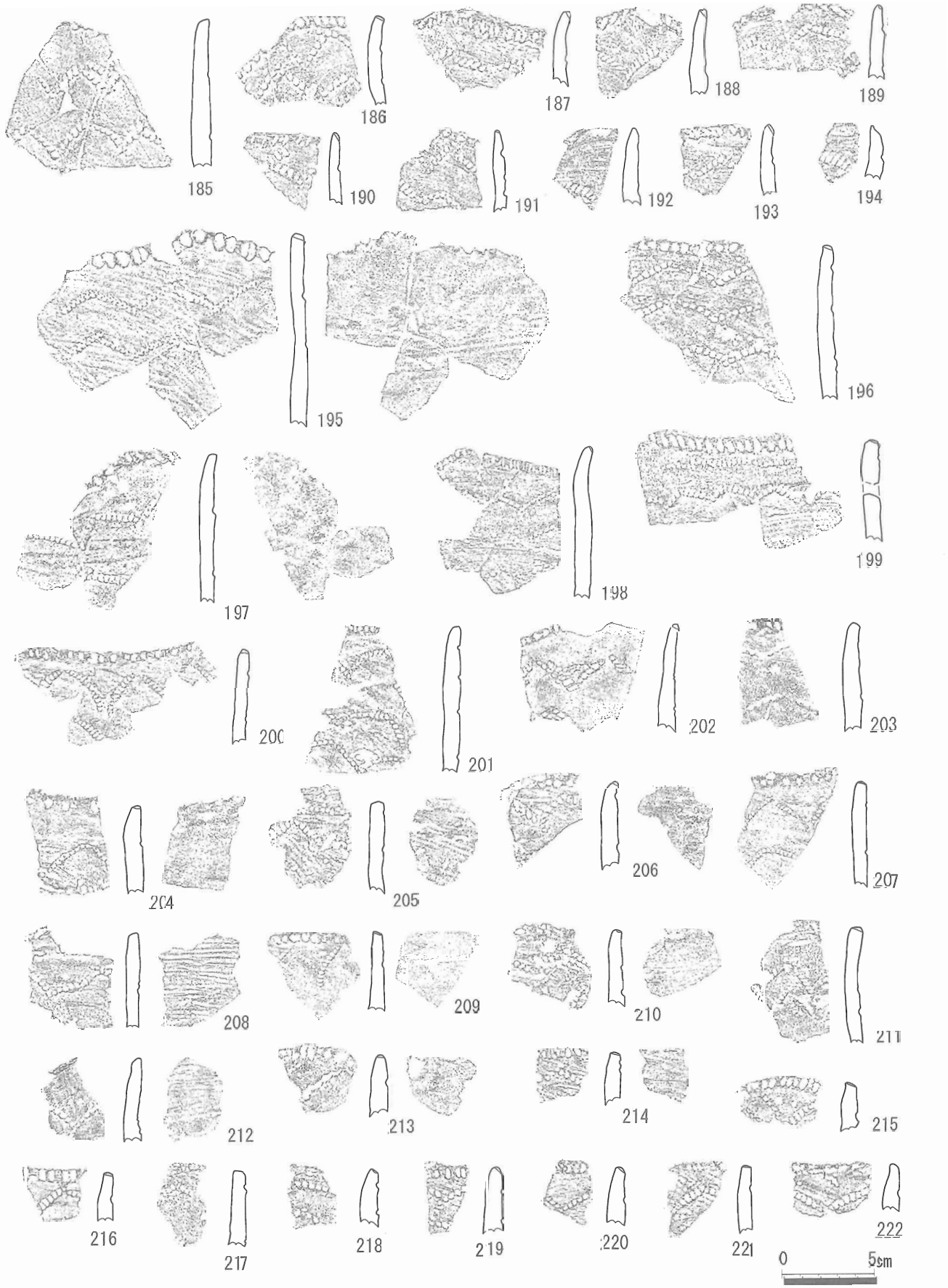
185～270のうち刺突が見られない194を除いた85点の口唇の刺突に用いられた工具は、貝殻腹縁が31点（185・189・191・197・201～205・210～213・217・218・220・222・224・225・229・231・237・239・240・249～251・256・261・264・266）、篦状工具が23点（187・190・193・198・209・215・221・223・230・232・235・242～248・254・260・262・263・265）、棒状工具が17点（186・188・195・199・206・214・219・220・233・236・252・257～259・267～269）である。なお、貝殻腹縁を用いるもののうち205・217・218・220の４点は口唇上に貝殻条痕を引いている。また、196・200・207・216の４点は角棒状工具を用いたか、または篦状工具を寝かして刺突している。192・208・226・228・234・238・241・253・255・270の10点は残存状態が良好ではなく、不明である。

271～382は口唇が残存しない破片である。このうち、特徴的なものだけここで紹介する。271は比較的大きく接合したもので胴部中～下半が残る。277は口唇が残存している可能性もあるが、判然としないため、ここに掲載する。313は破片の中央に大きい縄の圧痕が見られる。意図的につけられたと思われ、原体は判然としないが腹縁文よりもはるかに大きく深い。290と292はともに３号土器集中から検出されており、同一個体であると思われる。

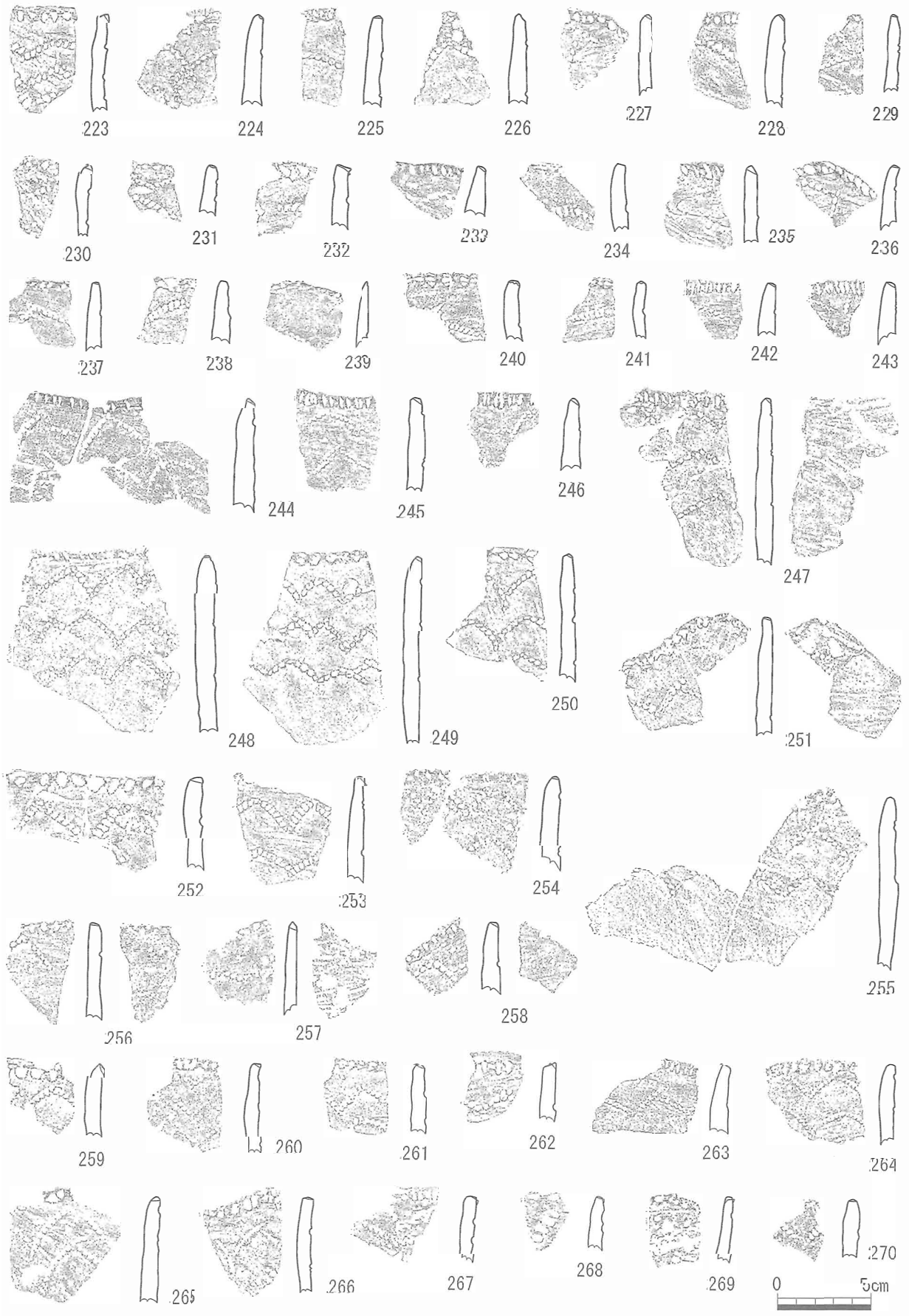
第93図　縄文土器(10)



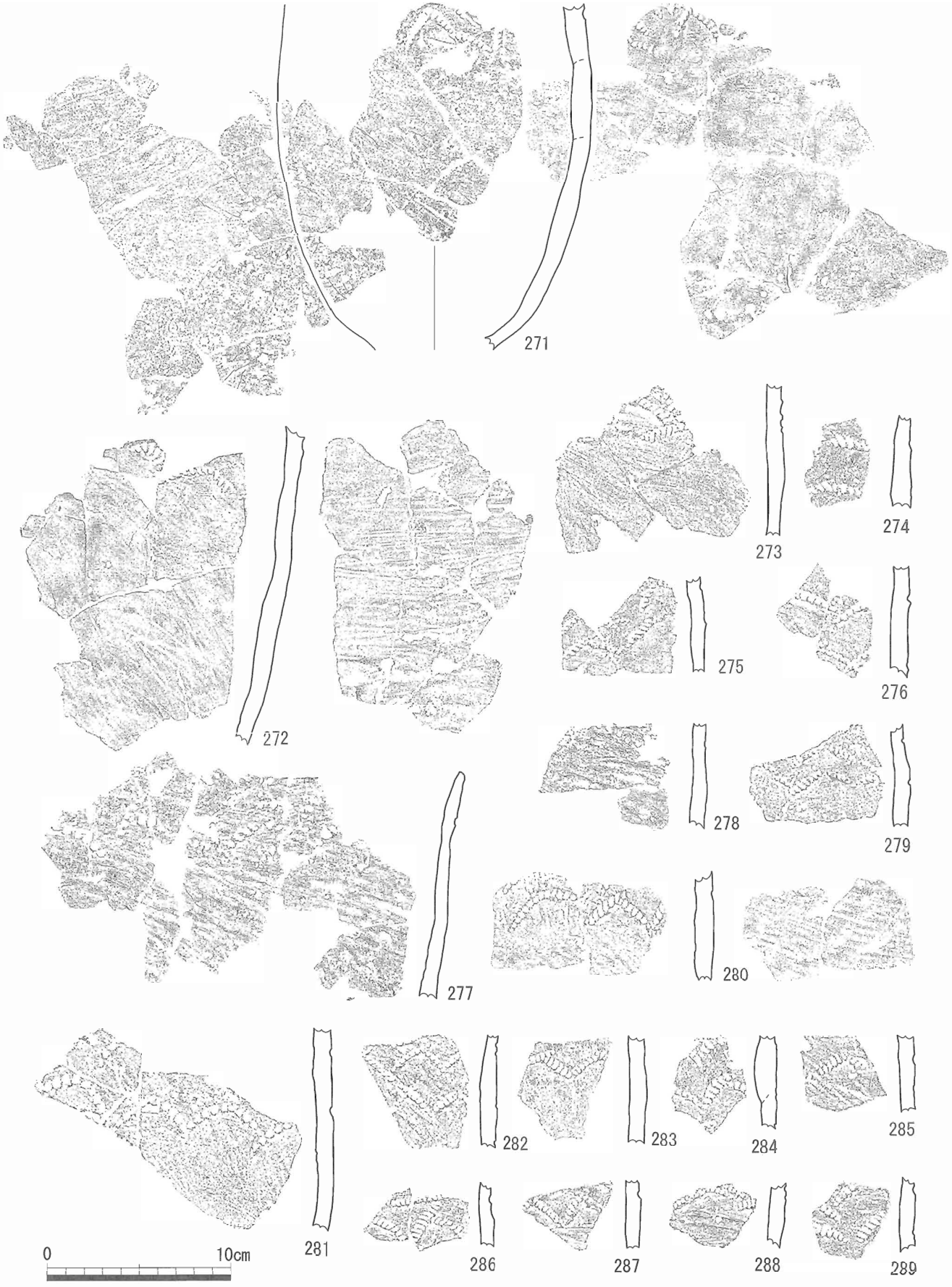
第94図　縄文土器(11)


185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
0
5cm

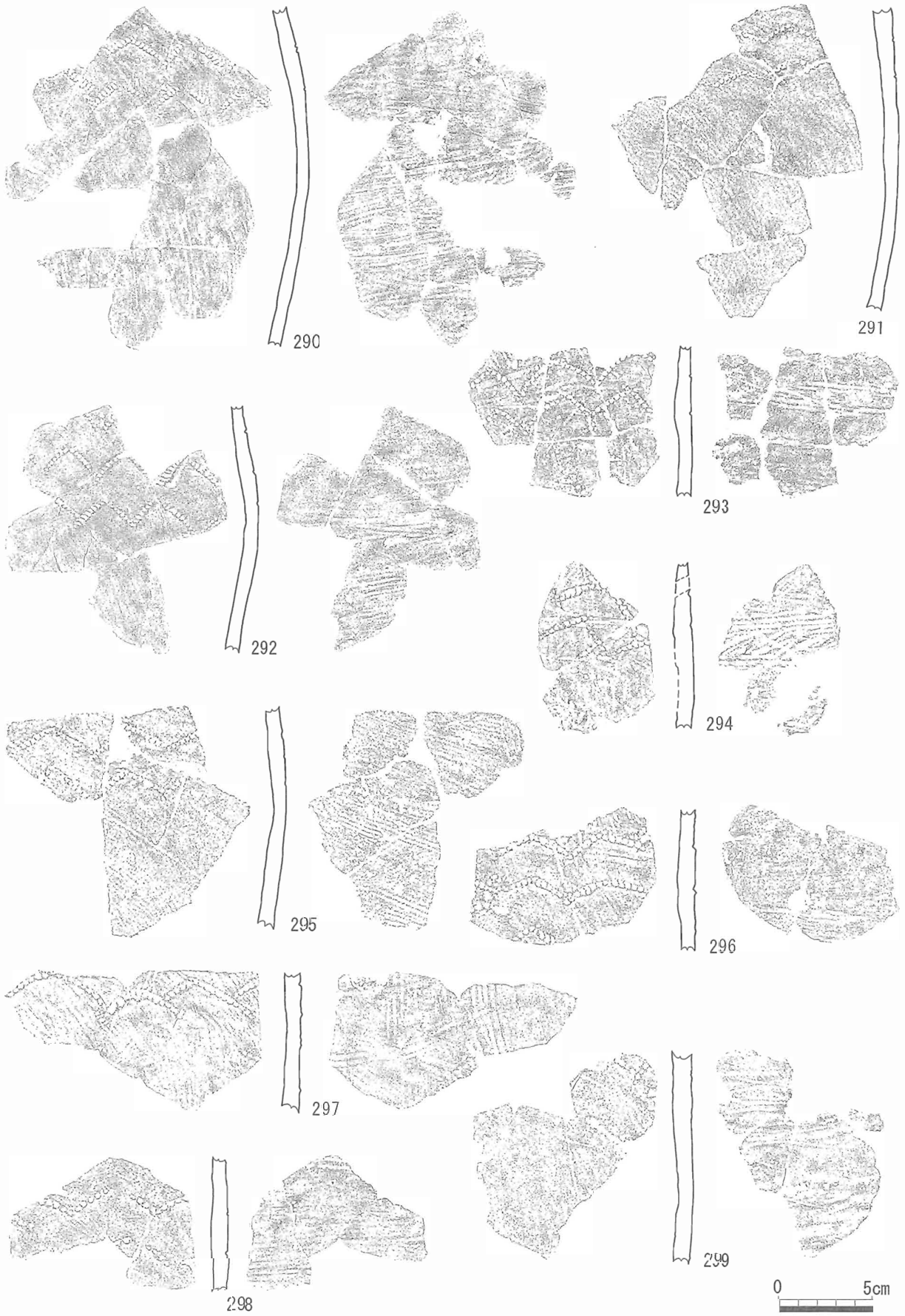
第95図　縄文土器(12)


223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
0
5cm

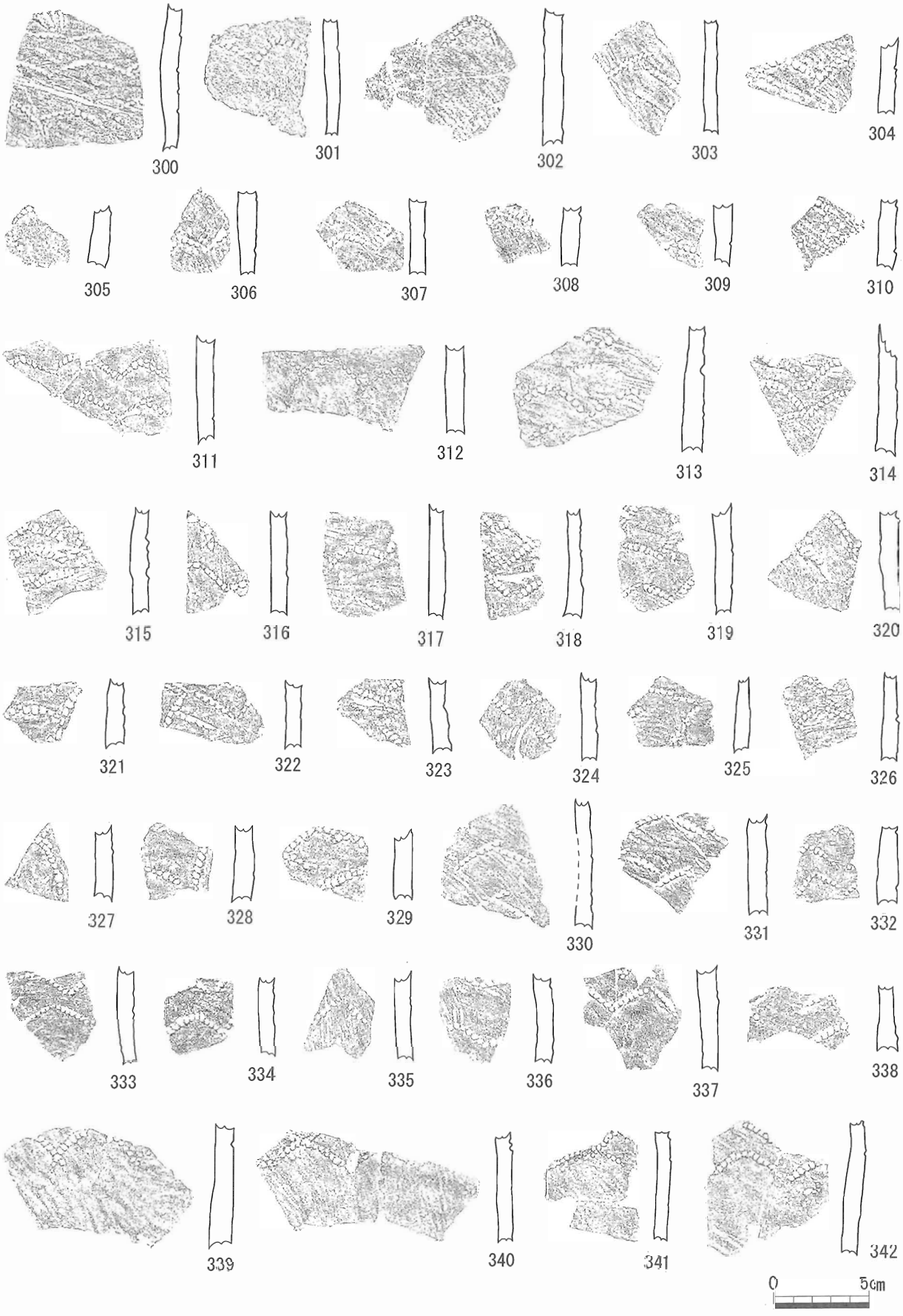
第96図　縄文土器(13)


271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
0
10cm

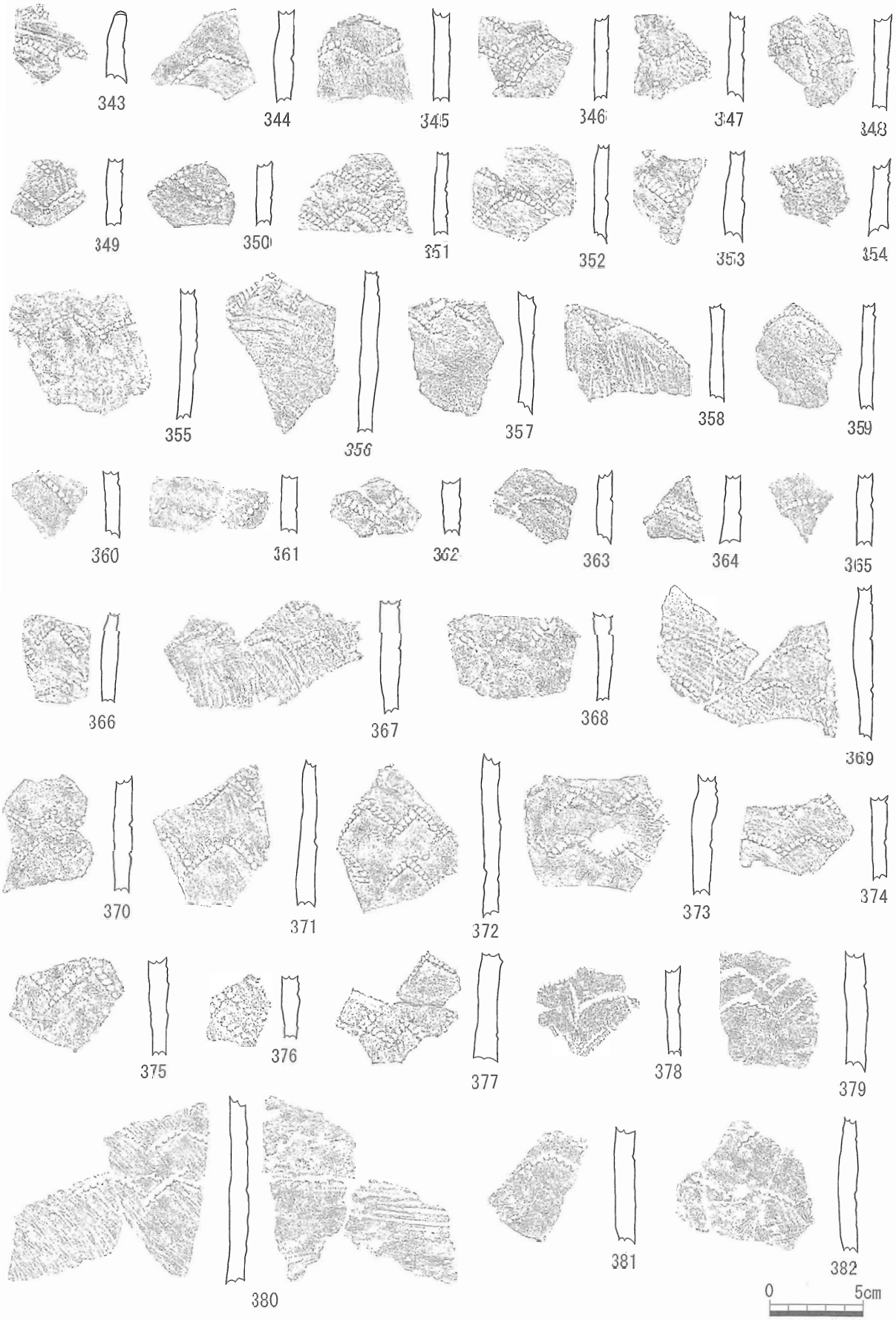
第97図　縄文土器(14)



第98図　縄文土器(15)


300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
0
5cm

第99図　縄文土器(16)



第100図　縄文土器(17)

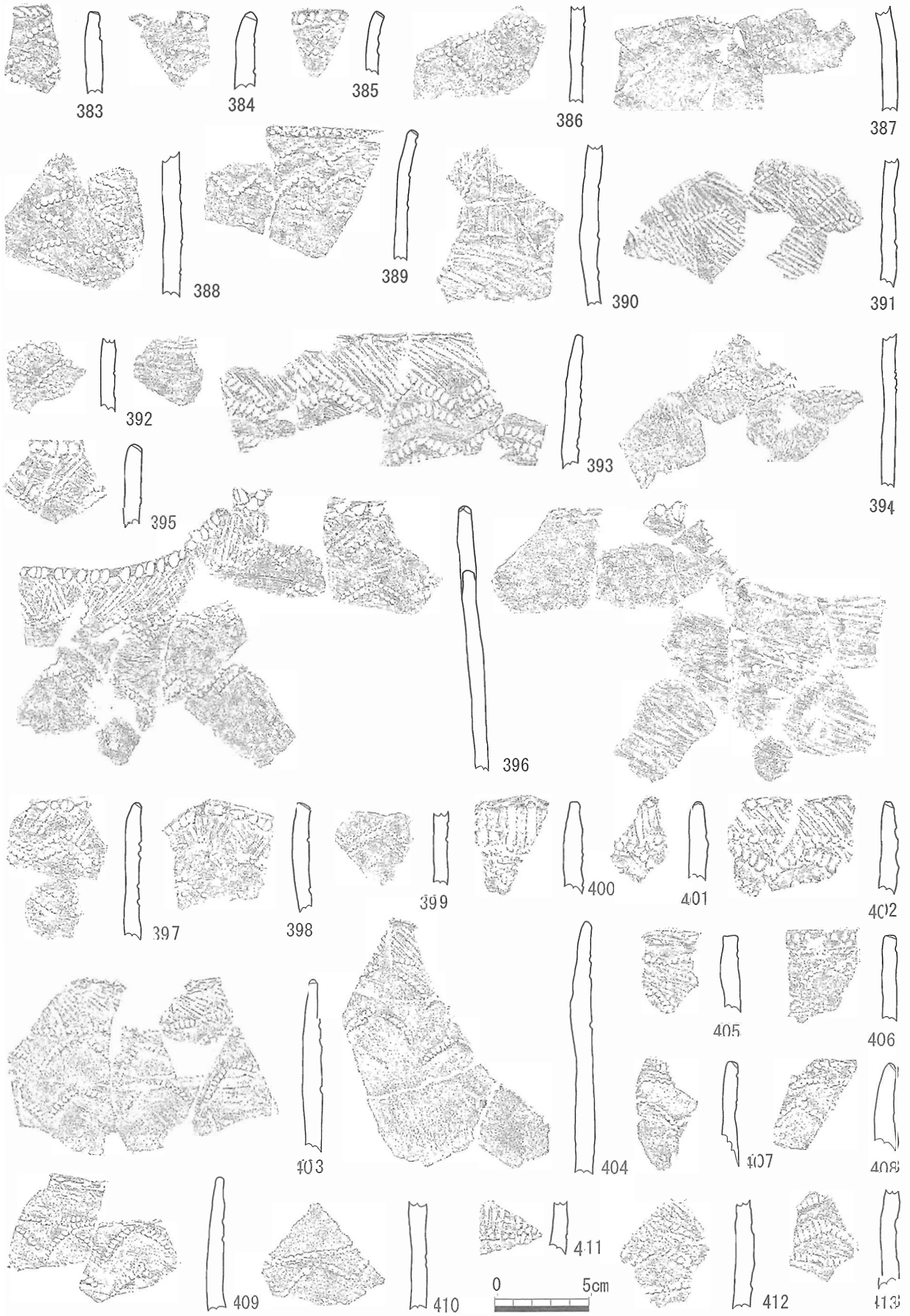
〈貝殻腹縁が菱形状に施文されるもの〉（第101図383～388）
腹縁文が完全に交叉して菱形状になるものは少なく、387や388のように菱形を意匠としたようなパターンを持つものもある。383～385は口縁部である。口唇上の刺突は383が貝殻条痕、384が棒状工具による刻み、385が篦状工具をやや斜めに寝かせて刺突したものである。また、ここに掲載したものの他にも、垂下隆帯を伴うもの（第86図58）がある。

〈目結文状に施文されるもの〉（第101図389～392）
山形文の頂部の下位に貝殻腹縁を短く押し当てて施文するものが多い。392のみ、菱形の中に施文されている。口唇部が残存するのは389で角頭状の口唇上面に貝殻腹縁による刺突がなされている。

〈近接する２列１組の山形文が施文されるもの〉（第101図393～399）
山形文を２列１組にして施文しているものをまとめた。また、ここに掲載したものの他にも、垂下端部隆帯を伴うもの（第86図59）がある。393は斜位に一方向の条痕文を施した後に２列１組の山形文を施文している。腹縁文の刺突は深く、大きい。口唇は貝殻条痕が施文されている。394も２列１組のものだが、一部に３列に並ぶところが見られる。施文の開始地点または転換点と考えられる。395～398の口唇はすべて、棒状工具による刻みが見られる。396はやや台状になる波頂部を持つ。波頂部にのみ２列１組ではない通常の山形腹縁文が施文されている。399は胴部破片である。

〈山形文の上位または下位に貝殻腹縁文で類沈線が施されるもの〉（第101図400～413）
山形文の上位または下位に類沈線を施すものが出土しているが、本遺跡においては、上位に施文されるものの方が多い。上位に施文されるものについては、口唇から類沈線までの間に沈線を施すもの（400・401）、条痕を施すもの（402～404・411）、施文しないもの（405～410）の３つのパターンが見られる。口唇へは棒状工具で刻みを加えているもの（402・403・406）があるが、それ以外は405を除き、すべて貝殻腹縁の刺突が加えられているものと思われる。405は角頭状に成形されており、口唇上面への刺突は見られない。412・413は山形文の下位に類沈線を施すものである。掲載は２点であるが、遺跡全体でも小破片のみ８点程度の出土量である。

〈不定形なもの〉（第102図414～427）
貝殻腹縁による施文がやや不定形なものをまとめた。414～421は貝殻腹縁の施文方向が主に横方向の広がりを持つものである。414・415は貝殻腹縁文を横走させている。口唇は角頭状に成形され、篦状工具による刻みが見られる。416・417は口縁に並行するように腹縁文を施文し、その下位には山形状もしくは菱形状に施文しているが、詳細は不明である。口唇には棒状工具による刻みが見られる。418も文様構成は不明で、口唇には条痕の押引が見られる。419は斜位の条痕を施した上に貝殻腹縁を施文しているが、詳細は不明である。口唇には篦状工具による刻みが見られる。420は口唇直下に沈線を施している。腹縁文は口縁に並行するものが３本と、それに交わるものが５本見られる。腹縁文の刺突にも様々な方法が見られる。口唇には棒状工具による浅い刻みが見られる。421は菱形状ともとれるが、波頂部中央に交叉する腹縁文が施されているためここで掲載した。口唇の刻みは篦状工具が用いられている。422も文様構成が不明である。わずかに残った口唇には篦状工具での刻目が見られる。423は２号住居跡出土遺物である。縦方向に施文した後に横方向の施文し、菱目状を基調としたパターンで施文している可能性がある。出土土器の中でも厚手に属するもので、厚い部分では1.2cm程度ある。口唇の刻みは角棒状のものを用いているが、右端部の刺突は貝殻腹縁である。残存部右側の頂点を境に



第101図　縄文土器(18)

施文工具を変えている様がうかがえる。内面の調整も丁寧になされている。424～427は縦方向の施文が特徴的なものである。424・425ともに縦位の条痕が施された後、縦方向に腹縁文を施文している。口唇はともに貝殻腹縁による刻みが見られる。これらは同一個体である可能性がある。426も縦方向に施文されているが、条痕文は伴わない。口唇の刻みは篦状工具による。427は山形文のように見えるが、連続性が見られないため、ここに掲載した。小破片であるため、詳細は不明である。口唇の刻目は貝殻腹縁である。

d　貝殻腹縁文が縦位に密に施文されているもの（第102図428～432）

破片数にして７点出土している。うち２点について接合が見られた。胎土、文様要素に類似性が高く、同一個体と思われるが、それ以上の接合は見られなかった。ここでは５点を掲載する。431を除く３点に口縁部が残存している。口唇直下から縦位に密に施文している。文様は細長いハの字状である。428・429はハの字の列が２列施文され、その下は無文となっている。430・431も同様であることが推測される。口唇には篦状工具による刻みが見られる。

２種　貝殻腹縁を用いず、沈線を用いて施文しているもの（第102図433～447）

１種の土器群と同じ文様構成をとるものの、施文に沈線を用いているものをまとめた。

a　山形文を沈線で表現するもの（第102図433～436）

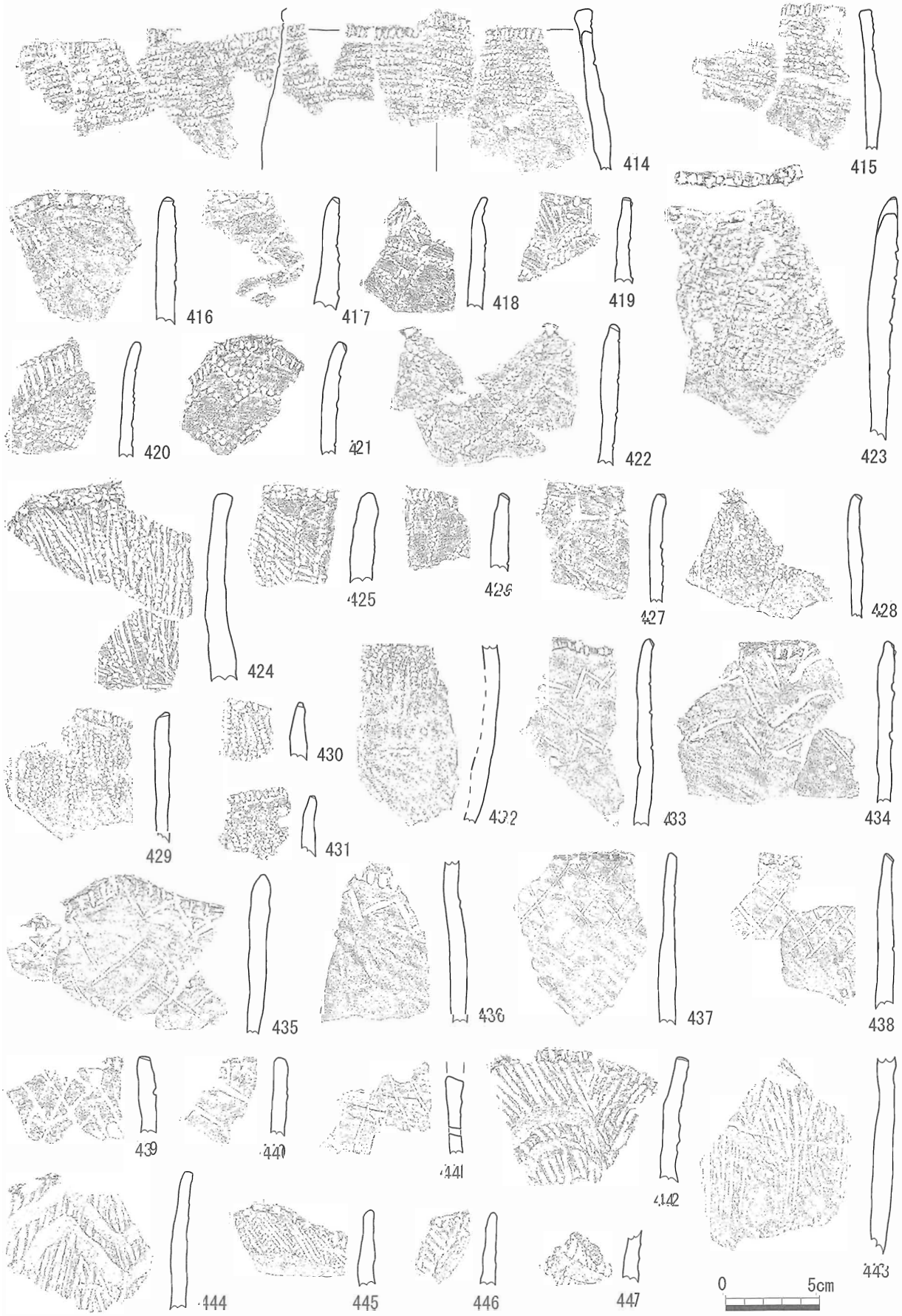
山形文を意匠としていると見られるが、施文工具は多彩である。433は篦状工具を用いており、山形の列は２～３段であるが、435に見られるように、波頂部分には山形が１段追加される傾向があると思われる。433もこの部分を基点に段数を増やしている可能性がある。434も同様に篦状工具を用いているが破片右側の山形は部分的には波状とも言うべきなだらかな形をしている。この部分は沈線の太さも変わっており、沈線の引いた底の部分からは線条痕も観察できる。この部分は茎のようなものを施文具として用いたのかもしれない。435は台形の波頂部である。波頂部から山形文が１段追加された様子が見て取れる。433～435はいずれも口唇部に篦状工具による刻みが見られる。436も同様に山形文であるが、沈線は半截竹管状工具で施文されており、破片上部の刺突列も同じ工具の背を利用して施文されていると見られる。

b　菱形文を沈線で表現するもの（第102図437～441）

菱形文を意匠としていると見られるものをまとめた。437・438は同一個体と思われるもので、沈線で格子目状に施文し、菱形を生んでいる。口唇には篦状工具による刻みが見られる。439も同様の文様構成をとる。440は口唇から縦位の沈線が施され、その後に右下がりの沈線が描かれている。441は胴部破片である。破片の上下に補修孔と見られる穴が見られる。

c　山形文を凹線（幅広の沈線）で表現するもの（第102図442～447）

条痕が施文された後に、凹線が施されるものをまとめた。小破片が多く、詳細は不明であるが、典型例である442や444の様相から、山形文を意匠としていると推測した。凹線は指あるいは太い棒状工具で施文されている。442は斜格子目状に配された条痕文の上に、弧状の凹線を施文している。口唇部には篦状工具による刻みが見られる。444も山形文を施文している。口縁が残存しているが口唇への刺突等は見られない。443・445・446・447も条痕の上に凹線を配している。口縁部が残存する445・446ともに口唇の刻みは篦状工具が用いられている。447は貝殻腹縁のようにも見えるが、斜位の条痕の上に凹線が２本施文されており、上下の凹線にはさまれた部分が貝殻腹縁の刺突を模している。


414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
0
5cm

第102図　縄文土器(9)

3種　貝殻腹縁文を有せず、また貝殻腹縁文の文様構成を意匠としないもの（第103～108図）

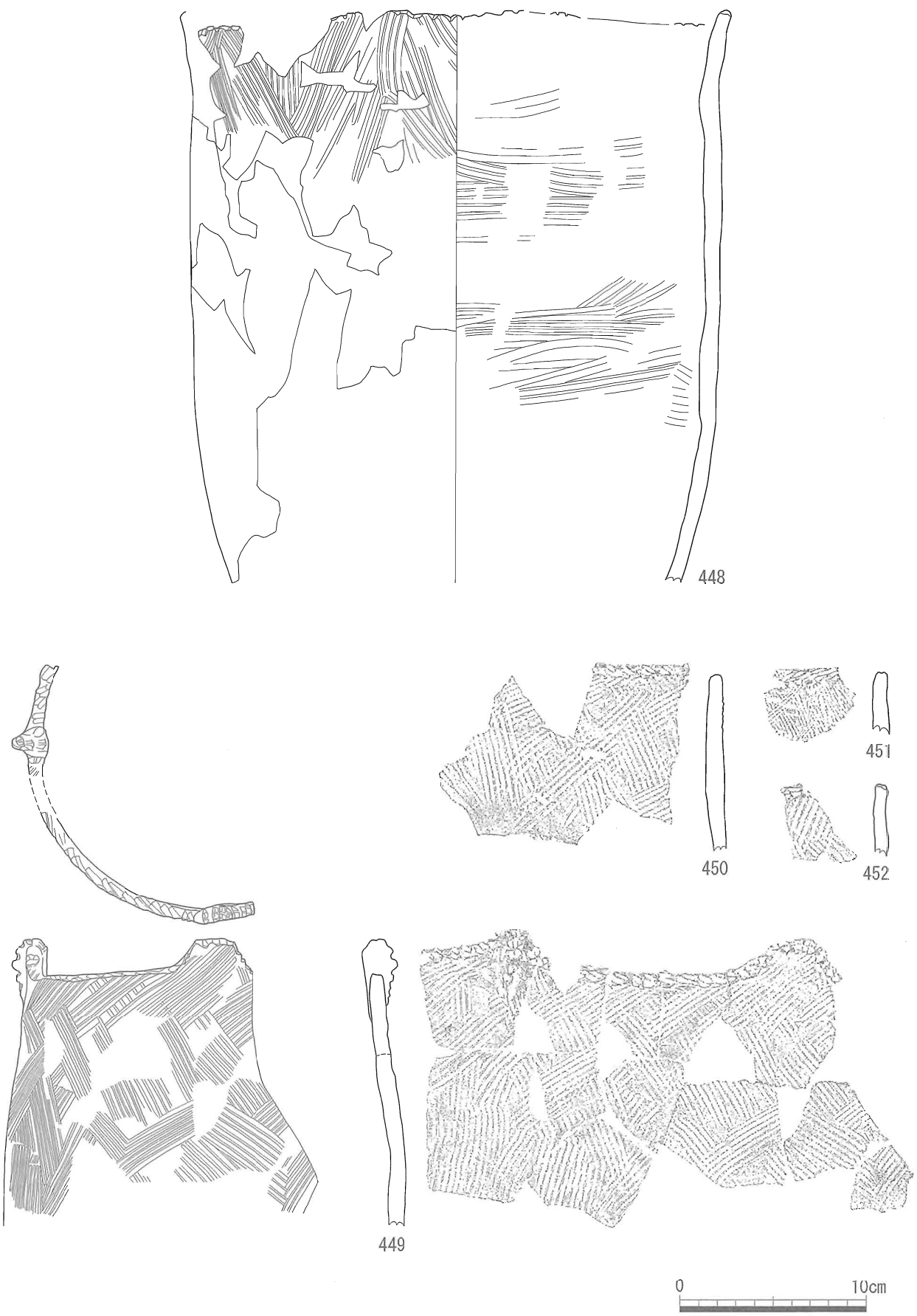
ここでは、１種とした貝殻腹縁文の土器群と同時期のものと見られる土器をまとめた。その主たるものは条痕文のみが施されている土器ということになる。しかしこれらは小破片も多く、腹縁文を有する個体の無文部である可能性もある。図版には１種ｃ類と同様に格子目条痕を持つものから順に掲載した。

ａ　格子目状の条痕文を持つもの（第103～104図）

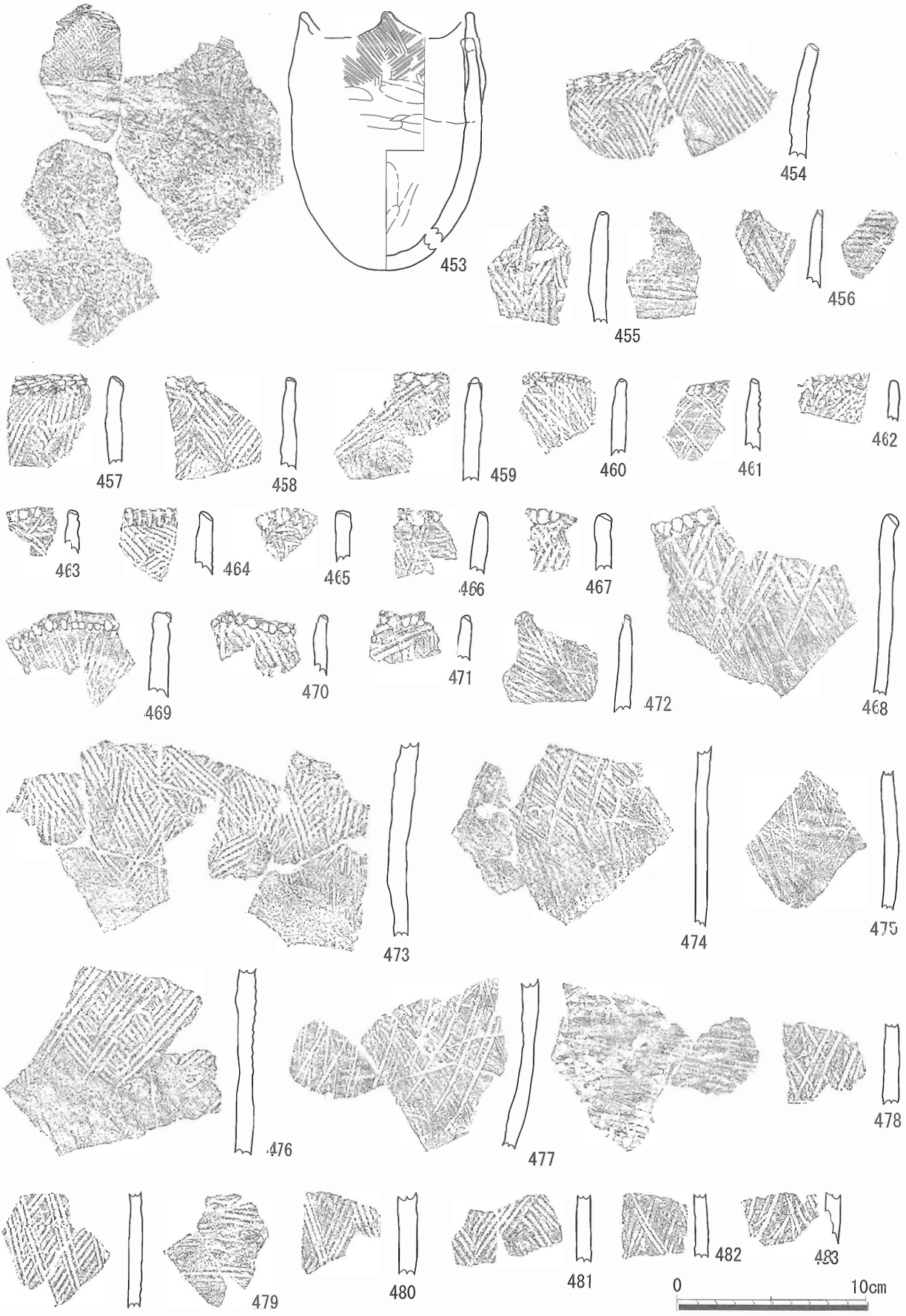
口縁から右下がり、左下がりの条痕を交叉するように施しているものである。448は４号住居跡出土遺物である。口縁部に斜位の条痕が施されている。格子目条痕の典型ではないが、条痕の方向は一定ではない。その下位には横方向の調整による条痕が残る。口唇には貝殻腹縁を刺突した刻み目が施されている。内面にも横方向の調整による条痕が残る。推定復元値は、口径28.8cm、胴部最大径は28.2cmである。残存高は30.7cm、器厚は1.0cmであった。449も口縁部を中心に胴部の1/4程度まで接合した。波頂部に垂下隆帯を有するものと有さないものが接合した形で残存している。この個体は、対面する２つの波頂部にのみ垂下隆帯を貼付したものと思われる。垂下隆帯上及び波頂部には貝殻腹縁による刺突が見られるが、波頂部を除いた部分では、貝殻条痕を短く引いている。推定復元値は、口径17.8cm、胴部最大径は21.3cmである。残存高は15.3cm、器厚は0.9cmであった。448～452はいずれも口唇に平坦面を作出して角頭状に成形した後に貝殻の腹縁を短く押し引いている。450は449と同一個体であると思われるが接合はしなかった。451も同様に同一個体である可能性がある。452は同一の施文手法をとるが、器面及び口唇上に残された条痕の肋が細い。453は口唇部から底部までの接合が見られた。復元推定値では、口径が8.7cm、胴部最大径が10.1cmと推測されるいわゆるミニチュア土器である。残存高は13.8cm、器厚は0.9cmである。口縁部付近に条痕を格子目状に配している。454～463はいずれも、口唇に貝殻腹縁による刺突が見られる。454は条痕を引いているようにも見えるが、深い刺突である。464～466は篦状工具で、また467～471は棒状工具で口唇に刻目を作出している。中でも、469はやや特殊である。469は口唇を角頭状にした後に、口唇と外面との接点に棒状工具で刻目を入れている。472は口唇の施文が不明である。473～483は胴部の破片である。

ｂ　交叉しない一方向の条痕を持つもの（第105図）

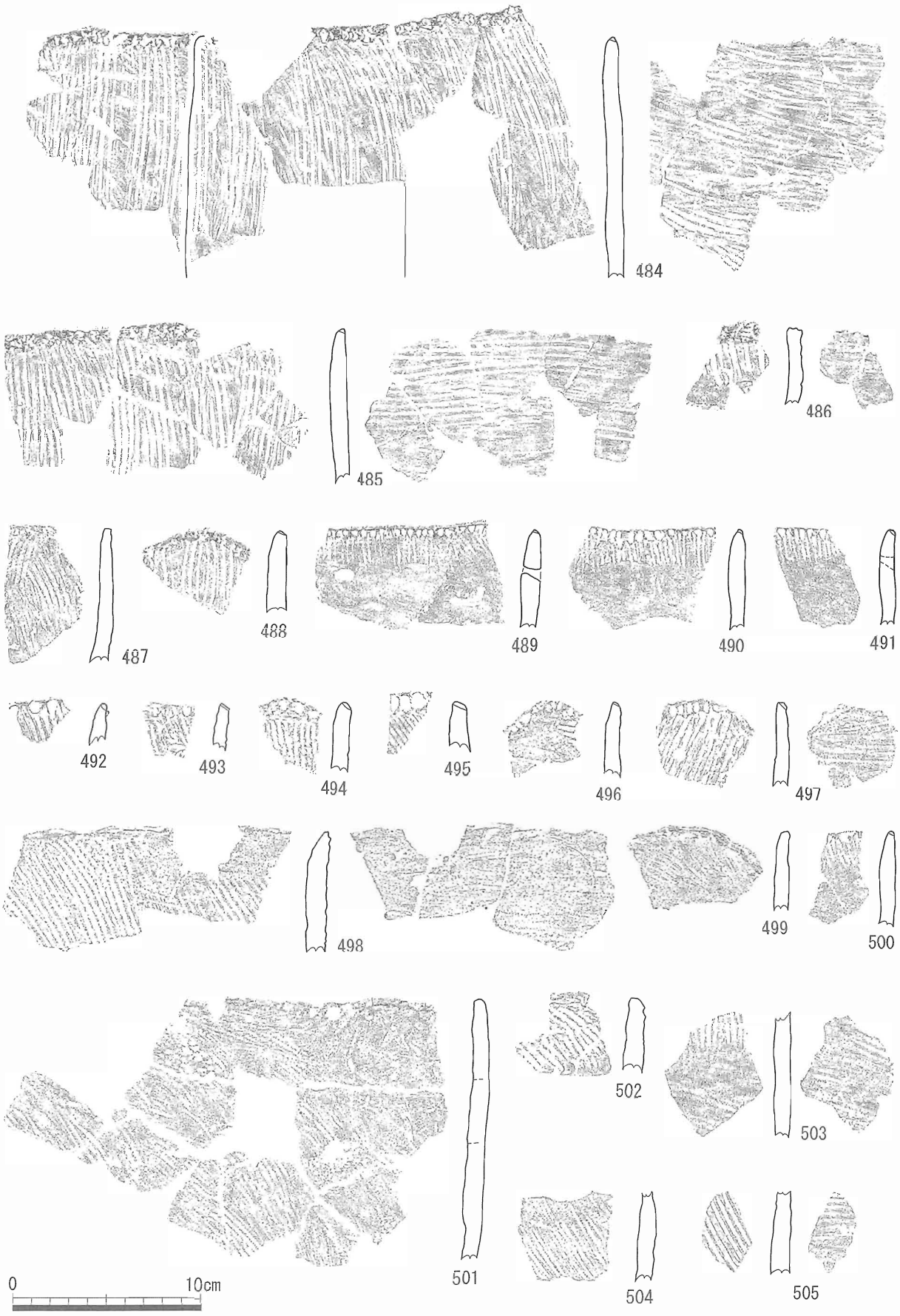
条痕文が交叉しないものをまとめた。斜位のものが多い。484・485は同一個体と思われる。貝殻条痕を長めに施文している。486は沈線のように見えるが、肋の大きいものを使用した条痕文である。487は格子目状にも見え、あるいはそちらで分類されるべきかもしれない。488は波頂部である。484～488はすべて口唇に貝殻の刺突が見られる。また、489～497は棒状工具による刻みが見られる。うち、489～491は同一個体と思われる。条痕文を縦位に施文している。文様帯は狭く、条痕施文の下位はまったくの無文である。湾曲の度合いが大きく、ミニチュア土器のような小ぶりの土器であったと推測される。492～495は遺構内出土のもの、496は波頂部である。497は破片左下の部分に孔を穿った痕跡が見られる。孔は貫通しておらず、作業中途で断念したものと思われる。498～502は口縁部に刺突が見られないものである。498は残存した部分のうち、口縁の一部が欠損している。この部分は、波頂部であった可能性がある。この欠損部分を境に右側は口唇から幅2.5cm程度の無文帯が設けられている。左側部分と同様に条痕を施した後に磨り消しており、興味深い。499は波頂部であると思われる。500は口唇の残存状態が悪く、詳細は不明である。501はやや角頭状に口唇が成形されている。この土器は、出土状態が特徴的で、第161図に再掲されている。502～504は胴部の破片である。



第103図　縄文土器(20)



第104図　縄文土器(21)



第105図　縄文土器(22)

c　波状の条痕文を持つもの（第106図）

条痕文が波状に施されているものをまとめた。17点掲載したが、パターンとしては２種類に分けられる。

一方は、横方向への施文を基調としつつ、条痕を波状に引いていくもので、部分的には簾状のように細かに施文されているものもある。他方は曲線をモチーフとしたもので、器面には伸びやかな条痕が描かれる。前者に相当するのは506～510で、後者に相当するのが511～522である。また、第88図84で掲載した貝殻腹縁文を持つ土器は後者と同様の条痕を持つ。506～510は非常に良く似た文様構成を持っている。口唇の施文も同じであり、口唇は角頭状に成形した後に、条痕を引いている。条痕は一筆書きのようにして口唇上を回していたようである。これらの似た特徴を持つため、506～510は同一個体を含む。506、507は比較的大きく接合した。それぞれの推定復元値は、506が口径24.0cm、胴部最大径26.2cmである。残存高は23.3cm、器厚は1.0cmであった。また507は口径24.2cm、胴部最大径24.3cmである。残存高は13.9cm、器厚は0.9cmであった。511～513は口唇部が残存している個体である。口唇への刺突は、511が貝殻腹縁と篦状工具の併用、512は篦状工具、513は貝殻腹縁が用いられている。511は破片左端の刺突が密集している部分が篦状工具の刺突である。514～522は胴部の破片である。514は比較的大きく接合した個体である。左上から右下がりに施文をしているようである。515～522も貝殻条痕による曲線が描かれる。

d　縦位の沈線を伴うもの（第107図523～528）

口唇から縦位の沈線を施しているものをまとめた。すべて篦状工具により沈線が描かれている。あるいは、縦位一方向の条痕文を意匠としたものとも考えられる。523は篦状工具による沈線を密接に施している。口唇には同じ篦状工具によると思われる刻みが見られる。524も同様の施文方法をとるが、口唇への刺突は見られない。525～527は口唇に貝殻腹縁による刺突が見られる。526～528は同一個体であると思われる。

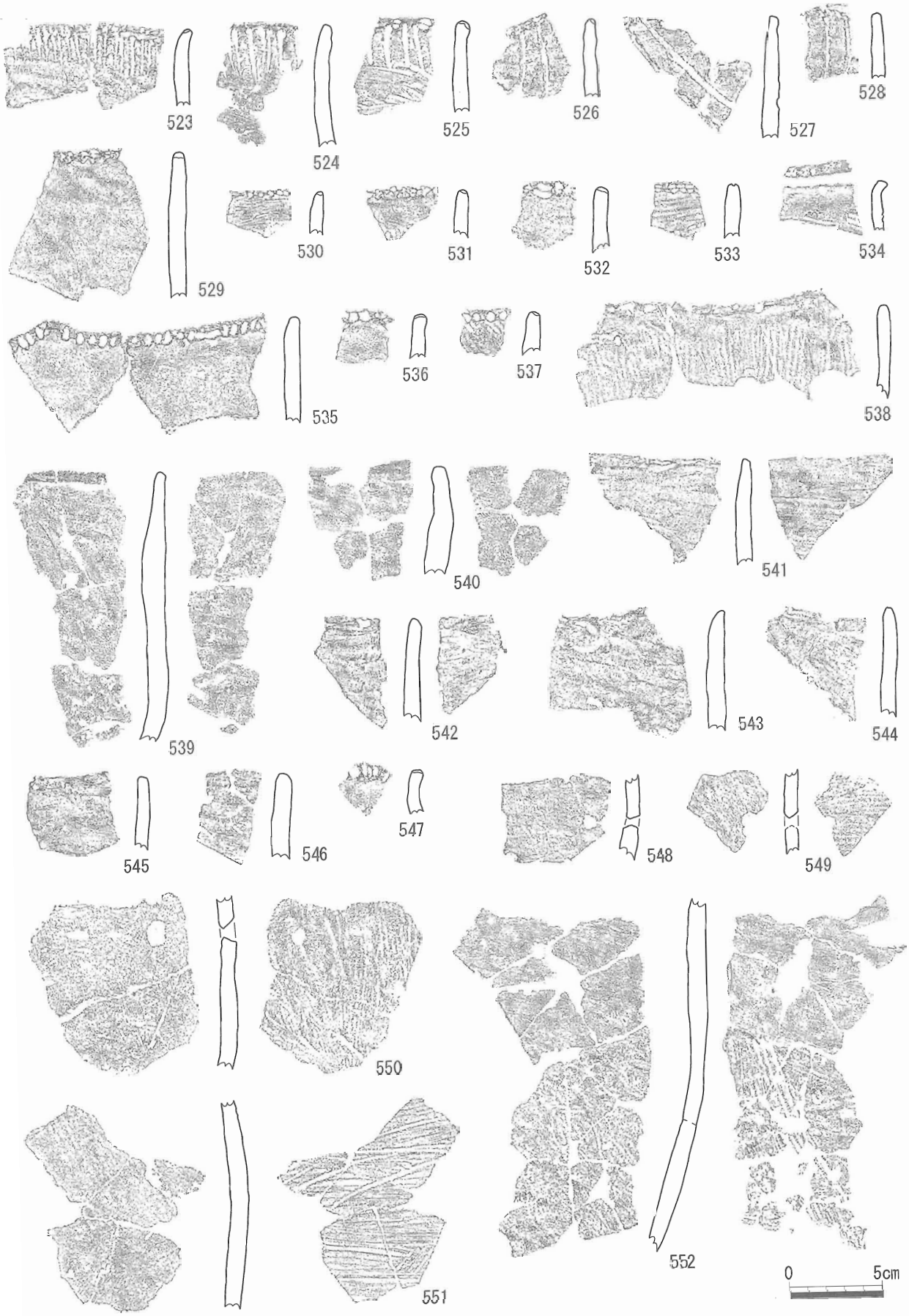
e　無文のもの（口縁部残存）（第107図529～547）

無文のもののうち、口縁部が残存しているものをまとめた。これはすなわち、器面にまったく施文しない、いわゆる無文土器の存在を示唆するものである。器面調整と思われる条痕・擦痕が残るものが多いが、中には、擦痕すらもきれいに磨り消したようなものも見られる。口唇への施文は、529～534は貝殻腹縁による刺突、535～537は棒状工具によると思われる刻み、547は篦状工具による刻みが見られる。538～546には口唇への施文は見られない。538は口唇直下に無文帯を形成したものである。縦位の条痕が残っているが、この条痕にはナデが見られることから、文様を意図したものではなく、器面調整の結果であると認識し、ここに掲載した。546は口唇上に平坦面を作出している。

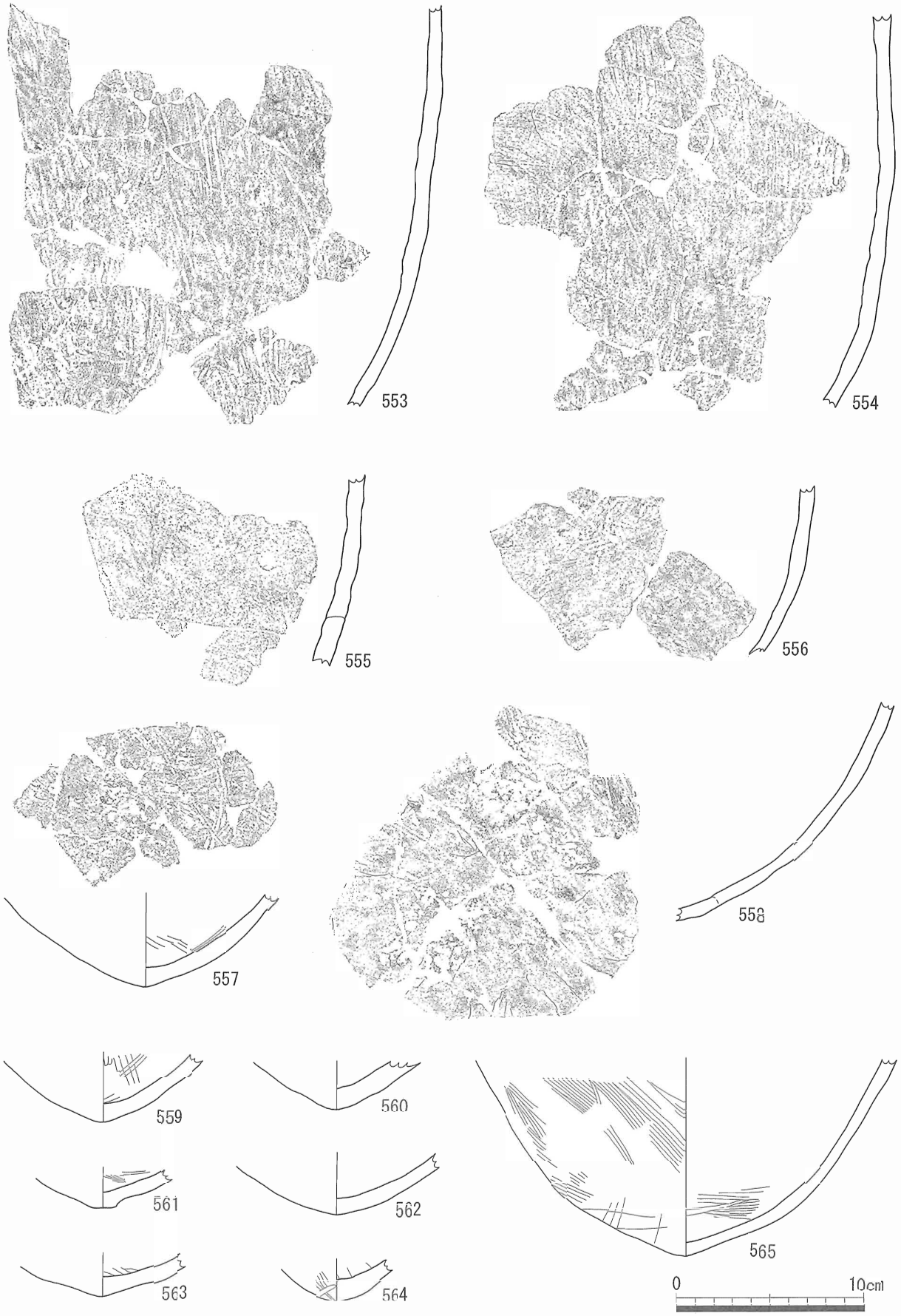
f　無文のもの（胴部・底部）（第107図548～第108図）

無文のもののうち、口縁部が残存しないものをまとめた。すべての分類のうち、最も多くの出土が見られ、出土土器の約８割を占める。ここでは大きく接合したものを中心に掲載した。549から556までは無文胴部である。器面を調整する際につけられたと思われる条痕・擦痕が残る。557～565は底部である。尖底をなしており、個体による目立った差異は見られない。

第106図　縄文土器(23)



第107図　縄文土器(24



第108図　縄文土器(25)

4種　神之木台式土器（第109図566～568）

神之木台式土器は３点の出土があった。出土地域は集落域の調査区東側丘陵部の西端である（第81図）。いずれも磨耗が激しいが胎土の色調・含有物等から同一個体であると判断した。566は口縁部が残存する。断面が台形状の隆帯が貼付されている。567も同様の隆帯が貼付されるが、口縁部は残存しなかった。隆帯の下位には、右下がりの条痕が残る。568は条痕のみの小破片である。567・568は９号陥穴状土坑での検出である。

5種　条痕文系不明土器（第109図569・570）

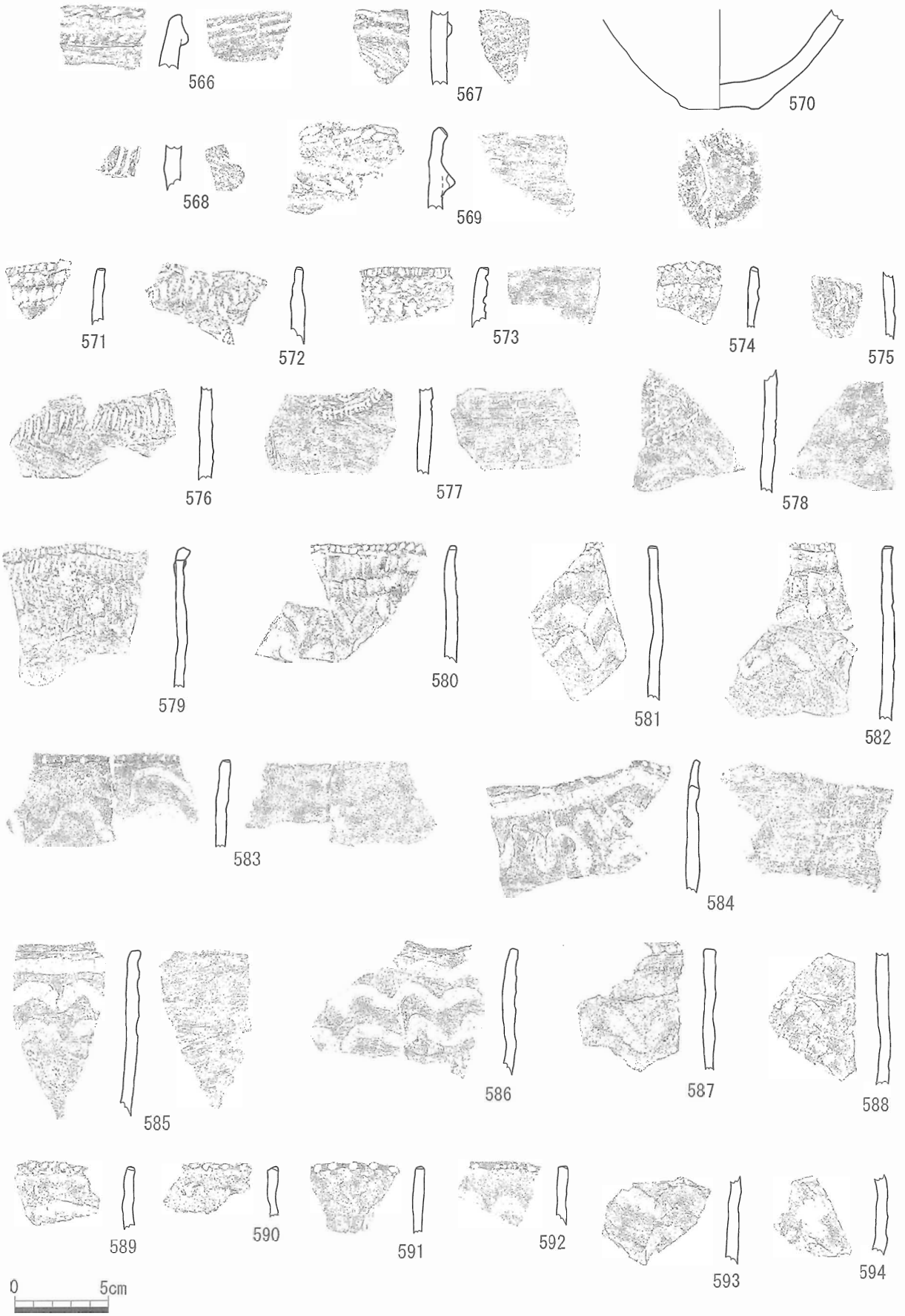
ここでは、早期末葉に属する不明土器をまとめた。569は断面三角形の隆帯を持ち、隆帯には刻みが見られる。口唇には棒状工具による刻みが加えられている。色調は非常に赤みが強く、本遺跡出土の打越式土器とは明確な相違がある。入海Ⅰ式～Ⅱ式を模倣した在地の土器と見られる。570は径4.2cmの小型平底である。茅山式の底部に良く似ているが、胎土・色調は本遺跡出土の茅山式の土器とは似つかない。同一個体である胴部の破片も存在するが、無文でかつ剥落が非常に激しいため、判然としない。打越式において小型平底の存在の可否は不明であるが、他の型式のものとも判断できないため、ここに掲載した。

B類　早期末葉東海系土器（第109図571～第111図）

早期末葉東海系土器は破片の数にして517点出土している。型式判定は、基準となる文様要素が明確なもののみを対象としたため、石山式または天神山式と判断されたものは口縁部が中心となっている。施文されていない破片は石山式かまたは天神山式かの判断が難しかったため、３種無文胴部としてまとめたが、当然どちらかに分類されるべきものである。出土地域は調査区東側の丘陵域に集中している（第82図）。この分布は第80図で示した打越式と思われるまたは打越式併行の土器（以下第Ⅲ群Ａ類１～３種）の土器の分布状況と重なる部分が多い。本遺跡では出土縄文土器のうち、約90.5%が第Ⅲ群Ａ類１～３種の土器である。東海系土器が出土しているグリッドを見ていくと、第Ⅲ群Ａ類１～３種の土器の割合が遺跡平均の90.5%を超えている。包含層ではあるが、分布の意味からも、該期の関東系の土器群と東海系土器の極めて良好な共伴関係が得られていると言える。

1種　石山式土器（第109図571～584）

石山式土器と判断し得た破片は43点である。先述したとおり、文様要素が明確なもののみを石山式と認定したため、ここでは口縁部の破片が掲載されている。第Ⅲ群Ｂ類３種とした無文破片の中にも、当然、石山式の胴部が含まれていると考えられる。文様は、爪形文の刺突が明確なものと、刺突が明確ではないが、蛇行する凹線の中に刺突が見られるものの２つのパターンが見られる。また、２つのパターンを併せ持つものも存在する。刺突が明確なものは571～578である。棒状工具により、連続刺突を施しているものが主である。571・574・575・576がこれに該当する。その他にも、生爪を刺突していると思われる572、貝殻腹縁を用いていると思われる573・577・578がある。棒状工具を用いているものは比較的オーソドックスなタイプのものが多いが、貝殻腹縁を刺突するものは、非常に細かな刺突を繰り返している。文様構成は波状文を意識していると見られる。なお、571～574は口縁部が残存する。571～573は口唇上に平坦面を作出した後に篦状工具による刺突がなされる。しかし573は口唇部の残存状況が良好ではなく、可能性にとどまる。574は棒状工具による刺突が見られる。579～582は明確な刺突の下位に蛇行した凹線が施されているものである。棒状工具による連続刺突は、口縁に平行するように施されており、その下位に１～２列の蛇行する凹線が施される。篦状工具または指によ



第109図　縄文土器(26)

り、凹線が描かれたと見られる。これらはすべて口縁部が残存し、口唇上に平坦面を作出した後に篦状工具による刺突が施されている。583～594は、蛇行する凹線の中に爪形文が残るものである。文様構成は口縁に平行した凹線を施し、その下位に蛇行した凹線を施すものが多く、凹線を刺突列とみなせば、石山式に良く見られる文様構成となる。凹線の中には、爪形の刺突が見られるが肉眼でも観察が難しく、拓本では表現が難しかった。爪形は凹線の転換点にわずかに見られる。これらの土器は石山式の最終末に相当すると考えられる。また、586は爪形がほとんど観察できない。逆に、凹線の底には凹線の輪郭に平行するように、篦の引きずった痕跡が見える。つまり、凹線の中に無意図的に沈線が生じてしまっている。このような痕跡は爪形を刺突するような施文方法では生じにくく、むしろ後続する天神山式につながるような施文方法であるような印象を受ける。石山式から天神山式への変遷上にある資料と考えられる。なお、583～587、589～592は口縁部が残存する。すべて口唇上に平坦面を作出している。583・589～592は篦状工具による刺突と見られる。うち、583は刺突が浅く施文具は貝殻腹縁の可能性もある。590・591は篦をやや寝かして斜めに刺突している。584～587は口唇に刺突を加えていない。

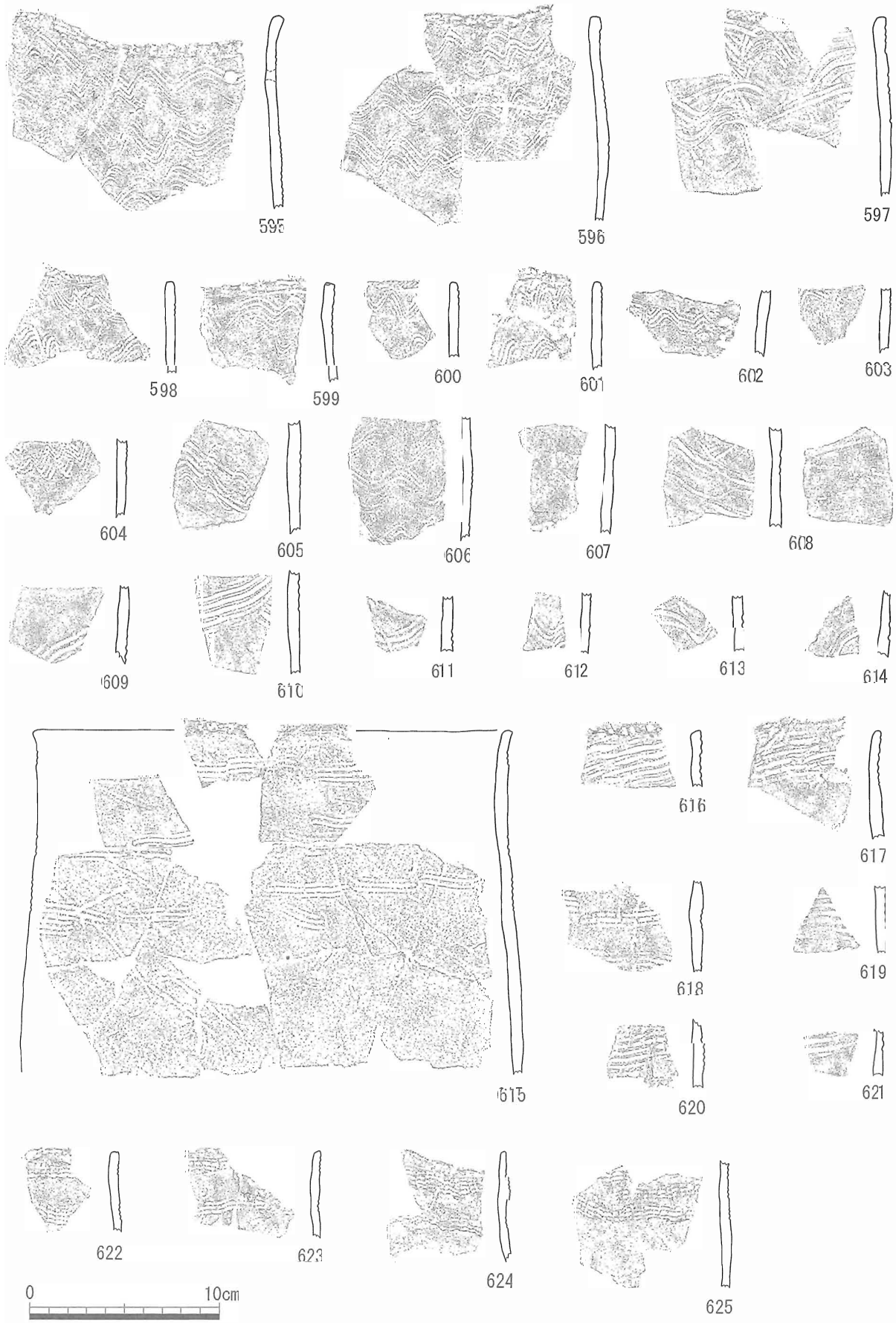
2種　天神山式土器（第110図～第111図629）

天神山式土器と判断し得た破片は100点である。石山式と同様に、文様要素が明確なものがここに分類されているため、第3種に分類されている胴部をあわせると、当然出土破片数は多くなる。文様は蛇行した貝殻条痕文で波状（山形）文を施している。パターンとしては、蛇行が頻繁で波状が明確なものと、蛇行があまり見られず条痕が横走するもの、条痕を口唇から斜位に波状に施すものなどがある。595～614は蛇行が頻繁で波状が明確なものである。天神山式の特徴である波状文が多段にわたっている。一筆書きのような連続的な蛇行により波状文が現れるが、597のように、波状文同士が重なり合うものも見られる。608～614はそのタイプであると思われる。595～601は口縁部が残存する。601を除いた全てが口唇上に平坦面を作出したうえに、貝殻腹縁を刺突している。601は貝殻腹縁による刺突はあるものの、口唇に目立った成形は見られない。615～625は貝殻条痕文が横走するものである。先に報告した608～614もここに含まれる可能性を持つものがある。615は比較的大きく接合した個体である。条痕を口縁に平行するように横走させている。地文には右下がりの条痕が施されている。口唇は平坦面を作出した後に、貝殻腹縁で刺突がなされている。推定復元値は、口径25.0cm、胴部最大径は26.6cmである。残存高は18.2cm、器厚は0.6cmであった。616も口唇上面に平坦面が作出され、その後に篦状工具で刺突がなされている。617も口縁部だが、口唇への装飾は見られない。622～625は条痕を若干押し引いているものである。第Ⅲ群A類3種としたものにも、同様の施文手法をとるものがある。基本的には条痕文横走のパターンであるが、押し引くことにより、波状をイメージしたものであると思われる。口縁部残存の622・623ともに口唇上面には平坦面が作出され、622には貝殻腹縁の刺突がある。

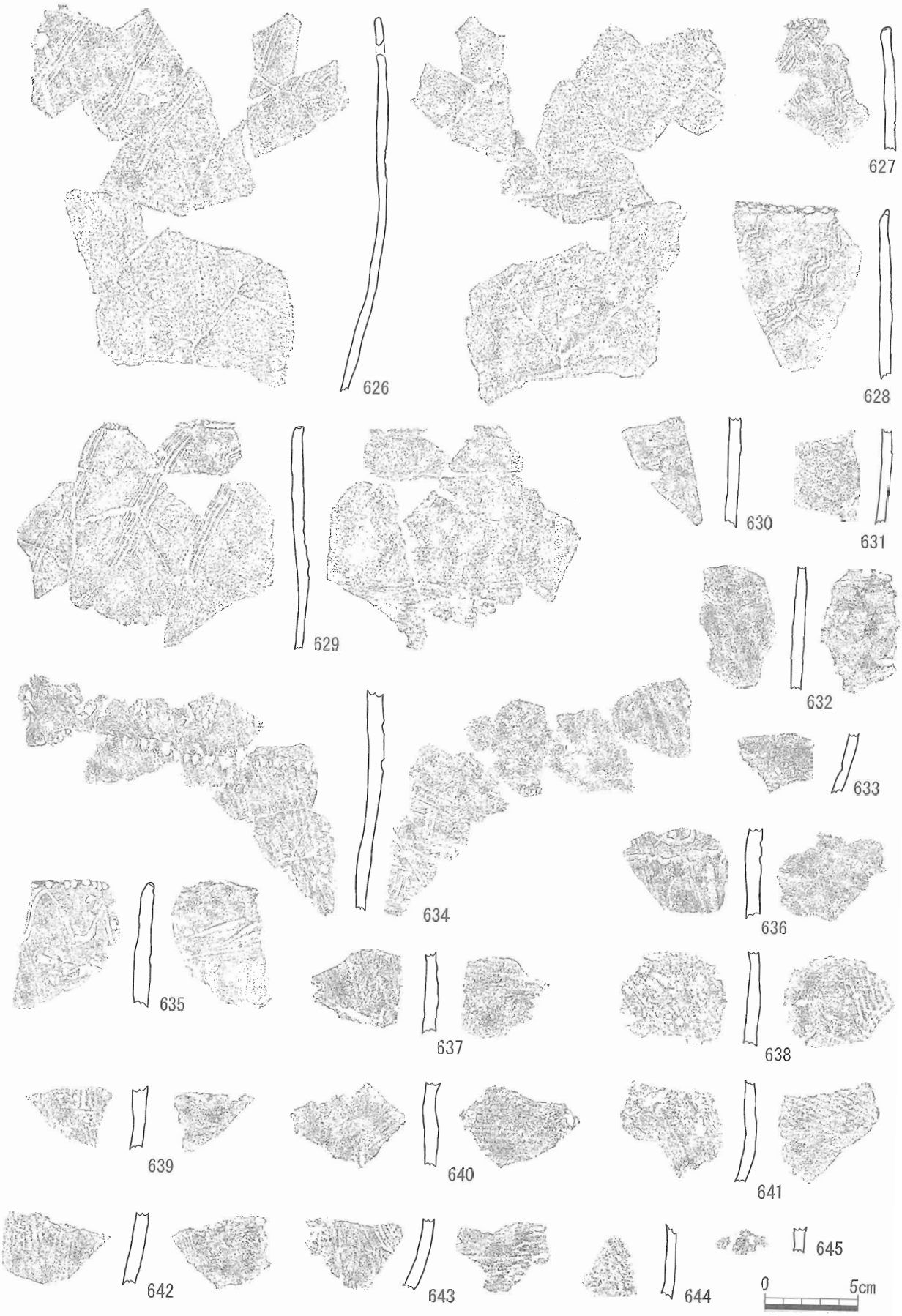
626～629は条痕を口唇から斜位に波状に施すものである。628を除いて、口唇上に平坦面が作出される。626・627は貝殻腹縁による刺突、628・629は棒状工具による刺突が見られる。

3種　早期末葉東海系無文胴部（第111図630～633）

石山式と天神山式の無文胴部374点の出土をまとめた。一部には、やや器壁が厚いものも含まれる。あくまでも可能性にとどまるが、石山式に先行する土器の無文部が含まれている可能性もある。詳細は第7章総括末尾の第169図を御参照されたい。総じて繊維の含有量は少なく、薄く硬質なものが多い。630・631・633は遺構からの出土である。


595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
0
10cm

第110図　縄文土器(7)



第111図　縄文土器(28)

Ｃ類　石山式併行土器（第111図634～645）

石山式に併行すると思われる土器である。分布は、打越式や石山式・天神山式の分布範囲と重なる（第81図）。文様要素は石山式に類似するが、器壁が0.8㎜～0.9㎜程度と厚く、器面が黒褐色または灰褐色のものである。分類は、口縁部が残存する634・635を中心に据え、それと似た特徴を持つ破片を一括抽出した。抽出数は破片にして38点にのぼった。中にはここに分類することに抵抗を感じるものもあるが、あえてここに分類しておく。出土は調査区東側の丘陵域に集中する。

634は篦状または半截竹管状工具によると見られる押引文が見られる。また、同様の施文方法を用いて押引列の上位にも施文を施している。上部は破損し、一部しか残存していないため判然としないが、山形文のような施文がなされていたと推測される。内面には調整のための条痕が施される。635は口縁部が残存する。口唇には棒状工具による刺突が見られるが、あるいは器面の施文に使用した半截竹管状工具によるものかもしれない。634と同様に、口縁部の文様帯には山形文が施文されるが、634の押引文に加えて浅い沈線による施文も見られる。636は口縁部付近の破片である。地文に斜位の条痕が施され、破片上半には押引列が施されるが、634と比較すると押引は浅く狭い。破片上端には635にあるものと同様の沈線が施されている。637～645は胴部の破片である。うち、637・644・645は他に分類すべきものである可能性があるが、胎土や内面の様子などから判断しここに掲載した。総じて内外面に条痕が見られる。

第Ⅳ群　前期前葉～後葉の土器（第112図）

Ａ類　上ノ坊式土器（第112図646～648）

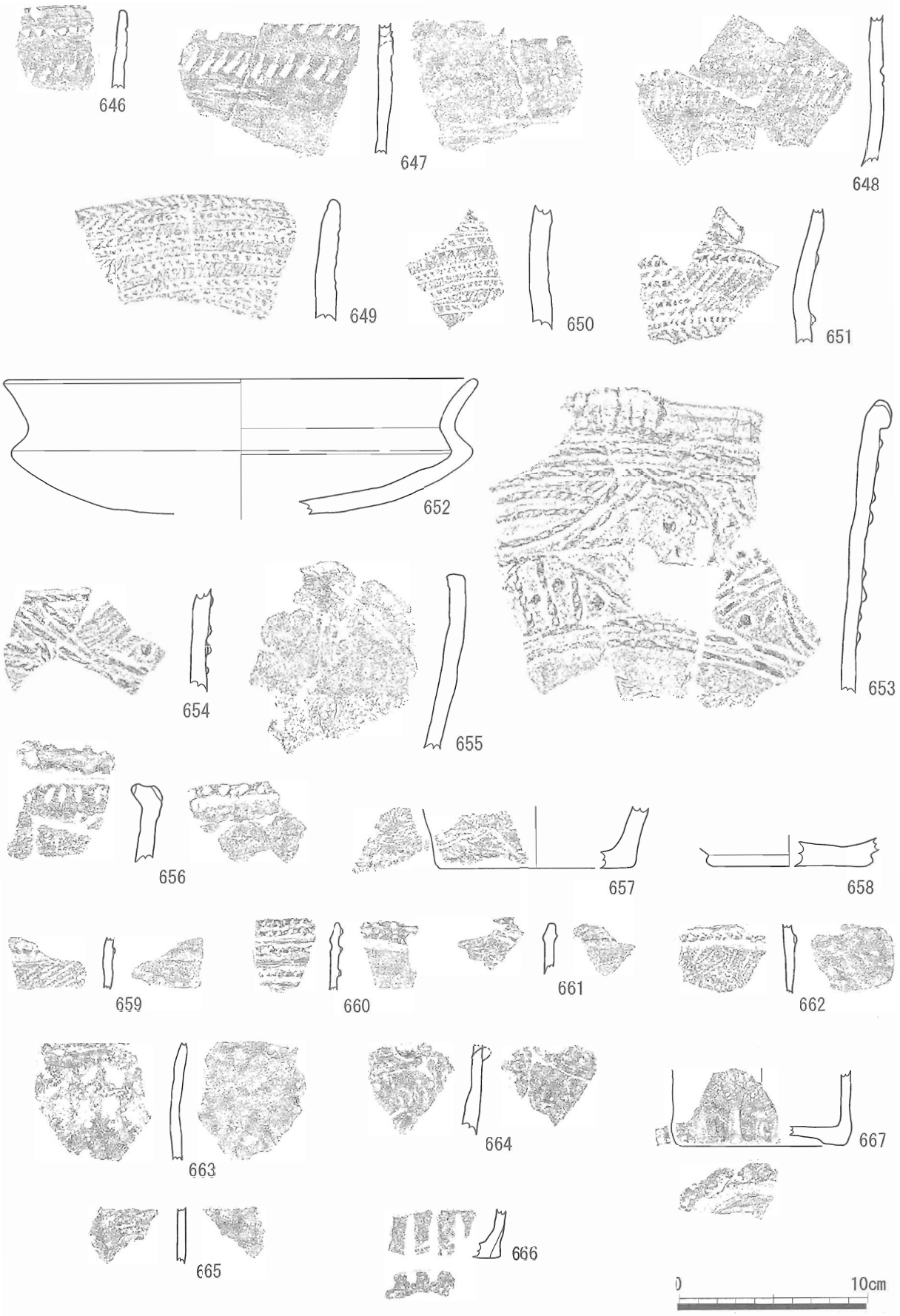
上ノ坊式土器は、調査区中央谷部で検出されている（第83図）。646は口縁部が残存する。三角形をなす刺突の下位に横位の刺突列を形成している。刺突列は竹管状工具によるとみられる左下がりの刺突の繰り返しによる。647・648にも同様の文様が見られる。648は天地の判断が難しかったが、刺突列の上位にある三角形の刺突が646と酷似していることから、この位置を正位置とした。

Ｂ類　諸磯式土器（第112図649～658）

諸磯式土器は調査区西側の丘陵部と、調査区中央谷部から出土している（第83図）。両地域は60メートル以上の距離がある。文様要素などから１種諸磯ｂ式と２種諸磯ｃ式とに分類したが、判断ができなかったものは３種の諸磯式不明土器とした。

１種　諸磯ｂ式土器（第112図649～652）

諸磯ｂ式土器としたもののうち、649～652を掲載した。649・650は同一個体と思われるものである。半截竹管状工具により平行沈線を施し、同様の工具で爪形文を加えている。651は浮線文である。浮線文上には竹管による刺突が加えられる。磨耗しているため十分な観察はできないが、縄文を地文としている。652は浅鉢であると思われる。有孔鍔付土器の一部である可能性も考えたがその器形をイメージすると、肩が上下に大きく蛇行することになるため、ここでは図のような位置を正位置として報告した。口縁は1/56程度、頸部～胴部は1/4程度の残存であると思われる。胴部の最大径24.6㎝、器厚は1.0㎝である。全くの無文であり、ところどころに擦痕が見られるのみであるが、胎土は他の諸磯式土器と同様である。



第112図　縄文土器(29)

２種　諸磯ｃ式土器（第112図653・654）

653・654は諸磯ｃ式と判断した同一個体である。651同様に浮線文であるが、口縁部には棒状、文様帯にはボタン状の貼付文が見られる。地文はなでられたような跡があり、縄文や集合沈線は見られない。浮線の上には押圧が加えられている。

３種　諸磯式不明土器（第112図655～658）

諸磯式であると思われるが、詳細な型式判定が不能だったものをまとめた。655は平坦に成形された口唇が残存するが、胴部に欠けては無文である。656は口縁部が残存する。口唇は厚く、平坦面が設けられる。口唇端部には内外面それぞれに刻みが見られる。657・658は底部である。底径は657が10.0cm、658が8.0cmと推測される。器厚は657が0.9cm、658が1.1cmである。

Ｃ類　北白川下層式土器（第112図659～667）

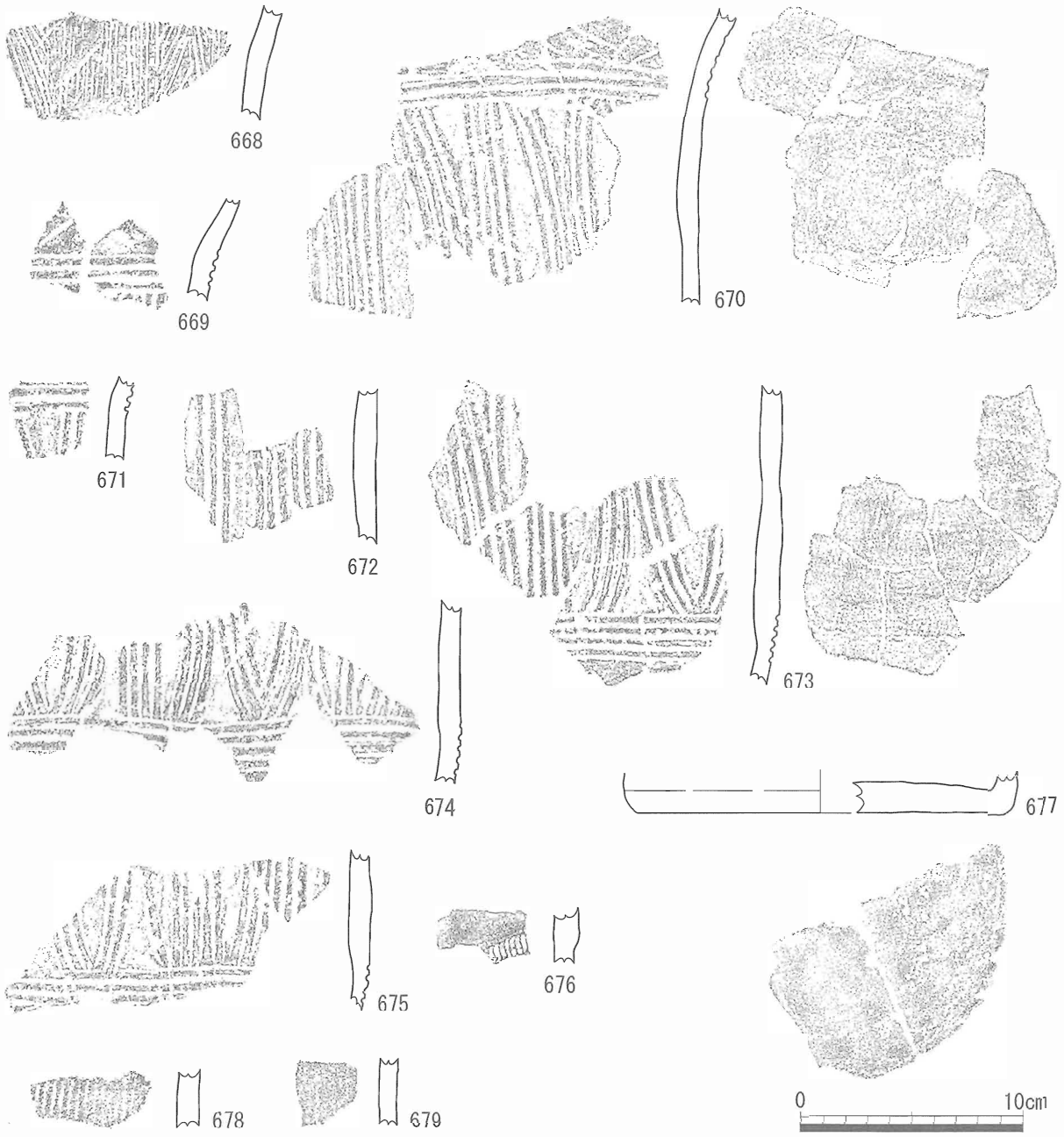
北白川下層式は調査区中央谷部でのみ検出された（第83図）。併行関係にある諸磯式土器は２地点に分かれて出土しているが、本類に伴うのは諸磯ｂ式とした浮線文土器651である。出土した本類の土器は北白川下層Ⅱｃ式～Ⅲ式に相当すると思われ、編年上も妥当であると考えられる。

659～662は浮線を有するものである。浮線にはすべて刺突が加えられる。659は地文に縄文が残るが、磨耗が激しく、原体は不明である。Ⅱｃ式に相当すると思われる。660は口縁部が残存し、３段にわたる浮線が残る。661も口縁部である。660・661は口唇内面を平坦に成形しており、内面端部に刺突が見られる。662は浮線上への刺突が、浮線からはみ出すようになされている。Ⅲ式段階のものであると推測される。663は口縁部が残るが、剥落が非常に激しく、詳細は不明である。内面は丁寧になでられており、刺突等は見られない。664は破片中央上端の一部分のみが外反している。内面から指で押したような印象を受けるが、破損しており、詳細は不明である。665も無文の小破片である。666・667は底部である。底部の押圧は666が深く、667は浅い。667の底部分はやや上げ底になっている。底径は推測で8.7cm、器厚は0.6cm～1.0cmである。上げ底部分が薄い。

第Ⅴ群　前期末葉～中期の土器（第113図）

Ａ類　十三菩提式～五領ヶ台式土器（第113図668～675）

五領ヶ台式を中心とする土器群である。調査区中央谷部でのみ検出された（第83図）。668は集合沈線の土器であるが、669以下のものよりも沈線が細かく、十三菩提式に位置づけられる可能性がある。同様の破片は別に２点出土している。669～675は五領ヶ台式土器である。すべて同一個体であると思われるが、残念ながら口縁部は残存しなかった。胴部の文様は垂直方向の沈線を基調とする。また、胴部と口縁部を区切るように多条の沈線が横走し、このパターンは胴部下半の底部付近でも見られる。沈線は胴部上半のもので４条、下半のものでは５条存在する。この上下の多条の沈線によって区切られた区画内に垂直方向の沈線が充填される。この垂直方向の沈線は、水平方向に走る沈線と接する部分で曲線的なモチーフを描く。そのため、この二方向の沈線群が接する部分に丁寧になでられた三角印刻が存在する。また、垂直方向の沈線が曲線的を描くことで生まれた胴部中位の無文部分も印刻となっている。669はこれらの破片の中でも上位にあったもので、右上がりの沈線が残る。同様に670にも沈線が残るが、670に残された沈線は左上がりのものである。671も胴部上半の破片であるが、672は胴部中位、673～675は胴部下半の破片である。



第113図　縄文土器(30)

B類　藤内式土器（第113図676・677）

勝坂式に併行すると思われる土器である。調査区東側丘陵域から２点のみの出土である（第83図）。676は胴部の破片である。キャタピラ文が残る。677は底部であるが目立った特徴は見られない。底径は16.4cmと推測される。器厚は1.3cmである。

C類　曾利式土器（第113図678・679）

曾利式土器も調査区東側丘陵域から２点の出土である（第83図）。678・679ともに小破片で文様構成も判然としないが、胎土の特徴等から他の時期の土器とは明確な相違が観察できる。678は沈線が施されている。679は無文である。

《参考文献》

荒井幹夫・小出輝夫他1978　『打越遺跡』　富士見市教育委員会
関野哲夫他1980　『長井崎遺跡発掘調査報告書』　沼津市教育委員会
荒井幹夫・小出輝夫他1983　『打越遺跡』　富士見市教育委員会
小野真一・鈴木恒治1983　「三島市打越遺跡出土の縄文早期土器」『駿豆考古』24　駿豆考古学会
神奈川考古同人会縄文研究グループ編1983　「シンポジウム　縄文時代早期末・前期初頭の諸問題土器資料集成図集」　『神奈川考古』17
神奈川考古同人会1984　「シンポジウム　縄文時代早期末・前期初頭の諸問題　記録・論考集」『神奈川考古』18
渋谷昌彦1984　「神之木台式土器の検討」『神奈川考古』18
谷口康浩1984　「「打越式土器」の再検討」『東京考古』４
戸田哲也1986　「縄文土器の型式学的研究と編年（前編）」『神奈川考古』22
中野国雄・袴田　稔1987　『上川遺跡』　日本道路公団東京第一管理局・静岡県教育委員会・裾野市教育委員会
町田勝則1987　『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報　Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
谷口康浩1989　「条痕文土器様式」『縄文土器大鑑　早・前期』１
伊東恒彦・長野敏康1989　「柳沢Ｂ遺跡」・「上黒岩遺跡」　『函南スプリングスゴルフ場用地内埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』　函南町教育委員会
関野哲夫・鈴木裕篤他1989　『清水柳北遺跡発掘調査報告書その１』　沼津市教育委員会
関野哲夫・鈴木裕篤他1990　『清水柳北遺跡発掘調査報告書その２』　沼津市教育委員会
新井正樹・大川敬夫・渡辺康弘1990　『冷川遺跡』　清水市教育委員会
裾野市史編纂専門委員会1992　『裾野市史』第１巻　資料編考古
縄文セミナーの会1994　『早期終末・前期初頭の諸様相』第７回縄文セミナー
笹原芳郎1994　『焼場遺跡（Ａ地点）』　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
松田光太郎1999　『臼久保遺跡』　かながわ考古学財団
早坂廣人2000　「埼玉県における鵜ヶ島台式～打越式の様相」『早期後半の再検討』　縄文セミナーの会
早坂廣人2000　「埼玉県における鵜ヶ島台式～打越式の様相」『早期後半の再検討ー記録集ー』　縄文セミナーの会
池谷信之2001　『葛原沢第Ⅳ（ａ・ｂ区）遺跡発掘調査報告書１』　沼津市教育委員会
福島宗人・中西　充・岩泉辰子他2003　『武蔵国分寺遺跡北方地区』　東京都埋蔵文化財センター
小崎　晋2003　「下沼部式の一考察」『山口大学考古学論集』　近藤喬一先生退官記念事業会
笹原千賀子2004　『上松沢平遺跡』　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
小崎　晋2004　「縄文早期東海系土器群と広域編年(1)」『伊勢湾考古』18　知多文化研究会
山下勝年・坂野俊哉他2005　『楠廻間貝塚』　知多市教育委員会
鈴木敏中2005　「乾草峠遺跡」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告』Ⅹ　三島市教育委員会
岩崎しのぶ2005　「第二東名№146地点遺跡の調査」静岡県考古学会東部例会資料
中山弘樹・藤波啓容他2006　『神明上遺跡』　有限会社アルケーリサーチ・日野市教育委員会
小崎　晋2006　「東海東部から見た打越式の問題点」『伊勢湾考古』20　知多文化研究会
岩崎しのぶ2006　「下ノ大窪遺跡の調査」静岡県埋蔵文化財調査研究所遺跡調査報告会資料

第43表　土器観察表

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第84図	1	1033 他	I-021	包含層	第Ⅰ群A類1種	井草Ⅱ式？	胴部	7.5YR6/4 10YR6/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	2	5743	I-022	包含層	第Ⅰ群A類1種	井草Ⅱ式？	胴部	7.5YR6/4 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	3	14475	I-022	包含層	第Ⅰ群A類1種	井草Ⅱ式？	胴部	7.5YR6/4 10YR6/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第84図	4	19538	不明	表採	第Ⅰ群A類1種	井草Ⅱ式？	胴部	7.5YR6/4 10YR6/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第84図	5	18809	G-009	1号集石	第Ⅰ群A類2種	夏島～ 稲荷台	口縁	2.5YR4/6 7.5YR3/3	密。径3㎜以下の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第84図	6	18815	G-010	包含層	第Ⅰ群A類2種	夏島～ 稲荷台	胴部	7.5YR3/4 7.5YR5/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜の粘土質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第84図	7	15139	H-021	包含層	第Ⅰ群B類	細久保～ 高山寺	胴部	5YR5/6 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、透明石英を含む。径1㎜の灰色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第84図	8	9868	I-023	包含層	第Ⅱ群A類	清水柳E類	胴部	5YR6/6 5YR5/6	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	9	19475	不明	表採	第Ⅱ群B類	野島式	口縁	5YR5/6 7.5YR4/3	密。径3㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第84図	10	6675	H-022	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	口縁	5YR5/4 5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、角閃石を含む。	有	良
第84図	11	6446	G-021	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	口縁	5YR5/4 5YR5/6	密。径4㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第84図	12	13854	H-022	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	口縁	5YR5/6 5YR5/4	密。径2㎜以下の灰色粒子、黒色粒子、赤色粒子、茶色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。	無	良
第84図	13	4787 他	H-022	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	胴部	5YR5/3 5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰白色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第84図	14	5410 他	H-020 G-022	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	胴部	5YR6/6 5YR5/4	密。径4㎜以下の灰色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	15	15579	G-019	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	胴部	5YR6/6 5YR5/4	密、径2㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第84図	16	1170	H-022	包含層	第Ⅱ群B類	野島式	胴部	7.5YR4/4 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	17	18372 他	H-011 H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第84図	18	18370	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	口縁	10YR4/3 10YR4/3	密。径2㎜の茶色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、角閃石を含む。径1㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第84図	19	18418	H-012	包含層	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR4/1 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。微細な雲母と黒色粒子を含む。	有	良
第84図	20	18360 他	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR6/6 10YR5/2	やや粗。径1㎜以下の白色粒子、黒色粒子、白色石英を含む。	有	良
第84図	21	18410 他	H-012	包含層	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR6/6 7.5YR6/6	密。径2㎜以下の白色粒子を含む。微細な石英粒子を含む。	有	良
第84図	22	18359 他	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR6/8 7.5YR6/6	やや粗。径1㎜以下の白色粒子を含む。	有	良
第84図	23	18380 他	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	5YR6/6 7.5YR5/4	やや粗。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。径1㎜以下の脆い白色粒子を少量含む。径3㎜の砂粒を含む。雲母(黒)を含む。	無	良
第84図	24	18373	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	口縁	5YR6/6 7.5YR6/6	やや粗。径2㎜以下の黒色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、脆い白色粒子を少量含む。白色石英、透明石英を少量含む。	有	良
第84図	25	18358	H-011	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR6/6 7.5YR6/6	やや粗。径2㎜以下の褐色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。白色石英、透明石英を少量含む。	有	やや不良
第84図	26	18086 他	H-012	包含層	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR5/6 7.5YR5/6	やや粗。径3㎜の赤色粒子を含む。微細な白色粒子を含む。	有	良
第84図	27	18361 他	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	10YR4/2 10YR4/2	粗。径1㎜以下の長石、黒色粒子、脆い白色粒子を少量含む。	有	良
第84図	28	18368 他	H-012	1号土器集中	第Ⅱ群C類1種	茅山 下層式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	やや粗。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の灰色粒子と黒色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石を少量含む。径1㎜以下の透明石英を含む。	有	やや不良
第85図	29	2316 他	G-021 H-022 H-023	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁～胴部	7.5YR5/4 10YR6/4	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第85図	30	4743 他	H-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	10YR6/4	密。径4㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜の白色石英を含む。径1㎜の長石を含む。	有	良
第85図	31	4065	G-021	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	7.5YR4/2 10YR6/4	密。径2㎜の白色石英を含む。径2㎜以下の長石を含む。	有	良
第85図	32	16927	H-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	10YR6/4 10YR6/4	密。径1㎜の白色砂粒を含む。径1㎜の白色長石を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第85図	33	11648	H-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	7.5YR5/3 7.5YR5/3	密。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第85図	34	17204	H-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	10YR6/4 10YR6/4	密。径2㎜の白色石英を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第85図	35	411	H-023	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	7.5YR7/6 10YR6/4	密。径1㎜の白色粒子を含む。径1㎜以下の白色石英、長石を含む。	有	良
第85図	36	11362	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	10YR6/4 10YR6/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	有	良
第85図	37	3458 他	G-022 H-022 H-023	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	7.5YR6/6 10YR6/4	密。径5㎜以下の白色砂粒を含む。径3㎜の白色粒子を含む。(硬い)径2㎜以下の白色石英を含む。径2㎜以下の白色砂粒を含む。	有	良
第85図	38	9302	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	10YR6/4 10YR6/4	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第85図	39	7990 他	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径3㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の白色石英を含む。微細な雲母を含む。	有	良
第85図	40	12408	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	7.5YR4/2 5YR5/6	密。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜の白色石英を含む。径1㎜以下の金色雲母を含む。	有	良
第85図	41	9511	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	口縁	7.5YR5/6 10YR4/1	密。径1㎜以下の透明石英、白色石英を含む。径1㎜の金色雲母を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第85図	42	10389	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	7.5YR5/6 5YR5/6	密。径1㎜以下の透明石英を含む。微細な金色雲母を含む。	有	良
第85図	43	8359	G-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	7.5YR5/6 5YR5/6	密。微細な白色石英、金色の雲母を含む。	有	良
第85図	44	1829	G-021	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	胴部	10YR4/3 7.5YR5/4	密。微細な白色石英と雲母を含む。	有	良
第85図	45	10337	H-022	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	底部	7.5YR3/3 10YR7/3	密。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。	有	良
第85図	46	13684	H-023	包含層	第Ⅱ群C類2種	茅山 上層式	底部	7.5YR5/3 10YR6/4	密。径1ｍ以下の長石を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第86図	47	8906	G-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径3㎜の脆い白色粒子を含む。径1ｍ以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第86図	48	2920 他	E-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁～胴部	5YR4/6 5YR4/8	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。輝石を含む。径2～6㎜の脆い灰色粒子を含む。	無	良
第86図	49	1933 他	E-023 G-023 F-022 I-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁～胴部	2.5YR5/8 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。砂粒を含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	有	良
第86図	50	3765 他	G-021 F-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR4/8	密。径1～2㎜の長石、砂粒を少量含む。径3㎜の脆い灰色粒子を含む。	無	良
第86図	51	17925	G-022	1号竪穴状土坑	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	5YR3/3 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の透明石英を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石を含む。	有	良
第86図	52	2614 他	I-023 H-023	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	5YR4/6 5YR3/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径2㎜の灰白色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。径4㎜の茶色粒子を含む。	有	良
第86図	53	7617 他	I-024	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁～胴部	5YR5/6 5YR5/8	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を少量含む。径1～2㎜の脆い灰色粒子を少量含む。	有	良
第86図	54	10076	H-023	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	5YR3/6 5YR4/8	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を少量含む。微細なガラス質を微量含む。	無	良
第86図	55	18772	E-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	7.5YR4/4 10YR3/2	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を少量含む。	無	良
第86図	56	8881 他	E-023	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	7.5YR4/4 5YR4/4	密。1㎜以下の長石、砂粒を含む。輝石を少量含む。径1～4㎜の脆い白色粒子、2㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第86図	57	12032	G-022	包含層	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁	5YR5/6 5YR4/6	粗。径1㎜以下の長石を多く含む。透明石英を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第86図	58	13459 他	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅱ群A類1種a	打越式	口縁付近	5YR4/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の石英を微量含む。	有	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第86図	59	1922 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種a	打越式	口縁？	2.5YR4/6 5YR4/8	密。径2～4㎜の軟質の白色粒子を含む。径1～2㎜の長石を含む。	有	良
第86図	60	13593	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種a	打越式	口縁	5YR4/8 7.5YR5/4	粗。径2㎜以下の長石を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。透明石英を少量含む。2～3㎜の軟質の灰色粒子を含む。	有	良
第86図	61	10725	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種a	打越式	把手	2.5YR5/8 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、砂粒を少量含む。	有	良
第86図	62	4937	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種a	打越式	把手	5YR4/8 7.5YR3/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒を少量含む。	有	良
第86図	63	8120	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種a	打越式	口縁	10YR5/3 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、砂粒を少量含む。	有	良
第86図	64	19470	不明	表採	第Ⅲ群A類1種a	打越式	口縁	5YR3/1 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒を少量含む。径1～2㎜の脆い白色粒子を少量含む。	有	無
第87図	65	4375 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	5YR4/6 7.5YR4/4	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。径2～4㎜の軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英、輝石を含む。	有	良
第87図	66	4511	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/3 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、灰色粒子を含む。	無	良
第87図	67	4182	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第87図	68	9850	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第87図	69	5880 他	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/3 5YR4/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第87図	70	1100	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/4 7.5YR4/6	密。径1㎜以下の長石を少量含む。径1㎜の黒色粒子(鉱石？)を含む。径1～4㎜の灰色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第87図	71	7218	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第87図	72	13885 他	G-023 I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/3 7.5YR4/3	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の赤色粒子、白色透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子、角閃石を含む。	有	良
第87図	73	4655	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR2/2 2.5YR3/2	やや粗。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。輝石、角閃石を含む。	有	やや不良
第87図	74	17098	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、輝石を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第87図	75	17272	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/4 5YR4/6	径2㎜以下の長石を少量含む。輝石を含む。	有	良
第87図	76	17273	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 7.5YR4/3	やや粗。径1㎜の白色粒子(長石)を少量含む。輝石、透明石英を含む。	有	やや軟質
第87図	77	2536	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 10YR4/2	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第87図	78	1151	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 10YR5/6	密。径1㎜の長石を含む。角閃石を含む。	有	良
第87図	79	3641	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/4 7.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、透明石英を含む。	無	良
第87図	80	6636 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径5㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を少量含む。	有	良
第87図	81	4470	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部 (補修孔あり)	7.5YR4/2 7.5YR5/4	密。径2㎜の長石、白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子を含む。輝石、雲母(黒)を含む。	有	良
第87図	82	13936	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/8	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、輝石を含む。	有	良
第87図	83	8712	E-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 2.5YR5/8	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第88図	84	13362	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR3/4	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	やや不良
第88図	85	7723 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR3/2 7.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。輝石を少量含む。	無	良
第88図	86	5748	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/4 5YR5/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、輝石を含む。径1㎜以下の赤色粒子、透明石英を含む。微細な角閃石を含む。	有	良
第88図	87	3325	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/8 10YR5/6	密。径4㎜の灰白色小礫を含む。径2㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第88図	88	13884 他	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/4 5YR3/3	密。径3㎜の赤色粒子を含む。径2㎜の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。輝石を含む。	有	良
第88図	89	7675 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 5YR4/2	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、砂粒を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。径1～5㎜の脆い白色粒子を含む。輝石を含む。	無	良
第88図	90	15412 他	H-022	13号集石 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/4 5YR4/3	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を少量含む。径1～2㎜の軟質の白色粒子、脆い灰色粒子を含む。輝石を少量含む。	無	良
第88図	91	9880	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 5YR4/2	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子、砂粒を含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第88図	92	4188	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 10YR4/3	密。径2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の長石、灰色粒子を含む。径3㎜の輝石を含む。石英を含む。	有	良
第89図	93	1698 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR4/2	やや粗。径2㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下～2㎜の長石を多量に含む。微細な角閃石、輝石、透明石英を含む。	有	やや不良
第89図	94	2140	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/3 7.5YR6/6	やや密。径3㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を多量に含む。透明石英、輝石を含む。黒雲母を含む。角閃石を多量に含む。	有	良
第89図	95	3344	G-027	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/4	密。径3㎜以下の軟質の灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子、灰色粒子を含む。	有	良
第89図	96	1356 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 5YR4/6	密。径7㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。	有	良
第89図	97	3331 他	G-021	3号土器集中 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	2.5YR4/8 2.5YR4/8	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、白色石英を少量含む。5㎜の脆い白色粒子を含む。	有	良
第89図	98	362 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。径1～2㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。	有	良
第89図	99	1065 他	E-022 E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第89図	100	13122 他	H-023	4号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径1㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子、赤色粒子、黒色粒子を含む。	有	良
第89図	101	248-1 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/3 7.5YR5/6	密。径3㎜以下の茶色粒子を含む。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜の灰色粒子を少量含む。	無	良
第89図	102	9982 他	H-023 H-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/4 7.5YR4/4	やや粗。径1㎜の砂粒を含む。径1～2㎜の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第89図	103	414 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/3	密。径1㎜以下の長石、砂粒を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径1～3㎜の脆い灰色粒子、軟質の白色粒子を多く含む。	有	良
第89図	104	15408 他	H-022	13号集石 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 2.5YR4/2	密。径1㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径3㎜以下の脆い灰色粒子を含む。	有	良
第90図	105	68 他	G-021 G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色石英、黒色粒子を含む。透明石英、輝石、角閃石を含む。	有	良
第90図	106	5508 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR2/2 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第90図	107	16547 他	H-022	5号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部上方	5YR4/6 2.5YR5/6	やや粗。径1㎜以下の白色粒子、砂粒を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を少量含む。2㎜の軟質の白色粒子を含む。	有	良
第90図	108	8907	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR4/4	やや粗。径3㎜以下の白色粒子(長石)を多く含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第90図	109	9874	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR3/3	密。径3㎜の粘土質の白茶色粒子を含む。径2㎜の茶色粒子を含む。径1～3㎜の黒色粒子を含む。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第90図	110	12207	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR6/6 2.5YR4/2	密。径1㎜の白色粒子、灰色粒子を含む。輝石を含む。切れ口が摩耗。	無	良
第90図	111	8874	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/6 7.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第90図	112	4009	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR2/2 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、脆い灰色粒子を含む。	有	良
第90図	113	910 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/8 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細～1㎜の透明石英を含む。径4㎜の小石を含む。	有	良
第90図	114	4995	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/2 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第90図	115	14651	F-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/6 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子を含む。	有	良
第90図	116	13327	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子、黒色粒子を含む。	無	やや不良
第90図	117	1956 他	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/1 7.5YR2/1	密。径1㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。透明石英を含む。	無	良
第90図	118	7296 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良

図版№	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第90図	119	7921	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/1	密。径1㎜の白色粒子(長石)を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、雲母？を含む。	無	良
第90図	120	10808	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/3 5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第90図	121	7817	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜の赤色粒子、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細～1㎜の透明石英を含む。雲石を含む。	無	良
第90図	122	9332	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/8 5YR5/8	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質な赤色粒子を含む。雲石を含む。	有	良
第90図	123	392	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 7.5YR5/6	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	無	良
第90図	124	3722	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜の茶色粒子を含む。	有	良
第90図	125	13062	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR2/3 2.5YR3/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。1～2㎜の脆い灰色粒子を含む。	有	良
第90図	126	14158	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第90図	127	18762	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR5/8	密。径2㎜以下の長石を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第90図	128	4475	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/6 10YR5/3	密。径2㎜以下の長石、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第90図	129	14617	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/2 5YR3/3	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	無	良
第90図	130	9793	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR3/6 5YR3/6	密。径2㎜以下の白色石英、黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、角閃石、灰色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第90図	131	11006	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/4 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第90図	132	19500	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/6 7.5YR6/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第90図	133	1016 他	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 7.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜の脆い灰色粒子を含む。	有	良
第90図	134	8218 他	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/8 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細～2㎜の透明石英を含む。角閃石、輝石、砂粒を含む。	有	良
第90図	135	2822	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/1 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第90図	136	13115	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR5/8	密。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の輝石を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	有	良
第90図	137	3366	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石を含む。径3㎜の赤色粒子を含む。輝石を含む。	有	良
第90図	138	6126 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/4 7.5YR6/6	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径1㎜の白色石英を含む。	有	良
第90図	139	435 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/4 2.5YR4/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。径1～2㎜の黒色粒子を含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。ガラス質の微細な粒子を少量含む。	有	良
第90図	140	16246	H-022	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/4 5YR5/4	密。径1㎜の砂粒、径1～3㎜の長石、径3㎜の粘土質の小礫を含む。径1～2㎜の赤色粒子、径2㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の雲母を少し含む。	有	良
第90図	141	12388	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 5YR4/6	密。径2㎜の白色粒子を含む。径3㎜の軟質な白色粒子を含む。輝石、角閃石を含む。	無	良
第91図	142	2481 他	G-022	2号陥穴状土坑 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 10YR4/2	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の透明石英、輝石を含む。径3㎜の灰白色の粒子を含む。	有	良
第91図	143	7920	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/1 5YR4/4	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下のやや硬い白色粒子、軟質の白色粒子、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第91図	144	3558	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/3 5YR4/6	密。径2㎜のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。径1～2㎜のやや軟質の白色粒子を含む。微細の角閃石を少量含む。	無	良
第91図	145	9966	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/4 5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。径2㎜の灰色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第91図	146	12026	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	やや粗。径2㎜以下の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第91図	147	14280	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/1 5YR3/6	密。径2㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第91図	148	3090 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、やや硬い白色粒子を含む。微細の透明石英を少量含む。	無	良
第91図	149	11665	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/8 2.5YR4/6	密。径3㎜以下の長石、灰色粒子を含む。径1㎜の軟質白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第91図	150	9236	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/4 5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第91図	151	5805	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/4 5YR4/3	密。径1~5㎜の白色粒子(長石)を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径3㎜の脆い黒色粒子を含む。径2㎜の茶色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英、透明石英、角閃石、黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第91図	152	4013	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/4 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。輝石、角閃石を含む。	有	良
第91図	153	5972	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 7.5YR4/2	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径2㎜の軟質の白色粒子を含む。角閃石、輝石、白色石英を含む。白くキラキラ光る粒子を含む。	有	良
第91図	154	6196	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第91図	155	3892	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第91図	156	3018	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第91図	157	17861	G-021	9号陥穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	有	良
第91図	158	15397	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	10YR2/1 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子を微量に含む。	有	良
第91図	159	16714	H-023	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR4/2 7.5YR4/2	密。径1㎜の砂粒、径1～2㎜の長石を含む。径1～4㎜の赤色粒子、径1～2㎜の黒色粒子を含む。径3㎜の灰白色小礫を含む。	無	良
第91図	160	15980	H-023	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 5YR4/3	密。径1㎜の砂粒、径1～2㎜の長石を含む。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径2㎜の灰白色粒子を含む。	有	良
第91図	161	19851	不明	5号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 10YR4/3	密。径1㎜以下の白色粒子を含む。白色岩片を含む。	有	良
第91図	162	8904	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR2/2 2.5YR4/6	密。径3㎜以下の赤色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。透明石英を含む。	無	やや軟質
第91図	163	5321	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第91図	164	1714 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	有	良
第91図	165	7045	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR5/6	密。径2～4㎜の灰色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第91図	166	13764	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR5/6	やや粗。径1～2㎜の長石を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	有	良
第91図	167	11058 他	G-022 H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	10YR3/2 7.5YR5/6	密。径1㎜の赤色粒子、灰色粒子を含む。径1～2㎜の長石を含む。	有	良
第91図	168	1157 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	やや粗。径3㎜の灰色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。輝石を含む。金色の雲母(?)を含む。	有	良
第91図	169	6314 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/1 5YR4/6	密。径3㎜以下の赤色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。微細な透明石英を少量含む。	無	良
第91図	170	4952	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR2/2 5YR5/8	密。径2～4㎜の脆い灰白色粒子を含む。径1㎜の長石、砂粒を含む。角閃石を含む。	有	良
第92図	171	17119 他	H-023	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 2.5YR5/6	密。径1～4㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第92図	172	13531	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR4/3 5YR3/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第92図	173	1290 他	E-022 F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/4 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜の茶色粒子を含む。径4㎜の灰白色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第92図	174	4600	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR5/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第93図	175	6707 他	G-022	2号土器集中 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	5YR5/6 7.5YR5/3	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を少量含む。	有	良
第93図	176	15024 他	H-022	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径1㎜の砂粒、白色石英を含む。径1～3㎜の長石を多く含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第93図	177	15707 他	H-022	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/4 7.5YR4/2	密。径3㎜以下の灰色の小礫を含む。径1～3㎜の黒色粒子を含む。径1～2㎜の長石を含む。径1㎜以下の砂粒を含む。径1㎜以下の雲母を少量含む。	有	良
第93図	178	16249	H-022	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/1 7.5YR3/4	やや粗。径1㎜の砂粒を含む。径1～2㎜の長石を多く含む。径1㎜以下の雲母(黒、白)を多く含む。径2㎜の雲母(白)を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第93図	179	13103	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 7.5YR4/6	密。径7㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石、緯石を含む。	有	良
第93図	180	4163 他	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	5YR4/8 5YR4/8	密。径4㎜以下の灰白色の小礫を含む。径2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。緯石を含む。繊維痕あり。	有	良
第94図	181	16201 他	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁～胴部	2.5YR3/6 2.5YR4/6	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	有	良
第94図	182	6715 他	G-022	2号土器集中 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石をわずかに含む。微細透明石英を含む。砂粒を含む。	有	良
第94図	183	19871 他	G-023	1号竪穴状遺構 ＋表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/2 5YR3/3	密。径1㎜以下～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第94図	184	634 他	F-022 G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 5YR3/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、緯石を含む。微細な角閃石を含む。径3㎜の茶色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第95図	185	5144 他	I-022 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/8 5YR5/8	密。径1㎜の赤色粒子、長石、緯石を含む。長さ6㎜の長方形の黒色粒子を含む。	有	良
第95図	186	14732 他	E-021 表採	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 5YR4/8	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の緯石、長石を含む。	有	良
第95図	187	9486	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。緯石を含む。	有	良
第95図	188	5915	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/1 7.5YR3/3	密。径1～2㎜の長石を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。微細な黒色ガラス質を多く含む。(角閃石か？)	有	良
第95図	189	12159 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR3/4	密。径3㎜以下の赤色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜の長石を含む。	有	良
第95図	190	7974	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 2.5YR4/2	密。径1㎜の長石、灰色粒子を含む。透明石英を含む。	有	良
第95図	191	10507	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 5YR4/8	密。径3㎜の脆い白色粒子を含む。径2㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。緯石を含む。	有	良
第95図	192	3802	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/2 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜の灰色粒子を含む。	有	良
第95図	193	2556	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/2 5YR5/6	密。径1㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、赤色粒子を含む。	有	良
第95図	194	226	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	10YR3/1 10YR4/1	密。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第95図	195	7283 他	G-021 G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子、黒色粒子、緯石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第95図	196	3336 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR4/6	密。径1～3㎜の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径2～4㎜の軟質の白色粒子を多く含む。径2～3㎜の脆い灰色粒子を含む。	有	良
第95図	197	4206 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/5 2.5YR4/5	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を少量含む。2～3㎜の灰白色粒子を含む。	有	良
第95図	198	1866 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径1㎜以下の長石を含む。径1～3㎜の脆い白色粒子を含む。緯石を含む。	有	良
第95図	199	4004 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/3 5YR4/4	密。径2㎜の茶色粒子を含む。径1～2㎜の白色粒子(長石)、赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第95図	200	691 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/4 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第95図	201	6195 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/8 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の軟質な白色粒子、長石、脆い灰色粒子を含む。径4㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第95図	202	9335	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、灰色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第95図	203	12897	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/8 7.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子、灰色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第95図	204	8739	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR3/3	密。径4㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、透明石英を含む。	無	良
第95図	205	3793	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子、軟質の灰色粒子、長石を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子、緯石を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第95図	206	11029	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/4	密。径4㎜以下の白色透明石英を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第95図	207	19873	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、緯石を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第95図	208	3582	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第95図	209	6724	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/8 5YR5/6	密。径4㎜の白色粒子を含む。径2㎜の白色粒子を含む。角閃石を含む。	有	良
第95図	210	1828	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR3/6 2.5YR3/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第95図	211	5534	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、緯石を含む。	有	良
第95図	212	8756	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/2 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を多く含む。緯石を少量含む。	無	良
第95図	213	8688	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 5YR4/3	密。径4㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な角閃石、微細透明石英を含む。	無	良
第95図	214	12295	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第95図	215	3559	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/6	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第95図	216	13268	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR4/3 7.5YR3/4	密。径4㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。透明石英、角閃石、緯石を含む。	有	良
第95図	217	12125	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第95図	218	4304	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 7.5YR3/3	密。径3㎜の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	有	良
第95図	219	14361	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第95図	220	4067	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第95図	221	1984	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角閃石を多く含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第95図	222	5193	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/3	密。径2㎜の白色透明石英を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第96図	223	6673	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細な角閃石を含む。	有	良
第96図	224	3960	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR4/8	密。2～3㎜の脆い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1～3㎜の赤色粒子を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第96図	225	4195	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/6 5YR3/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1～5㎜の軟質の白色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第96図	226	2494	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、透明石英を含む。	無	良
第96図	227	14758	D-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜の脆い白色粒子を含む。径1㎜の白色粒子を含む。	有	良
第96図	228	4668	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/3 7.5YR5/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第96図	229	13052	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/4	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を多く含む。。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第96図	230	7222	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR3/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。	無	良
第96図	231	1413	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第96図	232	9367	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR3/4 2.5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜の灰白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第96図	233	13001	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/6 7.5YR6/6	密。径1㎜の灰白色粒子を含む。	有	良
第96図	234	5114	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第96図	235	14838	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 10YR4/2	密。径1㎜の白色粒子を含む。	有	良
第96図	236	14730	E-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第96図	237	1555	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/8	密。径2㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。	有	良
第96図	238	8655	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。角閃石を含む。微細の透明石英を含む。	無	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺構	分類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎土	繊維含有	焼成
第96図	239	235-1	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/8	密。径2㎜以下の灰色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第96図	240	11557	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 5YR5/4	密。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。	有	良
第96図	241	1202	F-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/3 5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第96図	242	437	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第96図	243	14872	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR3/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜の透明石英、白色透明石英を含む。径1㎜以下の角閃石、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	244	5025 他	F-022 I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/3 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、灰白色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第96図	245	2312	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR3/2	密。径2～6㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石を多く含む。径3㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を少量含む。	無	良
第96図	246	5210	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/3 5YR3/4	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	247	12768 他	H-022 H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/4 10YR4/2	密。径3㎜の白色粒子含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第96図	248	7370 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/4 2.5YR4/2	密。径3㎜の白色の小礫を含む。径1㎜以下の長石、蝉石を多く含む。径4㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第96図	249	3419 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜の白色小礫を含む。長石、角せん石、蝉石、雲母を含む。	有	良
第96図	250	17199	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR3/2 2.5YR4/6	密。径2㎜の白色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第96図	251	681 他	G-022 H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/4 5YR4/6	やや粗。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子を含む。蝉石を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第96図	252	1428 他	I-023 I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/8 2.5YR4/8	密。径4㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径1～3㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の軟質の灰色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	253	10011	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第96図	254	7868 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/4 10YR6/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)、灰白色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第96図	255	10006 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 2.5YR4/6	密。径5㎜の白色粒子を含む。径2～5㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の透明石英を含む。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第96図	256	354	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR3/3 2.5YR3/2	密。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第96図	257	6167	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。	有	やや不良
第96図	258	3072	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/3 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の角閃石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	259	8242	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/4 5YR3/1	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。	有	良
第96図	260	1061	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR2/1 2.5YR3/6	密。径3㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	261	10428	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/3 5YR4/8	密。径2㎜以下の赤色粒子、径1㎜以下の長石、黒色粒子、軟質粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第96図	262	1172	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 7.5YR4/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第96図	263	15693	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/6	やや粗。径2～4㎜のの赤色粒子を含む。径1～2㎜の軟質の白色粒子を含む。白色石英、透明石英、蝉石を含む。径1㎜の長石を含む。	有	やや不良
第96図	264	4710	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/6	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、白色透明石英を含む。	有	良
第96図	265	4179	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/6	密。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜のやや硬い白色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第96図	266	9860	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第96図	267	14040 他	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/3 10YR5/4	密。径1～2㎜の長石を含む。径1㎜の砂粒を含む。径1㎜の雲母(白)を少量含む。	有	良
第96図	268	15049	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	10YR3/2 10YR3/2	密。径1㎜以下の砂粒、径1㎜以下の長石を含む。径2㎜程の茶色い粒子を含む。径1㎜以下の雲母を少し含む。	有	良
第96図	269	15895	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	7.5YR3/1 7.5YR3/1	密。径1㎜の砂粒、長石を含む。径1㎜以下の雲母を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第96図	270	18452	G-013	8号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	10YR3/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を少量含む。	無	良
第97図	271	13916 他	H-022 H-023	4号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR5/6 2.5YR5/8	やや粗。径3㎜以下の赤色粒子を多く含む。径1～2㎜の透明石英を少量含む。径1㎜の砂粒を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	無	良
第97図	272	16186 他	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を少量含む。	有	良
第97図	273	220 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	10YR4/2 5YR3/1	やや粗。径2～4㎜の軟質の灰色粒子を含む。径2㎜の灰色粒子を含む。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の長石を含む。	有	やや軟質
第97図	274	4336	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/2 5YR4/6	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。	有	良
第97図	275	9375 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/8 10YR4/2	密。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜の灰色粒子を含む。角閃石、蝉石を含む。	有	良
第97図	276	14600	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、径3㎜以下の赤色粒子、径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第97図	277	14044 他	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/4 7.5YR4/1	密。2㎜以下の砂粒、長石を多くふくむ。径1㎜以下の雲母(黒)を少量含む。	有	良
第97図	278	15122 他	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 7.5YR3/1	密。径2mの灰白色小礫を含む。径1㎜の砂粒、長石をふくむ。径1㎜以下～1㎜の雲母(黒)をふくむ。	有	良
第97図	279	3678	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR3/2 10YR4/2	密。径3㎜以下の赤色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。角閃石を含む。	有	良
第97図	280	5850 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR5/6	密。径5㎜のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第97図	281	11672 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR6/6	やや粗。径6㎜以下の灰色小礫を含む。径2㎜以下の長石を含む。	有	良
第97図	282	1109	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/8	密。径3㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の長石を含む。蝉石、角閃石、石英を含む。	有	良
第97図	283	10454	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/8 5YR3/2	密。径4㎜の小石を含む。径2～3㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。径2㎜の脆い灰色粒子を含む。	有	良
第97図	284	12749	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR3/2 5YR5/6	密。径3㎜以下の長石を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第97図	285	9838	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/1 5YR4/6	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。透明石英を含む。	有	良
第97図	286	1203	F-021 表採	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/1 7.5YR5/4	やや粗。径2㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。蝉石を含む。	有	良
第97図	287	2249	F-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/6 10YR5/2	密。径2㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	有	良
第97図	288	13681	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	10YR4/2 5YR5/6	密。径2～3㎜の脆い白色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、長石を含む。	有	良
第97図	289	9781	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 7.5YR3/3	密。径3㎜の赤色粒子、長石を含む。径2㎜のサーモンピンク色の硬い粒子(チャートに酷似)を含む。雲石を含む。	有	良
第98図	290	6719 他	G-022	2号土器集中+包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/4 10YR4/2	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜の茶色小礫を含む。径1㎜以下の角閃石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第98図	291	3845 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR6/6 10YR4/2	密。径1～2㎜の軟質の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石を少量含む。角閃石を少量含む。	無	良
第98図	292	6705 他	G-022	2号土器集中+包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR6/6 5YR5/4	密。径1～2㎜の軟質の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の角閃石を少量含む。径1.5㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第98図	293	15625 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な長石、透明石英を含む。	有	良
第98図	294	15647 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4.5/6 5YR5/6	やや粗。径1～2㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を多く含む。微細な長石を含む。微細な透明石英を少量含む。	無	良
第98図	295	2667 他	G-022 H-021 H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR2/2 2.5YR4/6	密。径2㎜の白色粒子(長石)、灰色粒子を含む。透明石英、蝉石を含む。	有	やや軟質
第98図	296	12029 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下のやや軟質の白色粒子を含む。	無	良
第98図	297	8988 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 4YR3/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第98図	298	718 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 7.5YR4/3	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良

図版№	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第98図	299	7853 他	I-023 H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/3 5YR4/4	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細の透明石英、角閃石を含む。	無	良
第99図	300	15948	H-022	3号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR2/1	密。径3㎜程度の灰色の礫を含む。径1～3㎜の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、透明石英を含む。径1㎜以下の赤色粒子、砂粒を含む。径1㎜以下の雲母を少量含む。	有	良
第99図	301	791	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR2/2 2.5YR4/6	密。径2～5㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、輝石を含む。径1㎜の赤色粒子、透明石英を含む。	有	良
第99図	302	12912	H-022	13号集石	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 7.5YR3/3	密。径4㎜以下の灰色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を少量含む。	有	良
第99図	303	4462	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/3 5YR4/4	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	304	14955	H-023	2号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の白色石英を少量含む。径1㎜以下の砂粒を含む。微細な白色粒子を含む。	有	良
第99図	305	16723	H-022	6号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR4/3 7.5YR4/3	やや粗。径1㎜の砂粒、赤色粒子を含む。径1～3㎜の長石を含む。	有	良
第99図	306	2489	G-022	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 10YR4/2	密。径7㎜灰色粒子、雲母(黒色)を少量含む。径2㎜の脆い白色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を少量含む。	有	良
第99図	307	3052	G-022	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第99図	308	2479	G-022	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/3 5YR3/3	密。径2㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の褐色粒子を少量含む。径1～3㎜の黒色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石を含む。角閃石、透明石英を含む。	有	良
第99図	309	2486	G-022	2号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 2.5YR4/8	密。径3～5㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子。黒色粒子を含む。	無	良
第99図	310	7042	G-021	3号土器集中	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR6/6 10YR3/2	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	311	2900 他	I-023 I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/4	密。径4㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、灰色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	312	5064	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR3/6	密。径3㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	313	8910	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/8 5YR3/6	密。径1～4㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径2㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。	無	良
第99図	314	4583	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/2 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、灰色粒子、角閃石を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	315	2305	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/1 5YR6/8	密。径2㎜以下の長石、やや硬い白色粒子、軟質の灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第99図	316	9542	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 5YR3/6	密。径3㎜以下のやや硬い白色粒子、小石、を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。角閃石を含む。	無	良
第99図	317	10251	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、灰色粒子、軟質の白色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英をっ含む。	無	良
第99図	318	10464	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR3/2	径3㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の長石、やや硬い灰色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	319	15573	F-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 7.5YR4/6	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	320	19499	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR3/6	密。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、炭色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	321	2929	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	無	良
第99図	322	4800	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	323	7661	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR4/3	密。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子、硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	324	9824	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/8 5YR3/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	325	11081	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR3/2	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、灰色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	326	13351	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/3 5YR4/8	密。径3㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下のやや硬い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	327	13357	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR4/8	密。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第99図	328	14827	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 5YR5/8	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜の軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	329	19442	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR4/8	密。径5㎜以下の赤色粒子を含む。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	無	良
第99図	330	446 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/1 5YR4/8	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	やや不良
第99図	331	7619 他	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/4 5YR4/6	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下のやや硬い白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	332	3251	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/4 10YR4/2	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、角閃石を含む。	無	良
第99図	333	5126	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR4/4 5YR4/6	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第99図	334	5455	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子含む。	無	良
第99図	335	7800	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/3 5YR3/6	密。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を多く含む。	無	良
第99図	336	8166	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/2 5YR3/4	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第99図	337	13264 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR2/2 5YR3/3	密。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を多く含む。	無	良
第99図	338	19459	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR5/6	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第99図	339	605	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/3 2.5YR4/4	密。径4㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。	有	良
第99図	340	2678 他	H-022 I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第99図	341	3987	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 2.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の灰色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第99図	342	5950	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 7.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第100図	343	2797	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/4 5YR3/2	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	344	11741	H-020	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英、透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	345	11927	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/6 5YR3/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第100図	346	251	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	347	1915	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	348	4184	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	349	4221	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 2.5YR4/6	密。径4㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英を含む。	有	良
第100図	350	11505	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子、角閃石を含む。	有	良
第100図	351	13076 他	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/2 7.5YR6/4	密。径3㎜以下の白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子、黒色粒子、輝石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	352	13980	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5R4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	353	6121	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/4	密。径5㎜の脆い白色粒子を含む。径2～4㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	354	13908	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/8 5YR5/8	やや粗。径1～3㎜の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子、脆い白色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む、外面に軟質白色粒子を含む。内面にやや脆い炭色粒子を含む。	無	良
第100図	355	3699	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/8 5YR4/8	密。径3㎜以下のやや硬い灰色粒子を含む。径2㎜以下のやや硬い白色粒子、長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を少量含む。	無	良
第100図	356	3104	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/4	密。径3㎜の灰白色粒子を含む。径3㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	357	5721	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/4 2.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、輝石、白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	358	5783	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 7.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺構	分類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎土	繊維含有	焼成
第100図	359	11858	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 7.5YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	360	11171	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR4/6	密。径5㎜以下の白色粒子を含む。径3㎜以下の白色粒子、灰色粒子を含む。	有	良
第100図	361	3403 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜以下の黒色粒子を含む。径1～2㎜の白色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第100図	362	11346	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/8 5YR3/3	密。径3㎜のやや硬い灰色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子、やや硬い灰色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。	無	良
第100図	363	11958	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 5YR4/3	密。径3㎜以下の赤褐色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、鉱石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第100図	364	12025	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/2 2.5YR3/1	密。径3㎜以下の赤褐色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	365	18523	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、角閃石を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	366	438	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR6/8 7.5YR5/4	密。径3㎜以下の軟質な白色粒子を含む。長石、鉱石、角閃石、透明石英を含む。	有	良
第100図	367	2781 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR5/4 10YR5/2	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	368	2814	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/8 7.5YR4/3	密。径3㎜の脆い灰色砂粒を含む。径2㎜の白色粒子(長石)を含む。角閃石を含む。	有	良
第100図	369	2885 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR4/4	密。径3㎜の軟質の黒色粒子を含む。径1～4㎜の赤色粒子を含む。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1～2㎜の黒色粒子を含む。	有	良
第100図	370	4797	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 5YR4/3	密。径5㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子、透明石英を含む。輝石を含む。	無	良
第100図	371	5052	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 5YR3/3	密。径3m以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第100図	372	7759	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR34/6 5YR3/4	密。径3㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の長石、灰色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	373	10445	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/6 2.5YR4/6	密。径1～3㎜の白色石英を含む。径2㎜以下の長石、黒色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	374	11275	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/4 5YR4/3	密。径2㎜の灰色粒子を含む。径1～2㎜の白色粒子(長石)、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	375	12766	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/6 5YR5/6	密。径2～4㎜の赤色粒子を含む。径3㎜のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第100図	376	15756	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR2/1 5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子を少量含む。	有	良
第100図	377	17109	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR3/1 5YR4/1	やや粗。径3㎜以下の脆い白色粒子を含む。径2㎜以下の灰色粒子、白色粒子(長石)を含む。角閃石を含む。	有	良
第100図	378	4392	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	7.5YR3/4 7.5YR4/2	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第100図	379	954 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	380	11326 他	G-020 G-022 H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR5/6 5YR4/4	密。径3㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、鉱石を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第100図	381	4555	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/8	密。径3㎜以下の赤色粒子、小石を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、角閃石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第100図	382	12764	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/6 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第101図	383	1066	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	口縁	5YR4/6 5YR3/6	径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を少量含む。	有	良
第101図	384	19426	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	口縁	5YR4/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第101図	385	1271	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	口縁	5YR4/8 5YR4/8	密。径1～3㎜の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子、径2㎜の軟質白色粒子を含む。径1㎜の透明石英を含む。	無	良
第101図	386	7470	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	胴部	5YR2/1 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径4㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を多く含む。	無	良
第101図	387	8758 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	388	9348 他	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類1種c②	打越式	胴部	5YR4/4 5YR3/2	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	389	11386 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c③	打越式	口縁	5YR4/8 5YR3/4	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径3㎜以下の軟質白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第101図	390	5243 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c③	打越式	胴部	5YR3/4 5YR3/3	径2㎜以下の長石、やや硬い灰色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子、透明石英を含む。	無	良
第101図	391	1921 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c③	打越式	胴部	5YR4/8 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子含む。	無	良
第101図	392	13146	E-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c③	打越式	胴部	5YR3/4 5YR3/1	径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第101図	393	4638 他	H-021 H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/6	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径3㎜の白色粒子(軽石)を含む。径1～2㎜の赤色粒子、径1㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石角閃石を含む。微細透明石英を含む。径3㎜の灰白色小礫を含む。	有	良
第101図	394	12909 他	H-022	13号集石 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	胴部	10YR4/1 7.5YR4/1	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の角閃石を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子、径1～3㎜の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第101図	395	9638	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の角遷移し角閃石を多く含む。径2㎜の透明石英、微細透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第101図	396	16721 他	H-022	6号住居跡 ＋包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	口縁～胴部	7.5YR4/4 7.5YR4/4	密。径1㎜の砂粒、径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下～1㎜の角閃石を含む。径1㎜の透明石英を含む。径1㎜の赤色粒子、黒色粒子を含む。	有	良
第101図	397	4788 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	口縁	5YR5/6 7.5YR5/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜の透明石英を含む。径1㎜以下を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第101図	398	11122	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	口縁	5YR6/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の角閃石を含む。微細透明石英を含む。径1㎜の赤色粒子、径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第101図	399	7250	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	胴部	2.5YR4/4 7.5YR4/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下～1㎜の透明石英を多く含む。径1㎜以下の角閃石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第101図	400	1681	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR4/2 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第101図	401	3123	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径3㎜以下の長石含む。径2㎜以下のやや硬い白色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第101図	402	2257 他	F-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR5/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第101図	403	757 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、軟質白色粒子、黒色粒子を含む。径2㎜の角せん石を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	404	1852 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	7.5YR6/6 7.5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子、小石、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第101図	405	3354	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、やや硬い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。径1㎜以下の角閃石を含む。	無	良
第101図	406	3704	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	2.5YR4/8 2.5YR5/8	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径4㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第101図	407	1019	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR3/2 5YR4/6	密。径2～6㎜の赤色粒子を含む。径2～4㎜の長石を含む。径2㎜のやや硬い白色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第101図	408	14269	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR4/6 5YR3/1	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径2㎜の黒色粒子を含む。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。	無	良
第101図	409	17389 他	G-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR3/2 5YR5/8	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、硬い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	410	8093	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	胴部	5YR4/2 5YR4/6	密。径2㎜の角閃石、径2㎜以下の長石、黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	411	15771	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁～胴部	7.5YR3/3 5YR4/3	密。径1㎜以下の白色粒子を含む。	有	良
第101図	412	1843	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	胴部	5YR4/4 5YR4/4	密。径2㎜以下の長石、やや硬い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第101図	413	2963	G-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR2/3 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第102図	414	776 他	G-021 G-022 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR4/6	密。径4㎜の脆い灰色粒子を含む。径3㎜以下の長石を含む。径1㎜の砂粒を含む。径1～4㎜の赤色粒子を少量含む。	無	良
第102図	415	8245 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	5YR5/6 5YR4/2	密。径1～4㎜の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、砂粒、黒色粒子を含む。	無	良
第102図	416	19440	不明	表採	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	5YR4/6 5YR3/3	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の軟質の灰色粒子を少量含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第102図	417	5386	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	7.5YR4/2 2.5YR5/8	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第102図	418	677	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR3/2 2.5YR4/4	密。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第102図	419	17246	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	2.5YR3/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を少量含む。微細の透明石英を少量含む。	無	良
第102図	420	5116	I-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR5/6	密。径3㎜以下の白色石英を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、径2㎜以下の灰色粒子を含む。	無	良
第102図	421	19291	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	2.5YR5/6 5YR5/4	密。径1㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第102図	422	3561 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の軟質の灰色粒子を少量含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第102図	423	16425	H-023	2号住居跡	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁～胴部	5YR5/6 5YR5/8	密。径2㎜以下の長石、径1㎜以下の砂粒、径1㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を微量含む。微細な透明石英、角閃石を微量含む。	有	良
第102図	424	5207 他	H-022 H-023 I-023	包含層 ＋表採	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	5YR5/8 5YR4/8	密。径3㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第102図	425	4300	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR5/8 5YR4/8	密。径1㎜以下の長石を含む。1㎜以下の赤色粒子・黒色粒子を少量含む。微細な透明石英を少量含む。4㎜の軟質の灰色粒子を含む。	有	良
第102図	426	7493	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	5YR2/3 7.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第102図	427	2188 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑥	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の角せん石を含む。径2㎜以下の白色石英を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第102図	428	12673 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類1種c⑤	打越式	口縁	2.5YR3/4 2.5YR3/6	密。径2㎜以下の長石、軟質白色粒子、黒色粒子含む。径1㎜以下の赤色粒子含む。	無	良
第102図	429	7353	I-023	包含層	第Ⅲ群A類1種d	打越式	口縁	2.5YR3/3 2.5YR3/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第102図	430	9795	I-024	包含層	第Ⅲ群A類1種d	打越式	口縁	2.5YR3/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の灰白色粒子を含む。	無	良
第102図	431	15130	I-023	1号焼土跡	第Ⅲ群A類1種d	打越式	口縁	2.5YR3/6 10YR3/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第102図	432	7618	H-024	包含層	第Ⅲ群A類1種d	打越式	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石含む。微細な透明石英少量含む。径3㎜の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第102図	433	7214 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類2種a	打越式 併行	口縁	5YR5/6 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。1～3㎜の赤色粒子を含む。1～2㎜の軟質の白色粒子を含む。輝石を少量含む。	無	良
第102図	434	12157 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類2種a	打越式 併行	口縁	5YR4/4 5YR4/1	密。径1㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の角閃石、雲母(?)を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第102図	435	9815 他	I-023	包含層	第Ⅲ群A類2種a	打越式 併行	口縁	2.5YR5/6 5YR4/6	密。径1㎜の黒色粒子多く含む。径2～3㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、赤色粒子を少量づつ含む。	有	良
第102図	436	14731	E-021	包含層	第Ⅲ群A類2種a	打越式 併行	胴部	2.5YR5/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、砂粒、黒色粒子、赤色粒子を各少量含む。	有	良
第102図	437	3690	H-023	包含層	第Ⅲ群A類2種b	打越式 併行	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径4㎜の灰色小礫を含む。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下～1㎜の角閃石を含む。	無	良
第102図	438	12172 他	I-022	包含層	第Ⅲ群A類2種a	打越式 併行	口縁	2.5YR5/6 5YR5/6	密。径1㎜以下の長石、砂粒、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第102図	439	8809	E-023	包含層	第Ⅲ群A類2種b	打越式 併行	口縁	5YR4/8 7.5YR4/2	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子含む。	有	良
第102図	440	19549	F-022	包含層	第Ⅲ群A類2種b	打越式 併行	口縁	5YR2/2 5YR2/2	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、砂粒を少量含む。	無	良
第102図	441	8808 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類2種b	打越式 併行	胴部	5YR5/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子、脆い白色粒子を含む。	有	良
第102図	442	15039 他	H-023	2号竪穴状遺構	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	口縁	7.5YR4/3 5YR4/4	やや粗。径1㎜の砂粒を含む。径1～4㎜の長石を多く含む。径1㎜以下の雲母を多く含む。径1～2㎜の赤色粒子、径1㎜の黒色粒子をわずかに含む。	有	良
第102図	443	11496	H-023	包含層	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	胴部	5YR5/6 5YR4/6	密。径8㎜の脆い灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の砂粒、黒色粒子、赤色粒子を少量含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第102図	444	10675	H-023	包含層	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	口縁	7.5YR4/3 5YR4/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜の赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の角閃石、砂粒を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第102図	445	2124	F-022	包含層	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	口縁	2.5YR5/8 2.5YR6/8	密。径2～4㎜の軟質の白粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の砂粒、黒色粒子を含む。	無	良
第102図	446	8481	H-022	包含層	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	口縁	5YR5/3 5YR5/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒、赤色粒子を含む。	無	良
第102図	447	15873	H-023	2号住居跡	第Ⅲ群A類2種c	打越式 併行	胴部	7.5YR5/4 5YR3/4	密。径2㎜以下の長石、白色石英を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第103図	448	16618	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	10YR3/1 10YR6/6	密。径3～5㎜の灰白色の軟質に粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の輝石、角閃石を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第103図	449	1487 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁～胴部	2.5YR5/6 5YR3/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の脆い白色粒子を少量含む。	有	良
第103図	450	512 他	E-016	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	2.5YR5/8 5YR4/3	密。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。径1～2㎜の赤色粒子、黒色粒子を含む。径2㎜の脆い白色粒子を含む。	無	良
第103図	451	8644	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	7.5YR3/3 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角閃石、透明石英を含む。	無	良
第103図	452	4983	H-024	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR4/4 5YR3/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第104図	453	4594 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁～底部	5YR5/6 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の脆い白色粒子を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第104図	454	7756	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	2.5YR5/8 2.5YR5/6	径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第104図	455	2578 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	10YR6/3 10YR5/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の角せん石を多く含む。径1㎜以下の透明石英を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第104図	456	1009	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR4/4 5YR3/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の白色透明石英を含む。微細透明石英、微細な角閃石を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第104図	457	6256 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	10YR4/4 10YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第104図	458	14222	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR3/3	密。径1㎜以下の透析、黒色粒子、砂粒を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1～3㎜の脆い白色粒子を含む。	無	良
第104図	459	12216 他	H-023 I-024	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/4 5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第104図	460	640	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR4/4 7.5YR4/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第104図	461	8441	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	7.5YR3/2 7.5YR4/3	密。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。1～2㎜の赤色粒子を含む。	無	良
第104図	462	14852	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/1 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。	無	良
第104図	463	16862	H-023	14号集石	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/1 5YR3/1	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。径1㎜の脆い白色粒子を少量含む。	無	良
第104図	464	11407	I-024	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	7.5YR3/2 10YR3/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第104図	465	4588	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/3 5YR4/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第104図	466	1093	H-021	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	7.5YR4/2 7.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の角せん石を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第104図	467	11887	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR4/4 5YR5/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)、脆い黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第104図	468	16689 他	I-022	5号住居跡 ＋包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁下方	2.5YR5/4 5YR5/6	密。径5㎜の脆い白色粒子を少量含む。径2～3㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、砂粒を含む。	有	良
第104図	469	999 他	H-022 H-024	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角せん石、透明石英を含む。径2㎜の透明石英を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。	無	良
第104図	470	10555	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/4 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)含む。径2㎜以下の白茶色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第104図	471	12794	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	5YR3/4 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第104図	472	8765	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	口縁	7.5YR4/1 7.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第104図	473	4656 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	5YR5/6 5YR3/3	やや粗。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。輝石を含む。径1～7㎜の脆い白色粒子を含む。	無	良
第104図	474	14453	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	2.5YR4/6 5YR3/2	密。1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子、砂粒を少量含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第104図	475	2409	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR4/2	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径2㎜以下の透明石英を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第104図	476	3530 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	10YR5/8 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子、砂粒を少量含む。径1～3㎜の脆い白色粒子を少量含む。	有	良
第104図	477	15457 他	H-03	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	5YR6/6 5YR4/8	密。径1～2㎜の軟質の白色粒子を含む。赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石を少量含む。輝石を含む。	有	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第104図	478	14447	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	7.5YR4/2 7.5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第104図	479	16159	H-022	6号住居跡	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	7.5YR4/3 7.5YR4/3	密。径1㎜の砂粒、長石を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の雲母(黒)を少し含む。	無	良
第104図	480	6613	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	同部	5YR4/3 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子、径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な角閃石、微細透明石英を含む。	無	良
第104図	481	5461	H-021	包含層	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	5YR4/3 5YR3/4	密。径1㎜以下の長石、砂粒、赤色粒子を含む。径1～2㎜の軟質の灰色粒子を少量含む。	有	良
第104図	482	5572	H-022	7号集石	第Ⅲ群A類3種a	打越式	胴部	7.5YR3/2 5YR5/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。径1㎜の脆い白色粒子を少量含む。径1㎜の赤色粒子を含む。	有	良
第104図	483	15252	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	胴部	7.5YR4/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を少量含む。径2～4㎜の脆い白色粒子を少量含む。	有	良
第105図	484	616 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁～胴部	5YR4/4 7.5YR4/3	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径4㎜の灰白色粒子、微細透明石英を含む。	有	良
第105図	485	3412 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁～胴部	5YR4/6 7.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径4㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、輝石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第105図	486	19866 他	G-023	1号竪穴状遺構 ＋表採	第Ⅲ群A類3種b	打越式	胴部	10YR2/2 10YR4/3	密。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第105図	487	8823	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	7.5YR2/1 7.5YR3/2	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径4㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜のやや硬い白色粒子を含む。	無	良
第105図	488	237	H-021	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR4/4 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第105図	489	3907 他	G-021	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、白色透明石英、透明石英を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第105図	490	11400	G-021	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR5/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、輝石を含む。径1㎜以下の赤色粒子、白色透明石英を含む。径2㎜の灰白色粒子を含む。径1㎜の透明石英、微細な透明石英を含む。	無	良
第105図	491	2974	G-021	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR5/6 2.5YR5/8	密。径3㎜以下の長石、微細透明石英を含む。径1㎜以下の砂粒を少量含む。	無	良
第105図	492	15512	H-023	2号竪穴 状遺構	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR3/1 5YR4/6	やや粗。径1㎜の砂粒、1～2㎜の長石を含む。径1㎜以下の雲母(黒)をわずかに含む。径3㎜の安山岩質の礫を含む。	無	良
第105図	493	16440 他	I-023	3号竪穴 状遺構	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR3/4 5YR3/2	密。径2㎜以下の長石、径1㎜以下の黒色粒子、径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第105図	494	1650	G-022	2号陥穴 状土坑	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR4/1 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子を微量含む。径2㎜の灰色粒子を含む。	有	良
第105図	495	15604	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR3/1 5YR3/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第105図	496	8926	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR4/6 5YR4/3	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第105図	497	7888	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	7.5YR3/2 7.5YR2/2	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。補修孔あり。	有	良
第105図	498	5155 他	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR5/8 5YR3/1	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1～3㎜の軟質の白色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	有	良
第105図	499	13719 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR2/1 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜の長石を含む。径1㎜のやや硬い白色粒子、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第105図	500	6516	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	5YR5/6 5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、透明石英を含む。径1㎜以下の微細透明石英を含む。	無	良
第105図	501	5062 他	H-022 I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁～胴部	7.5YR6/6 10YR5/4	密。径2～6㎜の脆い灰白色粒子を含む。径2㎜以下の長石を多く含む。径1～2㎜の赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	有	良
第105図	502	241	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	口縁	2.5YR2/2 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第105図	503	7841	I-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	胴部	5YR3/1 5YR3/2	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第105図	504	3172	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、ややい硬い白色粒子、黒色粒子を含む。径1～4㎜の小石を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。径2㎜の軟質の白色粒子を含む。	無	良
第105図	505	1122	I-023	包含層	第Ⅲ群A類3種b	打越式	胴部	7.5YR4/3 7.5YR4/1	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角閃石を含む。径1㎜以下の透明石英を含む。径2㎜の透明石英を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第106図	506	16596 他	H-023	4号住居跡＋1号竪穴状遺構＋6号集石＋包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁～胴部	2.5YR4/6 2.5YR5/8	密。径2㎜以下の長石、径1㎜以下の黒色粒子、径2㎜以下の赤色粒子を含む。	有	良
第106図	507	15465 他	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁～胴部	5YR5/6 5YR5/8	密。径1㎜以下の長石を少量含む。径2㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜の砂粒を含む。径3～5㎜の脆い白色粒子を含む。	無	良
第106図	508	14854	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の栗色粒子を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第106図	509	12714	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/4	密。径2㎜以下の白色雲氏(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角閃石を含む。	無	良
第106図	510	15464 他	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁付近	5YR5/6 5YR4/6	密。径1㎜の長石、径2㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第106図	511	1545	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁	5YR4/8 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第106図	512	7149	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径1㎜の長石を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第106図	513	19425	不明	表採	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	口縁	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子、やや硬い灰色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第106図	514	2581 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	5YR4/3 7.5YR4/2	密。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径1～2㎜の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。	有	良
第106図	515	554	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	5YR4/8 5YR3/2	径2㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2～3㎜の小石を含む。	無	良
第106図	516	4627	H-021	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	2.5YR4/8 2.5YR4/8	径2㎜以下の長石軟質の灰色粒子を含む。径1～3㎜の小石を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	無	良
第106図	517	4704	J-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	5YR4/8 5YR4/8	密。径2㎜以下の長石、やや硬い白色粒子を含む。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	無	良
第106図	518	984	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	2.5YR4/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径3㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜の角閃石を含む。	無	良
第106図	519	13850	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	5YR3/4 2.5YR3/6	密。径2㎜以下の長石、やや硬い白色粒子、赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の透明石英を含む。	無	良
第106図	520	2680	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	5YR4/4 2.5YR3/3	密。径2㎜以下の長石、赤色粒子を含む。径3㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第106図	521	8091	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	2.5YR2/3 2.5YR4/6	密。径2～6㎜のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	無	良
第106図	522	4488	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種c	打越式 併行	胴部	2.5YR3/6 2.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜の小石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第107図	523	3603 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	7.5YR4/3 5YR3/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜の灰色粒子、赤色粒子を含む。輝石を含む。	有	良
第107図	524	3522	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	5YR4/6 2.5YR3/2	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第107図	525	3573 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	2.5YR3/6 2.5YR4/6	密。径3㎜以下の赤色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第107図	526	2933	F-021	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	10YR2/1 5YR3/6	径1～2㎜の赤色粒子、長石を含む。微細～2㎜の透明石英を多く含む。径1㎜の黒色粒子を含む。	有	良
第107図	527	8789 他	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	2.5YR2/2 2.5YR4/6	径1㎜の赤色粒子を含む。径2㎜以下の長石、赤色の脆い粒子を含む。微細な透明石英、白色粒子、光る粒子を含む。	有	良
第107図	528	13513	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	7.5YR4/3 10YR4/2	やや粗。径1～2㎜の長石を含む。径2㎜の赤色粒子を含む。透明石英、輝石を含む。	有	良
第107図	529	255	I-023	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/3 5YR4/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径4㎜以下の白色粒子(軽石？)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な角せん石を含む。	有	良
第107図	530	16892	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR3/2 5YR3/1	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径2㎜の灰白色粒子を含む。	無	良
第107図	531	11093	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/4 5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第107図	532	3663	G-023	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な角閃石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第107図	533	704	G-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	2.5YR4/4 2.5YR3/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第107図	534	14088	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/6 2.5YR5/8	密。径2㎜以下の長石、白色石英を含む。微細～径1㎜の透明石英を含む。	有	良
第107図	535	2695 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/4 10YR4/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、赤色粒子を含む。径3㎜以下の脆い黒色粒子を含む。微細な角閃石、微細透明石英を含む。	無	良
第107図	536	6531	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	7.5YR4/3 7.5YR4/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第107図	537	7488	G-023	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/4 5YR4/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第107図	538	10262 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種d	打越式？	口縁	7.5YR5/2 7.5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。微細等透明石英を含む。微細な角閃石を含む。	有	良
第107図	539	15775 他	H-023	4号住居跡	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	7.5YR4/3 7.5YR3/2	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の角せん石、赤色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。	有	良
第107図	540	15788 他	H-023	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	2.5YR5/6 5YR4/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色透明石英、角閃石、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。砂粒を含む。径4㎜の茶色粒子を含む。	有	良
第107図	541	6387 他	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/6 5YR4/4	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細透明石英、角閃石を含む。	無	良
第107図	542	17968	F-021	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	2.5YR4/4 2.5YR4/6	径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の鉱石を含む。	無	良
第107図	543	9377	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	5YR4/4 7.5YR4/2	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色黒色粒子、赤色粒子、白色透明石英を含む。微細透明石英を含む。微細な角閃石を含む。	無	良
第107図	544	1188	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	2.5YR5/6 2.5YR4/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な角閃石を含む。	有	良
第107図	545	5128	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	2.5YR4/4 5YR4/2	密。径3㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、鉱石を含む。	有	良
第107図	546	6271	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	7.5YR4/2 7.5YR4/1	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細な角せん石、微細透明石英を含む。	有	良
第107図	547	15288	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種e	打越式？	口縁	7.5YR5/6 7.5YR6/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜～1㎜以下の黒色粒子を含む。砂粒を含む。	無	良
第107図	548	12896	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部 (補修孔あり)	5YR4/6 7.5YR3/4	密。径1㎜以下の長石を含む。径1～5㎜の脆い灰色粒子を多く含む。径1㎜以下の透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を少量含む。角閃石を含む。	無	良
第107図	549	2275	G-021	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部 (補修孔あり)	2.5YR4/6 2.5YR4/8	密。径1㎜以下の長石、径1㎜の脆い白色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子、黒色粒子を少量含む。	有	良
第107図	550	8236 他	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部 (補修孔あり)	5YR4/6 5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、径1～3㎜の軟質の白色粒子、径2㎜の脆い灰色粒子を含む。1㎜以下の白色石英を微量含む。	無	良
第107図	551	2698 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	5YR4/6 7.5YR4/3	密。径1㎜以下の長石を多く含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。	無	良
第107図	552	16717 他	H-023	6号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径1㎜の砂粒、径1～2㎜の長石を多く含む。径1㎜以下の雲母(黒)を多く含む。径5㎜の灰白色小礫を含む。	有	良
第108図	553	14577 他	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	2.5YR2/3 10YR3/6	密。径3㎜以下の長石を含む。径2㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の透明石英を少量含む。微細な黒色粒子、赤色粒子を少量含む。軟質の灰色粒子を少量含む。	有	良
第108図	554	17013 他	G-023	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。1～4㎜の軟質の白色粒子を多く含む1㎜の長石を含む。径1㎜赤色粒子、黒色粒子を少量含む。	有	良
第108図	555	7679	I-023	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	7.5YR3/2 10YR2/1	密。径1㎜以下の長石を多く含む。1㎜以下の赤色粒子を日くむ。	無	良
第108図	556	16690 他	I-022 H-022	5号住居跡 +6号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	胴部	5YR4/4 7.5YR4/3	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の黒色粒子、径3㎜以下の赤色粒子を少量含む。径4㎜の軟質の白色粒子、径6㎜の灰色粒子を含む。砂粒含む。	有	良
第108図	557	16676 他	I-022	5号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR4/6 5YR4/4	密。径1㎜以下の白色粒子を少量含む。径3㎜の白色粒子を含む。径2㎜の灰白色の脆い粒子を含む。	有	良
第108図	558	15527 他	H-023	1号住居跡	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR5/8 7.5YR4/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む径2㎜以下の鉱石を少量含む。径1㎜以下の透明石英を含む。	無	良
第108図	559	4053	F-021	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR5/4 5YR4/6	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)含む。径1㎜の透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。	有	良
第108図	560	19873	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR5/3 10YR5/2	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を含む。砂粒を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第108図	561	2677	I-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	7.5YR5/4 10YR4/3	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子、角閃石を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第108図	562	8490 他	H-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR4/4 10YR5/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。径2㎜以下の茶色粒子を含む。微細透明石英を含む。径3㎜の灰白色粒子を含む。	有	良
第108図	563	3184 他	F-022	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR4/3 7.5YR5/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英、赤色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第108図	564	6582	E-023	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	5YR4/4 7.5YR5/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第108図	565	11707	G-021	包含層	第Ⅲ群A類3種f	打越式？	底部	7.5YR4/4 7.5YR3/3	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。	有	良
第109図	566	11796	F-021	包含層	第Ⅲ群A類4種	神之木台式	口縁	7.5YR5/4 10YR4/2	密。径1～4㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の砂粒を含む。径1㎜以下～1㎜の角閃石を含む。微細透明石英を含む。	無	良
第109図	567	17929	G-021	9号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類4種	神之木台式	胴部	7.5YR5/6 7.5YR5/6	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な黒色粒子を含む。	無	良
第109図	568	17834	G-021	9号陥穴状土坑	第Ⅲ群A類4種	神之木台式	胴部	7.5YR6/6 10YR5/4	密。径2㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の白色石英を少量含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。鉱石を含む。	無	良
第109図	569	3308	G-021	包含層	第Ⅲ群A類5種	条痕文系不明	口縁	5YR4/6 2.5YR5/6	密。径3㎜以下の脆い白色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1～3㎜の赤色粒子を少量含む。	無	良
第109図	570	4158 他	H-021	包含層	第Ⅲ群A類5種	条痕文系不明	底部	5YR4/6 5YR5/6	密。径1～2㎜の黒色粒子を含む。径1㎜以下～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の粘土質の白色粒子、角閃石を含む。微細な透明石英を含む。	有	有
第109図	571	19865	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR3/1 10YR5/3	密。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の長石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第109図	572	486 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	5YR6/6 5YR5/8	密。径3㎜以下の白色石英、脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、やや軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第109図	573	1267	F-021	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	10YR5/2 10YR5/2	密。径3㎜の茶色粒子を含む。径1㎜の白色粒子(長石)、透明石英、角閃石を含む。微細な透明石英を多く含む。砂粒を含む。	有	良
第109図	574	8869	G-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR7/4 10YR7/4	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を少量含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第109図	575	14645	E-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	5YR5/6 5YR5/6	密。径2㎜以下の長石、黒色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子を含む。	無	良
第109図	576	11067 他	G-021 G-022	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	5YR3/2 7.5YR5/6	密。径2㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、白色石英、軟質の白色粒子、灰色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第109図	577	2184	F-022	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	10YR6/4 7.5YR5/4	密。径2㎜の白色透明石英を含む。径1㎜の白色粒子(長石)、白色石英、黒色粒子を含む。微細透明石英を含む。砂粒を含む。	有	良
第109図	578	7705	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	10YR4/1 10YR6/4	密。4㎜の白色透明石英を含む。径1～2㎜の透明石英を含む。径1㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜の白色石英、雲母を含む。微細な透明石英を多く含む。砂粒を含む。	有	良
第109図	579	11039 他	I-024	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	5YR3/2 5YR4/6	密。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、灰色粒子、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第109図	580	14415	H-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR4/2 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色石英、軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。雲母(金)を少量含む。	無	良
第109図	581	7782	H-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	7.5YR4/2 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。雲母(白)を少量含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第109図	582	16306 他	H-023 I-023	1号住居跡	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR4/1 10YR5/3	密。径3㎜以下の白色石英を含む。径2㎜以下の黒色粒子、長石、軟質の白色粒子を含む。雲母(金)を少量含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第109図	583	667 他	G-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR5/3 10YR5/3	密。径1～2㎜の長石、白色石英、白色透明石英を含む。径1㎜の透明石英、微細な透明石英を多く含む。径1㎜の角閃石を含む。砂粒を含む。	有	良
第109図	584	5206 他	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR3/1 10YR3/2	密。径4㎜以下の硬い灰色粒子を含む。径1㎜の透明石英、微細な透明石英を含む。径1㎜の角閃石を含む。	無	良
第109図	585	10492 他	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR7/6 10YR5/4	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を含む。径1～3.5㎜の透明石英を多く含む。微細な透明石英、砂粒を含む。	無	良
第109図	586	2898 他	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	5YR4/4 5YR4/4	密。径1～2㎜の白色石英含む。径1㎜の透明石英を多く含む。径1㎜の角閃石を含む。砂粒を含む。	無	良
第109図	587	5997	G-021	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	5YR2/1 5YR4/8	密。径2㎜以下の白色石英、脆い白色粒子を含む。径2㎜以下の灰色粒子を少量含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を少量含む。	無	良
第109図	588	19870 他	H-023	1号竪穴状遺構	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	7.5YR3/1 7.5YR3/3	密。径1㎜以下の白色石英、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。雲母(金)含む。	無	良
第109図	589	19466	不明	表採	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR3/3 10YR4/3	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第109図	590	1854	G-021	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	7.5YR7/6 7.5YR7/6	密。径2㎜以下の長石、白色石英、脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、灰色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第109図	591	16801	F-022	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR6/3 10YR6/3	密。径1～2㎜の白色石英を含む。径1㎜以下～1㎜の白色粒子(長石)を多く含む。微細な透明石英を多く含む。砂粒を含む。	無	良
第109図	592	11848	F-022	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR5/3 10YR6/3	密。径1～2㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜の白色石英、黒色粒子、雲母を含む。微細な透明石英を含む。砂粒を含む。	無	良
第109図	593	8	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/6	密。径2㎜以下の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、白色石英、灰色粒子を含む。微細な透明石英、雲母(金)を含む。	無	良
第109図	594	10590	H-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	胴部	7.5YR4/2 7.5YR4/6	密。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。雲母(金)を少量含む。	無	良
第110図	595	7066 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	5YR5/6 5YR5/4	密。径5㎜以下の灰色粒子を含む。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の白色透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子、透明石英、茶色粒子を含む：。	無	良
第110図	596	5000 他	H-023 H-024	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	5YR6/6 5YR5/6	密。径4㎜以下の灰色小礫を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、白色透明石英を含む。微細な透明石英を多く含む。	無	良
第110図	597	2101 他	F-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	10YR5/4 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子、雲母(金)を含む。	有	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第110図	598	8322 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	599	11984	G-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	7.5YR5/4 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色透明石英、黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、透明石英を含む。	無	良
第110図	600	6640	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	10YR4/3 10YR6/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、茶色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	601	8318	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	7.5YR6/4 10YR6/4	密。径3㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	602	15814 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR4/3 10YR6/4	密。径2㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	603	5501 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR6/3 7.5YR6/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の黒色粒子、灰色粒子、茶色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	604	6646	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR6/4 7.5YR6/6	密。径2㎜以下の赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	605	1942	E-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR5/3 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	606	7058	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR6/4 7.5YR6/6	密。径6㎜の白色透明石英を含む。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、雲母(金)を含む。	無	良
第110図	607	12256 他	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR5/2 10YR5/4	密。径4㎜以下の白色透明石英を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色石英、黒色粒子、灰色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	608	3096	F-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR6/4 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の白色透明石英を含む。径1㎜以下の白色粒子、透明石英、黒色粒子を含む。	有	良
第110図	609	3976	G-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR4/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	610	7094	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR6/4 7.5YR4/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	611	6282	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子、黒色粒子、白色透明石英を含む。径1㎜のガラス質の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	612	10155	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	5YR4/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	613	13188	F-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	後部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	614	19501	不明	表採	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	7.5YR6/6 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	615	16718	H-022 H-023 G-022	6号住居跡	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	7.5YR5/4 5YR4/4	密。径4㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径3㎜以下の白色透明石英を含む。径2㎜以下の白色石英、黒色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の透明石英を含む。径1㎜以下の雲母(黒)と径2㎜の雲母(白)を含む。	無	良
第110図	616	7850	I-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	10YR5/4 10YR5/4	密。径4㎜以下の白色石英を含む。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。皺石を含む。	無	良
第110図	617	2514 他	G-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	10YR6/4 10YR6/4	密。径3㎜以下の白色透明石英を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	618	4337	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	2.5YR5/6 5YR5/6	密。径3㎜以下の白色透明石英を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、白色石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	619	2	J-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR5/3 10YR6/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、透明石英を含む。	有	良
第110図	620	5078	I-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR6/3 10YR6/3	密。径3㎜以下の灰白色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、透明石英を含む。	有	良
第110図	621	5339	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	10YR6/3 10YR6/3	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	622	8495	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	2.5YR5/6 2.5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第110図	623	8080	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径3㎜以下の白色透明石英を含む。径2㎜以下の灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、透明石英を含む。	有	良
第110図	624	909 他	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	5YR5/4 5YR4/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の灰白色粒子、黒色粒子、皺石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第110図	625	4747	H-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	胴部	2.5YR5/6 7.5YR5/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色透明石英、黒色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第111図	626	10030 他	H-023 I-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	7.5YR7/4 7.5YR6/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の灰色粒子、黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英、透明石英を含む。径1㎜の白色石英を含む。	有	良
第111図	627	1715 他	G-022	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、白色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、雲母(金)を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第111図	628	2498	G-021	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁	10YR7/4 7.5YR6/4	密。径3㎜以下の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の白色透明石英、黒色粒子、皺石、雲母(金)を含む。径1㎜以下の透明石英を多く含む。	有	良
第111図	629	10643 他	H-023	包含層	第Ⅲ群B類2種	天神山式	口縁～胴部	10YR5/4 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、白色粒子、灰色粒子を含む。径1㎜以下の透明石英、黒色粒子、雲母(金)を含む。	有	良
第111図	630	16258	H-023	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	10YR3/1 10YR5/4	密。径2㎜以下の長石を含む。雲母(白)を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第111図	631	14956	H-023	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	7.5YR6/6 10YR6/6	密。径2㎜の白色石英を少量含む。微細な雲母(白)を多く含む。	無	良
第111図	632	11215	H-023	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	10YR6/3 10YR6/4	径2㎜以下の白色粒子(長石)、白色透明石英、透明石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	有	良
第111図	633	16370	H-023	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	7.5YR6/2 10YR7/3	密。径1㎜以下の白色粒子を含む。微細な雲母、白色石英を含む。	無	良
第111図	634	1044 他	I-022 I-023	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR3/1 10YR3/2	密。径2～5㎜の白色石英を含む。径2～4㎜の茶色粒子を含む。径2㎜の白色透明石英を含む。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。砂粒を含む。	有	良
第111図	635	3753	G-021	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	口縁	10YR4/1 10YR4/2	密。径2～3㎜の茶色粒子を含む。径1㎜の白色石英(長石)を多く含む。径1㎜の白色石英を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。微細な透明石英、雲母？を含む。	有	良
第111図	636	7851	I-024	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR5/2 10YR5/1	密。径2～3㎜の白色石英を含む。径1～2㎜の白色粒子(長石)、茶色を多く含む。微細な透明石英を含む。砂粒を含む。	有	良
第111図	637	2810	I-023	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR2/2 10YR3/2	密。径2㎜以下の白色石英、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、赤色粒子を含む。	無	良
第111図	638	3367	F-022	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	7.5YR6/6 10YR3/1	密。径2㎜以下の白色石英、赤色粒子、黒色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第111図	639	11950	F-022	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	5YR4/1 5YR4/2	密。径4㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、脆い白色粒子を含む。	無	良
第111図	640	14745	D-021	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR3/1 10YR5/3	密。径6㎜以下の白色石英を含む。径2㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子を含む。	無	良
第111図	641	13584	F-022	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR4/2 10YR3/1	密。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の白色石英を含む。径1㎜以下の長石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第111図	642	5998	G-021	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR4/4 10YR3/1	密。径4㎜以下の白色石英を含む。径3㎜以下のやや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石、軟質の白色粒子を含む。	無	良
第111図	643	1857	G-021	包含層	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR4/2 10YR3/2	密。径3㎜以下の灰色粒子、やや硬い白色粒子を含む。径2㎜以下の赤色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、白色石英、黒色粒子を含む。	無	良
第111図	644	15840	I-023	3号竪穴状遺構	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	10YR5/3 10YR5/2	密。径2㎜以下の白色粒子を少量含む。径1㎜以下の長石を含む。径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。雲母(白)を微量含む。	無	良
第111図	645	16624	I-023	3号竪穴状遺構	第Ⅲ群C類	石山式 併行	胴部	7.5YR5/3 7.5YR3/2	密。径1㎜以下の長石、白色石英を含む。径1㎜以下の赤色粒子を少量含む。微細な透明石英を少量含む。	無	良
第112図	646	17510	F-012	包含層	第Ⅳ群A類	上ノ坊式	口縁	5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、赤色粒子を含む。	無	良
第112図	647	17603	F-012	包含層	第Ⅳ群A類	上ノ坊式	胴部	5YR4/2 5YR4/1	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子，赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第112図	648	17477 他	F-012 表採	包含層	第Ⅳ群A類	上ノ坊式	胴部	7.5YR4/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明石英含む。	有	良
第112図	649	19189	G-004	包含層	第Ⅳ群B類1種	諸磯ɔ式	口縁	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の黒色粒子、脆い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、灰色粒子を含む。雲母(金)を多く含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第112図	650	19188	G-004	包含層	第Ⅳ群B類1種	諸磯ɔ式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の長石、灰色粒子、赤色粒子、脆い白色粒子を含む。雲母(金)を多く含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第112図	651	18076 他	H-012	包含層	第Ⅳ群B類1種	諸磯ɔ式	胴部	5YR4/8 5YR4/6	密。径2㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、灰色粒子を含む。	無	良
第112図	652	19196 他	G-005	包含層	第Ⅳ群B類1種	諸磯b式	口縁～胴部	5YR5/8 5YR4/6	密。径2㎜以下の黒色粒子、軟質の白色粒子、脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、白色石英を含む。径1㎜以下の灰色粒子を少量含む、雲母(金)を多く含む。	無	良
第112図	653	19185 他	G-004 撹乱	包含層	第Ⅳ群B類2種	諸磯c式	口縁	2.5YR4/8 5YR4/6	密。径2㎜以下の脆い白色粒子、軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、白色石英、黒色粒子、灰色粒子を含む。	無	良
第112図	654	18804 他	G-005	包含層	第Ⅳ群B類2種	諸磯c式	胴部	5YR4/6 5YR4/6	密。径6㎜以下の軟質の灰色粒子を含む。径3㎜以下の脆い白色粒子を含む。径2㎜以下の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。雲母(金)を多く含む。	無	良
第112図	655	19527	不明	撹乱	第Ⅳ群B類3種	諸磯式 不明	口縁	5YR3/4 5YR3/3	密。径4㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の灰色粒子、黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の長石を含む。白色石英を少量含む。角閃石を多く含む。	無	やや不良
第112図	656	18066	G-012	包含層	第Ⅳ群B類3種	諸磯式 不明	口縁	7.5YR4/3 7.5YR4/4	密。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。雲母(金)を多く含む。	無	良
第112図	657	19179 他	G-005	包含層	第Ⅳ群B類3種	諸磯式 不明	底部	5YR4/6 5YR4/6	密。径3㎜以下の脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺　構	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第112図	658	19060	H-004	包含層	第Ⅳ群B類3種	諸磯式 不明	底部	5YR5/8 *7.5YR5/6*	密。径1㎜以下の軟質の白色粒子、長石、灰色粒子、黒色粒子を含む。	無	良
第112図	659	18068	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	胴部	10YR6/3 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第112図	660	18101	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	口縁	7.5YR7/4 7.5YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。微細な透明英石英を含む。	有	良
第112図	661	18071	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	口縁	10YR7/4 10YR6/4	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英、黒色粒子を含む。	無	良
第112図	662	18109	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	口縁	10YR5/2 10YR6/2	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜の灰色粒子を含む。径1㎜以下の白色透明石英、黒色粒子を含む。	有	良
第112図	663	17651	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	口縁	10YR5/2 10YR4/2	密。径3～5㎜の灰白色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子、黒色異粒子を含む。径1㎜以下の白色石英，赤色粒子を含む。	有	良
第112図	664	15193	F-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	口縁	10YR6/1 10YR6/2	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、白色透明石英を含む。径1㎜の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第112図	665	18090	H-011	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	胴部	10YR6/3 10YR6/2	密。径3～5㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の黒色粒子、赤色粒子を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第112図	666	165	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	胴部	10YR6/3 10YR7/3	密。径5㎜の灰色粒子を含む。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜の白色透明石英を含む。径1㎜以下の白色石英、透明石英、黒色粒子、赤色粒子、雲母(金)を含む。	無	良
第112図	667	18300	G-012	包含層	第Ⅳ群C類	北白川 下層式	胴部～底部	10YR6/2 10YR5/2	密。径3㎜以下の灰色粒子を含む。径2㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	有	良
第113図	668	15241	F-011	包含層	第Ⅴ群A類	十三菩提～ 五領ヶ台	口縁	7.5YR5/4 10YR5/4	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子、輝石を含む。径1㎜以下の白色透明石英、雲母(金)、灰色粒子を含む。	無	良
第113図	669	18067 他	G-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	口縁	7.5YR5/4 10YR6/3	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径1㎜以下の灰色粒子、白色透明石英、黒色粒子、輝石、雲母(金)、赤色粒子を含む。	無	良
第113図	670	18093 他	G-012 H-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	口縁～胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径3㎜以下の白色粒子(長石)を含む。径2㎜以下の黒色粒子を含む。径1㎜以下の灰色粒子、赤色粒子、白色透明石英、輝石、雲母(金)を含む。	無	良
第113図	671	18056	H-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	口縁～胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の黒色粒子、輝石を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子、雲母(金)を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第113図	672	154 他	G-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜の角閃石を含む。径1㎜以下の白色粒子(長石)、黒色粒子、灰色粒子、白色透明石英、赤色粒子、雲母(金)を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第113図	673	146 他	G-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子、黒色粒子を含む。径2㎜の白色透明石英を含む。径1㎜以下の赤色粒子を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第113図	674	498 他	G-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径2㎜以下の白色粒子(長石)、灰白色粒子を含む。径1㎜以下の黒色粒子、角閃石を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第113図	675	163 他	G-012	包含層	第Ⅴ群A類	五領ヶ台式	胴部	7.5YR5/4 5YR5/6	密。径1㎜以下の白色粒子(長石)、灰色粒子、黒色粒子、角閃石、赤色粒子、雲母(金)を含む。微細な透明石英を含む。	無	良
第113図	676	641	F-022	包含層	第Ⅴ群B類	藤内式	胴部	7.5YR5/6 7.5YR6/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。砂粒を少量含む。	無	良
第113図	677	190 他	G-012	包含層	第Ⅴ群B類	藤内式	底部	5YR5/6 5YR5/8	密。径2㎜以下の灰色粒子、脆い白色粒子を含む。径1㎜以下の長石、灰色粒子を含む。径1㎜以下の軟質の白色粒子を含む。雲母(金)を多く含む。透明石英を含む。	無	良
第113図	678	2892	I-023	包含層	第Ⅴ群C類	曾利式	胴部	7.5YR5/4 7.5YR5/4	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。微細な遺明石英、輝石を含む。角閃石を含む。	無	良
第113図	679	2849	I-023	包含層	第Ⅴ群C類	曾利式	胴部	7.5YR5/6 7.5YR5/6	密。径1㎜以下の長石、黒色粒子を含む。輝石を含む。微細な透明石英を含む。砂粒を少量含む。	無	良

C14年代測定土器　観察表

図版No.	番号	遺物番号	グリッド	遺構層位	分　類	型式	残存部位	外面色調 内面色調	胎　土	繊維含有	焼成
第170図	1	8361	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR4/3 *5YR5/6*	密。径2㎜以下の長石、微細な遺明石英を含む。径1㎜以下の、黒色粒子を含む。径1㎜の赤色粒子を少量含む。	無	良
第170図	2	8158 他	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	5YR3/1 5YR4/2	やや粗。径2㎜の灰色粒子を含む。径2㎜以下の軟質の白色粒子を含む。径1～3㎜の赤色粒子を含む。径1㎜以下～2㎜の長石を多量に含む。微細な角閃石、輝石、遺明石英を含む。	有	やや不良
第170図	3	7250	G-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c④	打越式	胴部	2.5YR4/4 7.5YR4/4	密。径1～3㎜の白色粒子(長石)を多く含む。径1㎜以下の遺明石英を多く含む。径1㎜以下の角閃石、黒色粒子、赤色粒子を含む。	無	良
第170図	4	2312	H-021	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	口縁	2.5YR4/6 5YR3/2	密。径2～6㎜の軟質の白色粒子を含む。径2㎜以下の長石を多く含む。径3㎜以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。微細の遺明石英を少量含む。	無	良
第170図	5	4495	H-022	包含層	第Ⅲ群A類1種c①	打越式	胴部	5YR5/5 10YR2/1	密。径2㎜以下の長石を含む。、赤色粒子を少量含む。3～4㎜の脆い白色粒子を含む。	有	良
第170図	6	7679	I-023	包含層	第Ⅲ群A類3種i	打越式	胴部	7.5YR3/2 10YR2/1	密。径1㎜以下の長石を多く含む。1㎜以下の赤色粒子を日くむ。	無	良
第170図	7	2879 他	撹乱	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	10YR4/2 10YR3/1	密。径1㎜以下の、長石を含む。微細な遺明石英、1㎜以下の砂粒を含む。2㎜以下の脆い白色粒子を含む。	無	良
第170図	8	7936	H-023	包含層	第Ⅲ群B類3種	東海系 無文	胴部	10YR6/4 10YR5/3	密。径1㎜以下の、長石黒色粒子を少量含む。径2㎜以下の白色石英を少量含む。雲母(白)を含む。	無	良
第170図	9	5206 他	I-023	包含層	第Ⅲ群B類1種	石山式	口縁	10YR3/1 10YR3/2	密。径4㎜以下の硬い灰色粒子を含む。径1㎜の遺明石英、微細な遺明石英を含む。径1㎜の角閃石を含む。	無	良

2．石器

ここでは、縄文時代遺物包含層より出土したものを中心にまとめた。なお、草創期の石器と思われるものは第４章で報告しているため、本節では報告しない。漸移層より出土した遺物については早期よりも古いものである可能性があるが、漸移層下部から休場層にかけて出土した草創期に該当する石器類と出土地点の高低を比較したところ、同じ漸移層であっても上部と下部とに分かれることなどから、漸移層の遺物でもより上部のもの、特に集落域に近いものは早期以降の遺物と考え、ここで扱うことにする。器種により当該時期に扱うには不適切なものはそれぞれの時期で扱う。

出土した石器は遺構内外含め、石槍１点、石鏃158点、削器29点、掻器１点、石匙１点、石錐３点、石核55点、両面調整石器３点、楔形石器82点、加工痕の有る剥片62点、使用痕のある剥片66点、玦状耳飾２点、打製石斧７点、礫器24点、磨石類272点、石皿55点、台石12点、砥石1点、原石１点、その他剥片5,917点の総数6,752点である。それぞれの器種ごとの石材は表にまとめた。

第44表　縄文時代石器一覧

石質		器種																		
		石槍	石鏃	削器	掻器	石匙	石錐	石核	両面調整石器	楔形石器	加工痕のある剥片	使用痕のある剥片	玦状耳飾	打製石斧	礫器	磨石・敲石・凹石	石皿	台石	砥石	
黒曜石(Ob)	神津島恩馳島群(KZOB)	1	130	11	1	1	3	37		76	54	61								375
	天城柏峠(AGKT)		3																	3
	箱根畑宿(HNHJ)		4																	4
	和田芙蓉ライト(WDHY)		1																	1
	諏訪星ヶ台(SWHD)		4					1												5
	分析不可等		9					4		3	3									19
ホルンフェルス(Hor)				3				6	2					2	2					15
ガラス質黒色安山岩(GAn)			1	6				7	1	1		3		1						20
チャート(Ch)			2																	2
赤色チャート(Ch (Re))			1									2								3
デイサイト(Da)																3				3
玄武岩(Ba)															7	34	13	3		57
多孔質玄武岩(VBa)																38	19	2		59
輝石安山岩(An (py))				3							2				15	157	20	7	1	205
多孔質安山岩(VAn)																26	3			29
細粒安山岩(FAn)				1										1		1				3
角閃石安山岩(An (Ho))																1				1
流紋岩(Rhy)			2	4							1					1				8
閃緑岩(Di)																1				1
細粒斑レイ岩(FG)																2				2
頁岩(Sh)											2			3						5
赤色頁岩(RSh)			1																	1
細粒凝灰岩(FT)				1																1
粗粒砂岩(CSS)																5				5
中粒砂岩(MSS)																1				1
細粒砂岩(FSS)																1				1
水晶(RC)										2										2
タルク蛮岩(Ta)													2							2
アプライト(Ap)																1				1
合計		1	158	29	1	1	3	55	3	82	62	66	2	7	24	272	55	12	1	834

個別の石器は明確に時期を特定することはできないが、遺構内あるいは遺物包含層中より出土する土器の多くが縄文時代早期末葉であり、石器の多くも当該の時期のものであると考えられる。

⑴　**石槍**（第116図遺物番号16348）

石槍は１点出土している。縦長の剥片を素材とし、腹面には素材の剥離面を残す。断面三角形の素材剥片の形状を利用している。側縁部はほぼ全周にわたり連続した押圧剥離がなされ、両側縁の中ほどには集中的に剥離が繰り返されて抉入部が作出されている。基部は、左側縁は腹面側から、右側縁は背面側から押圧剥離をして整形している。抉入部は着柄時の緊縛のためのものであると考えられるが、基部にかけての丁寧な剥離を考えると両頭の石槍であった可能性もある。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

⑵　**石鏃**（第116図１～第117図75）

157点出土している。平面形状および抉りの様子で分類を試みた。平面形状は両側縁刃部が直線状のものを「三角形」、刃部全体もしくは一部をカーブさせているものを「湾曲三角形」とした。また、基部の形状により、直線状のものを「平基」、抉りがあるものを「凹基」、抉りが深く脚が器長の1/3に及ぶものを「長脚」とした。平面形状、基部の様子を合わせた分類ごとに記載する。細部調整の出現の仕方においても分類を試みた。細部調整が主に施されている面がいずれか１面に集中しているものをＡ類、細部調整が両面にあるが正面１側縁にあればもう一方の側縁部は粗調整であり、裏面にもそれぞれ組み合わせが見受けられるものをＢ類とした。これは素材剥片表面の側縁部に粗調整を施し、その後反転させ、主に裏面において細部調整を施しているものがＡ類、素材剥片の表面右側縁に粗調整を施し、その後剥片を反転させ裏面の粗調整を施していない側縁部に裏面側から粗調整を施し、最後に粗調整を施していない表裏面の側縁部に細部調整を施して整形しているものがＢ類というような作業工程の差違を反映するものである。第116図５の石鏃がその典型例となる。なお調整の方法が判然としないものはＣ類とした。

形状ごとの時期は明確ではないが、一部についての考察を第７章総括に載せた。あわせて御参照いただきたい。

Ⅰ群　平面三角形・平基（第116図1～15）

平面形状が三角形をなし、基部に抉りがないものをまとめた。24点が該当し、内訳は黒曜石製神津島恩馳島群産22点、箱根畑宿群産１点、流紋岩産製１点であった。このうち15点について掲載した。素材剥片の剥離面を残すものが多く見受けられる。表裏両面に見られるものは、２、７、12、13の他計６点、表裏のどちらか一面のみに見られるものは、３、５、６、10、14、15の他計９点であり、両者を併せれば本群の６割以上を占める。細部調整については、Ａ類は14点、Ｂ類は４点、Ｃ類は７点であった。６、13に関しては先端に縦溝状剥離が見られる。

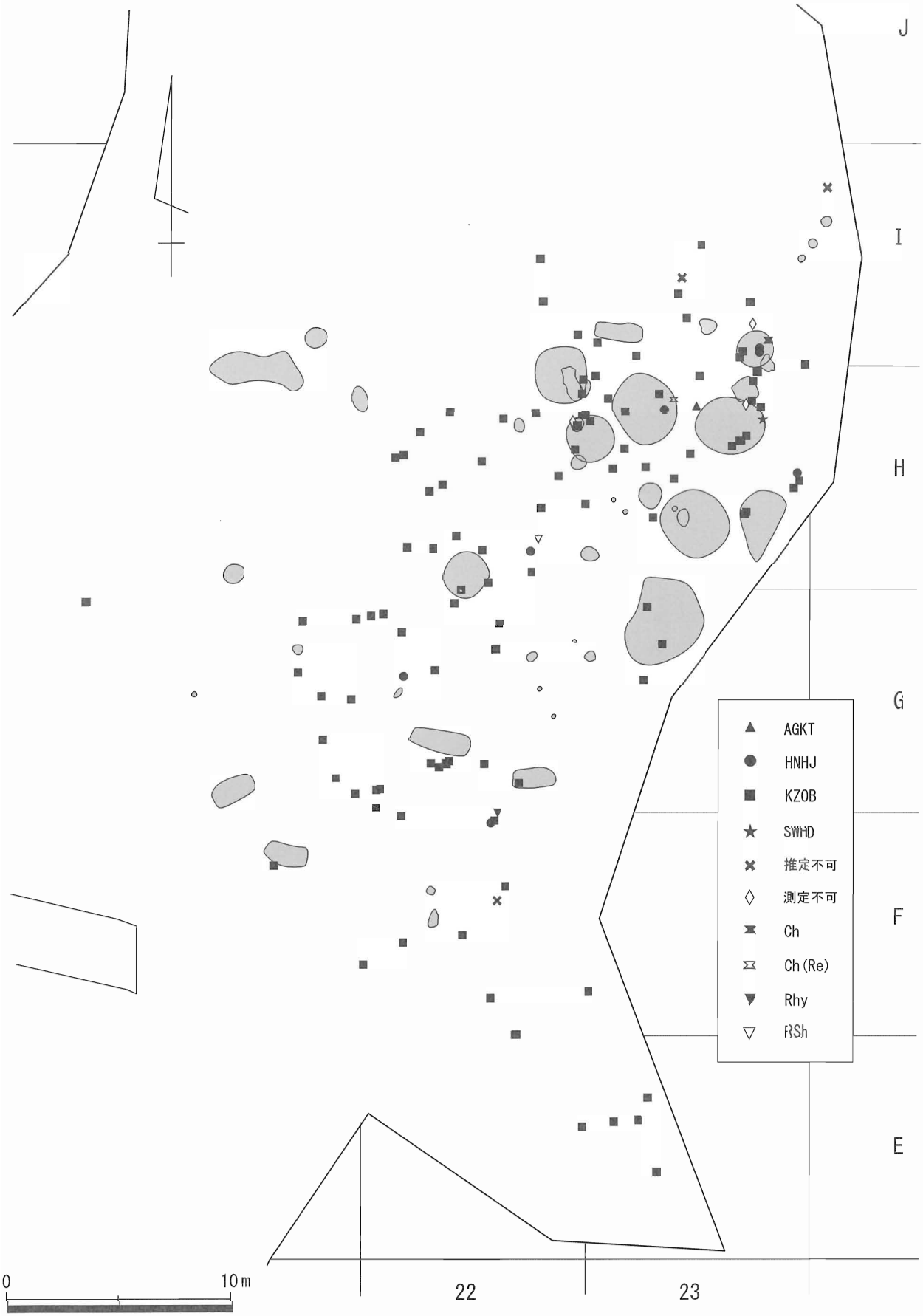
Ⅱ群　平面三角形・凹基（第116図16～第117図37）

平面形状が三角形をなし、基部に若干でも抉りがあるものを本群とした。39点が該当し、産地内訳は黒曜石製神津島恩馳島群32点、箱根畑宿群２点、諏訪星ヶ台群２点、黒曜石産地不明１点、その他の石材としてはガラス質黒色安山岩製１点、チャート製１点であった。このうち22点を掲載した。素材剥片の面を表裏両面に残すものは17、19、22、24、25の他計７点、表裏のいずれか１面に残すものは16、26、29、35の他計７点である。ちなみに信州系石材の２点は素材剥片の面を残していない。細部調整については、Ａ類は10点、Ｂ類は13点、Ｃ類は16点である。

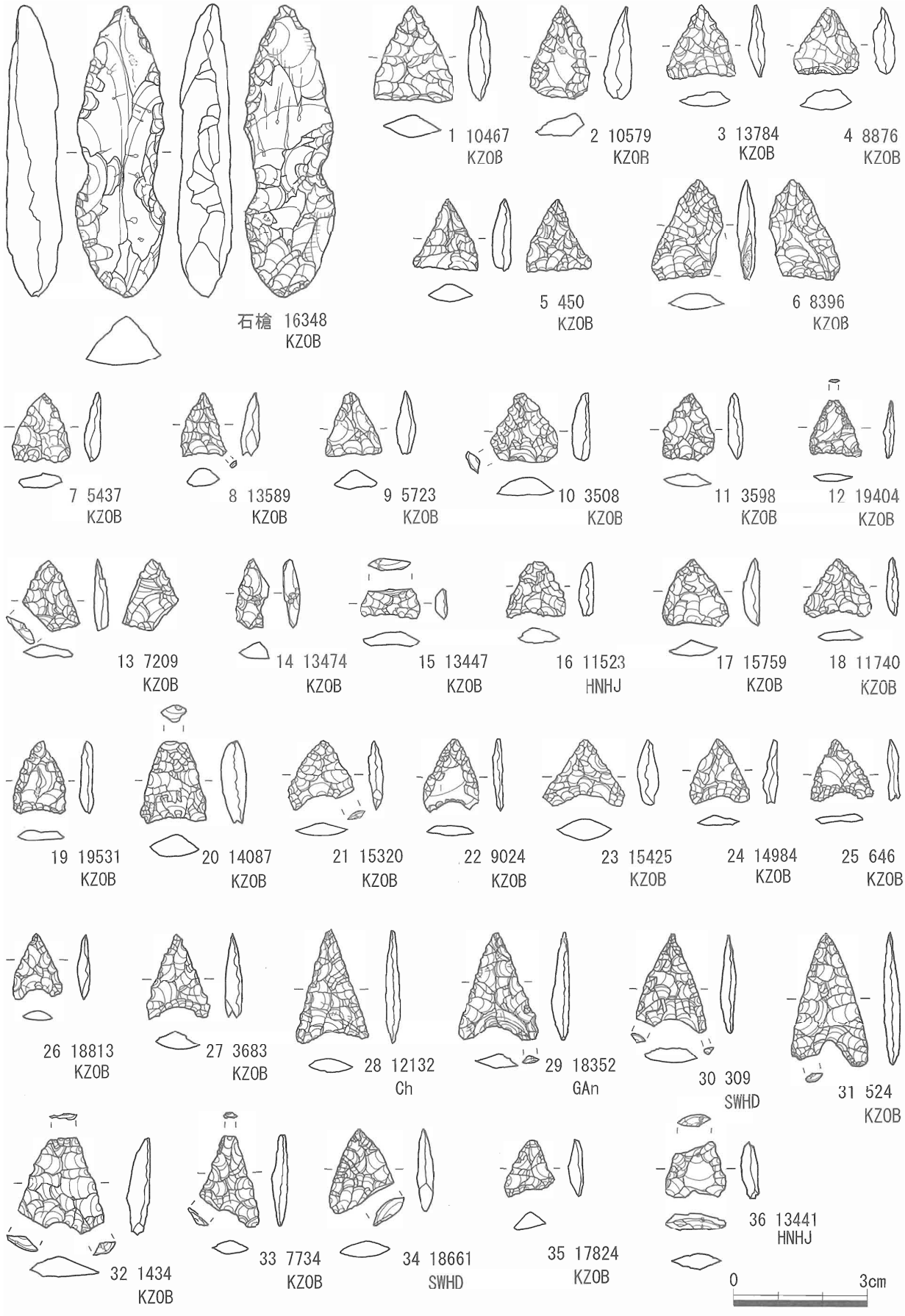
Ⅲ群　平面三角形・長脚（第117図38～43）

全部で６点出土している。黒曜石製で神津島恩馳島群３点、諏訪星ヶ台群１点、和田芙蓉ライト群１点、天城柏峠群１点である。数は少ないが黒曜石産地のバリエーションが富む。素材剥片の面を表裏両面に残すものは40、43でありいずれも黒曜石製、神津島恩馳島群である。39は抉りの奥の部分表裏面ともにすりガラス状になっており、局部磨製石鏃である。黒曜石製で産地は和田芙蓉ライト群である。細

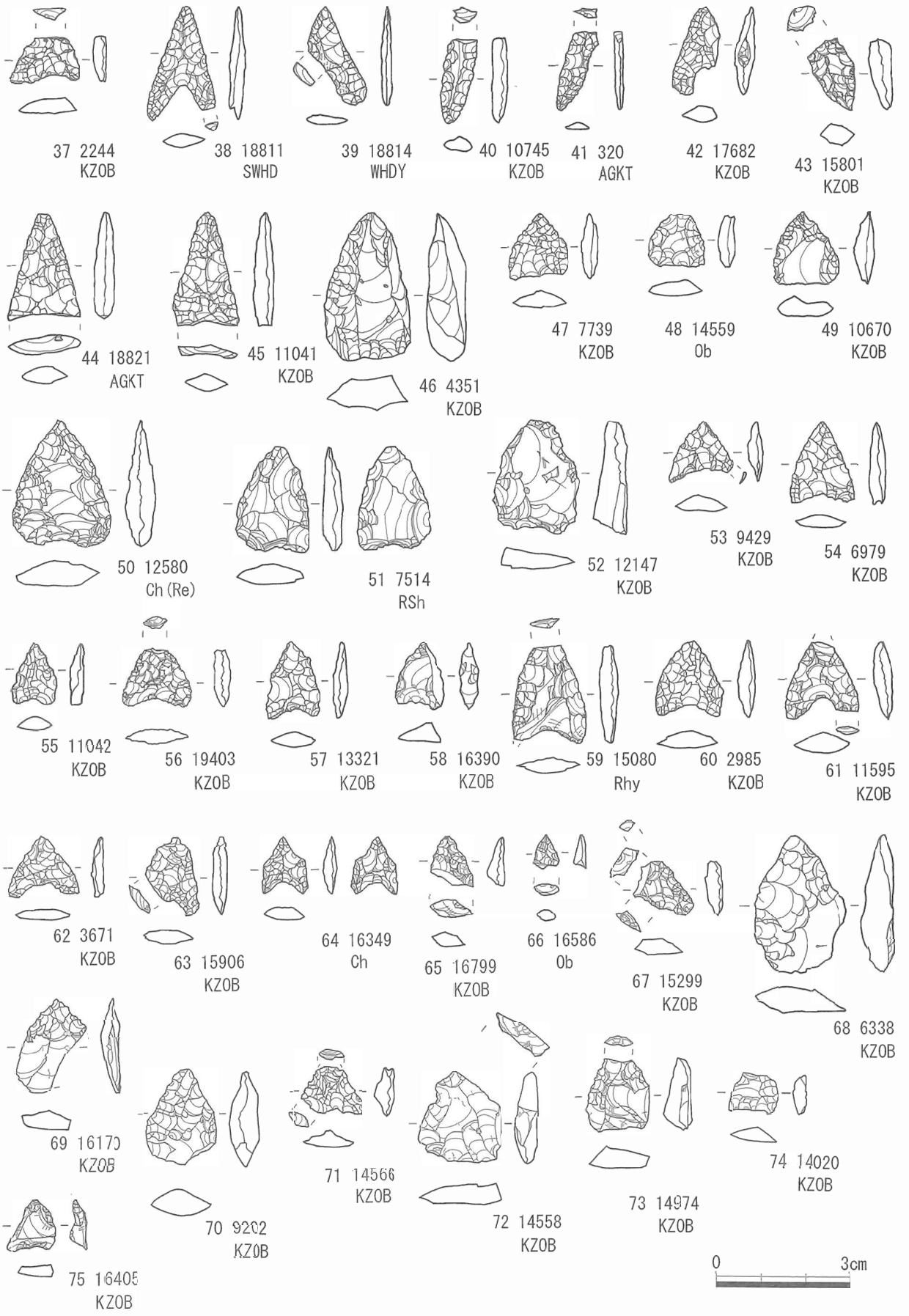
第114図　縄文時代石槍・石鏃産地石材別分布図



第115図　縄文時代石槍・石鏃産地石材別分布図(集落域)



第116図　縄文時代石器(1)石槍・石鏃1



第117図　縄文時代石器(2)石鏃２

部調整については、A類は２点、B類は２点、C類は２点である。諏訪星ヶ台群の長脚鏃についての考察は第７章総括でふれる。

Ⅳ群　平面三角形・基部不明（第117図44～45）

基部欠損品ではあるが、刃部の様子から平面形状は三角形であると予想されるものをまとめた。４点が該当する。そのうち２点を掲載した。黒曜石製で神津島恩馳島群２点、天城柏峠群１点、諏訪星ヶ台群１点である。細部調整については、A類は２点、B類は１点、C類は１点である。

Ⅴ群　平面湾曲三角形・平基（第117図46～49）

刃部がわずかながらも膨らむような湾曲しているもので平基のものをまとめた。４点が該当し、すべてを掲載している。内訳は黒曜石製神津島恩馳島群３点、黒曜石産地不明１点であった。素材剥片の面を表裏両面に残すものは46、49、どちらか一面に残すものは48である。細部調整についてはA類なし、B類は１点、C類は３点である。

Ⅵ群　平面湾曲三角形・凹基（第117図50～63）

平面形状が湾曲三角形で基部に抉りのあるものをまとめた。22点が該当し、内訳は黒曜石製神津島恩馳島群18点、黒曜石産地不明１点、流紋岩製１点、赤色頁岩製１点、赤色チャート製１点であった。このうち14点を掲載した。素材剥片の面を表裏両面に残すものは52、58、59の他５点、どちらか一方に残すものは51、55、60の他６点である。細部調整については、A類は３点、B類は６点、C類は13点である。51は裏面に縦溝状剥離と思われる先端部からステップ状の剥離が見られる。

Ⅶ群　五角形（第117図64）

64の１点のみの出土である。細部調整は不明のC類である。チャート製。

Ⅷ群　欠損品（第117図65～67）

平面形状を推測するのが困難なほど欠損が大きいものをここにまとめた。32点が該当し、全て黒曜石製で、神津島恩馳島群25点、箱根畑宿群１点、天城柏峠群１点、産地不明５点であった。このうち３点のみ掲載した。素材剥片の面を表裏両面に残すものは３点、どちらか一方に残すものは９点である。細部調整については、A類は３点、B類は４点、C類は26点である。

Ⅸ群　未製品（第117図68～75）

本群では明らかに未製品と思われるものをまとめた。24点出土している。黒曜石製で神津島恩馳島群23点、産地不明１点であった。このうち８点を掲載した。石鏃の尖頭部を作出しているものが68から71、周縁部に平坦剥離を施しているものが72から74、石鏃を志向した剥片を剥離し、わずかな調整を加えた段階のものが75である。ほとんどのものが素材剥片の面を残している。細部調整については、A類は２点、B類は１点、C類は20点である。

⑶　削器（第120図１～第124図15）

30点出土している。石材は黒曜石11点、ホルンフェルス３点、ガラス質黒色安山岩６点、輝石安山岩３点、細粒安山岩１点、流紋岩５点、細粒凝灰岩１点である。このうち15点を掲載した。

特徴的な形状であるものとして、刃部の一部を尖頭状に整形もしくは残しているものがある。１は石刃のような縦長の断面三角形の剥片を素材とし、右側縁は裏面に連続した剥離を施し、左側縁は裏面に連続して、かつ表面は断続的に剥離を施し、両側縁に刃部を作出している。下部は集中的に表面に細かい打撃が加えられており、尖頭状の形状を意図していた可能性がある。流紋岩製。２は打面を残す大振りな貝殻状の剥片を素材とし、下部および左側縁の表裏両面に細かい調整を施して刃部としている。正面上部には連続した打撃の痕が見られ、打面を除去しようとした痕跡と考えられる。３は右面の自然面が残る場所を打面とした幅広の剥片を素材とし左側縁に両面から連続した剥離を施して刃部としている。

右側自然面からは表面の一部に打撃を加えている痕跡が見られることや、下部には尖頭状の形状を作り出そうとしたような痕跡が見られる。９号陥穴状土坑より出土した。ガラス質黒色安山岩製。４は幅広の剥片を素材としている。左側縁上部と右側縁は表面側に連続した剥離を施して調整し、その後裏面にも加工を施して鋭利な刃部としている。上部は尖頭状の形状を意図している可能性もある。４号住居跡より出土している。ガラス質黒色安山岩製。

刃部を比較的大きい剥離を連続することで鋸歯状にしているものがある。５は左側縁に階段状加工を施し、刃部を作出している。細粒凝灰岩製。６は縦長な剥片を素材とし、左側縁裏面側に連続した調整を加えて刃部としている。流紋岩製。

刃部を複数持つもので一部掻器のような角度の大きい刃部を持つものがある。７は断面三角形の細長い剥片を使い、右側縁全体を刃部としている。下部には細かい調整が施されており、掻器のような刃部を持つ。黒曜石製、神津島恩馳島群。

刃部が広い範囲にわたって作られているものまたは複数箇所調整が施されているものをまとめた。８は石匙にみえるが、突出部を持たないので削器とした。横長の剥片を素材とし、左側縁部全体は裏面に連続した押圧剥離を丁寧に施して刃部を作出している。右側縁に打面を残す。黒曜石製、神津島恩馳島群。９は円礫を原石とし、自然面を多く残す。原石から横長で嵩高の剥片を剥離した後に右側縁の表裏両面に調整を加え刃部としている。上部は裏面にも連続して敲打している。輝石安山岩製。

多少の調整は他にも見られるものの、刃部として使用された部分が１つであると思われるものに以下がある。10は左側縁を表裏両面から断続的に打撃して刃部を作出している。９号陥穴状土坑より出土している。11は自然面を多く残す横長の剥片を素材とし、右側縁中部から下部にかけて両面から調整し刃部としている。ホルンフェルス製。12は縦長で幅広の剥片を中央で折り取り、細長い剥片としたものを素材とし、左側縁および上部の一部に、表面に連続した押圧剥離を施すことでスクレイパーとしている。黒曜石製、神津島恩馳島群。13は厚めの横長剥片の下部を表面に調整を施して刃部としている。９号陥穴状土坑より出土している。細粒安山岩製。

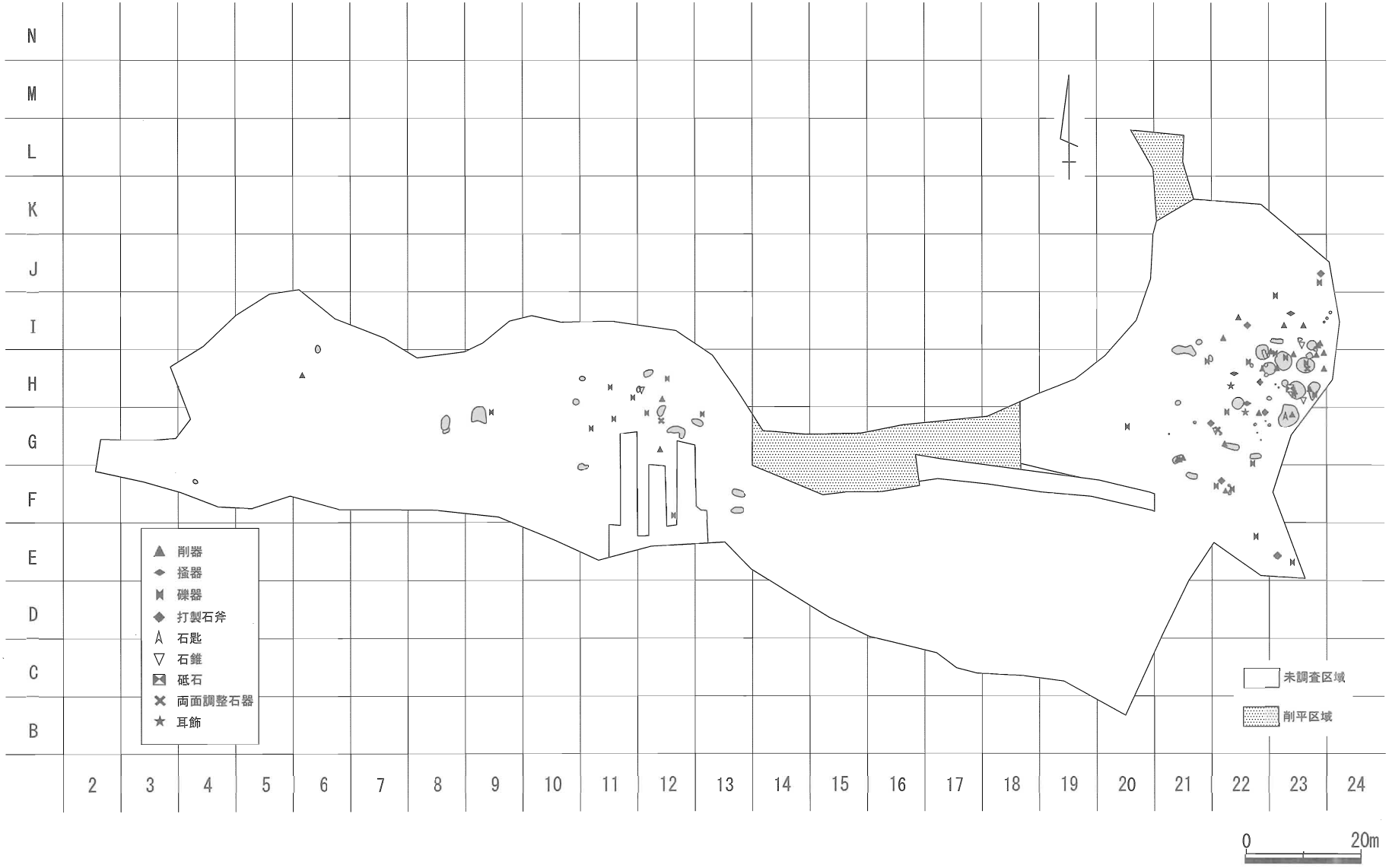
若干の抉りが見られるものが２点出土している。14は縦長の断面三角形の剥片を素材としている。左側縁上部と右側縁上部に裏面から加工を施し、刃部としている。15は右側縁中央付近に抉入部を作出している。上部には微細剥離が見られ、刃部として使用した際の使用痕であると思われる。２号陥穴状土坑より出土している。左側縁中央には、同じく裏面より集中的に剥離を施し、抉入部を作出している。いずれも黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。

(4)　掻器（第124図遺物番号9461）

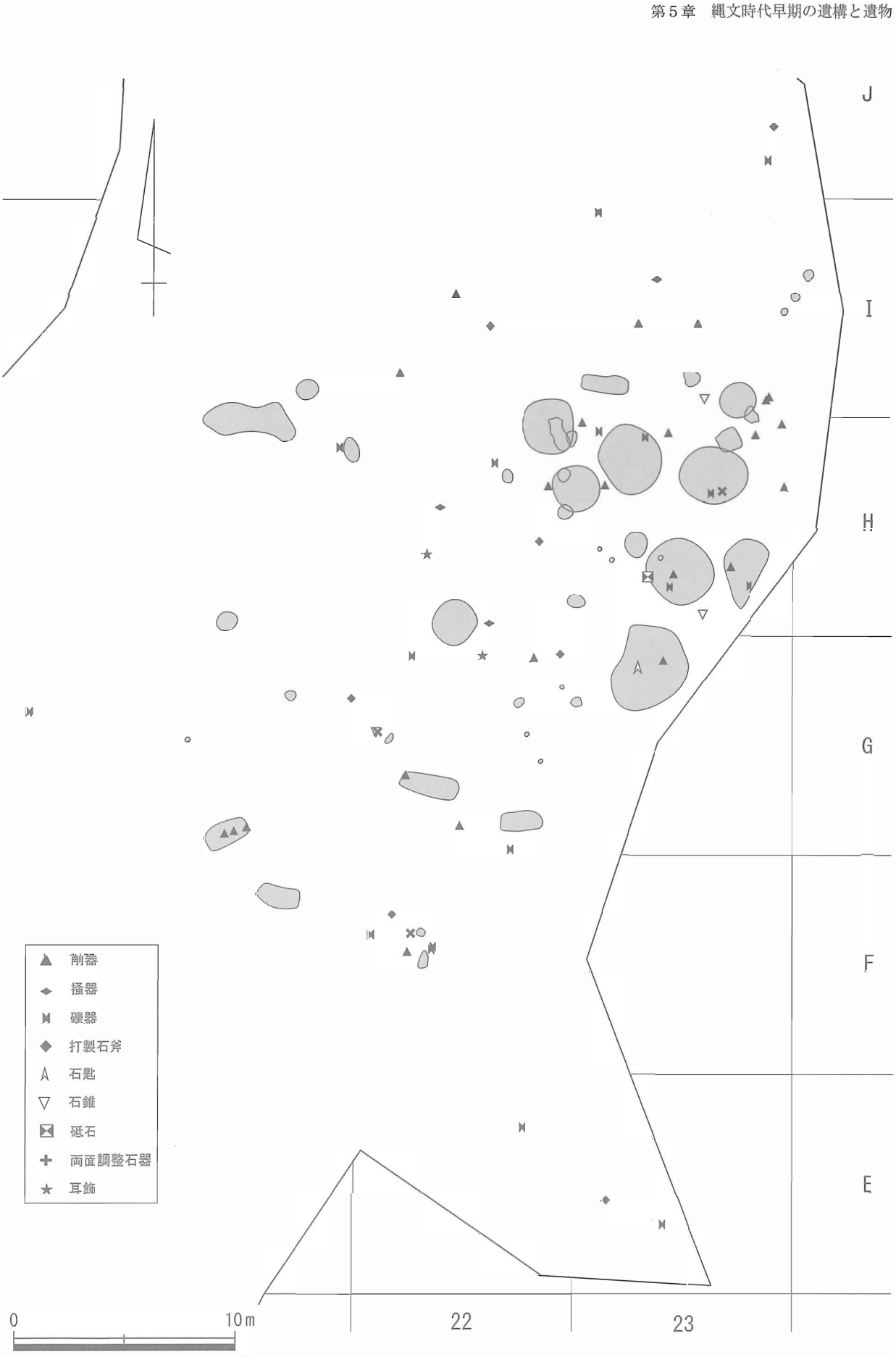
１点出土している。縦長剥片を素材とし、下面に平坦面を作出した後に裏面側からの刃部加工を施し掻器として使用している。黒曜石製、神津島恩馳島群。

(5)　石匙（第124図遺物番号8859）

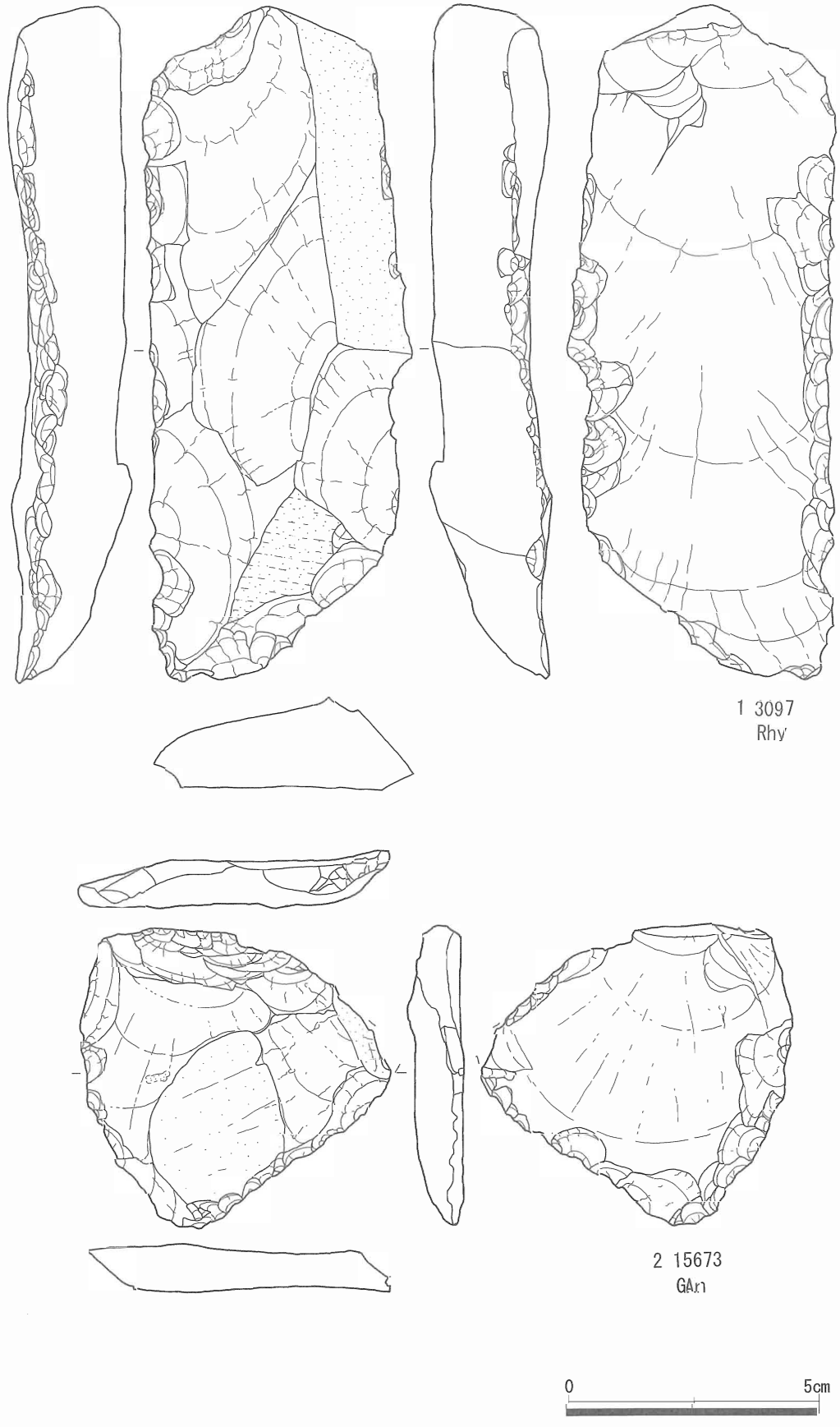
石匙は１点出土している。横長の剥片を素材とし、一部素材の剥離面を残す。摘み部は表面側から折れて欠損している。刃部は主に背面側からの連続した押圧剥離により作出され、嵩高な断面形状になっている。刃部再生のためか押圧剥離開始面が剥片の厚さがあるところまで後退しており、刃部は掻器のような急斜度になっている。４号住居跡から出土している。黒曜石製で産地は神津島恩馳島群。



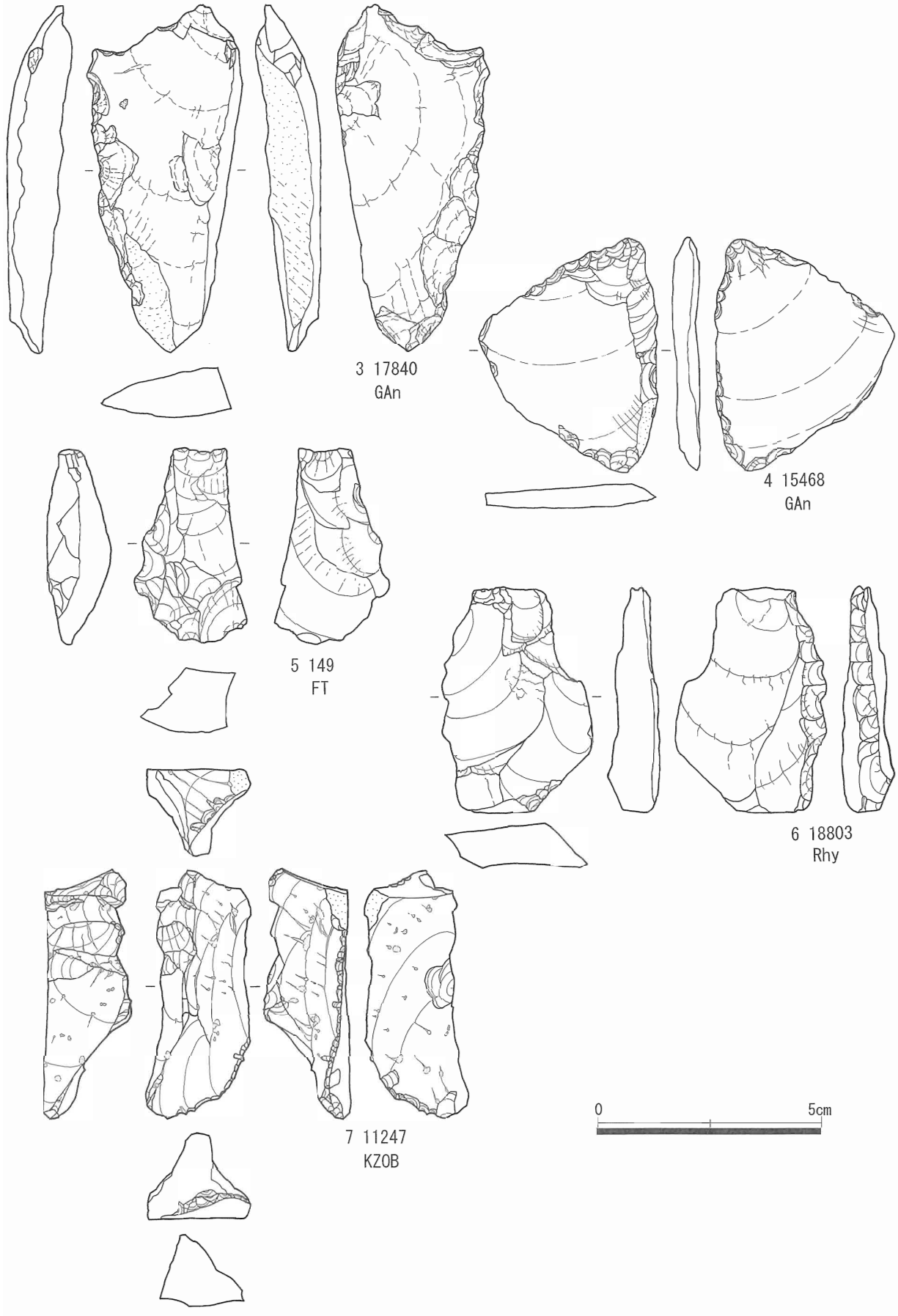
第118図　縄文時代削器・掻器他分布図



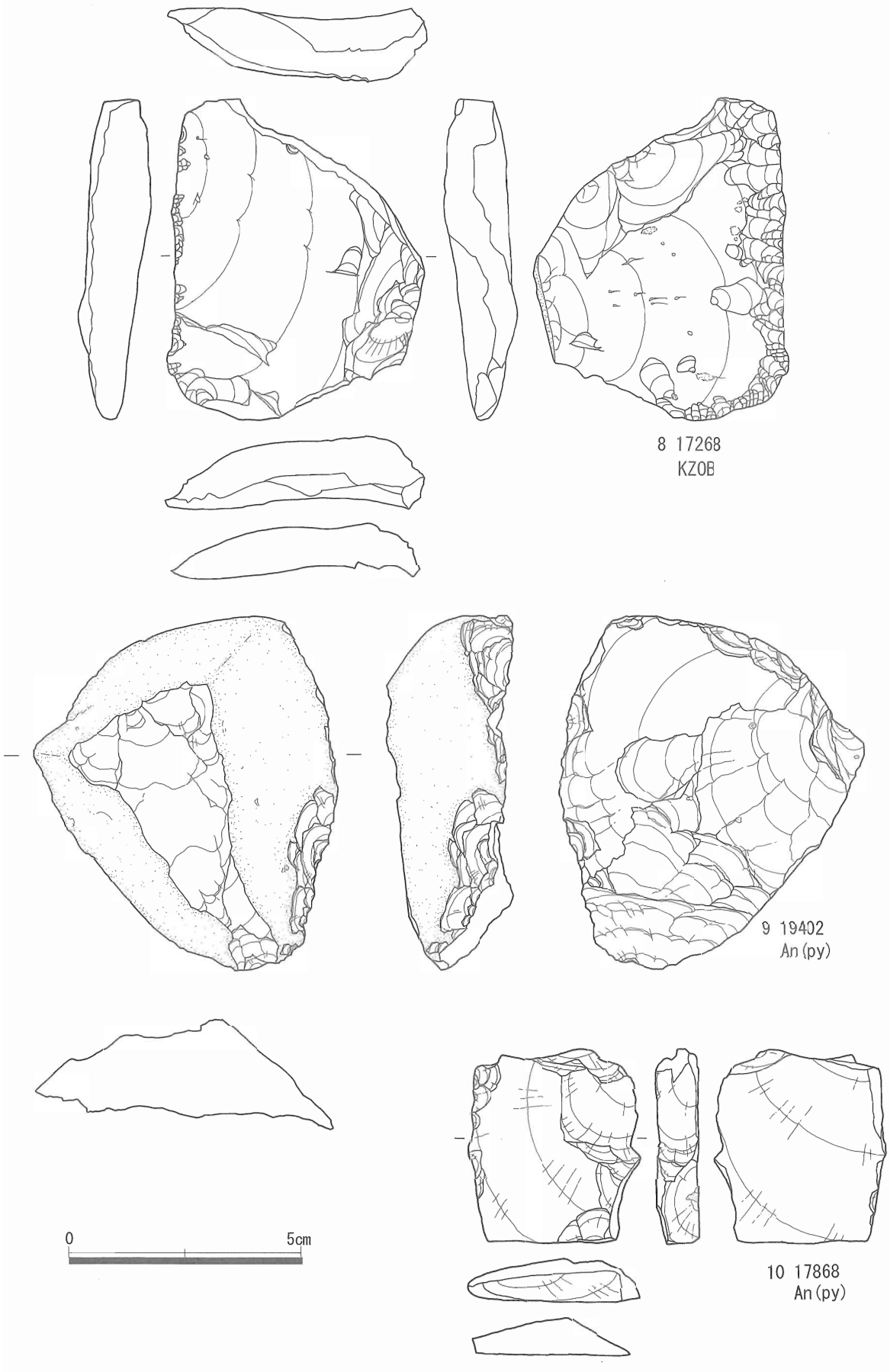
第119図　縄文時代削器・掻器他分布図(集落域)



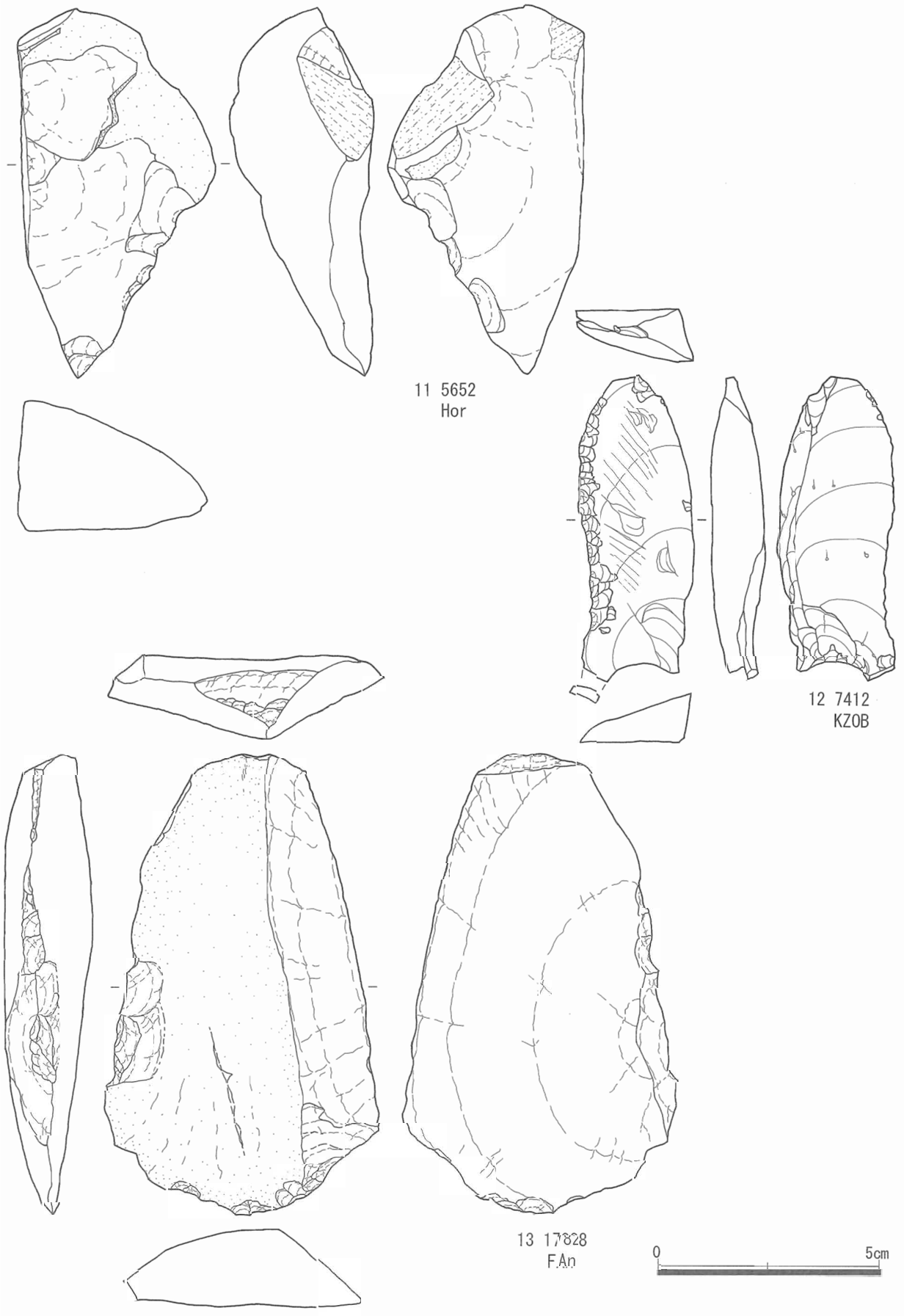
第120図　縄文時代石器(3)削器 1



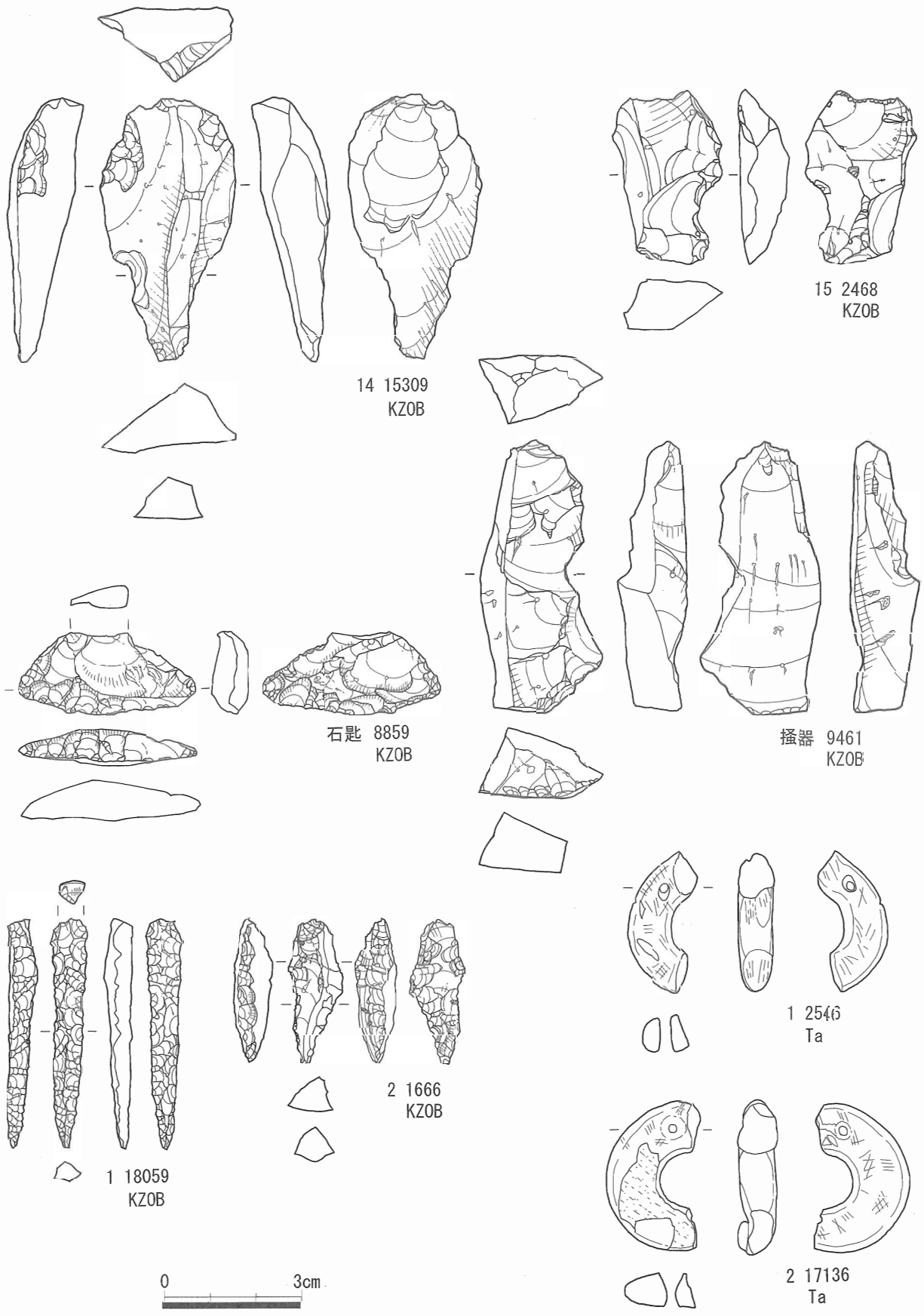
第121図　縄文時代石器(4)削器２



第122図　縄文時代石器(5)削器３



第123図　縄文時代石器(6)削器４



第124図　縄文時代石器(7)削器５　掻器・石匙・石錐・耳飾

⑹　**石錐**（第124図１・２）

３点出土している。１は全周を非常に丁寧に調整している。出土場所は調査区中央の埋没谷付近であり、集落とは時期を異にする可能性がある。２は剥片の一端を尖頭状に整形することで石錐としている。集落域で出土している。３点はいずれも黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

⑺　**玦状耳飾**（第124図１・２）

玦状耳飾が２点出土している。いずれも調査区東側に占地した集落域西の包含層から出土した。１は断面が楕円形を呈し、乳白色、灰白色、黒色とが原石の層ごとに見受けられ、斑状に色が混ざるように見える。スリットとは反対側に穿孔があり、その近くから欠損していることから補修孔と考えられる。穿孔内には稜が見られることから表裏両方向から穿ったのであろう。スリットの部分は丁寧に磨き上げて角を取り、滑らかに加工してある。左面に見受けられるように、断面の円に沿うような線状痕が側縁に残る。整形時の磨り痕であろう。

２は断面が楕円形を呈し、光沢のある褐色をしている。これも同様に表裏両方向から穿ったと思われる内部に稜を持つ穿孔がある。穿孔付近の折れは風化し、さらに磨かれたかのような光沢をもつ。反対の折れはスリット部であると思われるが研磨の痕跡はみられない。

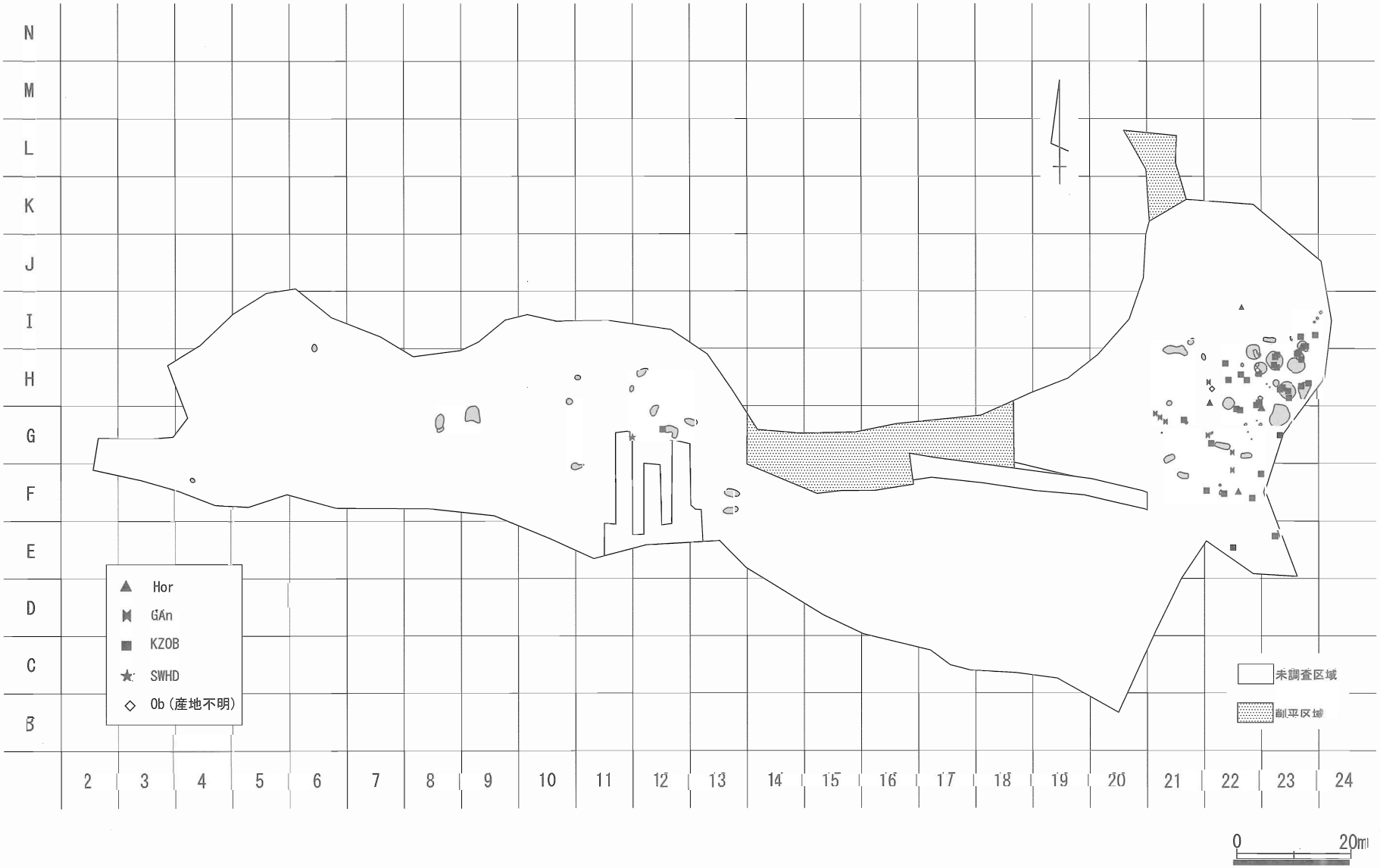
両者はともにタルク溶岩いわゆる滑石製であるが、色、手触り、スリット部の研磨の有無などかなり異なる。前者はミニチュア土器と、後者は特異な形状の石皿とに近接して出土している。出土様相からの考察については第７章総括において触れたい。

⑻　**石核**（第127図１～第131図16）

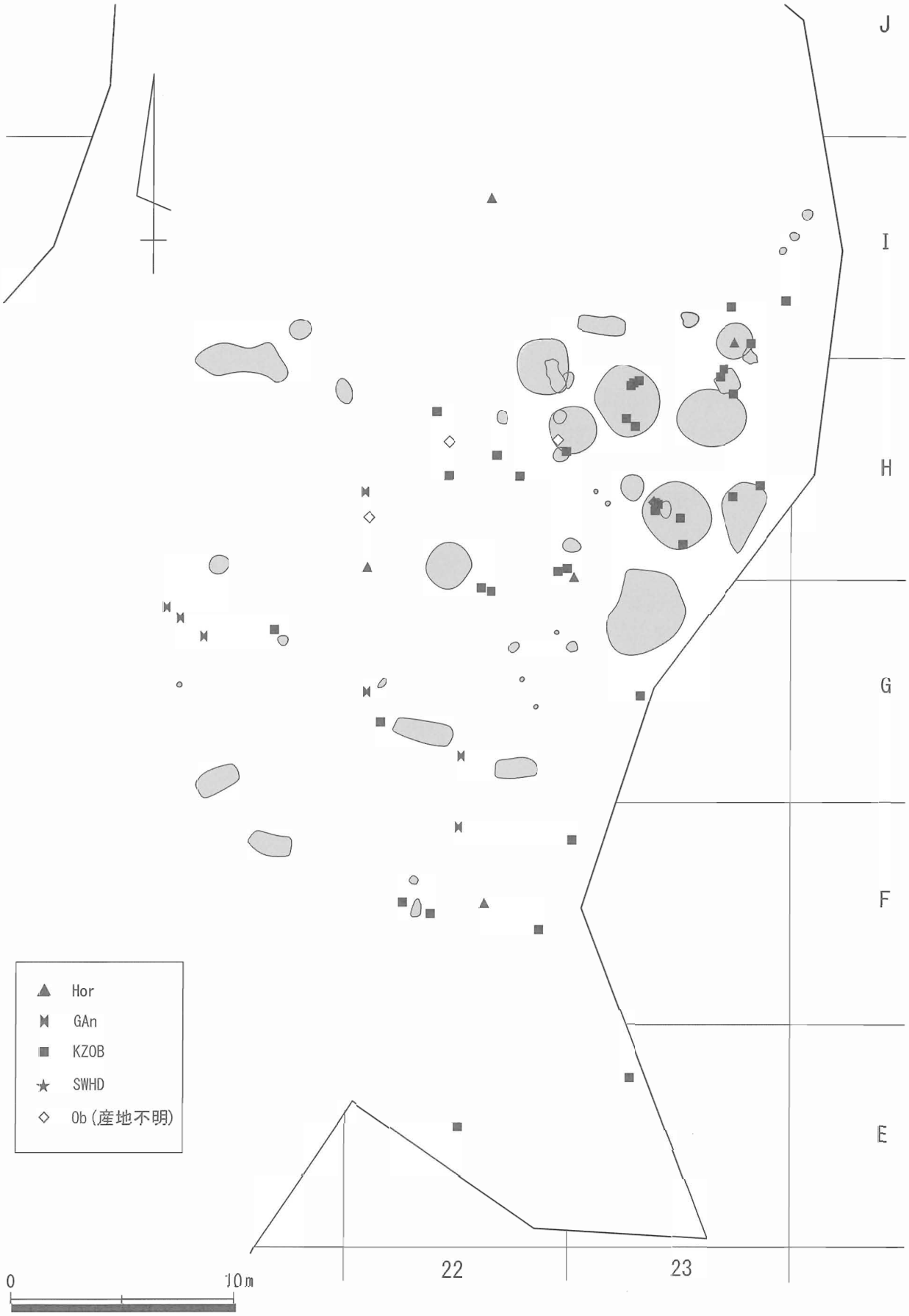
54点出土している。黒曜石は41点、産地の内訳として神津島恩馳島群36点、諏訪星ヶ台群１点、分析不可等４点、ホルンフェルスが６点、ガラス質黒色安山岩が７点である。石鏃以外で製品において諏訪星ヶ台群の黒曜石を使うものは石核１点だけである。このうち16点を掲載した。剥片石器の素材となる貝殻状剥片を作るために、打面の転移を頻繁に行っている様子がうかがわれるものが多い。主要な剥片剥離の様子から大きく４群に分類した。Ⅰ群は打面を作り比較的定まった方向から打撃を加えて剥片を取り出そうと意図しているもの、Ⅱ群は石核の周縁部から求心的に打撃し剥片剥離を行っているもの、Ⅲ群は両極打撃のように対極的な方向からの剥離が残る方法で剥片をとろうと意図していたもの、Ⅳ群は石核の多くの面を多方向から打撃し剥片剥離をしているものとした。Ⅰ群は先定剥離作業的な要素が見受けられるが、Ⅱ群からⅣ群は優先的な打面をもたずに剥片を剥離するたびに打面を選び作業をしている点で異なるといえる。

Ⅰ群　（第127図１～第129図８）

打面を作り定まった方向からの打撃で剥片を取り出そうとしたものをまとめた。１は非常に大きい石核である。上面に多方向からの調整を加えて平坦な面を作り、表面および右面を主な作業面として上からの打撃を加えて縦長の剥片を剥離している。下方には剥片剥離開始面とは対極的な細かい剥離が見られること、さらには下方エッジには潰れが見られることから台のようなものに置いて作業をしたものと考えられる。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。２は上面を裏面側より打撃し平坦面を作り、それを打面として正面、裏面において幅広の剥片を剥離している。ガラス質黒色安山岩製。３は上面を打面として剥片剥離をしている。自然面を残す。１号竪穴状遺構から出土した。ホルンフェルス製。４は石核上部を裏面側より大きく打ち割り打面を作り出している。表裏両面に作業面が残る。ガラス質黒色安山岩製。５は上面を平坦に調整した後に打面として貝殻状剥片を剥離している。４号住居跡出土。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。６は上面を打面として調整し剥離しているが、正面左方向からも剥離をしてい



第125図　縄文時代石核:石材別分布図



第126図　縄文時代石核石材別分布図（集落域）

る。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。７は上面を打面として整えた後に表面と裏面を作業面としており、上方向からの打撃により目的とする貝殻状剥片を剥離している。特に裏面側の剥離に際して打面調整を施したような痕跡が残る。２号竪穴状遺構から出土した。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。８は上面を打面とした剥離を最終作業面としているが、下面にも作業面を残す。４号住居跡から出土。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

Ⅱ群　(第129図９～第130図11)

石核の周縁部から求心的に打撃し剥片剥離を行っているものをまとめた。９は自然面を多く残す角の磨耗した礫を素材としている。表面を周縁部全体から敲いて剥片を剥離している。表面は平坦になっており打面として利用することを考えていた可能性もある。10は大きい原石を使用している。正面左側上部は節理で割れている。ホルンフェルス製。11は接合資料である。亜角礫のガラス質黒色安山岩を素材とし、自然面を多く残す。遺物番号1173の石核に2309の剥片が接合した。

Ⅲ群　(第130図12～第131図15)

対極的な方向からの剥離が残る方法で剥片をとろうとしたものをまとめた。作業台の上に置いて加撃し剥片剥離を行ったのであろう。12は上方向からの剥離を最終作業面としているが、その際に剥離の痕跡にステップが見られ、対極的な方向からの力が加わったものと考えられる。２号住居跡から出土した。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。13は上方向からの連続した打撃に対し、下部に細かい剥離が見られる。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。14は諏訪星ヶ台群の黒曜石を使用しているもの。自然面を打面として剥離した剥片をさらに石核として打面転移を行いながら剥片を作り出そうとしている。なお出土層位は砂沢スコリアと比較的上層であること、調査区中央部埋没谷付近から出土していること、あわせて産地が本遺跡では希少なことなどを考え合わせると早期末葉の遺物ではない可能性がある。15は接合資料である。正面上方からの打撃により貝殻状剥片を取り出した際に生じたと思われる小さい剥離が下方にわずかであるが残る。石器集中（BL02）より出土しており、石核17765は剥片17772と接合した。黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

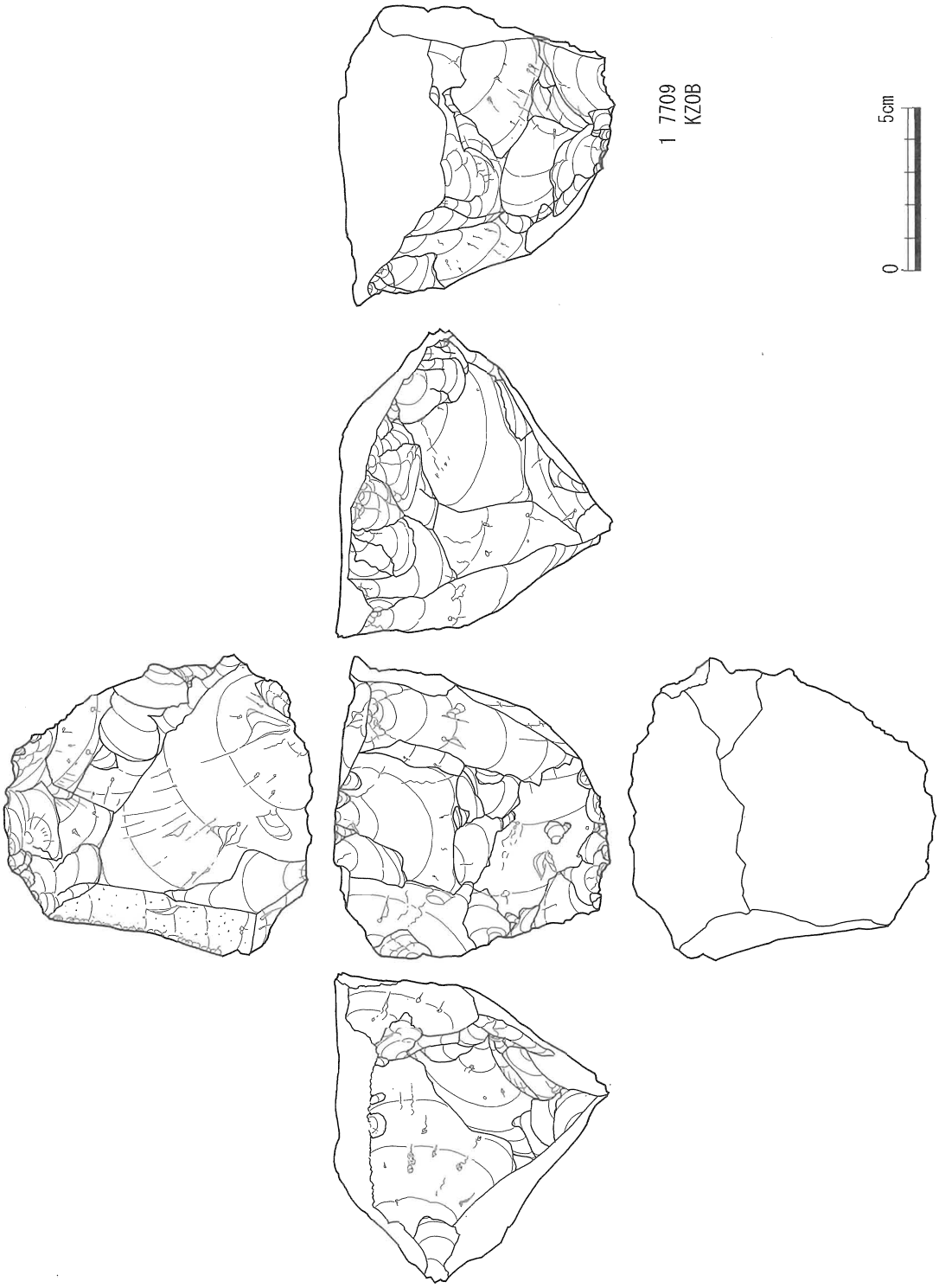
Ⅳ群　(第131図16)

打面転移が頻繁に行われているものをまとめた。画一性は見られず、作業過程で生じた平坦な面をその都度、打面としている様子がうかがわれる。接合した１点を掲載した。石核2308は剥片1863と接合した。ガラス質黒色安山岩製。

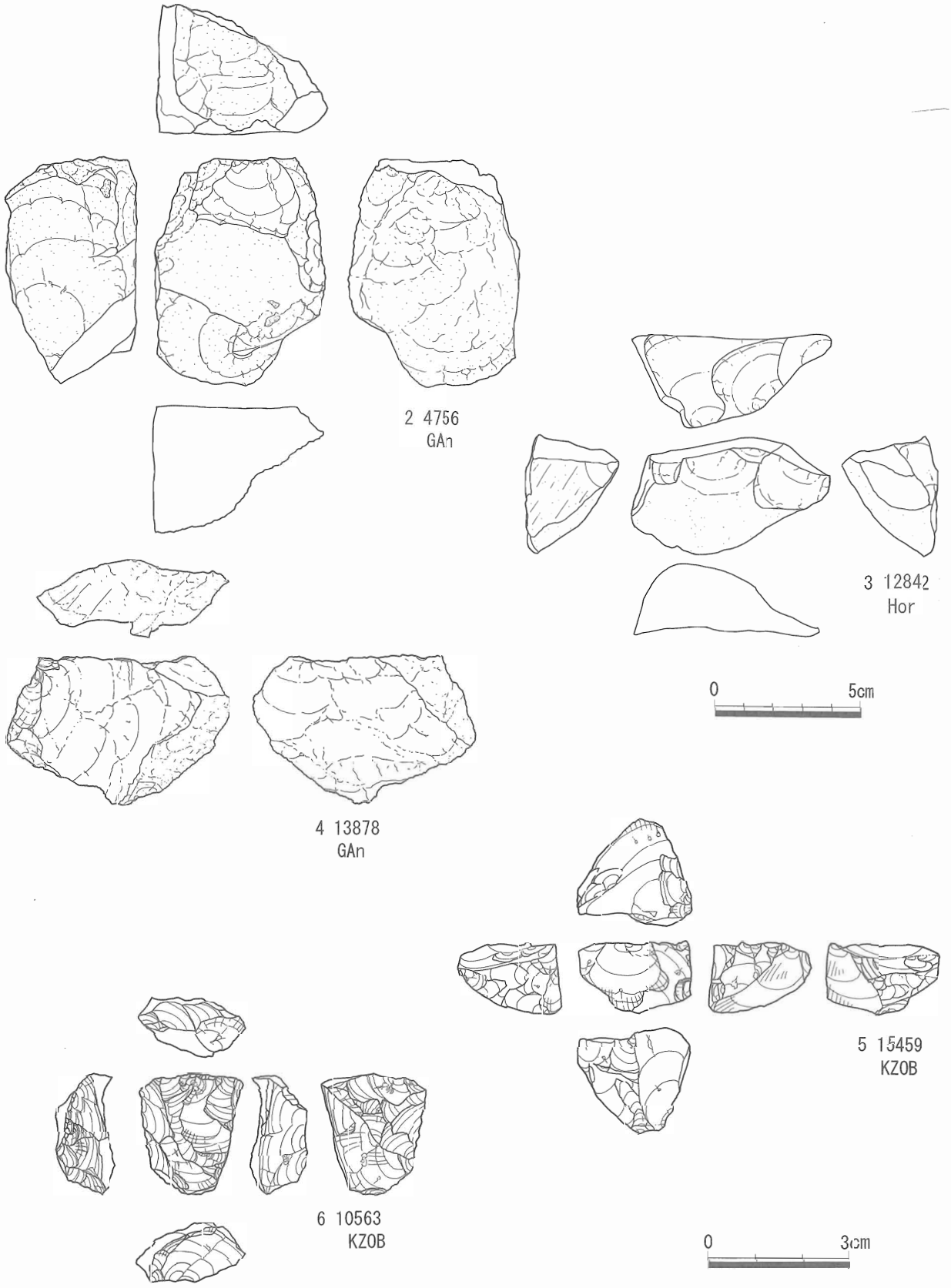
(9)　両面調整石器（第132図１～３）

両面をほぼ全周にわたって剥離が見られるものを両面調整石器とした。が適当なものも含んでいる可能性がある。３点出土しており、ホルンフェルス２点、ガラス質黒色安山岩１点である。

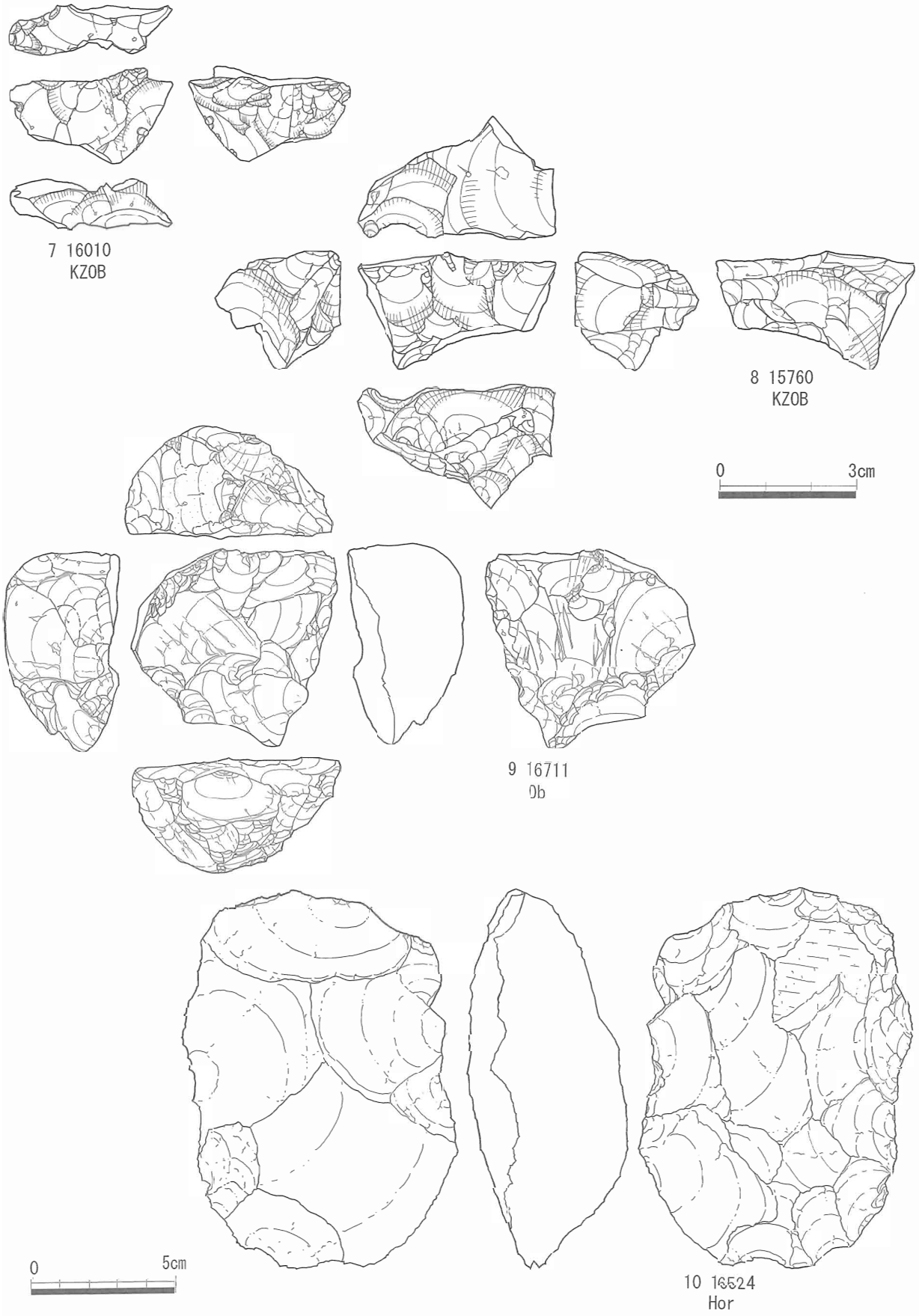
１は握りこぶし大の大きさで、正面は全周を裏面側から求心的に、裏面は正面側左側縁部を直接打撃により剥離を行っている。削器の可能性もある。１号住居跡から出土している。ホルンフェルス製。２は比較的横長の不定形剥片を主に表面側に調整を加えている。石核の可能性もある。ホルンフェルス製。３は接合資料である。18319、18517が接合している。自然面を一部残す幅広の剥片を素材としている。正面は右側縁を、裏面は左側縁を調整しており、中央で２つに折れた後も折れ面から敲いた痕跡が一部見られる。削器のように使用された可能性がある。ガラス質黒色安山岩製。



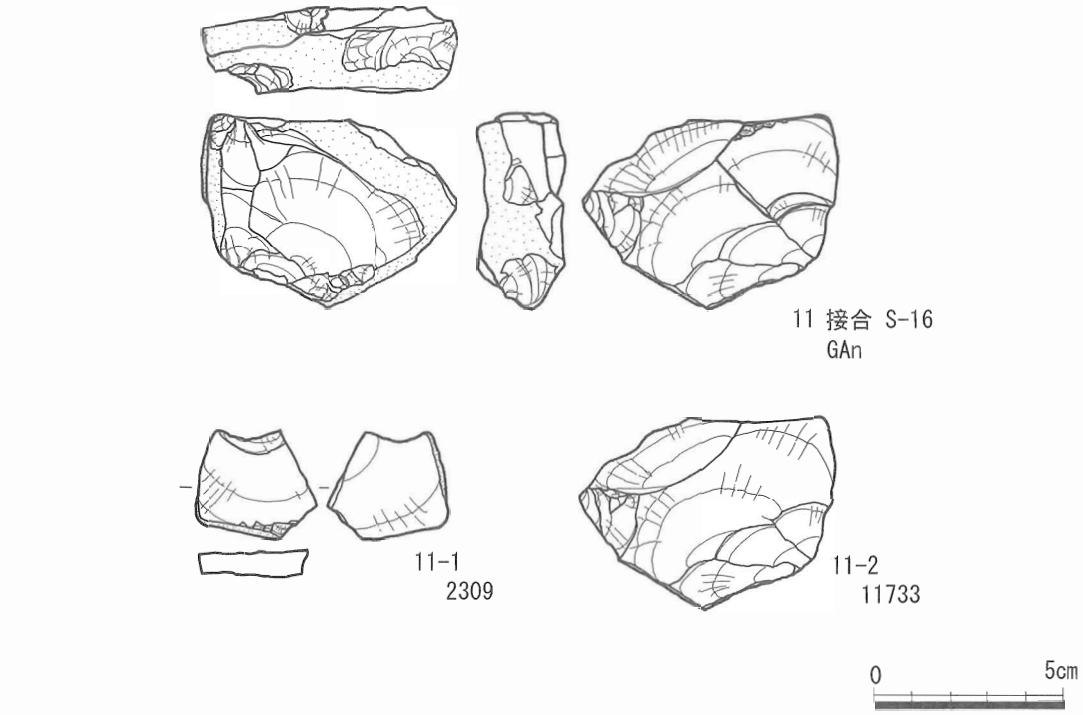
第127図　縄文時代石器(8)石核１

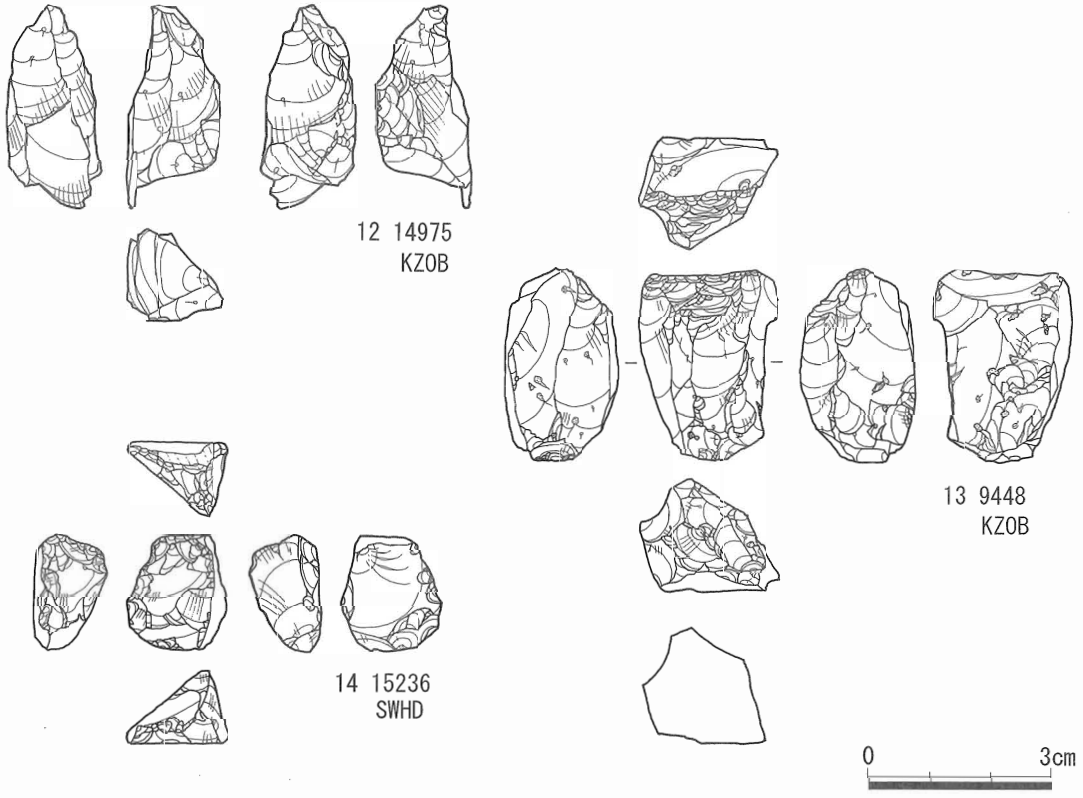


第128図　縄文時代石器(9)石核２

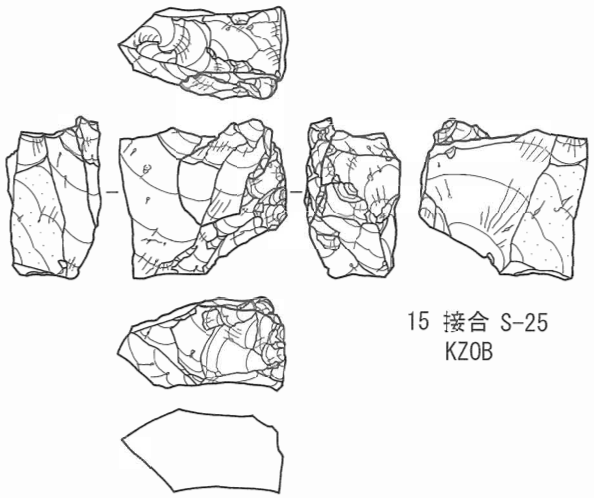


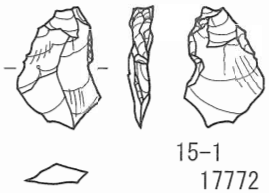
第129図　縄文時代石器(10)石核３

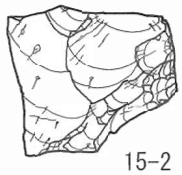


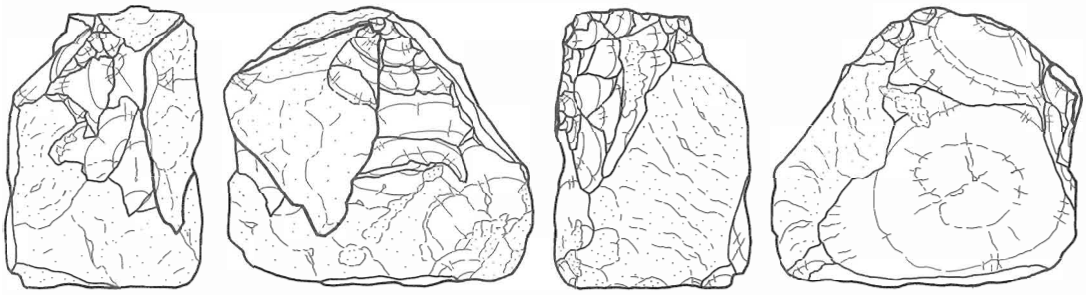


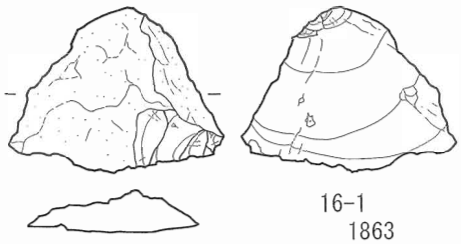
第130図　縄文時代石器(11)石核４

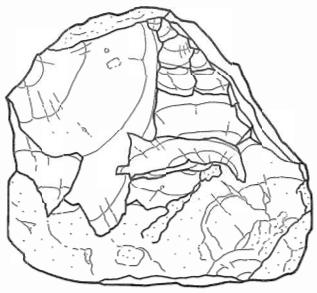




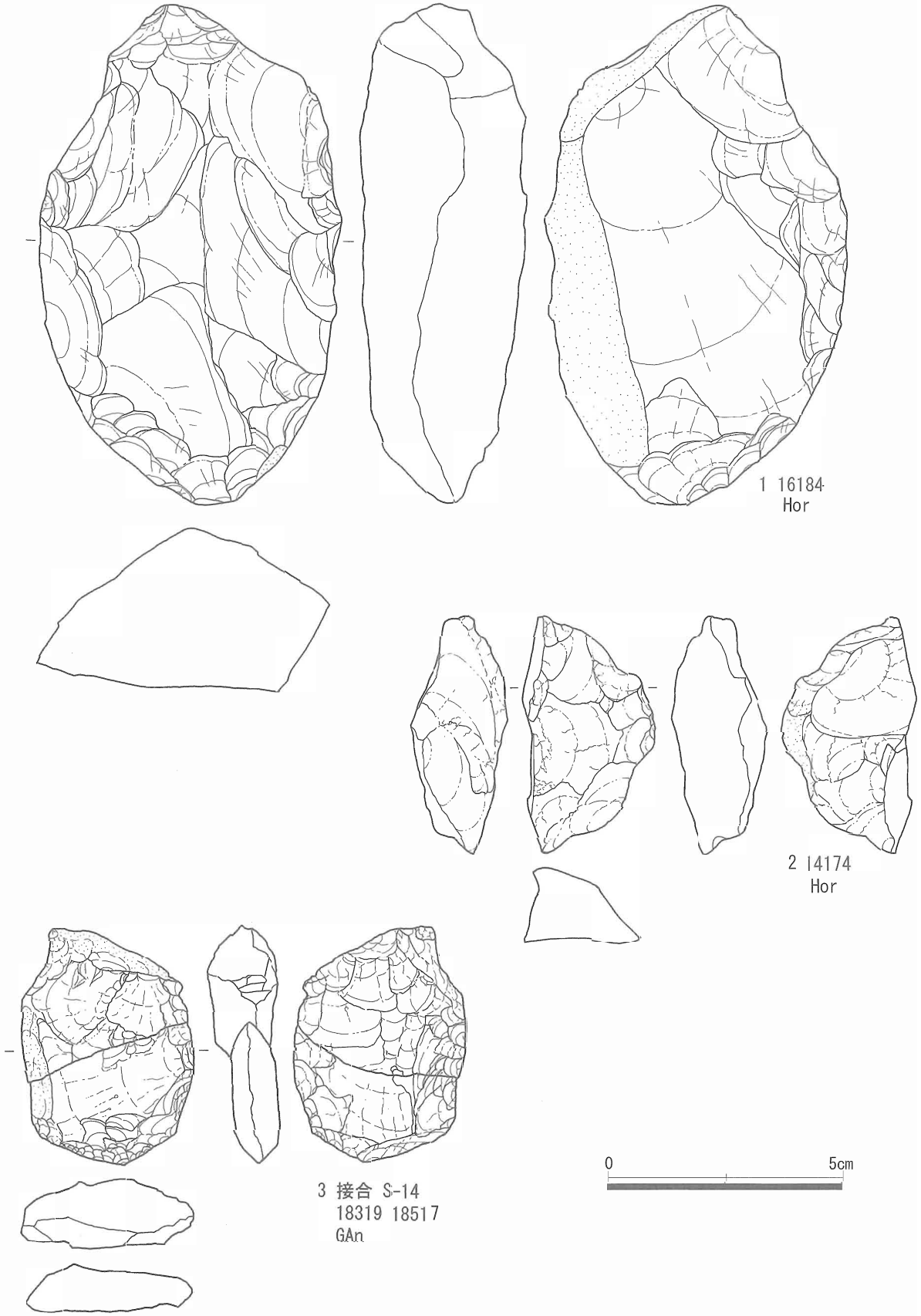








第131図　縄文時代石器⑿石核５



第132図　縄文時代石器(13)両面調整石器

⑽　楔形石器（第135図１～第136図22）

81点出土している。このうち22点を掲載した。黒曜石製が75点でほとんどを占める。黒曜石の産地内訳は、不明が２点でその他は全て神津島恩馳島群である。本器種では、Ⅰ群としたいわゆる「曽根型細石核」といわれていた石核的な要素が多いものと、Ⅱ群とした剥片状のものに両極打撃を加えたものとの２群に分類した。前者は残核をさらに分割しようと試みたもの、また後者は剥片をあてた状態での打撃により対象物を割ろうとした作業の産物であると考えられる。また、後者の中には、石核から石鏃の素材となる剥片を剥離しようとする作業のなかで作り出されたものも含まれている可能性もある。

Ⅰ群　石核的要素の多い楔形石器（第135図１～５）

特に細長の剥離の痕跡が見られるものを本群とした。17点が該当する。そのうち５点を掲載した。３、４は両極打撃による剥離のほかに側縁部にも小さい剥離が見られるものである。横方向の剥離の対面はいずれも折れてなくなっているが、横方向も使用した可能性がある。いずれも黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。その他のものは敲打方向を基本的に転移させず上下に両極打撃の痕跡が残るものである。１が水晶製で、他は全て黒曜石製、産地は神津島恩馳島群。

Ⅱ群　剥片状の楔形石器（第135図６～第136図22）

剥片形状のものに両極打撃の痕跡が残るものをまとめた。64点が該当するが、17点について掲載した。６～８は両極打撃の痕跡が上下と左右といったように敲打方向を転移させていると思われるもの、９～11、22は上下一方向のほかにも打撃痕が見られるが一方が折れ等により確認できないもの、それ以外は主に敲打方向を基本的に転移させず上下などに両極打撃の痕跡が１対残るものである。15は水晶製、19はガラス質黒色安山岩製、他は全て黒曜石製であり、産地は13が不明であり、残りは全て神津島恩馳島群。

⑾　加工痕のある剥片（第137図1～第138図25）

61点出土している。このうち25点を掲載した。素材となる剥片の形状を「縦長の剥片」、「幅広の剥片」、「貝殻状剥片」、「不定形な剥片および不明」の大きく４群に分類した。調整が加えられていることから素材剥片の形状が不分明なものが多いため、分類はあくまでも傾向として捉えていただきたい。

Ⅰ群　縦長の剥片を素材とするもの（第137図１～４）

素材剥片の長軸方向にリングが生じているもの６点をまとめ、そのうち４点を掲載した。３は楔形石器の可能性もある。全てが黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。

Ⅱ群　幅広の剥片を素材とするもの（第137図５～第138図10）

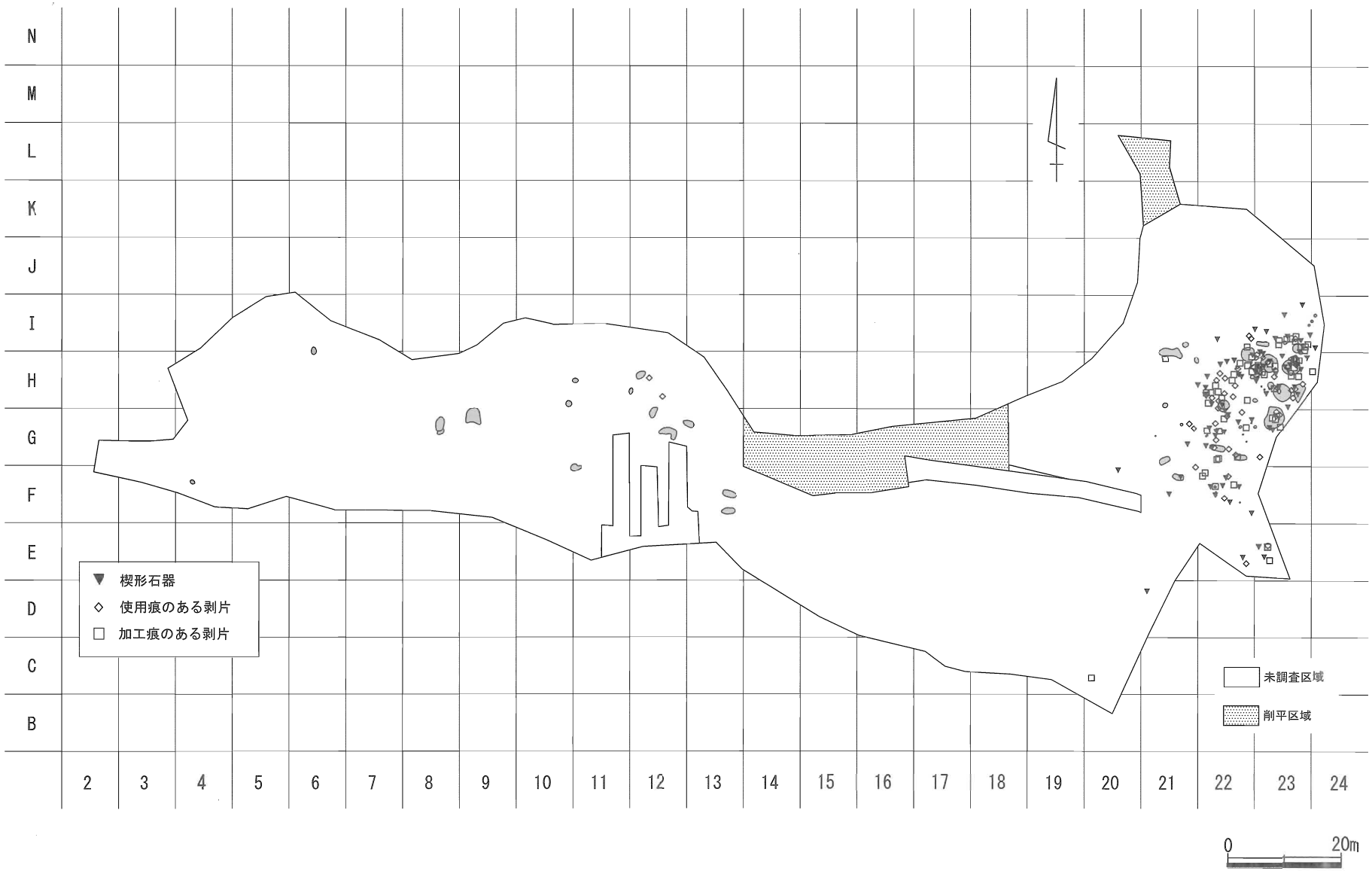
15点をまとめ、そのうち６点を掲載した。５は正面側を連続した押圧剥離で調整を加えている。石鏃を作ろうとしていたのかもしれない。７は折れ面以外ほぼ全周にわたって調整を加えられている。下部を刃縁とする撥形に近い形状の打製石斧が欠損したものである可能性がある。頁岩製。図化したもののうち、７以外はすべて黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。図化していないものの中に、輝石安山岩製のものが１点ある。

Ⅲ群　貝殻状剥片を素材とするもの（第138図11～12）

幅広の剥片の内、特に調整前の素材剥片が貝殻状であったと予想されるもの５点をまとめ、２点のみ掲載した。11は輝石安山岩製。その他は黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。

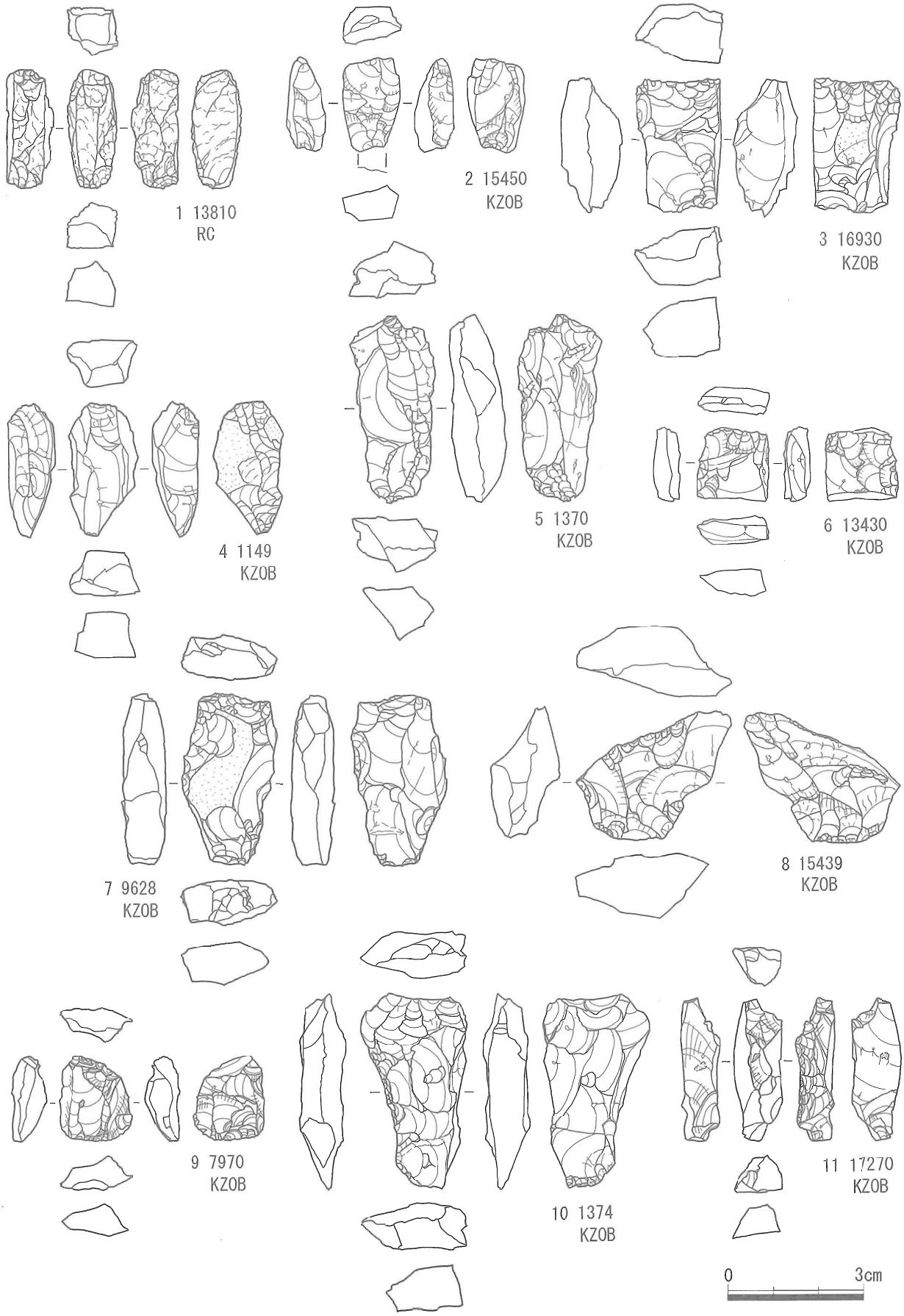
Ⅳ群　不定形な剥片を素材とするものおよび不明（第138図13～25）

35点をここにまとめ、うち13点を掲載した。18、22、23は尖頭状の形状を意図していた可能性がある。19が流紋岩製。その他は全て黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。

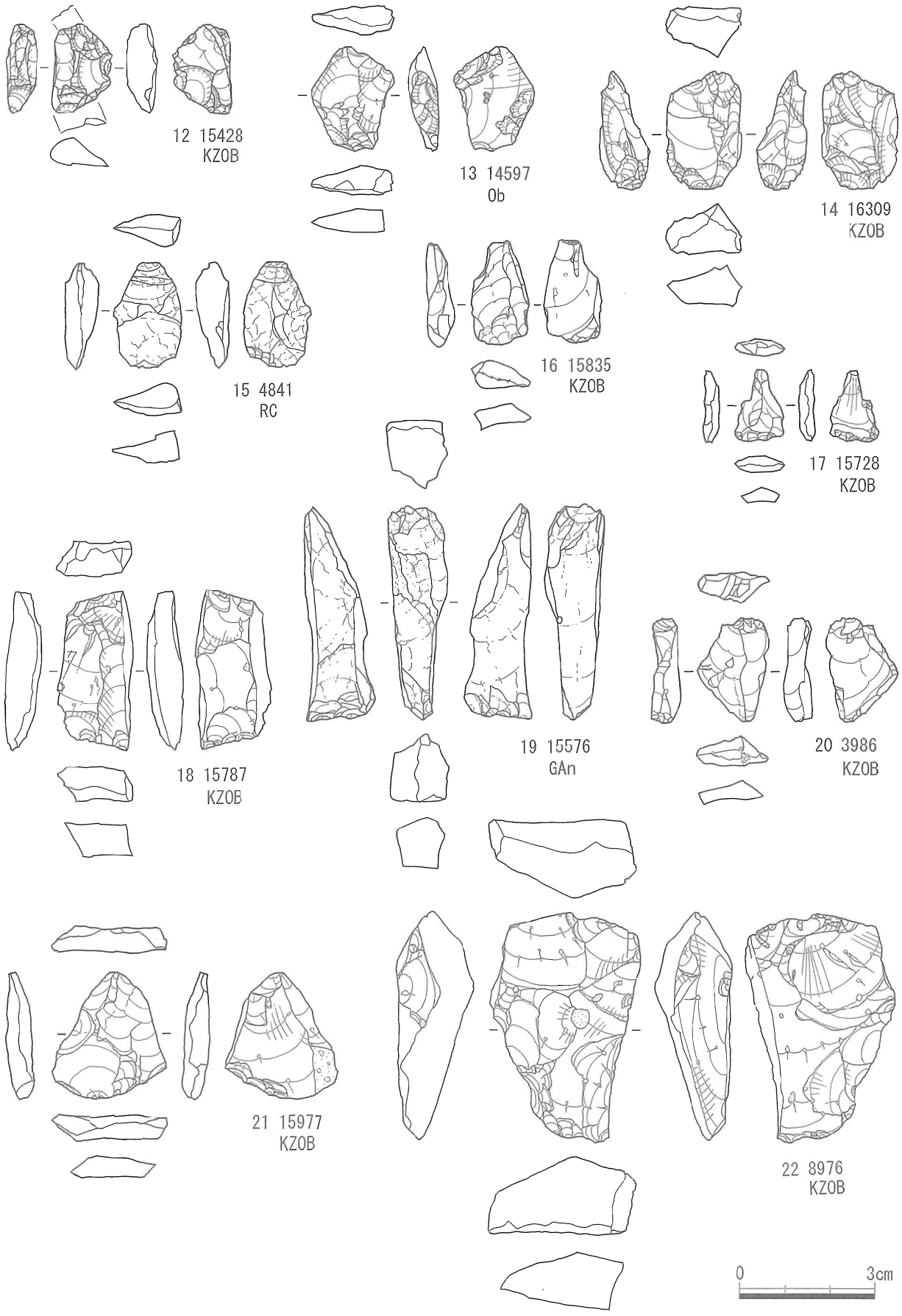


第133図　縄文時代楔形石器・加工痕のある剥片・使用痕のある剥片分布図

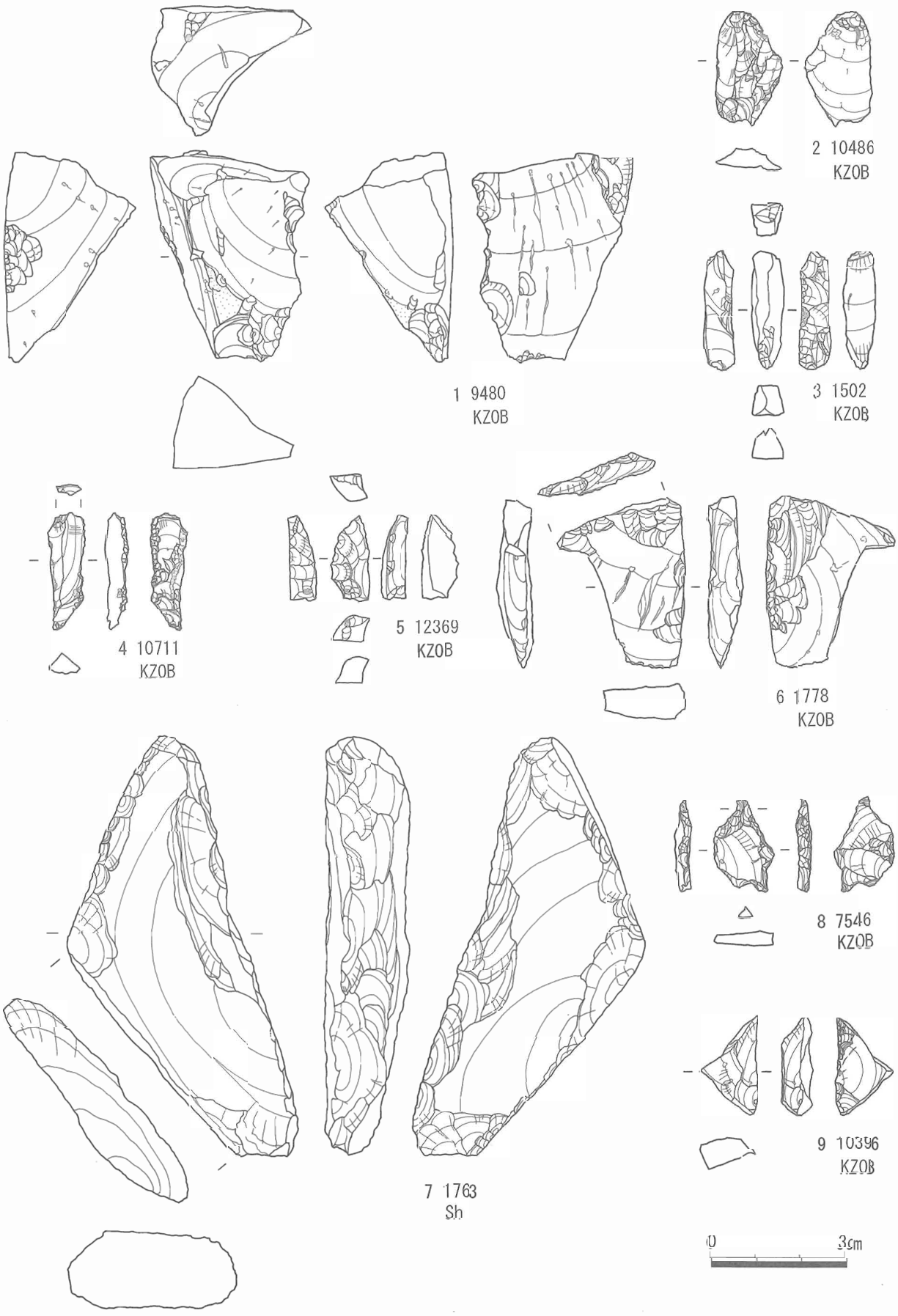
第134図　縄文時代楔形石器・加工痕のある剥片・使用痕のある剥片分布図(集落域)



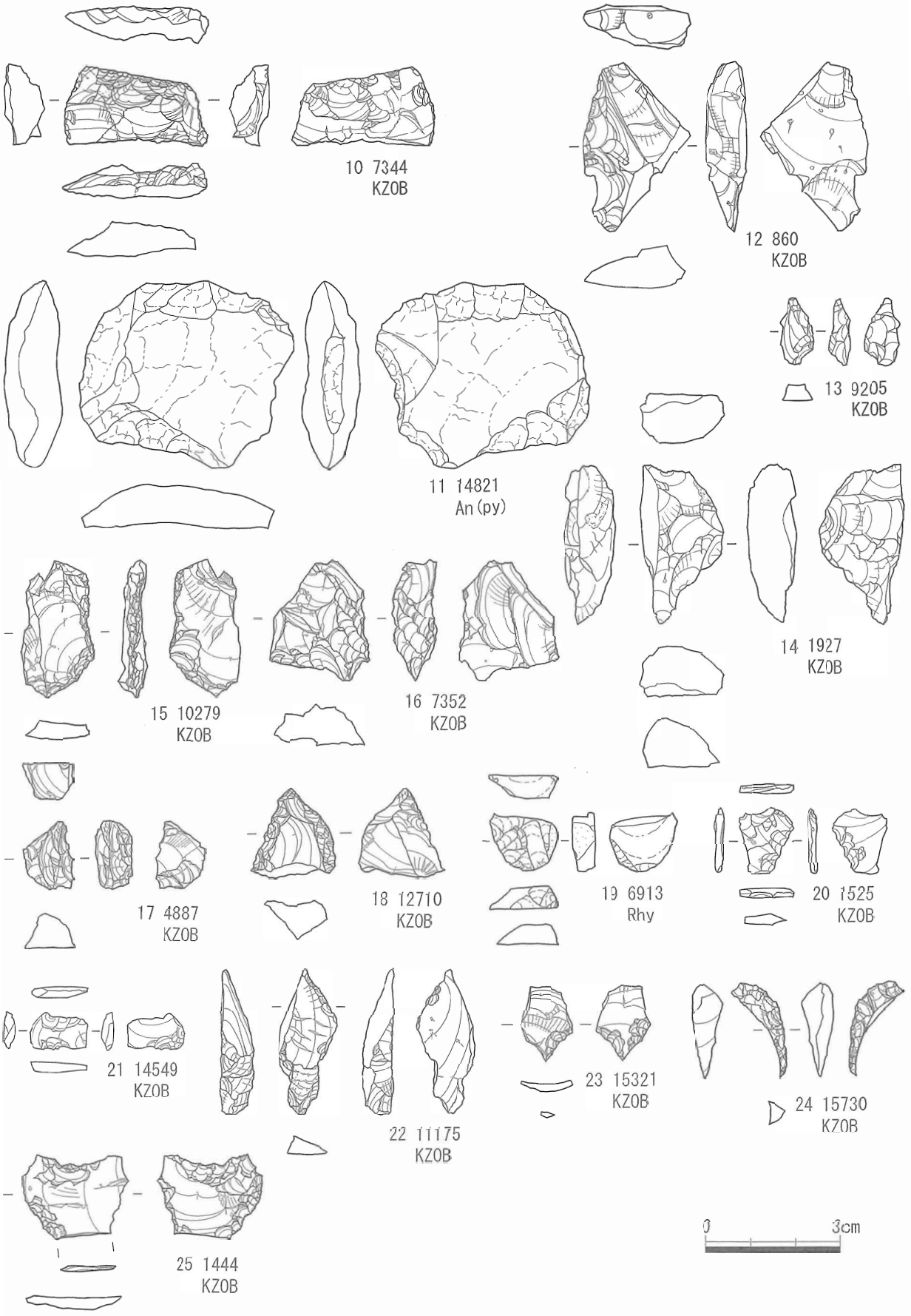
第135図　縄文時代石器(14)楔形石器１



第136図　縄文時代石器(15)楔形石器２



第137図　縄文時代石器の加工痕のある剥片1



第138図　縄文時代石器(17)加工痕のある剥片２

⑿　使用痕のある剥片（第139図１～９）

使用痕が肉眼で観察されたものをここにまとめた。全部で52点出土している。ここでは大振りなものや使用痕の比較的顕著なもの９点を掲載した。図化したものの石材の内訳は神津島恩馳島群を産地とする黒曜石８点、赤色チャート１点である。加工痕のある剥片と同様、素材となる剥片の形状を「縦長の剥片」、「幅広の剥片」、「貝殻状剥片」、「不定形な剥片および不明」の大きく４種類に分類した。

Ⅰ群　縦長の剥片を素材とするもの（第139図１～４）

比較的縦長の剥片を素材としているものをまとめた。１は端部に、２は左側縁下部に、３は左側縁下部から端部に、４は左側縁にそれぞれ微細な剥離が見られた。全て黒曜石製で、産地は神津島恩馳島群。

Ⅱ群　幅広の剥片を素材とするもの（第139図５）

５は自然面を多く残した赤色チャート製である。左側縁上部と端部に、微細な剥離が見られた。

Ⅲ群　貝殻状剥片を素材とするもの（第139図６～７）

６は右側縁と左側縁下部に、７は端部にそれぞれ微細な剥離が見られた。２点は黒曜石製で産地は神津島恩馳島群である。

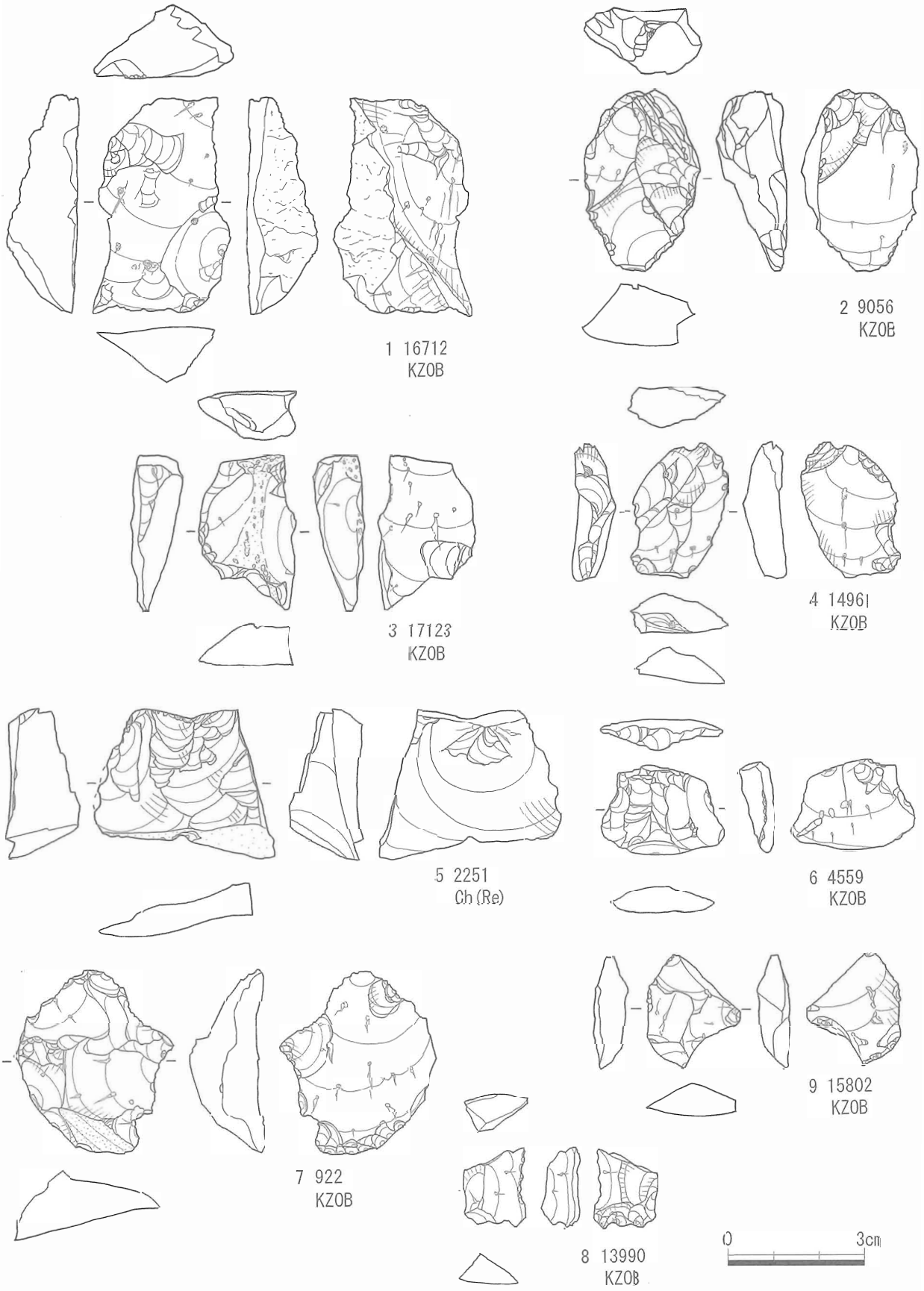
Ⅳ群　不定形な剥片および不明（第139図８～９）

８は右側縁に、９は左側縁に微細な剥離が見られた。黒曜石製で産地は神津島恩馳島群である。

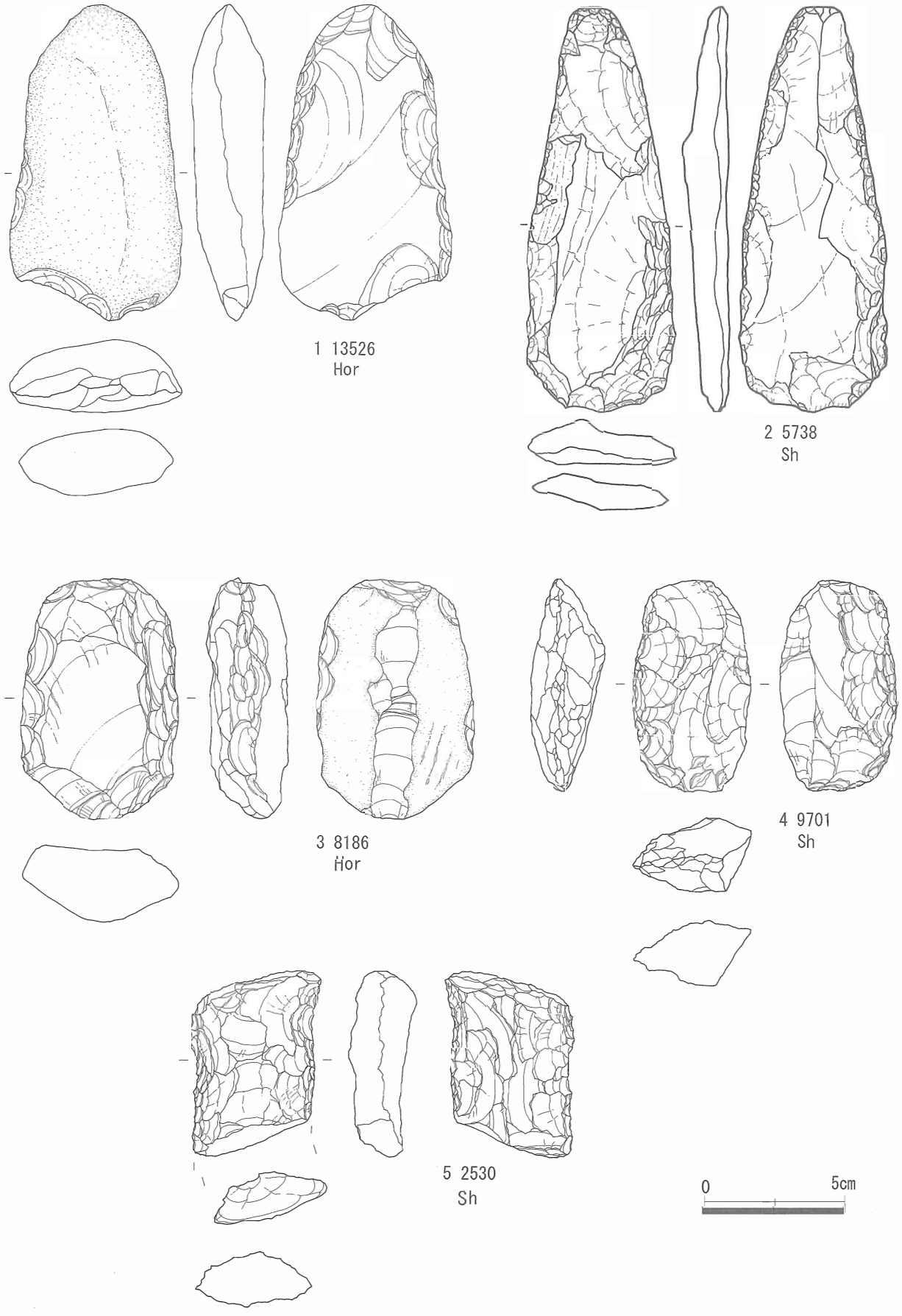
使用痕のある剥片に分類したものの中には、非常に微細な剥離が連続しているものも多い。微細剥離については剥片剥離の際に偶発剥離が生じることが剥離実験によって確認されており、使用による微細な剥離との識別は難しいとされる。実験から偶発剥離は背面側に生じることが多いという結果があるので背面側に微細剥離が顕著に見受けられるものの中にはあるいは偶発剥離も含まれている可能性がある。（西秋1994、御堂島2005）

⒀　打製石斧（第140図１～第141図７）

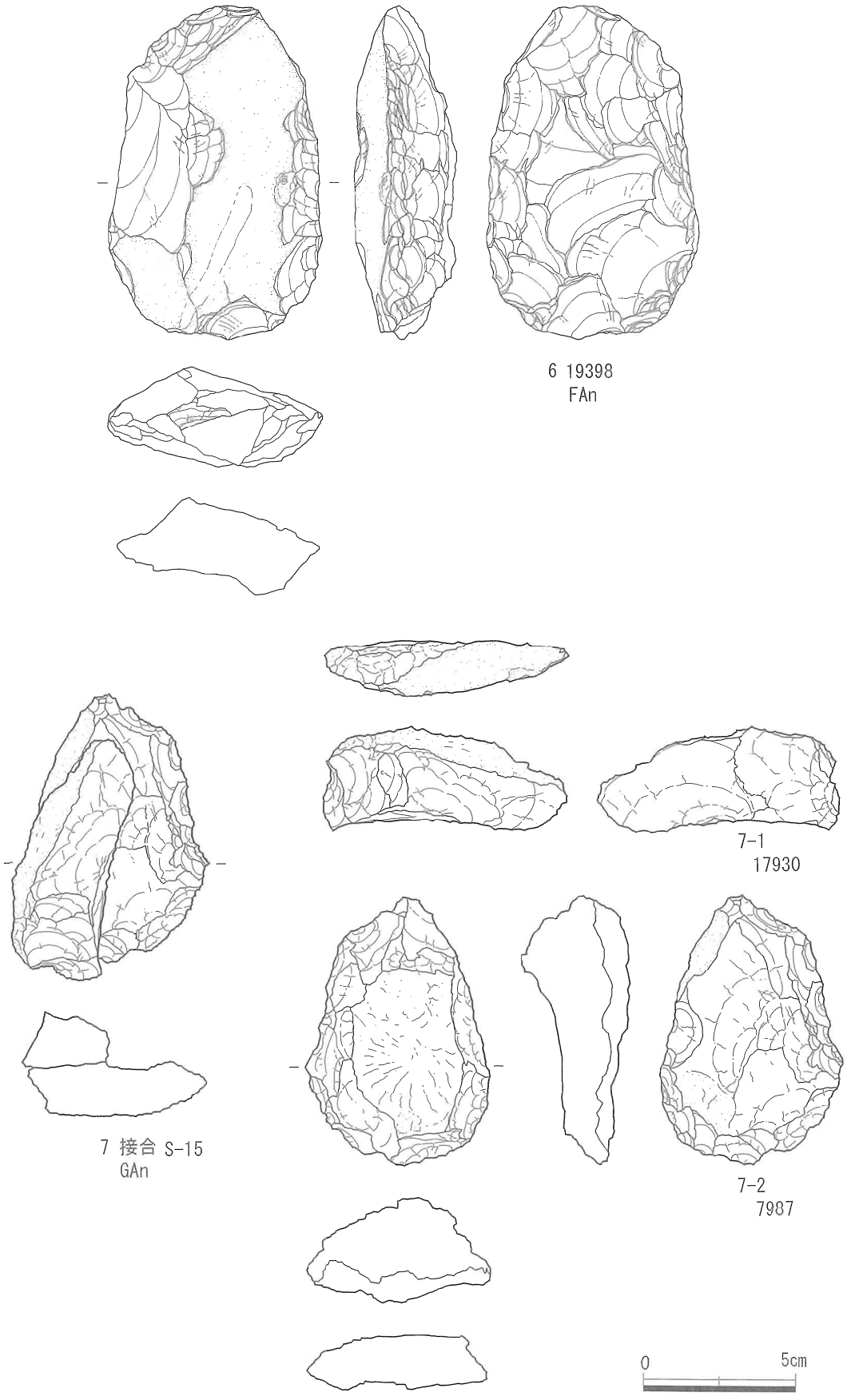
７点出土している。１は刃縁偏刃の円礫石斧である。素材である円礫の自然面を多く残す。調整は主として裏面側で行われているが、刃縁のみ両面から調整している。ホルンフェルス製。２は刃縁直刃で短冊形の打製石斧である。幅広の剥片を素材とし、裏面に主剥離面を、表面には素材剥片の面を残す。ほぼ全周にわたって剥離末端部が周縁に留まるような細かい調整がなされている。刃面の一部には研磨したように滑らかになっている部分があり、使用による磨耗であると思われる。頁岩製。３は刃縁凸刃の円礫石斧である。ほぼ全周にわたって剥離末端部が周縁に留まるような細かい調整がなされているが右側縁は敲打痕が集中しており、素材剥片を薄くしようとしていたのかもしれない。主として表面側に調整を施している。ホルンフェルス製。４は刃縁直刃の石斧である。縦長で嵩高の剥片を素材とし、裏面に主剥離面を残す。裏面の左側は欠損している。欠損部を除くとほぼ全周にわたって剥離末端部が器体の奥まで及ぶような調整を施している。頁岩製。５は細長い形状と両側縁をエッジ状に稜線をそろえていることから打製石斧とした。剥離末端部が器体中央にまで及ぶような念入りな調整が施されている。刃部があったであろう部分は正面側からの折れにより欠損している。頁岩製。６は刃縁円刃の円礫石斧である。素材である円礫の自然面を表面に多く残す。表裏両面の周縁部に調整を施しているが、特に裏面は剥離末端部が器体の奥まで及ぶような調整であり、断面凸レンズ状の形状に整えている。細粒安山岩製。７の打製石斧は17930の剥片と接合した（接合番号S-15）。原石を周縁部全体、特に左右両側縁と下部から連続して敲打し、素材を薄くしようとしている。左側縁下部からの敲打により17930の剥片が剥離し、さらに細かい調整を加えて刃部を整形している。剥片は９号陥穴状土坑（SF23）より、石斧はG-022グリッドより出土している。ガラス質黒色安山岩製。なお、このガラス質黒色安山岩は互層状に混入物があり、均質感に乏しい。総論に石材について若干の考察があるのでご参照いただきたい。



第139図　縄文時代石器(18)使用痕のある剥片



第140図　縄文時代石器(19)打製石斧1



第141図　縄文時代石器(20)打製石斧２

石斧整形時に剥離された剥離末端部が器体の周縁で終わっているのか、あるいは奥まで及んでいるのかの違いは、石器製作時の素材に対するハンマーの敲打角度に関係があることが考えられる。(大工原2004)

⑭ 礫器（第142図１～第144図19）

礫器が23点出土している。そのうち19点を掲載した。伐採などさまざまな用途に使われたであろうと考えられる。原礫の形状を多く残し一部敲打により刃部を形成しているものがほとんどである。刃部作出の方法が表裏両面から作出されている両面礫器と片面で作出されている片面礫器刃部とに分けた。用途は特に違いはないと思われるが、輝石安山岩の剥片を利用した削器があることから、剥片を取り出すための石核も含まれている可能性はある。なお、10は石皿16821との接合関係が見られる。詳細は石皿の項に譲る。

１～６は交互剥離をしている両面礫器である。刃部の様子は４が直刃であり、他は凸刃である。他はすべて片面にのみ剥離を施して刃部を形成している片面礫器であり、15を除くすべてが凸刃の刃部である。

礫器作製時の素材選択という観点から見ると、12のみ円礫を素材としており、他は亜角礫を素材としている。但し10のように磨り面を有し、石皿から転用されたと思われるものもあり、亜角礫を素材としているものの中には、石皿を素材としていたものも含まれる可能性がある。１、６、14などがそれに該当する。

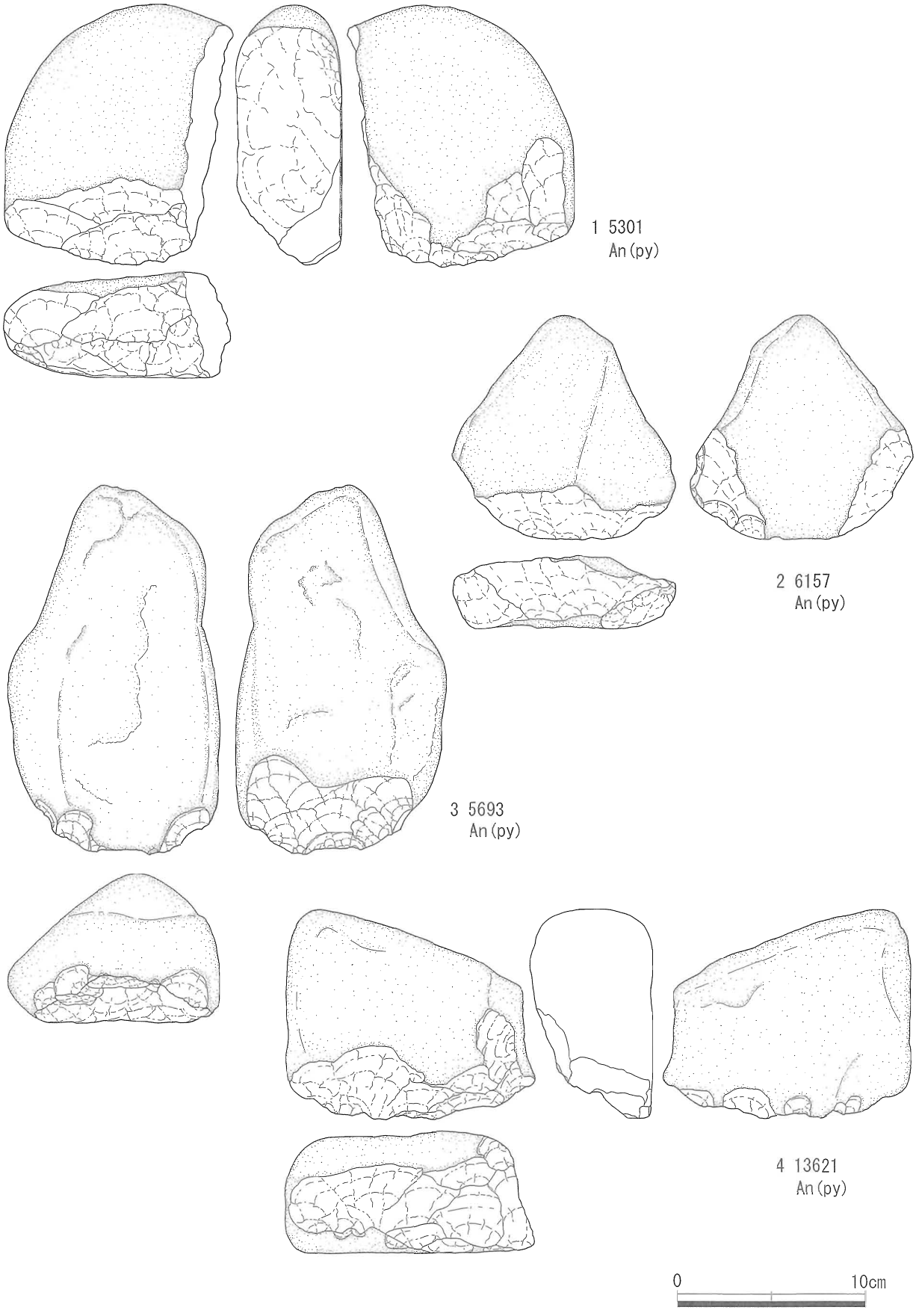
⑮ 磨石類（磨石・敲石・磨敲石、凹石）（第147図１～第151図47）

磨石、敲石、凹石は全部で272点出土しており、そのほとんどは植物質食料加工に利用されたと思われる。但し、敲石の一部には石器製作時に使用されたハンマーも含まれている。遺物個々についての観察では、磨りの痕跡だけが観察されたものを磨石、磨りの痕跡と敲打痕が観察されたものを磨敲石、敲打痕のみ観察されたものを敲石、磨りの痕跡、敲打痕のいずれか一方もしくは両方あるもので明確に部分的に凹むものを凹石とした。用途としては全体的に大きな違いはないと思われるが、一部特徴的な敲打痕のあるものは敲石のところで報告する。また形状により球形、円盤形、棒形、小判形に分類しているが、分類基準は第７章総括で詳述しているのでそちらを参照されたい。また破損が著しく、分類できないものも多かった。

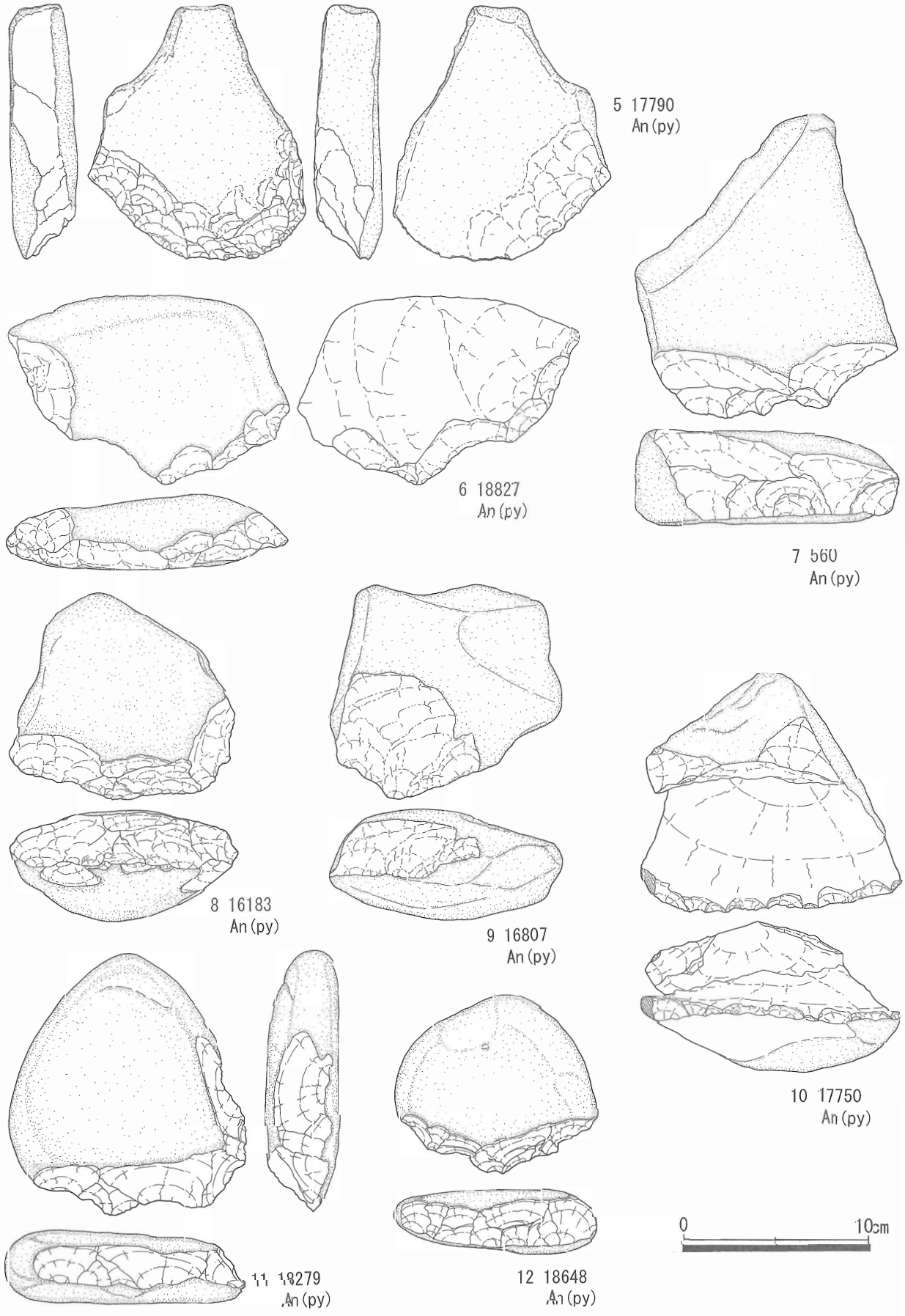
敲石は、敲打痕のあるもののみを分類しているが、中には風化により磨りの痕跡が確認できなかったものが含まれている可能性はある。このうち、６点（17・18・24・26・33・43）は敲打痕が直線状となっており、溝状に窪んだ断面がU字もしくはV字状になっているものである。御堂島正の分析した、両極剥離作業に使用された際に生じた敲打痕に類似する（御堂島2005）。また、40～42はいずれも砂岩製であり、形態的にも特徴がある。いわゆるハンマーストーンとして石器製作等に用いられたと見られる。

⑯ 石皿（第154図１～第156図17）

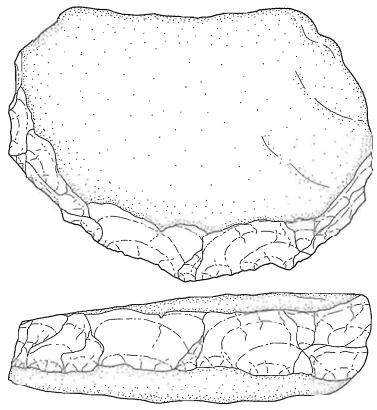
石皿は55点出土している。そのうち、17点を掲載した。石皿は使用状況の違いで４群に分けた。Ⅰ群は石皿の表面は平坦であり全体的に磨った跡があるが、磨耗等によりまったく凹んでいないもの、Ⅱ群は表面全体に磨った跡があり、全体的に凹んでいるもの、Ⅲ群は表面の一部分が径10㎝程度の円形状に凹んでいるもの、Ⅳ群は使用状況がわからないものや欠損品をまとめた。磨り面については平面図で図示しているが、なお、石皿については総括においても若干の考察を加えているのでご参照いただきたい。



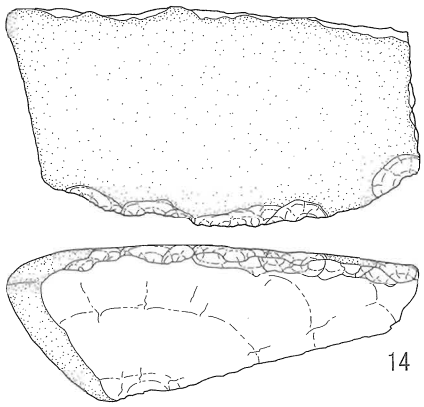
第142図　縄文時代石器(21)礫器１



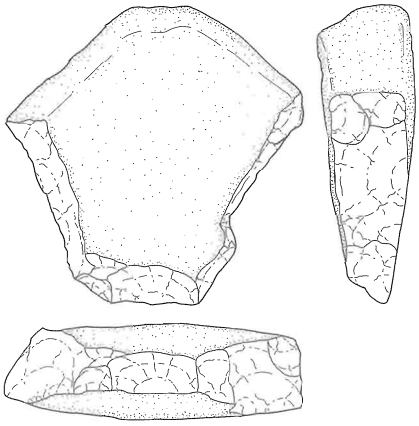
第143図　縄文時代石器(22)礫器2



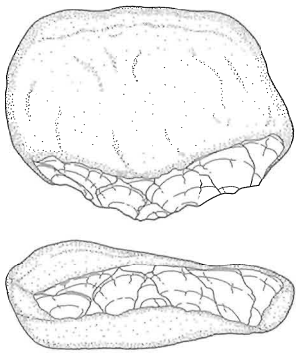
13 18911
An(py)



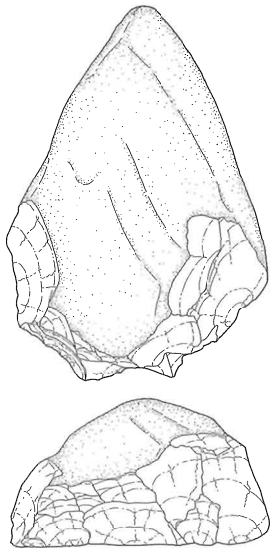
14 10308
Ba



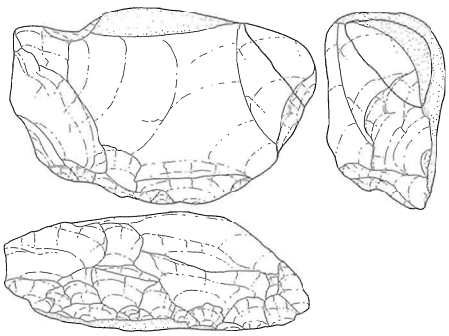
15 14473
Ba



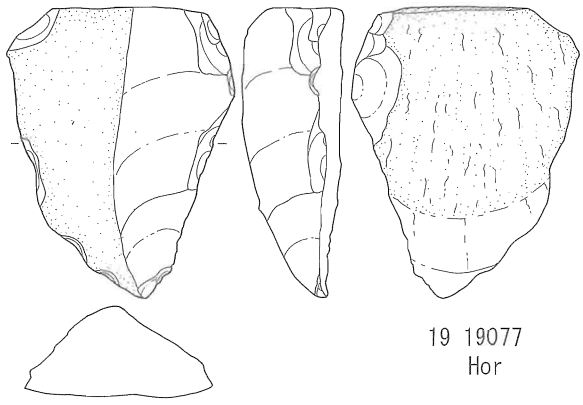
16 18490
Ba



17 18531
Ba



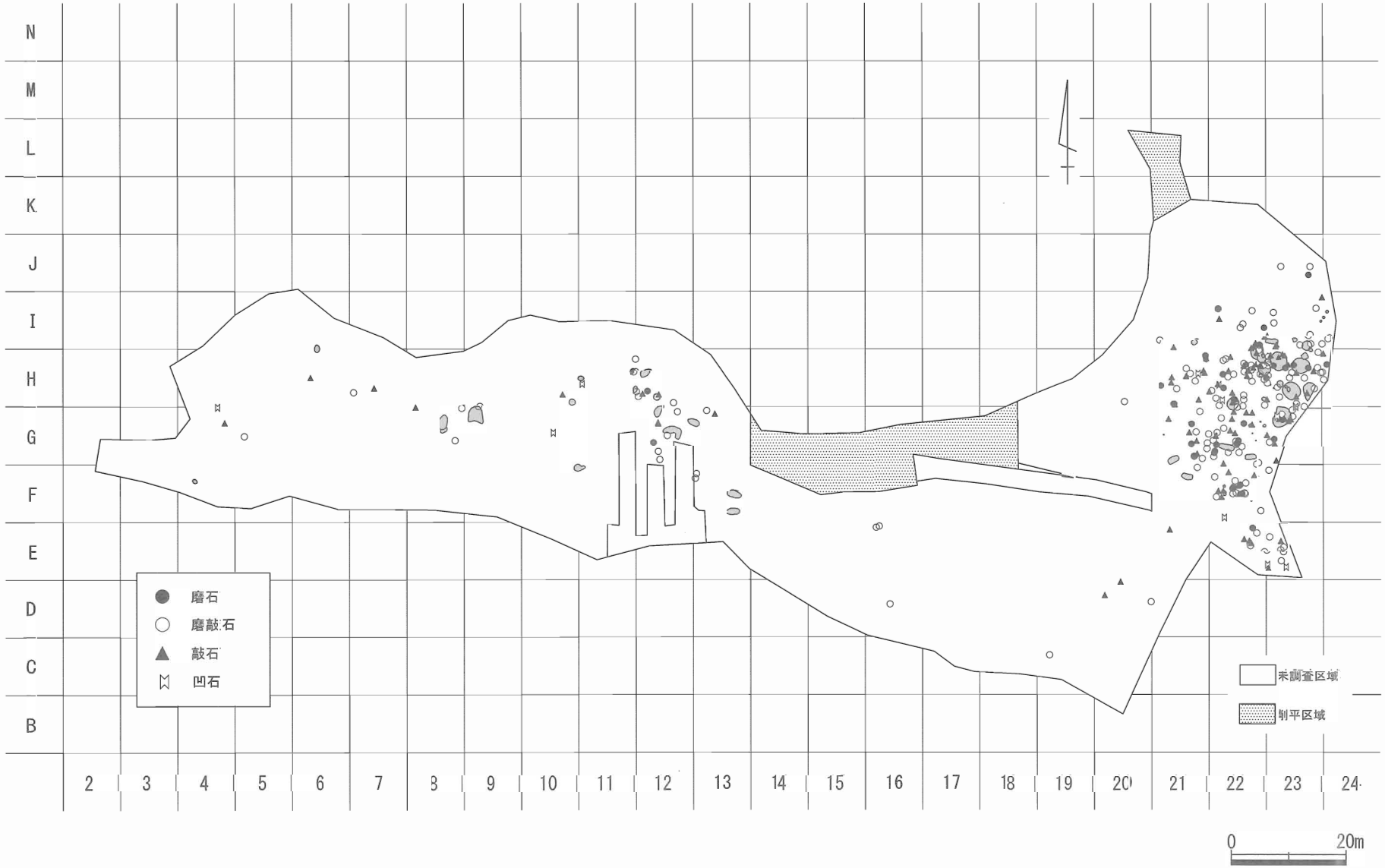
18 接合 S-07
3268 3269
Hor



19 19077
Hor

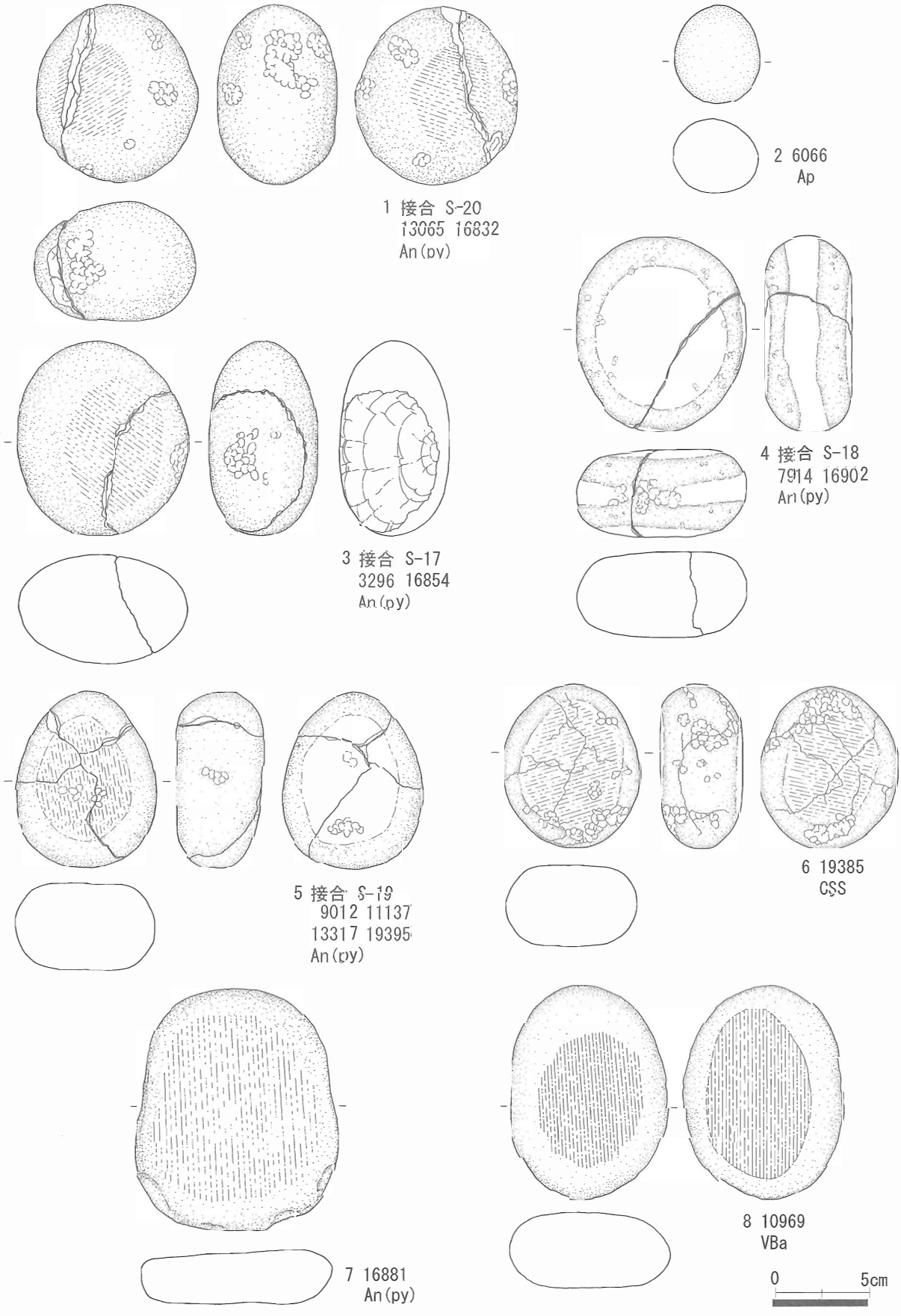
0　10cm

第144図　縄文時代石器(23)礫器３

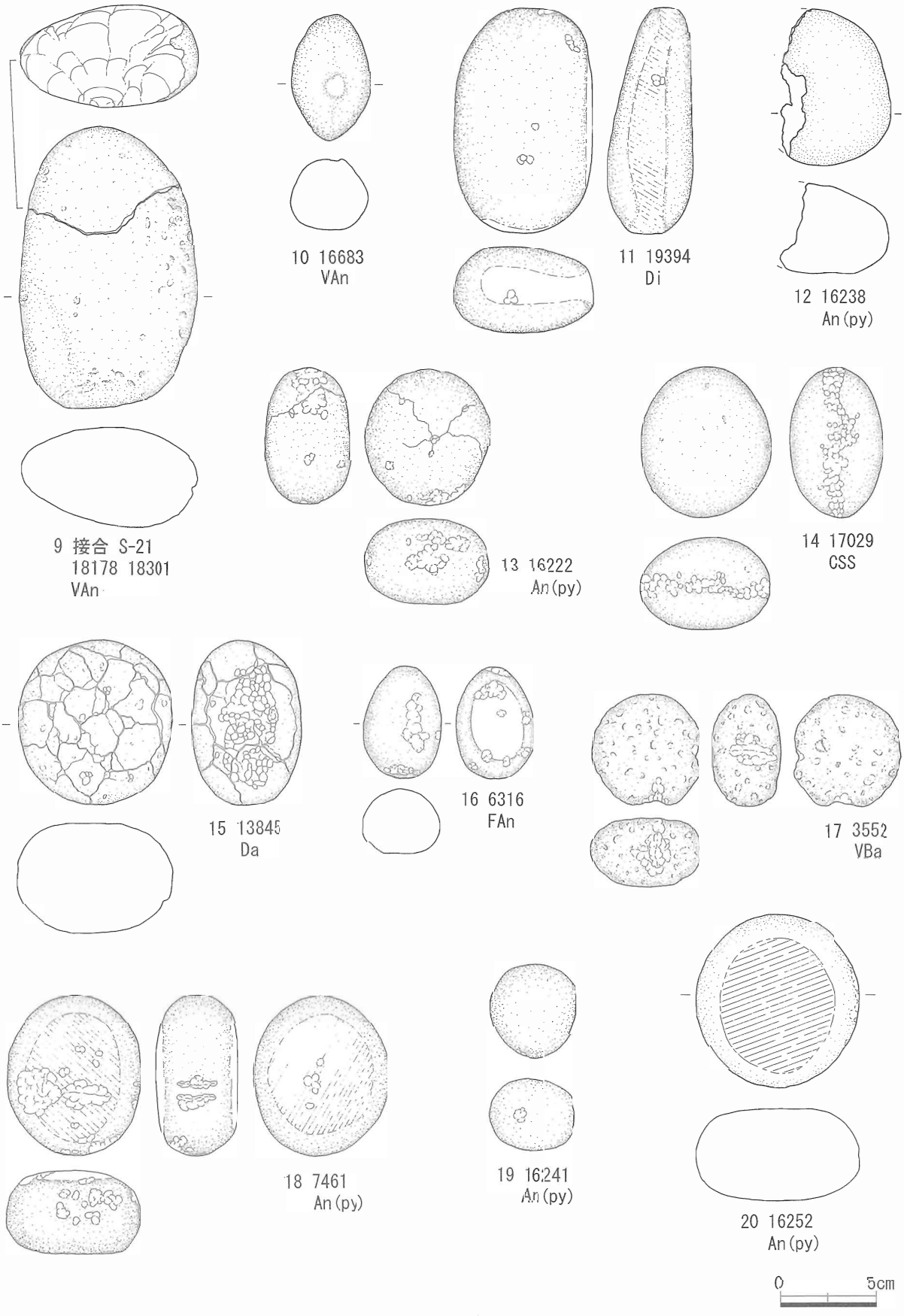


第145図　縄文時代磨石類分布図

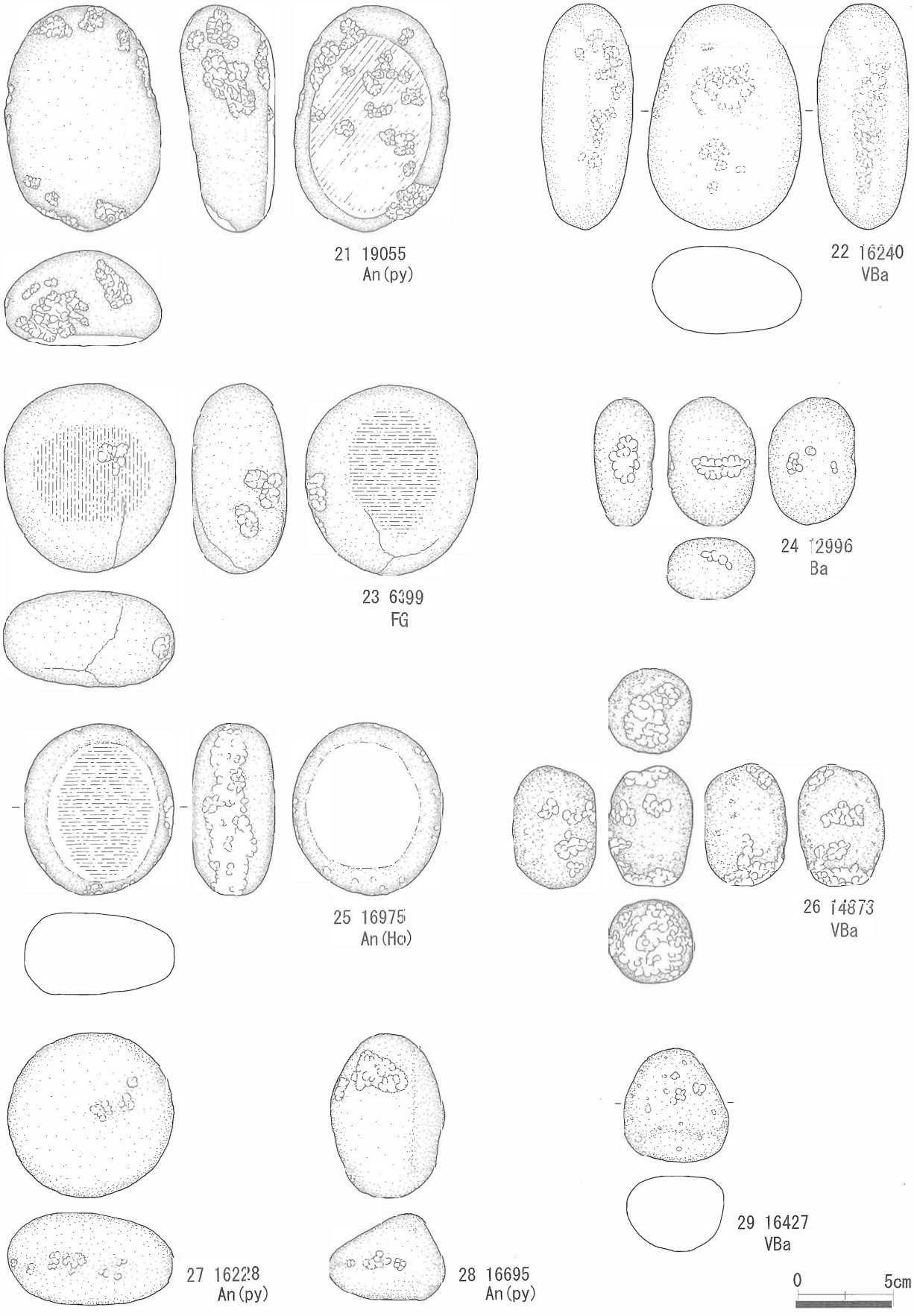
第146図　縄文時代磨石類分布図(集落域)



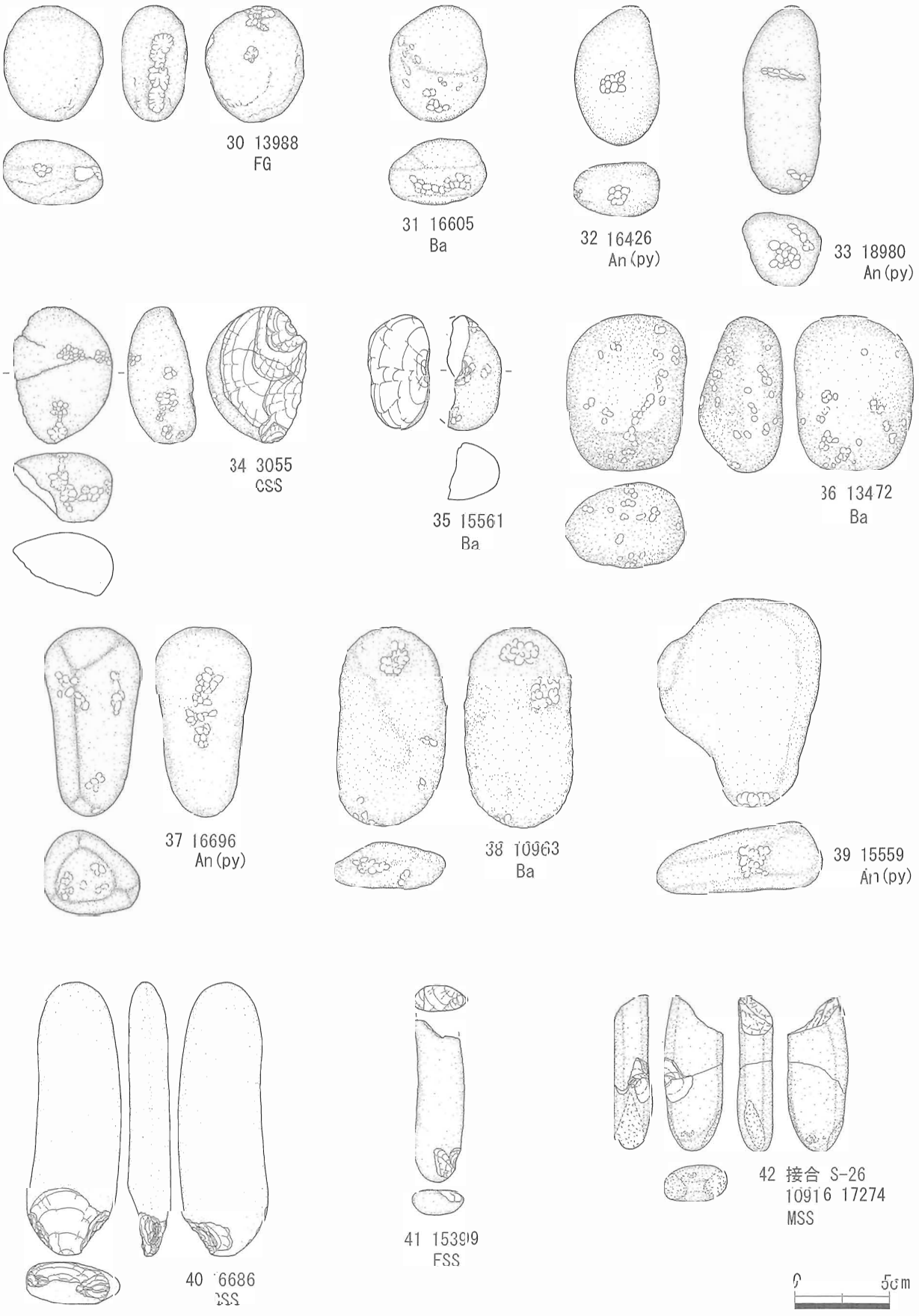
第147図　縄文時代石器(24)磨石類 1



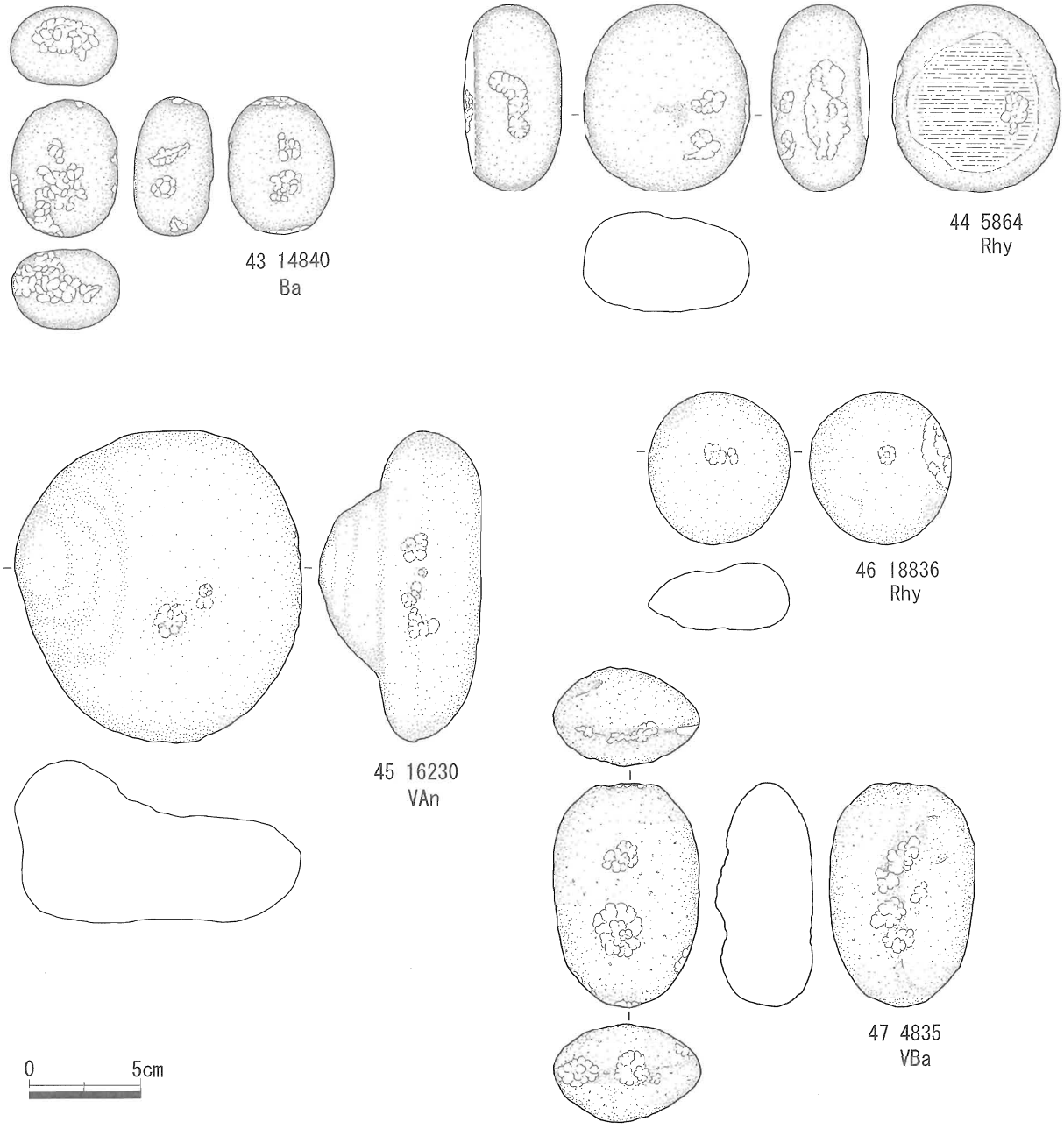
第148図　縄文時代石器(25)磨石類２



第149図　縄文時代石器(26)磨石類3



第150図　縄文時代石器(27)磨石類４



第151図　縄文時代石器(28)磨石類５

第45表　磨石類　形状分類

器種		球形	円盤形	棒形	小判形	形態不明	合計
磨石	磨り面のみを有するもの	9	7	3	0	18	37
磨敲石	磨り面＋敲打痕を有するもの	36	55	13	9	17	130
敲石	敲打痕のみを有するもの	33	19	19	9	14	94
凹石	明確な凹みを有するもの	5	4	1	1	0	11
	合計	83	85	36	19	49	272

Ⅰ群（第154図1～６、第155図８・９）

17点出土しており、８点を掲載した。３は礫器17750と接合した。ここでは接合した状態の実測図を掲載しているが、礫器のみの実測図は143図10に掲載している。礫器にも磨り面が存在することから、石皿は使用に耐えうる状態であったにもかかわらず、礫器作出のために意図的に破断されたのではないかと考えられる。また、この接合は本遺跡内で最も距離のある接合であり、その距離は99ｍを測る。石皿が集落内に残置されたのに対し、礫器は集落外に持ち出され、何らかの作業の後にその場所で役目を終えたと考えられる。

Ⅱ群（第155図10～11）

６点出土しており、２点を掲載した。掲載したもののように両面に磨り面が見られるものが多い。

Ⅲ群（第155図12～第156図14）

４点出土しており、３点を掲載した。接合した12の石皿は比較しても凹みの範囲、深さが小さいが、表裏面ともに凹み部分に多数の打痕が見られる。

Ⅳ群（第154図７）

28点出土がここに該当する。そのうち遺構内から検出された1点についてのみ掲載した。

⑰　台石（第156図15・16）

磨った痕跡がないものを台石とした。12点が出土しているが、いずれも明確な敲打痕は見られなかった。２点についてのみ掲載した。素材礫の形状は、亜円礫のものと角礫、板状礫のものが見られた。

⑱　砥石（第156図17）

１点出土している。大部分が破損しているため詳細は不明であるが、残存部には磨られた痕跡が見られる。しかし、磨石として使用するには磨り面が利用しにくいと考えられるためここでは砥石とした。

⑲　接合関係の見られた石器

接合関係が見られたものについて、出土状況を図示した（第157・158図）。

このうち、実測図を掲載したものは、掲載順に、S-16、S-25、S-12（以上は石核＋剥片）、S-14（両面調整石器＋剥片）、S-15（打製石斧＋剥片）、S-７礫器、S-17～S-21、S-26（以上は磨石類）、S-22～S-24（石皿）である。

《参考文献》

西秋良宏1994「石器製作時に生じる偶発剥離の問題」『東海大学校地内遺跡調査団報告』東海大学校地内遺跡調査団

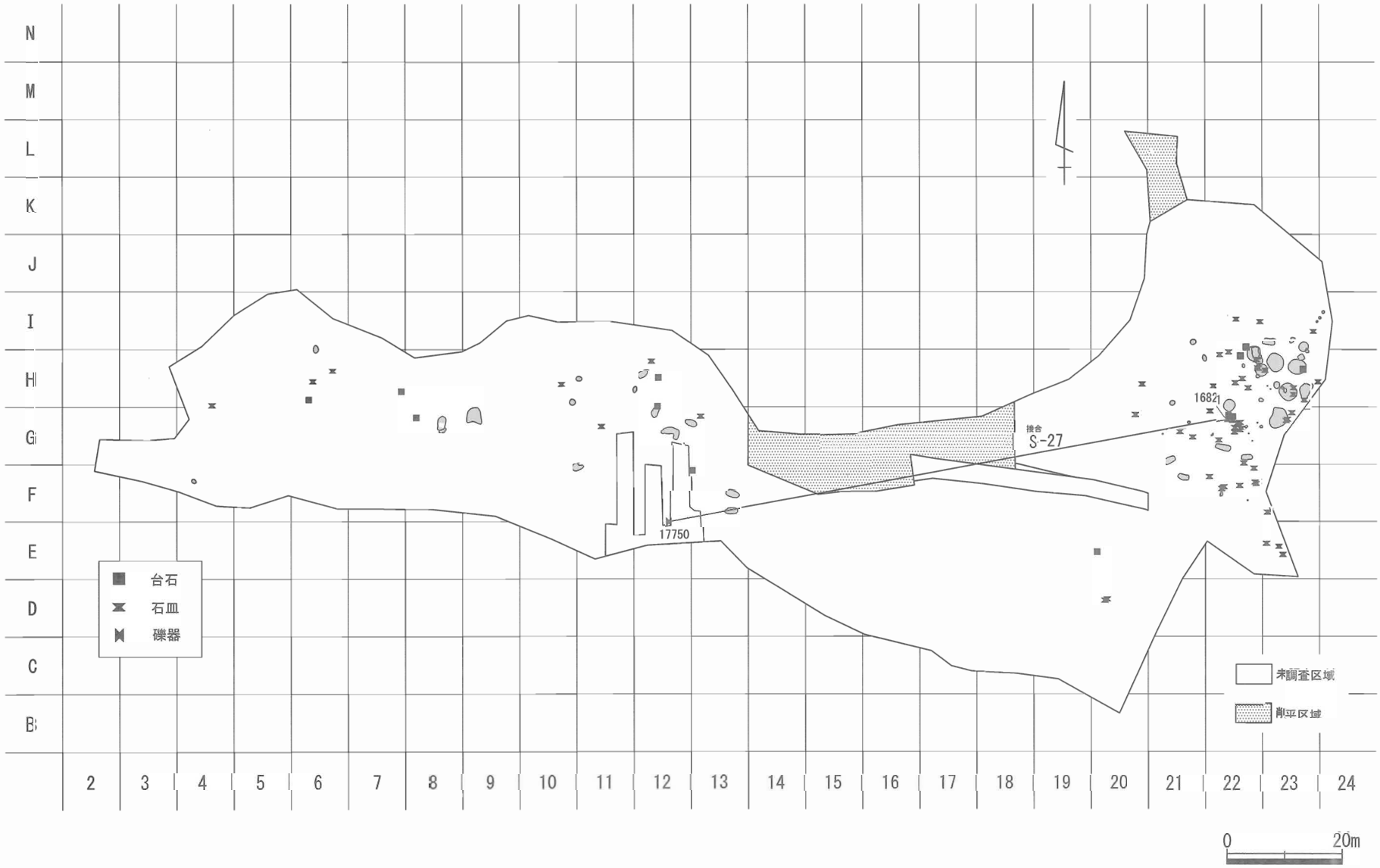
御堂島　正2005『石器使用痕の研究』同成社

大工原　豊2004「打製石斧の製作技術について―製作実験を通して―」『石器づくりの実験考古学』石器技術研究会編　学生社

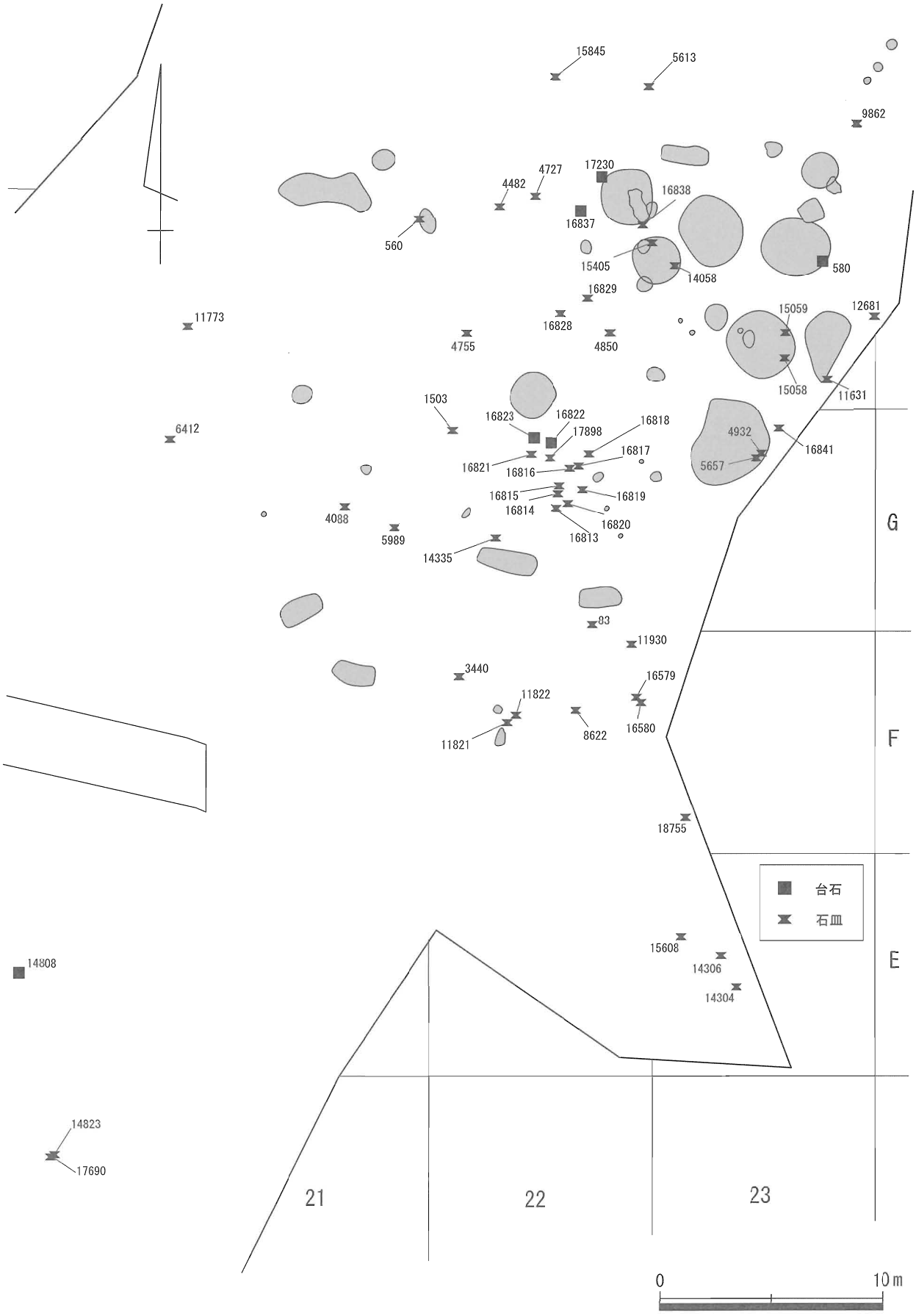
M. -L. Inizan、H. Roche、J. Tixier著、大沼克彦、西秋良宏、鈴木美保訳1998『石器研究入門』クバプロ

鈴木道之助1991『図録　石器研究入門　縄文』柏書房

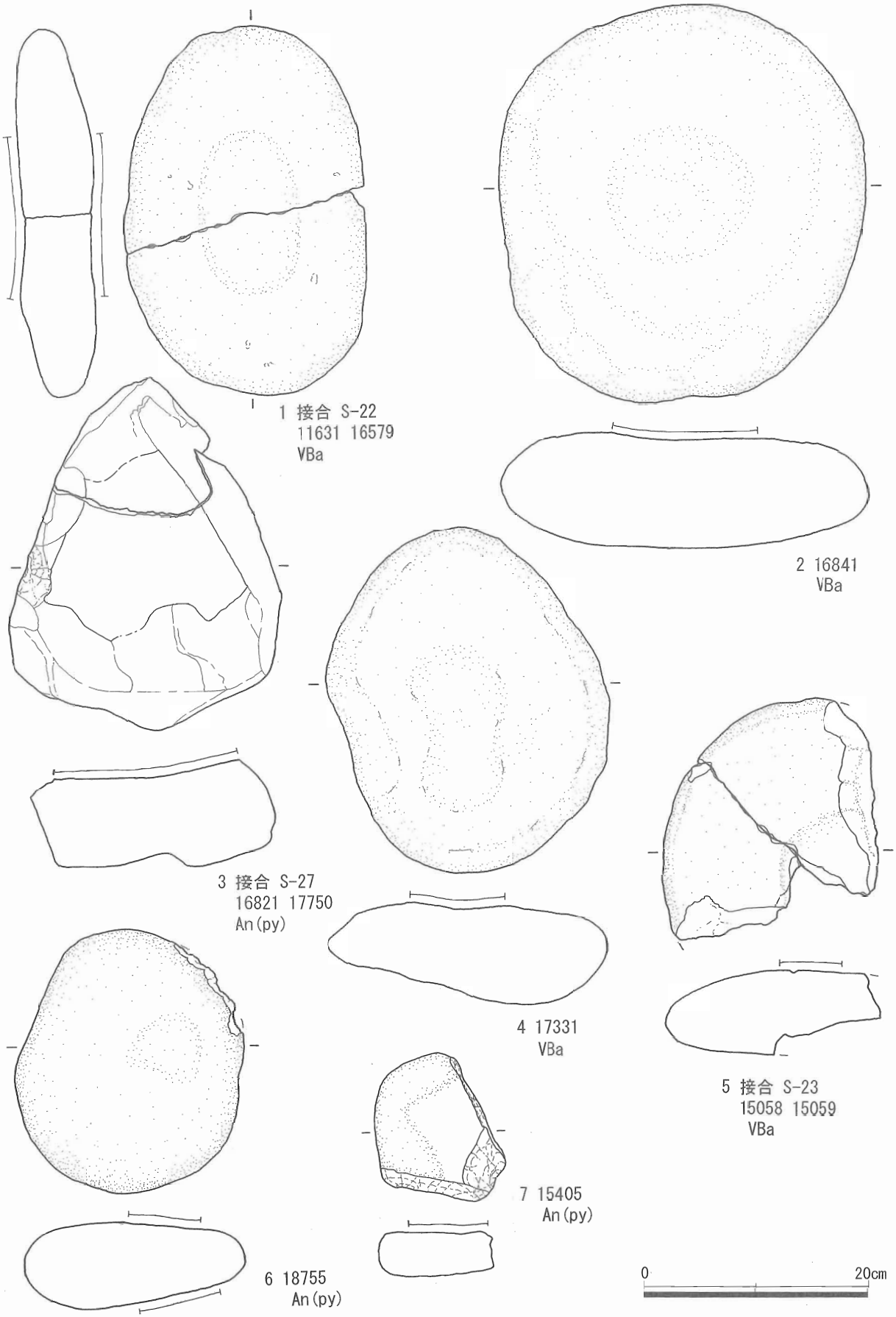
大沼克彦2002『文化としての石器づくり』学生社



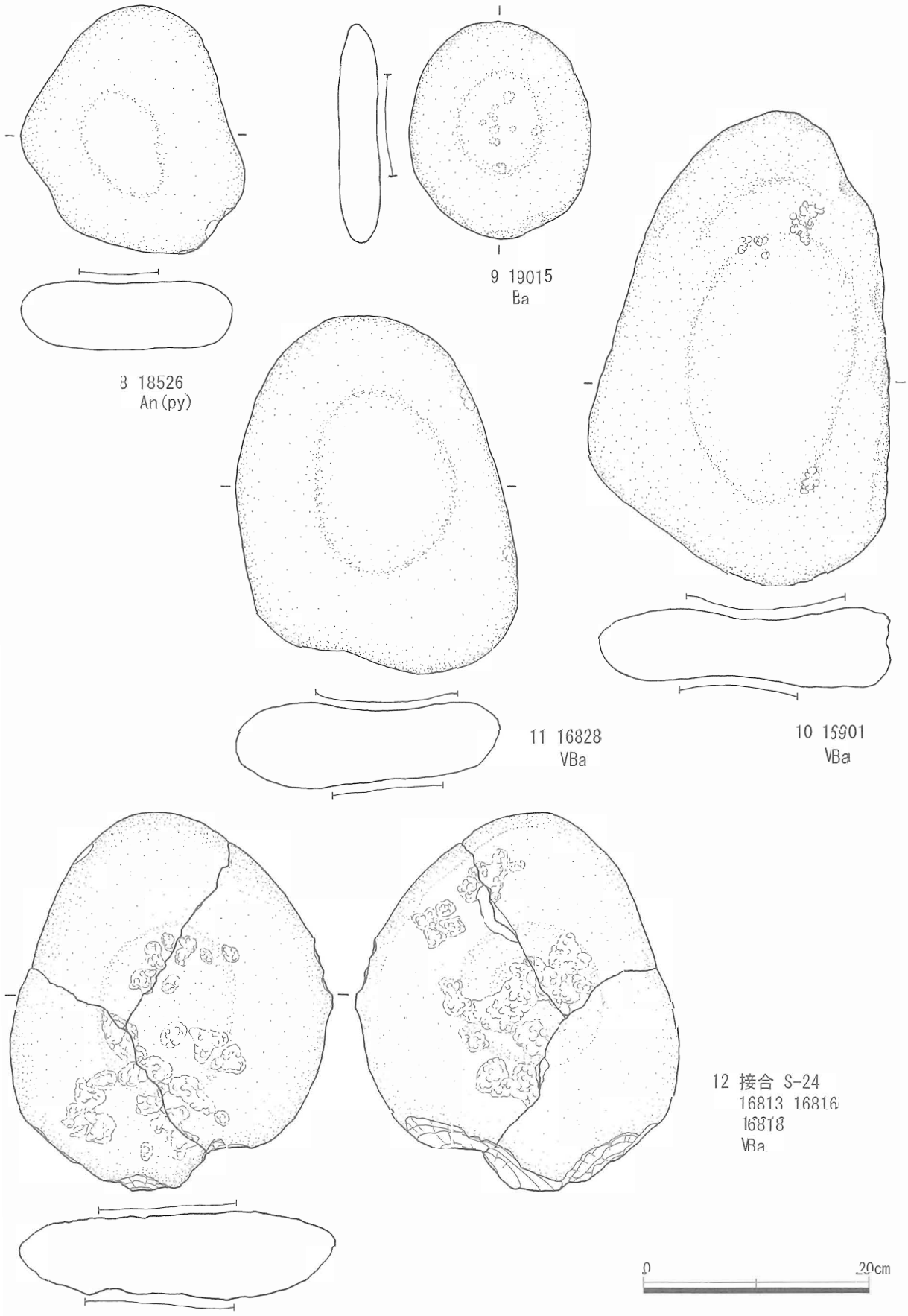
第152図　縄文時代石皿類分布図



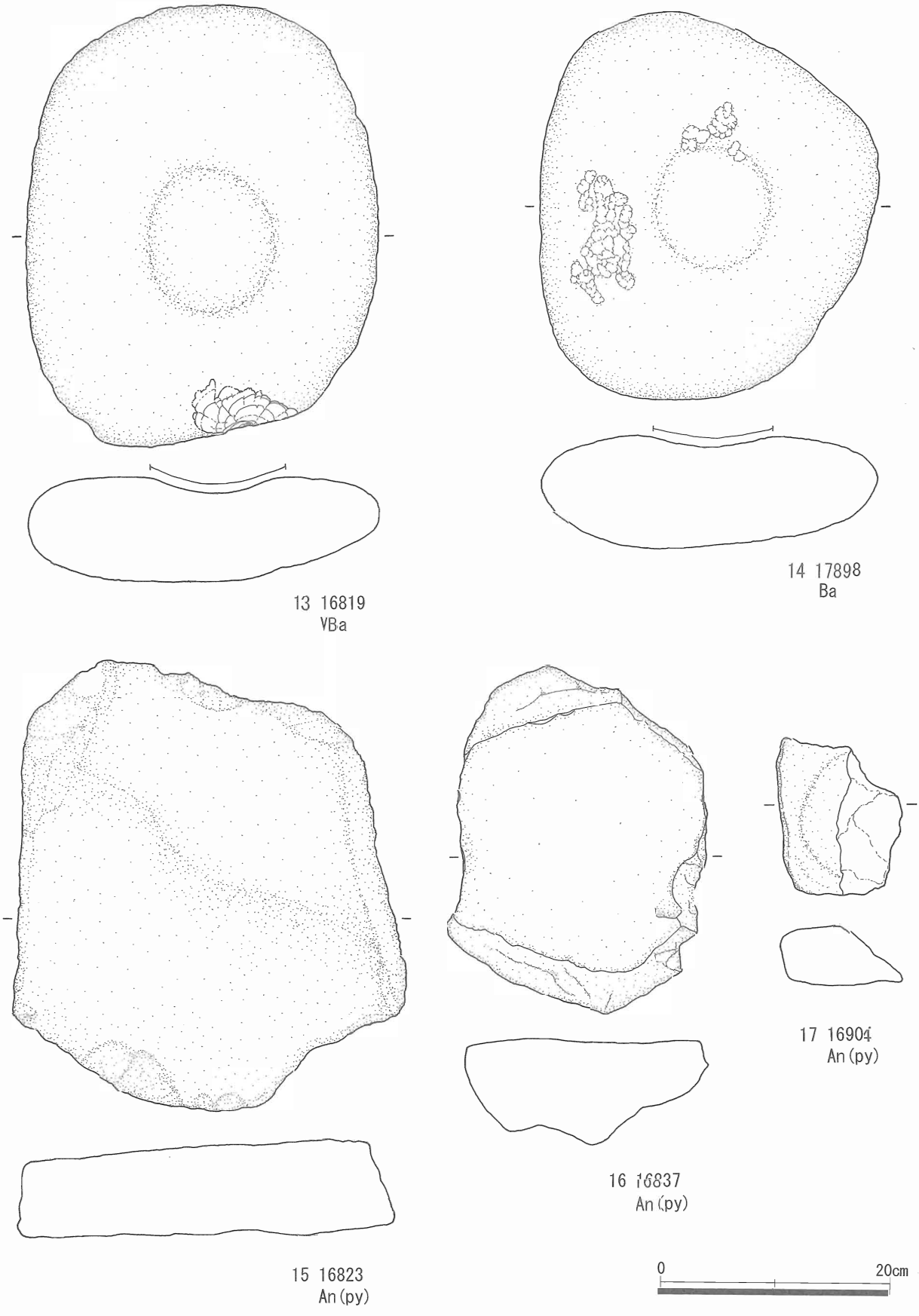
第153図　縄文時代石皿類分布図（集落域）



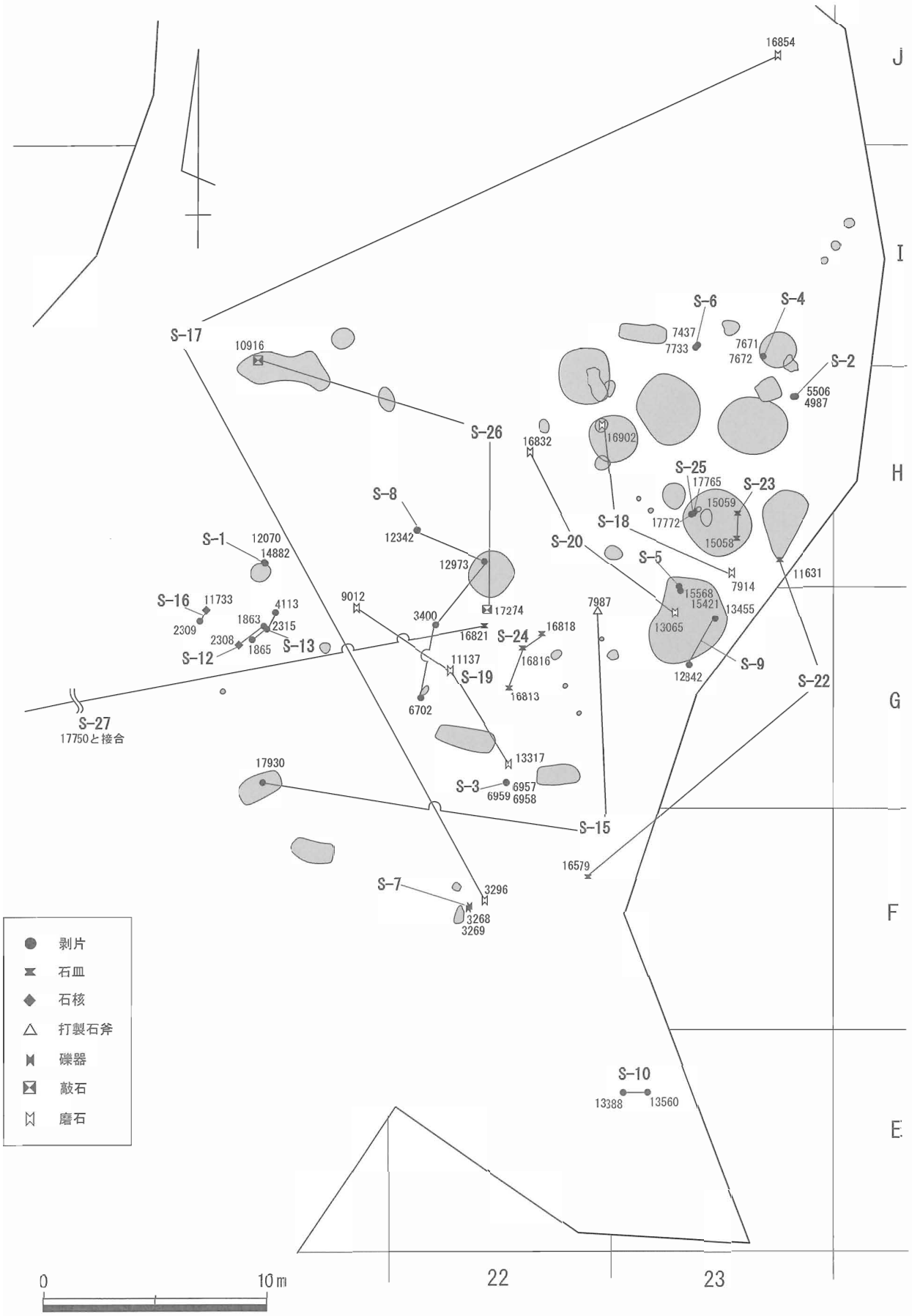
第154図　縄文時代石器(29)石皿 1



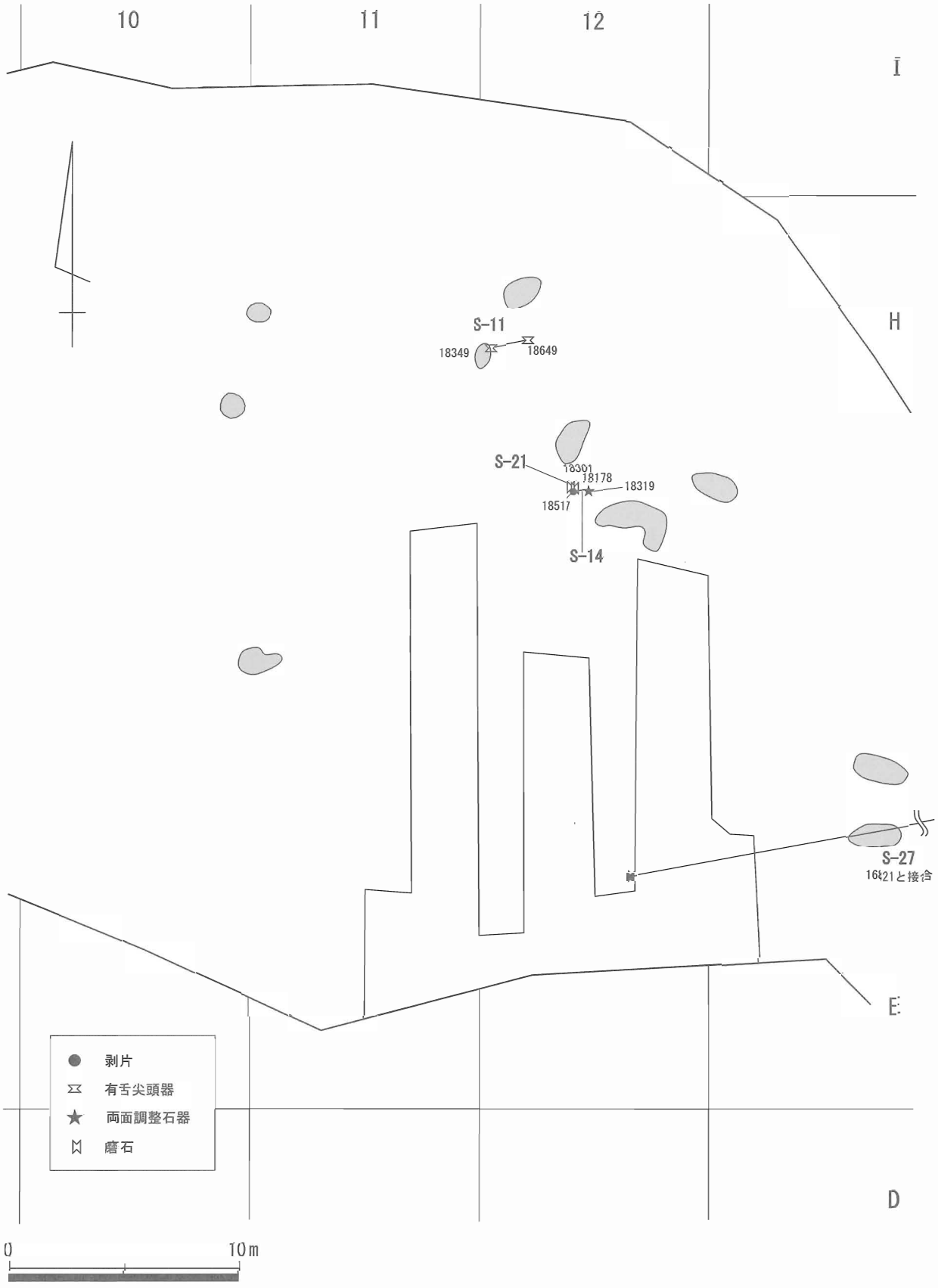
第155図　縄文時代石器(30)石皿２



第156図　縄文時代石器⑶石皿３　台石・砥石



第157図　石器接合図－１



第158図　石器接合図－2

第46表　縄文時代早期石器観察表

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	調査区遺構	層位	石材	産地	Ob分析番号	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標	分類
第116図 石槍	16348	石槍	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	680		14.7	6.6	2.0	0.7	-90,126.341	35,814.359	256.522	
第116図 1	10467	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	542		1.4	2.1	1.8	0.5	-90,119.598	35,816.921	256.729	I
第116図 2	10579	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	543		1.2	2.1	1.3	0.6	-90,123.653	35,816.460	256.724	I
第116図 3	13784	石鏃	H-022		ZN	Ob	KZOB	30		0.6	1.7	1.6	0.4	-90,129.957	35,804.516	257.141	I
第116図 4	8876	石鏃	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	529		0.7	1.5	1.4	0.5	-90,155.995	35,813.253	255.664	I
第116図 5	450	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	473		0.7	1.6	1.5	0.4	-90,123.321	35,816.915	256.832	I
第116図 6	8396	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	524		1.1	2.2	1.6	0.4	-90,139.065	35,799.826	257.151	I
第116図 7	5437	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	508		0.6	1.6	1.3	0.4	-90,123.945	35,802.037	257.721	I
第116図 8	13589	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	575		0.4	1.4	1.0	0.4	-90,137.773	35,805.571	256.573	I
第116図 9	5723	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	509		0.5	1.5	1.2	0.4	-90,115.181	35,808.024	257.522	I
第116図 10	3508	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	500		0.8	1.5	1.5	0.4	-90,133.570	35,803.346	257.358	I
第116図 11	3598	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	501		0.5	1.5	1.1	0.3	-90,131.026	35,801.281	257.574	I
第116図 12	19404	石鏃	表採			Ob	KZOB	793		0.2	1.3	1.1	0.3				I
第116図 13	7209	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	516		0.5	1.6	1.3	0.3	-90,128.121	35,803.257	257.160	I
第116図 14	13474	石鏃	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	573		0.3	1.5	0.7	0.4	-90,132.056	35,814.550	256.558	I
第116図 15	13447	石鏃	H-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	572		0.2	0.7	1.3	0.3	-90,129.890	35,813.383	256.654	I
	1974	石鏃	F-023		AN～FB	Ob	KZOB	487		0.3	1.1	1.0	0.3	-90,147.942	35,810.212	256.115	I
	2338	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	HNHJ	489		0.7	1.6	1.4	0.5	-90,124.685	35,819.503	256.808	I
	6045	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	510		0.5	1.6	1.3	0.4	-90,131.373	35,797.496	257.693	I
	6154	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	511		1.5	1.7	1.7	0.5	-90,149.847	35,806.980	255.845	I
	6611	石鏃	F-022		AN～FB	Rhy				0.4	1.2	1.4	0.3	-90,140.445	35,805.791	256.690	I
	7568	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	520		0.5	1.1	1.6	0.4	-90,124.508	35,812.736	257.012	I
	10268	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	540		0.7	1.6	1.3	0.5	-90,121.213	35,809.915	257.218	I
	13322	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	569		0.2	1.2	0.8	0.3	-90,137.717	35,803.921	256.833	I
	13809	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	578		0.3	0.8	1.2	0.2	-90,120.223	35,817.702	256.689	I
	19418	石鏃	表採			Ob	KZOB	614		0.6	1.8	1.2	0.4				I
第116図 16	11523	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	HNHJ	553		0.4	1.2	1.3	0.3	-90,119.163	35,817.796	256.720	II
第116図 17	15759	石鏃	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	595		0.7	1.5	1.5	0.4	-90,127.947	35,814.697	256.450	II
第116図 18	11740	石鏃	G-020		AN～FB	Ob	KZOB	557		0.4	1.3	1.5	0.3	-90,130.511	35,787.847	257.951	II
第116図 19	19531	石鏃	表採			Ob	推定不可	615		0.5	1.6	1.1	0.3				II
第116図 20	14087	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	580		1.3	1.8	1.5	0.6	-90,122.457	35,810.262	257.064	II
第116図 21	15320	石鏃	H-023	TA02	床面	Ob	KZOB	590		0.1	1.6	1.5	0.3	-90,126.664	35,819.033	256.281	II
第116図 22	9024	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	530		0.3	1.6	1.2	0.2	-90,133.656	35,797.284	257.459	II
第116図 23	15425	石鏃	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	591		0.7	1.5	1.8	0.5	-90,130.830	35,813.317	256.517	II
第116図 24	14984	石鏃	H-023	SB02	覆土	Ob	KZOB	588		0.4	1.4	1.3	0.3	-90,121.907	35,812.914	256.826	II
第116図 25	646	石鏃	F-022		SSC	Ob	KZOB	475		0.4	1.4	1.4	0.3	-90,140.313	35,805.998	256.891	II
第116図 26	18813	石鏃	F-006		SSC	Ob	KZOB	610		0.3	1.5	1.1	0.3	-90,140.457	35,642.108	257.215	II
第116図 27	3683	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	503		0.7	1.9	1.4	0.4	-90,126.505	35,817.238	256.850	II
第116図 28	12132	石鏃	I-023		AN～FB	Ch				1.1	2.6	1.6	0.3	-90,119.390	35,817.793	256.692	II
第116図 29	18352	石鏃	G-013		SSC	GAn				1.3	2.4	1.8	0.4	-90,131.047	35,712.535	254.840	II
第116図 30	309	石鏃	H-023		SSC	Ob	SWHD	469		0.8	2.2	1.6	0.4	-90,122.346	35,817.947	256.900	II
第116図 31	524	石鏃	F-013		AN～FB	Ob	KZOB	474		1.3	3.0	1.7	0.4	-90,146.489	35,719.838	254.053	II
第116図 32	1434	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	482		1.5	2.2	1.9	0.5	-90,116.737	35,814.171	257.350	II
第116図 33	7734	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	522		0.6	2.0	1.3	0.3	-90,121.131	35,813.314	257.054	II
第116図 34	18661	石鏃	F-010		AN～FB	Ob	SWHD	607		0.7	1.9	1.4	0.4	-90,146.377	35,689.365	255.120	II
第116図 35	17824	石鏃	G-022	SF01	覆土	Ob	KZOB	606		0.3	1.3	1.1	0.3	-90,138.610	35,807.101	256.279	II
第117図 36	13441	石鏃	G-023	TA01	覆土	Ob	HNHJ	571		0.5	1.3	1.3	0.4	-90,130.095	35,814.395	256.554	II
第117図 37	2244	石鏃	F-021		AN～FB	Ob	KZOB	488		0.5	1.0	1.5	1.0	-90,142.276	35,796.207	256.717	II
	258	石鏃	H-023		SSC	Ob	KZOB	467		0.4	1.6	1.2	0.4	-90,123.907	35,814.719	257.138	II
	283	石鏃	H-023		SSC	Ob	KZOB	468		1.1	1.7	1.5	0.6	-90,123.019	35,817.349	256.864	II
	861	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	478		0.7	1.6	1.5	0.5	-90,124.571	35,811.280	257.294	II
	1394	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	481		0.3	1.3	1.0	0.3	-90,117.856	35,814.549	257.265	II
	1461	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	483		0.5	1.3	1.5	0.3	-90,126.151	35,810.035	257.343	II
	2602	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	491		0.4	1.4	1.2	0.4	-90,123.727	35,809.590	257.219	II
	2612	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	493		0.5	1.4	1.4	0.4	-90,120.430	35,810.514	257.283	II
	7512	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	519		1.4	1.8	1.6	0.6	-90,129.655	35,805.705	257.292	II
	9307	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	532		0.4	1.8	0.9	0.4	-90,131.467	35,806.232	257.140	II
	9597	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	537		0.2	1.1	0.7	0.3	-90,120.583	35,809.370	257.298	II
	10641	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	544		0.4	1.9	1.1	0.4	-90,123.579	35,811.793	256.999	II
	11481	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	552		0.4	1.4	1.2	0.3	-90,122.071	35,807.538	257.274	II
	12452	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	563		0.3	1.7	1.0	0.4	-90,131.385	35,801.306	257.280	II
	13492	石鏃	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	574		0.5	1.1	1.8	0.4	-90,153.581	35,812.432	255.758	II
	13837	石鏃	H-022		ZN	Ob	KZOB	38		0.7	1.2	1.7	0.4	-90,122.330	35,804.300	257.467	II
	14277	石鏃	G-021		ZN	Ob	KZOB	63		0.3	1.1	1.6	0.4	-90,131.328	35,799.530	257.409	II
	15739	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	594		0.3	1.0	1.2	0.3	-90,119.914	35,819.346	256.569	II
第117図 38	18811	石鏃	F-006		SNZ	Ob	SWHD	609		0.7	2.5	1.5	0.4	-90,143.352	35,643.386	256.380	III
第117図 39	18814	石鏃	H-006		AN～FB	Ob	WDHY	611		0.4	2.2	1.3	0.3	-90,123.566	35,645.513	261.297	III
第117図 40	10745	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	547		0.4	1.9	0.8	0.4	-90,129.187	35,815.548	256.663	III
第117図 41	320	石鏃	H-023		SSC	Ob	AGKT	470		0.2	1.8	1.0	0.2	-90,121.734	35,815.300	257.055	III
第117図 42	17682	石鏃	G-012		SSC	Ob	KZOB	605		0.6	2.0	1.1	0.5	-90,135.330	35,705.341	253.547	III
第117図 43	15801	石鏃	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	596		0.7	1.6	1.1	0.5	-90,127.650	35,816.123	256.409	III
第117図 44	18821	石鏃	G-010		AN～FB	Ob	AGKT	612		1.4	2.4	1.6	0.5	-90,131.149	35,684.369	258.231	IV
第117図 45	11041	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	549		1.2	2.6	1.5	0.5	-90,138.897	35,800.726	256.924	IV
	1615	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	485		0.4	1.0	1.2	0.4	-90,128.070	35,802.116	257.719	IV
	19193	石鏃	G-004		SSC	Ob	SWHD	613		0.5	1.3	1.4	0.4	-90,133.133	35,628.552	261.006	IV
第117図 46	4351	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	505		5.4	3.3	1.9	0.9	-90,124.905	35,808.845	257.349	V
第117図 47	7739	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	523		0.5	1.5	1.3	0.4	-90,118.950	35,810.594	257.280	V
第117図 48	14559	石鏃	H-023	SB01	覆土	Ob	推定不可	583		0.5	1.2	1.2	0.4	-90,123.258	35,817.173	256.522	V
第117図 49	10670	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	545		0.8	1.6	1.5	0.5	-90,122.006	35,811.834	257.043	V
第117図 50	12580	石鏃	H-023		AN～FB	Ch(Re)				3.8	2.8	2.2	0.7	-90,122.010	35,813.605	256.828	VI
第117図 51	7514	石鏃	H-022		AN～FB	RSh				2.0	2.3	1.7	0.4	-90,128.257	35,807.584	257.258	VI
第117図 52	12147	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	561		3.1	2.5	1.9	0.7	-90,119.331	35,817.049	256.572	VI
第117図 53	9429	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	534		0.5	1.4	1.4	0.4	-90,125.614	35,803.042	257.565	VI
第117図 54	6979	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	515		0.7	1.8	1.4	0.4	-90,138.379	35,798.976	257.268	VI
第117図 55	11042	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	550		0.4	1.4	1.0	0.3	-90,138.847	35,800.963	257.000	VI
第117図 56	19403	石鏃	表採			Ob	KZOB	792		0.6	1.3	1.5	0.4				VI
第117図 57	13321	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	568		0.6	1.7	1.2	0.3	-90,137.578	35,804.080	256.833	VI
第117図 58	16390	石鏃	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	600		0.5	1.5	1.1	0.4	-90,126.365	35,815.361	256.463	VI
第117図 59	15080	石鏃	H-023	SB01	覆土	Rhy				1.3	2.2	1.6	0.4	-90,123.376	35,815.889	256.591	VI
第117図 60	2985	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	495		0.7	1.7	1.5	0.4	-90,145.740	35,801.952	256.331	VI
第117図 61	11595	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	556		0.8	1.7	1.7	0.4	-90,114.567	35,815.194	257.049	VI
第117図 62	3671	石鏃	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	502		0.3	1.4	1.6	0.3	-90,130.739	35,812.828	256.809	VI
第117図 63	15906	石鏃	H-023	TA02	覆土	Ob	KZOB	597		0.6	1.7	1.2	0.3	-90,127.068	35,817.909	256.347	VI
	714	石鏃	G-022		SSC	Ob	KZOB	476		0.8	2.0	1.3	0.4	-90,139.710	35,800.789	257.139	VI
	2987	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	496		0.9	1.3	1.7	0.5	-90,137.703	35,803.093	257.183	VI
	7324	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	推定不可	517		0.9	2.0	1.4	0.4	-90,116.029	35,814.341	257.174	VI
	8673	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	526		0.5	1.1	1.4	0.4	-90,145.388	35,804.583	256.271	VI
	10354	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	541		0.2	1.0	1.3	0.3	-90,129.178	35,807.647	257.078	VI
	11970	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	559		0.4	1.5	1.1	0.3	-90,137.905	35,803.536	257.058	VI
	14844	石鏃	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	585		0.3	0.9	1.2	0.3	-90,152.674	35,812.850	255.583	VI
	1239	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	480		2.0	2.5	1.4	0.9	-90,125.526	35,819.309	256.820	VII
第117図 64	16349	石鏃	H-023	SB04	覆土	Ch		599		0.3	1.3	1.0	0.3	-90,126.502	35,814.579	256.454	VII
第117図 65	16799	石鏃	H-023	SB06	床面	Ob	KZOB	603		0.3	1.1	0.9	0.4	-90,123.566	35,810.190	256.787	VII
第117図 66	16586	石鏃	I-023	TA03	覆土	Ob	推定不可	602		0.1	0.8	0.6	0.3	-90,118.980	35,816.843	256.541	VII

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	調査区遺構	層位	石材	産地	Ob分析番号	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標	分類
第117図 67	15299	石鏃	H-023	SB01	覆土	Ob	KZOB	589		0.4	1.5	1.0	0.4	-90,123.204	35,815.248	256.560	Ⅷ
	352	石鏃	H-023		SSC	Ob	KZOB	472		0.3	1.1	1.0	0.3	-90,120.430	35,815.131	256.958	Ⅷ
	472	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	測定不可			<0.1	0.5	0.5	0.5	-90,121.679	35,817.200	256.816	Ⅷ
	1210	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	479		0.5	1.2	1.3	0.4	-90,130.560	35,804.219	257.496	Ⅷ
	2042	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	770		0.1	0.8	0.9	0.3	-90,148.215	35,805.840	255.877	Ⅷ
	2445	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	490		0.1	0.9	0.7	0.3	-90,126.319	35,808.083	257.406	Ⅷ
	2604	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	492		0.2	0.8	0.9	0.4	-90,122.159	35,810.086	257.240	Ⅷ
	3142	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	771		0.1	0.9	0.9	0.2	-90,134.835	35,799.635	257.426	Ⅷ
	3199	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	497		0.4	0.9	1.0	0.4	-90,143.232	35,806.503	256.514	Ⅷ
	3305	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	498		0.9	1.2	1.6	0.5	-90,134.698	35,798.314	257.420	Ⅷ
	3471	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	499		0.4	1.8	1.0	0.4	-90,132.639	35,806.071	257.252	Ⅷ
	4705	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	506		0.2	0.9	0.9	0.3	-90,122.941	35,802.694	257.771	Ⅷ
	4885	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	507		0.4	1.6	1.0	0.4	-90,127.573	35,804.295	257.598	Ⅷ
	6294	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	513		0.5	1.8	1.0	0.5	-90,125.251	35,803.763	257.622	Ⅷ
	7367	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	518		0.2	1.0	1.2	0.3	-90,119.523	35,812.321	257.234	Ⅷ
	9413	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	533		0.5	1.1	1.3	0.4	-90,124.106	35,801.536	257.701	Ⅷ
	9866	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	測定不可	538		<0.1	0.6	0.5	0.2	-90,118.123	35,817.496	256.839	Ⅷ
	10686	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	546		0.3	0.7	1.3	0.3	-90,120.664	35,817.519	256.713	Ⅷ
	11397	石鏃	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	551		0.2	1.1	0.8	0.3	-90,136.695	35,798.395	257.254	Ⅷ
	11619	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	788		0.1	0.9	1.1	0.2	-90,125.122	35,819.630	256.578	Ⅷ
	11863	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	推定不可	558		0.4	1.4	1.0	0.4	-90,143.874	35,806.125	256.354	Ⅷ
	12750	石鏃	I-022		AN～FB	Ob	KZOB	554		0.2	0.6	1.2	0.4	-90,118.603	35,809.714	257.239	Ⅷ
	12848	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	測定不可	555		<0.1	0.8	0.7	0.3	-90,122.423	35,809.462	257.162	Ⅷ
	13028	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	567		0.4	1.0	1.3	0.4	-90,123.311	35,817.025	256.640	Ⅷ
	13043	石鏃	H-023		ZN	Ob	KZOB	10		0.2	0.9	0.7	0.4	-90,121.805	35,817.861	256.602	Ⅷ
	14336	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	581		0.3	0.8	1.2	0.3	-90,122.184	35,809.840	257.076	Ⅷ
	14864	石鏃	I-022		AN～FB	Ob	KZOB	586		0.4	1.0	1.3	0.4	-90,117.053	35,808.146	257.432	Ⅷ
	15147	石鏃	G-022		ZN	Ob	HNHJ	123		0.1	0.9	0.9	0.3	-90,133.842	35,801.991	256.915	Ⅷ
	15545	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	592		0.3	0.7	1.6	0.4	-90,122.661	35,809.689	257.070	Ⅷ
	18805	石鏃	G-010		AN～FB	Ob	AGKT	608		<0.1	0.7	0.8	0.2	-90,132.429	35,686.926	257.900	Ⅷ
第117区 68	6338	石鏃	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	514		3.4	3.1	2.1	0.8	-90,132.410	35,813.496	256.680	Ⅸ
第117区 69	16170	石鏃	H-023	SB06	覆土	Ob	KZOB	598		0.8	2.1	1.6	0.4	-90,122.638	35,810.276	256.944	Ⅸ
第117区 70	9202	石鏃	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	531		1.8	2.2	1.6	0.7	-90,132.025	35,812.760	256.552	Ⅸ
第117区 71	14566	石鏃	H-023	SB01	覆土	Ob	KZOB	584		0.5	1.4	1.1	0.4	-90,123.853	35,816.551	256.598	Ⅸ
第117区 72	14558	石鏃	H-023	SB01	覆土	Ob	KZOB	582		1.9	2.1	1.9	0.5	-90,123.310	35,817.186	256.543	Ⅸ
第117区 73	14974	石鏃	H-023	SB02	覆土	Ob	KZOB	587		1.3	1.6	1.4	0.7	-90,121.248	35,812.447	256.872	Ⅸ
第117区 74	14020	石鏃	H-023	TA02	覆土	Ob	KZOB	579		0.3	0.9	1.1	0.3	-90,126.330	35,818.201	256.358	Ⅸ
第117区 75	16405	石鏃	H-023	SB01	床面	Ob	KZOB	601		0.4	1.1	1.1	0.4	-90,122.485	35,817.265	256.458	Ⅸ
	335	石鏃	H-023		SSC	Ob	KZOB	471		0.4	1.6	1.4	0.4	-90,121.507	35,817.469	256.944	Ⅸ
	835	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	477		1.1	2.1	1.6	0.4	-90,125.024	35,813.997	257.105	Ⅸ
	1494	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	484		0.5	1.5	1.2	0.4	-90,124.246	35,805.423	257.602	Ⅸ
	1929	石鏃	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	486		<0.1	0.9	0.8	0.2	-90,153.757	35,811.341	255.863	Ⅸ
	2848	石鏃	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	494		0.4	1.3	1.1	0.3	-90,117.131	35,817.368	257.073	Ⅸ
	3683	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	503		0.7	1.9	1.4	0.4	-90,126.505	35,817.238	256.850	Ⅸ
	4261	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	504		0.7	1.8	1.1	0.4	-90,121.429	35,811.079	257.336	Ⅸ
	6205	石鏃	E-022		AN～FB	Ob	KZOB	512		0.5	0.9	1.2	0.5	-90,153.966	35,809.938	255.747	Ⅸ
	7604	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	521		0.3	1.5	1.0	0.3	-90,140.082	35,801.871	257.002	Ⅸ
	8434	石鏃	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	525		0.9	1.5	1.4	0.4	-90,131.144	35,800.529	257.471	Ⅸ
	8696	石鏃	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	527		0.4	1.3	1.0	0.3	-90,146.704	35,800.184	256.049	Ⅸ
	9559	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	535		0.8	1.3	1.4	0.4	-90,126.770	35,813.082	256.925	Ⅸ
	11025	石鏃	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	548		1.7	2.2	1.8	0.6	-90,126.636	35,817.126	256.590	Ⅸ
	11581	石鏃	I-024		AN～FB	Ob	推定不可	555		0.2	1.0	1.1	0.3	-90,112.016	35,820.815	256.548	Ⅸ
	12067	石鏃	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	560		0.3	1.1	1.6	0.3	-90,133.988	35,812.669	256.520	Ⅸ
	12270	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	562		1.4	1.8	1.7	0.6	-90,122.342	35,806.385	257.365	Ⅸ
	12981	石鏃	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	566		0.6	1.2	1.4	0.4	-90,128.202	35,805.444	257.194	Ⅸ
第120図 1	3097	削器	F-022		AN～FB	Rhy				166.1	13.5	5.4	2.5	-90,144.499	35,802.438	256.461	
第120図 2	15673	削器	H-023		AN～FB	GAn				39.5	6.1	6.2	1.1	-90,120.418	35,810.378	257.174	
第121区 3	17840	削器	G-021	SF23	覆土	GAn				33.4	7.8	3.4	1.5	-90,139.008	35,794.579	256.791	
第121区 4	15468	削器	H-023	SB04	覆土	GAn				11.5	5.3	4.0	0.6	-90,126.557	35,814.705	256.508	
第121区 5	149	削器	G-012		SSC	FT				12.4	4.4	2.5	1.5	-90,137.474	35,704.134	253.507	
第121区 6	18803	削器	H-006		AN～FB	Rhy				16.7	5.1	3.4	1.2	-90,124.575	35,641.966	261.407	
第121区 7	11247	削器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	448		15.8	5.6	2.3	2.0	-90,123.279	35,811.422	256.980	
第122区 8	17268	削器	H-022		ZN	Ob	KZOB	289		38.9	6.8	5.5	1.6	-90,123.315	35,808.849	256.942	
第122区 9	19402	削器	表採			An(py)				119.7	7.7	6.5	2.8				
第122区 10	17868	削器	G-021	SF23	覆土	An(py)				18.9	4.2	3.7	1.0	-90,138.843	35,795.130	256.735	
第123区 11	5652	削器	G-023		AN～FB	Hor				97.9	8.3	4.4	3.2	-90,131.258	35,814.066	256.702	
第123区 12	7412	削器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	677		15.2	6.8	2.6	1.2	-90,120.992	35,818.247	256.771	
第123区 13	17828	削器	G-021	SF23	覆土	FAn				113.6	10.3	6.1	2.0	-90,139.119	35,794.170	256.961	
第124区 14	15309	削器	H-023	TA02	床面	Ob	KZOB	766		17.1	5.8	2.9	1.7	-90,126.957	35,817.363	256.284	
第124区 15	2468	削器	G-022	SF04	覆土	Ob	KZOB	765		8.4	3.8	2.4	1.1	-90,136.516	35,802.303	257.249	
	1182	削器	I-022		AN～FB	Hor				26.6	5.4	5.3	1.1	-90,118.131	35,802.072	257.810	
	1337	削器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	675		13.1	3.4	3.2	1.3	-90,127.343	35,814.521	257.036	
	1593	削器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	674		11.5	3.3	2.9	1.6	-90,129.561	35,806.154	257.402	
	1759	削器	G-022		AN～FB	GAn				12.9	4.5	2.7	1.2	-90,131.136	35,808.216	257.239	
	2334	削器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	676		19.8	4.6	3.4	1.4	-90,123.367	35,819.556	256.792	
	2807	削器	I-023		AN～FB	Rhy				17.2	4.5	3.4	1.2	-90,113.891	35,813.746	257.188	
	5098	削器	I-022		AN～FB	GAn				68.3	5.4	7.2	1.8	-90,114.509	35,804.652	257.889	
	5537	削器	I-023		AN～FB	Rhy				12.1	5.7	2.6	1.0	-90,115.889	35,815.957	257.091	
	6477	削器	H-023		AN～FB	Hor				50.9	6.0	5.5	2.0	-90,120.655	35,819.532	256.734	
	9812	削器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	678		10.5	5.5	2.8	1.1	-90,119.279	35,818.632	256.686	
	11962	削器	G-022		AN～FB	GAn				25.4	5.4	3.5	1.5	-90,138.790	35,804.846	256.958	
	14148	削器	I-023		ZN	Ob	KZOB	54		8.5	3.5	3.3	1.0	-90,119.107	35,818.800	256.531	
	14199	削器	I-023		AN～FB	Rhy				5.0	3.3	2.0	1.2	-90,115.884	35,812.580	257.055	
	16839	削器	H-023		ZN	Ob	KZOB	190		3.3	2.5	2.0	0.8	-90,120.893	35,814.297	256.782	
	18228	削器	H-012		SSC	An(py)				30.8	6.8	4.4	1.2	-90,128.755	35,704.482	254.732	
第124図 掻器	9461	掻器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	673		17.8	6.0	2.7	1.5	-90,124.309	35,803.928	257.553	
第124区 石匙	8859	石匙	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	528		4.3	1.8	3.9	0.8	-90,131.408	35,813.095	256.600	
第124区 1	18059	石錐	H-012		SSC	Ob	KZOB	683		1.8	5.0	0.8	0.6	-90,127.285	35,700.906	254.942	
第124図 2	1666	石錐	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	681		2.2	3.2	1.2	0.8	-90,134.501	35,801.029	257.509	
	7684	石錐	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	682		1.6	2.7	1.0	0.6	-90,119.370	35,815.938	256.925	
第124区 1	2546	耳飾	H-022		AN～FB	Ta				3.8	3.0	1.5	0.8	-90,126.400	35,803.336	257.596	
第124区 2	17136	耳飾	G-022		ZN	Ta				6.4	3.3	2.1	0.8	-90,130.994	35,805.863	256.804	
第127区 1	7709	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	442		664.5	8.4	9.2	9.4	-90,125.692	35,818.407	256.629	I
第128区 2	4756	石核	H-022		AN～FB	GAn				232.5	7.8	5.9	4.4	-90,125.976	35,800.725	257.681	I
第128区 3	12842	石核	G-023	TA01	AN～FB	Hor				69.2	4.1	6.8	3.3	-90,133.309	35,813.511	256.434	I
第128区 4	13878	石核	G-022		AN～FB	GAn				83.9	5.1	7.6	2.7	-90,137.857	35,805.059	256.824	I
第128区 5	15459	石核	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	459		7.9	1.5	2.4	2.2	-90,127.151	35,814.816	256.538	I
第128区 6	10563	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	782		5.3	2.6	2.3	1.3	-90,121.233	35,816.520	256.760	I
第129図 7	16010	石核	H-023	TA02	覆土	Ob	KZOB	461		6.2	2.1	3.6	3.6	-90,126.182	35,817.187	256.359	I
第129図 8	15760	石核	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	460		18.3	2.6	4.4	2.8	-90,128.329	35,814.939	256.431	I
	5135	石核	I-022		AN～FB	Hor				181.4	5.6	7.8	3.9	-90,112.758	35,806.321	257.734	I
	6841	石核	G-022		AN～FB	GAn				140.8	5.0	5.1	5.1	-90,134.957	35,800.818	257.307	I
	8627	石核	F-022		AN～FB	Hor				269.8	5.3	8.2	6.2	-90,144.447	35,806.102	256.312	I
	9223	石核	H-022		AN～FB	Hor				137.1	4.9	7.0	3.9	-90,129.346	35,800.826	257.493	I

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	調査区遺構	層位	石材	産地	Ob分析番号	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標	分類
	11229	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	447		57.5	3.6	6.9	2.4	-90,123.080	35,812.832	256.909	Ⅰ
第129図 9	16711	石核	H-022	SB06	床面	Ob	測定不可	463		171.0	7.0	7.3	4.0	-90,123.897	35,809.570	256.901	Ⅱ
第129図 10	16524	石核	H-023		AN～FB	Hor	Hor			732.7	13.2	9.6	5.6	-90,129.776	35,810.075	256.847	Ⅱ
第130図 11-1	2309	剥片(接合)	G-021		AN～FB	GAn			S-16	9.2	2.8	3.1	0.7	-90,131.529	35,791.638	257.970	Ⅱ
第130図 11-2	11733	石核	G-021		AN～FB	GAn			S-16	80.0	5.2	6.6	2.2	-90,131.134	35,791.837	257.849	Ⅱ
	2115	石核	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	434		45.9	5.0	4.6	2.4	-90,144.893	35,803.557	256.349	Ⅱ
	2525	石核	F-022		AN～FB	GAn				37.8	3.9	5.7	1.8	-90,141.056	35,804.951	256.733	Ⅱ
	8012	石核	H-022		AN～FB	Hor				431.1	12.7	10.2	3.8	-90,125.823	35,808.450	257.185	Ⅱ
	16957	石核	G-022		ZN	Ob	KZOB	215		8.7	3.8	2.8	1.3	-90,130.265	35,805.853	256.924	Ⅱ
	18718	石核	E-022		SNZ	Ob	KZOB	465		16.2	3.3	4.0	1.5	-90,154.489	35,804.893	255.154	Ⅱ
第130図 12	14975	石核	H-023	SB02	覆土	Ob	KZOB	457		5.6	3.4	1.6	1.5	-90,121.244	35,812.542	256.892	Ⅲ
第130図 13	9448	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	648		13.1	3.2	2.3	1.9	-90,125.244	35,804.459	257.477	Ⅲ
第130図 14	15236	石核	G-012		SNZ	Ob	SWHD	458		3.0	1.9	1.7	1.2	-90,135.180	35,700.405	254.785	Ⅲ
	1583	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	431		21.8	4.4	3.3	1.5	-90,129.377	35,809.826	257.192	Ⅲ
	7032	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	437		9.1	2.9	2.5	1.9	-90,122.379	35,803.917	257.558	Ⅲ
	7559	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	441		27.1	4.9	4.9	1.9	-90,121.098	35,812.693	257.115	Ⅲ
	12709	石核	H-023		AN～FB	Ob	推定不可	452		18.4	5.0	2.4	1.9	-90,126.700	35,813.382	256.868	Ⅲ
	13664	石核	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	453		8.0	3.8	1.9	1.5	-90,152.253	35,812.603	255.845	Ⅲ
	16484	石核	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	462		6.0	2.5	1.8	1.3	-90,135.138	35,813.069	256.233	Ⅲ
	18081	石核	G-012		SSC	Ob	KZOB	464		5.2	3.0	1.6	1.5	-90,133.860	35,705.552	254.159	Ⅲ
第131図 15-2	17765	石核	H-023	BL02	ZN	Ob	KZOB	322	S-25	9.6	2.5	2.7	1.5	-90,126.540	35,813.323	256.303	Ⅳ
第131図 15-1	17772	剥片(接合)	H-023	BL02	ZN	Ob	KZOB	329	S-25	0.8	2.0	1.3	0.4	-90,126.674	35,813.597	256.306	Ⅳ
第131図 16-2	2308	石核	G-021		AN～FB	GAn			S-12	96.4	4.7	5.0	3.3	-90,132.455	35,793.491	257.843	Ⅳ
第131図 16-1	1863	剥片(接合)	G-021		AN～FB	GAn			S-12	5.1	2.7	3.5	0.7	-90,131.779	35,794.552	257.866	Ⅳ
	367	石核	H-023		SSC	Ob	KZOB	426		13.7	2.5	3.7	1.8	-90,120.469	35,816.747	256.867	Ⅳ
	617	石核	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	727		99.2	5.2	9.6	2.7	-90,144.391	35,802.428	256.590	Ⅳ
	771	石核	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	427		6.3	2.3	2.6	1.3	-90,132.162	35,796.526	257.797	Ⅳ
	1458	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	430		13.2	3.6	2.5	1.9	-90,124.155	35,809.724	257.355	Ⅳ
	1621	石核	H-022		AN～FB	Ob	推定不可	432		10.8	2.7	3.7	1.5	-90,127.104	35,800.973	257.749	Ⅳ
	1755	石核	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	433		4.9	1.7	2.3	1.3	-90,130.456	35,806.423	257.347	Ⅳ
	3129	石核	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	435		8.0	2.9	2.6	1.4	-90,136.325	35,801.425	257.356	Ⅳ
	3842	石核	G-021		AN～FB	GAn				146.1	5.1	6.1	4.3	-90,131.635	35,792.453	257.937	Ⅳ
	6953	石核	F-023		AN～FB	Ob	KZOB	436		10.9	2.2	3.3	2.3	-90,141.602	35,810.307	256.517	Ⅳ
	7341	石核	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	438		8.2	2.3	3.5	1.9	-90,117.687	35,817.083	256.954	Ⅳ
	7515	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	439		3.5	2.0	2.1	0.9	-90,129.542	35,809.322	257.127	Ⅳ
	7520	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	440		15.9	3.0	4.0	1.8	-90,125.269	35,807.642	257.309	Ⅳ
	8659	石核	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	443		23.3	2.4	4.5	2.7	-90,145.624	35,808.529	256.207	Ⅳ
	10122	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	444		4.3	2.1	2.3	1.2	-90,121.587	35,817.190	256.742	Ⅳ
	10410	石核	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	445		5.0	2.4	2.5	1..2	-90,117.393	35,819.562	256.681	Ⅳ
	10853	石核	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	446		67.1	4.6	6.7	2.8	-90,124.314	35,806.599	257.335	Ⅳ
	12301	石核	H-022		AN～FB	Ob	推定不可	450		3.7	1.9	2.7	1.5	-90,123.770	35,804.611	257.390	Ⅳ
	12578	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	451		19.9	3.7	3.5	2.2	-90,122.549	35,812.338	256.893	Ⅳ
	13682	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	454		32.5	3.4	5.6	2.7	-90,120.980	35,812.982	256.900	Ⅳ
	13813	石核	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	455		3.4	2.2	1.5	1.7	-90,119.327	35,817.971	256.600	Ⅳ
	14858	石核	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	456		3.1	2.0	2.3	1.3	-90,126.322	35,813.696	256.669	Ⅳ
	18718	石核	E-022		SNZ	Ob	KZOB	465		16.2	3.3	4.0	1.5	-90,154.489	35,804.893	255.154	Ⅳ
第132図 1	16184	両面調整石器	H-023	SB01	床面	Hor				269.9	10.7	6.5	3.6	-90,123.687	35,816.814	256.442	
第132図 2	14174	両面調整石器	G-022		AN～FB	Hor				24.4	5.0	2.8	2.1	-90,134.485	35,801.108	257.256	
第132図 3	18319	両面調整石器	G-012		SSC	GAn			S-14	18.8	3.3	3.6	1.5	-90,132.973	35,704.267	254.249	
第132図 3	18517	剥片(接合)	G-012		AN～FB	GAn			S-14	11.7	3.0	3.5	1.0	-90,133.121	35,704.339	253.959	
第135図 1	13810	楔形石器	H-023		AN～FB	RC				3.7	2.6	1.1	1.0	-90,120.223	35,817.584	256.639	Ⅰ
第135図 2	15450	楔形石器	H-023	SB01	覆土	Ob	KZOB	666		2.2	2.1	1.3	0.9	-90,122.303	35,817.509	256.577	Ⅰ
第135図 3	16930	楔形石器	H-022		ZN	Ob	KZOB	202		7.0	3.0	1.9	1.4	-90,122.062	35,805.515	257.256	Ⅰ
第135図 4	1149	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	618		4.3	3.0	1.6	1.0	-90,124.771	35,807.567	257.443	Ⅰ
第135図 5	1370	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	428		7.3	4.2	1.9	1.2	-90,120.566	35,811.255	257.315	Ⅰ
	1440	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	620		1.7	2.5	1.1	0.7	-90,117.878	35,813.435	257.365	Ⅰ
	1971	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	623		3.9	2.8	1.3	1.2	-90,148.441	35,809.218	255.969	Ⅰ
	2012	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	624		1.9	1.8	1.3	0.8	-90,143.787	35,806.994	256.466	Ⅰ
	5289	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	633		1.6	2.3	0.8	1.0	-90,111.972	35,818.121	256.920	Ⅰ
	12626	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	658		3.2	3.3	1.3	0.8	-90,116.660	35,811.804	257.163	Ⅰ
	12986	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	659		4.7	2.9	2.1	1.1	-90,131.236	35,805.193	257.045	Ⅰ
	14720	楔形石器	H-022		ZN	Ob	KZOB	95		3.2	2.2	1.3	1.1	-90,122.296	35,809.236	257.087	Ⅰ
	14748	楔形石器	D-021		KGP	Ob	KZOB	664		0.3	1.9	0.7	0.4	-90,152.111	35,790.840	250.666	Ⅰ
	17017	楔形石器	H-022		ZN	Ob	KZOB	228		2.3	3.0	1.6	0.7	-90,127.734	35,801.126	257.329	Ⅰ
	17178	楔形石器	I-022		ZN	Ob	KZOB	670		3.5	2.7	1.5	0.9	-90,119.936	35,809.642	256.956	Ⅰ
	17308	楔形石器	H-023		ZN	Ob	KZOB	301		2.7	3.4	1.4	0.9	-90,124.172	35,813.450	256.561	Ⅰ
	19365	楔形石器	G-022		ZN	Ob	KZOB	419		1.1	2.2	1.1	0.7	-90,133.581	35,801.898	257.054	Ⅰ
第135図 6	13430	楔形石器	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	570		1.9	1.7	1.6	0.6	-90,131.194	35,813.677	256.512	Ⅱ
第135図 7	9628	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	708		4.2	3.4	1.8	0.9	-90,124.189	35,807.147	257.273	Ⅱ
第135図 8	15439	楔形石器	H-023	SB01	床面	Ob	KZOB	721		8.6	2.9	3.5	1.5	-90,122.976	35,815.077	256.529	Ⅱ
第135図 9	7970	楔形石器	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	642		5.4	2.6	3.1	0.8	-90,133.471	35,812.391	256.714	Ⅱ
第135図 10	1374	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	429		9.3	4.4	2.4	1.0	-90,122.839	35,811.448	257.276	Ⅱ
第135図 11	17270	楔形石器	G-022		ZN	Ob	KZOB	291		2.4	3.2	1.1	0.9	-90,130.562	35,804.636	256.883	Ⅱ
第136図 12	15428	楔形石器	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	665		1.4	2.0	1.3	0.7	-90,131.510	35,813.449	256.498	Ⅱ
第136図 13	14597	楔形石器	H-023	SB01	覆土	Ob	推定不可	720		2.2	2.4	1.8	0.7	-90,122.632	35,815.941	256.610	Ⅱ
第136図 14	16309	楔形石器	H-023	SB01	覆土	Ob	KZOB	669		3.9	2.6	1.7	1.1	-90,122.743	35,817.131	256.516	Ⅱ
第136図 15	4841	楔形石器	H-022		AN～FB	RC				2.1	2.4	1.5	0.7	-90,129.385	35,802.308	257.499	Ⅱ
第136図 16	15835	楔形石器	I-023	TA03	覆土	Ob	KZOB	723		1.5	2.3	1.3	0.6	-90,119.557	35,817.943	256.572	Ⅱ
第136図 17	15728	楔形石器	H-022	SB06	覆土	Ob	KZOB	593		0.5	1.6	1.1	0.4	-90,123.384	35,809.794	256.927	Ⅱ
第136図 18	15787	楔形石器	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	667		4.9	3.6	1.7	0.8	-90,126.326	35,814.091	256.525	Ⅱ
第136図 19	15576	楔形石器	F-020		NSC	GAn				9.0	4.8	1.3	1.5	-90,140.973	35,785.781	256.219	Ⅱ
第136図 20	3986	楔形石器	F-021	SF02	覆土	Ob	KZOB	629		1.6	2.3	1.6	0.6	-90,142.131	35,796.809	255.170	Ⅱ
第136図 21	15977	楔形石器	H-023	SB06	床面	Ob	KZOB	668		3.4	2.8	2.5	0.6	-90,123.318	35,810.892	256.811	Ⅱ
第136図 22	8976	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	685		21.6	5.2	3.4	1.7	-90,143.586	35,802.597	256.401	Ⅱ
	487	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	616		2.3	2.5	1.6	0.9	-90,121.336	35,814.576	256.941	Ⅱ
	1046	楔形石器	I-022		AN～FB	Ob	KZOB	617		5.3	2.7	2.0	1.4	-90,116.276	35,809.793	257.574	Ⅱ
	1383	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	619		1.6	2.1	1.2	0.9	-90,127.588	35,811.812	257.142	Ⅱ
	1707	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	622		3.3	2.1	1.8	1.0	-90,134.173	35,803.130	257.467	Ⅱ
	2355	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	625		5.5	2.5	1.9	1.4	-90,127.587	35,817.303	256.799	Ⅱ
	2904	楔形石器	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	626		3.5	2.8	2.0	0.8	-90,156.375	35,811.436	255.747	Ⅱ
	2906	楔形石器	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	627		2.9	2.3	1.4	1.2	-90,154.378	35,810.561	255.769	Ⅱ
	3291	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	628		1.2	2.1	1.0	0.6	-90,143.514	35,804.151	256.541	Ⅱ
	3452	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	695		1.4	2.0	1.2	0.7	-90,132.113	35,809.294	257.089	Ⅱ
	4207	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	630		2.6	2.2	2.1	0.9	-90,126.771	35,812.368	257.054	Ⅱ
	4899	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	631		1.5	2.2	1.3	0.7	-90,125.395	35,810.057	257.389	Ⅱ
	5040	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	632		1.0	1.7	1.4	0.6	-90,117.504	35,815.543	257.120	Ⅱ
	5389	楔形石器	I-022		AN～FB	Ob	KZOB	634		2.0	2.0	1.2	1.1	-90,118.363	35,803.184	257.808	Ⅱ
	5604	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	635		1.4	1.4	1.5	0.8	-90,113.307	35,815.014	257.121	Ⅱ
	5699	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	636		2.0	2.1	1.5	0.7	-90,125.331	35,810.212	257.272	Ⅱ
	5843	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	637		2.1	1.7	1.8	0.9	-90,126.572	35,801.238	257.673	Ⅱ
	6937	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	638		2.1	2.1	2.0	0.6	-90,129.306	35,815.589	256.735	Ⅱ
	7054	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	639		0.9	1.5	1.1	0.5	-90,123.435	35,817.831	256.756	Ⅱ
	7623	楔形石器	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	641		1.7	1.9	1.6	0.8	-90,117.256	35,819.494	256.782	Ⅱ
	8459	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	643		2.0	2.5	1.8	1.8	-90,122.333	35,810.279	257.185	Ⅱ

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	調査区遺構	層位	石材	産地	Ob分析番号	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標	分類
	8587	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	703		1.6	1.7	1.5	0.8	-90,143.420	35,806.094	256.438	II
	8593	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	645		2.1	2.3	1.6	0.7	-90,142.252	35,804.715	256.546	II
	8668	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	推定不可	646		0.9	2.2	1.1	0.5	-90,146.523	35,805.409	256.109	II
	8924	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	647		9.1	3.8	2.1	1.0	-90,134.966	35,802.889	257.248	II
	9408	楔形石器	H-021		AN～FB	Ob	KZOB	777		0.7	1.7	1.0	0.9	-90,126.110	35,799.895	257.682	II
	9635	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	649		3.6	1.8	2.2	1.1	-90,122.543	35,803.800	257.502	II
	9797	楔形石器	I-024		AN～FB	Ob	KZOB	650		2.2	1.9	1.8	0.7	-90,119.535	35,820.405	256.625	II
	10178	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	651		1.7	2.1	1.4	0.7	-90,126.479	35,816.754	256.705	II
	11075	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	652		3.1	2.8	1.5	0.9	-90,136.733	35,801.223	257.040	II
	11788	楔形石器	F-021		NSC	Ob	KZOB	653		2.6	1.7	1.7	1.0	-90,145.097	35,794.820	255.865	II
	11934	楔形石器	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	713		0.7	1.8	0.9	0.5	-90,133.881	35,812.937	256.506	II
	11946	楔形石器	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	654		1.8	2.6	1.3	0.7	-90,145.229	35,802.863	256.415	II
	11998	楔形石器	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	655		2.0	2.4	2.0	0.7	-90,137.042	35,802.321	257.141	II
	12326	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	656		1.8	2.1	1.2	0.9	-90,124.656	35,801.518	257.562	II
	12475	楔形石器	G-021		AN～FB	Ob	KZOB	717		0.9	1.4	1.1	0.7	-90,136.469	35,798.019	257.225	II
	12560	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	718		1.0	2.1	1.1	0.6	-90,123.536	35,815.596	256.736	II
	12579	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	657		3.4	3.1	1.7	1.0	-90,121.962	35,812.451	256.928	II
	13628	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	661		1.4	1.9	1.5	0.6	-90,128.058	35,801.362	257.420	II
	13640	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	576		0.9	1.7	1.0	0.7	-90,129.563	35,804.119	257.204	II
	13688	楔形石器	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	577		0.9	1.7	1.5	0.6	-90,120.296	35,810.699	257.088	II
	13761	楔形石器	H-022		ZN	Ob	KZOB	22		0.9	1.4	1.9	0.5	-90,121.949	35,806.149	257.340	II
	13897	楔形石器	H-023		ZN	Ob	測定不可	49		2.4	3.2	1.4	0.5	-90,121.311	35,818.927	256.528	II
	14459	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	662		1.5	2.0	1.7	0.7	-90,123.918	35,809.947	257.000	II
	14653	楔形石器	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	663		6.4	3.2	1.6	1.3	-90,120.849	35,809.415	257.172	II
	15614	楔形石器	G-022		ZN	Ob	KZOB	141		2.4	2.1	2.1	0.9	-90,134.256	35,804.436	256.936	II
	16810	楔形石器	I-023		ZN	Ob	KZOB	189		1.4	2.1	1.1	0.7	-90,118.229	35,817.895	256.543	II
	18777	楔形石器	E-022		SNZ	Ob	KZOB	671		1.9	2.4	1.7	0.6	-90,156.160	35,807.671	255.162	II
	19405	楔形石器	表採			Ob	KZOB	794		6.9	3.1	2.1	1.4				II
第137図 1	9480	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	706		28.5	4.8	3.6	2.9	-90,124.251	35,806.162	257.322	I
第137図 2	10486	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	781		1.4	2.6	1.5	0.6	-90,117.472	35,817.031	256.843	I
第137図 3	1502	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	691		1.5	2.7	0.7	0.7	-90,122.183	35,806.654	257.588	I
第137図 4	10711	加工痕のある剥片	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	784		0.7	2.6	0.8	0.5	-90,133.320	35,814.252	256.641	I
	16978	加工痕のある剥片	F-022		ZN	Ob	KZOB	223		0.5	1.3	0.9	0.5	-90,141.923	35,800.636	256.640	I
	17282	加工痕のある剥片	H-022		ZN	Ob	KZOB	294		4.6	3.1	2.2	0.9	-90,122.738	35,808.552	256.977	I
第137図 5	12369	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	714		0.8	1.9	0.8	0.6	-90,128.322	35,804.063	257.271	II
第137図 6	1778	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	769		7.0	3.3	2.8	0.8	-90,138.881	35,803.448	257.016	II
第137図 7	1763	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Sh				81.6	9.4	5.2	1.9	-90,133.433	35,808.312	257.230	II
第137図 8	7546	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	775		0.7	2.1	1.3	0.3	-90,124.469	35,816.170	256.829	II
第137図 9	10396	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	779		1.4	2.2	1.3	0.7	-90,129.690	35,803.986	257.284	II
第138図 10	7344	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	773		3.9	1.8	3.2	0.7	-90,118.408	35,816.870	256.915	II
	816	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	688		2.1	2.3	1.8	0.4	-90,123.616	35,819.943	256.833	II
	2745	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	An(py)				35.5	5.5	7.9	1.0	-90,119.378	35,817.839	256.923	II
	3718	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	696		3.4	2.5	2.3	0.7	-90,134.096	35,803.606	257.303	II
	6354	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	698		2.2	2.3	1.8	0.6	-90,123.826	35,811.100	257.196	II
	7883	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	701		9.3	2.7	4.3	0.9	-90,122.440	35,812.494	257.058	II
	10616	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	783		3.2	1.9	3.5	0.7	-90,123.609	35,810.577	257.133	II
	11337	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	787		7.7	2.7	2.8	1.1	-90,139.084	35,803.137	256.895	II
	11469	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	711		0.8	1.5	2.0	0.3	-90,121.223	35,809.247	257.263	II
	11511	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	712		0.9	2.3	0.9	0.5	-90,118.872	35,819.109	256.652	II
第138図 11	14821	加工痕のある剥片	C-020		NSC	An(py)				24.3	4.2	4.7	1.2	-90,177.299	35,781.113	248.598	III
第138図 12	860	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	689		5.8	3.8	2.4	0.9	-90,124.255	35,811.466	257.298	III
	4771	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	697		0.5	1.5	1.3	0.3	-90,126.172	35,802.964	257.667	III
	12401	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	715		0.9	1.6	1.5	0.4	-90,128.689	35,808.515	257.002	III
	13854	加工痕のある剥片	H-022		ZN	Ob	KZOB	44		1.1	1.2	1.9	0.7	-90,127.407	35,801.367	257.450	III
第138図 13	9205	加工痕のある剥片	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	704		0.4	1.5	0.8	0.5	-90,131.241	35,813.087	256.534	IV
第138図 14	1927	加工痕のある剥片	E-023		AN～FB	Ob	KZOB	693		5.8	3.5	1.8	1.1	-90,154.373	35,812.028	255.848	IV
第138図 15	10279	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	778		2.1	3.0	1.6	0.6	-90,123.713	35,809.298	257.188	IV
第138図 16	7352	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	774		4.6	2.7	2.2	1.0	-90,117.964	35,815.425	257.032	IV
第138図 17	4887	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	772		1.1	1.5	1.1	0.8	-90,127.371	35,802.157	257.614	IV
第138図 18	12710	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZOB	790		2.4	2.0	1.9	1.1	-90,126.662	35,813.217	256.772	IV
第138図 19	6913	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Rhy				1.0	1.3	1.5	0.5	-90,121.770	35,817.514	256.795	IV
第138図 20	1525	加工痕のある剥片	I-022		AN～FB	Ob	KZOB	692		0.3	1.5	1.2	0.2	-90,119.481	35,808.539	257.527	IV
第138図 21	14549	加工痕のある剥片	H-023	TA02	覆土	Ob	KZOB	719		0.2	0.8	1.3	0.2	-90,126.083	35,818.166	256.386	IV
第138図 22	11175	加工痕のある剥片	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	786		2.1	3.2	1.3	0.6	-90,141.369	35,801.081	256.853	IV
第138図 23	15321	加工痕のある剥片	H-023	TA02	床面	Ob	KZOB	791		0.3	1.7	1.2	0.2	-90,126.560	35,819.067	256.282	IV
第138図 24	15730	加工痕のある剥片	H-023	SB06	覆土	Ob	KZOB	722		0.7	2.1	1.2	0.7	-90,123.543	35,810.120	256.876	IV
第138図 25	1444	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	768		0.7	1.5	1.8	0.3	-90,118.976	35,813.967	257.267	IV
	67	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Ob	KZOB	466		0.9	1.9	1.2	0.6	-90,138.608	35,806.738	256.817	IV
	305	加工痕のある剥片	H-023		SSC	Ob	KZOB	686		0.8	1.9	1.1	0.5	-90,121.732	35,817.044	256.913	IV
	333	加工痕のある剥片	H-023		SSC	Ob	KZOB	687		0.3	1.4	0.8	0.3	-90,121.568	35,816.667	256.907	IV
	1234	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	推定不可	690		1.1	2.3	1.4	0.4	-90,124.558	35,817.434	256.837	IV
	1763	加工痕のある剥片	G-022		AN～FB	Sh				81.6	9.4	5.2	1.9	-90,133.433	35,808.312	257.230	IV
	2851	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	694		2.9	1.7	2.6	2.6	-90,118.178	35,814.086	257.278	IV
	6370	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	推定不可	699		2.2	2.2	1.9	0.8	-90,122.666	35,810.377	257.237	IV
	7725	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZOB	672		1.8	2.2	1.3	0.5	-90,117.843	35,816.072	256.963	IV
	7950	加工痕のある剥片	G-023		AN～FB	Ob	KZOB	702		0.4	1.1	0.8	0.6	-90,131.452	35,813.617	256.666	IV
	8973	加工痕のある剥片	F-022		AN～FB	Ob	KZOB	776		0.2	0.8	0.9	0.4	-90,143.700	35,802.884	256.418	IV
	9343	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	705		1.0	2.0	1.1	0.8	-90,129.193	35,801.688	257.462	IV
	9484	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZCB	707		0.2	1.6	0.7	0.3	-90,125.251	35,805.349	257.350	IV
	10050	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZCB	539		0.5	1.4	1.1	0.4	-90,122.775	35,813.300	256.916	IV
	10450	加工痕のある剥片	I-023		AN～FB	Ob	KZCB	780		2.7	2.3	2.3	0.9	-90,119.344	35,818.621	256.688	IV
	10717	加工痕のある剥片	G-023		AN～FB	Ob	KZCB	785		8.5	2.7	3.2	1.2	-90,132.022	35,813.439	256.620	IV
	10721	加工痕のある剥片	G-023		AN～FB	Ob	KZCB	709		0.2	1.1	0.9	0.3	-90,131.729	35,812.889	256.683	IV
	12418	加工痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	推定不可	716		0.1	0.8	0.7	0.7	-90,127.241	35,803.432	257.334	IV
	12520	加工痕のある剥片	H-023		AN～FB	Ob	KZCB	789		0.5	1.9	0.9	0.3	-90,123.052	35,816.666	256.672	IV
	15593	加工痕のある剥片	E-023		ZN	Ob	KZCB	137		1.3	1.4	2.0	0.5	-90,156.640	35,812.402	255.346	IV
	15741	加工痕のある剥片	I-023		ZN	Ob	KZCB	155		0.3	1.5	0.9	0.4	-90,119.976	35,818.503	256.567	IV
	17196	加工痕のある剥片	G-022		ZN	Ob	KZCB	270		0.5	1.6	1.0	0.4	-90,134.032	35,801.469	256.973	IV
	17259	加工痕のある剥片	G-022		ZN	Ob	KZCB	288		1.0	1.2	1.5	0.7	-90,131.922	35,804.452	256.834	IV
	19406	加工痕のある剥片	表採			Ob	KZCB	795		8.9	5.4	2.0	1.4				IV
第139図 1	16712	使用痕のある剥片	H-023	SB06	覆土	Ob	KZCB	762		15.5	4.9	3.1	1.6	-90,123.079	35,810.106	256.983	I
第139図 2	9056	使用痕のある剥片	F-021		AN～FB	Ob	KZCB	748		11.4	4.0	2.6	1.5	-90,140.406	35,799.416	256.981	I
第139図 3	17123	使用痕のある剥片	H-023		ZN	Ob	KZCB	763		7.1	3.4	2.1	1.1	-90,122.214	35,810.447	256.816	I
第139図 4	14961	使用痕のある剥片	H-023	SB02	覆土	Ob	KZOB	759		3.9	3.0	2.2	0.9	-90,122.100	35,812.103	256.911	I
第139図 5	2251	使用痕のある剥片	G-022	SF04	覆土	Ch(Re)				10.8	3.3	4.0	1.6	-90,137.026	35,802.631	256.665	II
第139図 6	4559	使用痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	740		2.8	2.0	2.7	0.8	-90,124.907	35,804.632	257.630	III
第139図 7	922	使用痕のある剥片	H-022		AN～FB	Ob	KZOB	729		14.7	4.3	3.7	1.8	-90,126.178	35,806.380	257.604	III
第139図 8	13990	使用痕のある剥片	G-023	TA01	覆土	Ob	KZOB	756		1.5	1.8	1.4	0.8	-90,131.497	35,812.634	256.538	IV
第139図 9	15802	使用痕のある剥片	H-023	SB04	覆土	Ob	KZOB	760		2.6	2.5	2.1	0.7	-90,126.949	35,816.178	256.391	IV
第140図 1	13526	打製石斧	E-023		AN～FB	Hor				220.0	11.4	6.1	2.6	-90,155.850	35,811.472	255.728	
第140図 2	5738	打製石斧	I-022		AN～FB	Sh				115.2	14.5	5.2	1.6	-90,116.021	35,806.218	257.686	
第140図 3	8186	打製石斧	G-021		AN～FB	Hor				174.4	8.6	5.5	2.9	-90,132.987	35,799.929	257.410	
第140図 4	9701	打製石斧	J-023		AN～FB	Sh				86.6	7.6	4.1	2.6	-90,106.950	35,819.031	255.462	
第140図 5	2530	打製石斧	F-022		AN～FB	Sh				81.2	6.6	4.5	2.4	-90,142.329	35,801.753	255.722	

図版番号	遺物番号	器種	グリッド	調査区遺構	層位	石材	産地	Ob分析番号	接合	重量(g)	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	X座標	Y座標	Z座標	分類
第141図 6	19398	打製石斧	表採			FAn				264.7	11.0	6.8	3.2				
第141図 7-2	7987	打製石斧	G-022		AN～FB	GAn			S-15	157.6	8.8	6.0	3.5	-90,130.984	35,809.389	256.993	
第141図 7-1	17930	剥片(接合)	G-021	SF23	覆土	GAn			S-15	52.9	3.4	7.9	1.8	-90,138.731	35,794.339	256.622	
第142図 1	5301	礫器	J-023		AN～FB	An(py)				1320.0	13.7	11.8	5.6	-90,108.462	35,818.790	256.712	
第142図 2	6157	礫器	E-022		AN～FB	An(py)				670.0	11.9	11.7	3.8	-90,152.519	35,807.681	255.713	
第142図 3	5693	礫器	H-022		AN～FB	An(py)				1620.0	19.4	11.1	7.9	-90,122.266	35,806.406	257.626	
第142図 4	13621	礫器	G-022		AN～FB	An(py)				1260.0	13.1	11.0	6.4	-90,131.035	35,802.689	257.169	
第143図 5	17790	礫器	H-023		ZN	An(py)				700.0	13.8	11.7	3.8	-90,120.849	35,811.144	256.699	
第143図 6	18827	礫器	G-011		SSC	An(py)				620.0	15.1	10.2	4.0	-90,133.910	35,692.173	256.396	
第143図 7	560	礫器	H-021		AN～FB	An(py)				1510.0	16.4	14.0	5.1	-90,121.489	35,799.340	258.008	
第143図 8	16183	礫器	H-023	SB01	覆土	An(py)				890.0	11.1	12.2	5.9	-90,121.608	35,816.609	256.492	
第143図 9	16807	礫器	G-020		ZN	An(py)				970.0	11.6	12.5	6.0	-90,133.568	35,785.345	257.498	
第143図 10	17750	礫器	E-012		AN～FB	An(py)			S-27	990.0	(10.9)	(13.6)	(8.8)	-90,150.058	35,706.775	250.879	
第143図 11	18279	礫器	H-011		KGP	An(py)				900.0	14.0	12.8	3.9	-90,128.575	35,699.403	255.487	
第143図 12	18648	礫器	H-011		AN～FB	An(py)				430.0	9.5	10.9	3.5	-90,126.769	35,695.469	255.651	
第144図 13	18911	礫器	G-009		AN～FB	An(py)				910.0	14.3	10.8	4.3	-90,131.070	35,674.826	259.834	
第144図 14	10308	礫器	H-023		AN～FB	Ba				920.0	16.2	8.7	6.1	-90,127.934	35,814.350	256.622	
第144図 15	14473	礫器	I-023		AN～FB	Ba				640.0	11.7	11.6	3.8	-90,110.816	35,811.076	257.184	
第144図 16	18490	礫器	G-012		AN～FB	Ba				470.0	8.4	11.3	4.5	-90,131.226	35,701.829	254.318	
第144図 17	18531	礫器	G-013		AN～FB	Ba				960.0	14.8	10.2	5.8	-90,130.980	35,712.504	254.661	
第144図 18	3268	礫器	F-022		AN～FB	Hor			S-7	684.6	8.3	12.8	5.1	-90,144.280	35,803.599	256.415	
第144図 18	3269	礫器	F-022		AN～FB	Hor			S-7	18.1	3.6	3.1	3.7	-90,144.415	35,803.525	256.420	
第144図 19	19077	礫器	G-011		KGP	Hor				479.1	12.2	9.5	4.3	-90,132.270	35,696.104	255.520	
第147図 1	13065	磨敲石	G-023	TA01	AN～FB	An(py)			S-20	130.0	(2.8)	(7.8)	(5.5)	-90,131.179	35,812.971	256.707	球形
第147図 1	16832	磨敲石	H-022		ZN	An(py)			S-20	590.0	(9.3)	(8.5)	(6.3)	-90,123.969	35,806.391	257.160	球形
第147図 2	6066	磨石	G-021		AN～FB	Ap				125.3	5.3	4.5	4.0	-90,138.482	35,797.817	257.292	球形
第147図 3	3296	磨敲石	F-022		AN～FB	An(py)			S-17	140.0	(7.8)	(5.5)	(5.1)	-90,144.035	35,804.364	256.472	円盤形
第147図 3	16854	磨敲石	J-023		ZN	An(py)			S-17	580.0	10.3	(8.2)	5.8	-90,105.858	35,817.509	256.545	円盤形
第147図 4	7914	磨敲石	H-023		AN～FB	An(py)			S-18	160.0	(7.4)	(5.8)	(4.7)	-90,129.367	35,815.476	256.715	円盤形
第147図 4	16902	磨敲石	H-022	SB06	床面	An(py)			S-18	360.0	(10.3)	(8.7)	(4.8)	-90,122.776	35,809.842	256.824	円盤形
第147図 5	9012	磨敲石	G-021		AN～FB	An(py)			S-19	66.9	(3.8)	(3.4)	(4.7)	-90,130.848	35,798.693	257.540	円盤形
第147図 5	11137	磨敲石	G-022		AN～FB	An(py)			S-19	70.0	(3.2)	(4.4)	(4.6)	-90,133.727	35,802.823	257.136	円盤形
第147図 5	13317	磨敲石	G-022		AN～FB	An(py)			S-19	150.0	(5.8)	(5.9)	(4.6)	-90,137.866	35,805.475	256.745	円盤形
第147図 5	19395	磨敲石	表採		ヒョウ	An(py)			S-19	140.0	(7.0)	(4.7)	(4.7)				円盤形
第147図 6	19385	磨敲石	表採		ヒョウ	CSS				423.5	8.7	7.3	4.4				円盤形
第147図 7	16881	磨石	H-023	SB01	覆土	An(py)				675.3	13.1	10.9	2.9	-90,122.760	35,815.035	256.523	円盤形
第147図 8	10969	磨石	H-021		AN～FB	VBa				609.5	11.5	8.5	4.1	-90,129.466	35,794.307	257.962	円盤形
第148図 9	18178	敲石	G-012		KGP	VAn			S-21	790.0	(12.0)	9.3	(5.6)	-90,132.834	35,704.318	254.361	棒形
第148図 9	18301	敲石	G-012		SSC	VAn			S-21	260.0	(6.2)	(7.9)	(5.5)	-90,132.974	35,704.354	254.299	棒形
第148図 10	16683	磨石	I-022	SB05	床面	VAn				140.0	6.8	4.1	3.7	-90,119.317	35,809.118	257.066	棒形
第148図 11	19394	磨敲石	表採		ヒョウ	Di				634.8	12.1	7.3	4.6				小判形
第148図 12	16238	磨石	H-022	SB03	覆土	An(py)				345.1	(9.4)	(5.8)	(4.8)	-90,128.672	35,804.591	257.027	形状不明
第148図 13	16222	敲石	H-023	TA02	覆土	An(py)				323.9	7.2	6.6	4.5	-90,127.498	35,817.289	256.382	球形
第148図 14	17029	敲石	H-022		ZN	CSS				380.6	8.0	6.9	5.0	-90,122.886	35,806.295	257.215	球形
第148図 15	13845	敲石	H-021		ZN	Da				499.5	8.8	8.1	5.8	-90,124.680	35,796.327	257.853	球形
第148図 16	5316	磨敲石	G-023		AN～FB	FAn				93.4	5.9	4.1	3.4	-90,131.586	35,814.529	256.707	球形
第148図 17	3552	敲石	G-022		AN～FB	VBa				105.9	5.9	5.7	3.7	-90,134.981	35,801.453	257.491	円盤形
第148図 18	7461	磨敲石	G-023		AN～FB	An(py)				375.2	8.4	7.0	4.4	-90,134.713	35,810.434	256.743	円盤形
第148図 19	16241	敲石	H-022	SB03	覆土	An(py)				127.0	5.0	4.6	3.8	-90,129.278	35,804.289	256.993	球形
第148図 20	16252	磨敲石	G-022	SB03	床面	An(py)				631.4	9.3	8.7	4.9	-90,130.073	35,805.205	256.924	円盤形
第149図 21	19058	磨敲石	G-009	SY13	AN～FB	An(py)				717.1	12.2	8.4	5.1	-90,130.109	35,672.892	260.197	円盤形
第149図 22	16240	敲石	H-022	SB03	床面	VBa				660.3	12.1	8.2	4.9	-90,129.168	35,804.583	256.931	円盤形
第149図 23	6399	磨敲石	I-021		AN～FB	FG				728.2	10.1	9.2	5.1	-90,118.670	35,791.340	257.951	円盤形
第149図 24	12996	敲石	H-022		AN～FB	Ba				136.6	6.9	4.7	3.4	-90,123.230	35,807.946	257.159	棒形
第149図 25	16975	磨敲石	F-022		ZN	An(Ho)				521.0	9.2	8.6	4.4	-90,145.475	35,801.535	256.081	円盤形
第149図 26	14873	敲石	H-022		AN～FB	VBa				166.4	6.5	4.5	4.5	-90,127.329	35,800.347	257.513	球形
第149図 27	16228	敲石	G-023	TA01	覆土	An(py)				605.2	8.9	8.9	5.0	-90,131.942	35,812.525	256.552	円盤形
第149図 28	16695	敲石	H-022	SB05	覆土	An(py)				319.6	8.9	6.1	4.7	-90,120.627	35,808.524	257.188	球形
第149図 29	16427	敲石	H-023	SB02	覆土	VBa				125.5	6.2	5.6	4.1	-90,120.857	35,813.107	256.872	球形
第150図 30	13988	敲石	E-022		AN～FB	FG				160.5	6.2	5.2	3.5	-90,152.763	35,806.521	255.580	球形
第150図 31	16605	敲石	H-023	SB04	床面	Ba				151.7	6.3	5.3	3.6	-90,128.110	35,815.438	256.317	球形
第150図 32	16426	敲石	H-023	SB02	覆土	An(py)				140.6	7.5	4.6	2.9	-90,121.097	35,813.492	256.872	小判形
第150図 33	18980	敲石	H-007		AN～FB	An(py)				186.3	10.0	4.1	4.0	-90,126.946	35,654.476	260.854	棒形
第150図 34	3055	敲石	F-022		AN～FB	CSS				149.1	(7.3)	(5.3)	(3.7)	-90,145.427	35,802.454	256.392	形状不明
第150図 35	15561	敲石	G-023	TA01	覆土	Ba				63.7	6.1	3.4	3.0	-90,131.910	35,813.418	256.535	棒形
第150図 36	13472	敲石	G-023	TA01	覆土	Ba				332.7	8.4	6.4	4.6	-90,132.291	35,814.131	256.572	円盤形
第150図 37	16696	敲石	H-022	SB05	覆土	An(py)				304.8	11.1	5.2	4.6	-90,120.707	35,808.680	257.102	棒形
第150図 38	10963	敲石	H-021		AN～FB	Ba				198.0	10.7	5.8	2.5	-90,121.606	35,799.796	257.884	小判形
第150図 39	15559	敲石	G-023	TA01	覆土	An(py)				443.4	11.2	8.8	3.7	-90,131.876	35,813.299	256.578	円盤形
第150図 40	16680	敲石	I-022	SB05	覆土	CSS				231.1	14.6	4.8	2.3	-90,119.574	35,808.117	257.226	小判形
第150図 41	15399	敲石	H-022		AN～FB	FSS				48.8	(8.6)	(2.7)	(1.3)	-90,122.925	35,809.457	257.135	小判形
第150図 42	10910	敲石	I-021		AN～FB	MSS			S-26	44.2	5.0	3.0	2.0	-90,119.709	35,794.165	258.187	棒形
第150図 42	17274	敲石	G-022		ZN	MSS			S-26	30.0	5.0	4.0	2.0	-90,130.827	35,804.580	256.817	棒形
第151図 43	14840	凹石	E-023		AN～FB	Ba				150.4	6.3	4.8	3.6	-90,157.398	35,813.339	255.449	球形
第151図 44	5864	凹石	H-022		AN～FB	Da				429.8	8.5	7.6	4.5	-90,128.872	35,802.588	257.385	円盤形
第151図 45	16230	凹石	G-023	TA01	覆土	VAn				1400.0	14.3	13.0	7.4	-90,131.568	35,812.161	256.501	円盤形
第151図 46	18836	凹石	H-011		SSC	Rhy				150.2	7.1	6.5	3.1	-90,126.274	35,690.704	257.215	円盤形
第151図 47	4835	凹石	H-021		AN～FB	VBa				339.6	10.2	6.7	4.4	-90,124.321	35,798.402	257.886	棒形
第154図 1	11631	石皿	H-023		AN～FB	VBa			S-22	3610.0	(22.2)	(20.6)	6.9	-90,128.687	35,817.631	256.866	I
第154図 1	16579	石皿	F-022		ZN	VBa			S-22	3270.0	(21.5)	(16.6)	(6.8)	-90,142.993	35,809.067	256.133	I
第154図 2	16841	石皿	G-023		ZN	VBa				1680.0	35.8	32.8	11.7	-90,130.888	35,815.442	256.555	I
第154図 3	16821	石皿	G-022		AN～FB	An(py)			S-27	8940.0	(25.5)	24.3	9.1	-90,132.062	35,804.356	257.086	I
第154図 3	17750	礫器	E-012		AN～FB	An(py)			S-27	990.0	(10.9)	(13.6)	(8.8)	-90,150.058	35,706.775	250.879	
第154図 4	17331	石皿	H-012		SSC	VBa				6800.0	31.0	25.5	9.4	-90,122.354	35,703.276	255.212	I
第154図 5	15058	石皿	H-023		AN～FB	VBa			S-23	1870.0	(14.2)	(19.4)	(6.1)	-90,127.729	35,815.709	256.606	I
第154図 5	15059	石皿	H-023		AN～FB	VBa			S-23	1530.0	(16.1)	(12.2)	(7.6)	-90,126.600	35,815.744	256.642	I
第154図 6	18755	石皿	F-023		SSC	An(py)				5750.0	24.7	20.6	7.9	-90,148.380	35,811.305	256.071	I
第154図 7	15405	石皿	H-022		AN～FB	An(py)				940.8	(13.4)	(11.7)	(4.0)	-90,122.560	35,809.758	257.130	IV
第155図 8	18526	石皿	G-013		AN～FB	An(py)				3940.0	22.2	19.6	6.7	-90,131.802	35,712.170	254.692	I
第155図 9	19015	石皿	H-006		SSC	Ba				1590.0	19.4	16.0	3.5	-90,125.857	35,644.165	261.085	I
第155図 10	16901	石皿	H-022	SB06	床面	VBa				16800.0	42.2	26.8	8.7	-90,123.218	35,809.625	256.865	II
第155図 11	16828	石皿	H-022		AN～FB	VBa				8430.0	31.6	25.0	8.3	-90,125.738	35,805.650	257.271	II
第155図 12	16813	石皿	G-022		AN～FB	VBa			S-24	2320.0	(22.4)	(12.8)	(8.6)	-90,134.478	35,805.482	256.996	III
第155図 12	16816	石皿	G-022		AN～FB	VBa			S-24	2430.0	(19.2)	(11.8)	8.8	-90,132.693	35,806.083	257.077	III
第155図 12	16818	石皿	G-022		AN～FB	VBa			S-24	4560.0	33.5	28.4	8.7	-90,132.054	35,806.943	256.924	III
第156図 13	16819	石皿	G-022		AN～FB	VBa				15930.0	38.8	30.8	13.0	-90,133.649	35,806.653	256.919	III
第156図 14	17898	石皿	G-022		ZN	Ba				13860.0	34.2	29.7	10.0	-90,132.223	35,805.193	256.405	III
第156図 15	16823	台石	G-022		ZN	An(py)				16550.0	39.4	34.3	9.9	-90,131.321	35,804.480	257.065	
第156図 16	16837	台石	H-022		ZN	An(py)				7900.0	30.5	22.5	11.7	-90,121.115	35,806.528	257.342	
第156図 17	16904	敲石	H-023	SB04	床面	An(py)				1072.2	(14.2)	(10.9)	(5.5)	-90,127.139	35,813.495	256.331	
第75図	17761	石鏃製作剥片	H-022	BL02	ZN	Ob	KZOB	318		0.1	11.4	9.5	1.3	-90,126.605	35,813.960	256.307	

※原則として、二次調整が見られたものはすべて観察表に掲載したが、「使用痕のある剥片」及び礫石器は、図面を掲載したもののみ、観察表に掲載した。

第６章　弥生時代以降の遺構と遺物

第１節　遺　構

概要

調査区南側の緩斜面地で円形土坑３基を検出した。緩斜面地には地震によるものと想定される地割れが東西方向に幾筋も走っている。その地割れ部分に落ち込んだ縄文時代以降のスコリア層を掘り込む形で検出された。愛鷹山近辺でよく検出されている、いわゆる中世の円形土坑といわれるものである。

土坑

(1)　５号土坑（SF05）

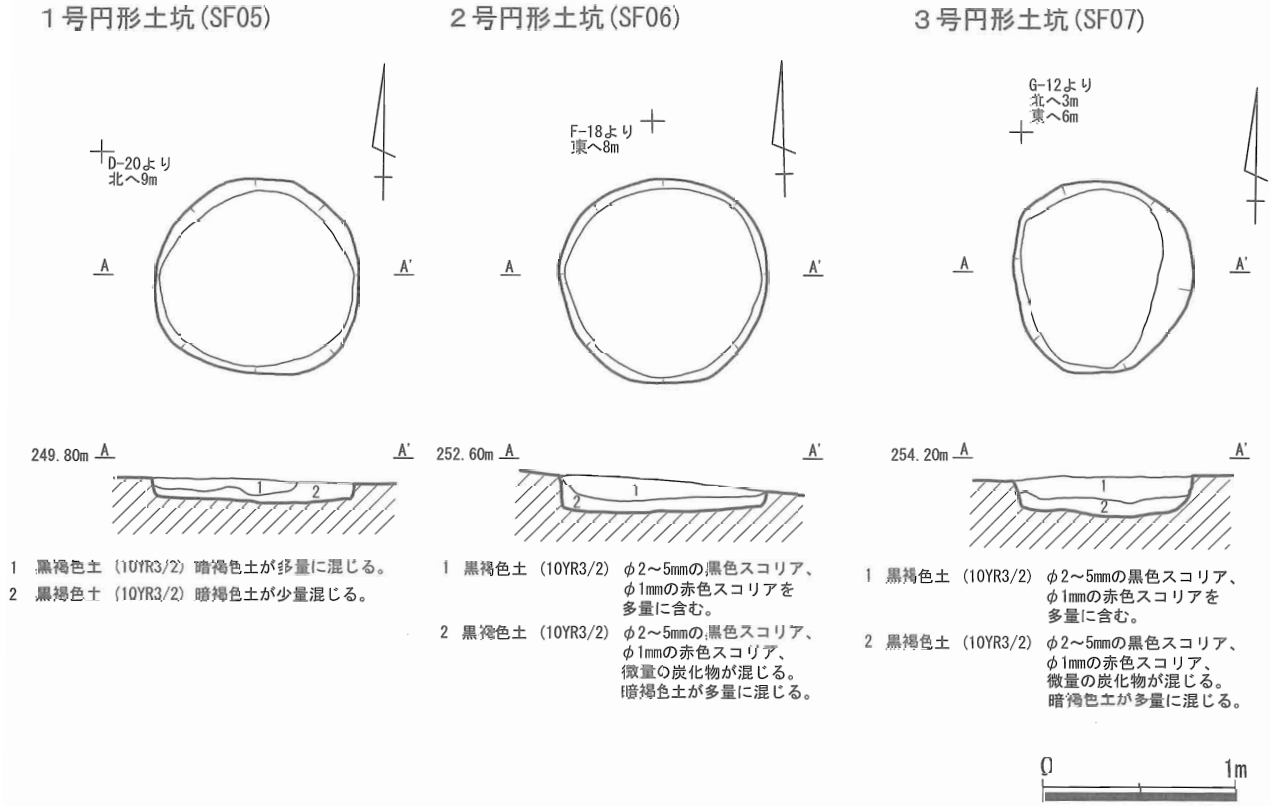
５号土坑は調査区南側のD-020グリッドの緩斜面地に占地し、標高は249.70ｍである。円形を呈し、長軸1.1ｍ、短軸1.05ｍを測る。残存する壁の高さは10㎝である。

(2)　６号土坑（SF06）

６号土坑は調査区南側のE-018グリッドの緩斜面地に占地し、標高は252.60ｍである。円形を呈し、径1.1ｍを測る。残存する壁の高さは８～18㎝である。覆土に微量の炭化物を含む。

(3)　７号土坑（SF07）

７号土坑は調査区南側のG-012グリッドの緩斜面地に占地し、標高は252.60ｍである。楕円形を呈し、長軸1.02ｍ、短軸0.92ｍを測る。残存する壁の高さは10㎝である。覆土に微量の炭化物を含む。



第159図　円形土坑

第2節　遺　物

概要

縄文時代よりも新しい時代に属すると思われる遺物をここにまとめた。石製品としては砥石が２点、土師器と思われる土器１点、近世の陶磁器２点、近代の陶磁器１点の総計６点である。いずれも遺構に伴うものではなく、小破片であるために遺物からは当該期の活動を予想することはできない。

１．土師器（第160図１）

調査区西側の丘陵部、砂沢スコリア層より出土した。外面には刷毛目が見られる。甕の一部であると考えることができるが、小破片であり、判然としない。弥生土器である可能性も否定できない。

２．近世の遺物（第160図２）

２点出土している。２は瀬戸美濃系の灰釉の碗である。調査区東側斜面地より出土した。急傾斜であることから現位置には雨等の影響で流れてきたと推測される。内面には重ね焼きをした際の痕跡が見られる。釉は外面になく、内面のみにかかる。外面には篦削りの跡が残る。17～18世紀の遺物であると思われる。高台の径は8.5cm程度と推測される。３も瀬戸美濃系の灰釉の碗。はっきりとはしないが内面の釉のひび割れ具合などから、２よりも若干新しいものと推測される。表採。

３．近代の遺物（第160図４・５・６）

３点出土している。４は瀬戸美濃系の柿釉もしくは鉄釉の壺の体部破片。19世紀以降のものと推測される。表採。５，６は流紋岩製の砥石である。時期は不明であるが風化の度合いから現代より前のものであると判断し、ここにまとめた。

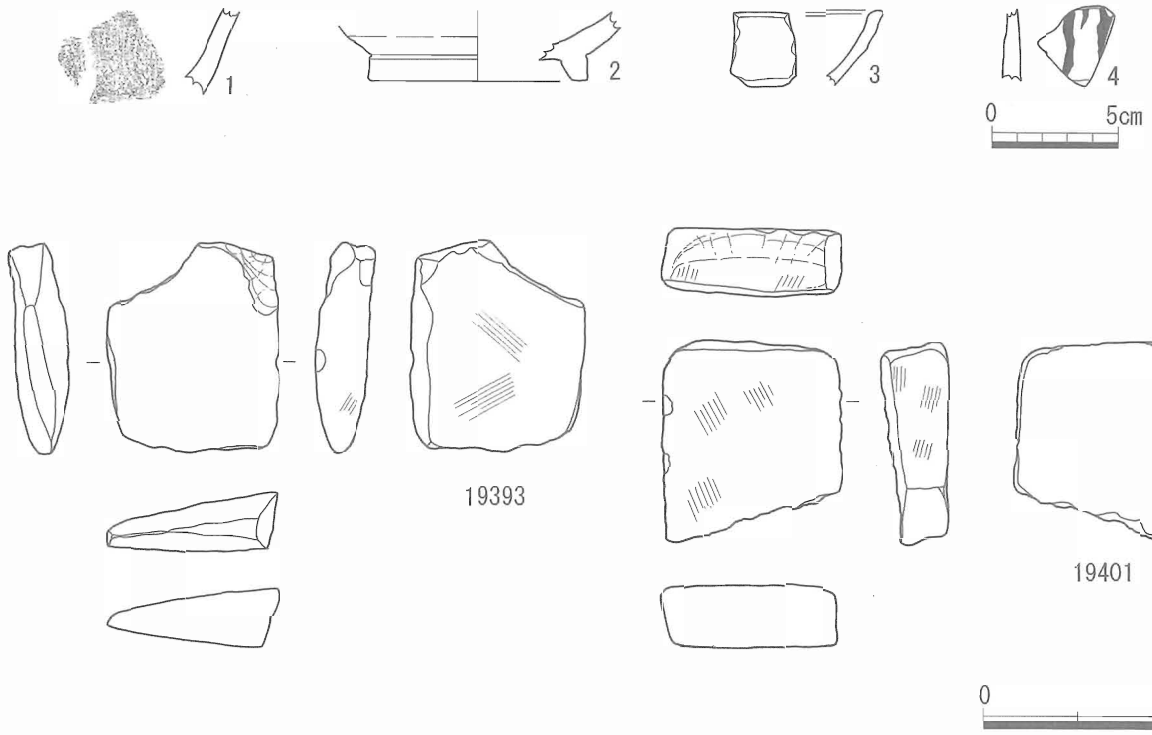
第47表　土器・陶磁器観察表

遺物番号	器種	グリッド	層位	残存部位	色調(断面)(釉)	胎　　土	焼成
18796	土師器？	H-005	SNZ	底部付近	内外面とも 7.5Y6/6	密。径1㎜以下の長石・透明石英・黒色粒子。砂粒を含む。	良
14800	碗？鉢？	F-019	KGP	底部	2.5Y7/3 5Y7/4	密。長石を少量含む。	良
19867.	碗		表採	口縁部	2.5Y8/2 5Y7/3	密。長石を少量含む。。	良
19868.	壺		表採	体部	10YrR/3 5YR3/6	密。長石を少量含む。	良

第48表　石製品観察表

遺物番号	器　種	層　位	石　材	重　量(g)	長　径(cm)	短　径(cm)	厚　さ(cm)
19393	砥石	表採	Rhy	(37.1)	(5.6)	4.5	1.5
19401	砥石	表採	Rhy	(63.0)	(5.2)	4.2	1.7

※土器・陶磁器の分類については、木村忠義　静岡県埋蔵文化財調査研究所技術員に依頼した。



第160図　弥生時代以降の遺物

《参考文献》

岩本貴・木村忠義2005「五反田遺跡」『来光川遺跡群Ⅱ』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

第７章　総　　括

本遺跡では、縄文時代早期を中心として、旧石器時代から近世までの遺物が検出されたが、ここでは集落が形成された縄文時代早期を中心として取り上げる。

１．旧石器時代

旧石器時代は遺構・遺物ともに検出は極めて少なかった。第Ⅲ黒色帯をはじめとして、ＡＴ下位からも遺物の検出を見たが、遺構・遺物の大部分は休場層にて検出されている。中でも注目されるのは、休場層中層で検出された円形の土坑である。該期の土坑の検出例は極めて少ない。この土坑を含めて、旧石器時代に関する考察は第３章で行っているため、そちらをご参照されたい。石器の器種や石材の組成、黒曜石産地分析の結果などから推測すると、本遺跡の旧石器時代は遺構・遺物の検出は少ないものの、周辺遺跡と同様の活動が展開されていたと考えられる。

２．縄文時代草創期

縄文時代草創期は石器ブロックこそ検出されたものの、石核の検出が無く、また磨耗が激しく、接合関係を見出すことができなかった。石器ブロックの石材は軟質細粒凝灰岩で、愛鷹山麓では比較的珍しい石材である。石器製品は有舌尖頭器や左右非対称の半月形両面体などが出土し、該期の人々の存在を示唆するが、草創期に位置づけられる土器を検出できなかったため詳細は不明とせざるを得ない。裾野市内において、草創期の報告例は少ないが、今後の成果をもって、本遺跡の該期の活動が明らかになることを期待したい。

３．縄文時代早期

縄文時代早期には、本遺跡において活発な活動が展開された。それを示すのが住居跡、竪穴状遺構等であり、また打越式土器の大量出土である。打越式土器に付着した炭化物の放射性炭素測定年代結果は、概ね6450～6550yrBPを中心とする年代を示している。なお、年代測定を行った炭化物付着土器は、本章末の第169図にまとめて掲載してあるのでご参照されたい。また遺構内における東海系土器との共伴関係も注目される。250ページ以降で縄文時代早期末葉の集落に関して行った考察を掲載するが、その前に出土した打越式土器に関して、簡単に触れておきたい。

本遺跡では8,435点の土器の出土を見たが、そのうち、打越式の範疇に含まれると見られる土器の出土は7,642点にのぼり、全出土土器に占める割合は90.6%に達している。文様は打越式に特徴的な山形貝殻腹縁文を施しているものが多いが、まれに菱形や目結文なども見られる。また、腹縁文が不定形なものも少なくない。本遺跡出土の打越式土器において注目される事象は、横位に隆帯が貼付された土器がほぼ全く見られないことである。口唇が外に張り出すような形で隆帯を形成するものを含めてもわずか２点のみであり、口唇から離れた位置に隆帯を貼付するものは全く見られない。第Ⅲ群Ａ類１種とした一群も、すべて口唇より貼付された垂下隆帯を有するものであり、横位の隆帯ではない。横位の隆帯を持つ打越式が神之木台式の直前に位置づけられるという考えに従うのであれば、本遺跡の打越式土器は、打越式の新しい段階のものとは位置づけられない。

打越式に併行すると思われる東海系出自の土器も出土している。石山式～天神山式であると思われる土器は517点を数え、全体の6.1%を占めている。無文胴部が多いが、石山式の文様要素を持つものが43点、天神山式の文様要素を持つものが100点出土している。また石山式に併行すると思われる在地の土器

も38点出土している。覆土内ではあるが、遺構内でも共伴関係が見られることから、本遺跡が営まれた時期は、東海編年の石山式期～天神山式期であると推定される。

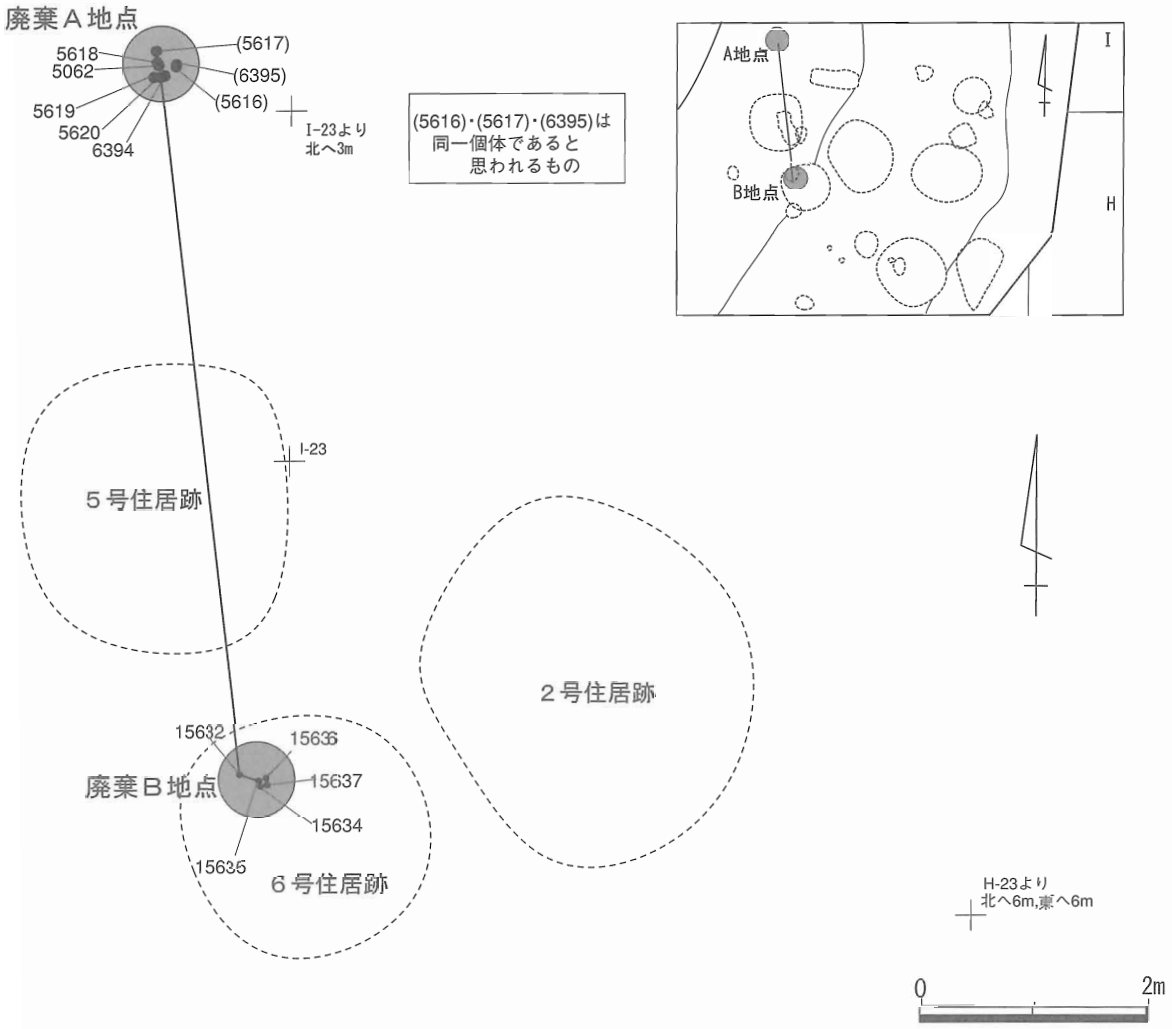
他に、石山式併行期の土器とした、石山式を模倣したような土器も出土している。この土器は胎土の色調、含有物に特徴がある。条痕施文が著しく、注目に値するものである。また、本遺跡からは１点のみであるが、入海Ⅰ式を模倣したような土器も出土している。胎土は打越式のものに似るが、断面三角形の隆帯上には刺突が見られる。

未報告ではあるが、類例は下ノ大窪遺跡（第二東名№146地点）に存在する。下ノ大窪遺跡は本遺跡の南の尾根に隣接している（巻頭カラー図版参照）。本遺跡と同様に打越式の集落遺跡であり、ここでは本遺跡で見られなかった横位の隆帯を持つ土器が出土している。調査者によると入海Ⅰ式を模倣した土器は、横位隆帯を持つ打越式土器と共伴しているようである。本遺跡出土の土器と同様に、下ノ大窪遺跡でも放射性炭素年代測定を実施しているが、測定年代は驚くほど近い。下ノ大窪遺跡は未報告の遺跡であるため詳細は報告書の刊行を待つことになるが、現在資料整理が進行中であり、報告書の刊行が待たれる。本遺跡の性格また出土土器の位置づけも、下ノ大窪遺跡の報告書刊行後に再検討されることを期待したい。

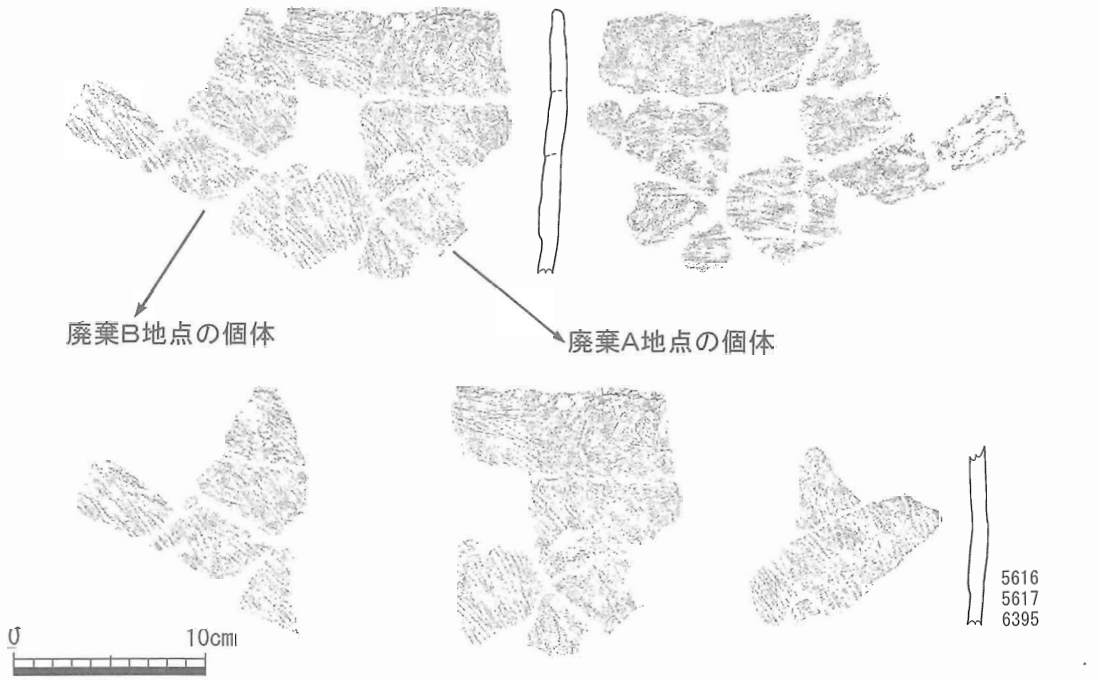
最後に、興味深い出土状態を見せた遺物番号5062他について触れておきたい。遺物編では、第105図に501として掲載されているもので、第161図にも再掲した。色調は明るく、胎土に含まれる繊維量も多い。内外面ともに条痕が残る。拓本では、破片左上部に腹縁文、または縄文のようなものが見えるが、器面が剥落したものである。この土器は、第169図にあるように、２つの地点でそれぞれ集中して出土している。何らかの廃棄行動の結果ではないかと考えたため、図面では廃棄Ａ地点・廃棄Ｂ地点とした。

Ａ地点では５点の接合が確認された。また近くには、接合した５点と明らかに同一個体であると思われるもの３点（5616・5617・6395）も出土している。これら８点の出土は、半径30センチの円内に密集している。一方Ｂ地点では４点が接合している。６号住居跡の上面に位置しており、廃棄は住居の廃絶後になされたと考えられる。

接合状態は、それぞれの出土地点で口縁部から胴部上半までが接合しており、それが互いに接合したという状況である。Ａ地点とＢ地点とでは標高差はほとんど無く、直線距離にして約６ｍの距離がある。自然の所作としてそれぞれの地点に集合したとは考えられず、何らかの人為的な所作を感じる。また、それぞれに口縁部が残存すると言うことは、地点を移しての再利用という可能性も否定される。１体の土器がなぜ、別々に且つ密集するような形で廃棄されたのか。または廃棄とは全く別の意図をもってなされた行動の帰結なのか。該期の人々の活動を理解する一助となる資料である。　　（成田）



5062他（第Ⅲ群A類3種b　第105図　501再掲）



第161図　縄文時代土器接合図（Ｐ194）

縄文時代早期末葉の集落および遺物について

佛ヶ尾遺跡（以下、本遺跡）の中心は縄文時代早期末葉の集落である。そこで本遺跡および周辺の遺跡を交えた早期末葉の集落について若干の考察を試みたい。
考察の進め方は、特徴的な遺物の様子とその分布から個別遺構の性格を検討し、その後で集落域全体の把握から遺跡の立地と石材等の搬入というより大きな視点からの考察を試みたい。

〈遺物について〉

1．遺物の分布状況と出土遺物

本遺跡の集落域の遺物出土状況図を見ていただきたい（第78図）。東側調査区外との境界線で右半分を切られた径30mの半円形の範囲内に遺物が集中している。そしてその中央部には遺物の出土が比較的少ないところがある。

環状に遺物が出土している様相からは、集落域南側に住居が存在したものの検出することができなかった可能性も否定できない。仮にそうであったとするならば掘り込みは浅かったなどの形態の違いがあったのかもしれない。

集落域が明確な環状を示していたかは判然としないが、遺物出土が少ない空間が明確に意識されていたことから何らかの空間利用に関する制約があったことが予想される。広場のような空間を持つ環状の生活領域と言えるのかもしれない。

以下ではまず遺物を視点として考察をはじめることにする。縄文時代の推測される生業から、石器は「狩猟活動に関わるもの」、「植物質食料加工活動に関わるもの」、「装飾品のような生業に直接関わらないもの」、の３つの視点から考察する。石器全体としては西田正規（西田1986）が指摘していることであるが、早期のこの段階では各種の石器がすでに揃った状態といって良いような、一揃いがあるという印象を受ける。しかし器種ごとの量には差があることもあり、必ずしも長期の定住を予想させるものではない。

また、遺物ごとには特異な出土状況のものもあり、石材やその産地、あるいは器種内における形状分類などを組み合わせることで集落構造の理解につながると考える。以下、順次概観していきたい。

2．石鏃の様相

①　石材、産地から

早期末葉以降と思われる石鏃は158点出土しており、その石材も様々であるが黒曜石が151点で94%を占める。さらに黒曜石産地分析の結果神津島産が130点で石鏃全体の82%、黒曜石中では86%を占める。神津島恩馳島の黒曜石以外では天城柏峠３点、箱根畑宿４点、和田芙蓉ライト１点、諏訪星ヶ台４点、分析不可などの産地不明の黒曜石が９点、ガラス質黒色安山岩１点、チャート２点、赤色チャート１点、流紋岩２点、赤色頁岩１点となっており、神津島恩馳島群の黒曜石がほぼ全てを占めることになる。（184ページ第44表参照）

黒曜石の石鏃についてみると第一の特徴は産地が複数存在するということである。当たり前のように思えるが、本遺跡出土の黒曜石製石器において、天城柏峠、箱根畑宿、和田芙蓉ライト、諏訪星ヶ台と複数の産地を持つ器種は石鏃だけであり、黒曜石を使う他の石器では石核で諏訪星ヶ台が１点出ているだけである。周辺の遺跡で黒曜石産地分析を比較的網羅して行っている遺跡を見てもこのような偏りがあるものは少ないようである。また第二の特徴として、本遺跡出土の石鏃は産地ごと、一部形状などに違いが認められる。第三の特徴は、未製品出現率は24点で15.3%であるが、１点の推定不可を除きその

ほとんどが神津島産であった。また、石鏃未成品が含まれている可能性がある、加工痕のある剥片と分類したものもすべて神津島産であり、本遺跡においては神津島産以外の黒曜石で石鏃を製作した痕跡はほとんどない、といえよう。神津島恩馳島群黒曜石の利用状況からはその圧倒的な量の流入が想像させられる。

ところが、形状別に見ると、長脚鏃（本遺跡では器長の1/3以上の脚を持つものを分類）の産地分析の結果は神津島恩馳島群３点、天城柏峠１点、諏訪星ヶ台１点、和田芙蓉ライト１点であった。資料数は少なく、神津島恩馳島群が半数を占めるものの、圧倒という様相は示さない。諏訪星ヶ台産の長脚鏃（第117図38）の出土場所をみると、調査区西側丘陵部付近であり、集落域とは位置を異にする。その周辺には集落の主体となっている早期末葉の土器は全く出土していない。調査区西側丘陵部側の諏訪星ヶ台の長脚鏃が出土した付近からの出土土器は前期後半諸磯ｂ式及びｃ式である。また、石鏃が出ている層位は第２層の砂沢スコリアを含む層であり、早期末葉の住居跡があるものよりも上位である。以上の点から、この諏訪星ヶ台産の長脚鏃は前期後半の諸磯期に伴うものであると考えられる。

また、和田芙蓉ライト群のもの（第117図39）は局部磨製石鏃であるが、同じグリッドには撚糸文の土器片１点を伴う集石遺構があり、こちらは早期前葉のものである可能性がある。

このような黒曜石産地と長脚鏃との関連性は、周辺地域の事例と照らし妥当であろうか。ここで、石鏃の産地分析を行っている静岡県東部の愛鷹山東南麓・箱根西麓にある近隣の遺跡の状況を分析した。対象となった遺跡は、初音ケ原、中林山、乾草峠、下原Ⅰ、加茂ノ洞Ｂ、八田原、上ノ池、桧林Ａ、下原Ⅲ、北ノ入Ａ、（以上三島市）葛原沢第Ⅳ遺跡（ａ・ｂ区）、拓南東（以上沼津市）である。これらの遺跡の産地同定対象石鏃464点をまとめたものが第49表である。長脚鏃は産地別には、旧判別群の霧ケ峰系（新判別群の諏訪星ヶ台産　詳細は附編黒曜石産地分析を参照）は全体の80.5%、和田峠系を入れれば信州系は約83%を占める。一方神津島は10.4%、天城柏峠約2.6%、箱根畑宿約1.3%であった。この結果からは、愛鷹山東南麓・箱根西麓では長脚鏃の８割以上が諏訪星ヶ台産で作られていることになる。長脚鏃における信州系の圧倒である。

第49表　愛鷹山東南麓・箱根西麓の石鏃の様子

	神津島	箱根	天城	霧ケ峰	和田峠	蓼科	不明	計
長脚 ※(　)内は各産地合計に対する割合(%)	8 (3.4)	1 (4.3)	2 (7.1)	62 (42.2)	2 (16.7)	0 (0)	2 (12.5)	77
長脚鏃全体に占める各産地の割合(%)	10.4%	1.3%	2.6%	80.5%	2.6%	0.0%	2.6%	100%
長脚以外(形状不明を含む)	117 (49.4)	12 (52.2)	18 (64.3)	62 (42.2)	8 (66.7)	1 (100)	9 (56.3)	227
未製品	112	9	8	23	2	0	5	159
各産地合計	237	23	28	147	12	1	16	464

欠損品について

※(　)内は各産地欠損品合計に対する割合(%)	神津島	箱根	天城	霧ケ峰	和田峠	蓼科	不明	合計
長脚	4 (4.2)	1 (8.3)	2 (13.3)	58 (66.7)	2 (28.6)	0 (0)	1 (10)	68
長脚鏃における欠損品出現率								88.30%
長脚以外(未製品を含む)	92 (95.8)	11 (91.7)	13 (86.7)	29 (33.3)	5 (71.4)	1 (100)	9 (90)	160
長脚鏃以外の形状における欠損品出現率								41.50%
各産地欠損品合計	96	12	15	87	7	1	10	228
全ての形状における欠損品出現率								49.10%

ほかに長脚鏃の全体の傾向としては、欠損率が高いこともあげられる。取りまとめた全石鏃のうち欠損した石鏃の出現率は49.1%である。このうち、長脚以外の石鏃における欠損品出現率は41.5%であったのに対し、長脚鏃は88.3%が欠損品であった。本遺跡においては黒曜石が全部で111点が欠損しており、欠損品出現率は74.5%であり、長脚のものは6点中5点欠損で83.3%である。長脚鏃欠損率が全体の平均より高いのは形状によって破損しやすいことの表れだろう。しかし破損しやすい形状のものを特定の石材で製作するというのは、なんらかの拘束力を感じる。さらに未製品(1)についてみると、神津島系は多く、霧ケ峰系は少ない。愛鷹山周辺では霧ケ峰系の石材で石鏃は積極的に作っていなかったようですらある。石器について時期を特定するのは困難であるが、特定の石材が特定の形状に収斂する傾向があるので、産地と形状とさらには製作技法を取り入れて検討すれば時期をある程度特定できるようになるのかもしれない。また、時期による石材流入量の違いも考慮する必要があろう。池谷信之は静岡県東部を中心とした遺跡ごとの産地組成というより大きな枠組みから検討し、産地ごとの石材流入量の変遷をすでに指摘している（池谷2003）。また本遺跡における諏訪星ヶ台群の長脚鏃は前期後半諸磯ｂ式、ｃ式期のものであると先述したが、同様の形式と産地の関連については笹原千賀子が述べている（笹原1997）。池谷の論は前期後半に信州系石材の流入量の増加が見られるということだが、これに形状までもが付随してきたといえるのかもしれない。また、前期後半の信州系黒曜石については、原石採取に画期があったとする大工原の指摘がある（大工原2005）。諸磯ｂ式期新段階の時期において、採取方法が転石入手・表層採取から露頭採掘へと変化し、採取場所も和田峠系から星ヶ塔系へと変わる。この時期に見られる変化は交換から交易への変化という流通形態の大転換であるとする（大工原2002）。この諸磯式期の転換については小杉康が別の視点から論じているが（小杉2003）いずれにせよ何らかの画期があったことが予想される。これに、石鏃の形状の違いを合わせれば、あくまでも予測だが、信州系の黒曜石を用いて長脚の石鏃を多く作るということから作業者が限定されてくる可能性もある。信州系石鏃の内、一部は製品として搬入された可能性も捨てきれない。

② 本遺跡出土石鏃の作りこみの様子と形状、欠損状況

ここでは素材剥片の剥離面の残存についてと、形状と石材の関係について述べたい。素材剥片の剥離面が残存しているということは素材剥片の形状を大きく変えることなく石鏃としていることになる。これらを黒曜石の産地ごとおよび石材ごとにまとめてみた。（第50表）

主体を占める神津島恩馳島群のものについては、素材剥片の剥離面が残存するものが多く66%であった。これはつまり、素材剥片の形状を特段変えることなく利用したことを表している。

これと似たような傾向をしめるものとして、数は少ないが箱根畑宿の石鏃がやはり素材剥片の剥離面を75%が残す。黒曜石の他の産地では点数が少ないが両面に平坦剥離を及ぼすものが多くを占め、それに伴い素材剥片剥離面残存度も低い。これらの違いは一見して雑か、丁寧かの印象を与える。全体の傾向としては長脚鏃の中でも述べたが、黒曜石産地の違いにリンクする作り手の違いを感じさせる。

石材、産地ごとの、形状の違いの数的構成については、黒曜石では、神津島恩馳島群産は平面三角形が多い中に湾曲三角形が含まれる形になるが、他の産地の黒曜石では基本的に湾曲は作っていない。しかし、黒曜石以外の石材では湾曲させているものの方が多くなる。また基部の抉りについても黒曜石はばらばらな感じを受けるが、黒曜石以外になるとそのほとんどが抉りをもつものになる。

黒曜石だけをみると同じ石材で多様な形態を作るように見えるが、他の石材についてはある程度は形状に制約が働いていたように感じる。チャートの産地は比較的近場のものとして、神奈川県西部の丹沢山系が知られている。本遺跡からは見ると黒曜石産地は南北に、チャート産地は東にある。石材移動の方向の違いが何らかの形状の違いに影響を与えているのかもしれない。

第50表　石鏃形状別一覧

	総数	平面形状・基部形状											素材剥片面残存率%未製品を除く	未製品数
		三角・平基	三角・凹基	三角・長脚	三角・不明	湾曲・平基	湾曲・凹基	湾曲・不明	五角・凹基	不明・平基	不明・凹基	不明・不明		
KZOB	130	23	32	3	2	3	18			6	1	18	66%(70点)	24
SWHD	4		2	1	1								0(0点)	0
WDHY	1			1									0(0点)	0
AGKT	3			1	1							1	0(0点)	0
HNHJ	4	1	2									1	75%(3点)	0
推定不可・測定不可	9		1			1	1					5	22%(2点)	1
ガラス質黒色安山岩(GAn)	1		1										100%(1点)	0
チャート(Ch)	2		1						1				0%(0点)	0
赤色チャート(Ch (Re))	1						1						0%(0点)	0
流紋岩(Rhy)	2	1					1						100%(2点)	0
赤色頁岩(RSh)	1						1						100(1点)	0

次に刃部を整える際の細部調整の様子について見てみる（第51表）。遺物編のところで触れたが、細部調整の様子が若干異なる。細部調整をA類としたものは最終的な細部調整が一面に片寄るもの、B類は細部調整が左右両側縁部で表裏一対で粗調整と細部調整が組み合わさり、かつ右側縁と左側縁とがそれぞれ異なった調整で1面が構成されているもの、C類は細部調整と粗調整とが複雑に組み合わさっているものあるいは不明のものである。

形状と産地と組み合わせてみると、神津島恩馳島群産では、三角形・平基にA類が多いが、三角形・凹基は全て拮抗していること、信州系黒曜石ではB類が多い、という傾向が見られる。しかし全体的に概観すると特別な偏りがあるようには見えない。

分類ごとのそれぞれの違いが意味しているところは素材剥片から目的の形状を作る際の方法の違いであると考える。A類は大まかな形状を作ってから最終的には片面でのみ形状を整えるという方法を、B類は刃部ごと個別に最終的な調整をしている方法を、C類は頻繁に作業面を反転させながら最終的な調整をしているという方法をそれぞれ表していると考える。

これらの違いが形状・石材ごとに偏差があれば製作者集団の「くせ」のようなものである可能性がある。しかし、前述のように偏りがないとなると、それぞれの調整方法は全ての製作者において選択されうるものであったということになろう。縄文時代の剥片剥離技法においては、旧石器時代とは異なり定型的な剥片を連続して作るという制約は乏しい。これは本遺跡出土の石核を見れば打面転移を頻繁に行っている様子から容易に理解できる。素材剥片の形状、厚さにはかなりのばらつきがあったことになり、そういった素材剥片がもつ問題を解決して目的の石器を作るためにさまざまの方法を臨機的に採用したことであろう。臨機的に対応する上に、画一性が見えにくい様子はまさに縄文的である。

また、欠損しているものが多いことから部位別に欠損状況をまとめた（第52表）。先端部と脚部が欠損しているものが多く、石鏃形状による差異はない。特徴的な欠損としては先端部から中心に向かって縦溝状剥離が見られるものが3点（第116図6、13、第117図51）あり、特に第116図13と第117図51は剥離末端部がステップ状になっている。御堂島正の石鏃使用痕の実験によれば、これら先端部にみられる特異な剥離は衝撃剥離痕である可能性が高い（御堂島2005）。

第51表　石鏃石材別細部調整一覧

	細部調整	平面形状・基部形状 三角・平基	三角・凹基	三角・長脚	三角・不明	湾曲・平基	湾曲・凹基	五角・凹基	不明・平基	不明・凹基	不明・不明	合計(%)
KZOB	A	12	9	1	1		3				2	28(26%)
	B	4	10	1		1	3				4	23(22%)
	C	7	13	1	1	2	12		6	1	12	55(52%)
SWHD	A			1								1(25%)
	B		2		1							3(75%)
	C											
WDHY	A											
	B			1								1(100%)
	C											
AGKT	A				1							1(33%)
	B											
	C			1							1	2(67%)
HNHJ	A	1									1	2(50%)
	B		1									1(25%)
	C		1									1(25%)
測定不可 推定不可	A											
	B											
	C		1			1	1				5	8(100%)
GAn	A		1									1(100%)
	B											
	C											
Ch	A											
	B											
	C		1					1				2(100%)
Ch (Re)	A											
	B						1					1(100%)
	C											
Rhy	A	1										1(100%)
	B						1					1(100%)
	C											
RSh	A											
	B						1					1(100%)
	C											

第52表　形状別欠損部位出現一覧

欠損部位	平面形状・基部形状 三角・平基	三角・凹基	三角・長脚	三角・不明	湾曲・平基	湾曲・凹基	不明・平基	不明・凹基	不明・不明	合計
a	7	15	3	3	1	8	6	1	9	53
b	2	4	3		1	2	2	1	4	19
c	9	21	3	3		12	3	1	6	58
d			3						19	22

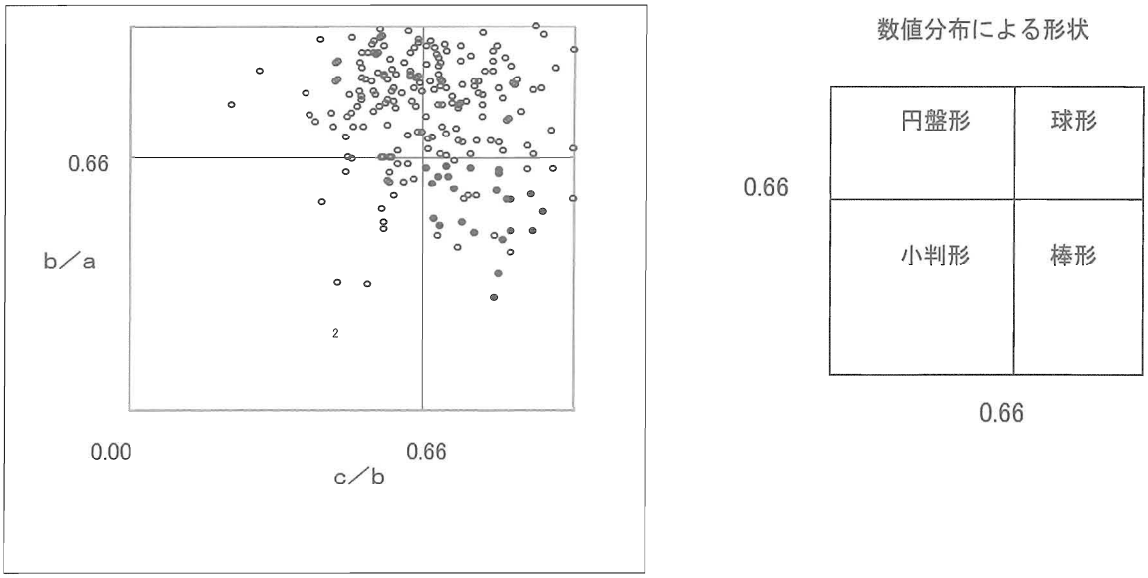
a…先端部　b…側縁刃部
c…脚部　d…基部

全ての欠損品について、使用の痕跡なのか、製作時のミスによるものなのかを判じることは難しいが、使用痕として認定できるような剥離が見られることから使用した矢は特別問題がない限りは持ち帰ったのではないかと思われる。もちろん、対象物に刺さったままで持ち帰られることもあったであろう。前掲の御堂島によれば石鏃製作は当然であるが、矢柄製作もかなりの時間を要するとある。消耗品であるとは言え、使用できるものは当然持ち帰って再利用したのであろう。石鏃についてまとめると、形状の違いにより作り手あるいは時期の違いを想像させるものがあるが、製作技法については大きな差がないこと、主体を占める石材（本遺跡では神津島の黒曜石）は量的に豊富であるからか粗雑なつくりをするものが多く、その形状もランダムである印象を受けるが、その他のものについては形状にある程度制約があったようであることが言えよう。

3．磨石、敲石について

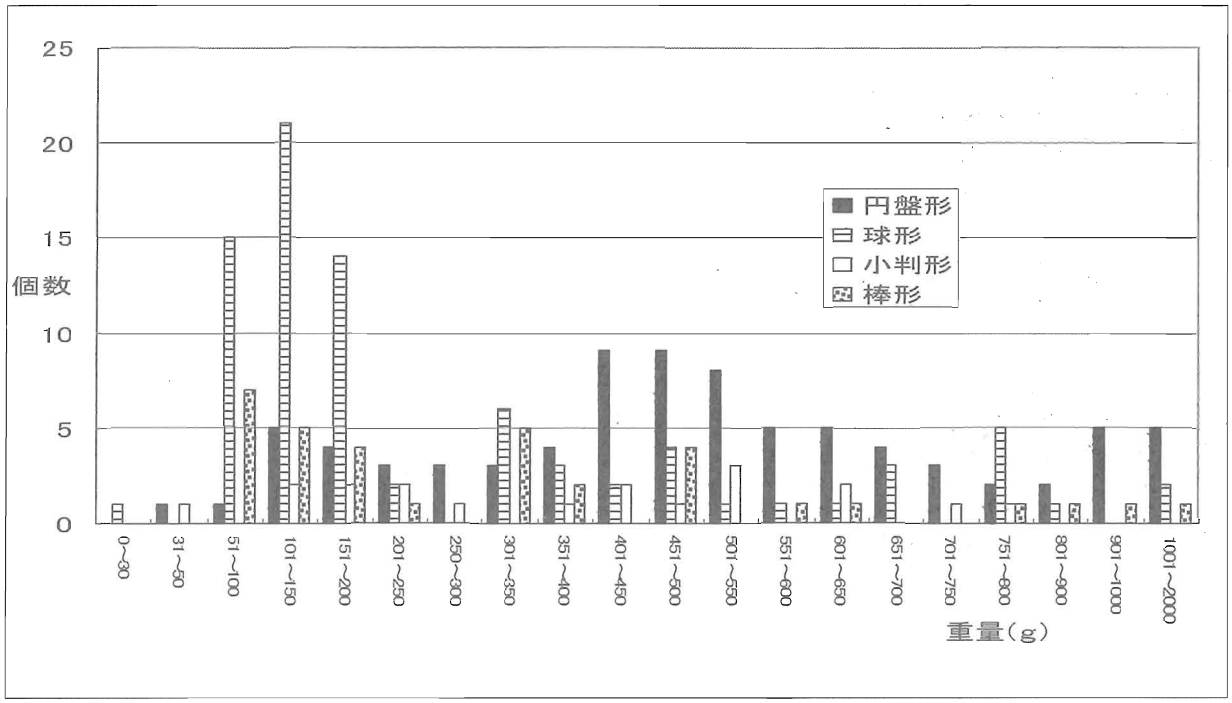
磨石、敲石は製粉の工程で使用されるものであると考えられており、どちらもワンセットの工程である（殻を割って砕き、中身を磨る）ゆえに両方の性格を兼ねていることが多い（以下この磨石、兼敲石をも磨石ということにする）。磨石の用途は製粉作業と漠然と考えているが重さ、形状によって使用目的が違う可能性はないだろうか。製粉用具の形状と重量分布について見てみる。製粉用具の形状は従来、円礫、亜円礫、棒状礫あるいは隅丸方形、円盤状などに分けられるのが一般的であろう。またトチタタキ石（渡辺誠1975）のような使用方法を念頭に入れて使用面を平坦に加工したスタンプ形石器などもあり、捉え方により形状名称が多様となっている。そのような状況の中で、調査者の主観によらず、数値で形状を把握し磨石の機能や使用方法について検討を試みている論考がある（桐山秀穂2004）。本遺跡は桐山論文の形状分類に沿った形で、本遺跡内における磨石の形状分布と出土分布から考察をしたい。ま

ず、分類であるがZinggの図表という、主に地質学において使用される立体を表現する図表を使用する。詳細は桐山論文を参照されたいが、これは対象物の長さ、幅、厚さを計測し、それぞれの数値のうち最大値を長径（図表上ではａと表記）、２番目の値を中間径（ｂ）、最小値を短径（ｃ）とし、中間径と長径の比および中間径と短径の比で立体を表現するものである。ここでは桐山論文にならい、２つの比0.66を境界とし、数値の交点がプロットされる場所から形状を把握する。



第162図　佛ヶ尾遺跡出土磨石類形状分布図

形状把握に関しては完形品のみ223点を対象とした。この磨石をプロットした図が第162図である。球形状（83点）、円盤形状（85点）が多く、棒形状（36点）、小判形状（19点）が少ないことが見て取れる。これらの形状別に重量分布をあらわしたグラフを見ると、形状別にいくつかの重量ピークが存在する（第163図）。円盤形には401～550ｇ、960～1150ｇの２つのピークが、球形は51～200ｇ、棒形も51～200ｇが重量別に見た際のピークといえる。小判形は全体的に少なく、ピークといえるものはない。円盤形は比



第163図　磨石類形状別重量分布

較的重いものが、球形は軽いものが多いという傾向がうかがえよう。

これら石器の形状別に集落域の出土状況を図示してみる（第164図）。どの形状も特別にどこかに集中している場所があるわけではない。数から言えば石皿・台石は68点、磨石類は272点出土しており、単純計算で石皿・台石１点あたりに磨石類は４点になる。磨石類のほうが石皿などよりも多いのは作業工程の中で大きさ、形状の違う磨石類を組み合わせて使用したことの表れであろう。特定の形状が集中しているわけでないこともその流れで理解できる。

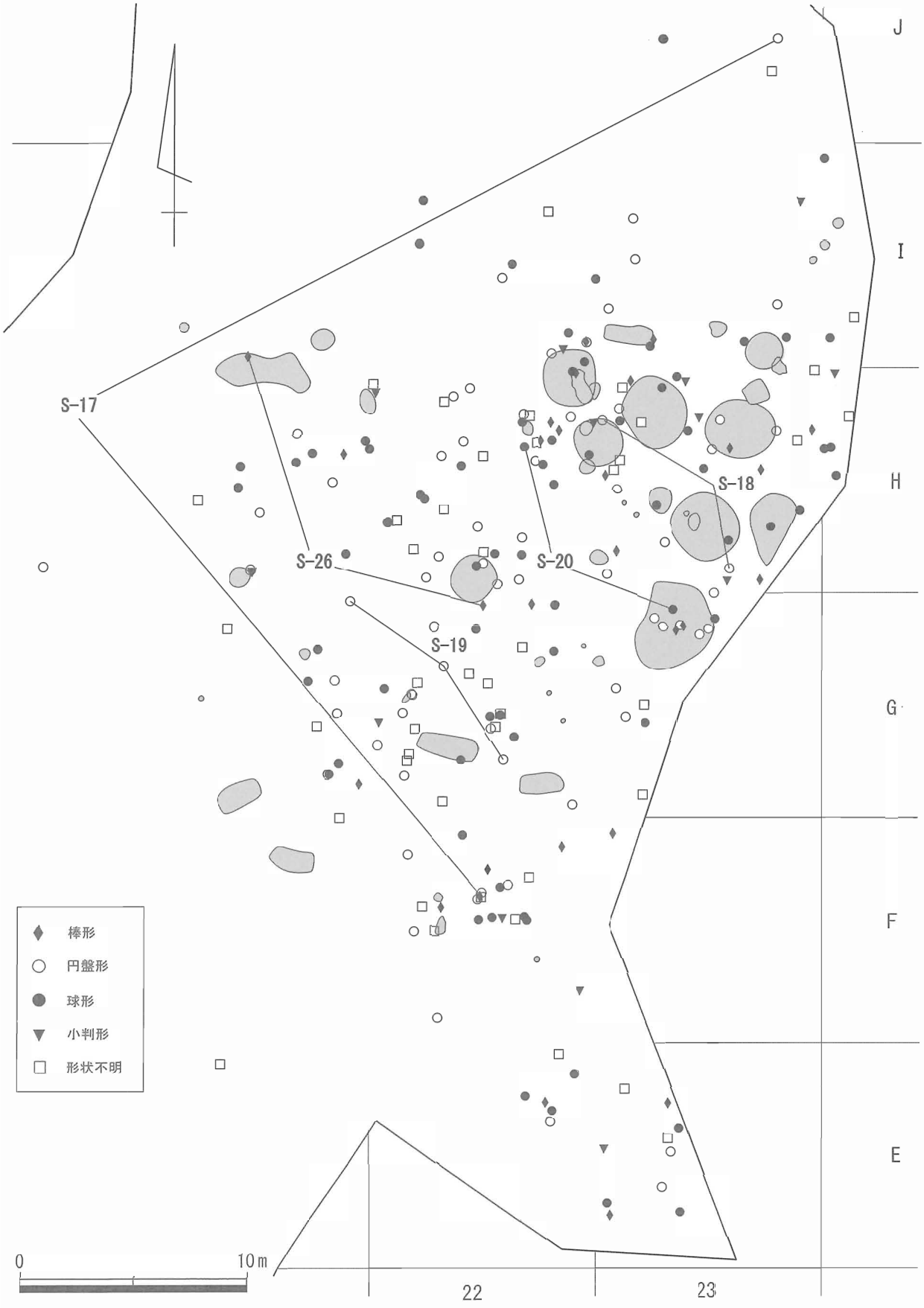
次に、実際に球形、円盤形、棒形が併用されることを確認するため実験を行った。特に重量グラフ中、出土の多かった球形と円盤形、それと棒形に該当する礫を海浜で採取し、実際にドングリやクルミを対象として殻割・荒割・製粉の過程（渡辺誠1975）を試みた。実験で使用したのは比較的小型の球形に該当する110ｇの安山岩、および中型の円盤に該当する460ｇの多孔質玄武岩の円礫である。棒形はピークがいくつかあるが51ｇ～200ｇにもっとも大きいピークがあるのでそれに該当する120ｇの多孔質玄武岩を使用した。受け手となる石皿には、多孔質玄武岩の扁平な礫の平面中央部を敲打により凹ませたものを使用した。

まず小型の球形についてであるが、殻を割る際には軽すぎるため、相当な力が必要とされ、加減が難しいと感じた。殻を割る過程で中身は割れることはなかった。製粉についても荒割り、製粉工程とも軽量で小さいために使いにくく、後述の中型の円盤より力を必要とした。殻割の際に中身が殻とともに割れることが少ないであろうということ以外は長所が見られなかった。何よりも、製粉作業はかなりの量をこなすはずであり、小さい磨石では効率が悪いと思われる。殻割、荒割ではなく、例えばより細かくする、あるいは練る、といった作業に使ったのかもしれない。小さいものを少量つぶす、といった作業も考えられる。

中型の円盤はすべての工程において使いやすかった。平坦面があるために殻割は打ち損じが少なく、石皿の凹み利用して礫の縁辺でたたくと容易に細かくなる。欠点を挙げるならば、やはり重いことである。短時間の使用において問題はなくとも、長時間の使用に向いているのかどうか。民族事例を見ると、アメリカ先住民であるカリフォルニアのNomlakiは、１家族の２～３日間の食糧に相当するドングリの製粉加工を、女性が４～５時間連続して作業にあたることで得ている旨が報告されている（Ｂ.フェイガン2005）。製粉作業は女性によるという民族例が多いことを考慮すると、重いことは長時間労働に不利である。場合によっては軽いタイプに持ち替えたり、あるいは殻割・荒割には重いタイプ、製粉には軽いタイプという具合に使い分けていたりしたのであろうか。実験の感触からは、重量のある磨石があれば製粉までの工程は十分である。

棒形に関しては小型の球形と重量が変わらないにもかかわらず細長くなっているため、細長い先端部を使用して敲くと若干対象物を捉えにくいという印象があった。あるいは扁平な面を使用するほうが有効なのかもしれない。その他は使いやすさについては小型の球形と大差なかった。あるいは食料加工作業ではなく、石器製作のハンマーも含まれていることもあろう。

実験から得られた結論として、いずれか一つの形状で作業することは確かに可能であるが、一長一短であるために三者を補完的に使っていた可能性は十分あるということがわかった。三者の組み合わせが特別なものでないため、全体に分布して出土するのも当然であろう。



第164図　磨石類形状別分布図(集落域)

4．石皿について

石皿についても若干の検討を試みた。まず石皿のタイプであるが全体形状を把握できる石皿を見ると、本遺跡から出土しているものは大きく３群に分けられる。

Ⅰ群…石皿の表面は平らであり全体的に磨った跡があるが、磨耗による凹みがまったくないもの

Ⅱ群…石皿の表面は全体的に磨った跡があり、全体的に凹んでいるもの

Ⅲ群…石皿の表面の一部分がスポット的（主に径10cm程度の円形）に凹んでいるもの

第165図　石皿分類概念図

これら３タイプの石皿はどれも用途が同じであるのか。Ⅰ群とⅡ群は、Ⅰ群を使い込んでいったらⅡ群になったと捉えることが可能であり、用途は同じであると推測できる。しかしⅢ群は一部分だけを集中的に使用しているか、もしくは凹ませて成形していると考えられることから別の用途があったのかもしれない。

Ⅲ群は使用により凹んだのか、それとも成形してそのような形になったのかの違いは意味がある。作業過程で凹んでしまうのであれば、磨石の接触面があまり大きいものではない（大きいと全体的に凹むのではないか）ということを意味し、またあらかじめ成形していたとするならば小さく凹むことが必要とされていたことを意味し、その意図は異なる。この違いを考える一つのヒントとして、Ⅲ群の石皿である接合資料Ｓ-24（第155図12）がある。凹みの程度は少ないが仔細に観察すると、スポット的に凹んでいる上、表裏面ともに激しい敲打痕があり、凹ませようとして強く敲打している際に大きく割れてしまったと考えられる。このことから石皿の凹みは意図的に作り出されたものであり、必ずしも使用頻度、使用期間を反映していない。

製粉作業を考えれば、ある程度凹んでいたほうが使用しやすいのは言うまでもない。実際に、先述の磨石での実験に使用した石皿は意図的に凹ませた多孔質玄武岩を使用したが、成形する際に磨石による研磨（製粉作業の再現）で試みたが成人男性が１万回以上強くこすりつけても2.5ミリ程度しか凹まなかった(2)。代わりに叩いて表面をつぶして整形してみたところ10分もしないうちに凹みができた。当時も成形してから使用したのであろう。

次にⅢ群の石皿の出土位置を見る（第166図）。Ⅰ群およびⅡ群のタイプは集落を中心に全体的に見られるが、Ⅲ群は３号住居跡南東のＧ-022グリッド内の石皿の集中域にそのほとんどがある。Ⅲ群の使用していた作業場所に偏りがあるといえよう。ただし、Ⅲ群の近くからⅠ群及びⅡ群の石皿も出ているので、Ⅲ群の石皿は作業の一環として使用する場合もあれば、そうでない場合もあったと考えるほうがいいのかもしれない。形状の異なる石皿がセットで集中して出土していることは、皮むき、荒割、細紛化といった堅果類加工工程を考慮するとむしろ当然なのかもしれない。磨石類のところでも同様の結果が得られていることは先述した通りである。これら作業はある特定の時期に集約的に作業が行われたはずであり、当然、共同作業も行われたであろう。その結果として作業場所、つまり石皿の集中域が形成されたと思われる。

その他のタイプについてであるが、遺物番号16901のⅡ群の石皿（第155図10）は６号住居跡床面直上から出土した。全体的に凹んだ形状は磨り潰したり粉末をこねたりするのに適しているようである。製粉加工作業はアク抜きなどに水が必要であり、また殻などのごみも出るので、屋外で行い、粉になったものを住居に持ち帰り食用に供したのであろう。

植田文雄は縁の有無で用途の違いの可能性を指摘しているが、当然加工対象植物種の違いもあったであろう（植田1998a、1998b、山本2002）。本遺跡出土石皿は意図して凹ませたであろうことはわかるが明確な縁があるようなものではなく、かつ打製石斧が８点と極端に少ないため植田の言う根茎類採集を予想させるものではないが、本遺跡でのタイプごとの機能・用途の分化は十分に考えられることである。残念ながら植物遺存体の出土がないため分化の可能性を指摘しておくにとどめる。

５．玦状耳飾とミニチュア土器、石皿とのセットについて

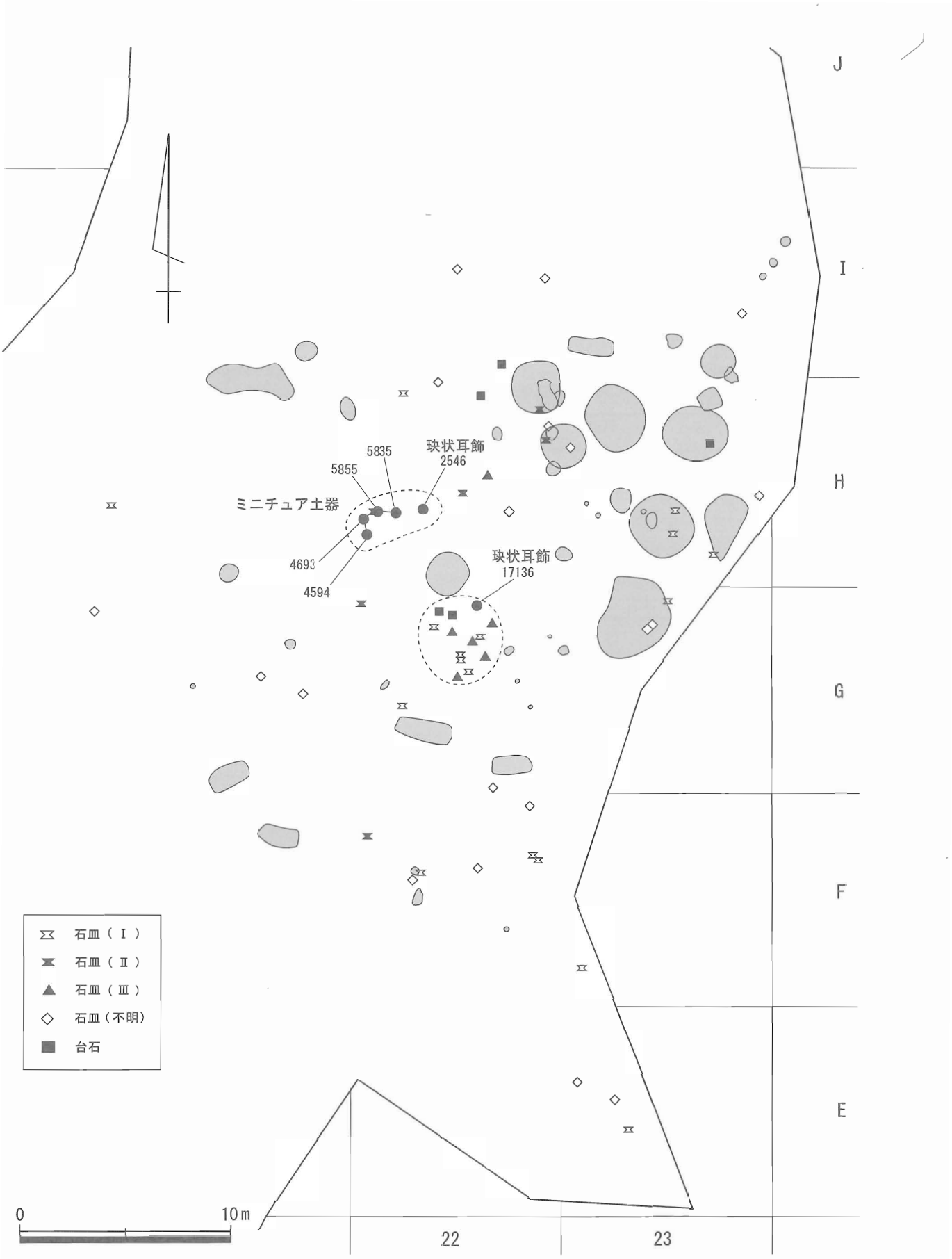
本遺跡からは滑石製玦状耳飾が２点出土している。この玦状耳飾と石皿、加えてミニチュア土器（第104図453）が近接して検出された。166図を参照すると、集落域西側のH-022グリッドから貝殻条痕文が格子目状に施文されているミニチュア土器と遺物番号2546（第124図１）の玦状耳飾が近接して出ている。また、遺物番号17136（第124図２）の玦状耳飾がⅢ群のタイプを含む石皿集中箇所付近から出土している。これらは何を意味するのであろうか

前期中葉の例ではあるが群馬県中野谷松原遺跡は石皿や磨石を模したミニチュア土製品が出土したことから、大工原豊は食物調理に祭祀的な意味が付与されていたことを指摘している（安中市教育委員会1998、松本2005）。本遺跡から検出されたものは深鉢形のミニチュア土器であるが、煮炊きなどの食物調理作業を念頭においた製品であることに変わりはない。したがってこのミニチュア土器の存在もそのような作業に従事する人間、つまり女性を想起させる。また、玦状耳飾そのものも女性に伴うものである可能性が古くから指摘されており（西口1983）[3]、玦状耳飾とミニチュア土器の共伴はその場所が特に女性に関わる空間であった可能性を示唆する。また墓域の可能性もあるが、土坑が検出されていないためわからない。もう一つの玦状耳飾が出ている地域は石皿の集中域付近である。民族例の見地から、石皿自体も、女性の道具であるとの意見もあり（渡辺仁1980、酒井1990）、同様に女性に関わる空間であろう。

石皿の集中域については製粉作業が集中的に行われた場所であろう。そのような食物加工作業に何らかの特別な意味が付与していたことが玦状耳飾との関係から予想される。

玦状耳飾は縄文時代早期から見られるようになり、末葉から前期初頭にかけて全国的に急激に数を増やす。着装するということは一見して非着装者と区別できることが利点である。装飾品は富に付随するものというイメージがあるが、大きな集落であっても出土しない場合もあり、逆にその反対もある。経済的な豊かさとは無関係であろう。春成秀爾は耳飾が集団内での出自を表していた可能性を示唆する。着装者はその土地の出身者であり、非着装者はいわゆるよそ者である。それが集落の双分制の原理となると指摘する（春成1982、網野他1998）。自他を明確に区分するという観点からは説得力のある説である。遺跡ごとの耳飾出土のばらつきは春成の論じるように単なる所有の概念とは異なる。たとえば習俗などに関わりがあるのかもしれない[4]。

ともあれ、作業空間と性別との関連の可能性、及びそれを周囲に認識させる必要性とが存在していたことは本遺跡の様相からうかがえる。



第166図　石皿類形状別分布図(集落域)

〈集落域全体の様相〉

1．住居跡を中心とする遺構の新旧関係とその性格について

縄文時代早期末葉の集落域において検出された竪穴住居跡は6基であった。また、住居と思われる竪穴状遺構が2基（TA01、02）、その他、住居とは判断しがたいが何らかの上屋構造をもつものであったろう遺構が1基（TA03）検出された。これらについてその出土遺物や遺物の接合状況、周辺の遺構との関係、その他包含層出土遺物の状況等から推測可能な範囲において、遺構の新旧関係について若干の考察を試みたい。

覆土から出土した土器を見ると、全ての住居跡が打越期となり、遺構の新旧関係は土器型式上からは判明しない。しかし、2号、5号、6号住居跡のように非常に近接しているものがあり、これらは仮に上屋を葺いたとしたらお互いに干渉する距離である。また第5章第1節遺構編でも述べたが、住居跡の新旧関係が一部予想できる状況が見られることから、全ての住居が同時に存在したものではないことが想像できる。さらに、住居跡等の遺構はお互いに切り合っていない。集落域に密集して構えられた住居が切り合わないということは偶然ではあるまい。同じような立地条件で住居を構築しながらも切り合うものがないということは、それぞれの遺構の痕跡が認識できるくらいの非常に短い時間内に全住居跡等が構成された可能性を示唆している。

住居跡等の形状、遺物などを一覧にしたのが第53表である。

まず大きさであるが住居跡については3種類に区分できる。比較的大きい1号・2号・4号住居跡、それより少し小さい5号住居跡、より小さいサイズである3号・6号住居跡である。竪穴状遺構についてみても、大きいものが1号竪穴状遺構、中位が2号竪穴状遺構（調査区内は半分であるが、推定で判断した）、小さいものが3号竪穴状遺構である。大きさで3系統あるということは共通している。

柱穴の配置の様子についても3系統の様子がうかがわれる。もちろん、検出できなかった小さい柱穴もあったことは考えられるが、検出したものでは、外周をめぐるように配置しながらも住居跡平面形の半分に多くが偏るようになっているものは1号・6号住居跡、外周をぐるりとめぐるように配置されているものは3号・4号住居跡、中央に配置されるものがあるのが2号・5号住居跡である。柱穴の様子については2号住居跡と6号住居跡の一部の柱穴が直上の土層と異なる様子が観察された。柱穴の形状を観察する限り、柱穴の一部が崩落したものが混入したと思えず、人為的に一部埋め戻したものであると考える。柱の付け替えのような行為を予想させる。また他の柱穴も含め、中に遺物が含まれていたものは1基も存在しなかった。床面直上には遺物が存在することから、柱穴内への流れ込みもありそうなものだが、まったく無かったということは柱穴の埋没過程が住居床面とは異なるのかもしれない。

遺物の出土様相についてみると、まず覆土全体での土器・石器出土総数で、多いものが1号住居跡、1号・2号竪穴状遺構である。1号住居跡は350点、1号竪穴状遺構は332点、2号竪穴状遺構は調査区外にかかっているため半分程度の大きさにも関わらず233点であり、いずれも非常に多い。150点前後の中位のものが2号・4号住居跡である。少ないものが3号・5号住居跡である。3号竪穴状遺構は小さいからであろう、総数は一番少ない。3号竪穴状遺構は住居跡とは言い難い大きさなので除外すると、やはりこれも3系統に分かれる。

床面直上から出土した石器についてみると、狩猟具である石鏃が出土しているものが1号住居跡、2号竪穴状遺構、石鏃とともに植物質食糧加工具である磨石、石皿が出土したものが6号住居跡、石鏃が床面直上から出土しなかったものが2号・3号・5号住居跡、1号竪穴状遺構である。特に3号・5号住居跡は覆土上層も含めて石鏃は出ていない。狩猟活動の象徴的な遺物である石鏃の欠如は、その住居が狩猟活動に関わらない者の住居である可能性を示している。これもやはり3系統に分類できることになる。しかし、形状や遺物出土の様子などの特徴が複数重なり合うものはなく、それぞれの系統が意味

第53表　住居跡及び竪穴状遺構出土遺物等一覧

	長軸(方角)×短軸(cm)	深さ(cm)	平面形状	土器数	石器数(剥片数)	床面直上出土土器	覆土上層出土土器	土器の様子	床面直上出土石器	覆土上層出土石器	炉	柱穴
SB01	300(東西)×258	36	楕円	108点	242点(229点)	・胴部無文(打越式?) ・石山式	・打越式(口唇より斜位の沈線状腹縁と山形腹縁文の刺突) ・打越式(刺突) ・東海系胴部無文	大ぶりになるものあり(覆土上層打越式)	石鏃1(KZOB1)・両面調整石器1(Hor)・楔形石器1(KZOB1)	石鏃5(不明Ob1・KZOB3・Rhy1) 磨石1・楔形石器3(不明Ob1・KZOB1)	1(中央に配置)	7(外周をめぐるように配置)
SB02	317(南北)×278	27	楕円	37点	105点(99点)	なし	・打越式(刺突) ・打越式(腹縁ランダム) ・条痕文の上に凹線 ・沈線による格子目 ・天神山式 ・東海系無文	小さい破片	なし	石鏃2(KZOB2)・UF1(KZOB1)・石核1(KZOB1)・敲石2	1(長軸の一方に寄って配置)	7(中央で十字に交差するように配置)
SB03	208(南北)×193	30	楕円	61点	48点(44点)	・胴部無文(打越式?)	・打越式(刺突) ・打越式(若干押し引き) ・打越式(条痕の上に刺突)	大ぶりになるものあり(覆土上層打越式)	磨敲石1 敲石1	磨石1 敲石1	1(長軸の一方に寄って配置)	5(外周をめぐるように配置)
SB04	304(北西から南東)×275	42	楕円	48点	102点(90点)	・条痕文(斜位) ・東海系胴部無文	・打越式(条痕の上に刺突) ・条痕文(格子目状) ・条痕文(波状)	床直に大ぶりになるものあり	敲石1 砥石1	石槍1(KZOB1)・石鏃4(KZOB3・Ch1)・削器1(GAn)・UF1(KZOB1)・石核2(KZOB2)・楔形石器1(KZOB1)	2(短軸線状に一対配置)	6(外周をめぐるように配置)
SB05	255(南北)×224	24	楕円	44点	60点(56点)	・胴部無文(打越式?)	・打越式(条痕の上に刺突) ・打越式(刺突) ・条痕文(格子目状) ・条痕文(波状)	小さい破片	磨石1	敲石3	1(長軸の一方に寄って配置)	3(中央と外周に配置)
SB06	218(北西から南東)×205	28	円形	35点	101点(92点)	・胴部無文(打越式?)	・打越式(格子目状条痕の上に山形2段1対を刺突) ・打越式(条痕文の上に刺突) ・打越式(刺突) ・条痕文(打越式?) ・天神山式	比較的小さい破片	石鏃1(KZOB1) 石核1(不明1) 楔形石器1(KZOB1) 磨敲石1・石皿1	石鏃1(KZOB1)・RF1(KZOB1)・UF1(KZOB1)・楔形石器1(KZOB1)	1(長軸の一方に寄って配置)	4(外周をめぐるように配置)
TA01	380(南北)×355	28	不整形楕円	69点	263点(246点)	・胴部無文(打越式?)	・打越式(垂下隆帯を持つ、腹縁文菱目) ・打越式(縦条痕の上に刺突) ・打越式(刺突) ・石山式	小さい破片	なし	石鏃5(HNHJ1・KZOB4)・石匙1(KZOB1)・RF1(KZOB1)・UF1(KZOB1)・楔形石器2(KZOB2)・磨敲石1・敲石4・凹石1 石核1	なし	なし
TA02	(201)(北西から南東)×242	30	楕円	69点	164点(156点)	・条痕文の上に波状の凹線 ・胴部無文(打越式?)	・打越式(刺突)・打越式(条痕文と刺突) ・条痕文(打越式?)	小さい破片	石鏃1(KZOB1)・削器1(KZOB1)・RF1(不明1)	石鏃2(KZOB2)・RF1(KZOB1)・石核1(KZOB1)・敲石1	なし	なし
TA03	160(北西から南東)×155	16	円	18点	28点(26点)	・東海系胴部無文	・打越式(条痕の上に刺突) ・東海以西の早期末土器(ⅢC)	小さい破片	なし	石鏃1(不明1)・楔形石器1(KZOB1)	なし	なし

をなす分類であるかどうかもわからない。

時期決定に重要なのが土器であるがこれもはっきりとは見えてこない。床面直上からは新旧を述べられるものは無く、打越式土器の形式内に納まってしまうため、また条痕のあるものや無いものなども本遺跡では住居変遷を追うのには明確な指標とはなっていないために判然としない。指針として成り立つのは早期末葉の東海系土器であるが、これも覆土上層から出ていたもので論じるものは難しい。ただ、覆土内から石山式土器が出ているのは１号住居跡と１号竪穴状遺構だけである。古い段階に属するこの土器が出ていることで、両者は全体の中では比較的古い可能性は有る。この両者はサイズが大きいこと、遺物が多いこと、覆土中も含めれば石鏃が多く出て、磨石も出土していることなど共通点は有る。しかし、残念ながら両者の同時性を示す資料はない。住居床面直上検出の遺物だけでは前後関係を言うのは難しい。

そこで遺構内出土土器は覆土全体を含めたセットでまとめてみる。廃棄の組み合わせであるので厳密な時期特定としては情報の精度が落ちるが、覆土検出の遺物よりも、遺構の構築が古いことを示すことはできる。

まず編年が整備されている東海系土器を基準とする。本遺跡では、石山式と、後続する天神山式が出土している。石山式土器は１号住居跡、１号竪穴状遺構から出土している。

石山式土器より新しいとされる天神山式土器は２号住居跡、６号住居跡から出ている。

次に打越式土器において特徴的なものについてみると、垂下隆帯を伴うものは１号竪穴状遺構からのみ出土している。また、条痕文を施した上に貝殻腹縁文を施文するものはほとんどの住居跡・竪穴状遺構から出土しているが、唯一２号住居跡からは出ていない。

隆帯を伴う打越式土器は谷口康弘によれば（谷口1984）打越式土器の中でも新しいものと位置付けられており、次代の隆帯を持つ神之木台式土器につながると考えられているが、本遺跡の南に近接する下ノ大窪遺跡（第二東名№146地点）においては、石山式より古い入海Ⅱ式土器とともに垂下および横位隆帯が貼付されている打越式土器が出土しているようである。垂下隆帯の土器は本遺跡においても石山式土器とともに１号竪穴状遺構から出ていることから相対的に古い可能性も考えられる。また、天神山式土器とともに出ている、条痕文を持たない貝殻腹縁文のみの打越式土器は相対的に新しい可能性がある。

また、天神山式土器ではないが、打越式土器と同じ胎土を用い、貝殻条痕を波状に施文する土器が４号住居跡から出土している。天神山式土器の文様モチーフに影響を受けたと思われるこの土器は、石山式土器に比べれば新しい可能性はあろう。

以上のことから、この覆土全体からの考察では

①　１号住居跡および１号竪穴状遺構に比べて２号・６号住居跡は新しい可能性がある。

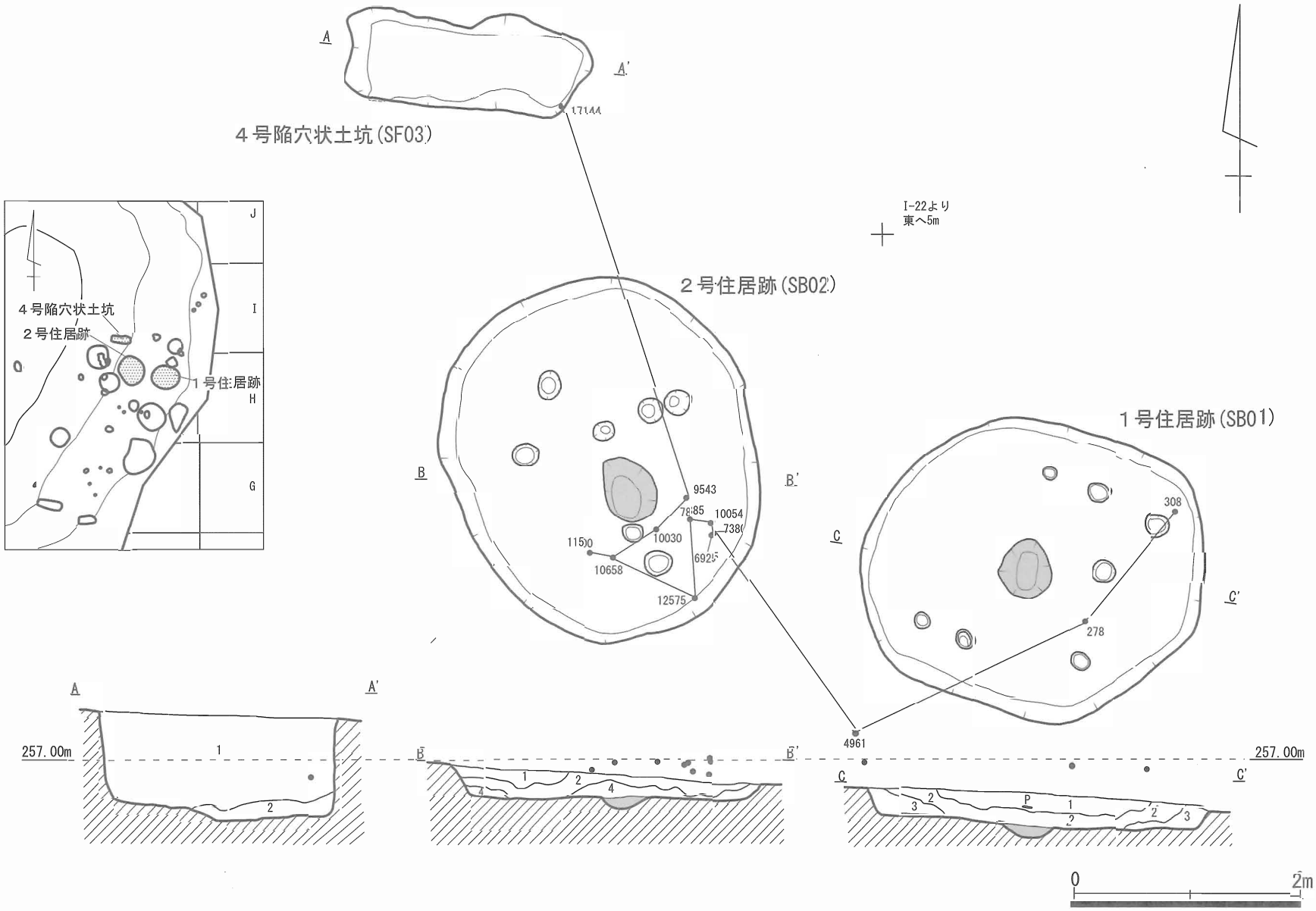
②　４号住居跡も１号住居跡・１号竪穴状遺構に比べて新しい可能性がある。

ということが指摘できよう。

さらに包含層出土土器の接合から得られた情報も検討に加えたい。

１号住居跡床面直上検出の石山式土器（遺物番号16306）は３号竪穴状遺構検出面上の遺物包含層出土土器（遺物番号7659）と接合した。この事実は、１号住居跡が構築された際には３号竪穴状遺構は埋まっていたことになり、３号竪穴状遺構が古く、１号住居跡が新しい可能性を示唆する。

また天神山式土器がやはり１号住居跡炉の高さから40cm上の包含層から出土しているが、この土器片が同じように２号住居跡炉から20cm上、検出面すぐ上より出土している土器片と、さらに４号陥穴状遺構の検出面50cm下の深い層から出土している土器と接合した（第167図　接合番号Ｐ130）。これらは標高が256.9～257.0ｍの高さにそろっている。このことから新旧関係に関する可能性が２点指摘できそうである。まず１点目は、１号住居跡のほうが２号住居跡よりも古い可能性があるということである。出土



第167図　縄文時代土器接合図(P130)

遺物の標高値はほぼ同じであるが、地形は西から東へ下る微傾地であるため、２号住居跡よりも１号住居跡の方が床面の標高値は低い。それにもかかわらず接合する土器は標高が変わらない。また２号住居跡検出面直上の遺物は住居跡中央に行くに従い標高値が下ることからこの遺物が廃棄されたときは窪地であったことがわかる。これらのことから遺物が廃棄された時点では、１号住居跡がすでに完全に埋まっており、かつ２号住居跡が少し窪地を残している状態のときだと推測される。したがって、１号住居跡のほうが２号住居跡よりも古い可能性がある。２点目には、これは住居跡ではないが、４号陥穴状土坑近接の検出面より低いところで出土した包含層中の土器が住居跡上層で出たものと接合したことから、平面的に同じ高さで分布した状態で廃棄されていた土器がすっかり埋まりきってから土坑が掘られたことになる。４号陥穴状土坑は１号住居跡や２号住居跡よりもかなり新しいことになる。これは土抗の土層もそのことを示しており、集落とは関わりのない遺構として認識したほうがいいのかもしれない。１号住居跡と２号住居跡については同じく天神山式土器接合番号Ｐ129の230、9551他の接合でも同様のことが看取できる。

以上包含層の遺物と住居跡、竪穴状遺構の遺物との接合状態から推測される新旧関係は

①　３号竪穴状遺構が１号住居跡より古い。

②　１号住居跡が古く、２号住居跡が新しく、４号陥穴状土坑はより新しい。

ただし、これは少ない点数の遺物の接合から話しているので、情報としての精度はおのずと低い。接合すること自体は事実であるので、あくまで可能性の一つとして考えていただきたい。

これに加え、遺構編のところで推測された新旧関係は

①　５号住居跡が古く、６号住居跡が新しく、２号焼土跡と13号集石遺構がより新しい。

②　３号竪穴状遺構は古く、１号焼土跡は新しい。

③　４号住居跡は古く、６号集石遺構は新しい。

第54表　住居跡等遺構新旧推測表

流れ１	流れ２	流れ３
５号住居跡	３号竪穴状遺構	１号竪穴状遺構
↓	↓	
６号住居跡	１号住居跡	
	↓	
	２号住居跡・４号住居跡	

これら一連の流れをもとに作成した表が第54表である。この図に含まれない遺構もあり、横に並んでいるものも同時性を示しているわけではない。あくまでも可能性として述べているだけであることに注意していただきたい。打越式土器の編年は本遺跡の住居跡に適応できるまで細分化されていない。また、この遺構変遷の推測は確証としては精度が低いものである。そのため住居内出土土器にも新旧関係を援用できうるレベルではないことを付記しておく。

それぞれ個別の住居の新旧関係と出土土器・石器・平面形状などの様相とを先程の出土遺物等一覧でみるが、前後関係が推測されるものに明確な関連性はない。住居がすべて同時に存在していなかったであろうことは推測させる情報はいくつかあるが、残念ながら正確な住居の変遷について把握するにはいたらなかった。

この結果からは逆にいくつかの推測が引き出せる。まず、住居が埋まりきった上で遺物が接合したり、覆土上層に焼土坑が形成されたりと、お互いの住居跡が認識できる短時間での変遷であったのではないかとはいいながらも、集落域全体のタイムスパンはかなり長いことになる。隣接していたかのように見える住居跡であっても、新しい住居を構築した際には隣接する古い住居の上屋構造・柱などはすでになく、竪穴はほとんど埋没しているような状況であったと考えたほうが説明しやすい。本遺跡は集落域とは言いながらも同時に存在していたのは２～３基程度と見たほうがいいのかもしれない。集落の構成員が常に一定ということは考えられず、出産、死亡、結婚など構成員の頻繁な出入りがなされるたびに集

落全体の様相が変化することは民族学的な研究において紹介されている（遠藤1997）。そうであれば細かい変遷を追うことは難しいと言わざるを得ない。

また、環状に見える遺物分布には検出することが出来なかった住居の存在も可能性としては残るが、遺構の形態、遺物の様子などからは同時性や共通性を保証するものはないことから環状というのは見かけ上のものである可能性がある。住居跡の形態が多くの点で共通するものが少ないのも、住居が同時になかったことを考え合わせれば理解しやすい。ただ、そうなると遺物の廃棄の様子で出現した集落域中央の広場的空間の説明が難しくなる。

最後に住居の性格について特徴的なものをみることにする。生業活動を推測させる石器の分布状況から、わかりやすいものとしては植物質食料加工に関する石器である磨石・敲石以外製品石器が出ていない住居跡が２基ある。３号・５号住居跡である。これは住居の使用者が特定の性別に片寄るものであることや、あるいはその住居の使用目的、使用時の季節などといった、特別な条件・制約を受けていた可能性がある。特に５号住居跡は遺構の南北で玦状耳飾が出ており、周辺が女性の空間であった可能性があることはすでに述べた。

植物質食料加工という特定の生業に女性が特定の空間に集まって作業していた様子を想像させる。早期のこの段階においてすでに分業のような概念があったのかもしれない。

〈周辺との関連〉

１．下ノ大窪遺跡（第二東名№146地点）との比較

本遺跡が存在した縄文時代早期末葉という時期は気候最適期と呼ばれる縄文時代の中でも特に温暖な時代であり（安田1980、1993）、この時期、本遺跡の存在する愛鷹山周辺では遺跡が多くなることが知られている（瀬川1986）。本遺跡南側には比高差約40ｍの谷を挟んで300ｍ程度離れた尾根上に下ノ大窪遺跡（第二東名№146地点）があり、本遺跡と同じく早期末葉の打越式土器を主体とする集落が発見されており、放射性炭素年代測定の結果Libby Age 6630～6410±40yr BPという年代が得られたそうであるが[5]、この値は本遺跡と近似する。これだけ近接していれば時期がずれていたと考えることが自然であるが、同時に存在していた可能性もある。時期の差はあったにしろこれだけ至近に占有する尾根をわずか一つ違えて集落が存在することの意味が問われてくる。そこで本遺跡と下ノ大窪遺跡について若干の比較を試みた。

まず、両遺跡の遺構数および石器組成の比較をしてみたい（第55表）。なお、下ノ大窪遺跡のデータは整理作業時の概算であり、報告書刊行時には変化している可能性がある。詳しくは刊行予定の報告書をご参照いただきたい。まず、遺構数であるが、住居跡もしくは住居であったと思われる竪穴状遺構と集石遺構数は下ノ大窪遺跡が多い。遺物については、石鏃、削器、楔形石器といった狩猟具および動物質食料加工具は本遺跡が圧倒的に多い。また石核、使用痕のある剥片、加工痕の剥片も本遺跡が多い。

ところが植物質食料加工具については磨石・敲石、石皿・台石は下ノ大窪遺跡の方がはるかに多い。ここからすると狩猟採集の集落としての本遺跡、植物質加工場としての下ノ大窪遺跡、というように機能分化があったかのように見える。

ただし、住居らしき遺構１基あたりの点数に直すと、磨石や石皿はそれほど圧倒的な差に見えない。磨石等と石皿の関係も、本遺跡では石皿１点に対し磨石等は4.0点であり、下ノ大窪遺跡は4.5点と狩猟具に見られるほどの乖離ではないとも言える。狩猟活動、植物質加工活動のいずれも両方の集落で行われていたが、どちらかといえば本遺跡のほうが狩猟活動に重きを置き、下ノ大窪遺跡は狩猟活動に比して相対的に採集活動が活発であった、というところが正確であろう。立地条件が同一にもかかわらずこのような集落ごとの性格の違いは何に起因するのであろうか。

第55表　下ノ大窪遺跡（第二東名№146地点）との比較

遺　　構	佛ヶ尾（№147地点）※１	下ノ大窪（№146地点）※２
竪穴住居跡	6基	11基
竪穴状遺構	3基	5基
集石	14基	37基
土坑（含む陥穴状土坑）	28基	15基

遺　　物		
石槍	1点	0点
石鏃（含む未製品）	158点（17.6点）	91点（5.7点）
削器	29点（3.2点）	18点（1.1点）
掻器	1	4
石匙	1	4
石錐	3	3
楔形石器	82点（9.1点）	30点（1.9点）
装飾品	耳飾２点	垂飾１点
石核	55点（6.1点）	21点（1.3点）
使用痕のある剥片	66点（7.3点）	13点（0.8点）
加工痕のある剥片	62点（6.9点）	17点（1.1点）
礫器	24点（2.7点）	10点（0.6点）
打製石斧	7点（0.8点）	6点（0.4点）
磨石・敲石	272点（30.2点）	544点（34.6点）
石皿・台石	68点（7.6点）	120点（7.5点）

※１早期の遺物のみ　　※２整理作業時の概数

（　）は住居・竪穴状遺構１基あたりの数

性格の違いには関わりがあるかはわからないが、双方において装飾品が出土している。本遺跡においては玦状耳飾が２点出土しており、下ノ大窪遺跡では滑石製の垂飾が出土している。着装者の識別に威力を持つ装飾品の違いは、何らかの集団の違いを想起させる。自他の違いを視覚的に認識させる装飾品の有無は、そのような認識を互いにさせるような機会が多かったこと、つまり異なる集団同士が頻繁に接触していたことの表れと見ることも出来る。

本遺跡が耳飾を持ち、どちらかといえば狩猟活動にウエイトを置く集団であったのに対し、下ノ大窪遺跡が垂飾を持ち、相対的に採集活動にウエイトを置く集団であった。周囲の環境が同じために基本的には同じような生業を営みながらも若干の差異をもつ集落が愛鷹山山麓には複雑に入り組んで存在し、自他を区分しながらも近い距離に生活が営まれていた様子が想像させられる。

このような複雑な集落の存在はどのように考えたらよいのであろうか。時期、場所が異なる事例ではあるが、縄文時代後期の下総台地では周辺の大きな集落ネットワークに所属する成員が季節ごとの「生業状況に応じて集落間を移動する柔軟な居住・生業システム」があったと考えられる例も報告されており（樋泉2003）、本遺跡のある愛鷹山においてもそのようなネットワークのようなものが存在した可能性もあろう。

同一土器型式内での集落の同時性を証明するのは難しく詳細はわからないが、占地する場所をわずかに変えて同じような時期に集落が形成される背景にはそれぞれの集団の差異が一つには考えられる。そうすると同一領域内でさまざまの集団が活動していることになり、テリトリーの占有といった概念は薄くなる。この様子は入手石材の産地という観点からもうかがわれる。

2．石材はどこから入手しているのか。

① 磨石、敲石、石皿および集石遺構の礫の入手先について

石材の入手先を検討するために、本遺跡周辺の、礫が採取できる３つの川・沢に赴き、石材・形状・大きさの様子を調べた。得られたデータをもとに、石材の入手先を検討する。

地点１は本遺跡から直線距離で南方向100m前後の距離にある、谷底を流れる小さい沢である（第168図）。管見の限り特に名称はついていない。この沢を挟んで対岸に下ノ大窪遺跡がある。地点２は北東500mの谷底を流れる谷津川である。地点３は東南東1600mにある黄瀬川である。水量は地点１から地点３にかけて順に多くなる。この３箇所で磨石、敲石に適すると思われる礫を採取した。採取時間は５分とし、成人男性４人が実験的に採取し、それぞれの地点での結果をまとめた。あわせてそれぞれの箇所で石皿に適した石が採取できるかどうかの確認も行った。その結果と本遺跡で出土した磨石、敲石の石材と比較してみる（第56～58表）。３地点を踏査して気づいたのは採取できる礫の顔つきがまったく異なる、ということである。

第168図　佛ヶ尾遺跡周辺石材入手候補地位置図

地点１は亜角礫、角礫、板状礫ばかりで円礫は少ない。これは水量が少ない沢であることによるものと思われる。この地点で磨石、敲石の材料を入手することは出来ない。また、本遺跡で出土したような石皿に使える大きい円礫は皆無であった。円礫石器材料の入手場所ではなく、集石遺構あるいは旧石器の礫群に使用される角礫などの入手場所に適当であると考える。

地点２は地点１に比べ握り拳１つから２つくらいの大きさの円礫が散見する。磨石、敲石の石材入手地としては地点１よりはるかに有望である。その他の礫の様子は角あるいは亜角の大小の礫はあるものの、大きい円礫はこの地点も極めて少なく、石皿の材料として適するものは見当たらなかった。磨石、敲石用の石材または集石遺構、礫群のための石は入手できるが、石皿の材料は入手することは出来ない。

地点３は冬期の渇水時でも川幅が10m程度はある河川の河原である。角礫、板状礫は少なく、磨耗した円礫、亜円礫が主体であった。磨石、敲石はもちろん、石皿に使えるような大きい円礫も見られた。

採取された礫の石材と、本遺跡内で出土した磨石類の石器石材とを比較してみる。（第56表）まず、本遺跡から出土した磨石、敲石等の石材では輝石安山岩（An (py)）が最も多く、その比率は６割に迫る。

また、磨石類は石材のバリエーションが豊富である。遺物の検討で判明したことだが磨石類は大きさ、形状に傾向があり、また石材のバリエーションが豊富なことから一見、石材には嗜好性はないように見える。また集石遺構の礫については（第57表）輝石安山岩や玄武岩（Ba）や多孔質玄武岩（VBa）が拮抗した様子で、石材のバリエーションも少ない。石蒸し料理に使用したとするならば保温性を考えれば大きい石のほうが好まれ、形状は重要視されないので集落に持ち帰ることが出来る大きさを選択基準とした場合にこのような石材比になったのであろう。

一方、各地点で実験を行った際の結果（第58表）である。まず、本遺跡出土磨石類は輝石安山岩が非常に多く他を圧倒しているが、これと同じようなデータとなったものは地点１であった。しかし、地点１は採取数合計が少ないことからわかるように、磨石に適した円礫自体を探すことが困難であり、また平均重量が重いことから小さい円礫が少ないことがわかる。平均重量は遺跡出土石器の２倍以上である。石材のバリエーションも乏しい。採取地点の様子や重量などから、この場所では磨石等の石材を入手していないと考える。一方で集石遺構の礫は入手可能である。

地点２を見ると多孔質玄武岩（VBa）が圧倒していることが遺跡出土磨石類と異なる。また、地点１よりは円礫は多いが、やはりサイズが大きく平均重量は重くなっている。この地点では多少磨石類の石材は入手できるものの、やはり地点１と同様に集石遺構に使用される礫の供給地であったと考える。地点３は平均重量も３地点のうちでもっとも軽く、また安山岩系・玄武岩系の溶岩質の石材を主とし、且つデイサイト（Da）や粗粒砂岩（CSS）が含まれていたことなど石材のバリエーションも豊富である。これらの点から磨石等の石材入手地として最も有望であると考える。また先述したが石皿に使用できる大きい円礫も採取できる。これと対照的に、角礫は探さなければ採取できず、集落からあえて離れたこの場所から集石遺構に用いる礫を運んだと考えるのは難しい。ただし、地点３の石材割合を見ると、輝石安山岩が特に多いわけではなく、多孔質玄武岩と拮抗している。本遺跡から出土した石材割合と大きく異なる。磨石・敲石としては輝石安山岩が好まれ、採取地において選択されてい

第56表　磨石等石材個数・割合

石　材	個　数	割合(%)
An (py)	163	58.6
VBa	38	13.7
Ba	32	11.5
VAn	27	9.7
CSS	5	1.8
Da	3	1.1
FG	2	0.7
MSS	2	0.7
FSS	1	0.4
FAn	1	0.4
Di	1	0.4
Rhy	1	0.4
Ap	1	0.4
An (Ho)	1	0.4
合計	278	100
完形品重量平均　404ｇ		

第57表　集石遺構石材別個数・割合

石　材	個　数	割合(%)
An (py)	156	39.9
VBa	88	22.5
Ba	96	24.6
VAn	41	10.5
LT	2	0.5
Tu	2	0.5
不明	6	1.5
合計	391	100

第58表　磨石採集実験地点別石材個数・割合

	地点1	地点2	地点3
石　材	個数(%)	個数(%)	個　数
An (py)	10(47.6)	10(26.3)	17(29.3)
VBa	3(14.3)	21(55.3)	20(34.5)
Ba	6(28.6)	4(10.5)	6(10.3)
VAn	2(9.5)	2(5.3)	11(19.0)
CSS	0(0.0)	0(0.0)	1(1.7)
Da	0(0.0)	1(2.6)	3(5.2)
合計	21	38	58
平均重量	980	670	588

る様子がわかる。

以上３地点の様子から集石遺構など、礫の形状が特段要求されない礫は本遺跡南側の沢（地点１）もしくは北側の谷津川（地点２）で採取され、磨石・敲石・石皿に用いる礫は谷津川で採取されることもあったであろうが、その多くが黄瀬川（地点３）において採取されたと考える。また磨石類の石材採取においては輝石安山岩を主体的に選択していたことが推定された(6)。

② 黒曜石

本遺跡における黒曜石は神津島恩馳島群を主とし、信州系や伊豆、箱根などの在地系をわずかに含むという構成となっている。早期以降の分析対象392点の内、神津島恩馳島群361点（92%）、天城・箱根系７点（1.7%）、信州系６点（1.5%）となっている。しかし、石鏃のところで触れたが信州系黒曜石は集落と時期を異にする可能性があるので、早期末葉の集落に限って言えばほとんど全てが神津島恩馳島群であることになる。神津島産黒曜石が組成の主体となる状況は縄文時代では草創期後半以来の流れであると考えられており（池谷2003）、本遺跡もその中に位置付けることが出来よう。

ここで時期的にわずかながら本遺跡より新しいが箱根西麓に立地する早期末葉の集落である乾草峠遺跡の黒曜石の出土状況についてみたい（鈴木2005）。分析対象313点中、神津島恩馳島群235点（75%）、天城・箱根系32点（10%）、諏訪星ヶ台群23点（７%）、和田峠・蓼科６点（２%）となっており、神津島産が大勢を占めながらも信州系と天城・箱根系が各10%に迫るというように様子が異なる。乾草峠遺跡は本遺跡に比べて相対的に近いという立地から天城・箱根系黒曜石が多いのは理解できるが、信州系の割合が本遺跡と異なる理由が不明である。

付近の早期末葉の集落遺跡で黒曜石の多量な分析を行っている遺跡が少ないために、その傾向を理解することは難しい。乾草峠遺跡の石器組成は石鏃が多く、それに次いで磨石・敲石が多いことなど本遺跡に類似しており、生業の違いといったような集落の性格の違いは見えてこない。

信州系黒曜石の増減を読み解く鍵は本遺跡からは見えてはこない。集落ごとに信州系黒曜石を持つ集団との関わりの度合いが異なるということが予想されるのみである。愛鷹山・箱根西麓周辺の集落は神津島黒曜石を主体とするという大枠では同じであるのかもしれないが、個別の集落同士の関わりについては非常に複雑な様相が予想される。

③ ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルスについて

本遺跡で出土する石器石材では円礫石器を除くと黒曜石の次に多いのがガラス質黒色安山岩である。ガラス質黒色安山岩は箱根山麓が付近では産地として挙げられる。しかし、同じ箱根山麓とはいえ採取地により差があることが知られている（前嶋・森嶋2004）。草創期の項でも触れたが、箱根山麓東側の岩海岸や米神海岸で採取できる石質に似たものが草創期のガラス質黒色安山岩に見受けられた。縄文時代早期に該当している遺物を観察したところ、同様に非常に緻密で石器石材として質のよいものが見受けられる反面、粗い気泡が入り、縞状の介在物が多く見られる質の異なるものがある。例えば遺物番号15673（第120図２）の削器は非常に緻密で良質であり、自然面に赤褐色の酸化した部分が多く残っていることなどから岩海岸等の産地が推定される。一方、4756（第128図２）の石核、7987（第141図７）の打製石斧などは大きな気泡が入ること、縞が入り互層状になっていることから箱根西麓の、本遺跡に比較的近い深良川流域で採取されるものに非常に似るという(7)。肉眼観察であるため確実なことは言えないが、ガラス質黒色安山岩は比較的遠方から求めているものと近在で採取するものとがあるようである。傾向としては削器には質の良い物が、石核の一部や打製石斧にあまり質の良くないものが使用されており、材質による使い分けがあった可能性はある。

ホルンフェルスは円礫以外の石器石材では3番目に多い。削器に3点見られる以外は石核や打製石斧など比較的大型の石器に多い。風化による影響を受けやすいことから、小さいものは残りにくいという可能性がある。近在でホルンフェルスの産地として知られるのは富士川流域と富士川により形成された河口三角州の海浜、沼津市千本浜などである。本遺跡から南西方向にあるこれら産地から採取され搬入されたものと思われる。

以上①から③まで、石材ごとに産地等について述べたが、黒曜石の広範な流通は多く知られるところであるが在地の石材といわれるものにも東西広範囲にわたって移動してきているものが本遺跡に存在することがわかる。

石器石材は縄文時代において重要な資源であったことは述べるまでもない。このような貴重資源が広範囲にわたって流通し、且つ遺跡ごと出現率には差があるにせよ複数の石材が複雑に絡み合って1つの遺跡から出土している様子は、資源流通が活発であった証左である。また、存在時期のずれがある可能性はあるが、早期集落が近接して立地する様子は、現在も活動している狩猟採集民族の領域規模に比べて極めて狭いテリトリーを予想させ、既に報告されているところと合致する（向坂1970、水野正好1969、泉拓良1985、谷口康弘1993）。民族学的な事例を繙けば他のテリトリーに侵入したことにより軋轢が生じるというような事例は多数挙げられようが、同じような狩猟採集民ではありながらも縄文時代は複雑な関係を積極的に持ち合う社会であったと考えるほうが自然だろう(8)。本遺跡の報告が更なる研究の深化に役立てれば幸いである(9)。（野田）

《注釈》

(1) 未製品認定は各報告書作成者の視点によるところが大きい。しかし、報告書ごとに貫かれている報告者の視点であるので、遺跡ごとに未製品の出現率は変化していても、遺跡内の未製品の産地別出現率について変化はないと考えるので、傾向として捉えることはできると考える。

(2) 実験者自身が整形を目的として磨っているために、実際の製粉作業よりも効率よく凹むはずであろう。しかし、結果からは研磨ではほとんど凹まない、ということになる。

(3) 中期以降になると男性の着装例が増加する（春成1983）。

(4) 周辺の集落同士の関係円滑化や緊張の緩和のため、装飾品が取り結ぶ複雑な交易関係が存在することは民族学的には広く知られるところである。古典的であるが、ニューギニアのトロブリアント諸島で行われている「クラ」交易は首飾りと腕輪を贈りあうことにより周囲との関係を維持している（マリノフスキー1967）。また北米カナダのブリティッシュ・コロンビア州のアメリカ先住民クワキウトルによる「ポトラッチ」も現代日本人的な感覚では理解しがたいが関係円滑化のために行われる贈与であり、同様の狩猟採集であった縄文時代においても複雑な贈与関係が存在したことは十分考えられよう。小杉康は前期諸磯式土器段階では有孔鍔付き木の葉文浅鉢形土器が特殊な器物として交換・複製され、儀式等で使用することで集団間の結束や関係維持に機能した可能性を論じている（小杉2005）。このような交換、交易関係の行動原理が明らかになれば縄文時代社会の理解がさらに深まるものと考える。

(5) 下ノ大窪遺跡については報告書執筆中であり、データ等は調査担当者から提供された大まかなものである。そのため正確な数値ではなく、あくまで傾向として捉えていただきたい。報告書は近年刊行予定。

(6) 石材入手先の実験に関しては、森嶋富士夫にご協力いただいた。森嶋は本遺跡の磨石類の石材入手先として、黄瀬川（地点3）の可能性を認めつつも、本遺跡出土の磨石類の中に流紋岩、角閃石安山岩、アプライトなど、黄瀬川で見られない石材が混在することを指摘し、磨石類の石材入手地点として、当時の富士川またはその転石が採取できる千本浜（沼津市）である可能性を指摘している。

(7) 石材の観察は森嶋富士夫による。

(8) 北米先住民の事例では、集落ごとの領域が存在する一方で、その領域内に複数の異なる集団が入り漁労採集活動を行うことを容認する社会もあった（T.クローバー1970）。領域という概念も地域や時期によりかなり複雑な様相を呈しているようである。

(9) 領域と集落の関係については、時期が異なるが池谷信之が愛鷹山縄文中期の集落の石器組成と遺構から小規模集落と中規模集落の関係と領域について検討されている（池谷1994）。早期におけるこのような研究の深化に本報告書が一助となればと願っている。

《参考文献》

網野善彦・大塚初重・森　浩一監修1998『シンポジウム日本の考古学２　縄文時代の考古学』学生社

安中市教育委員会編　1998『中野谷松原遺跡』

池谷信之1994「愛鷹・箱根山麓の縄文中期集落の石器保有」『向坂鋼二先生還暦記念論集　地域と考古学』

池谷信之2001『葛原沢第Ⅳ遺跡（ａ・ｂ区）発掘調査報告書１　一縄文時代草創期・縄文時代一』沼津市文化財センター　沼津市教育委員会

池谷信之2003「潜水と採掘、あるいは海を渡る黒曜石と山を越える黒曜石一環中部高地における縄文時代神津島黒曜石と信州系黒曜石の盛衰、その予察として一」黒曜石文化研究第２号

井上隆・栗木崇1999『北ノ入Ａ遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

岩崎しのぶ1998『下原遺跡Ⅲ』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

植田文雄1998a「無縁石皿考」『列島の考古学　渡辺誠先生還暦記念論集』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会

植田文雄1998b「縄文時代における食料獲得活動の諸相一石皿の分布からみた発展段階の認識と復元への展望一」古代文化50

遠藤匡俊1997『アイヌと狩猟採集社会一集団の流動性に関する地理学的研究一』大明堂

小川正夫・栗木崇1998『桧林Ａ遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

小野千賀子1995『下原遺跡Ⅰ』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

桐山秀穂2004「縄文・弥生時代における石製製粉具の研究一中国・四国・近畿地方を中心として一」『平成14年度～平成15年度科学研究費補助金（若手研究（Ｂ））研究成果報告書』（研究課題番号14710278）

小杉　康2003「生業としての交易活動」考古学研究50-2

小杉　康2005『縄文のマツリと暮らし　先史日本を復元する－３』岩波書店

酒井龍一1990『セトルメントアーケオロジー』考古学ライブラリー58　ニュー・サイエンス社

笹原千賀子1997『八田原遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

鈴木敏中・伊藤恒彦・前嶋秀張1999『初音ヶ原遺跡』三島市教育委員会

鈴木敏中2002「中林山遺跡」鈴木敏中・芦川忠利・佐々木知子『三島市埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅶ』三島市教育委員会

鈴木敏中2005「乾草峠遺跡」鈴木敏中・芦川忠利『三島市埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』三島市教育委員会

瀬川裕市郎1986「縄文時代の愛鷹山麓」『沼津市博物館紀要』10

大工原豊2005「黒曜石流通の多様性と研究視点」考古学ジャーナル　525

大工原豊2002「黒曜石の流通をめぐる一前期の北関東・中部地域一」縄文社会論（上）同成社

高尾好之1998『拓南東遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会

谷口康弘1984「打越式土器の再検討」『東京考古』２　東京考古談話会

谷口康弘1993「縄文集落の領域」『季刊考古学』第44号

谷口康弘2005『環状集落と縄文社会構造』学生社

樋泉岳二2003「貝塚から見た生業活動と縄文社会一動物資源利用から縄文後期下総台地の地域社会を探る」『縄文

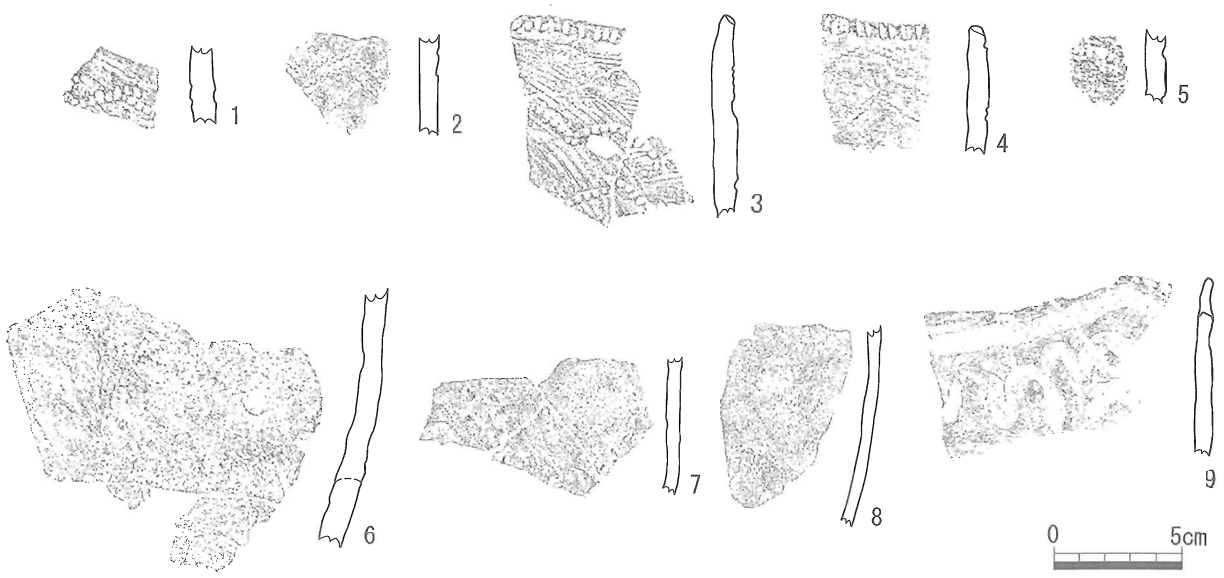
社会を探る』大学合同考古学シンポジウム実行委員会　学生社
西口陽一1983「耳飾からみた性別」『季刊考古学』第５号
西田正規1989『縄文の生態史観』UP考古学選書13　東京大学出版会
春成秀爾1982「縄文社会論」『縄文文化の研究』８　雄山閣
春成秀爾1983「装身の歴史　採取の時代」『季刊考古学』第５号
前嶋秀張1998『上ノ池遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
前嶋秀張・森嶋富士夫2005「ガラス質黒色安山岩の入手先を明らかにする」財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『研究紀要』11号
松本直子2005『縄文のムラと社会　先史日本を復元する－２』岩波書店
水野正好1969「縄文時代集落復原への基礎的操作」『古代文化』21
向坂鋼二1970「原始時代郷土の生活圏」『郷土史研究講座　１』朝倉書店
安田喜憲1980『環境考古学事始』NHKブックス365　日本放送出版協会
安田喜憲1993「列島の自然環境」『岩波講座　日本通史　第１巻日本列島と人類社会』岩波書店
山本直人2002『縄文時代の植物採集活動ー野生根茎類食料化の民族考古学的研究』溪水社
横山秀昭1996『加茂ノ洞Ｂ遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
渡辺　仁1980「屋内生活空間の聖・俗（男・女）２分制」『ライトコロ川口遺跡』東京大学文学部考古学研究室・常呂研究室編　東京大学文学部
渡辺　誠1975『縄文時代の植物食』雄山閣出版
マリノフスキー1967「西大西洋の遠洋航海者」『世界の名著』59
ブライアン・フェイガン2005『古代文明と気候大変動　人類の運命を変えた二万年史』河出書房新社
Ｔ.クローバー1970『イシ　北米最後の野生インディアン』岩波文庫

詳細は「附編　分析」に譲るが、放射性炭素年代測定を行った炭化物が付着していた土器を一括して掲載する。

第59表　放射性炭素年代測定土器一覧

資料番号	遺物番号	測定年代(yrBP)	資料番号	遺物番号	測定年代(yrBP)
1	8361	6350±40	6	7679	6560±40
2	8158	6450±40	7	2879他	6700±40
3	7250	6460±40	8	7936	6430±40
4	2312	6520±40	9	5206他	6520±40
5	4495	6450±40			

１～６は第Ⅲ群Ａ類の打越式土器である。７・８は早期末葉の東海系土器の無文胴部である。７は器壁が東海系無文土器の標準的なものよりもやや厚い。石山式のより早い段階から入海Ⅱ式に遡る可能性も否定できない（小崎　晋氏の御教唆による）。９は石山式である。これらの土器の観察表は、「第５章２節１　土器」に付した観察表の末尾に掲載している。



第169図　放射性炭素年代測定実施土器

発掘調査から報告書出版までに、下記の方々及び団体にご助言およびご協力を賜った。心より感謝申し上げる。（五十音順　敬称略）
小崎　晋、坂井田端土郎、笹原千賀子、渋谷昌彦、下島健弘、鈴木敏中、瀬川裕市郎、戸田哲也、裾野市教育委員会

分　　析

分析１

佛ヶ尾遺跡（第二東名№147地点）黒曜石産地分析

独立行政法人沼津工業高等専門学校　望月明彦

産地推定法

得られた蛍光Ｘ線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標　　Sum＝Rb＋Sr＋Y＋Zrとする。

Rb分率＝Rb/Sum

Sr分率＝Sr/Sum

Zr分率＝Zr/Sum

Mn*100/Fe

log (Fe/K)

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

①　判別図法（判別図のシート参照）

用いる指標：図１　横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe

図２　横軸：Sr分率、縦軸：log（Fe/K）

特　　長：簡単な計算であり、誰にでも作成可能

視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法：遺跡出土試料を蛍光Ｘ線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

②　判別分析（推定結果表参照）

用いる指標：算出された指標全て

特　　長：各産地との類似度を距離で算出

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→　未知の産地の判別はできない。

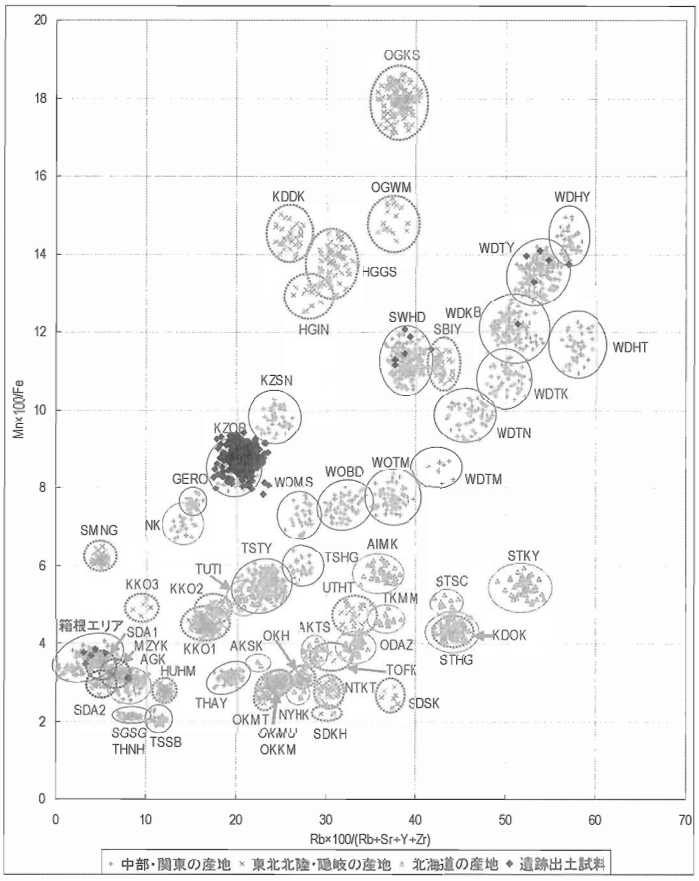
推定方法：遺判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

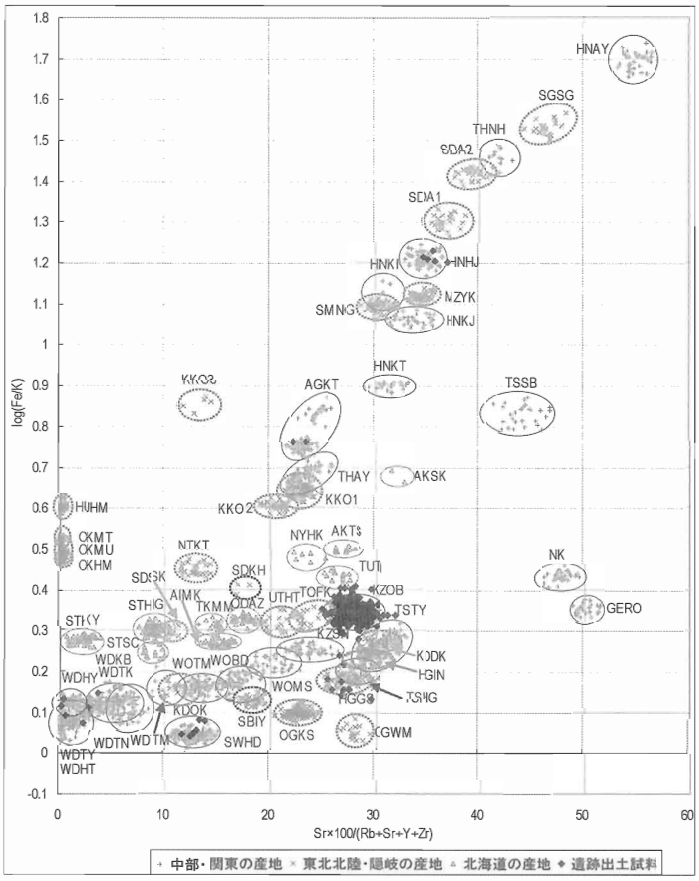
この産地は試料と二次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。


Mn×100/Fe
Rb×100/(Rb+Sr+Y+Zr)
OGKS
KDDK
OGWM
WDHY
WDTY
HGGS
HGIN
SWHD
WDKB
SBIY
WDHT
KZSN
WDTK
KZOB
WDTN
GERO
WOMS
WOBD
WOTM
WDTM
NK
SMNG
TSTY
AIMK
TSHG
STKY
TUTI
KKO3
KKO2
UTHT
STSC
TKMM
箱根エリア
SDA1
AKTS
KDOK
MZYK
KKO1
AKSK
OKH
ODAZ
STHG
AGK
HUHM
TOFK
NTKT
SDSK
SDA2
THAY
NYHK
OKMT
SDKH
SGSG
OKMU
THNH
TSSB
OKKM
中部・関東の産地
東北北陸・隠岐の産地
北海道の産地
遺跡出土試料


log(Fe/K)
Sr×100/(Rb+Sr+Y+Zr)
HNAY
SGSG
THNH
SDA2
SDA1
HNKI
HNKJ
NZYK
SMNG
HNKJ
HNKT
KKO3
AGKT
TSSB
THAY
AKSK
KKO2
KKO1
HUHM
OKMT
OKMU
OKHM
NTKT
NYHK
AKTS
NK
SDSK
SDKH
TUTI
AIMK
KZOB
UTHT
TOFK
GERO
STHG
TKMM
ODAZ
TSTY
STKY
KZSN
STSC
KDDK
WDKB
WOTM
WOBD
HGIN
WDHY
WDTK
WOMS
HGGS
TSHG
KDOK
SBIY
OGKS
OGWM
WDTN
WDTM
SWHD
WDTY
WDHT
中部・関東の産地
東北北陸・隠岐の産地
北海道の産地
遺跡出土試料

産地原石判別群（SEIKOSEA-2110L蛍光X線分析装置による）

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地（分析数）
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30)、朝日町下田代沢(18)、檜引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大網川(5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)
長野	16	和田（WDA）	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、美蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			美蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田（WOI）	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)
			黒岩横群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩横(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎(40)、長浜(5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、片浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
その他			N K 群		NK		中ッ原1G、5G（遺跡試料）、原石産地は未発見

佐々木繁喜氏提供試料（まだ地図には入れていない）

都道府県	エリア	判別群	記号	原石採取地（分析数）
青森	小泊	折腰内群	KDOK	
岩手	北上川	北上折居1群	KKO1	水沢市折居(36)、花巻市日形田ノ沢(36)、雫石小赤沢(22)
		北上折居2群	KKO2	水沢市折居(23)、花巻市日形田ノ沢(8)、雫石小赤沢(2)
		北上折居3群	KKO3	水沢市折居(5)
宮城	宮崎	湯ノ倉群	MZYK	宮崎町湯ノ倉(54)
	色麻	根岸群	SMNG	色麻町根岸(48)
	仙台	秋保1群	SDA1	仙台市秋保土蔵(17)
		秋保2群	SDA2	仙台市秋保土蔵(35)
	塩竈	塩竈群	SGSG	塩竈市塩竈漁港(22)

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6570	L147-1	510	天城柏峠群
MOK4-6571	L147-2	584	諏訪星ヶ台群
MOK4-6572	L147-3	11819	測定不可
MOK4-6573	L147-4	11824	神津島恩馳島群
MOK4-6574	L147-5	11828	推定不可
MOK4-6575	L147-6	11851	神津島恩馳島群
MOK4-6576	L147-7	11852	神津島恩馳島群
MOK4-6577	L147-8	13030	神津島恩馳島群
MOK4-6578	L147-9	13031	神津島恩馳島群
MOK4-6579	L147-10	13043	神津島恩馳島群
MOK4-6580	L147-11	13047	神津島恩馳島群
MOK4-6581	L147-12	13060	測定不可
MOK4-6582	L147-13	13092	測定不可
MOK4-6583	L147-14	13100	推定不可
MOK4-6584	L147-15	13732	神津島恩馳島群
MOK4-6585	L147-16	13733	神津島恩馳島群
MOK4-6586	L147-17	13734	測定不可
MOK4-6587	L147-18	13735	推定不可
MOK4-6588	L147-19	13736	神津島恩馳島群
MOK4-6589	L147-20	13743	測定不可
MOK4-6590	L147-21	13760	神津島恩馳島群
MOK4-6591	L147-22	13761	神津島恩馳島群
MOK4-6592	L147-23	13769	神津島恩馳島群
MOK4-6593	L147-24	13770	神津島恩馳島群
MOK4-6594	L147-25	13773	神津島恩馳島群
MOK4-6595	L147-26	13778	神津島恩馳島群
MOK4-6596	L147-27	13779	測定不可
MOK4-6597	L147-28	13781	推定不可
MOK4-6598	L147-29	13782	測定不可
MOK4-6599	L147-30	13784	神津島恩馳島群
MOK4-6600	L147-31	13789	神津島恩馳島群
MOK4-6601	L147-32	13795	神津島恩馳島群
MOK4-6602	L147-33	13796	神津島恩馳島群
MOK4-6603	L147-34	13797	測定不可
MOK4-6604	L147-35	13818	神津島恩馳島群
MOK4-6605	L147-36	13831	神津島恩馳島群
MOK4-6606	L147-37	13836	神津島恩馳島群
MOK4-6607	L147-38	13837	神津島恩馳島群
MOK4-6608	L147-39	13838	測定不可
MOK4-6609	L147-40	13841	神津島恩馳島群
MOK4-6610	L147-41	13843	神津島恩馳島群
MOK4-6611	L147-42	13846	神津島恩馳島群
MOK4-6612	L147-43	13851	神津島恩馳島群
MOK4-6613	L147-44	13856	神津島恩馳島群
MOK4-6614	L147-45	13860	神津島恩馳島群
MOK4-6615	L147-46	13877	測定不可
MOK4-6616	L147-47	13882	測定不可
MOK4-6617	L147-48	13893	神津島恩馳島群
MOK4-6618	L147-49	13897	測定不可
MOK4-6619	L147-50	14107	測定不可
MOK4-6620	L147-51	14108	神津島恩馳島群
MOK4-6621	L147-52	14122	神津島恩馳島群
MOK4-6622	L147-53	14145	推定不可
MOK4-6623	L147-54	14148	神津島恩馳島群
MOK4-6624	L147-55	14153	神津島恩馳島群
MOK4-6625	L147-56	14154	神津島恩馳島群
MOK4-6626	L147-57	14161	天城柏峠群
MOK4-6627	L147-58	14178	神津島恩馳島群
MOK4-6628	L147-59	14180	神津島恩馳島群
MOK4-6629	L147-60	14186	神津島恩馳島群
MOK4-6630	L147-61	14194	神津島恩馳島群
MOK4-6631	L147-62	14275	神津島恩馳島群
MOK4-6632	L147-63	14277	神津島恩馳島群
MOK4-6633	L147-64	14279	測定不可

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図判別群	判別分析 第1候補産地 判別群	距離	確率	第2候補産地 判別群	距離	確率
AGKT	AGKT	2.96	1	HNKT	133.78	0
SWHD	SWHD	11.98	1	SBIY	60.3	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	13.13	1	KZSN	41.26	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	14.31	1	KZSN	34.61	0
KZOB	KZOB	11.09	1	KZSN	35.39	0
KZOB	KZOB	10.38	1	KZSN	35	0
KZOB	KZOB	5.81	1	KZSN	51.29	0
KZOB	KZOB	9.01	1	KZSN	38.51	0
KZOB	KZOB	11.94	1	KZSN	63.57	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	10.7	1	KZSN	33.14	0
KZOB	KZOB	6.15	1	KZSN	28.52	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	4.33	1	KZSN	55.62	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	12.51	1	KZSN	54.98	0
KZOB	KZOB	5.67	1	KZSN	36.25	0
KZOB	KZOB	22.7	1	KZSN	45.42	0
KZOB	KZOB	9.47	1	KZSN	58.39	0
KZOB	KZOB	8.44	1	KZSN	83.55	0
KZOB	KZOB	7.24	1	KZSN	44.07	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.25	1	KZSN	39.64	0
KZOB	KZOB	11.28	0.9998	KZSN	25.92	0.0002
KZOB	KZOB	12.49	0.9985	KZSN	23.2	0.0015
KZOB	KZOB	3.8	1	KZSN	44.44	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	7.88	1	KZSN	63.75	0
KZOB	KZOB	3.86	1	KZSN	49.7	0
KZOB	KZOB	9.03	0.9998	KZSN	23.53	0.0002
KZOB	KZOB	11.39	1	KZSN	48.83	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.07	1	KZSN	44.34	0
KZOB	KZOB	4.73	1	KZSN	30.79	0
KZOB	KZOB	0.65	1	KZSN	62.04	0
KZOB	KZOB	8.44	1	KZSN	59.02	0
KZOB	KZOB	8.6	1	KZSN	30.1	0
KZOB	KZOB	21.79	1	KZSN	81.96	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	20.33	1	KZSN	69.88	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	9.67	1	KZSN	36.59	0
KZOB	KZOB	11.53	1	KZSN	61.69	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	9.9	1	KZSN	39.65	0
KZOB	KZOB	9.67	1	KZSN	32.95	0
KZOB	KZOB	6.16	1	KZSN	36.99	0
AGKT	AGKT	0.65	1	HNKT	113.01	0
KZOB	KZOB	6.03	1	KZSN	32.41	0
KZOB	KZOB	8.83	1	KZSN	37.76	0
KZOB	KZOB	3.11	1	KZSN	33.63	0
KZOB	KZOB	7.34	0.9999	KZSN	23.51	0.0001
KZOB	KZOB	6.68	1	KZSN	29.36	0
KZOB	KZOB	11.6	1	KZSN	33.66	0
測定不可	測定不可			測定不可		

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6634	L147-65	14355	神津島恩馳島群
MOK4-6635	L147-66	14394	神津島恩馳島群
MOK4-6636	L147-67	14396	神津島恩馳島群
MOK4-6637	L147-68	14397	測定不可
MOK4-6638	L147-69	14401	神津島恩馳島群
MOK4-6639	L147-70	14412	測定不可
MOK4-6640	L147-71	14414	神津島恩馳島群
MOK4-6641	L147-72	14416	神津島恩馳島群
MOK4-6642	L147-73	14418	神津島恩馳島群
MOK4-6643	L147-74	14419	神津島恩馳島群
MOK4-6644	L147-75	14432	推定不可
MOK4-6645	L147-76	14494	測定不可
MOK4-6646	L147-77	14498	神津島恩馳島群
MOK4-6647	L147-78	14510	測定不可
MOK4-6648	L147-79	14608	神津島恩馳島群
MOK4-6649	L147-80	14610	測定不可
MOK4-6650	L147-81	14615	推定不可
MOK4-6651	L147-82	14616	神津島恩馳島群
MOK4-6652	L147-83	14618	神津島恩馳島群
MOK4-6653	L147-84	14621	測定不可
MOK4-6654	L147-85	14622	神津島恩馳島群
MOK4-6655	L147-86	14627	神津島恩馳島群
MOK4-6656	L147-87	14652	神津島恩馳島群
MOK4-6657	L147-88	14680	神津島恩馳島群
MOK4-6658	L147-89	14681	測定不可
MOK4-6659	L147-90	14682	測定不可
MOK4-6660	L147-91	14707	神津島恩馳島群
MOK4-6661	L147-92	14709	測定不可
MOK4-6662	L147-93	14710	神津島恩馳島群
MOK4-6663	L147-94	14713	神津島恩馳島群
MOK4-6664	L147-95	14720	神津島恩馳島群
MOK4-6665	L147-96	14862	推定不可
MOK4-6666	L147-97	14865	神津島恩馳島群
MOK4-6667	L147-98	14866	神津島恩馳島群
MOK4-6668	L147-99	14867	神津島恩馳島群
MOK4-6669	L147-100	14868	測定不可
MOK4-6670	L147-101	14869	神津島恩馳島群
MOK4-6671	L147-102	14871	神津島恩馳島群
MOK4-6672	L147-103	14992	神津島恩馳島群
MOK4-6673	L147-104	14993	測定不可
MOK4-6674	L147-105	14994	神津島恩馳島群
MOK4-6675	L147-106	14995	神津島恩馳島群
MOK4-6676	L147-107	14997	神津島恩馳島群
MOK4-6677	L147-108	14998	神津島恩馳島群
MOK4-6678	L147-109	15003	神津島恩馳島群
MOK4-6679	L147-110	15004	神津島恩馳島群
MOK4-6680	L147-111	15005	神津島恩馳島群
MOK4-6681	L147-112	15032	測定不可
MOK4-6682	L147-113	15111	神津島恩馳島群
MOK4-6683	L147-114	15112	神津島恩馳島群
MOK4-6684	L147-115	15113	神津島恩馳島群
MOK4-6685	L147-116	15125	測定不可
MOK4-6686	L147-117	15134	神津島恩馳島群
MOK4-6687	L147-118	15137	神津島恩馳島群
MOK4-6688	L147-119	15138	神津島恩馳島群
MOK4-6689	L147-120	15140	神津島恩馳島群
MOK4-6690	L147-121	15141	神津島恩馳島群
MOK4-6691	L147-122	15142	神津島恩馳島群
MOK4-6692	L147-123	15147	箱根畑宿群
MOK4-6693	L147-124	15148	神津島恩馳島群
MOK4-6694	L147-125	15149	推定不可
MOK4-6695	L147-126	15150	神津島恩馳島群
MOK4-6696	L147-127	15152	測定不可
MOK4-6697	L147-128	15478	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析 第1候補産地 判別群	距離	確率	第2候補産地 判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	7.4	1	KZSN	32.81	0
KZOB	KZOB	4.52	1	KZSN	32.19	0
KZOB	KZOB	9.78	1	KZSN	34.68	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.16	1	KZSN	40.35	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	7.3	1	KZSN	31.27	0
KZOB	KZOB	4.45	1	KZSN	33.69	0
KZOB	KZOB	15.78	1	KZSN	67.37	0
KZOB	KZOB	14.29	1	KZSN	48.39	0
推定不可	推定不可			推定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	18.39	1	KZSN	62.48	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.25	1	KZSN	49.32	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	8.64	1	KZSN	43.89	0
KZOB	KZOB	1.6	1	KZSN	43.67	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	7.97	1	KZSN	36.45	0
KZOB	KZOB	3.58	1	KZSN	34	0
KZOB	KZOB	8.96	1	KZSN	59.89	0
KZOB	KZOB	7.15	1	KZSN	66.33	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	3.49	1	KZSN	69.46	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.31	1	KZSN	43.62	0
KZOB	KZOB	5.16	1	KZSN	48.03	0
KZOB	KZOB	19.82	1	KZSN	55.85	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	10.14	1	KZSN	52.94	0
KZOB	KZOB	10.25	1	KZSN	52.25	0
KZOB	KZOB	15.19	1	KZSN	67.54	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	11.26	1	KZSN	60.28	0
KZOB	KZOB	17.64	1	KZSN	50.28	0
KZOB	KZOB	4.85	1	KZSN	48.08	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	2.23	1	KZSN	43.66	0
KZOB	KZOB	7.32	1	KZSN	51.06	0
KZOB	KZOB	12.9	1	KZSN	52.78	0
KZOB	KZOB	6.19	1	KZSN	43.11	0
KZOB	KZOB	3.64	1	KZSN	45.84	0
KZOB	KZOB	7.01	1	KZSN	28.38	0
KZOB	KZOB	6.85	0.9999	KZSN	23.68	0.0001
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	2.57	1	KZSN	35.86	0
KZOB	KZOB	21.88	1	KZSN	83.79	0
KZOB	KZOB	4.31	1	KZSN	49.9	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	15.54	1	KZSN	74.47	0
KZOB	KZOB	10.54	1	KZSN	37.11	0
KZOB	KZOB	3.01	1	KZSN	57.59	0
KZOB	KZOB	13.17	1	KZSN	47.82	0
KZOB	KZOB	13.43	1	KZSN	75.08	0
KZOB	KZOB	7.37	1	KZSN	41.66	0
HNHJ	HNHJ	10.15	1	HNKI	112.21	0
KZOB	KZOB	6.31	1	KZSN	33.96	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	14.31	1	KZSN	60.2	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.64	1	KZSN	35.88	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6698	L147-129	15479	神津島恩馳島群
MOK4-6699	L147-130	15480	神津島恩馳島群
MOK4-6700	L147-131	15541	推定不可
MOK4-6701	L147-132	15547	神津島恩馳島群
MOK4-6702	L147-133	15570	神津島恩馳島群
MOK4-6703	L147-134	15571	推定不可
MOK4-6704	L147-135	15572	神津島恩馳島群
MOK4-6705	L147-136	15590	神津島恩馳島群
MOK4-6706	L147-137	15593	神津島恩馳島群
MOK4-6707	L147-138	15596	諏訪星ヶ台群
MOK4-6708	L147-139	15605	神津島恩馳島群
MOK4-6709	L147-140	15606	神津島恩馳島群
MOK4-6710	L147-141	15614	神津島恩馳島群
MOK4-6711	L147-142	15619	神津島恩馳島群
MOK4-6712	L147-143	15665	神津島恩馳島群
MOK4-6713	L147-144	15666	神津島恩馳島群
MOK4-6714	L147-145	15668	神津島恩馳島群
MOK4-6715	L147-146	15674	測定不可
MOK4-6716	L147-147	15677	欠番
MOK4-6717	L147-148	15678	神津島恩馳島群
MOK4-6718	L147-149	15679	神津島恩馳島群
MOK4-6719	L147-150	15685	神津島恩馳島群
MOK4-6720	L147-151	15700	神津島恩馳島群
MOK4-6721	L147-152	15711	神津島恩馳島群
MOK4-6722	L147-153	15712	神津島恩馳島群
MOK4-6723	L147-154	15740	神津島恩馳島群
MOK4-6724	L147-155	15741	神津島恩馳島群
MOK4-6725	L147-156	15742	神津島恩馳島群
MOK4-6726	L147-157	15744	神津島恩馳島群
MOK4-6727	L147-158	15746	神津島恩馳島群
MOK4-6728	L147-159	15851	測定不可
MOK4-6729	L147-160	15854	神津島恩馳島群
MOK4-6730	L147-161	15855	神津島恩馳島群
MOK4-6731	L147-162	15856	神津島恩馳島群
MOK4-6732	L147-163	15857	神津島恩馳島群
MOK4-6733	L147-164	15858	測定不可
MOK4-6734	L147-165	15859	測定不可
MOK4-6735	L147-166	15866	神津島恩馳島群
MOK4-6736	L147-167	15867	測定不可
MOK4-6737	L147-168	15868	神津島恩馳島群
MOK4-6738	L147-169	16179	神津島恩馳島群
MOK4-6739	L147-170	16180	測定不可
MOK4-6740	L147-171	16182	神津島恩馳島群
MOK4-6741	L147-172	16448	推定不可
MOK4-6742	L147-173	16487	神津島恩馳島群
MOK4-6743	L147-174	16488	神津島恩馳島群
MOK4-6744	L147-175	16489	神津島恩馳島群
MOK4-6745	L147-176	16490	神津島恩馳島群
MOK4-6746	L147-177	16500	神津島恩馳島群
MOK4-6747	L147-178	16530	測定不可
MOK4-6748	L147-179	16532	神津島恩馳島群
MOK4-6749	L147-180	16649	神津島恩馳島群
MOK4-6750	L147-181	16650	測定不可
MOK4-6751	L147-182	16651	神津島恩馳島群
MOK4-6752	L147-183	16654	諏訪星ヶ台群
MOK4-6753	L147-184	16657	神津島恩馳島群
MOK4-6754	L147-185	16754	測定不可
MOK4-6755	L147-186	16803	神津島恩馳島群
MOK4-6756	L147-187	16808	神津島恩馳島群
MOK4-6757	L147-188	16809	神津島恩馳島群
MOK4-6758	L147-189	16810	神津島恩馳島群
MOK4-6759	L147-190	16839	神津島恩馳島群
MOK4-6760	L147-191	16842	神津島恩馳島群
MOK4-6761	L147-192	16843	箱根畑宿群

判別図判別群	判別分析 第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	14.31	0.9995	KZSN	27.29	0.0005
KZOB	KZOB	9.78	1	KZSN	46.5	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	6.47	1	KZSN	54.9	0
KZOB	KZOB	2.02	1	KZSN	49.04	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.32	1	KZSN	68.49	0
KZOB	KZOB	21.36	1	KZSN	59.85	0
KZOB	KZOB	9.16	1	KZSN	49.89	0
SWHD	SWHD	2.64	1	SBIY	71.59	0
KZOB	KZOB	9.2	1	KZSN	59.9	0
KZOB	KZOB	3.5	1	KZSN	61.53	0
KZOB	KZOB	9.16	1	KZSN	33.21	0
KZOB	KZOB	17.53	1	KZSN	38.6	0
KZOB	KZOB	14.19	1	KZSN	45.04	0
KZOB	KZOB	7.11	1	KZSN	59.78	0
KZOB	KZOB	2.79	1	KZSN	35.84	0
測定不可	測定不可			測定不可		
欠番	欠番			欠番		
KZOB	KZOB	10.92	1	KZSN	46.22	0
KZOB	KZOB	4.19	1	KZSN	44.29	0
KZOB	KZOB	8.84	1	KZSN	28.93	0
KZOB	KZOB	2.96	1	KZSN	78.65	0
KZOB	KZOB	3.96	1	KZSN	52.42	0
KZOB	KZOB	2.58	1	KZSN	55.45	0
KZOB	KZOB	1.18	1	KZSN	45.28	0
KZOB	KZOB	6.89	1	KZSN	46.48	0
KZOB	KZOB	5.95	1	KZSN	42	0
KZOB	KZOB	1.54	1	KZSN	53.28	0
KZOB	KZOB	13.02	1	KZSN	66.68	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.72	1	KZSN	27.39	0
KZOB	KZOB	4.36	1	KZSN	30.81	0
KZOB	KZOB	9.64	1	KZSN	42.68	0
KZOB	KZOB	10.99	1	KZSN	33.65	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	3.95	1	KZSN	43.67	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	2	1	KZSN	55.96	0
KZOB	KZOB	4.9	1	KZSN	57.44	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	12.76	1	KZSN	33.54	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	11.67	0.9978	KZSN	21.57	0.0022
KZOB	KZOB	6.81	1	KZSN	35.94	0
KZOB	KZOB	14.23	0.9999	KZSN	29.86	0.0001
KZOB	KZOB	10.73	1	KZSN	53.51	0
KZOB	KZOB	6.75	1	KZSN	50.43	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	11.86	1	KZSN	67.09	0
KZOB	KZOB	10.97	0.9999	KZSN	28.02	0.0001
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	14.61	1	KZSN	73.49	0
SWHD	SWHD	2.45	1	SBIY	88.45	0
KZOB	KZOB	3.43	1	KZSN	39.94	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	1.62	1	KZSN	48.48	0
KZOB	KZOB	5.85	1	KZSN	58.72	0
KZOB	KZOB	4	1	KZSN	35.49	0
KZOB	KZOB	1.01	1	KZSN	46.92	0
KZOB	KZOB	1.32	1	KZSN	57.25	0
KZOB	KZOB	7.22	1	KZSN	33.61	0
HNHJ	HNHJ	7.45	1	HNKI	111.79	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6762	L147-193	16847	神津島恩馳島群
MOK4-6763	L147-194	16851	神津島恩馳島群
MOK4-6764	L147-195	16858	神津島恩馳島群
MOK4-6765	L147-196	16889	測定不可
MOK4-6766	L147-197	16906	神津島恩馳島群
MOK4-6767	L147-198	16907	神津島恩馳島群
MOK4-6768	L147-199	16915	神津島恩馳島群
MOK4-6769	L147-200	16918	神津島恩馳島群
MOK4-6770	L147-201	16919	神津島恩馳島群
MOK4-6771	L147-202	16930	神津島恩馳島群
MOK4-6772	L147-203	16931	神津島恩馳島群
MOK4-6773	L147-204	16941	神津島恩馳島群
MOK4-6774	L147-205	16942	神津島恩馳島群
MOK4-6775	L147-206	16943	神津島恩馳島群
MOK4-6776	L147-207	16947	神津島恩馳島群
MOK4-6777	L147-208	16948	神津島恩馳島群
MOK4-6778	L147-209	16949	神津島恩馳島群
MOK4-6779	L147-210	16950	神津島恩馳島群
MOK4-6780	L147-211	16951	推定不可
MOK4-6781	L147-212	16954	神津島恩馳島群
MOK4-6782	L147-213	16955	神津島恩馳島群
MOK4-6783	L147-214	16956	神津島恩馳島群
MOK4-6784	L147-215	16957	神津島恩馳島群
MOK4-6785	L147-216	16958	神津島恩馳島群
MOK4-6786	L147-217	16959	神津島恩馳島群
MOK4-6787	L147-218	16961	神津島恩馳島群
MOK4-6788	L147-219	16962	神津島恩馳島群
MOK4-6789	L147-220	16965	神津島恩馳島群
MOK4-6790	L147-221	16969	神津島恩馳島群
MOK4-6791	L147-222	16972	神津島恩馳島群
MOK4-6792	L147-223	16978	神津島恩馳島群
MOK4-6793	L147-224	16979	測定不可
MOK4-6794	L147-225	16980	神津島恩馳島群
MOK4-6795	L147-226	17014	神津島恩馳島群
MOK4-6796	L147-227	17016	神津島恩馳島群
MOK4-6797	L147-228	17017	測定不可
MOK4-6798	L147-229	17028	測定不可
MOK4-6799	L147-230	17046	神津島恩馳島群
MOK4-6800	L147-231	17048	神津島恩馳島群
MOK4-6801	L147-232	17050	神津島恩馳島群
MOK4-6802	L147-233	17055	測定不可
MOK4-6803	L147-234	17056	神津島恩馳島群
MOK4-6804	L147-235	17057	測定不可
MOK4-6805	L147-236	17058	神津島恩馳島群
MOK4-6806	L147-237	17059	神津島恩馳島群
MOK4-6807	L147-238	17060	神津島恩馳島群
MOK4-6808	L147-239	17063	神津島恩馳島群
MOK4-6809	L147-240	17064	神津島恩馳島群
MOK4-6810	L147-241	17066	神津島恩馳島群
MOK4-6811	L147-242	17069	神津島恩馳島群
MOK4-6812	L147-243	17101	神津島恩馳島群
MOK4-6813	L147-244	17103	測定不可
MOK4-6814	L147-245	17104	神津島恩馳島群
MOK4-6815	L147-246	17114	神津島恩馳島群
MOK4-6816	L147-247	17115	測定不可
MOK4-6817	L147-248	17127	神津島恩馳島群
MOK4-6818	L147-249	17128	推定不可
MOK4-6819	L147-250	17129	神津島恩馳島群
MOK4-6820	L147-251	17138	測定不可
MOK4-6821	L147-252	17139	神津島恩馳島群
MOK4-6822	L147-253	17140	神津島恩馳島群
MOK4-6823	L147-254	17142	神津島恩馳島群
MOK4-6824	L147-255	17143	神津島恩馳島群
MOK4-6825	L147-256	17145	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析 第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	10.02	1	KZSN	50.03	0
KZOB	KZOB	5.63	1	KZSN	56.3	0
KZOB	KZOB	7.04	1	KZSN	83.94	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.09	1	KZSN	71.65	0
KZOB	KZOB	1.43	1	KZSN	41.58	0
KZOB	KZOB	12.16	1	KZSN	34.67	0
KZOB	KZOB	7.13	1	KZSN	43.33	0
KZOB	KZOB	8.53	1	KZSN	38.58	0
KZOB	KZOB	3.44	1	KZSN	45.91	0
KZOB	KZOB	17.52	0.9957	KZSN	26.12	0.0043
KZOB	KZOB	4.97	1	KZSN	38.27	0
KZOB	KZOB	9.1	1	KZSN	33.1	0
KZOB	KZOB	6.76	1	KZSN	62.58	0
KZOB	KZOB	9.87	1	KZSN	30.63	0
KZOB	KZOB	2.17	1	KZSN	49.09	0
KZOB	KZOB	4.06	1	KZSN	46.4	0
KZOB	KZOB	4.33	1	KZSN	45.46	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	13.52	1	KZSN	34.51	0
KZOB	KZOB	8.11	0.9999	KZSN	23.65	0.0001
KZOB	KZOB	13.64	1	KZSN	67.34	0
KZOB	KZOB	4.23	1	KZSN	60.82	0
KZOB	KZOB	10.65	1	KZSN	32.58	0
KZOB	KZOB	6.1	1	KZSN	26.65	0
KZOB	KZOB	13.41	1	KZSN	32.89	0
KZOB	KZOB	4.89	1	KZSN	56.36	0
KZOB	KZOB	14.86	0.9967	KZSN	23.96	0.0033
KZOB	KZOB	6.51	1	KZSN	35.88	0
KZOB	KZOB	6.31	1	KZSN	25.31	0
KZOB	KZOB	1.98	1	KZSN	53.44	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	3.79	1	KZSN	37.88	0
KZOB	KZOB	7.88	1	KZSN	26.06	0
KZOB	KZOB	7.42	1	KZSN	36.46	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	15.64	1	KZSN	67.05	0
KZOB	KZOB	8.89	1	KZSN	72.33	0
KZOB	KZOB	15.31	0.9999	KZSN	31.88	0.0001
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	4.58	1	KZSN	33.11	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.38	1	KZSN	32.91	0
KZOB	KZOB	8.09	1	KZSN	35.46	0
KZOB	KZOB	6.64	1	KZSN	32.41	0
KZOB	KZOB	17.11	1	KZSN	34.87	0
KZOB	KZOB	6.57	1	KZSN	41.76	0
KZOB	KZOB	6.28	1	KZSN	49.89	0
KZOB	KZOB	4.33	1	KZSN	49.33	0
KZOB	KZOB	19.81	0.9978	KZSN	29.79	0.0022
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	1.48	1	KZSN	56.86	0
KZOB	KZOB	7.86	1	KZSN	54.68	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.06	1	KZSN	42.88	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	4.08	1	KZSN	80.02	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	19.17	0.9996	KZSN	32.66	0.0004
KZOB	KZOB	6.99	1	KZSN	28.56	0
KZOB	KZOB	10.91	1	KZSN	49.77	0
KZOB	KZOB	22.16	1	KZSN	75.86	0
KZOB	KZOB	7.89	1	KZSN	67.35	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6826	L147-257	17146	神津島恩馳島群
MOK4-6827	L147-258	17147	神津島恩馳島群
MOK4-6828	L147-259	17152	神津島恩馳島群
MOK4-6829	L147-260	17153	神津島恩馳島群
MOK4-6830	L147-261	17154	神津島恩馳島群
MOK4-6831	L147-262	17155	神津島恩馳島群
MOK4-6832	L147-263	17174	測定不可
MOK4-6833	L147-264	17175	測定不可
MOK4-6834	L147-265	17183	神津島恩馳島群
MOK4-6835	L147-266	17186	神津島恩馳島群
MOK4-6836	L147-267	17191	神津島恩馳島群
MOK4-6837	L147-268	17193	神津島恩馳島群
MOK4-6838	L147-269	17194	測定不可
MOK4-6839	L147-270	17196	神津島恩馳島群
MOK4-6840	L147-271	17197	神津島恩馳島群
MOK4-6841	L147-272	17206	神津島恩馳島群
MOK4-6842	L147-273	17217	神津島恩馳島群
MOK4-6843	L147-274	17220	推定不可
MOK4-6844	L147-275	17222	神津島恩馳島群
MOK4-6845	L147-276	17228	神津島恩馳島群
MOK4-6846	L147-277	17232	神津島恩馳島群
MOK4-6847	L147-278	17233	神津島恩馳島群
MOK4-6848	L147-279	17236	神津島恩馳島群
MOK4-6849	L147-280	17237	推定不可
MOK4-6850	L147-281	17238	神津島恩馳島群
MOK4-6851	L147-282	17247	神津島恩馳島群
MOK4-6852	L147-283	17248	神津島恩馳島群
MOK4-6853	L147-284	17249	神津島恩馳島群
MOK4-6854	L147-285	17250	神津島恩馳島群
MOK4-6855	L147-286	17251	神津島恩馳島群
MOK4-6856	L147-287	17255	測定不可
MOK4-6857	L147-288	17259	神津島恩馳島群
MOK4-6858	L147-289	17268	神津島恩馳島群
MOK4-6859	L147-290	17269	神津島恩馳島群
MOK4-6860	L147-291	17270	神津島恩馳島群
MOK4-6861	L147-292	17271	神津島恩馳島群
MOK4-6862	L147-293	17278	神津島恩馳島群
MOK4-6863	L147-294	17282	神津島恩馳島群
MOK4-6864	L147-295	17286	神津島恩馳島群
MOK4-6865	L147-296	17292	神津島恩馳島群
MOK4-6866	L147-297	17300	神津島恩馳島群
MOK4-6867	L147-298	17304	神津島恩馳島群
MOK4-6868	L147-299	17305	神津島恩馳島群
MOK4-6869	L147-300	17307	神津島恩馳島群
MOK4-6870	L147-301	17308	神津島恩馳島群
MOK4-6871	L147-302	17309	神津島恩馳島群
MOK4-6872	L147-303	17310	神津島恩馳島群
MOK4-6873	L147-304	17312	神津島恩馳島群
MOK4-6874	L147-305	17313	神津島恩馳島群
MOK4-6875	L147-306	17314	神津島恩馳島群
MOK4-6876	L147-307	17316	神津島恩馳島群
MOK4-6877	L147-308	17320	神津島恩馳島群
MOK4-6878	L147-309	17321	神津島恩馳島群
MOK4-6879	L147-310	17341	神津島恩馳島群
MOK4-6880	L147-311	17752	神津島恩馳島群
MOK4-6881	L147-312	17754	神津島恩馳島群
MOK4-6882	L147-313	17755	神津島恩馳島群
MOK4-6883	L147-314	17756	神津島恩馳島群
MOK4-6884	L147-315	17758	測定不可
MOK4-6885	L147-316	17759	測定不可
MOK4-6886	L147-317	17760	神津島恩馳島群
MOK4-6887	L147-318	17761	神津島恩馳島群
MOK4-6888	L147-319	17762	神津島恩馳島群
MOK4-6889	L147-320	17763	測定不可

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	1.25	1	KZSN	40.94	0
KZOB	KZOB	20.68	0.9923	KZSN	28.11	0.0077
KZOB	KZOB	9.41	1	KZSN	65.74	0
KZOB	KZOB	16.02	1	KZSN	51.9	0
KZOB	KZOB	6.78	1	KZSN	39.3	0
KZOB	KZOB	5.55	1	KZSN	33.21	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	17.92	0.9661	KZSN	22.32	0.0339
KZOB	KZOB	5.5	1	KZSN	27.12	0
KZOB	KZOB	23.39	1	KZSN	53.06	0
KZOB	KZOB	4.48	1	KZSN	43.4	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.96	1	KZSN	55.5	0
KZOB	KZOB	11.3	1	KZSN	59.91	0
KZOB	KZOB	10.75	1	KZSN	30.53	0
KZOB	KZOB	2.77	1	KZSN	64.46	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	7.41	1	KZSN	37.72	0
KZOB	KZOB	5.39	1	KZSN	60.35	0
KZOB	KZOB	12.09	0.999	KZSN	23.69	0.001
KZOB	KZOB	3.37	1	KZSN	47.24	0
KZOB	KZOB	10.34	1	KZSN	33.03	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	0.96	1	KZSN	43.98	0
KZOB	KZOB	7.72	1	KZSN	27.66	0
KZOB	KZOB	8.41	1	KZSN	27.16	0
KZOB	KZOB	2.66	1	KZSN	41.94	0
KZOB	KZOB	4.38	1	KZSN	48.05	0
KZOB	KZOB	2.99	1	KZSN	32.78	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	16.9	1	KZSN	93.99	0
KZOB	KZOB	14.11	1	KZSN	69.91	0
KZOB	KZOB	4.41	1	KZSN	28.37	0
KZOB	KZOB	3.75	1	KZSN	65.71	0
KZOB	KZOB	8.27	0.9999	KZSN	23.63	0.0001
KZOB	KZOB	9.2	0.9993	KZSN	21.3	0.0007
KZOB	KZOB	5.18	1	KZSN	73.32	0
KZOB	KZOB	8.09	1	KZSN	30.97	0
KZOB	KZOB	3.58	1	KZSN	56.62	0
KZOB	KZOB	1.91	1	KZSN	46.47	0
KZOB	KZOB	9.25	1	KZSN	50.98	0
KZOB	KZOB	4.16	1	KZSN	32.64	0
KZOB	KZOB	16.95	1	KZSN	101.33	0
KZOB	KZOB	2.14	1	KZSN	37.63	0
KZOB	KZOB	1.82	1	KZSN	60.65	0
KZOB	KZOB	4.75	1	KZSN	64.46	0
KZOB	KZOB	2.75	1	KZSN	54.91	0
KZOB	KZOB	19.4	1	KZSN	57.92	0
KZOB	KZOB	10.3	1	KZSN	68.42	0
KZOB	KZOB	6.77	1	KZSN	38.07	0
KZOB	KZOB	6.57	1	KZSN	49.95	0
KZOB	KZOB	19.95	0.9942	KZSN	27.93	0.0058
KZOB	KZOB	13.08	1	KZSN	51.6	0
KZOB	KZOB	8.47	1	KZSN	58.48	0
KZOB	KZOB	13.11	1	KZSN	48.11	0
KZOB	KZOB	8.28	1	KZSN	72.4	0
KZOB	KZOB	20.48	1	KZSN	66.23	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	27.28	1	KZSN	94.01	0
KZOB	KZOB	8.58	0.999	KZSN	20.13	0.001
KZOB	KZOB	16.57	1	KZSN	58.28	0
測定不可	測定不可			測定不可		

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6890	L147-321	17764	神津島恩馳島群
MOK4-6891	L147-322	17765	神津島恩馳島群
MOK4-6892	L147-323	17766	測定不可
MOK4-6893	L147-324	17767	測定不可
MOK4-6894	L147-325	17768	神津島恩馳島群
MOK4-6895	L147-326	17769	測定不可
MOK4-6896	L147-327	17770	測定不可
MOK4-6897	L147-328	17771	神津島恩馳島群
MOK4-6898	L147-329	17772	神津島恩馳島群
MOK4-6899	L147-330	17773	測定不可
MOK4-6900	L147-331	17774	神津島恩馳島群
MOK4-6901	L147-332	17775	神津島恩馳島群
MOK4-6902	L147-333	17776	神津島恩馳島群
MOK4-6903	L147-334	17777	測定不可
MOK4-6904	L147-335	17778	測定不可
MOK4-6905	L147-336	17779	神津島恩馳島群
MOK4-6906	L147-337	17780	推定不可
MOK4-6907	L147-338	17781	神津島恩馳島群
MOK4-6908	L147-339	17782	神津島恩馳島群
MOK4-6909	L147-340	17783	神津島恩馳島群
MOK4-6910	L147-341	17784	神津島恩馳島群
MOK4-6911	L147-342	17785	神津島恩馳島群
MOK4-6912	L147-343	17786	神津島恩馳島群
MOK4-6913	L147-344	17789	神津島恩馳島群
MOK4-6914	L147-345	17791	神津島恩馳島群
MOK4-6915	L147-346	17795	神津島恩馳島群
MOK4-6916	L147-347	17797	神津島恩馳島群
MOK4-6917	L147-348	17798	測定不可
MOK4-6918	L147-349	17799	測定不可
MOK4-6919	L147-350	17800	神津島恩馳島群
MOK4-6920	L147-351	17807	神津島恩馳島群
MOK4-6921	L147-352	17809	測定不可
MOK4-6922	L147-353	17810	神津島恩馳島群
MOK4-6923	L147-354	17814	神津島恩馳島群
MOK4-6924	L147-355	17841	神津島恩馳島群
MOK4-6925	L147-356	17842	推定不可
MOK4-6926	L147-357	17843	測定不可
MOK4-6927	L147-358	17844	測定不可
MOK4-6928	L147-359	17845	神津島恩馳島群
MOK4-6929	L147-360	17846	測定不可
MOK4-6930	L147-361	17847	神津島恩馳島群
MOK4-6931	L147-362	17848	神津島恩馳島群
MOK4-6932	L147-363	17849	神津島恩馳島群
MOK4-6933	L147-364	17850	神津島恩馳島群
MOK4-6934	L147-365	17852	神津島恩馳島群
MOK4-6935	L147-366	17853	神津島恩馳島群
MOK4-6936	L147-367	17854	神津島恩馳島群
MOK4-6937	L147-368	17855	測定不可
MOK4-6938	L147-369	17862	推定不可
MOK4-6939	L147-370	17863	神津島恩馳島群
MOK4-6940	L147-371	17864	測定不可
MOK4-6941	L147-372	17865	神津島恩馳島群
MOK4-6942	L147-373	17866	神津島恩馳島群
MOK4-6943	L147-374	17867	測定不可
MOK4-6944	L147-375	17870	測定不可
MOK4-6945	L147-376	17871	測定不可
MOK4-6946	L147-377	17872	測定不可
MOK4-6947	L147-378	17885	神津島恩馳島群
MOK4-6948	L147-379	17886	神津島恩馳島群
MOK4-6949	L147-380	17887	推定不可
MOK4-6950	L147-381	17888	神津島恩馳島群
MOK4-6951	L147-382	17889	神津島恩馳島群
MOK4-6952	L147-383	17890	神津島恩馳島群
MOK4-6953	L147-384	17891	神津島恩馳島群

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	12.69	1	KZSN	53.69	0
KZOB	KZOB	7.66	1	KZSN	47.38	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	10.42	0.999	KZSN	21.88	0.001
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	4.52	1	KZSN	51.99	0
KZOB	KZOB	10.82	0.9997	KZSN	25.03	0.0003
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	12.3	1	KZSN	61.74	0
KZOB	KZOB	3.9	1	KZSN	55.49	0
KZOB	KZOB	7.73	1	KZSN	35.4	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	7.04	1	KZSN	54.57	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	8.33	1	KZSN	41.33	0
KZOB	KZOB	11.63	1	KZSN	62.07	0
KZOB	KZOB	20.32	1	KZSN	81.7	0
KZOB	KZOB	12.39	0.9984	KZSN	22.93	0.0016
KZOB	KZOB	14.85	1	KZSN	56.63	0
KZOB	KZOB	14.22	1	KZSN	36.24	0
KZOB	KZOB	12.99	1	KZSN	51.52	0
KZOB	KZOB	17.65	0.9997	KZSN	31.58	0.0003
KZOB	KZOB	6.79	1	KZSN	56.02	0
KZOB	KZOB	15.27	1	KZSN	40.87	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	10.44	0.9999	KZSN	26.67	0.0001
KZOB	KZOB	8.61	1	KZSN	58.17	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	13.39	1	KZSN	31	0
KZOB	KZOB	11.21	1	KZSN	31.88	0
KZOB	KZOB	7.7	1	KZSN	55.95	0
推定不可	推定不可			推定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	4.6	1	KZSN	43.08	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	17.9	0.9991	KZSN	29.73	0.0009
KZOB	KZOB	14.67	1	KZSN	43.77	0
KZOB	KZOB	2.79	1	KZSN	52.68	0
KZOB	KZOB	11.1	1	KZSN	60.42	0
KZOB	KZOB	14.38	1	KZSN	51.92	0
KZOB	KZOB	10.94	1	KZSN	68.69	0
KZOB	KZOB	12.3	1	KZSN	41.35	0
測定不可	測定不可			測定不可		
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	11.45	1	KZSN	29.71	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.52	1	KZSN	56.55	0
KZOB	KZOB	15.33	1	KZSN	33.49	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	13.78	1	KZSN	56.66	0
KZOB	KZOB	15.25	0.9842	KZSN	21.21	0.0158
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	5.03	1	KZSN	37.18	0
KZOB	KZOB	3.83	1	KZSN	30.21	0
KZOB	KZOB	7.16	1	KZSN	37.07	0
KZOB	KZOB	16.9	1	KZSN	49.66	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
MOK4-6954	L147-385	17892	神津島恩馳島群
MOK4-6955	L147-386	17893	神津島恩馳島群
MOK4-6956	L147-387	17894	測定不可
MOK4-6957	L147-388	17901	神津島恩馳島群
MOK4-6958	L147-389	17906	神津島恩馳島群
MOK4-6959	L147-390	17912	神津島恩馳島群
MOK4-6960	L147-391	17964	諏訪星ヶ台群
MOK4-6961	L147-392	17965	神津島恩馳島群
MOK4-6962	L147-393	17967	和田美雪ライト群
MOK4-6963	L147-394	17995	神津島恩馳島群
MOK4-6964	L147-395	18003	測定不可
MOK4-6965	L147-396	18006	箱根畑宿群
MOK4-6966	L147-397	18007	神津島恩馳島群
MOK4-6967	L147-398	18013	諏訪星ヶ台群
MOK4-6968	L147-399	18025	神津島恩馳島群
MOK4-6969	L147-400	18032	和田小深沢群
MOK4-6970	L147-401	18033	和田鷹山群
MOK4-6971	L147-402	18533	箱根畑宿群
MOK4-6972	L147-403	18652	神津島恩馳島群
MOK4-6973	L147-404	18781	神津島恩馳島群
MOK4-6974	L147-405	18782	諏訪星ヶ台群
MOK4-6975	L147-406	18822	神津島恩馳島群
MOK4-6976	L147-407	19158	測定不可
MOK4-6977	L147-408	19159	箱根畑宿群
MOK4-6978	L147-409	19162	和田鷹山群
MOK4-6979	L147-410	19177	和田鷹山群
MOK4-6980	L147-411	19184	和田鷹山群
MOK4-6981	L147-412	19356	神津島恩馳島群
MOK4-6982	L147-413	19358	神津島恩馳島群
MOK4-6983	L147-414	19359	測定不可
MOK4-6984	L147-415	19360	測定不可
MOK4-6985	L147-416	19362	神津島恩馳島群
MOK4-6986	L147-417	19363	測定不可
MOK4-6987	L147-418	19364	測定不可
MOK4-6988	L147-419	19365	神津島恩馳島群
MOK4-6989	L147-420	19368	測定不可
MOK4-6990	L147-421	19372	測定不可
MOK4-6991	L147-422	19374	測定不可
MOK4-6992	L147-423	19375	測定不可
MOK4-6993	L147-424	19376	測定不可
MOK4-6994	L147-425	19378	測定不可
M04-11615	L147-426	367	神津島恩馳島群
M04-11616	L147-427	771	神津島恩馳島群
M04-11617	L147-428	1370	神津島恩馳島群
M04-11618	L147-429	1374	神津島恩馳島群
M04-11619	L147-430	1458	神津島恩馳島群
M04-11620	L147-431	1583	神津島恩馳島群
M04-11621	L147-432	1621	推定不可
M04-11622	L147-433	1755	神津島恩馳島群
M04-11623	L147-434	2115	神津島恩馳島群
M04-11624	L147-435	3129	神津島恩馳島群
M04-11625	L147-436	6953	神津島恩馳島群
M04-11626	L147-437	7032	神津島恩馳島群
M04-11627	L147-438	7341	神津島恩馳島群
M04-11628	L147-439	7515	神津島恩馳島群
M04-11629	L147-440	7520	神津島恩馳島群
M04-11630	L147-441	7559	神津島恩馳島群
M04-11631	L147-442	7709	神津島恩馳島群
M04-11632	L147-443	8659	神津島恩馳島群
M04-11633	L147-444	10122	神津島恩馳島群
M04-11634	L147-445	10410	神津島恩馳島群
M04-11635	L147-446	10853	神津島恩馳島群
M04-11636	L147-447	11229	神津島恩馳島群
M04-11637	L147-448	11247	神津島恩馳島群

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	9.18	1	KZSN	63.68	0
KZOB	KZOB	29.21	1	KZSN	49.11	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.39	1	KZSN	40.89	0
KZOB	KZOB	6.08	1	KZSN	50.21	0
KZOB	KZOB	10.29	0.9999	KZSN	26.19	0.0001
SWHD	SWHD	2.62	1	SBIY	99.79	0
KZOB	KZOB	13.48	1	KZSN	53.7	0
WDHY	WDHY	5.89	0.8936	WDTY	12.58	0.1064
KZOB	KZOB	14	1	KZSN	58.48	0
測定不可	測定不可			測定不可		
HNHJ	HNHJ	7.58	1	HNKI	167.33	0
KZOB	KZOB	1.95	1	KZSN	41.22	0
SWHD	SWHD	19.35	1	SBIY	142.88	0
KZOB	KZOB	10.14	1	KZSN	55.88	0
WDKB	WDKB	0.86	1	WDTK	30.82	0
WDTY	WDTY	3.23	1	WDKB	26.15	0
HNHJ	HNHJ	0.26	1	HNKI	106.5	0
KZOB	KZOB	11.78	1	KZSN	33.65	0
KZOB	KZOB	5.47	1	KZSN	27.89	0
SWHD	SWHD	10.73	1	SBIY	105.8	0
KZOB	KZOB	16.78	1	KZSN	53.5	0
測定不可	測定不可			測定不可		
HNHJ	HNHJ	1.46	1	HNKI	121.69	0
WDTY	WDTY	6.05	0.9906	WDHY	12.94	0.0094
WDTY	WDTY	5.76	0.9997	WDHY	19.42	0.0003
WDTY	WDTY	5.75	1	WDHY	25.51	0
KZOB	KZOB	3.37	1	KZSN	44.05	0
KZOB	KZOB	4.16	1	KZSN	46.33	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	7.94	1	KZSN	38.16	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	6.36	1	KZSN	28.05	0
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	15.64	1	KZSN	53.2	0
KZOB	KZOB	8.94	1	KZSN	69.45	0
KZOB	KZOB	0.18	1	KZSN	53.38	0
KZOB	KZOB	6.8	1	KZSN	76.05	0
KZOB	KZOB	6.56	1	KZSN	56.74	0
KZOB	KZOB	13.47	1	KZSN	91.19	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.78	1	KZSN	43.4	0
KZOB	KZOB	8.57	1	KZSN	44.76	0
KZOB	KZOB	5.23	1	KZSN	46.9	0
KZOB	KZOB	10.77	1	KZSN	69.78	0
KZOB	KZOE	9.24	1	KZSN	45.49	0
KZOB	KZOE	8.22	0.9998	KZSN	22.63	0.0002
KZOB	KZOE	6.82	1	KZSN	36.89	0
KZOB	KZOE	4.64	1	KZSN	52.65	0
KZOB	KZOE	15.04	1	KZSN	97.04	0
KZOB	KZOE	9.76	1	KZSN	39.71	0
KZOB	KZOE	8.61	1	KZSN	37.64	0
KZOB	KZOE	21.2	1	KZSN	69.36	0
KZOB	KZOE	28.93	1	KZSN	78.04	0
KZOB	KZOE	7.79	1	KZSN	30.55	0
KZOB	KZOE	11.46	1	KZSN	32.21	0
KZOB	KZOE	21.18	1	KZSN	94.31	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
M04-11638	L147-449	11928	神津島恩馳島群
M04-11639	L147-450	12301	推定不可
M04-11640	L147-451	12578	神津島恩馳島群
M04-11641	L147-452	12709	推定不可
M04-11642	L147-453	13664	神津島恩馳島群
M04-11643	L147-454	13682	神津島恩馳島群
M04-11644	L147-455	13813	神津島恩馳島群
M04-11645	L147-456	14858	神津島恩馳島群
M04-11646	L147-457	14975	神津島恩馳島群
M04-11647	L147-458	15236	諏訪星ヶ台群
M04-11648	L147-459	15459	神津島恩馳島群
M04-11649	L147-460	15760	神津島恩馳島群
M04-11650	L147-461	16010	神津島恩馳島群
M04-11651	L147-462	16484	神津島恩馳島群
M04-11652	L147-463	16711	測定不可
M04-11653	L147-464	18081	神津島恩馳島群
M04-11654	L147-465	18718	神津島恩馳島群
M04-11655	L147-466	67	神津島恩馳島群
M04-11656	L147-467	258	神津島恩馳島群
M04-11657	L147-468	283	神津島恩馳島群
M04-11658	L147-469	309	諏訪星ヶ台群
M04-11659	L147-470	320	天城柏峠群
M04-11660	L147-471	335	神津島恩馳島群
M04-11661	L147-472	352	神津島恩馳島群
M04-11662	L147-473	450	神津島恩馳島群
M04-11663	L147-474	524	神津島恩馳島群
M04-11664	L147-475	646	神津島恩馳島群
M04-11665	L147-476	714	神津島恩馳島群
M04-11666	L147-477	835	神津島恩馳島群
M04-11667	L147-478	861	神津島恩馳島群
M04-11668	L147-479	1210	神津島恩馳島群
M04-11669	L147-480	1239	神津島恩馳島群
M04-11670	L147-481	1394	神津島恩馳島群
M04-11671	L147-482	1434	神津島恩馳島群
M04-11672	L147-483	1461	神津島恩馳島群
M04-11673	L147-484	1494	神津島恩馳島群
M04-11674	L147-485	1615	神津島恩馳島群
M04-11675	L147-486	1929	神津島恩馳島群
M04-11676	L147-487	1974	神津島恩馳島群
M04-11677	L147-488	2244	神津島恩馳島群
M04-11678	L147-489	2338	箱根畑宿群
M04-11679	L147-490	2445	神津島恩馳島群
M04-11680	L147-491	2602	神津島恩馳島群
M04-11681	L147-492	2604	神津島恩馳島群
M04-11682	L147-493	2612	神津島恩馳島群
M04-11683	L147-494	2848	神津島恩馳島群
M04-11684	L147-495	2985	神津島恩馳島群
M04-11685	L147-496	2987	神津島恩馳島群
M04-11686	L147-497	3199	神津島恩馳島群
M04-11687	L147-498	3305	神津島恩馳島群
M04-11688	L147-499	3471	神津島恩馳島群
M04-11689	L147-500	3508	神津島恩馳島群
M04-11690	L147-501	3598	神津島恩馳島群
M04-11691	L147-502	3671	神津島恩馳島群
M04-11692	L147-503	3683	神津島恩馳島群
M04-11693	L147-504	4261	神津島恩馳島群
M04-11694	L147-505	4351	神津島恩馳島群
M04-11695	L147-506	4705	神津島恩馳島群
M04-11696	L147-507	4885	神津島恩馳島群
M04-11697	L147-508	5437	神津島恩馳島群
M04-11698	L147-509	5723	神津島恩馳島群
M04-11699	L147-510	6045	神津島恩馳島群
M04-11700	L147-511	6154	神津島恩馳島群
M04-11701	L147-512	6205	神津島恩馳島群

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	8.79	1	KZSN	35.27	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	1.6	1	KZSN	43.25	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	5.74	1	KZSN	27.98	0
KZOB	KZOB	16.8	0.9991	KZSN	28.56	0.0009
KZOB	KZOB	6.68	0.9999	KZSN	23.06	0.0001
KZOB	KZOB	16.46	1	KZSN	39.48	0
KZOB	KZOB	5.44	1	KZSN	38.83	0
SWHD	SWHD	14.3	1	WDTN	153.45	0
KZOB	KZOB	29.81	1	KZSN	76.53	0
KZOB	KZOB	10.01	1	KZSN	82.28	0
KZOB	KZOB	3.4	1	KZSN	83.01	0
KZOB	KZOB	8.32	1	KZSN	59.84	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	18.64	1	KZSN	66.58	0
KZOB	KZOB	8.27	1	KZSN	58.86	0
KZOB	KZOB	1.2	1	KZSN	51.32	0
KZOB	KZOB	6.47	1	KZSN	59.45	0
KZOB	KZOB	9.44	1	KZSN	49.65	0
SWHD	SWHD	16.36	1	SBIY	85.47	0
AGKT	AGKT	0.86	1	HNKT	114.64	0
KZOB	KZOB	8.37	1	KZSN	55.41	0
KZOB	KZOB	12.28	1	KZSN	59.93	0
KZOB	KZOB	3.59	1	KZSN	40.3	0
KZOB	KZOB	1.61	1	KZSN	57.34	0
KZOB	KZOB	6.29	1	KZSN	35.83	0
KZOB	KZOB	8.86	1	KZSN	39.79	0
KZOB	KZOB	1.87	1	KZSN	42.87	0
KZOB	KZOB	2.8	1	KZSN	55.96	0
KZOB	KZOB	4.76	1	KZSN	45.63	0
KZOB	KZOB	8.94	0.9999	KZSN	24.66	0.0001
KZOB	KZOB	4.36	1	KZSN	45.8	0
KZOB	KZOB	3.75	1	KZSN	50.32	0
KZOB	KZOB	2.38	1	KZSN	40.9	0
KZOB	KZOB	1.45	1	KZSN	52.9	0
KZOB	KZOB	8.12	1	KZSN	52.72	0
KZOB	KZOB	3.06	1	KZSN	42.98	0
KZOB	KZOB	1.49	1	KZSN	66.33	0
KZOB	KZOB	5.06	1	KZSN	52.51	0
HNHJ	HNHJ	6.65	1	HNKI	85.08	0
KZOB	KZOB	5.31	1	KZSN	46.08	0
KZOB	KZOB	5.55	1	KZSN	38.18	0
KZOB	KZOB	17.42	1	KZSN	99.2	0
KZOB	KZOB	7.3	1	KZSN	26.22	0
KZOB	KZOB	8.08	1	KZSN	40.85	0
KZOB	KZOB	9.93	1	KZSN	37.02	0
KZOB	KZOB	11.81	1	KZSN	41.41	0
KZOB	KZOB	7.56	1	KZSN	65.99	0
KZOB	KZOB	3.97	1	KZSN	72.57	0
KZOB	KZOB	4.86	1	KZSN	52.83	0
KZOB	KZOB	8.35	1	KZSN	55.52	0
KZOB	KZOB	3.64	1	KZSN	65.3	0
KZOB	KZOB	4.59	1	KZSN	46.79	0
KZOB	KZOB	5	1	KZSN	43.27	0
KZOB	KZOB	15.4	1	KZSN	83.16	0
KZOB	KZOB	13.28	1	KZSN	107.32	0
KZOB	KZOB	2.61	1	KZSN	62.25	0
KZOB	KZOB	5.52	1	KZSN	44.33	0
KZOB	KZOB	5.16	1	KZSN	46.15	0
KZOB	KZOB	9.54	0.9999	KZSN	25.94	0.0001
KZOB	KZOB	3.31	1	KZSN	55	0
KZOB	KZOB	3.51	1	KZSN	47.57	0
KZOB	KZOB	0.71	1	KZSN	50.32	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
M04-11702	L147-513	6294	神津島恩馳島群
M04-11703	L147-514	6338	神津島恩馳島群
M04-11704	L147-515	6979	神津島恩馳島群
M04-11705	L147-516	7209	神津島恩馳島群
M04-11706	L147-517	7324	推定不可
M04-11707	L147-518	7367	神津島恩馳島群
M04-11708	L147-519	7512	神津島恩馳島群
M04-11709	L147-520	7568	神津島恩馳島群
M04-11710	L147-521	7604	神津島恩馳島群
M04-11711	L147-522	7734	神津島恩馳島群
M04-11712	L147-523	7739	神津島恩馳島群
M04-11713	L147-524	8396	神津島恩馳島群
M04-11714	L147-525	8434	神津島恩馳島群
M04-11715	L147-526	8673	神津島恩馳島群
M04-11716	L147-527	8696	神津島恩馳島群
M04-11717	L147-528	8859	神津島恩馳島群
M04-11718	L147-529	8876	神津島恩馳島群
M04-11719	L147-530	9024	神津島恩馳島群
M04-11720	L147-531	9202	神津島恩馳島群
M04-11721	L147-532	9307	神津島恩馳島群
M04-11722	L147-533	9413	神津島恩馳島群
M04-11723	L147-534	9429	神津島恩馳島群
M04-11724	L147-535	9559	神津島恩馳島群
M04-11725	L147-536	9575	諏訪星ヶ台群
M04-11726	L147-537	9597	神津島恩馳島群
M04-11727	L147-538	9866	測定不可
M04-11728	L147-539	10050	神津島恩馳島群
M04-11729	L147-540	10268	神津島恩馳島群
M04-11730	L147-541	10354	神津島恩馳島群
M04-11731	L147-542	10467	神津島恩馳島群
M04-11732	L147-543	10579	神津島恩馳島群
M04-11733	L147-544	10641	神津島恩馳島群
M04-11734	L147-545	10670	神津島恩馳島群
M04-11735	L147-546	10686	神津島恩馳島群
M04-11736	L147-547	10745	神津島恩馳島群
M04-11737	L147-548	11025	神津島恩馳島群
M04-11738	L147-549	11041	神津島恩馳島群
M04-11739	L147-550	11042	神津島恩馳島群
M04-11740	L147-551	11397	神津島恩馳島群
M04-11741	L147-552	11481	神津島恩馳島群
M04-11742	L147-553	11523	箱根畑宿群
M04-11743	L147-554	11546	神津島恩馳島群
M04-11744	L147-555	11581	推定不可
M04-11745	L147-556	11595	神津島恩馳島群
M04-11746	L147-557	11740	神津島恩馳島群
M04-11747	L147-558	11863	推定不可
M04-11748	L147-559	11970	神津島恩馳島群
M04-11749	L147-560	12067	神津島恩馳島群
M04-11750	L147-561	12147	神津島恩馳島群
M04-11751	L147-562	12270	神津島恩馳島群
M04-11752	L147-563	12452	神津島恩馳島群
M04-11753	L147-564	12750	神津島恩馳島群
M04-11754	L147-565	12848	測定不可
M04-11755	L147-566	12981	神津島恩馳島群
M04-11756	L147-567	13028	神津島恩馳島群
M04-11757	L147-568	13321	神津島恩馳島群
M04-11758	L147-569	13322	神津島恩馳島群
M04-11759	L147-570	13430	神津島恩馳島群
M04-11760	L147-571	13441	箱根畑宿群
M04-11761	L147-572	13447	神津島恩馳島群
M04-11762	L147-573	13474	神津島恩馳島群
M04-11763	L147-574	13492	神津島恩馳島群
M04-11764	L147-575	13589	神津島恩馳島群
M04-11765	L147-576	13640	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	3.57	1	KZSN	33.01	0
KZOB	KZOB	8.06	1	KZSN	26.13	0
KZOB	KZOB	10.54	1	KZSN	35.82	0
KZOB	KZOB	5.64	1	KZSN	59.03	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.93	1	KZSN	60.63	0
KZOB	KZOB	3.12	1	KZSN	59.44	0
KZOB	KZOB	2.58	1	KZSN	40.59	0
KZOB	KZOB	1.76	1	KZSN	42.05	0
KZOB	KZOB	3.25	1	KZSN	42.39	0
KZOB	KZOB	3.83	1	KZSN	41.57	0
KZOB	KZOB	6.38	1	KZSN	34.59	0
KZOB	KZOB	3.89	1	KZSN	30.73	0
KZOB	KZOB	1.44	1	KZSN	51.74	0
KZOB	KZOB	8.25	1	KZSN	29.32	0
KZOB	KZOB	1.6	1	KZSN	56.64	0
KZOB	KZOB	2.21	1	KZSN	46.76	0
KZOB	KZOB	3.8	1	KZSN	43.02	0
KZOB	KZOB	7.7	1	KZSN	46.15	0
KZOB	KZOB	1.36	1	KZSN	66	0
KZOB	KZOB	2.87	1	KZSN	51.78	0
KZOB	KZOB	7.01	1	KZSN	48.38	0
KZOB	KZOB	9.94	1	KZSN	29.6	0
SWHD	SWHD	11.71	1	SBIY	119.24	0
KZOB	KZOB	0.94	1	KZSN	42.28	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	2.18	1	KZSN	56.78	0
KZOB	KZOB	4.8	1	KZSN	38.68	0
KZOB	KZOB	3.99	1	KZSN	46.5	0
KZOB	KZOB	4.15	1	KZSN	30.74	0
KZOB	KZOB	7.57	1	KZSN	53.68	0
KZOB	KZOB	4.06	1	KZSN	48.54	0
KZOB	KZOB	1.79	1	KZSN	62.99	0
KZOB	KZOB	4.66	1	KZSN	34.37	0
KZOB	KZOB	1.99	1	KZSN	44.46	0
KZOB	KZOB	2	1	KZSN	59.77	0
KZOB	KZOB	3.44	1	KZSN	36.17	0
KZOB	KZOB	15.35	1	KZSN	95.8	0
KZOB	KZOB	6.46	1	KZSN	51.42	0
KZOB	KZOB	15.29	0.9988	KZSN	26.41	0.0012
HNHJ	HNHJ	3.62	1	HNKI	96.55	0
KZOB	KZOB	8.81	1	KZSN	52.66	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	11.47	1	KZSN	41.48	0
KZOB	KZOB	4.86	1	KZSN	38.99	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	2.04	1	KZSN	38.01	0
KZOB	KZOB	1.41	1	KZSN	60.56	0
KZOB	KZOB	7.56	0.9999	KZSN	24.76	0.0001
KZOB	KZOB	2.29	1	KZSN	34.25	0
KZOB	KZOB	7.38	1	KZSN	66.11	0
KZOB	KZOB	4.48	1	KZSN	45.67	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	8.58	0.9999	KZSN	25.56	0.0001
KZOB	KZOB	1.42	1	KZSN	55.55	0
KZOB	KZOB	3.06	1	KZSN	70.39	0
KZOB	KZOB	6.02	1	KZSN	30.34	0
KZOB	KZOB	2.96	1	KZSN	39.66	0
HNHJ	HNHJ	11.21	1	HNKI	131.49	0
KZOB	KZOB	2.34	1	KZSN	66.14	0
KZOB	KZOB	9.56	1	KZSN	39.92	0
KZOB	KZOB	10.33	1	KZSN	36.52	0
KZOB	KZOB	3.49	1	KZSN	59.06	0
KZOB	KZOB	10.75	0.9993	KZSN	23.01	0.0007

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
M04-11766	L147-577	13688	神津島恩馳島群
M04-11767	L147-578	13809	神津島恩馳島群
M04-11768	L147-579	14020	神津島恩馳島群
M04-11769	L147-580	14087	神津島恩馳島群
M04-11770	L147-581	14336	神津島恩馳島群
M04-11771	L147-582	14558	神津島恩馳島群
M04-11772	L147-583	14559	推定不可
M04-11773	L147-584	14566	神津島恩馳島群
M04-11774	L147-585	14844	神津島恩馳島群
M04-11775	L147-586	14864	神津島恩馳島群
M04-11776	L147-587	14974	神津島恩馳島群
M04-11777	L147-588	14984	神津島恩馳島群
M04-11778	L147-589	15299	神津島恩馳島群
M04-11779	L147-590	15320	神津島恩馳島群
M04-11780	L147-591	15425	神津島恩馳島群
M04-11781	L147-592	15545	神津島恩馳島群
M04-11782	L147-593	15728	神津島恩馳島群
M04-11783	L147-594	15739	神津島恩馳島群
M04-11784	L147-595	15759	神津島恩馳島群
M04-11785	L147-596	15801	神津島恩馳島群
M04-11786	L147-597	15906	神津島恩馳島群
M04-11787	L147-598	16170	神津島恩馳島群
M04-11788	L147-599	16349	非黒曜石
M04-11789	L147-600	16390	神津島恩馳島群
M04-11790	L147-601	16405	神津島恩馳島群
M04-11791	L147-602	16586	推定不可
M04-11792	L147-603	16799	神津島恩馳島群
M04-11793	L147-604	16908	神津島恩馳島群
M04-11794	L147-605	17682	神津島恩馳島群
M04-11795	L147-606	17824	神津島恩馳島群
M04-11796	L147-607	18661	諏訪星ヶ台群
M04-11797	L147-608	18805	天城柏峠群
M04-11798	L147-609	18811	諏訪星ヶ台群
M04-11799	L147-610	18813	神津島恩馳島群
M04-11800	L147-611	18814	和田芙蓉ライト群
M04-11801	L147-612	18821	天城柏峠群
M04-11802	L147-613	19193	諏訪星ヶ台群
M04-11803	L147-614	19418	神津島恩馳島群
M04-11804	L147-615	19531	推定不可
M04-11805	L147-616	487	神津島恩馳島群
M04-11806	L147-617	1046	神津島恩馳島群
M04-11807	L147-618	1149	神津島恩馳島群
M04-11808	L147-619	1383	神津島恩馳島群
M04-11809	L147-620	1440	神津島恩馳島群
M04-11810	L147-621	1648	神津島恩馳島群
M04-11811	L147-622	1701	神津島恩馳島群
M04-11812	L147-623	1971	神津島恩馳島群
M04-11813	L147-624	2012	神津島恩馳島群
M04-11814	L147-625	2355	神津島恩馳島群
M04-11815	L147-626	2904	神津島恩馳島群
M04-11816	L147-627	2906	神津島恩馳島群
M04-11817	L147-628	3291	神津島恩馳島群
M04-11818	L147-629	3986	神津島恩馳島群
M04-11819	L147-630	4207	神津島恩馳島群
M04-11820	L147-631	4899	神津島恩馳島群
M04-11821	L147-632	5040	神津島恩馳島群
M04-11822	L147-633	5289	神津島恩馳島群
M04-11823	L147-634	5389	神津島恩馳島群
M04-11824	L147-635	5604	神津島恩馳島群
M04-11825	L147-636	5699	神津島恩馳島群
M04-11826	L147-637	5843	神津島恩馳島群
M04-11827	L147-638	6937	神津島恩馳島群
M04-11828	L147-639	7054	神津島恩馳島群
M04-11829	L147-640	7621	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析					
	第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	2.3	1	KZSN	43.97	0
KZOB	KZOB	4.12	1	KZSN	62	0
KZOB	KZOB	9.19	1	KZSN	41.08	0
KZOB	KZOB	17.03	1	KZSN	99.79	0
KZOB	KZOB	9.2	1	KZSN	63.68	0
KZOB	KZOB	7.02	1	KZSN	39.57	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	7.54	1	KZSN	27.55	0
KZOB	KZOB	3.22	1	KZSN	44.46	0
KZOB	KZOB	13.87	1	KZSN	56.78	0
KZOB	KZOB	9.55	1	KZSN	33.57	0
KZOB	KZOB	12	1	KZSN	77.64	0
KZOB	KZOB	0.68	1	KZSN	52.2	0
KZOB	KZOB	1.51	1	KZSN	44.9	0
KZOB	KZOB	10.39	1	KZSN	37.77	0
KZOB	KZOB	3.19	1	KZSN	39.28	0
KZOB	KZOB	13.22	0.9999	KZSN	30.44	0.0001
KZOB	KZOB	16.06	1	KZSN	98.67	0
KZOB	KZOB	3.11	1	KZSN	53.72	0
KZOB	KZOB	8.81	1	KZSN	62.7	0
KZOB	KZOB	6.89	1	KZSN	46.86	0
KZOB	KZOB	2.71	1	KZSN	54.91	0
非黒曜石	非黒曜石			非黒曜石		
KZOB	KZOB	15	1	KZSN	52.29	0
KZOB	KZOB	8.94	1	KZSN	35.06	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	3.87	1	KZSN	70.48	0
KZOB	KZOB	8.04	1	KZSN	62.6	0
KZOB	KZOB	7.19	1	KZSN	31.56	0
KZOB	KZOB	8.05	1	KZSN	78.98	0
SWHD	SWHD	10.35	1	SBIY	67.91	0
AGKT	AGKT	1.93	1	HNKT	87.6	0
SWHD	SWHD	5.13	1	WDTN	101.62	0
KZOB	KZOB	6.42	1	KZSN	38.39	0
WDHY	WDHY	3.25	1	WDTY	34.34	0
AGKT	AGKT	3.62	1	HNKT	132.82	0
SWHD	SWHD	6.77	1	WDTN	77.74	0
KZOB	KZOB	6.37	1	KZSN	60.58	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	1.69	1	KZSN	60.92	0
KZOB	KZOB	12.78	1	KZSN	69.93	0
KZOB	KZOB	13.41	1	KZSN	48.81	0
KZOB	KZOB	2.67	1	KZSN	39.35	0
KZOB	KZOB	6.28	1	KZSN	53.52	0
KZOB	KZOB	1.95	1	KZSN	49.73	0
KZOB	KZOB	1.7	1	KZSN	53.95	0
KZOB	KZOB	2.65	1	KZSN	44.9	0
KZOB	KZOB	5.84	1	KZSN	40.68	0
KZOB	KZOB	4.4	1	KZSN	57	0
KZOB	KZOB	5.3	1	KZSN	78.29	0
KZOB	KZOB	2.14	1	KZSN	49.95	0
KZOB	KZOB	4.88	1	KZSN	63.21	0
KZOB	KZOB	5.68	1	KZSN	50.27	0
KZOB	KZOB	3.72	1	KZSN	33.37	0
KZOB	KZOB	4.2	1	KZSN	73.73	0
KZOB	KZOB	6.69	1	KZSN	36.88	0
KZOB	KZOB	3.2	1	KZSN	58.08	0
KZOB	KZOB	12.56	1	KZSN	52.94	0
KZOB	KZOB	2.73	1	KZSN	58.07	0
KZOB	KZOB	8.78	1	KZSN	26.72	0
KZOB	KZOB	7.23	1	KZSN	44.54	0
KZOB	KZOB	12.41	1	KZSN	36.71	0
KZOB	KZOB	6.89	1	KZSN	24.45	0
KZOB	KZOB	2.03	1	KZSN	55.51	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
M04-11830	L147-641	7623	神津島恩馳島群
M04-11831	L147-642	7970	神津島恩馳島群
M04-11832	L147-643	8459	神津島恩馳島群
M04-11833	L147-644	8460	測定不可
M04-11834	L147-645	8593	神津島恩馳島群
M04-11835	L147-646	8668	推定不可
M04-11836	L147-647	8924	神津島恩馳島群
M04-11837	L147-648	9448	神津島恩馳島群
M04-11838	L147-649	9635	神津島恩馳島群
M04-11839	L147-650	9797	神津島恩馳島群
M04-11840	L147-651	10178	神津島恩馳島群
M04-11841	L147-652	11075	神津島恩馳島群
M04-11842	L147-653	11788	神津島恩馳島群
M04-11843	L147-654	11946	神津島恩馳島群
M04-11844	L147-655	11998	神津島恩馳島群
M04-11845	L147-656	12326	神津島恩馳島群
M04-11846	L147-657	12579	神津島恩馳島群
M04-11847	L147-658	12626	神津島恩馳島群
M04-11848	L147-659	12986	神津島恩馳島群
M04-11849	L147-660	13029	神津島恩馳島群
M04-11850	L147-661	13628	神津島恩馳島群
M04-11851	L147-662	14459	神津島恩馳島群
M04-11852	L147-663	14653	神津島恩馳島群
M04-11853	L147-664	14748	神津島恩馳島群
M04-11854	L147-665	15428	神津島恩馳島群
M04-11855	L147-666	15450	神津島恩馳島群
M04-11856	L147-667	15787	神津島恩馳島群
M04-11857	L147-668	15977	神津島恩馳島群
M04-11858	L147-669	16309	神津島恩馳島群
M04-11859	L147-670	17178	神津島恩馳島群
M04-11860	L147-671	18777	神津島恩馳島群
M04-11861	L147-672	7725	神津島恩馳島群
M04-11862	L147-673	9461	神津島恩馳島群
M04-11863	L147-674	1593	神津島恩馳島群
M04-11864	L147-675	1337	神津島恩馳島群
M04-11865	L147-676	2334	神津島恩馳島群
M04-11866	L147-677	7412	神津島恩馳島群
M04-11867	L147-678	9812	神津島恩馳島群
M04-11868	L147-679	7707	諏訪星ヶ台群
M04-11869	L147-680	16348	神津島恩馳島群
M04-11870	L147-681	1666	神津島恩馳島群
M04-11871	L147-682	7684	神津島恩馳島群
M04-11872	L147-683	13059	神津島恩馳島群
M04-11873	L147-684	13724	推定不可
M04-11874	L147-685	8976	神津島恩馳島群
M04-11875	L147-686	305	神津島恩馳島群
M04-11876	L147-687	333	神津島恩馳島群
M04-11877	L147-688	816	神津島恩馳島群
M04-11878	L147-689	860	神津島恩馳島群
M04-11879	L147-690	1234	推定不可
M04-11880	L147-691	1502	神津島恩馳島群
M04-11881	L147-692	1525	神津島恩馳島群
M04-11882	L147-693	1927	神津島恩馳島群
M04-11883	L147-694	2851	神津島恩馳島群
M04-11884	L147-695	3452	神津島恩馳島群
M04-11885	L147-696	3718	神津島恩馳島群
M04-11886	L147-697	4771	神津島恩馳島群
M04-11887	L147-698	6354	神津島恩馳島群
M04-11888	L147-699	6370	推定不可
M04-11889	L147-700	7433	神津島恩馳島群
M04-11890	L147-701	7883	神津島恩馳島群
M04-11891	L147-702	7950	神津島恩馳島群
M04-11892	L147-703	8587	神津島恩馳島群
M04-11893	L147-704	9205	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析 第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	14.05	1	KZSN	78.11	0
KZOB	KZOB	20.9	1	TSTY	89.5	0
KZOB	KZOB	10.25	1	KZSN	57.37	0
測定不可	測定不可			測定不可		
KZOB	KZOB	5.49	1	KZSN	53.56	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	11.2	1	KZSN	43.13	0
KZOB	KZOB	9.34	1	KZSN	51.67	0
KZOB	KZOB	12.66	1	KZSN	34.74	0
KZOB	KZOB	8.03	1	KZSN	69.77	0
KZOB	KZOB	0.74	1	KZSN	52.15	0
KZOB	KZOB	3.16	1	KZSN	49.53	0
KZOB	KZOB	7.64	1	KZSN	48.44	0
KZOB	KZOB	3.07	1	KZSN	76.34	0
KZOB	KZOB	9.27	1	KZSN	40.8	0
KZOB	KZOB	2.92	1	KZSN	65.53	0
KZOB	KZOB	6.27	1	KZSN	34.51	0
KZOB	KZOB	11.68	1	KZSN	57.94	0
KZOB	KZOB	14.91	0.9838	KZSN	20.82	0.0162
KZOB	KZOB	9.4	1	KZSN	31.09	0
KZOB	KZOB	9.4	1	KZSN	64.18	0
KZOB	KZOB	6.08	1	KZSN	90.14	0
KZOB	KZOB	8.52	1	KZSN	95.01	0
KZOB	KZOB	19.35	1	KZSN	48.57	0
KZOB	KZOB	1.26	1	KZSN	51.63	0
KZOB	KZOB	6.5	1	KZSN	32.08	0
KZOB	KZOB	3.94	1	KZSN	56.43	0
KZOB	KZOB	20.87	1	KZSN	46.58	0
KZOB	KZOB	6.68	1	KZSN	49.27	0
KZOB	KZOB	17.17	1	KZSN	48.56	0
KZOB	KZOB	0.9	1	KZSN	56.77	0
KZOB	KZOB	25.42	1	KZSN	77.27	0
KZOB	KZOB	3.6	1	KZSN	35.59	0
KZOB	KZOB	8.86	1	KZSN	31.89	0
KZOB	KZOB	2.93	1	KZSN	32.16	0
KZOB	KZOB	6.76	1	KZSN	63.99	0
KZOB	KZOB	20.88	1	KZSN	59.19	0
KZOB	KZOB	6.18	1	KZSN	35.05	0
SWHD	SWHD	3.83	1	SBIY	55.6	0
KZOB	KZOB	6.85	1	KZSN	54.99	0
KZOB	KZOB	7.83	1	KZSN	57.37	0
KZOB	KZOB	4.05	1	KZSN	29.35	0
KZOB	KZOB	4.23	1	KZSN	61.99	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	21.96	1	KZSN	58.06	0
KZOB	KZOB	5.38	1	KZSN	30.13	0
KZOB	KZOB	7.31	1	KZSN	79.86	0
KZOB	KZOB	7.43	1	KZSN	48.17	0
KZOB	KZOB	15.52	1	KZSN	50.48	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	4.91	1	KZSN	42.31	0
KZOB	KZOB	28.25	0.9953	KZSN	36.68	0.0047
KZOB	KZOB	3.27	1	KZSN	67.39	0
KZOB	KZOB	1.37	1	KZSN	59.87	0
KZOB	KZOB	15.55	1	KZSN	67.38	0
KZOB	KZOB	4.19	1	KZSN	55.88	0
KZOB	KZOB	12.04	1	KZSN	83.71	0
KZOB	KZOB	2.37	1	KZSN	44.96	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	8.99	1	KZSN	40.89	0
KZOB	KZOB	3.53	1	KZSN	51.93	0
KZOB	KZOB	2.07	1	KZSN	41.49	0
KZOB	KZOB	6.24	1	KZSN	71.34	0
KZOB	KZOB	14.58	1	KZSN	41.85	0

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地
M04-11894	L147-705	9343	神津島恩馳島群
M04-11895	L147-706	9480	神津島恩馳島群
M04-11896	L147-707	9484	神津島恩馳島群
M04-11897	L147-708	9628	神津島恩馳島群
M04-11898	L147-709	10721	神津島恩馳島群
M04-11899	L147-710	11363	神津島恩馳島群
M04-11900	L147-711	11469	神津島恩馳島群
M04-11901	L147-712	11511	神津島恩馳島群
M04-11902	L147-713	11934	神津島恩馳島群
M04-11903	L147-714	12369	神津島恩馳島群
M04-11904	L147-715	12401	神津島恩馳島群
M04-11905	L147-716	12418	推定不可
M04-11906	L147-717	12475	神津島恩馳島群
M04-11907	L147-718	12560	神津島恩馳島群
M04-11908	L147-719	14545	神津島恩馳島群
M04-11909	L147-720	14597	推定不可
M04-11910	L147-721	15439	神津島恩馳島群
M04-11911	L147-722	15730	神津島恩馳島群
M04-11912	L147-723	15835	神津島恩馳島群
M04-11913	L147-724	118	神津島恩馳島群
M04-11914	L147-725	328	神津島恩馳島群
M04-11915	L147-726	400	神津島恩馳島群
M04-11916	L147-727	617	神津島恩馳島群
M04-11917	L147-728	807	神津島恩馳島群
M04-11918	L147-729	922	神津島恩馳島群
M04-11919	L147-730	1222	神津島恩馳島群
M04-11920	L147-731	1223	神津島恩馳島群
M04-11921	L147-732	1335	神津島恩馳島群
M04-11922	L147-733	1790	神津島恩馳島群
M04-11923	L147-734	2192	神津島恩馳島群
M04-11924	L147-735	2363	神津島恩馳島群
M04-11925	L147-736	2693	神津島恩馳島群
M04-11926	L147-737	3281	神津島恩馳島群
M04-11927	L147-738	4262	神津島恩馳島群
M04-11928	L147-739	4329	神津島恩馳島群
M04-11929	L147-740	4559	神津島恩馳島群
M04-11930	L147-741	4876	神津島恩馳島群
M04-11931	L147-742	5332	神津島恩馳島群
M04-11932	L147-743	5626	神津島恩馳島群
M04-11933	L147-744	7006	神津島恩馳島群
M04-11934	L147-745	7696	神津島恩馳島群
M04-11935	L147-746	8517	神津島恩馳島群
M04-11936	L147-747	8916	神津島恩馳島群
M04-11937	L147-748	8979	神津島恩馳島群
M04-11938	L147-749	9023	神津島恩馳島群
M04-11939	L147-750	9641	神津島恩馳島群
M04-11940	L147-751	10646	神津島恩馳島群
M04-11941	L147-752	11385	神津島恩馳島群
M04-11942	L147-753	12072	神津島恩馳島群
M04-11943	L147-754	12731	神津島恩馳島群
M04-11944	L147-755	12753	神津島恩馳島群
M04-11945	L147-756	13996	神津島恩馳島群
M04-11946	L147-757	14067	神津島恩馳島群
M04-11947	L147-758	14377	神津島恩馳島群
M04-11948	L147-759	14961	神津島恩馳島群
M04-11949	L147-760	15802	神津島恩馳島群
M04-11950	L147-761	16078	神津島恩馳島群
M04-11951	L147-762	16712	神津島恩馳島群
M04-11952	L147-763	17123	神津島恩馳島群
M04-11953	L147-764	18778	神津島恩馳島群
M04-11954	L147-765	2468	神津島恩馳島群
M04-11955	L147-766	15309	神津島恩馳島群
M04-11956	L147-767	19565	神津島恩馳島群

判別図判別群	判別分析 第1候補産地			第2候補産地		
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
KZOB	KZOB	7.41	1	KZSN	44.73	0
KZOB	KZOB	7.06	1	KZSN	62.69	0
KZOB	KZOB	24.51	1	KZSN	48.54	0
KZOB	KZOB	11.84	1	KZSN	52.12	0
KZOB	KZOB	7.25	1	KZSN	37.17	0
KZOB	KZOB	8.64	1	KZSN	26.99	0
KZOB	KZOB	14.53	1	KZSN	34.32	0
KZOB	KZOB	6.02	1	KZSN	27.07	0
KZOB	KZOB	11.17	0.9999	KZSN	26.83	0.0001
KZOB	KZOB	12.8	1	KZSN	69.04	0
KZOB	KZOB	3.8	1	KZSN	31.76	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	5.14	1	KZSN	34.9	0
KZOB	KZOB	5.67	1	KZSN	57.76	0
KZOB	KZOB	4.2	1	KZSN	54.19	0
推定不可	推定不可			推定不可		
KZOB	KZOB	4.26	1	KZSN	56.39	0
KZOB	KZOB	16.42	0.9999	KZSN	32.43	0.0001
KZOB	KZOB	11.02	1	KZSN	36.74	0
KZOB	KZOB	6.96	1	KZSN	36.82	0
KZOB	KZOB	1.3	1	KZSN	45.76	0
KZOB	KZOB	18.37	1	KZSN	51.29	0
KZOB	KZOB	13.41	0.9961	KZSN	22.2	0.0039
KZOB	KZOB	1.84	1	KZSN	64.04	0
KZOB	KZOB	12.84	1	KZSN	92.55	0
KZOB	KZOB	7.71	1	KZSN	69.55	0
KZOB	KZOB	2.95	1	KZSN	42.04	0
KZOB	KZOB	18.85	1	KZSN	39.76	0
KZOB	KZOB	4.52	1	KZSN	50.47	0
KZOB	KZOB	5.26	1	KZSN	36.27	0
KZOB	KZOB	3.2	1	KZSN	44.92	0
KZOB	KZOB	3.85	1	KZSN	51.3	0
KZOB	KZOB	5.01	1	KZSN	44.37	0
KZOB	KZOB	10.8	1	KZSN	81.69	0
KZOB	KZOB	1.34	1	KZSN	56.32	0
KZOB	KZOB	5.47	1	KZSN	42.4	0
KZOB	KZOB	11.51	1	KZSN	70.42	0
KZOB	KZOB	3.54	1	KZSN	45.48	0
KZOB	KZOB	16.12	1	KZSN	46.08	0
KZOB	KZOB	3.28	1	KZSN	62.34	0
KZOB	KZOB	8.32	1	KZSN	48.89	0
KZOB	KZOB	14.46	1	KZSN	60.21	0
KZOB	KZOB	15.19	1	KZSN	67.93	0
KZOB	KZOB	3.48	1	KZSN	61.59	0
KZOB	KZOB	14.37	1	KZSN	68.12	0
KZOB	KZOB	10.06	1	KZSN	68.54	0
KZOB	KZOB	13.4	1	KZSN	83.07	0
KZOB	KZOB	20.67	1	KZSN	52.77	0
KZOB	KZOB	9.97	1	KZSN	42.07	0
KZOB	KZOB	2.76	1	KZSN	58.35	0
KZOB	KZOB	3.87	1	KZSN	37.26	0
KZOB	KZOB	9.73	1	KZSN	49.71	0
KZOB	KZOB	4.03	1	KZSN	43.52	0
KZOB	KZOB	12.4	1	KZSN	41.39	0
KZOB	KZOB	2.54	1	KZSN	91.11	0
KZOB	KZOB	4.52	1	KZSN	51.98	0
KZOB	KZOB	12.55	1	KZSN	64.75	0
KZOB	KZOB	3.66	1	KZSN	45.12	0
KZOB	KZOB	1.64	1	KZSN	48.39	0
KZOB	KZOB	14.14	1	KZSN	37.74	0
KZOB	KZOB	4.94	1	KZSN	32.09	0
KZOB	KZOB	5.64	1	KZSN	52.81	0
KZOB	KZOB	5.33	1	KZSN	46.06	0

分析２

佛ヶ尾遺跡（第二東名№147地点）年代測定結果報告

加速器分析研究所

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。

２）ＢＰ年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。

３）付記した誤差は、次のように算出しています。

複数回（通常は４回）の測定値についてχ^2検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が１つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。

４）$\delta^{13}C$の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される$\delta^{13}C$の値を用いることもあります。

$\delta^{13}C$補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}C=[(^{14}A_S-^{14}A_R)/^{14}A_R]\times1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}C=[(^{13}A_S-^{13}A_{PDB})/^{13}A_{PDB}]\times1000 \quad (2)$$

ここで、$^{14}A_S$：試料炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$または$(^{14}C/^{13}C)_S$

$^{14}A_R$：標準現代炭素の^{14}C濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$または$(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta^{13}C$は、質量分析計を用いて試料炭素の$\delta^{13}C$濃度（$^{13}A_S=^{13}C/^{12}C$）を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAAでは加速器により測定中に同時に$^{13}C/^{12}C$を測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した$\delta^{13}C$を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また、$\Delta^{14}C$は、試料炭素が$\delta^{13}C=-25.0$(‰)であるとしたときの^{14}C濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値です。(1)式の^{14}C濃度を$\delta^{13}C$の測定値をもとに次式のように換算します。

$^{14}A_N=^{14}A_S\times(0.975/1+\delta^{13}C/1000))^2$（$^{14}A_S$として$^{14}C/^{12}C$を使用するとき）

または

$=^{14}A_S\times(0.975/1+\delta^{13}C/1000))$（$^{14}A_S$として$^{14}C/^{13}C$を使用するとき）

$$\Delta^{14}C=[(^{14}A_N-^{14}A_R)/^{14}A_R]\times1000 \quad (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガスの濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない$\delta^{14}C$に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)がよく使われており、$\Delta^{14}C$との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}C=(pMC/100-1)\times1000 \quad (‰)$$

$$pMC=\Delta^{14}C/10+100 \quad (‰)$$

国際的な取り決めにより、この$\Delta^{14}C$あるいはpMCにより、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age; yrBP）が次のように計算されます。

$T=-8033\times\ln[(\Delta^{14}C/1000)+1]$

$=-8033\times\ln(pMC/100)$

IAA

IAA Code No.	試　　料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-50806	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP) : 6,350 ± 40
		$\delta^{13}C$(‰)、(加速器) = -29.35 ± 0.94
	試料形態 ： 炭化物	$\Delta^{14}C$(‰) = -546.3 ± 2.3
	試料名(番号) ： 土器 2 (遺物番号 8361)	pMC(%) = 45.37 ± 0.23
		$\delta^{14}C$(‰) = -550.4 ± 2.1
	(参考) $\delta^{13}C$ の補正無し	pMC(%) = 44.96 ± 0.21
#978-2		Age (yrBP) : 6,420 ± 40
IAAA-50808	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP) : 6,450 ± 40
		$\delta^{13}C$(‰)、(加速器) = -28.42 ± 0.92
	試料形態 ： 炭化物	$\Delta^{14}C$(‰) = -551.8 ± 2.4
	試料名(番号) ： 土器 4 (遺物番号 8158)	pMC(%) = 44.82 ± 0.24
		$\delta^{14}C$(‰) = -555.0 ± 2.3
	(参考) $\delta^{13}C$ の補正無し	pMC(%) = 44.50 ± 0.23
#978-4		Age (yrBP) : 6,500 ± 40
IAAA-50809	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP) : 6,460 ± 40
		$\delta^{13}C$(‰)、(加速器) = -26.57 ± 0.88
	試料形態 ： 炭化物	$\Delta^{14}C$(‰) = -552.4 ± 2.3
	試料名(番号) ： 土器 5 (遺物番号 7250)	pMC(%) = 44.76 ± 0.23
		$\delta^{14}C$(‰) = -553.9 ± 2.2
	(参考) $\delta^{13}C$ の補正無し	pMC(%) = 44.61 ± 0.22
#978-5		Age (yrBP) : 6,480 ± 40
IAAA-50810	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP) : 6,520 ± 40
		$\delta^{13}C$(‰)、(加速器) = -29.24 ± 0.80
	試料形態 ： 炭化物	$\Delta^{14}C$(‰) = -555.7 ± 2.4
	試料名(番号) ： 土器 6 (遺物番号 2312)	pMC(%) = 44.43 ± 0.24
		$\delta^{14}C$(‰) = -559.6 ± 2.3
	(参考) $\delta^{13}C$ の補正無し	pMC(%) = 44.04 ± 0.23
#978-6		Age (yrBP) : 6,590 ± 40
IAAA-50814	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP) : 6,450 ± 40
		$\delta^{13}C$(‰)、(加速器) = -24.64 ± 0.94
	試料形態 ： 炭化物	$\Delta^{14}C$(‰) = -552.1 ± 2.3
	試料名(番号) ： 土器 10 (遺物番号 4495)	pMC(%) = 44.79 ± 0.23
		$\delta^{14}C$(‰) = -551.8 ± 2.2
	(参考) $\delta^{13}C$ の補正無し	pMC(%) = 44.82 ± 0.22
#978-10		Age (yrBP) : 6,450 ± 40

IAA

IAAA-50815	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP)	:	6,560 ±	40
		δ ^{13}C(‰)、(加速器)	=	-28.54 ±	0.98
	試料形態 ： 炭化物	Δ ^{14}C(‰)	=	-557.9 ±	2.4
	試料名(番号)： 土器 11 (遺物番号 7679)	pMC(%)	=	44.21 ±	0.24
	(参考) δ ^{13}C の補正無し	δ ^{14}C(‰)	=	-561.1 ±	2.2
		pMC(%)	=	43.89 ±	0.22
#978-11		Age (yrBP)	:	6,610 ±	40
IAAA-50818	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP)	:	6,700 ±	40
		δ ^{13}C(‰)、(加速器)	=	-25.46 ±	0.95
	試料形態 ： 炭化物	Δ ^{14}C(‰)	=	-565.6 ±	2.4
	試料名(番号)： 土器 14 (遺物番号 2879)	pMC(%)	=	43.44 ±	0.24
	(参考) δ ^{13}C の補正無し	δ ^{14}C(‰)	=	-566.0 ±	2.2
		pMC(%)	=	43.40 ±	0.22
#978-14		Age (yrBP)	:	6,710 ±	40
IAAA-50821	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP)	:	6,430 ±	40
		δ ^{13}C(‰)、(加速器)	=	-30.72 ±	0.93
	試料形態 ： 炭化物	Δ ^{14}C(‰)	=	-550.8 ±	2.4
	試料名(番号)： 土器 17 (遺物番号 7936)	pMC(%)	=	44.92 ±	0.24
	(参考) δ ^{13}C の補正無し	δ ^{14}C(‰)	=	-556.1 ±	2.3
		pMC(%)	=	44.39 ±	0.23
#978-17		Age (yrBP)	:	6,520 ±	40
IAAA-50822	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP)	:	6,520 ±	40
		δ ^{13}C(‰)、(加速器)	=	-22.32 ±	0.98
	試料形態 ： 炭化物	Δ ^{14}C(‰)	=	-555.6 ±	2.4
	試料名(番号)： 土器 18 (遺物番号 5206)	pMC(%)	=	44.44 ±	0.24
	(参考) δ ^{13}C の補正無し	δ ^{14}C(‰)	=	-553.2 ±	2.3
		pMC(%)	=	44.68 ±	0.23
#978-18		Age (yrBP)	:	6,470 ±	40
IAAA-50823	試料採取場所 ：静岡県裾野市大畑字佛ヶ尾	Libby Age(yrBP)	:	7,920 ±	50
		δ ^{13}C(‰)、(加速器)	=	-27.26 ±	0.91
	試料形態 ： 炭化物	Δ ^{14}C(‰)	=	-626.9 ±	2.1
	試料名(番号)： 炭化物 1 (遺物番号 9214)	pMC(%)	=	37.31 ±	0.21
	(参考) δ ^{13}C の補正無し	δ ^{14}C(‰)	=	-628.6 ±	2.0
		pMC(%)	=	37.14 ±	0.20
#978-19		Age (yrBP)	:	7,960 ±	40

分析３

佛ヶ尾遺跡（第二東名№147地点）出土炭化材の樹種

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　西尾太加二

佛ヶ尾遺跡から出土した炭化材１点の樹種同定を行った。この炭化材は縄文時代早期の住居跡と思われる遺構の覆土より検出された。出土した地点は炭化物が集中しており、周辺から出土した土器や石器との共伴関係も明瞭であるため樹種同定を行った。判明した樹種はニレ科のケヤキである。

炭化材の大きさは約1.5cm大のブロック状であった。遺跡から出土する炭化材は一般的に非常に脆弱で、指で触れるだけで粉状に崩壊するものが多い。今回の炭化材は比較的残存状態が良好であったが、アクリル樹脂パラロイドB72、３～５％キシレン溶剤を３回減圧含浸して試料の強化処置を行った。

樹種同定用のプレパラート標本の作製は研磨法で行い、断面方向の異なる木口２点、柾目２点、板目１点の計５点を作製した。研磨法とは、試料小片を透明なエポキシ樹脂で包埋した後、透過光で検鏡できる厚さまで研磨して薄くする方法である。研磨は耐水サンドペーパーと研磨粉（アルミパウダー）を使用する。耐水サンドペーパーは＃200、＃400、＃800、＃1500の順に番数を上げて研磨し、最終的に＃3000と＃4000のアルミパウダーを溶かした水を含ませた布の上で鏡面仕上げの研磨を行う。なお、作製したプレパラート標本は当研究所保存処理室で保管している。

樹種同定は、研磨法により作製したプレパラート標本を生物顕微鏡によって40～400倍で観察し、現生標本および文献資料と比較しながら行った。以下に同定に利用した材の解剖学的特徴を示す。

ケヤキ　Zelkova serrata Makino　ニレ科

道管要素、木繊維、軸方向柔細胞および放射柔細胞の４種類の構成要素からなる。

接線方向280μm×放射方向250μmの大型の大道管が年輪界に沿って１～２列ならび、孔圏外の小道管は薄型多角形で多数集まって円形、ときに接線状、斜線状の塊をつくる環孔材。道管は単穿孔。道管相互の壁孔は小孔紋で交互状、小道管にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性でほとんどが平伏細胞であるが、上下縁辺部に方形細胞があり、ときに大型のシュウ酸石灰の結晶を含む。放射組織は８～10細胞列のほぼ大きさが一様で、背があまり高くない紡錘形を呈する。大道管の列数が少ないこと、大型の結晶細胞をもつこと、鞘細胞がないことなどからエノキ属と区別される。以上の形質によりケヤキと同定した。ケヤキは本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯にかけて広く分布する落葉広葉樹で、樹高20～25m、幹径60～70cm。材質に優れ、木目も美しく、加工も容易であることから出土材としては刳物、高杯、漆椀の木地などに多用される。

写真１　エポキシ樹脂に包埋した状況

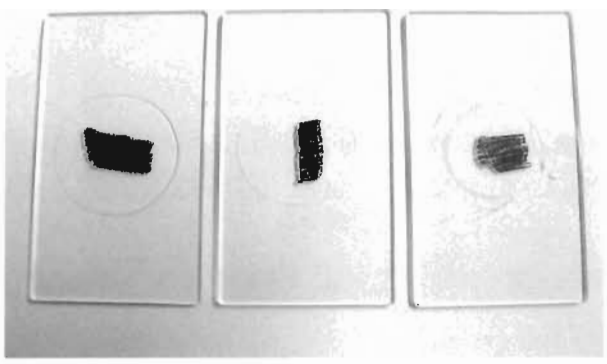


写真２　プレパラート標本

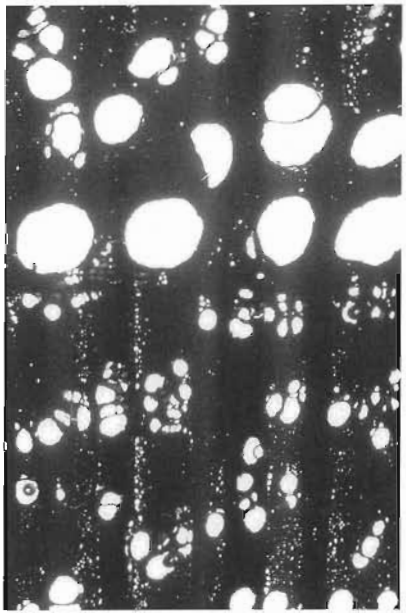


写真３　木口　40×

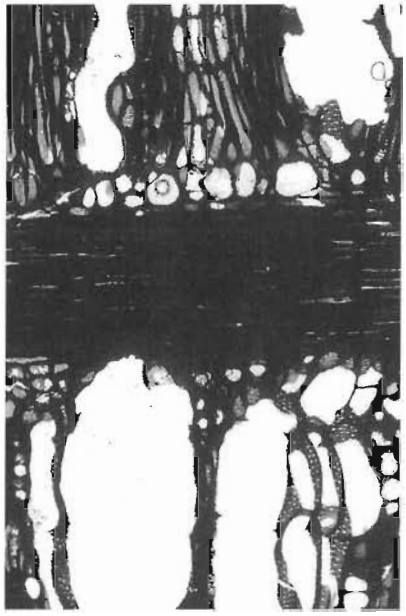


写真４　柾目　100×

写真５　板目　100×

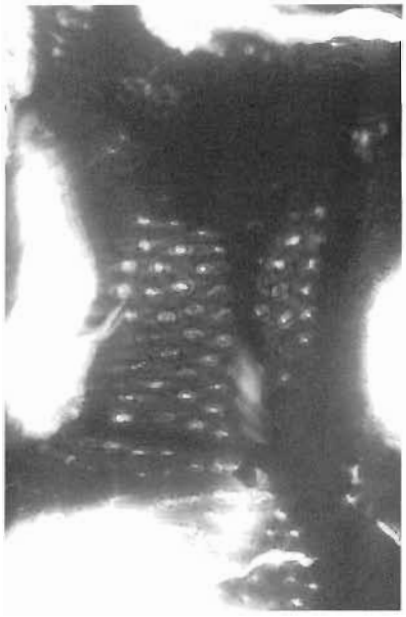


写真６　柾目　400×
道管相互の壁孔

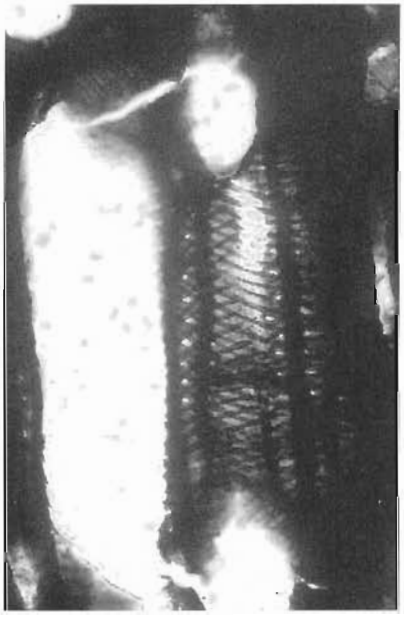


写真７　柾目　400×
小道管のらせん肥厚

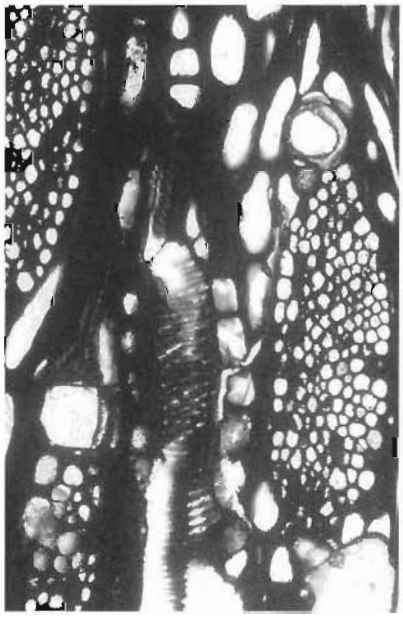


写真８　板目　200×
大型の結晶細胞

参考文献

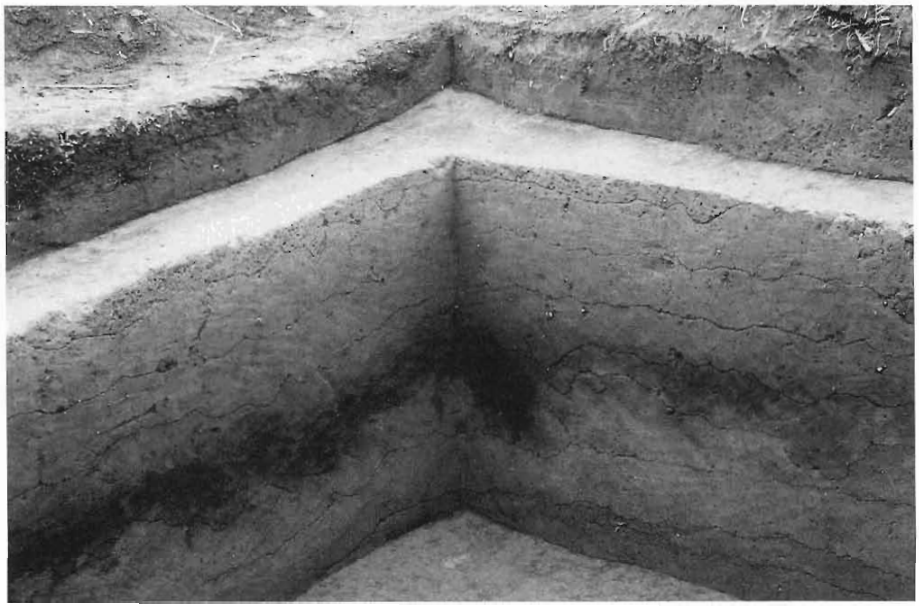
島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』　地球社

鈴木三男・能城修一　1997　「石川条里遺跡出土木製品の樹種」『石川条里遺跡　第３分冊』　長野県埋蔵文化財センター

岡田文夫　1995　『古代出土漆器の研究―顕微鏡で探る材質と技法―』　京都書院

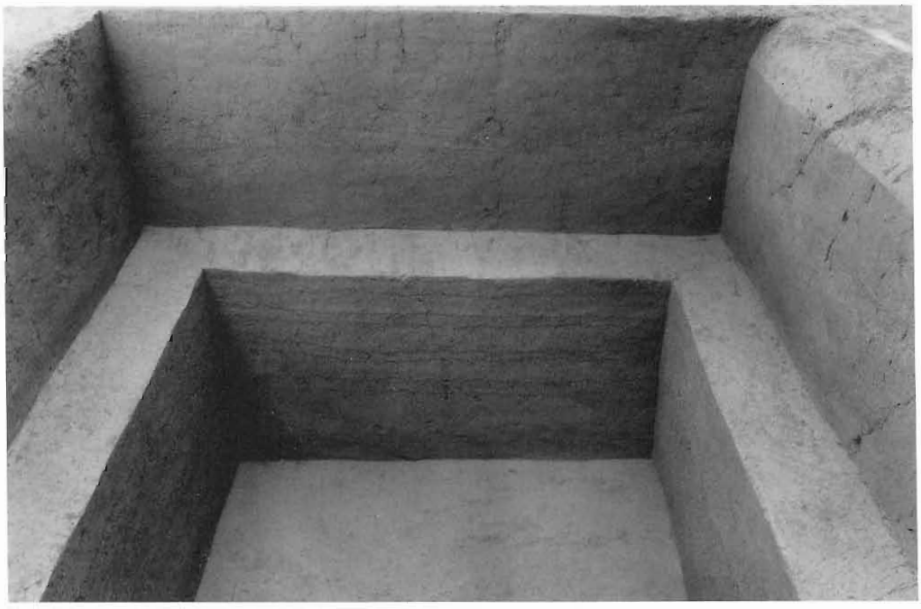
写 真 図 版

(1)土層堆積状況(谷部)
表土～休場層中層



(2)土層堆積状況(丘陵部)
休場層～第Ⅰスコリア層

(3)土層堆積状況
第Ⅱスコリア層～
中部ローム



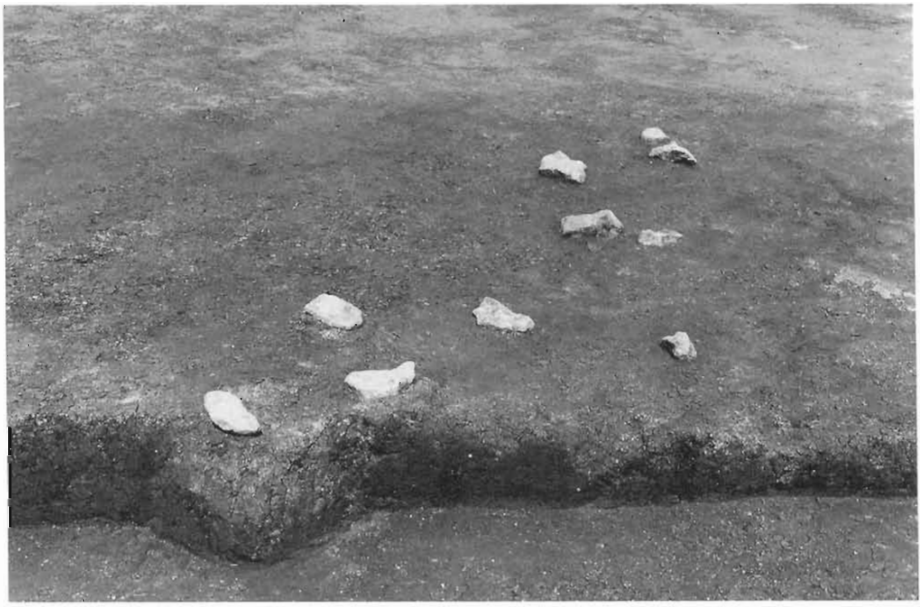
写真図版 2

(1)休場層遺物出土状況

(2)南斜面テストピット完掘

(1)旧石器時代　1号礫群

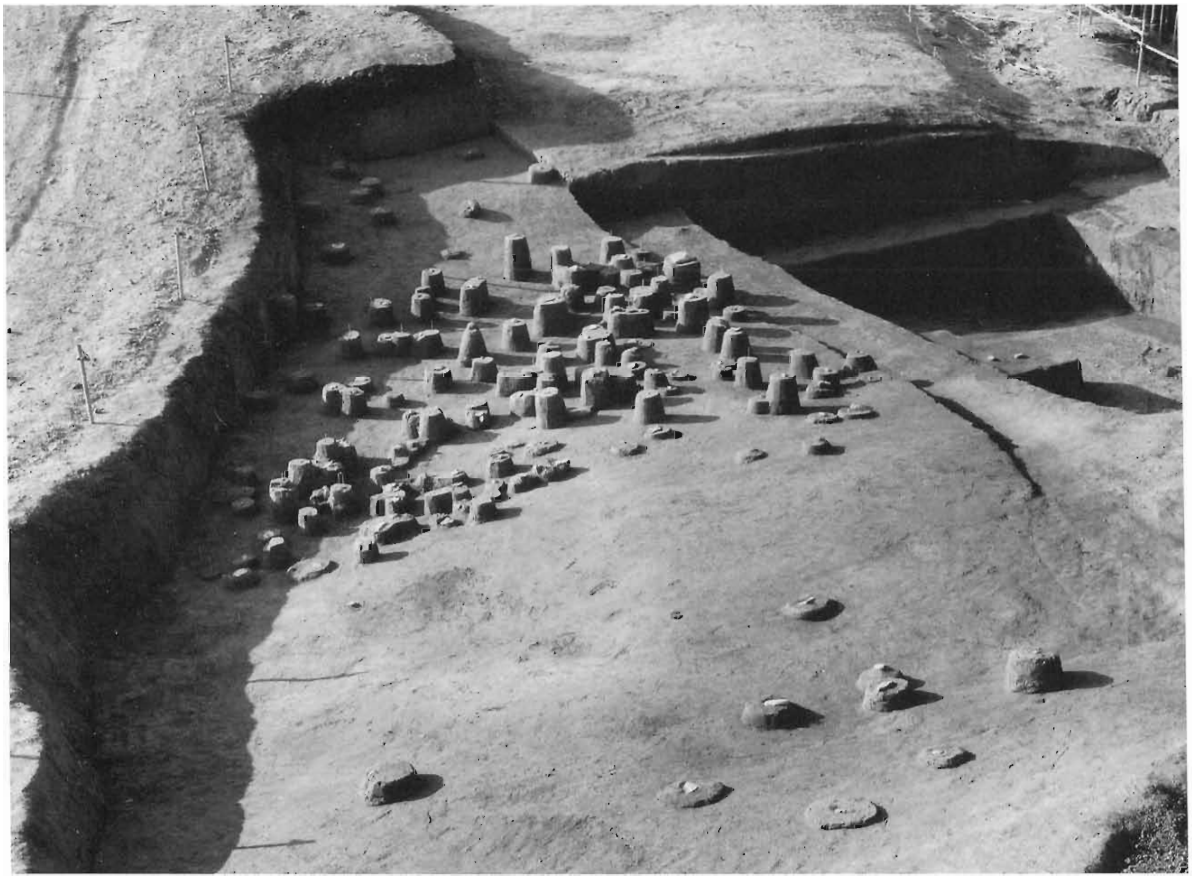
(2)旧石器時代　4号礫群



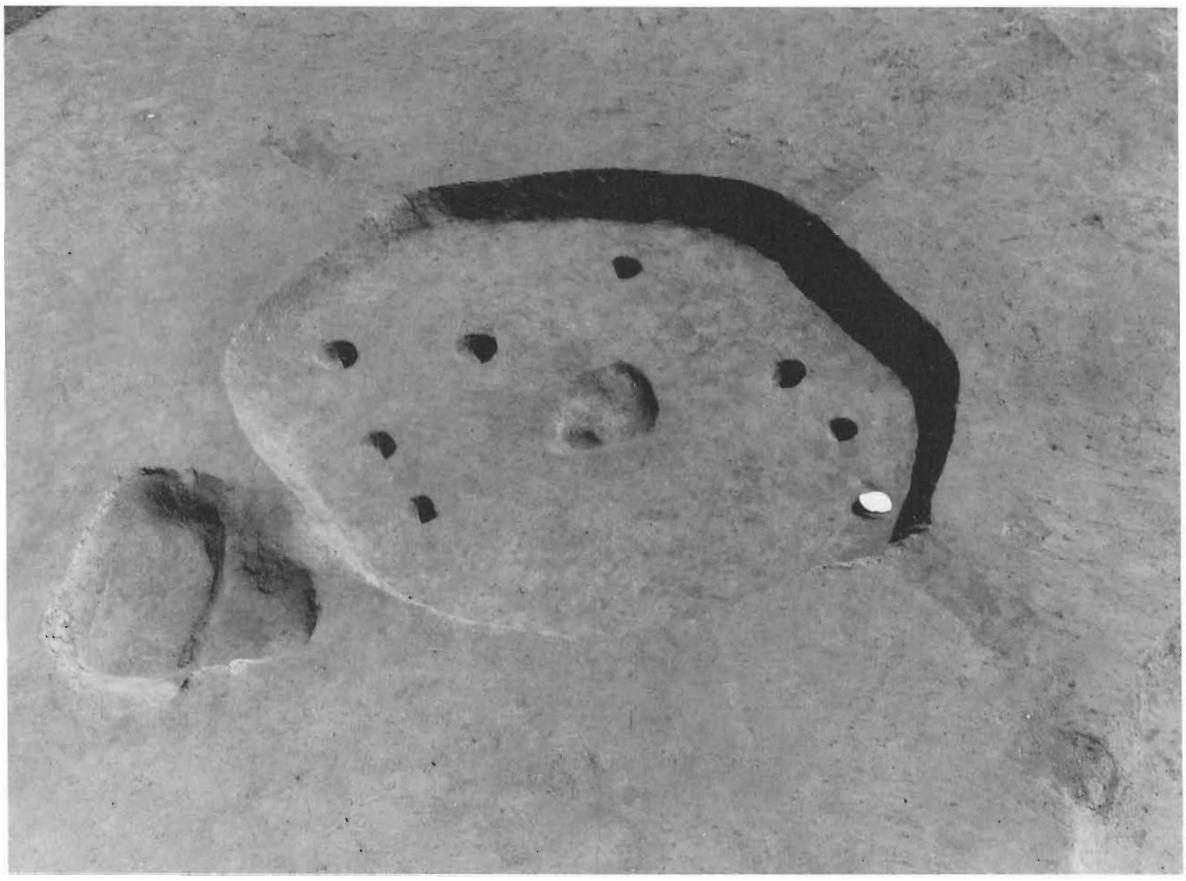
(3)旧石器時代　土坑

写真図版 4

(1)縄文時代　遺物出土状況



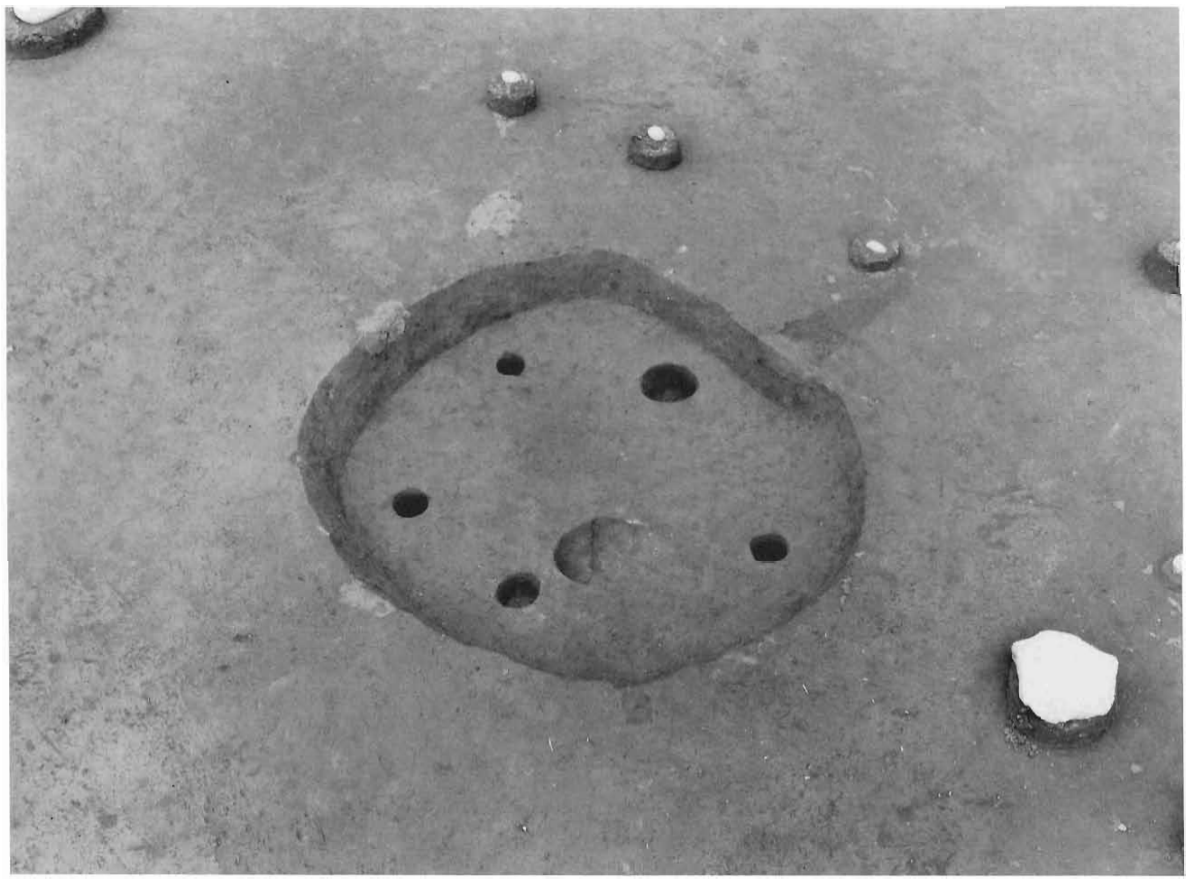
(2)縄文時代　北西部遺物出土状況



(1)縄文時代　1号住居跡

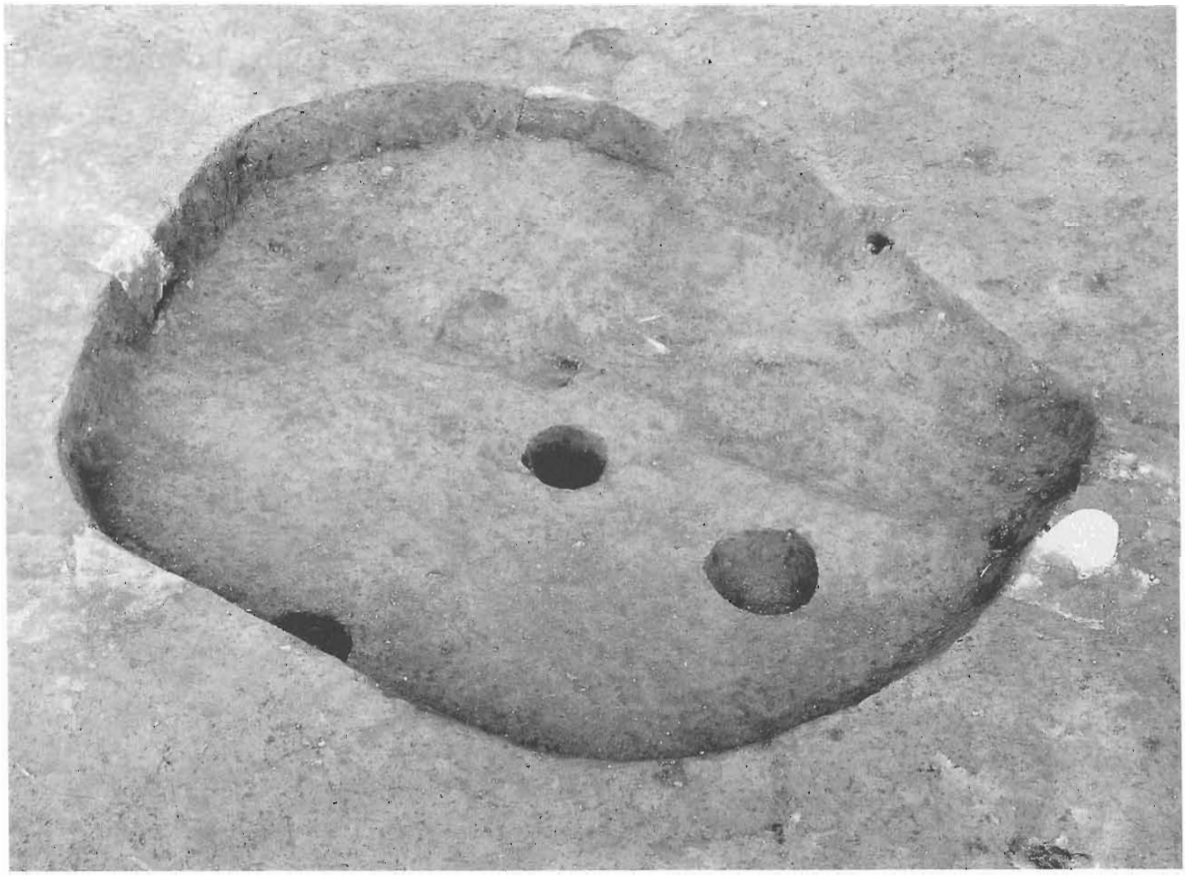
(2)縄文時代　2号住居跡

写真図版 6

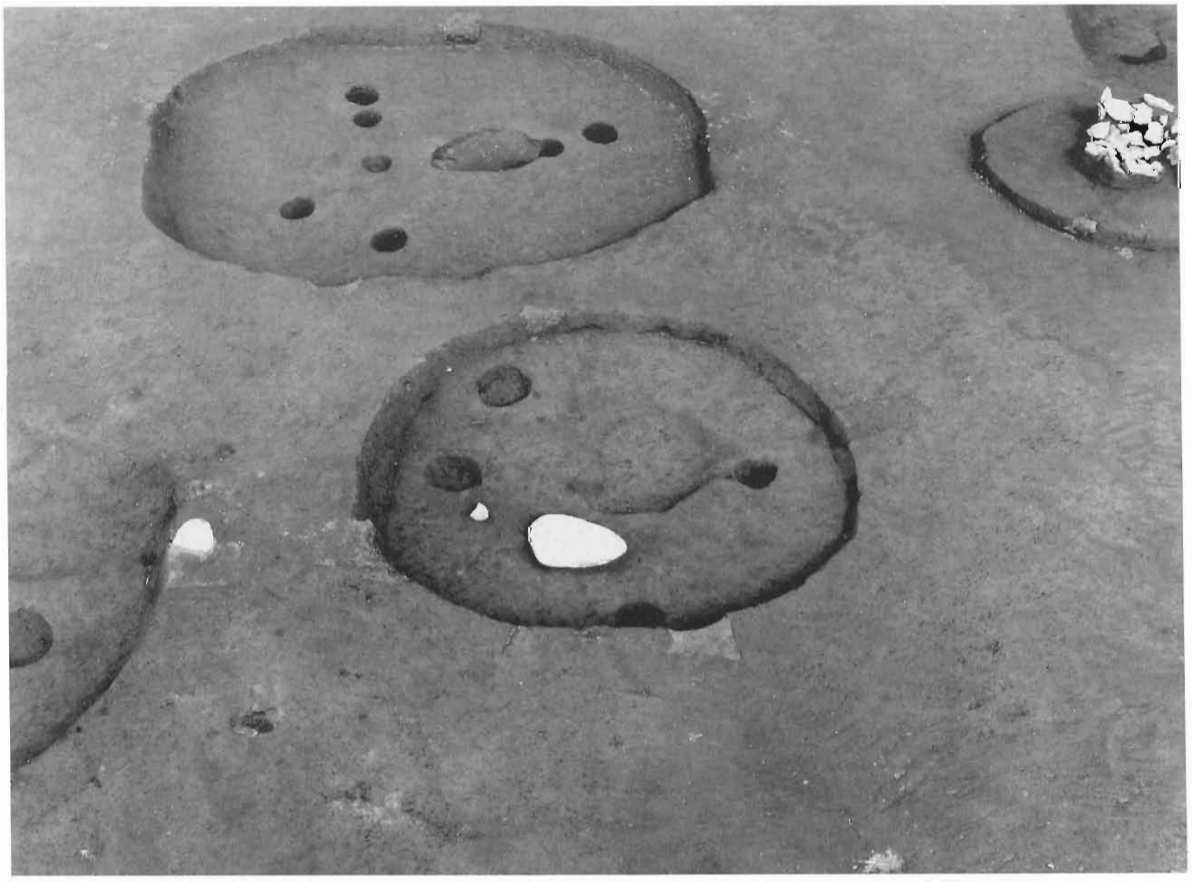


(1)縄文時代　３号住居跡

(2)縄文時代　４号住居跡



(1)縄文時代　５号住居跡



(2)縄文時代　６号住居跡

写真図版 8

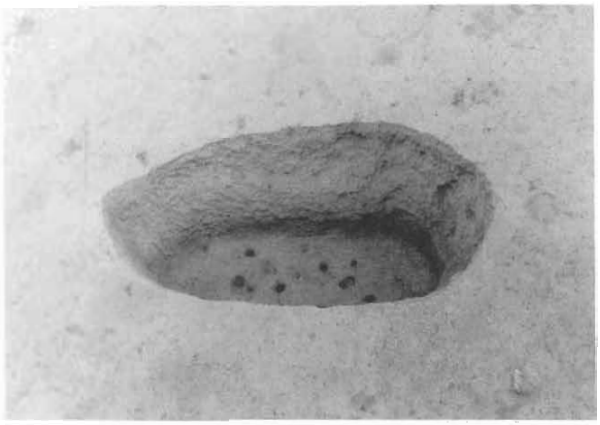
(1)縄文時代　１号竪穴状遺構

(2)縄文時代　２号竪穴状遺構

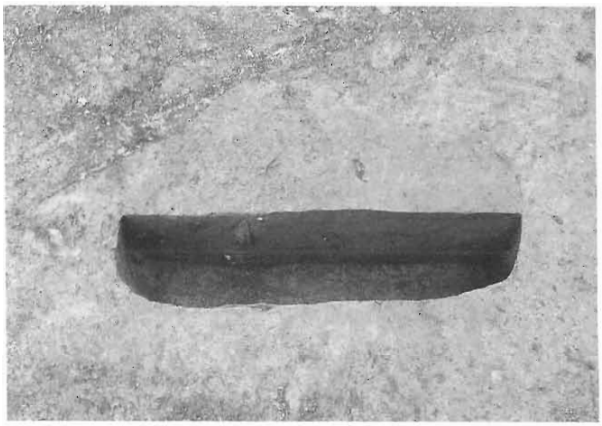
(1)縄文時代　3号竪穴状遺構

(2)縄文時代　1号住居跡遺物出土状況

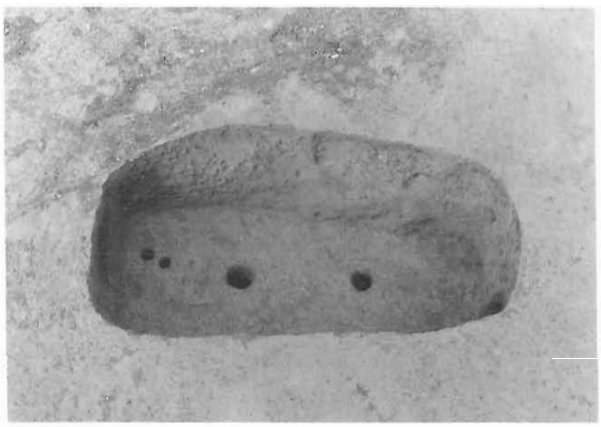
(3)縄文時代　3号住居跡遺物出土状況



(4)縄文時代　8号陥穴状土坑



(5)縄文時代　9号陥穴状土坑(半截状況)

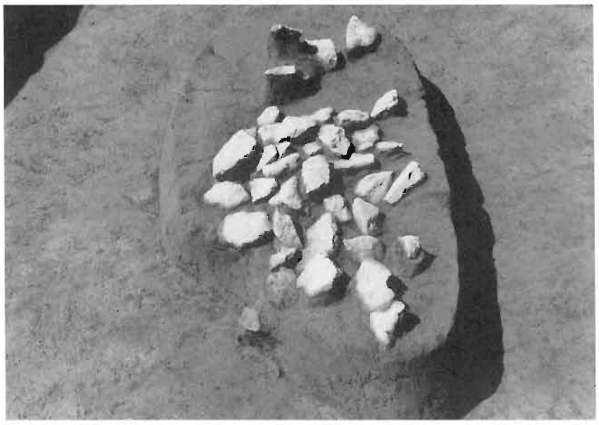


(6)縄文時代　9号陥穴状土坑

(7)縄文時代草創期　石器ブロック

(8)縄文時代　3号集石遺構

写真図版10



(1)縄文時代　５号集石遺構

(2)縄文時代　13号集石遺構

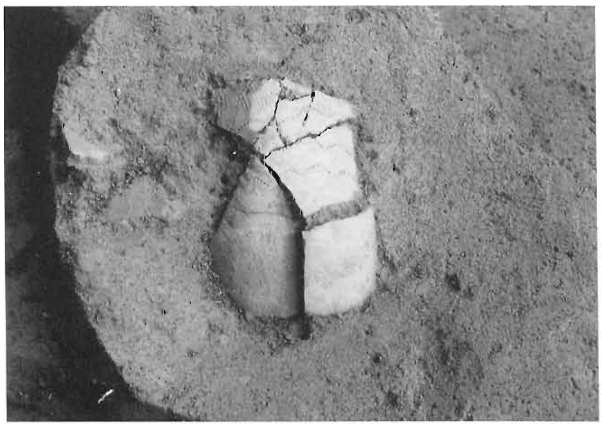
(3)縄文時代　14号集石遺構

(4)縄文時代　１号焼土跡

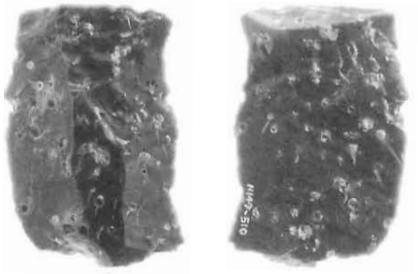
(5)縄文時代　２号土器集中

(6)縄文時代　４号土器集中

(7)縄文時代　４号住居跡床面直上打越式土器検出状況

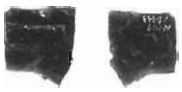


(8)縄文時代　遺物包含層　打越式土器検出状況

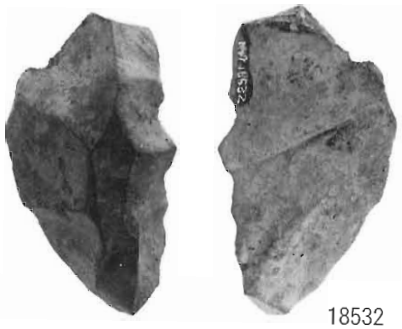


510

18788



18533



18532

1431

584

18006

17967

753

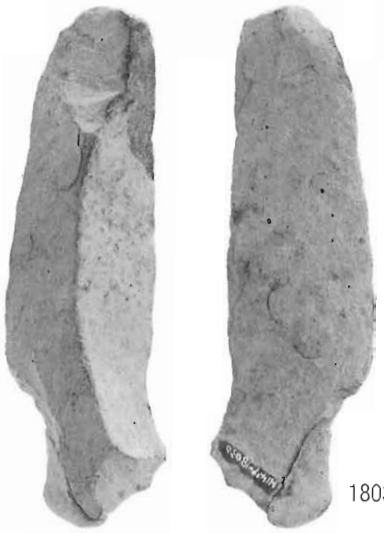
18013

12117

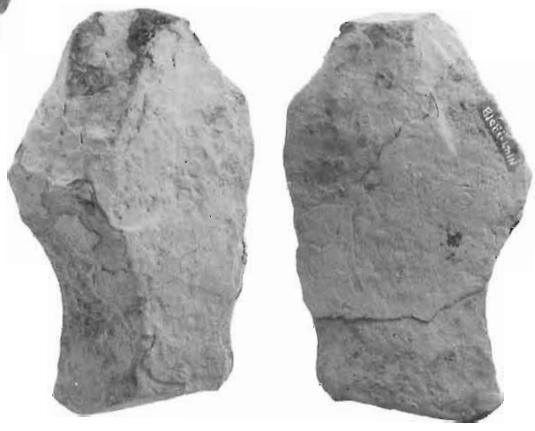
18028

7707

19162

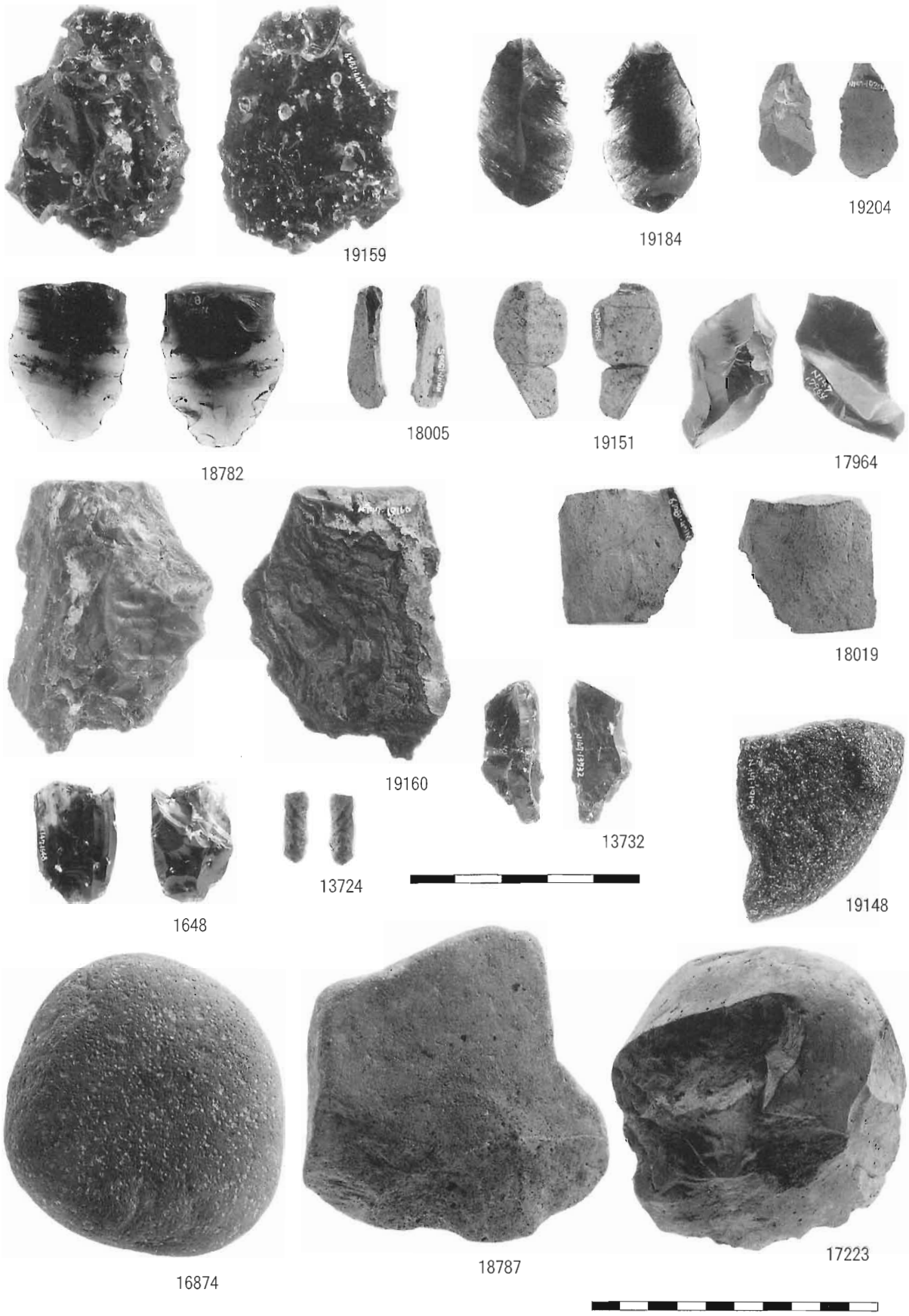


18030



18018

写真図版12

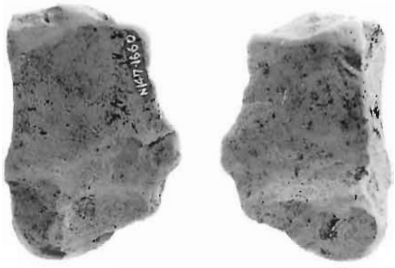


旧石器時代　石器２

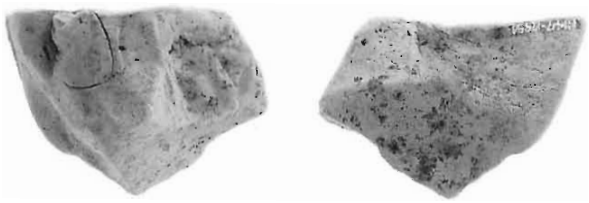
17980

17977

17184



1660



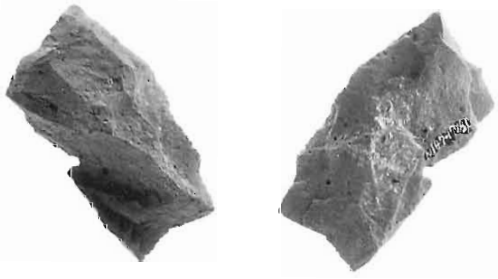
17984

S-11

17275

17752

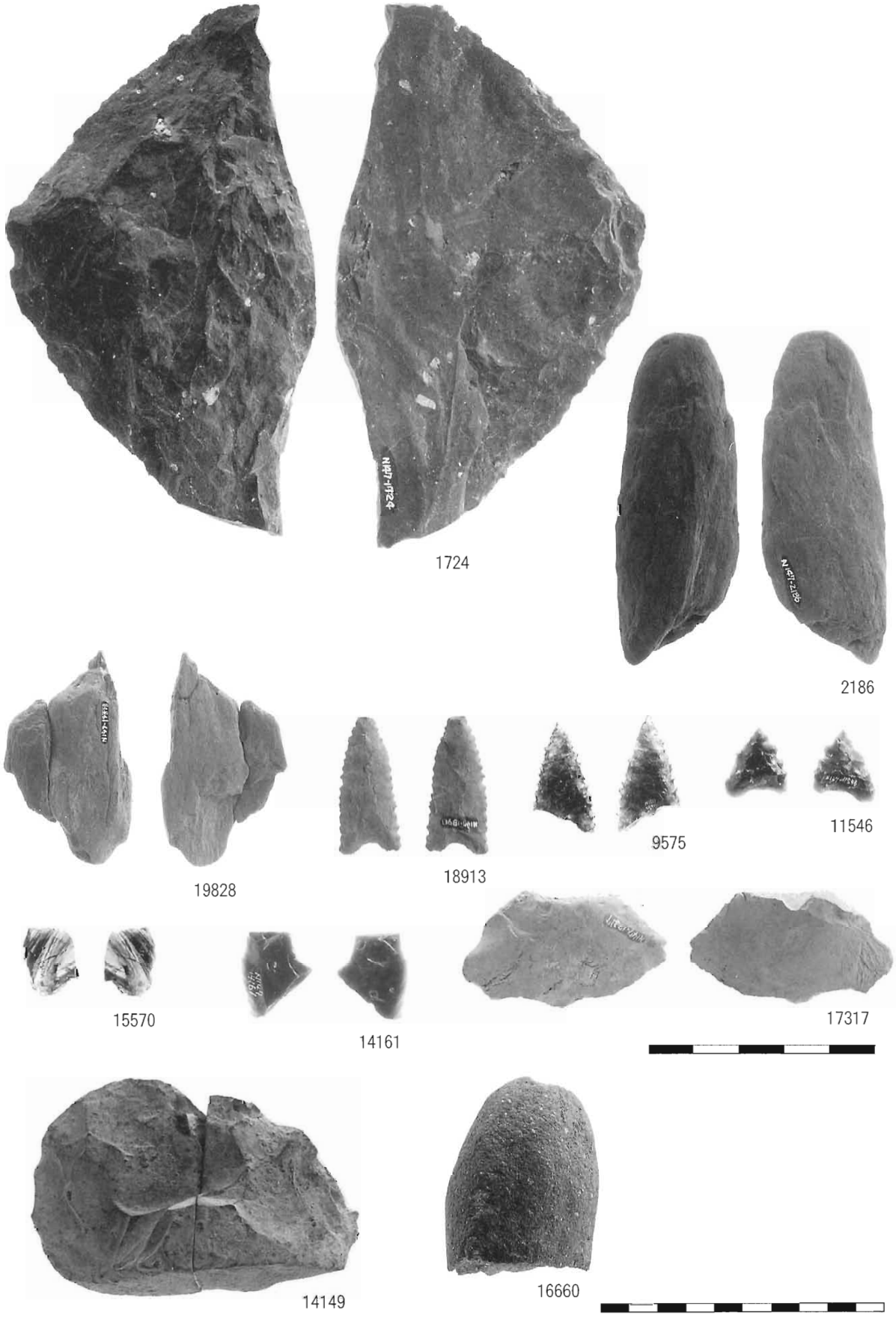
15



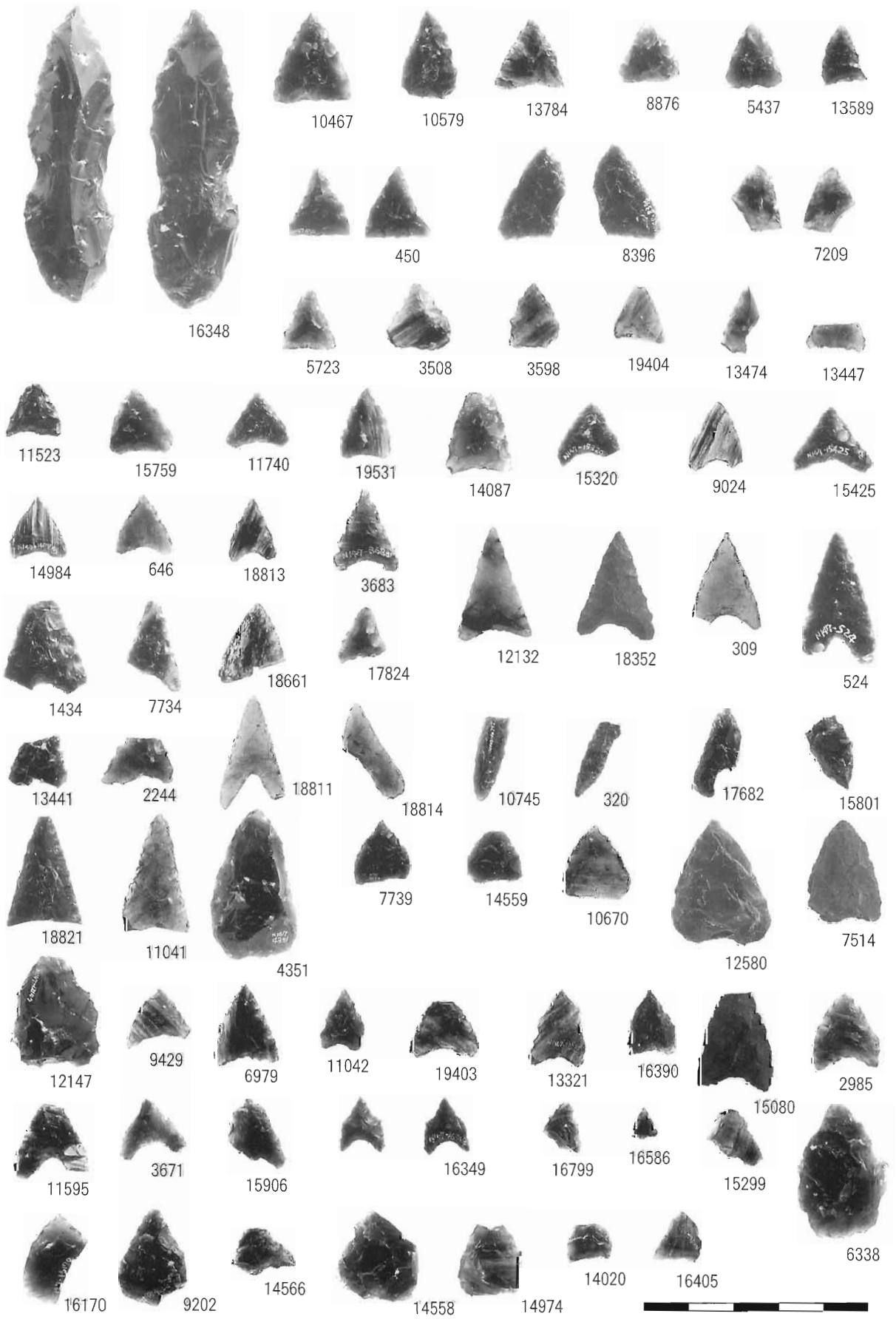
17181

縄文時代草創期　石器 1

写真図版14

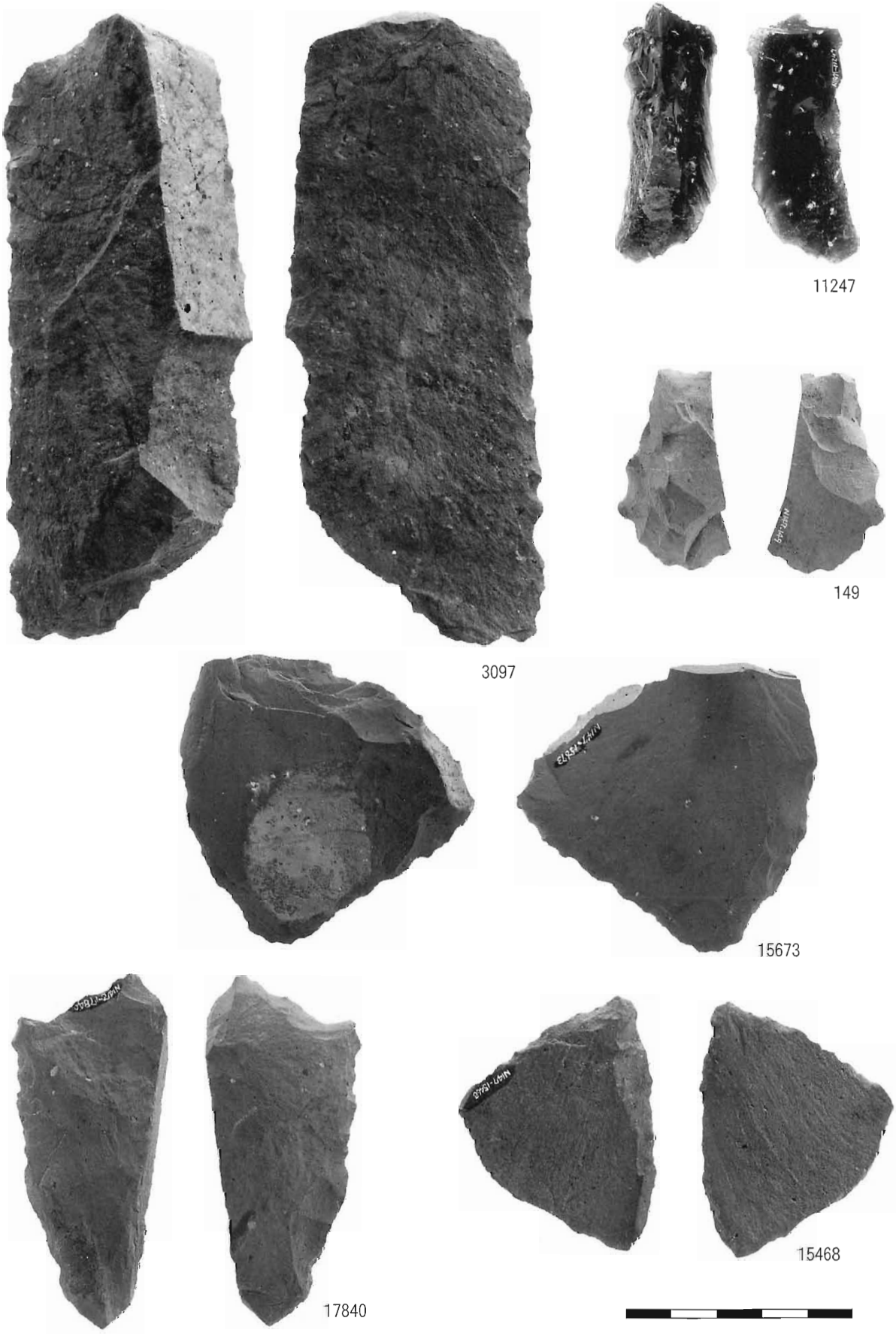


縄文時代草創期　石器２

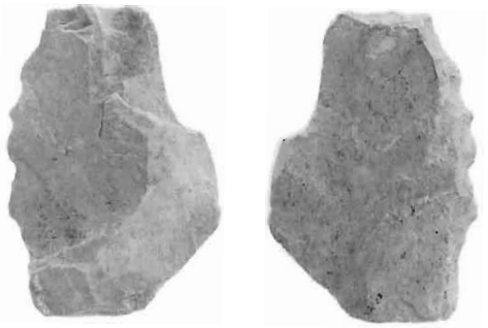

16348
10467
10579
13784
8876
5437
13589
450
8396
7209
5723
3508
3598
19404
13474
13447
11523
15759
11740
19531
14087
15320
9024
15425
14984
646
18813
3683
1434
7734
18661
17824
12132
18352
309
524
13441
2244
18811
18814
10745
320
17682
15801
18821
11041
4351
7739
14559
10670
12580
7514
12147
9429
6979
11042
19403
13321
16390
15080
2985
11595
3671
15906
16349
16799
16586
15299
6338
16170
9202
14566
14558
14974
14020
16405

縄文時代　石器1

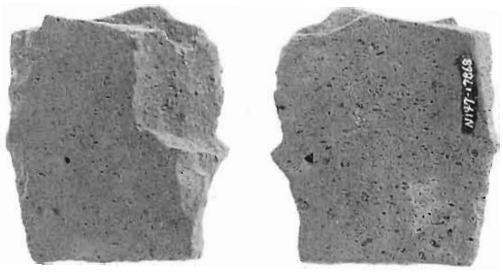
写真図版16



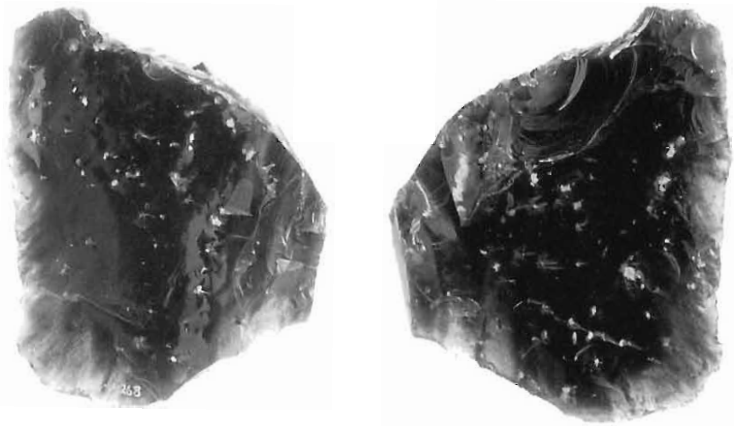
縄文時代　石器２



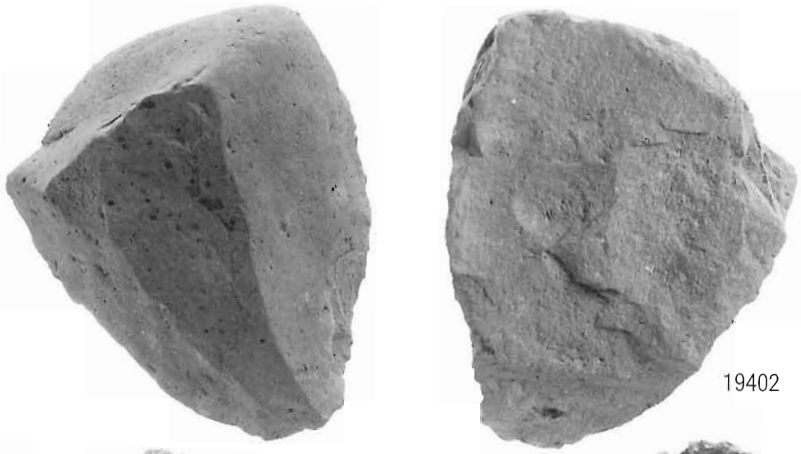
18803



17868

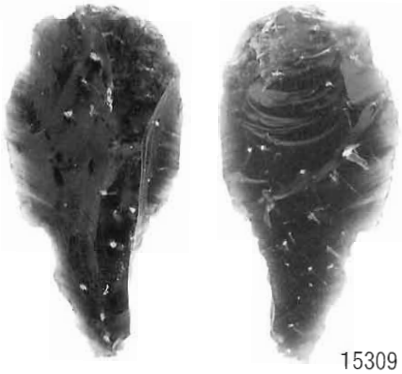


17268



19402

7412



15309

縄文時代　石器３

写真図版18

5652

2468

8859

17828

9461

18059

1666

2546

17136

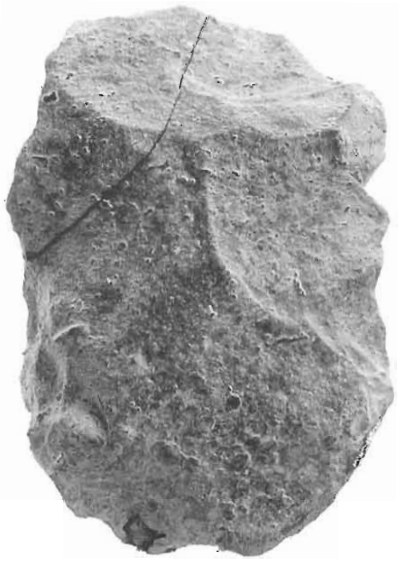
縄文時代　石器４

7709

12842

4756

13878



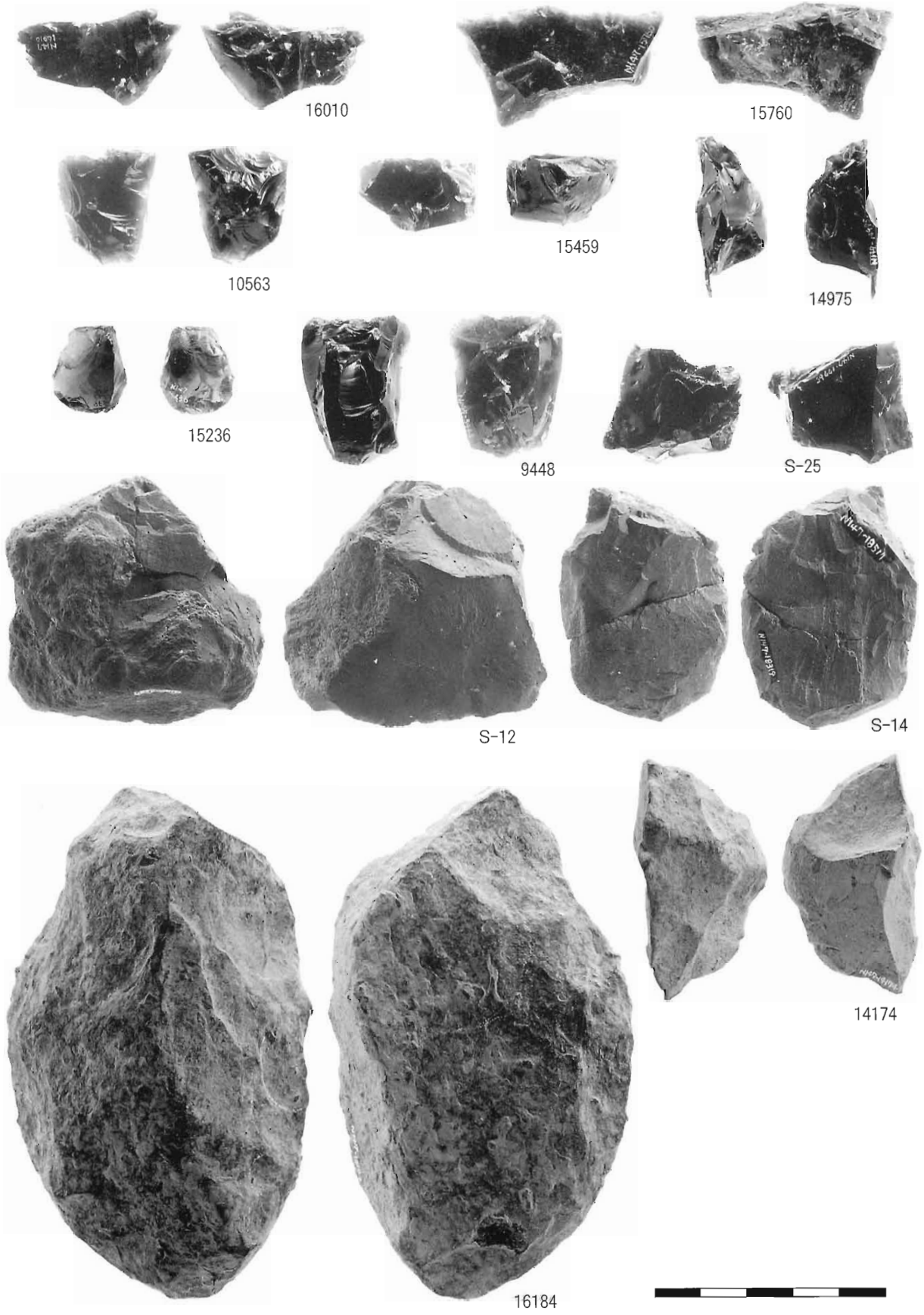
16524

16711

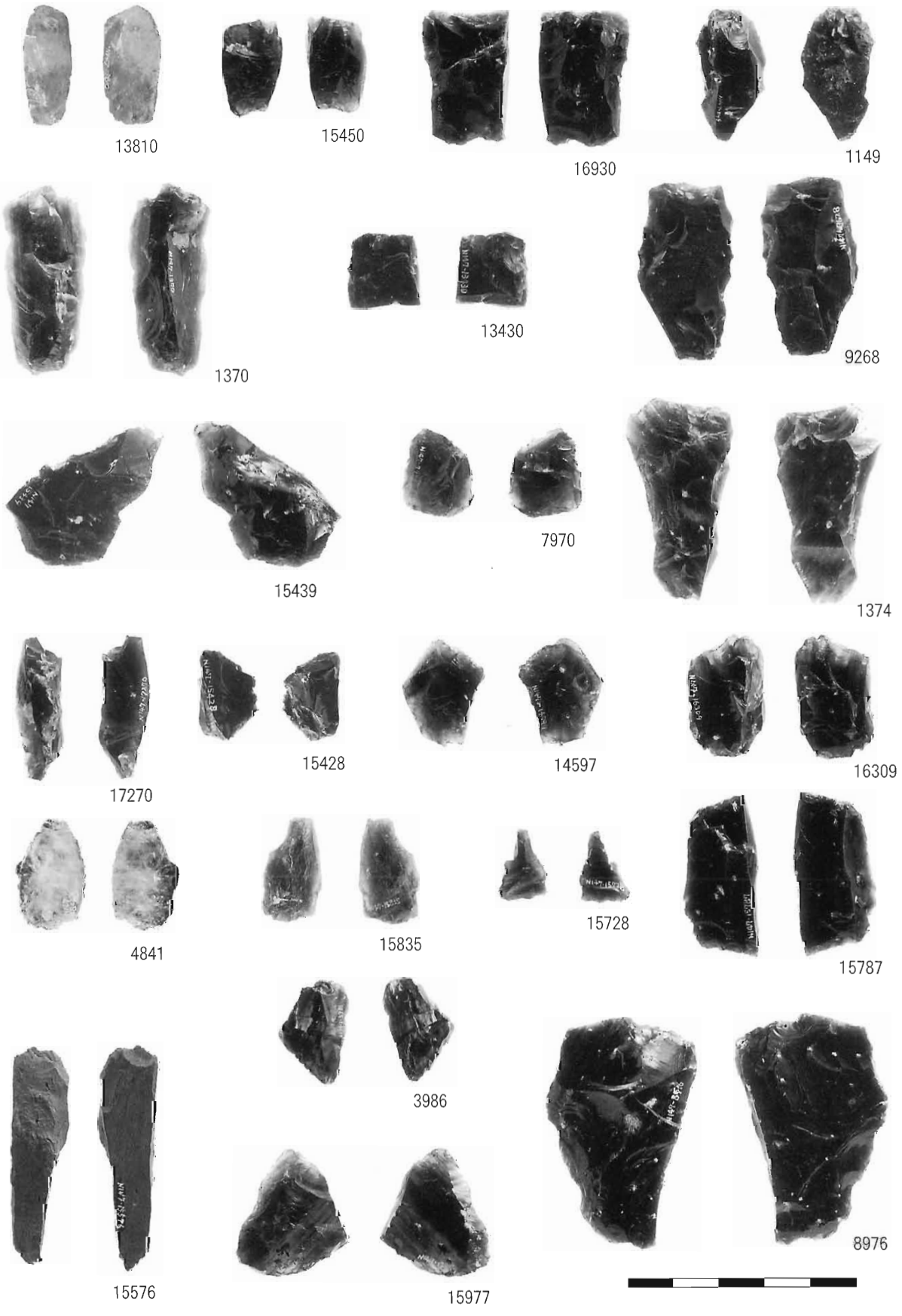
S-16

縄文時代　石器５

写真図版 20

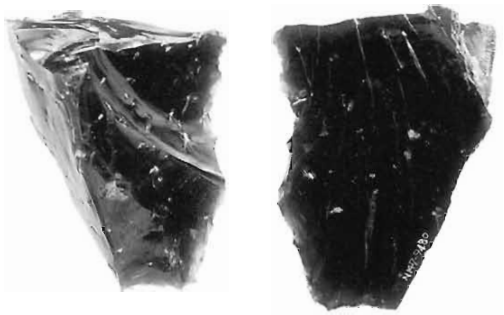


縄文時代　石器 6


13810
15450
16930
1149
1370
13430
9268
15439
7970
1374
17270
15428
14597
16309
4841
15835
15728
15787
3986
15576
15977
8976

縄文時代　石器 7

写真図版 22



9480

1778

10486

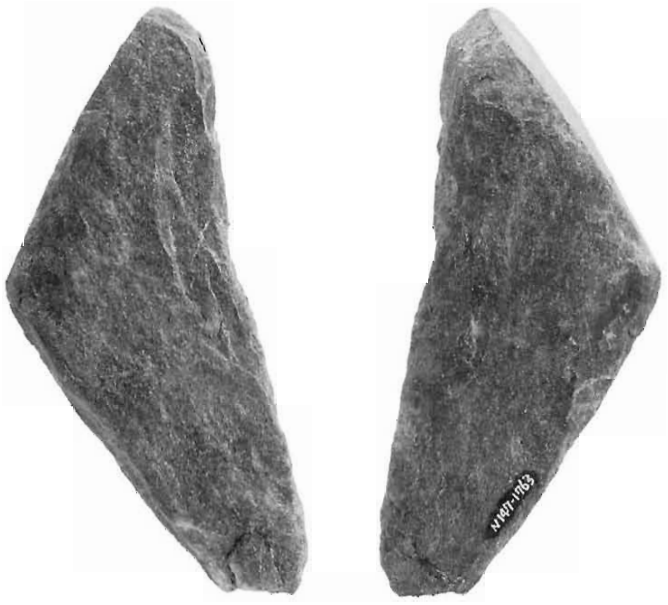
1502

10711

12369

7546

10396



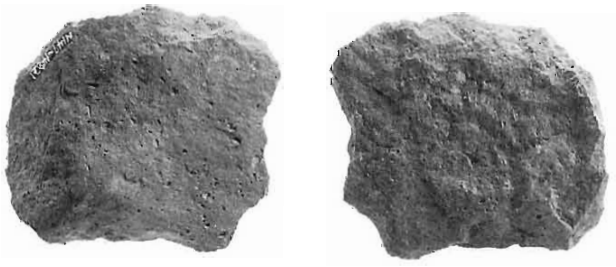
1763

7344

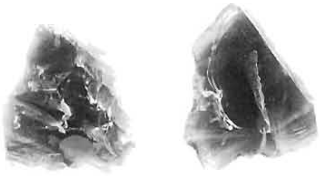
860

9205

10279

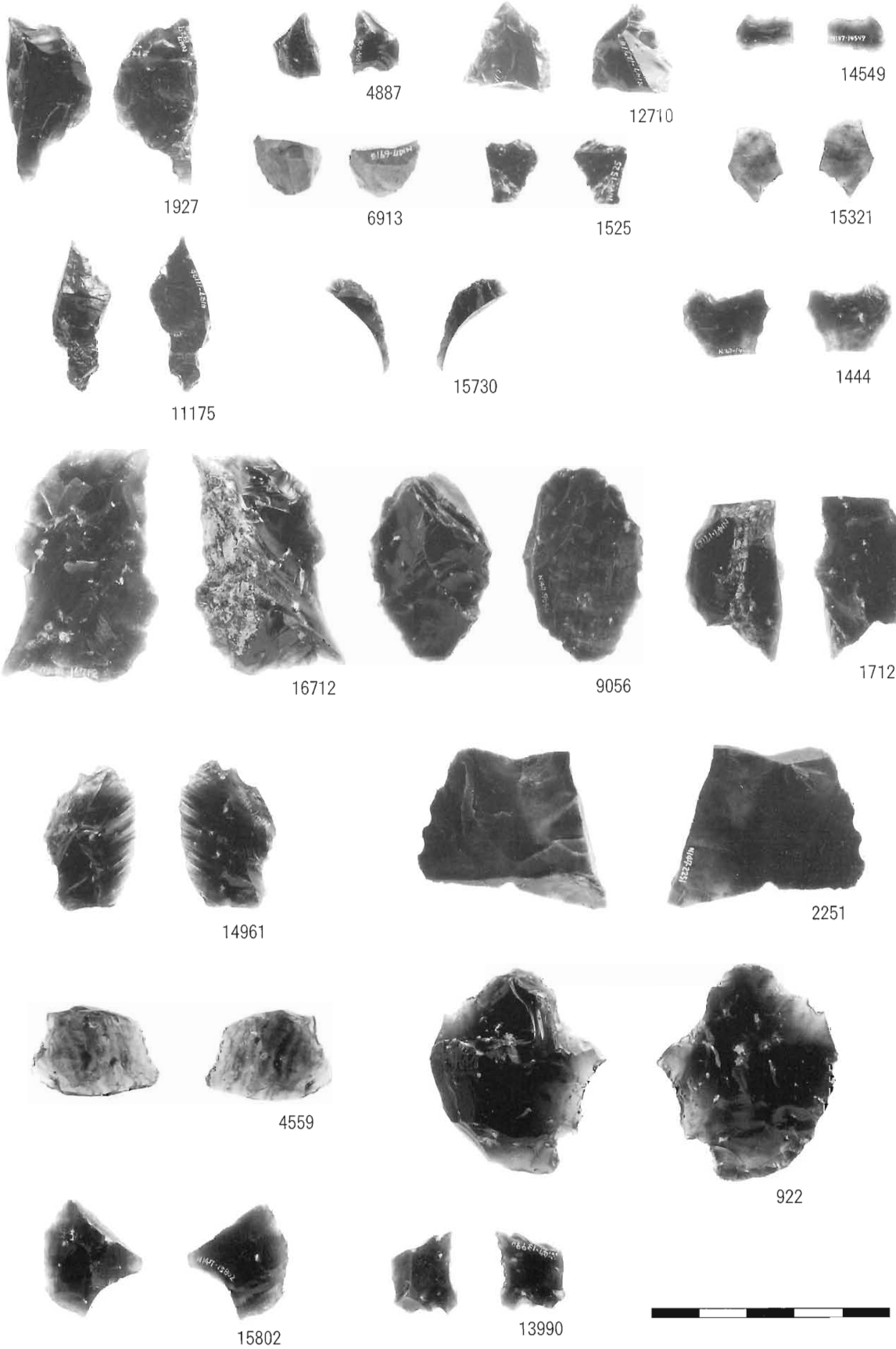


14821



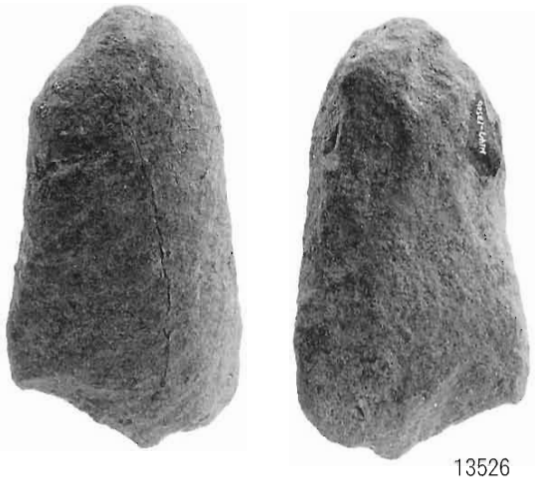
7352

縄文時代　石器 8

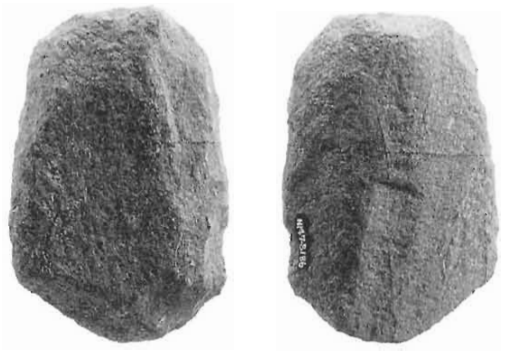

1927
4887
12710
14549
6913
1525
15321
11175
15730
1444
16712
9056
17123
14961
2251
4559
922
15802
13990

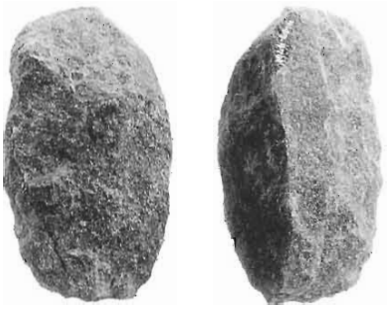
縄文時代　石器 9

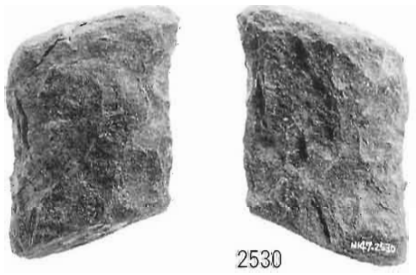
写真図版24

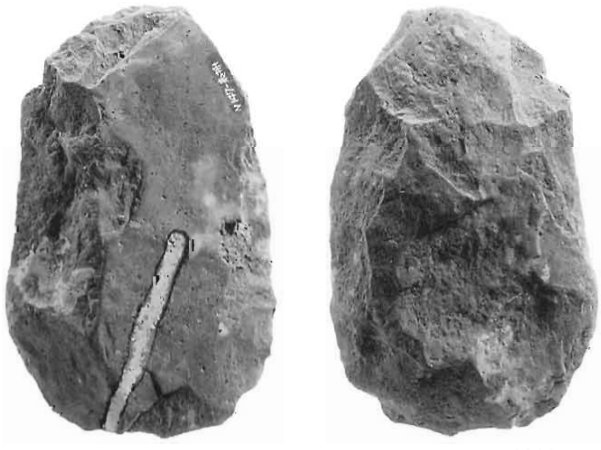

13526

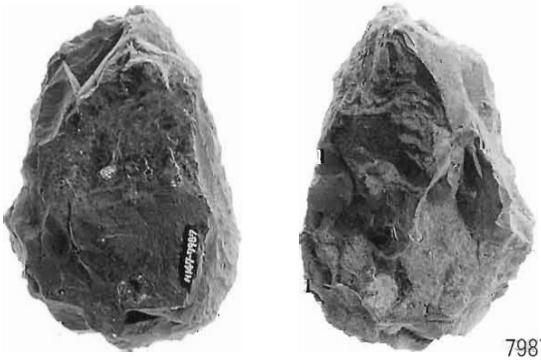
5738


8186

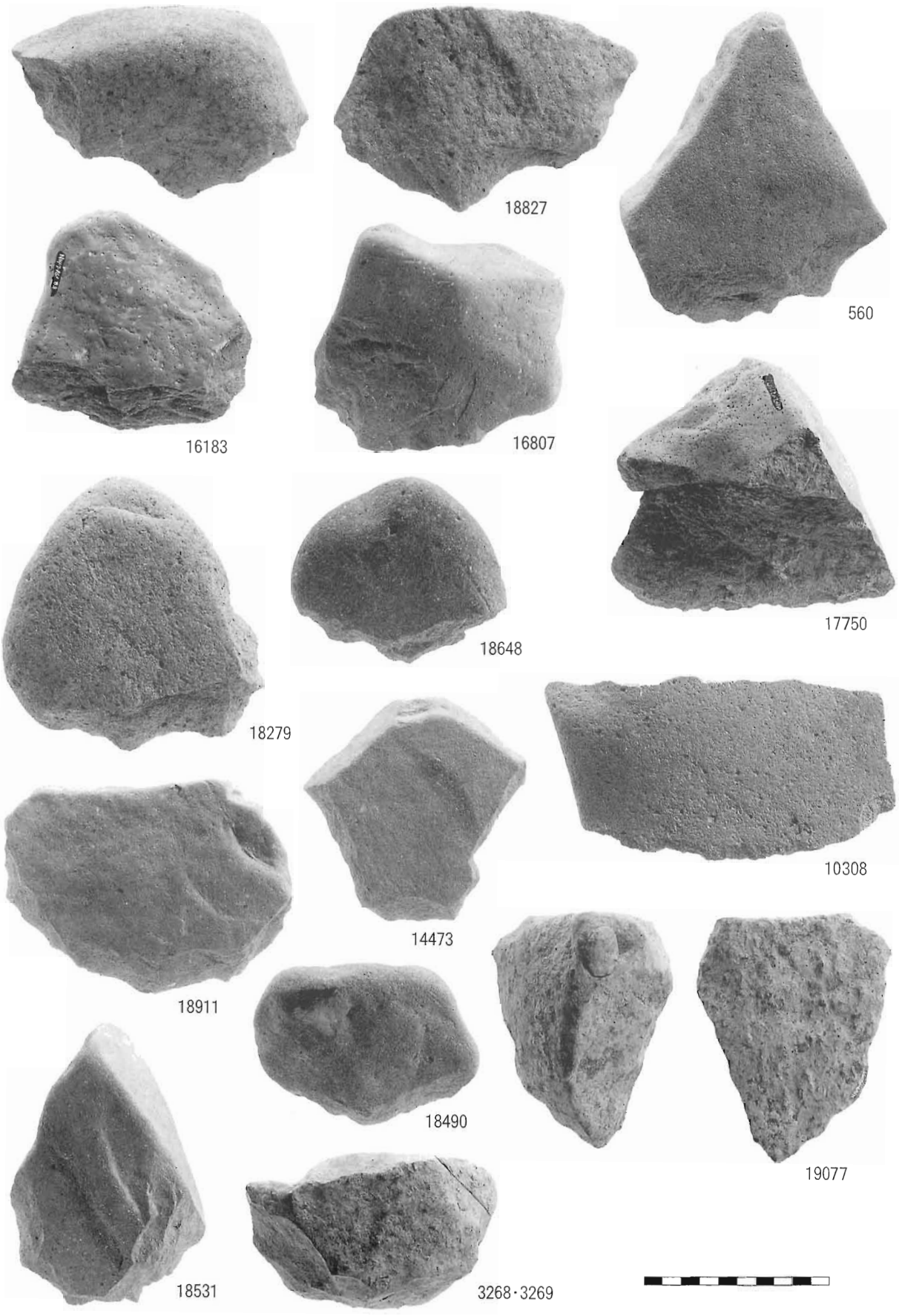

9701


2530


19398

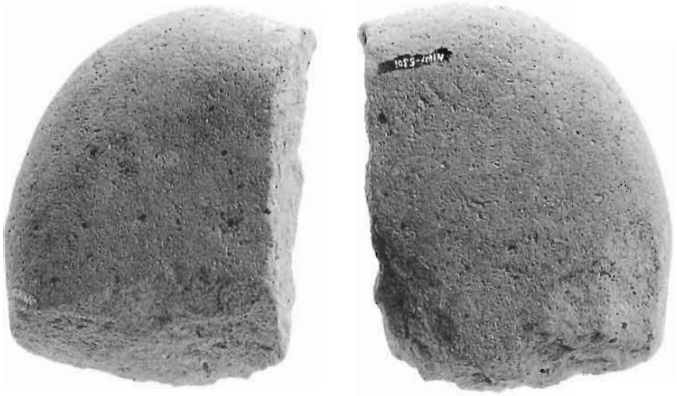

7987

縄文時代　石器10

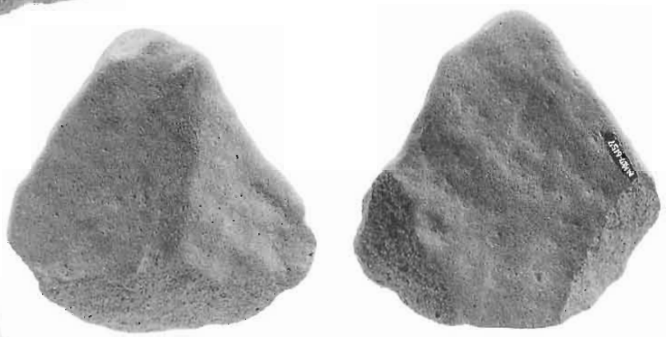

18827
560
16183
16807
17750
18648
18279
10308
14473
18911
18490
19077
18531
3268・3269

縄文時代　石器11

写真図版 26

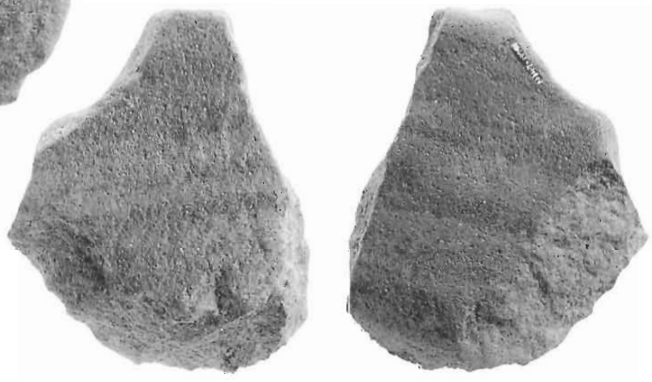


5301



6157

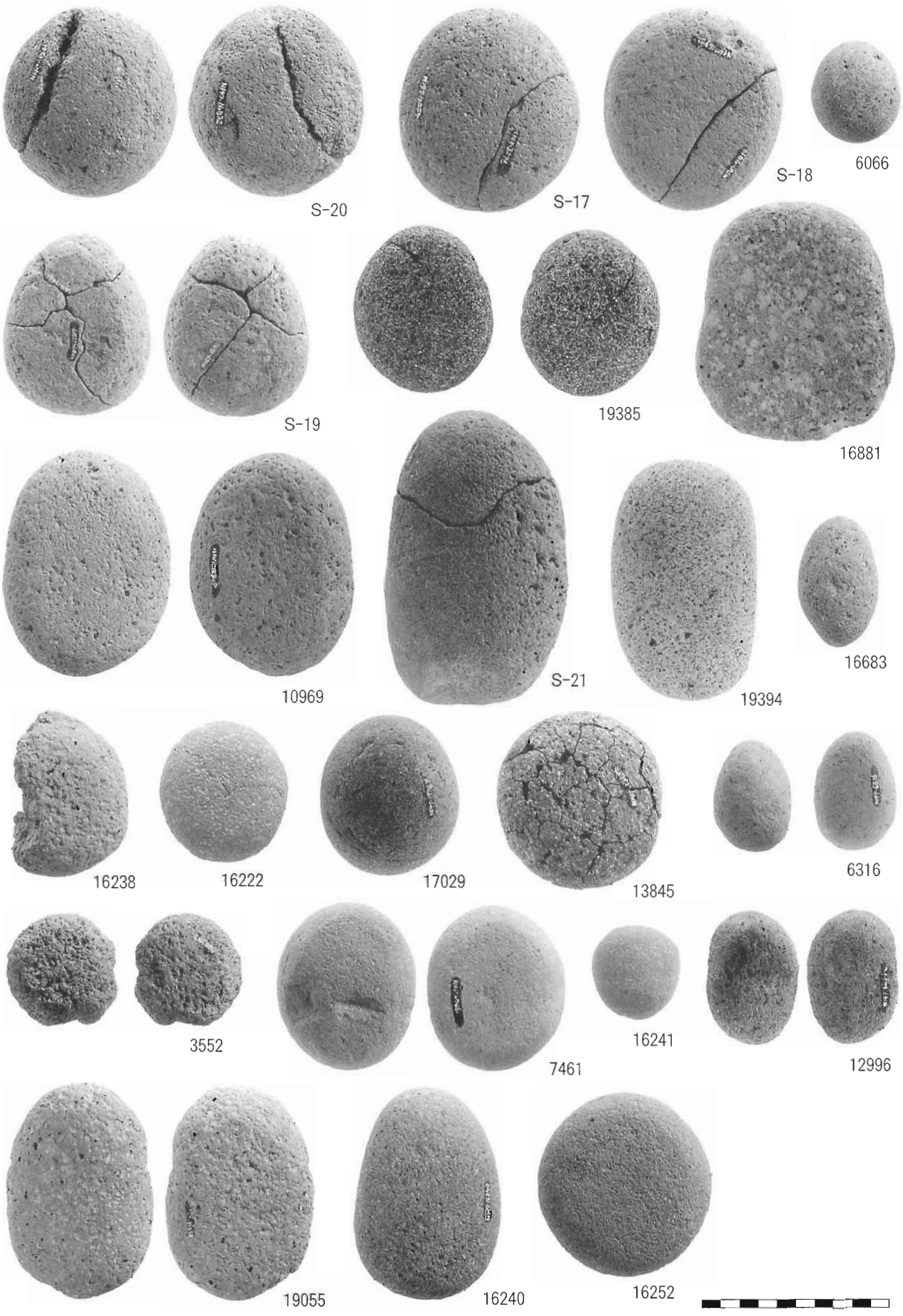
5693



17790

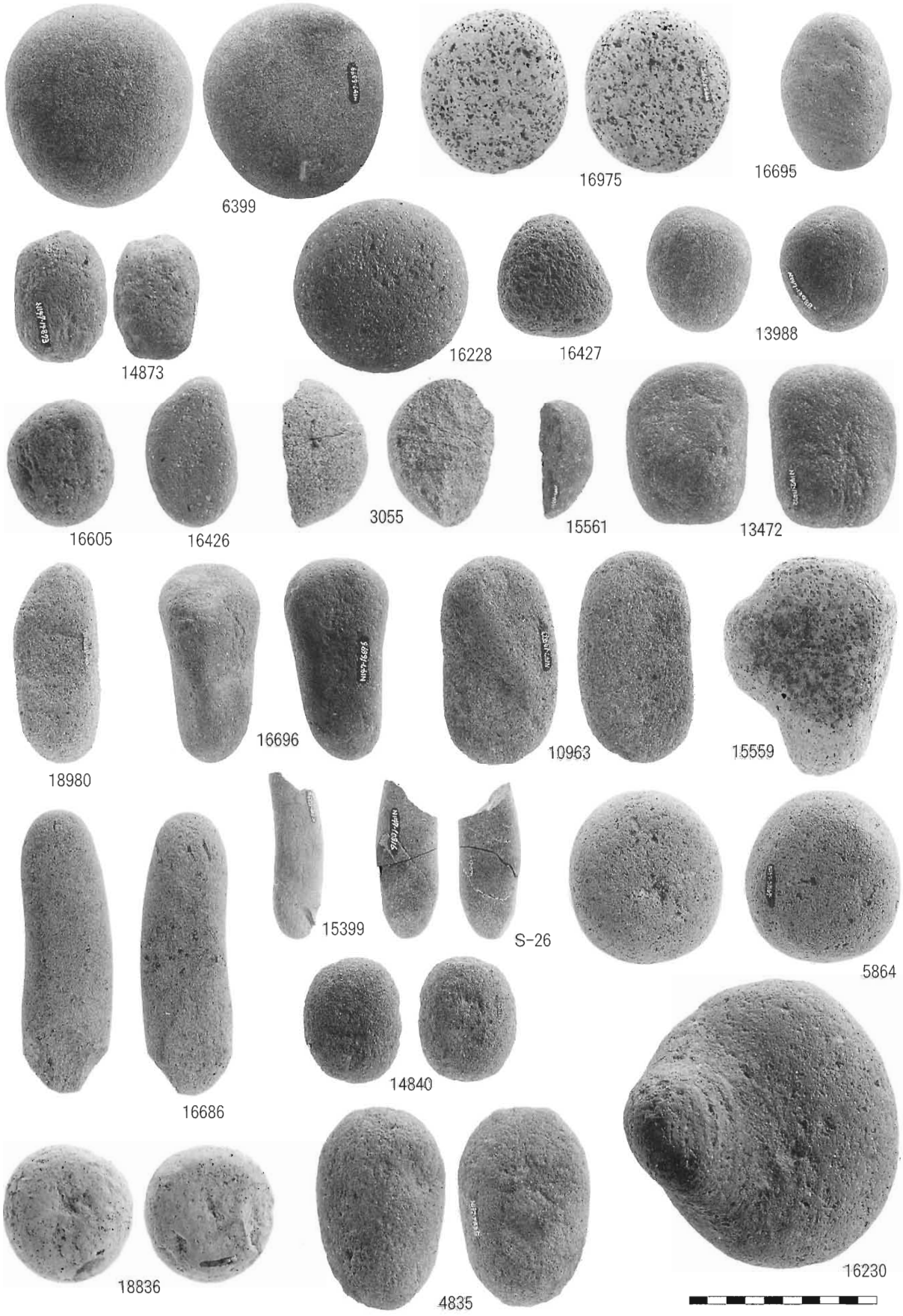
13621

縄文時代　石器12

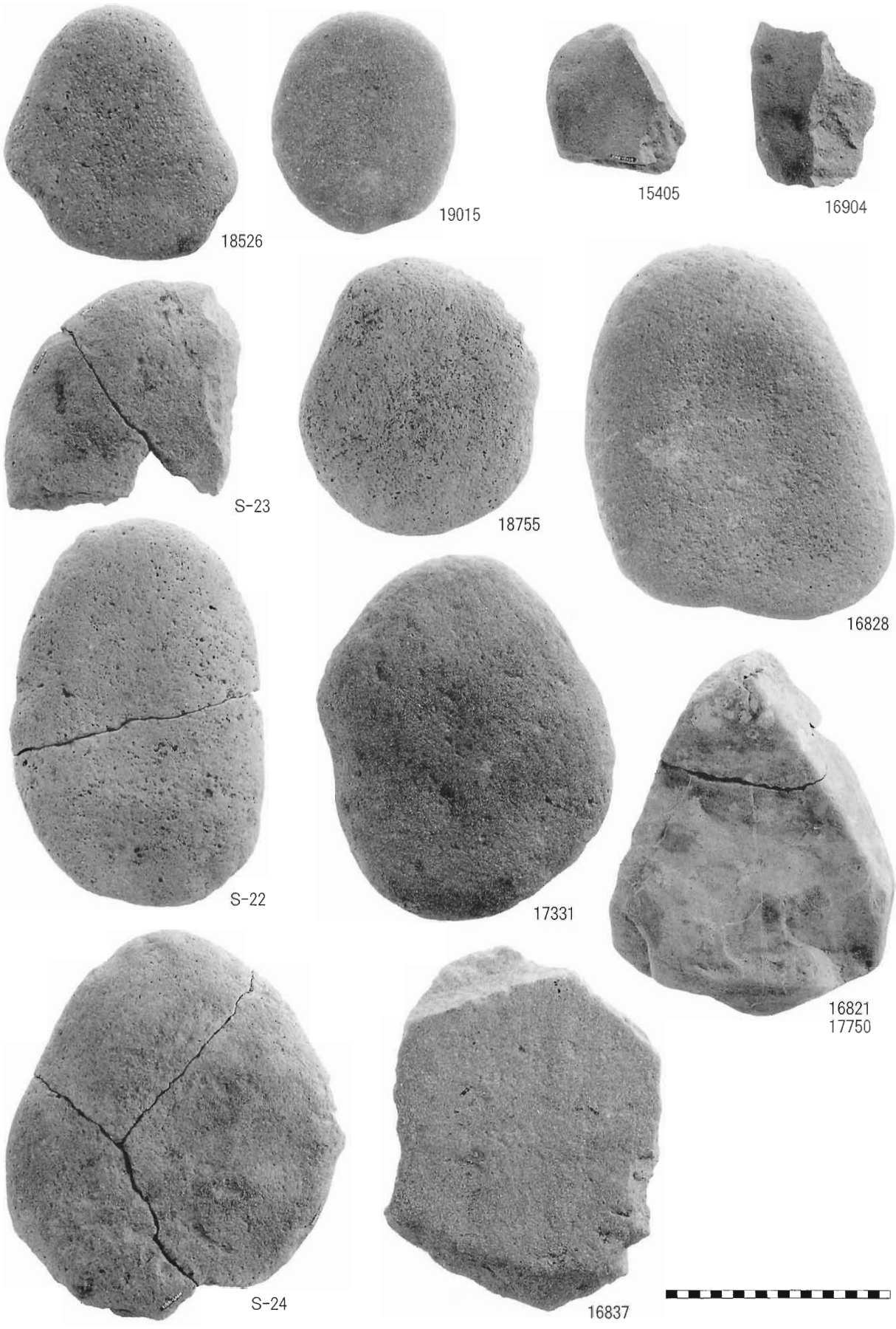

S-20
S-17
S-18
6066
S-19
19385
16881
10969
S-21
19394
16683
16238
16222
17029
13845
6316
3552
16241
7461
12996
19055
16240
16252

縄文時代　石器13

写真図版 28



縄文時代　石器14


18526
19015
15405
16904
S-23
18755
16828
S-22
17331
16821
17750
S-24
16837

縄文時代　石器15

写真図版30

16841

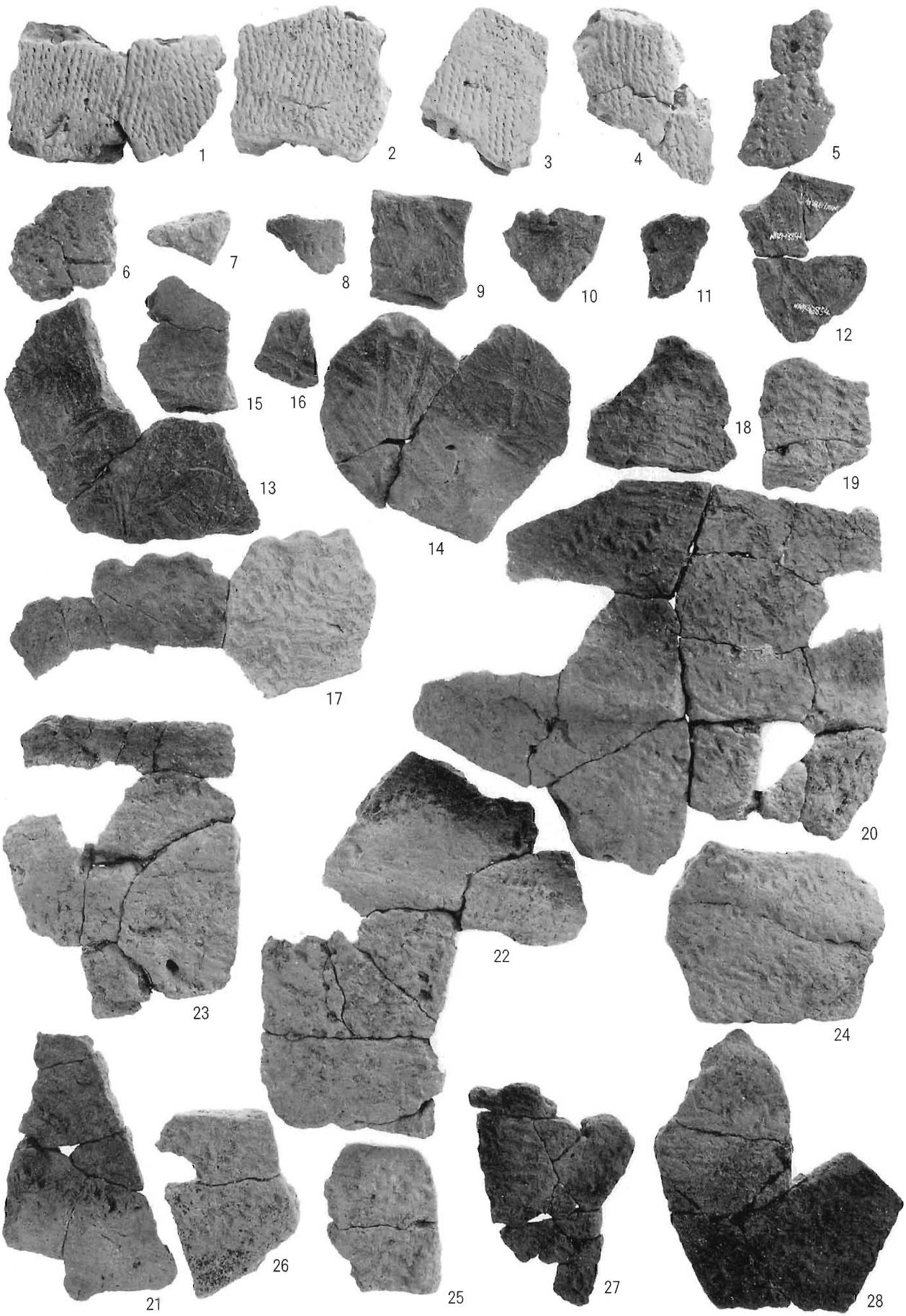
17898

16823

16819

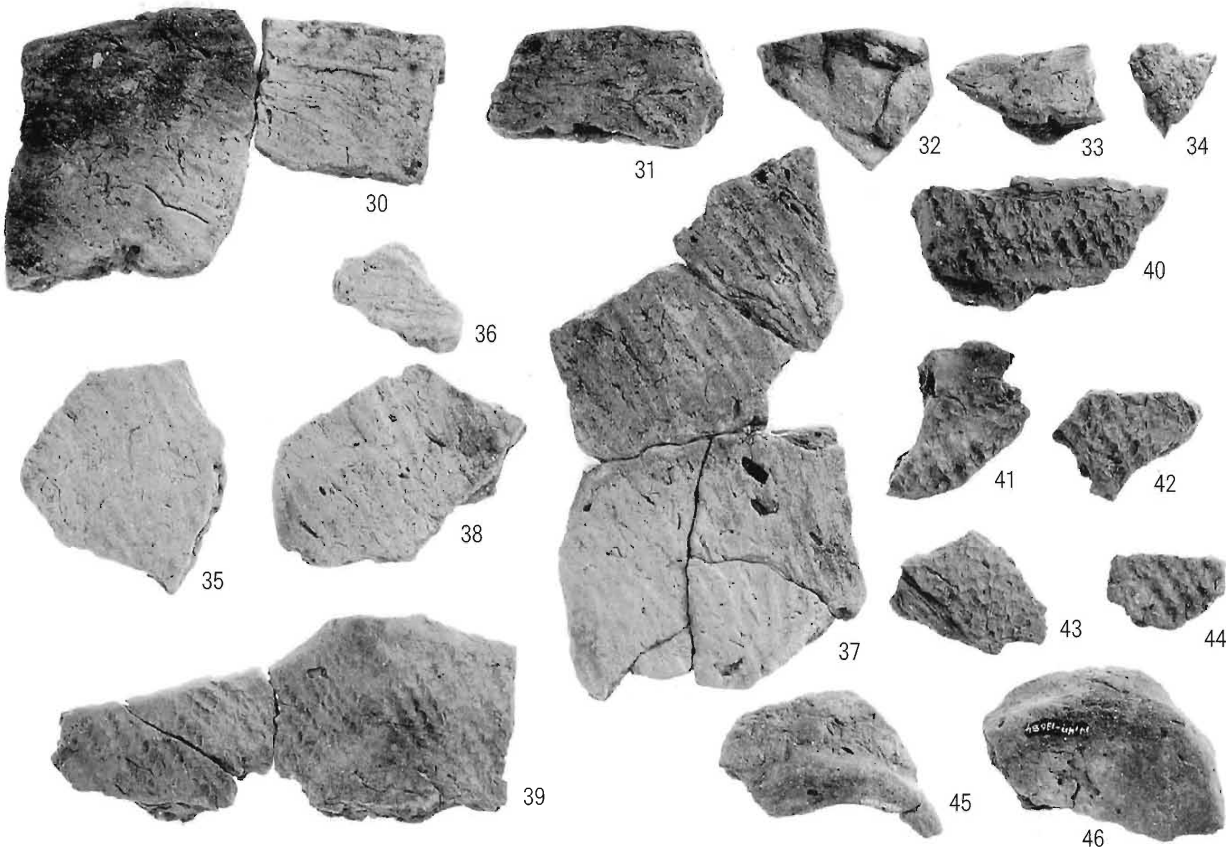
16901

縄文時代　石器16

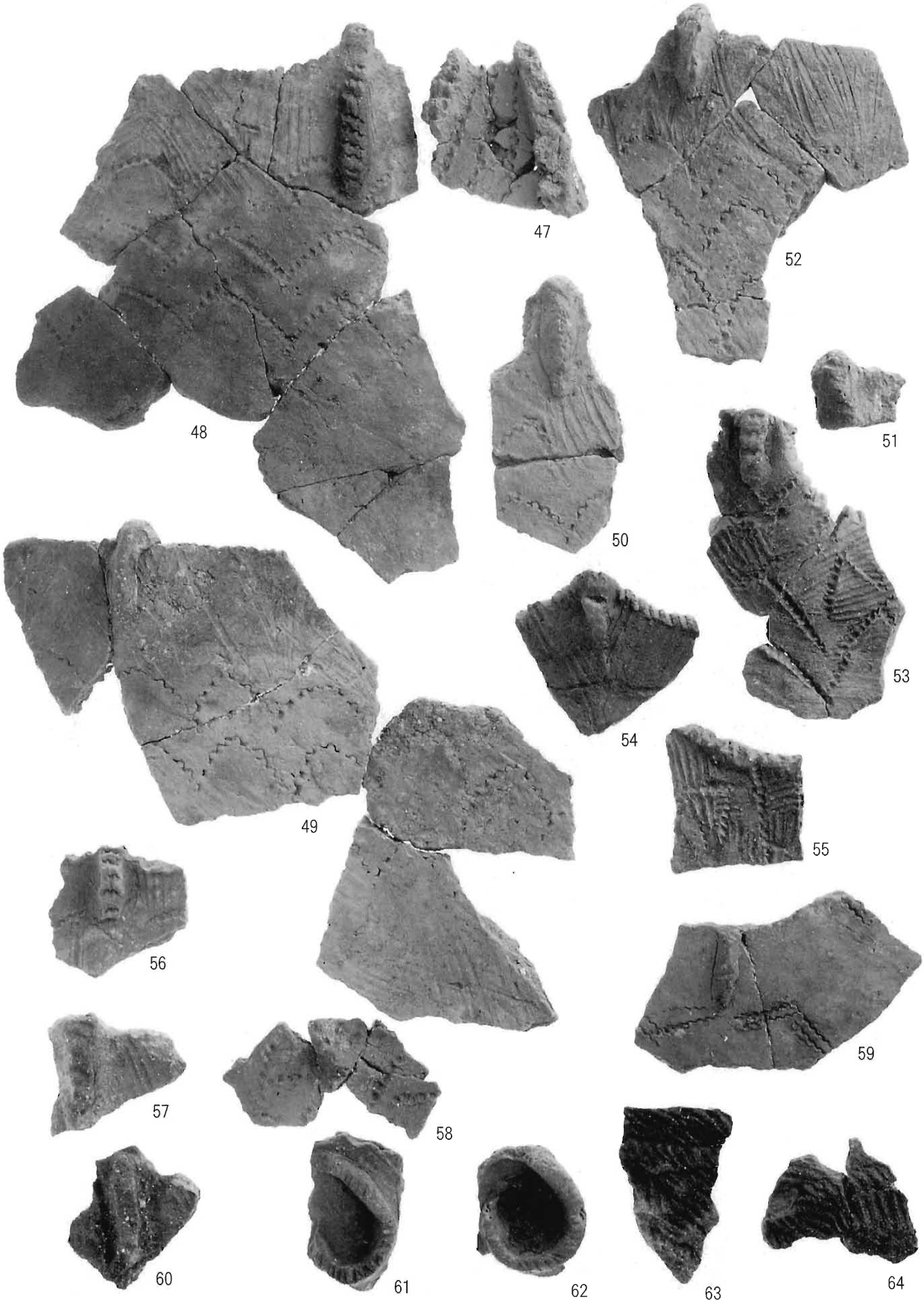


縄文時代　土器1

写真図版32

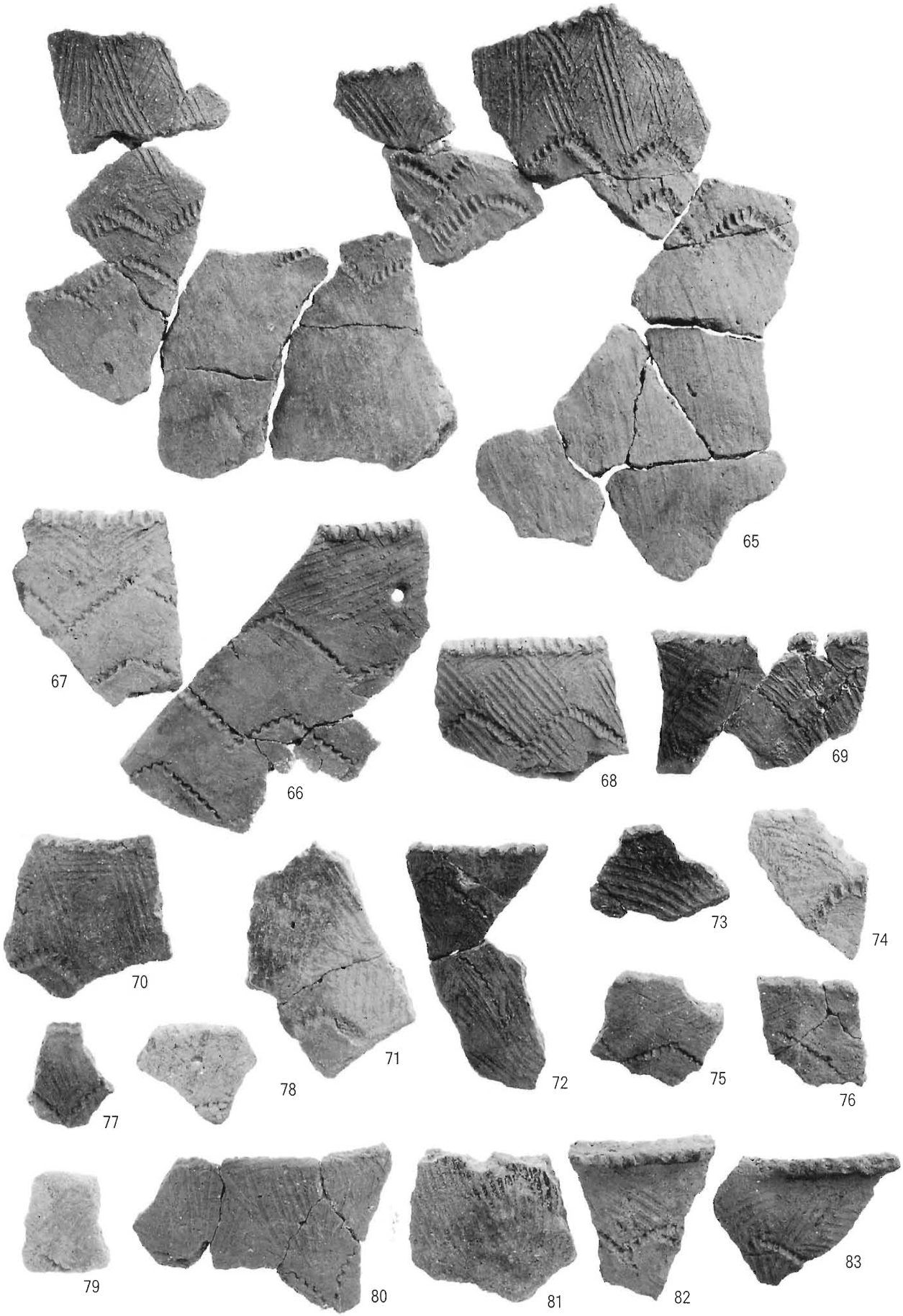


縄文時代　土器２

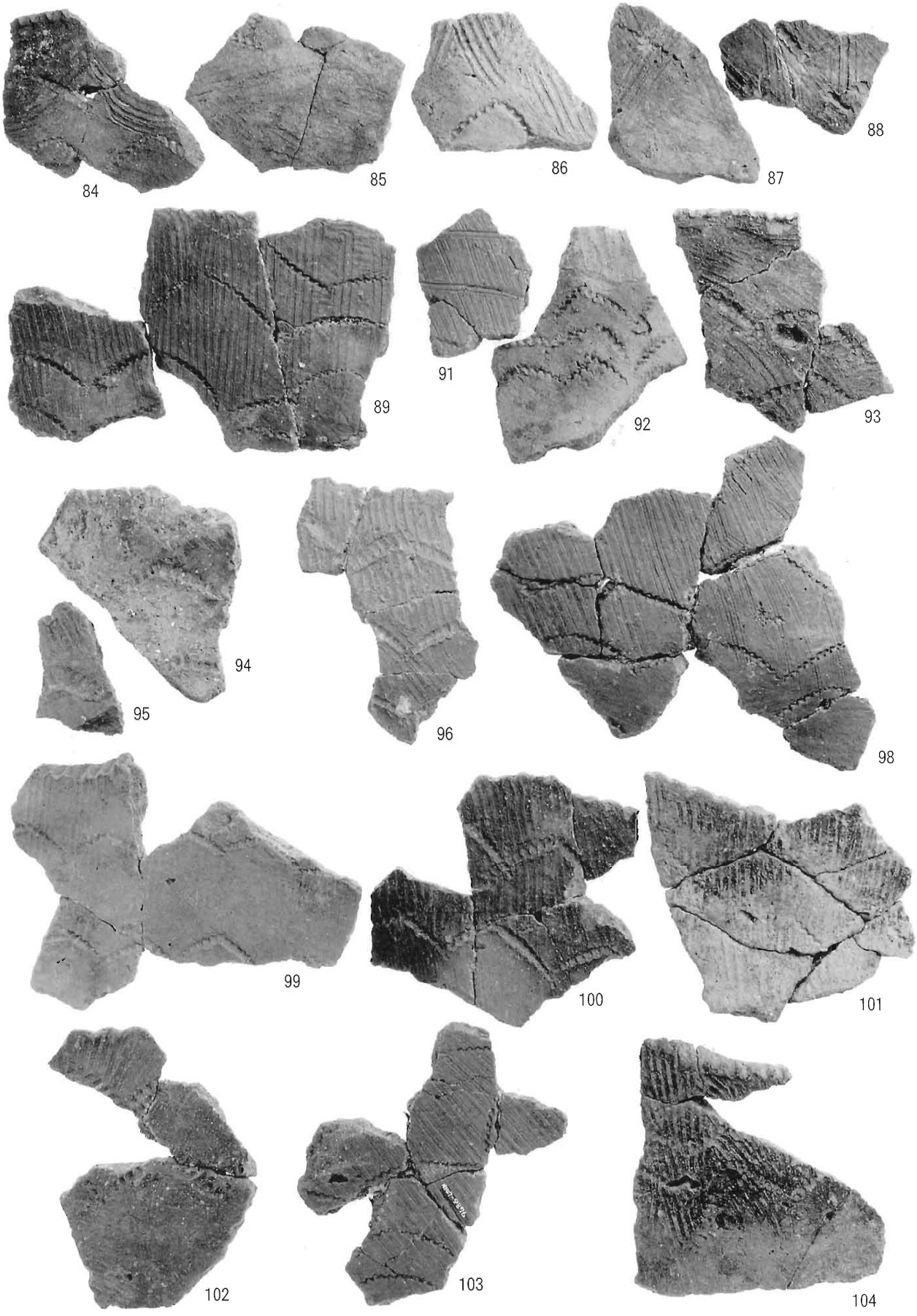


縄文時代　土器３

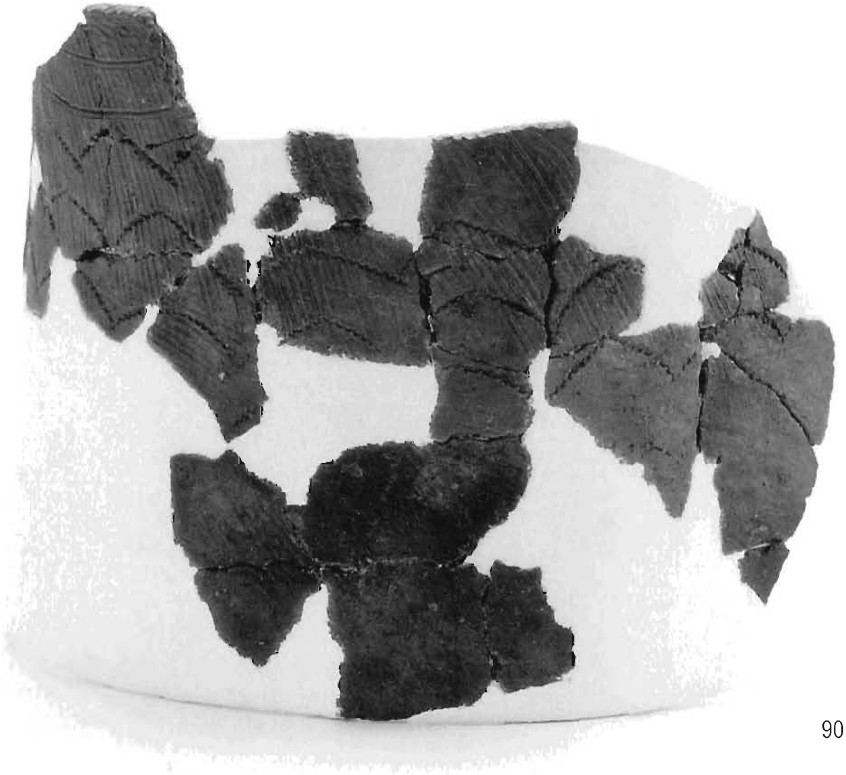
写真図版34



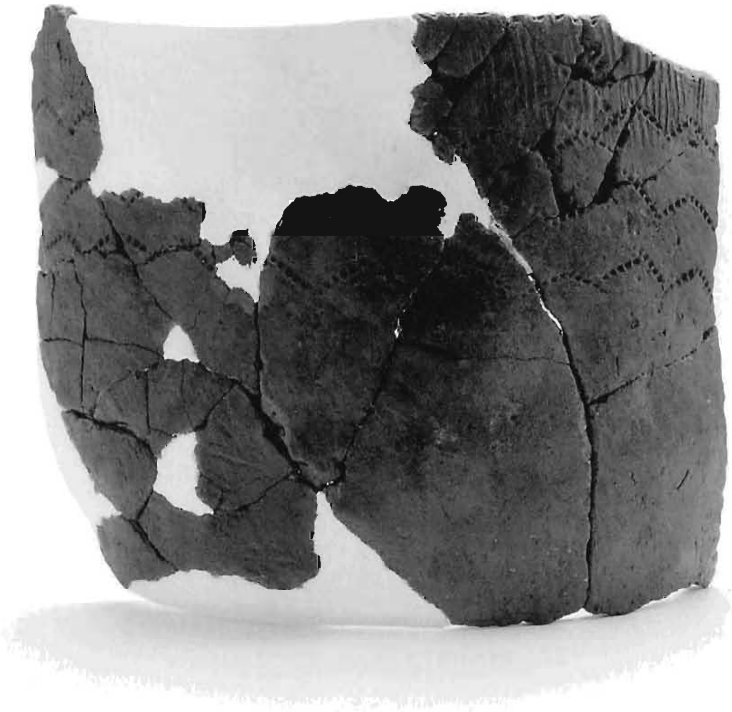
縄文時代　土器４



縄文時代　土器５

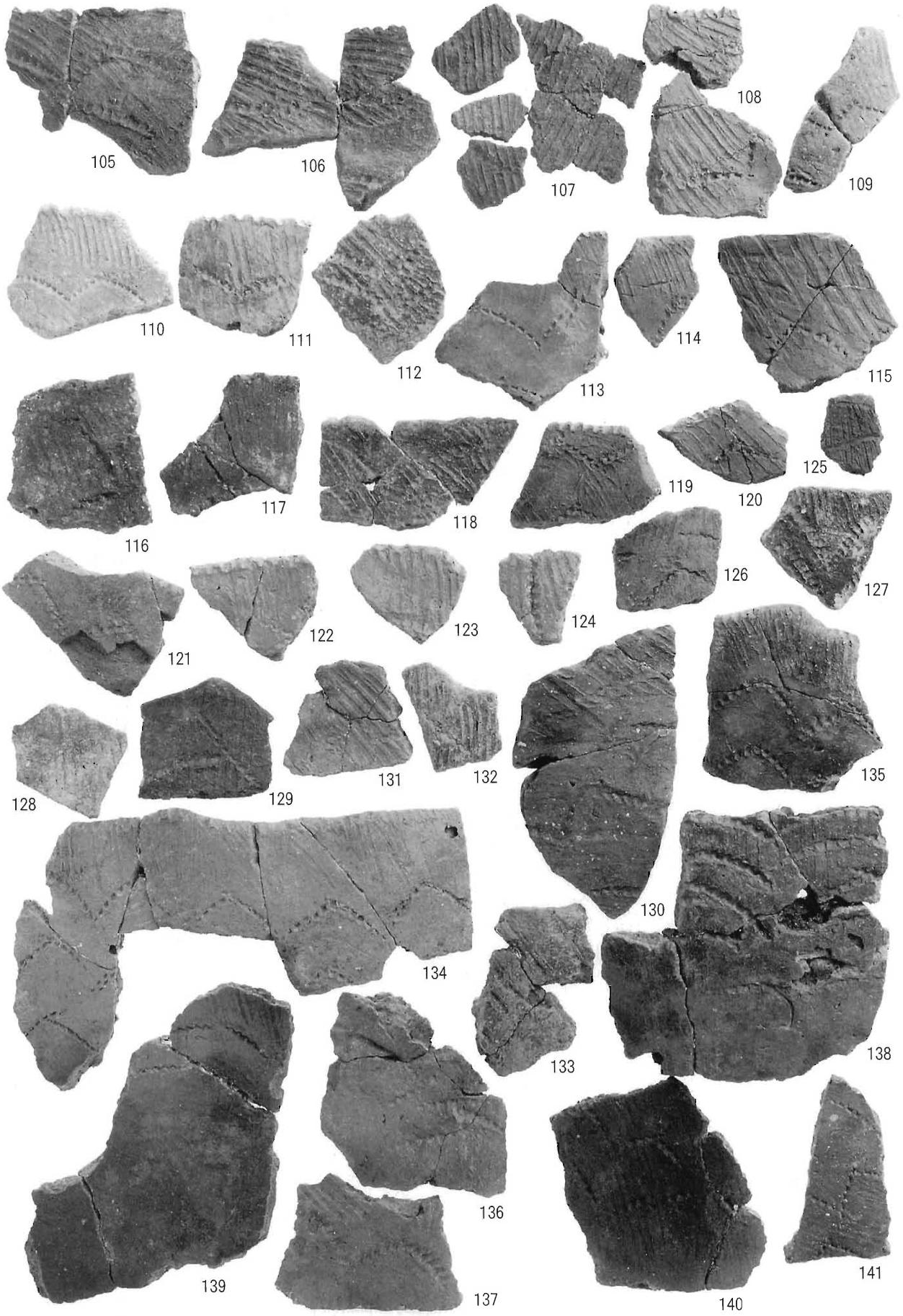


90



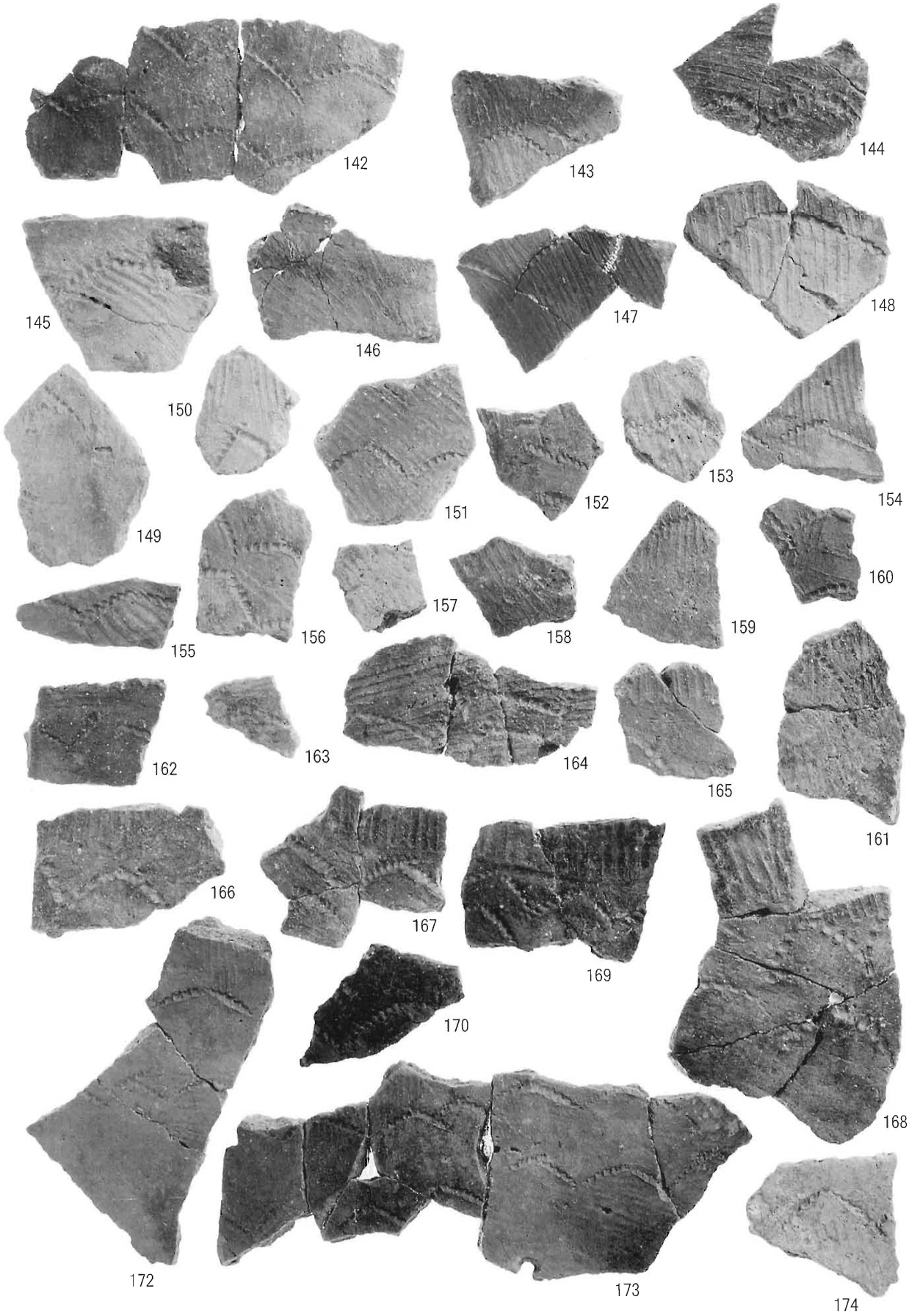
97

縄文時代　土器 6


105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
125
121
122
123
124
126
127
128
129
131
132
135
130
134
133
138
139
136
137
140
141

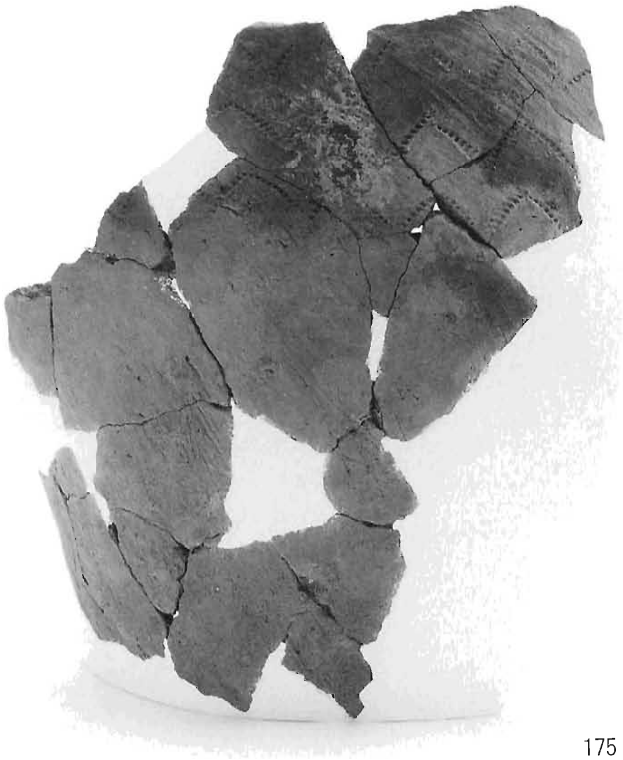
縄文時代　土器 7

写真図版38



縄文時代　土器８

171



175

縄文時代　土器 9

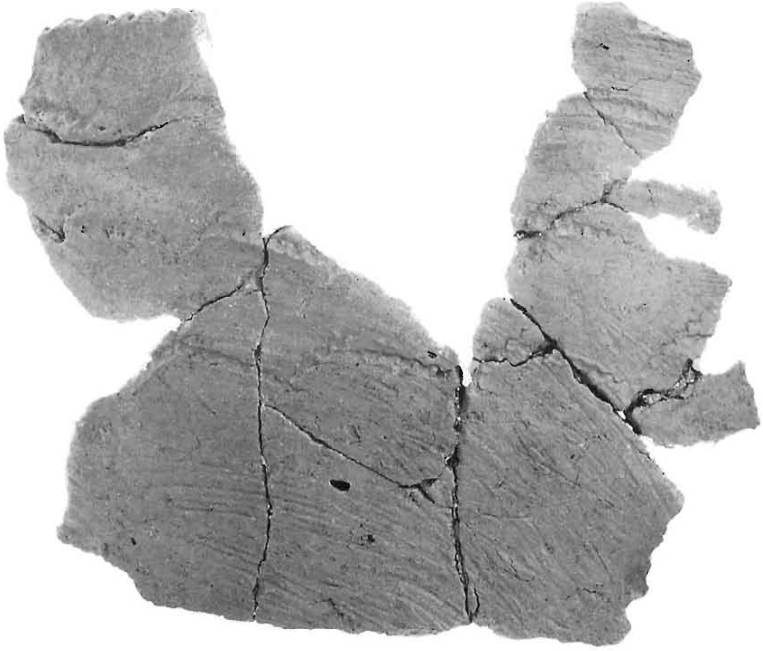
写真図版 40

176

178

179

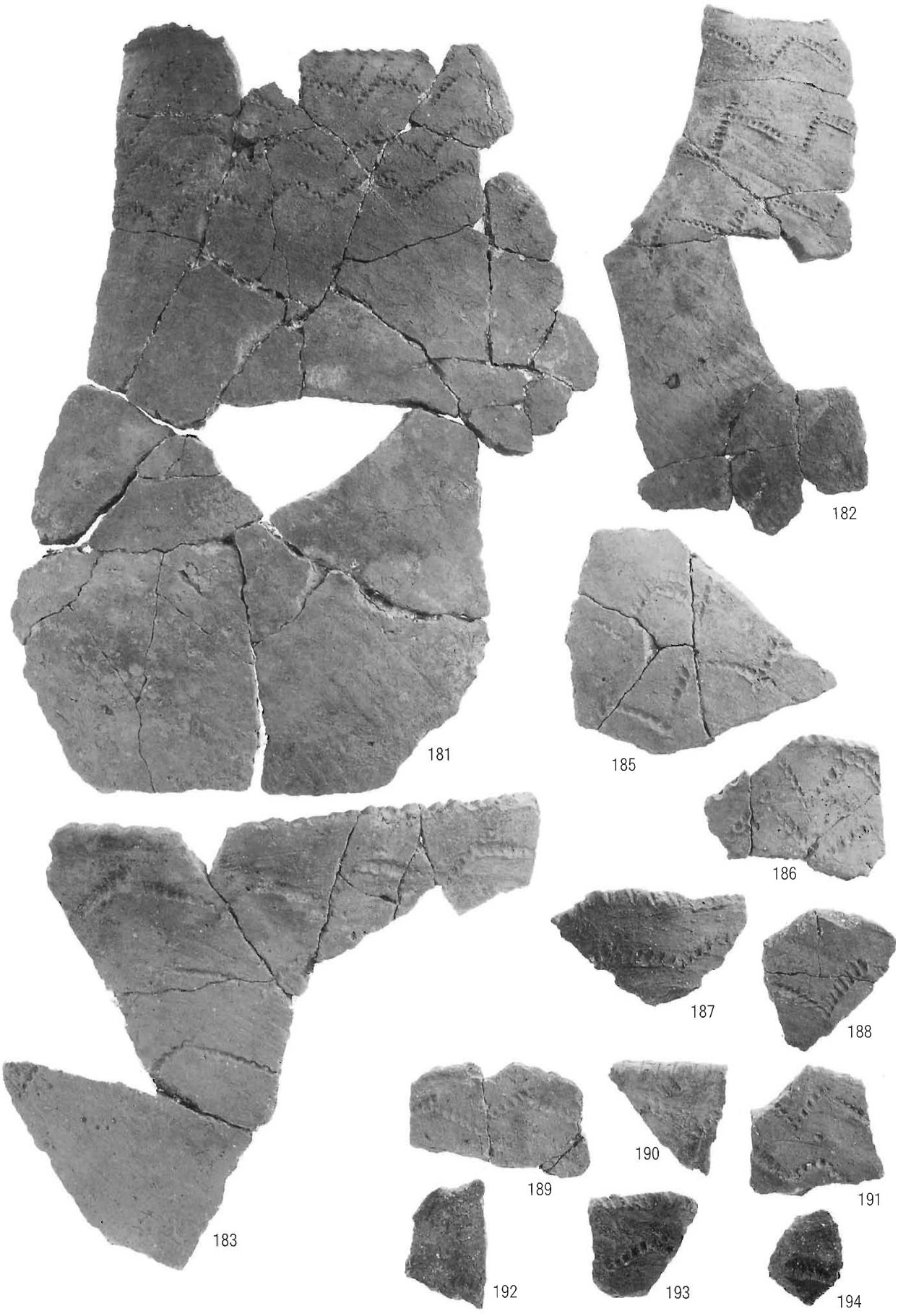
177



184

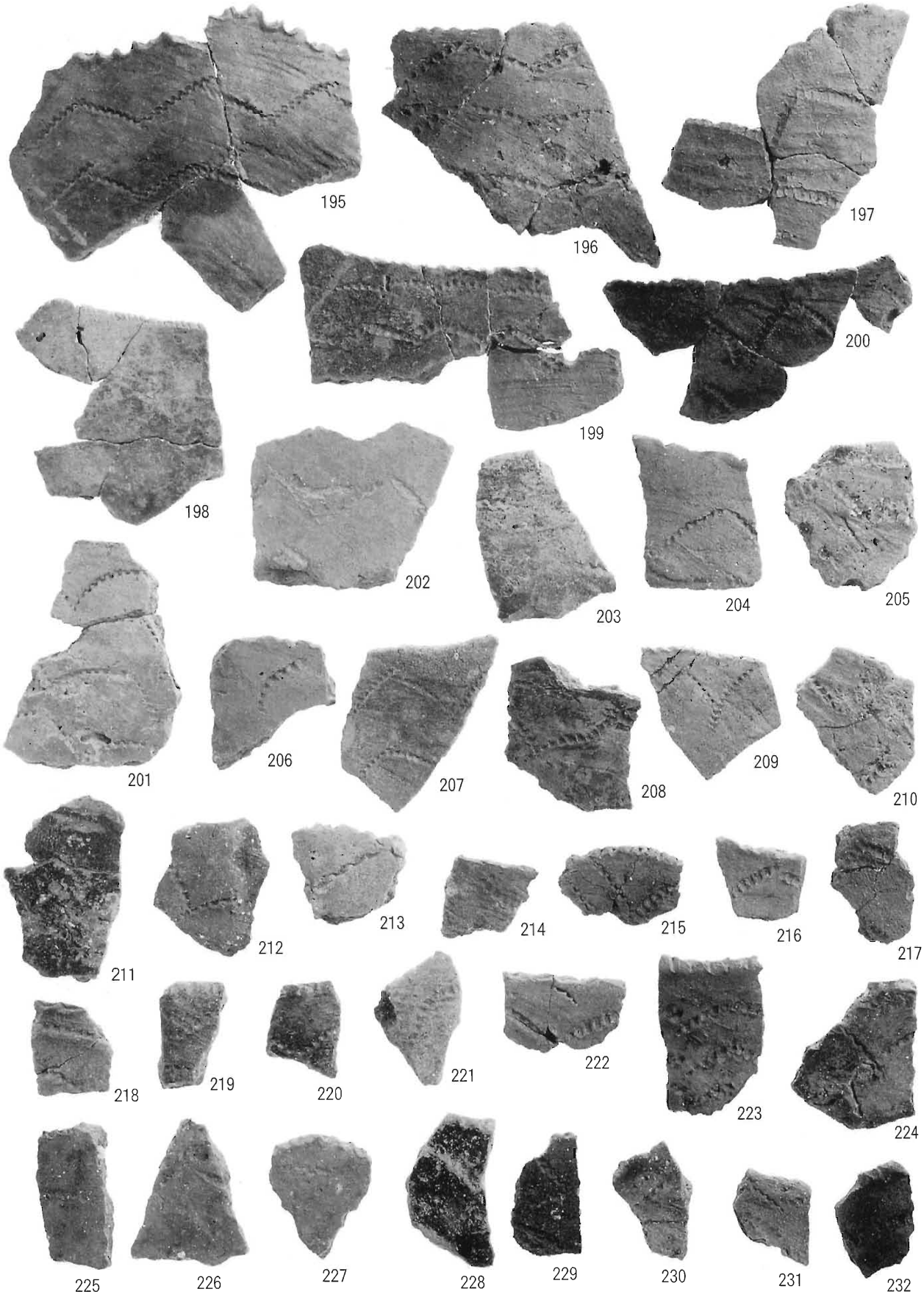
180

縄文時代　土器10

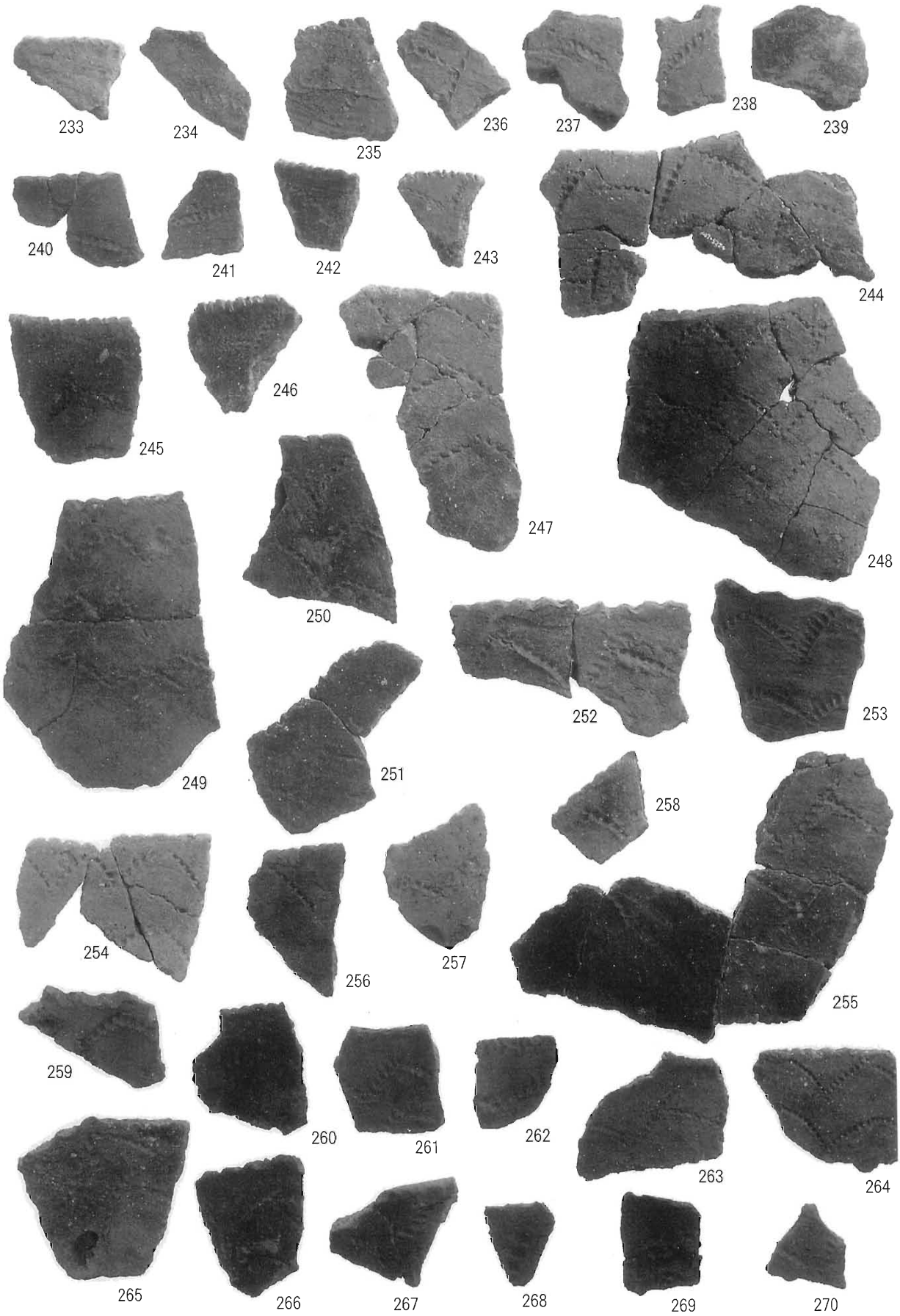


縄文時代　土器11

写真図版 42

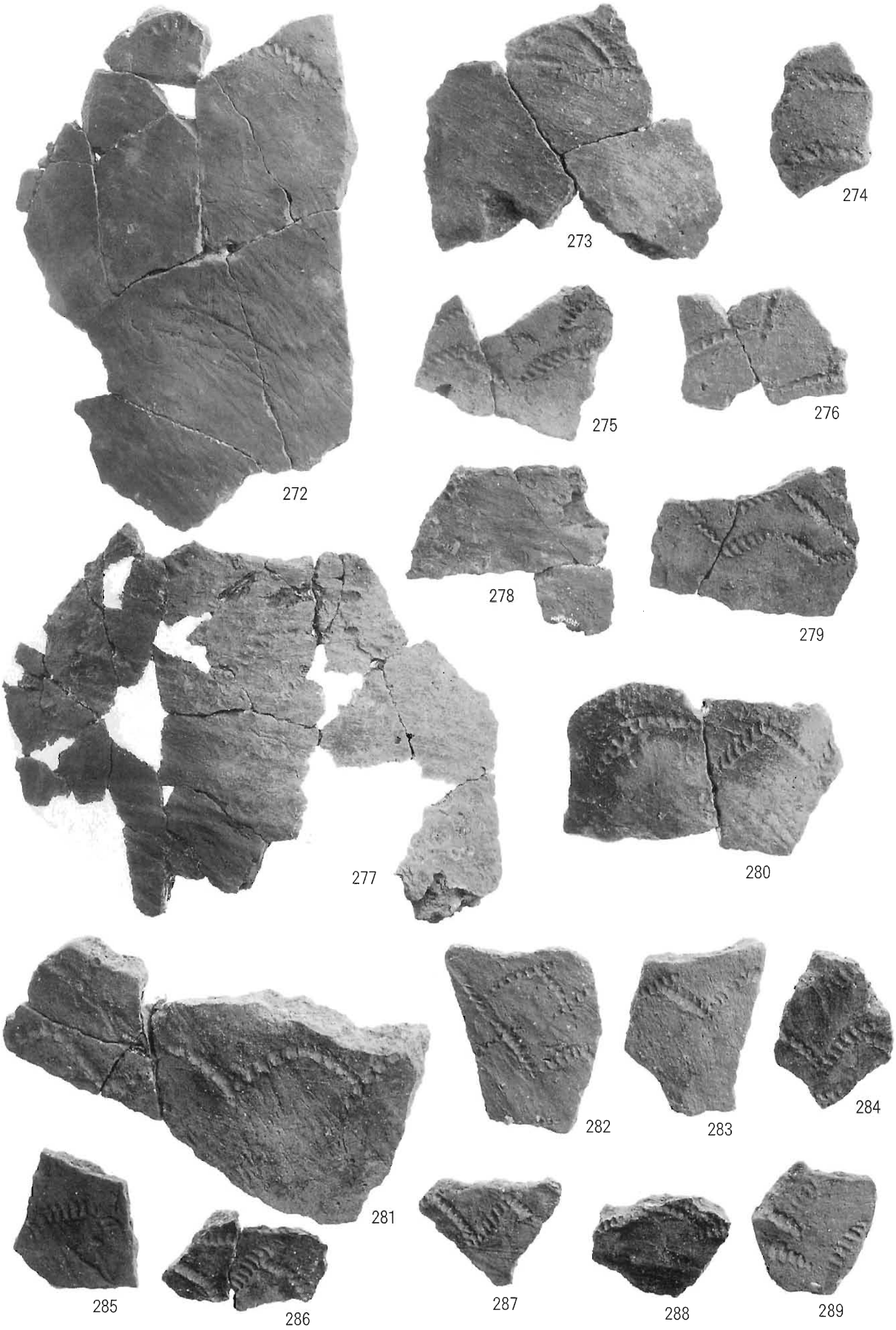


縄文時代　土器12

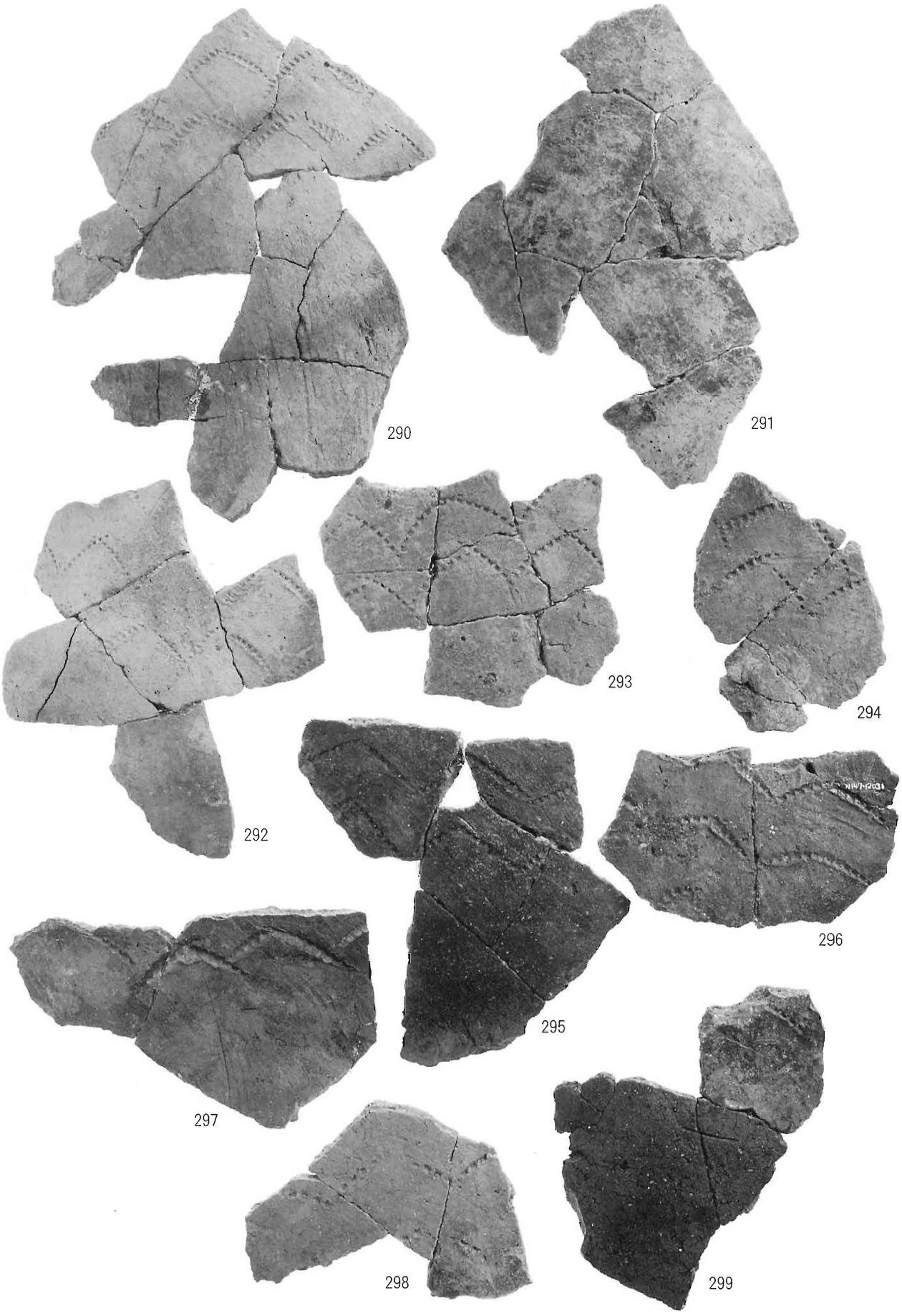

233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270

縄文時代　土器13

写真図版 44

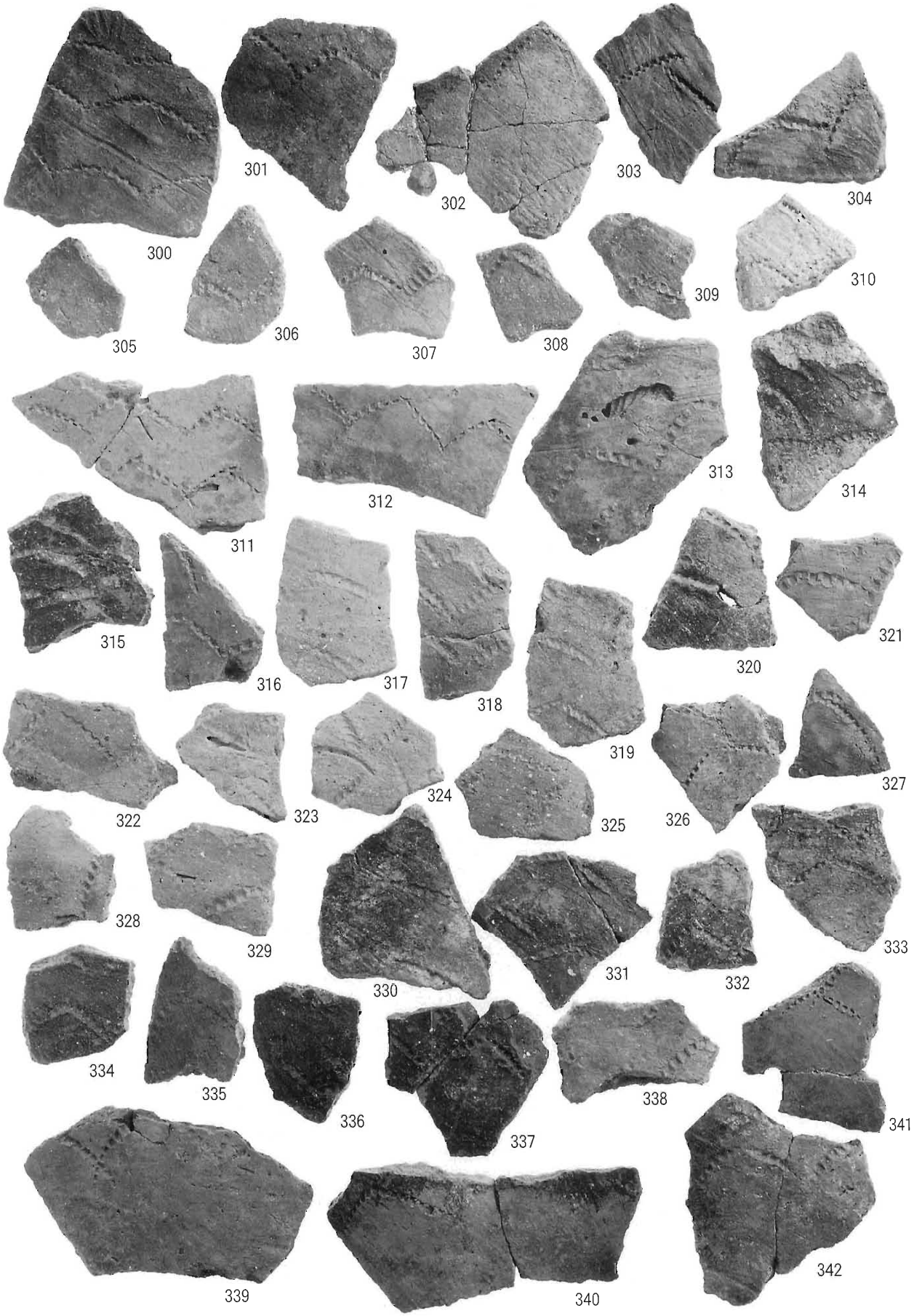


縄文時代　土器14



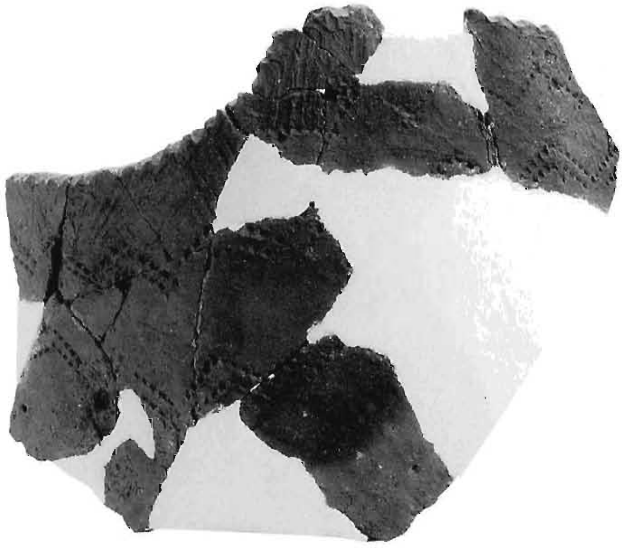
縄文時代　土器15

写真図版 46



縄文時代　土器16

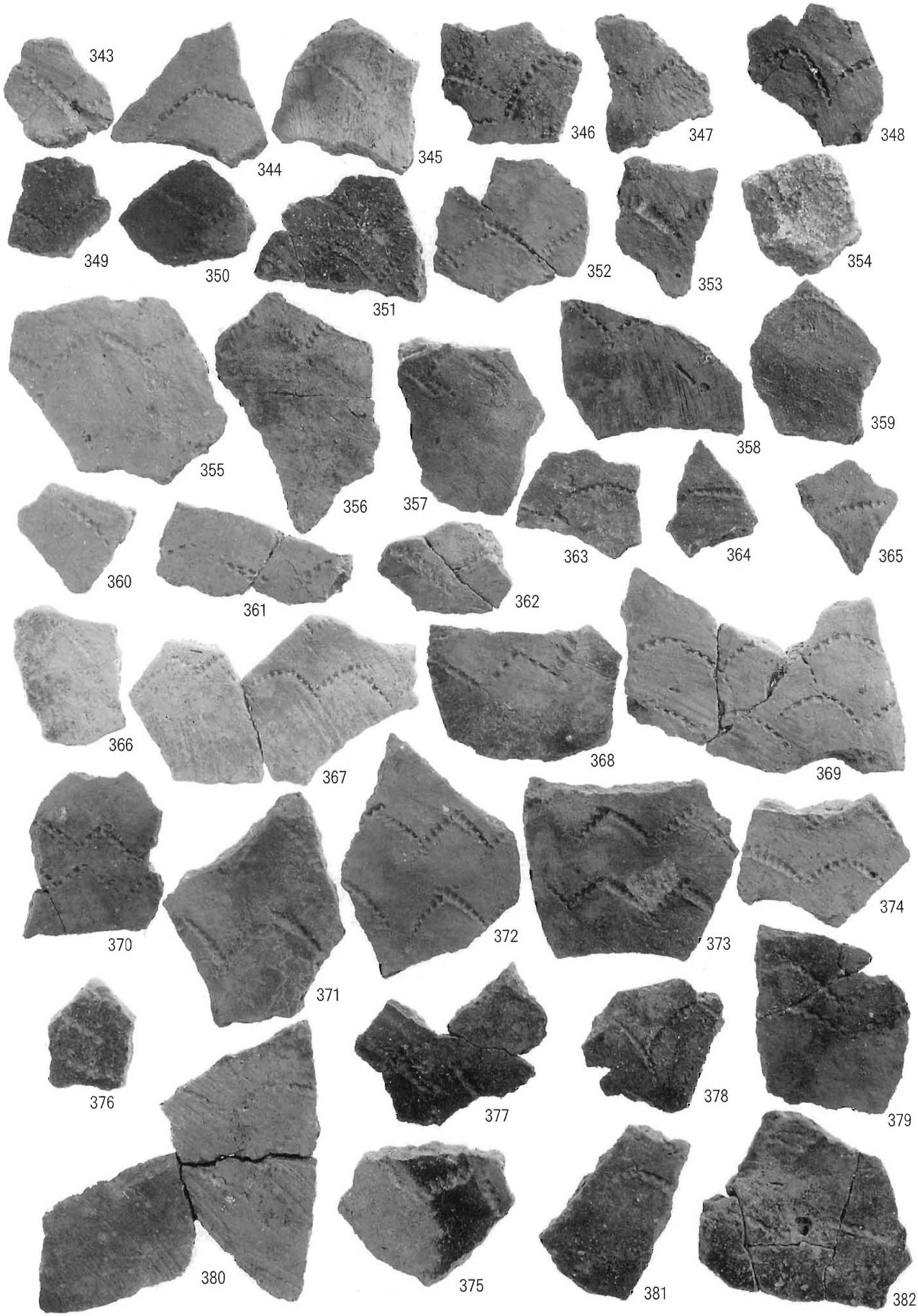
271



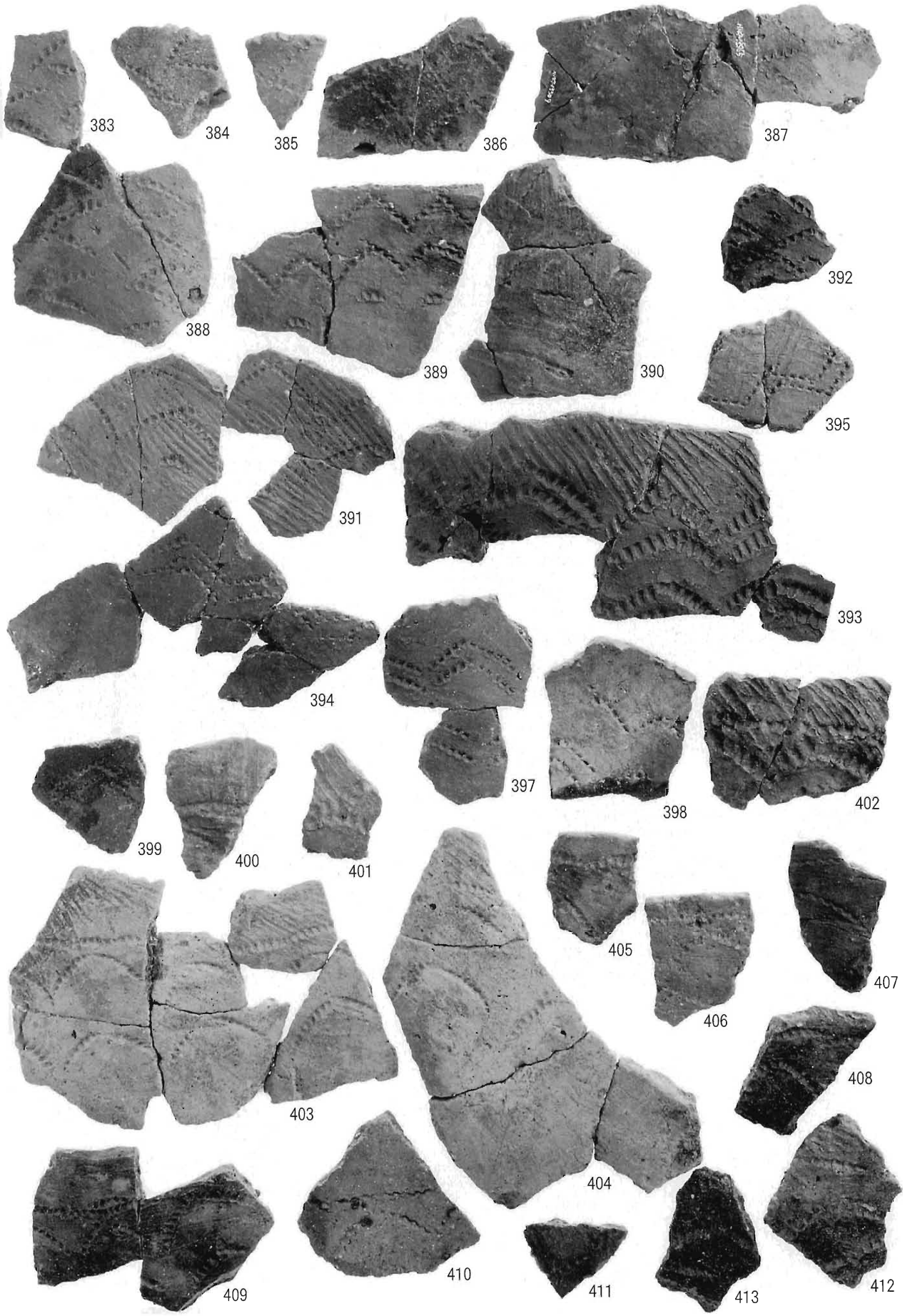
396

縄文時代　土器17

写真図版 48

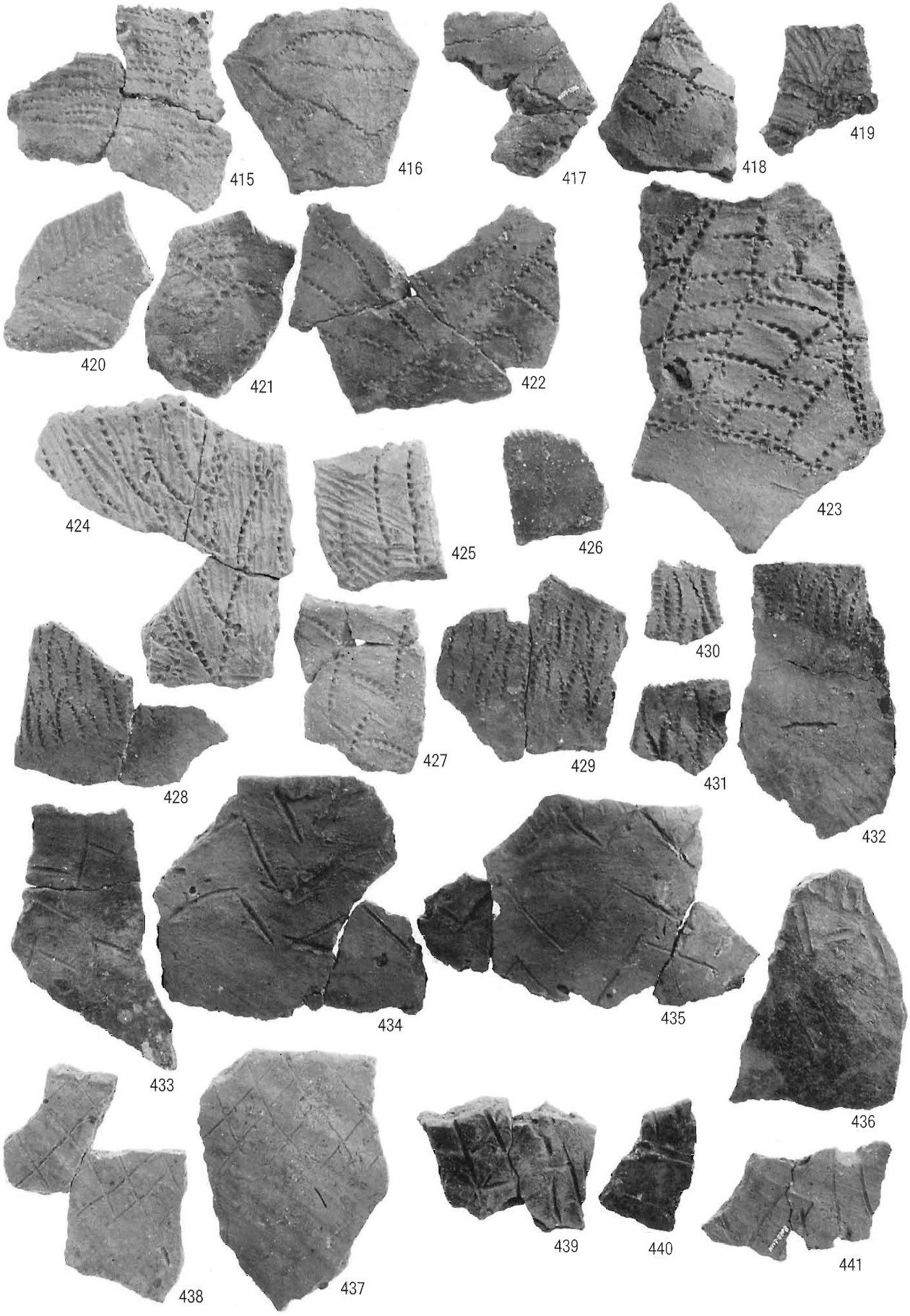


縄文時代　土器18

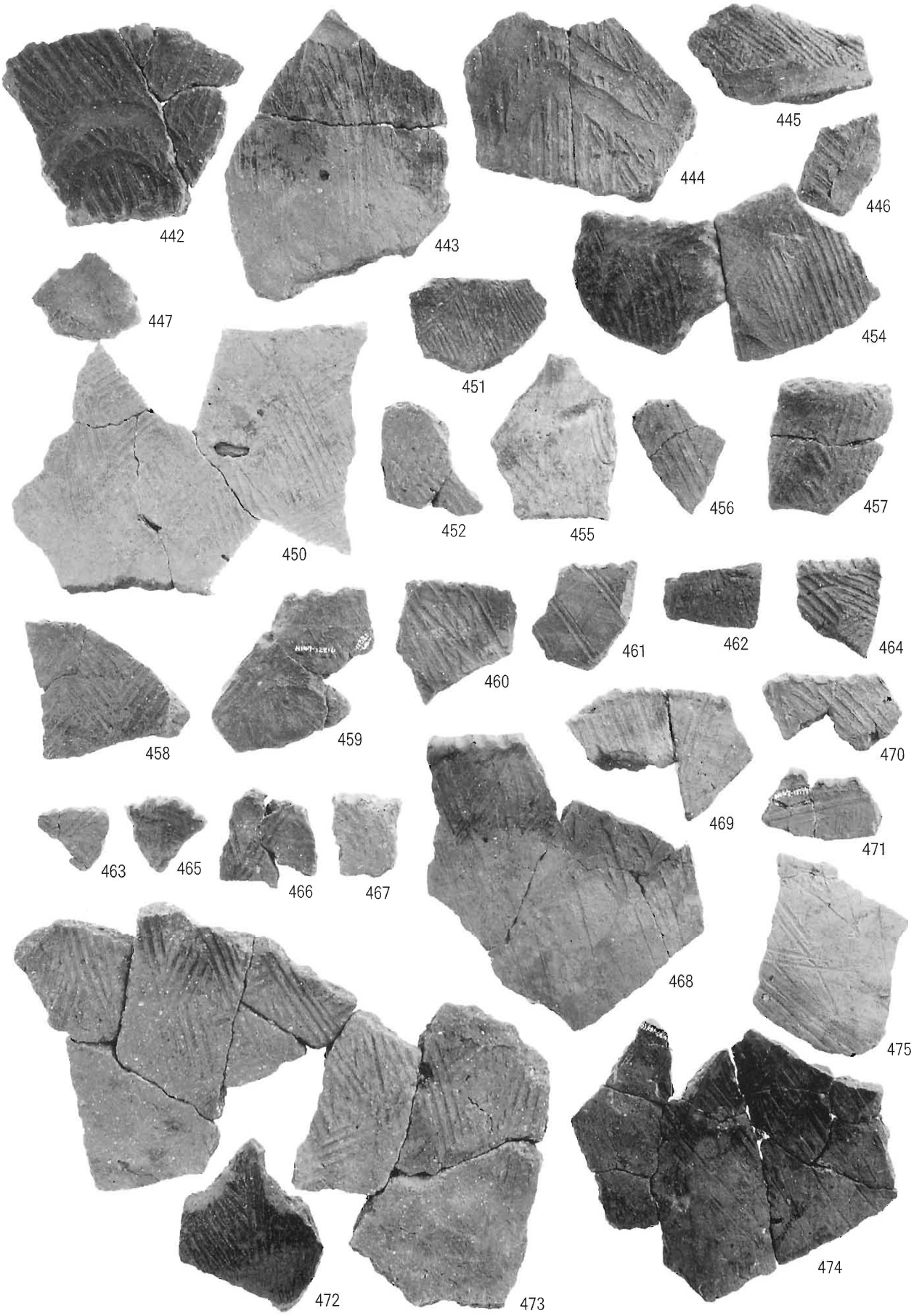

383
384
385
386
387
388
389
390
392
391
395
393
394
397
398
402
399
400
401
405
407
406
403
404
408
409
410
411
413
412

縄文時代　土器19

写真図版50

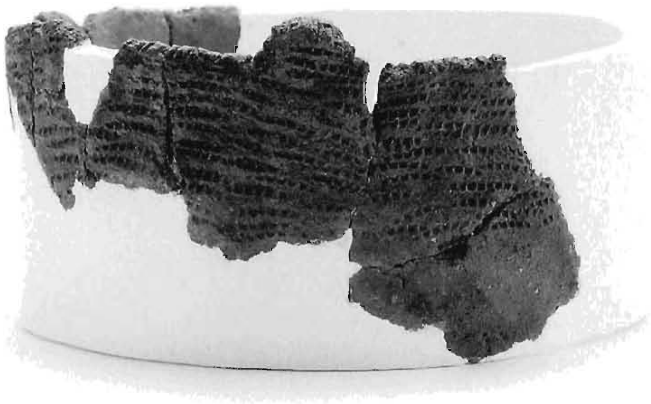


縄文時代　土器20


442
443
444
445
446
447
450
451
452
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475

縄文時代　土器21

写真図版52



414

449

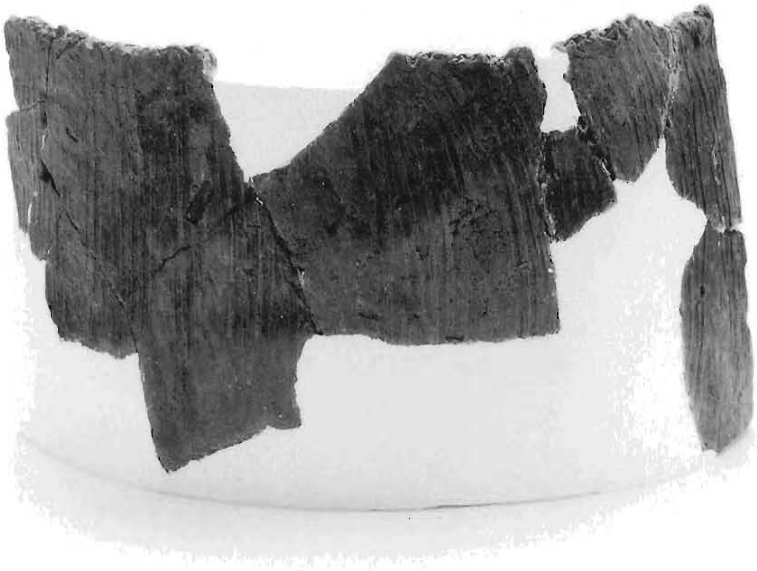
縄文時代　土器22

448

縄文時代　土器23

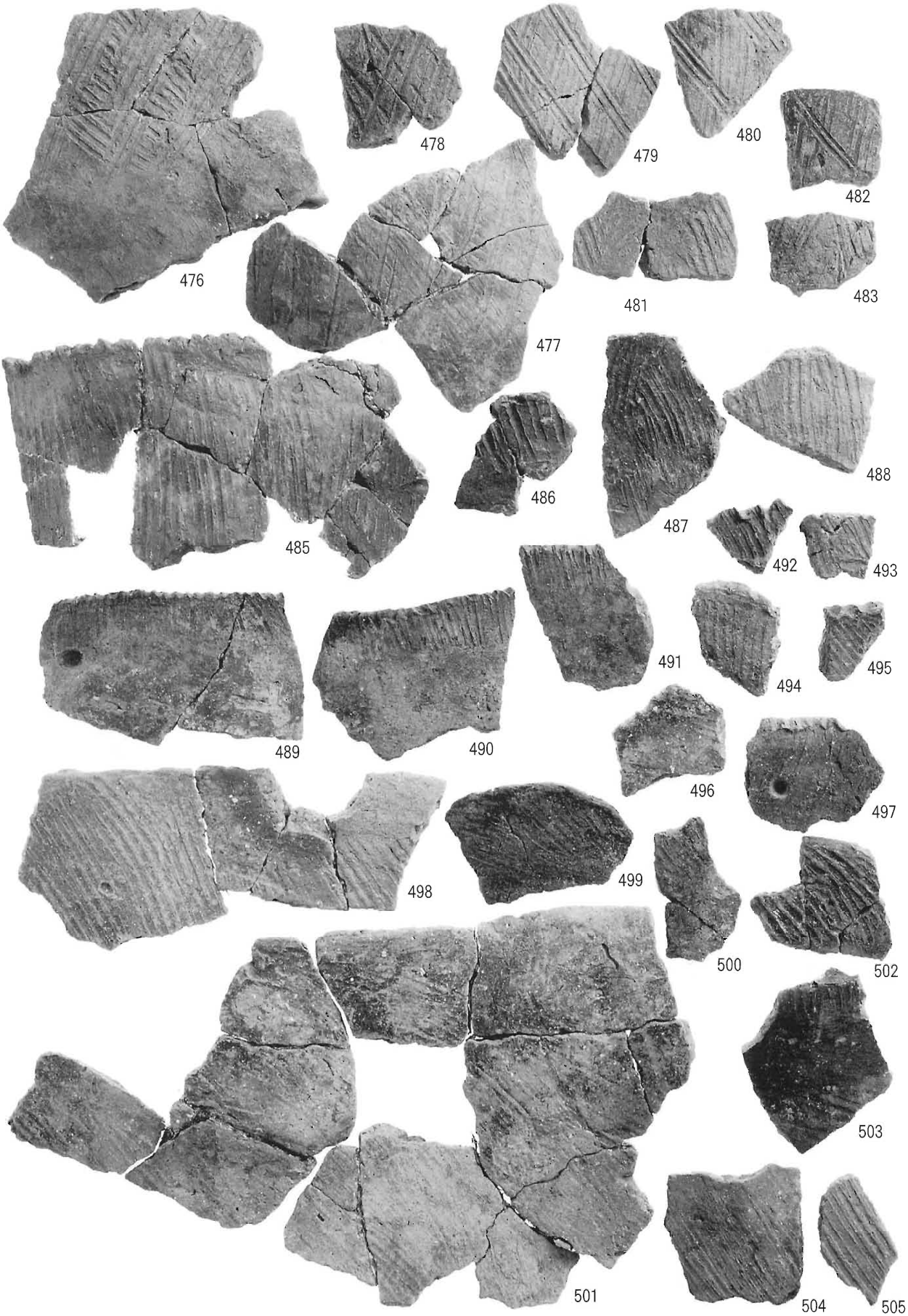
写真図版 54

453



484

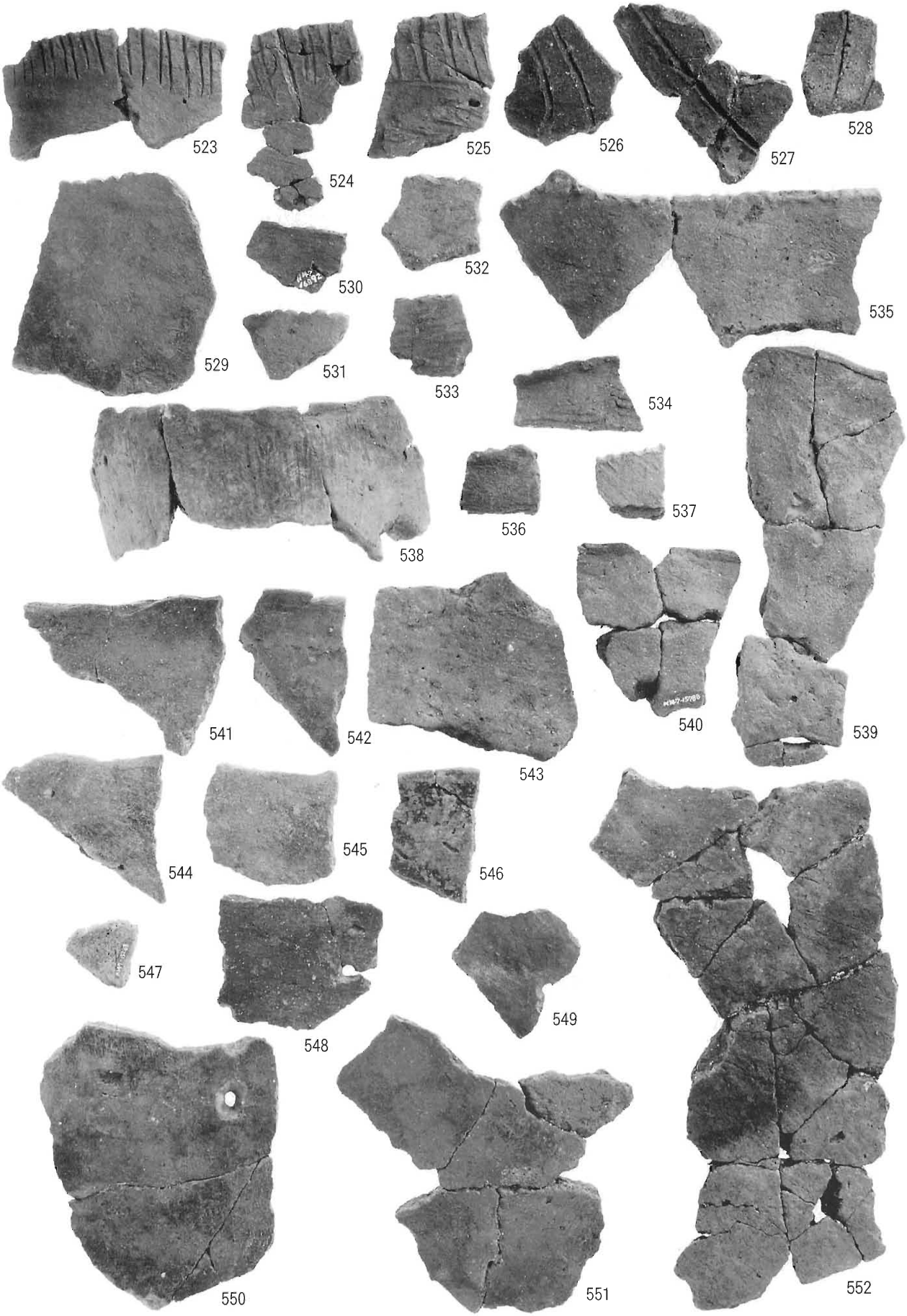
縄文時代　土器24


476
478
479
480
482
481
483
477
485
486
488
487
492
493
491
494
495
489
490
496
497
498
499
500
502
503
501
504
505

縄文時代　土器25

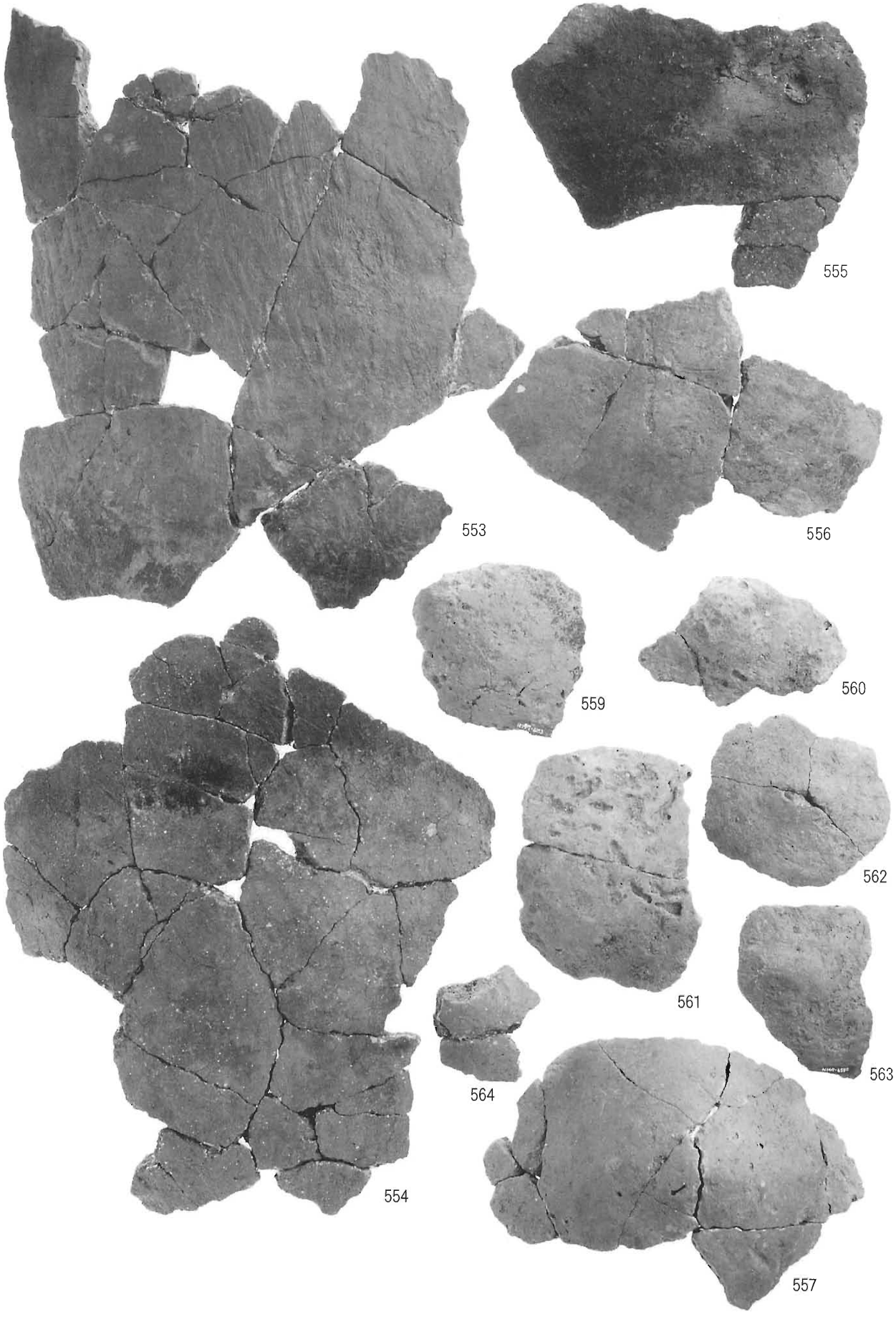
写真図版 56

縄文時代　土器26


523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552

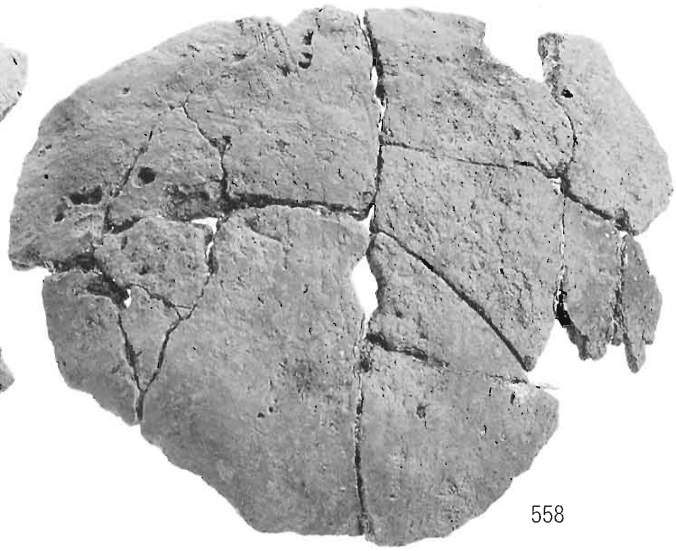
縄文時代　土器27

写真図版 58



縄文時代　土器28

565

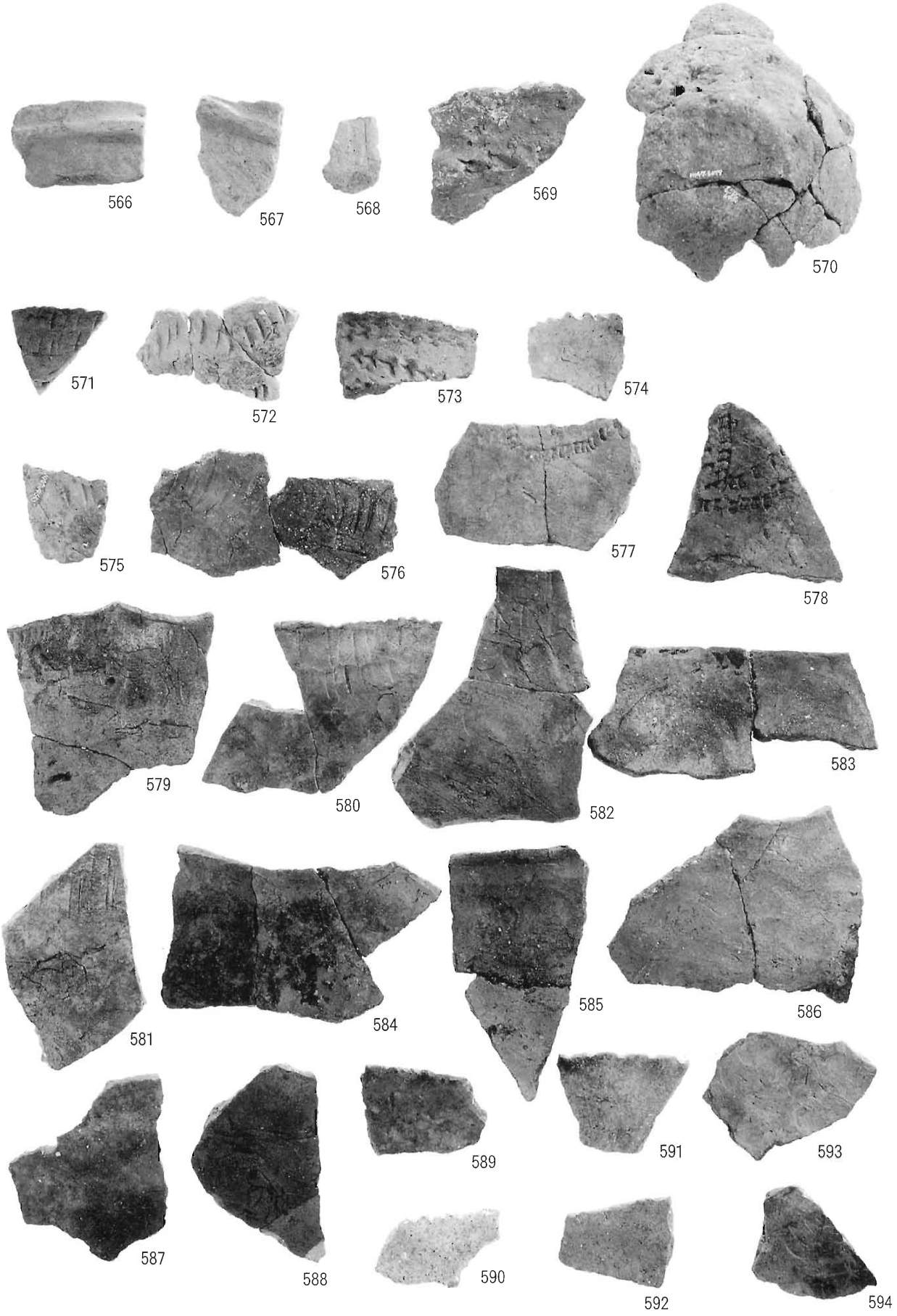


558

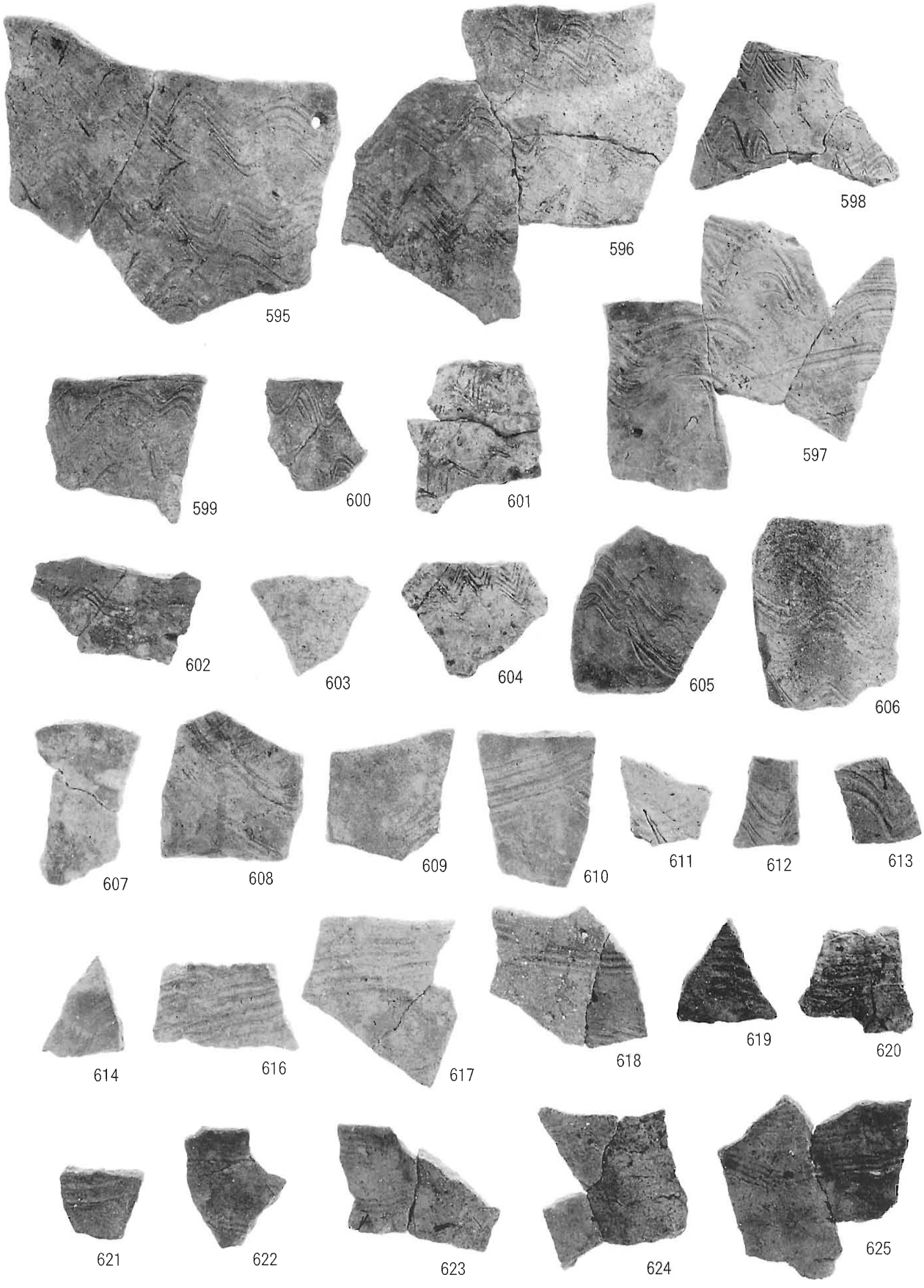
615

縄文時代　土器29

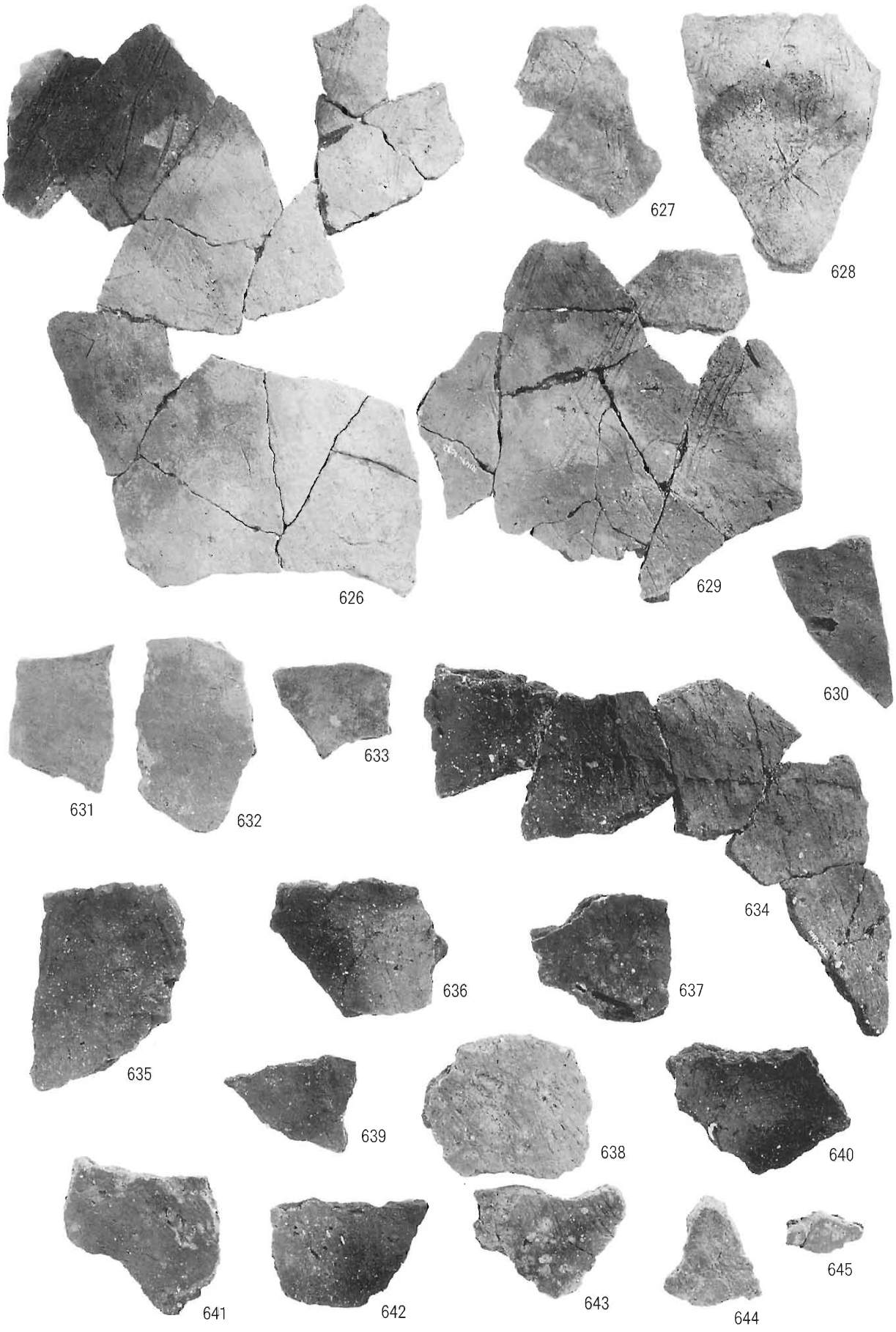
写真図版60



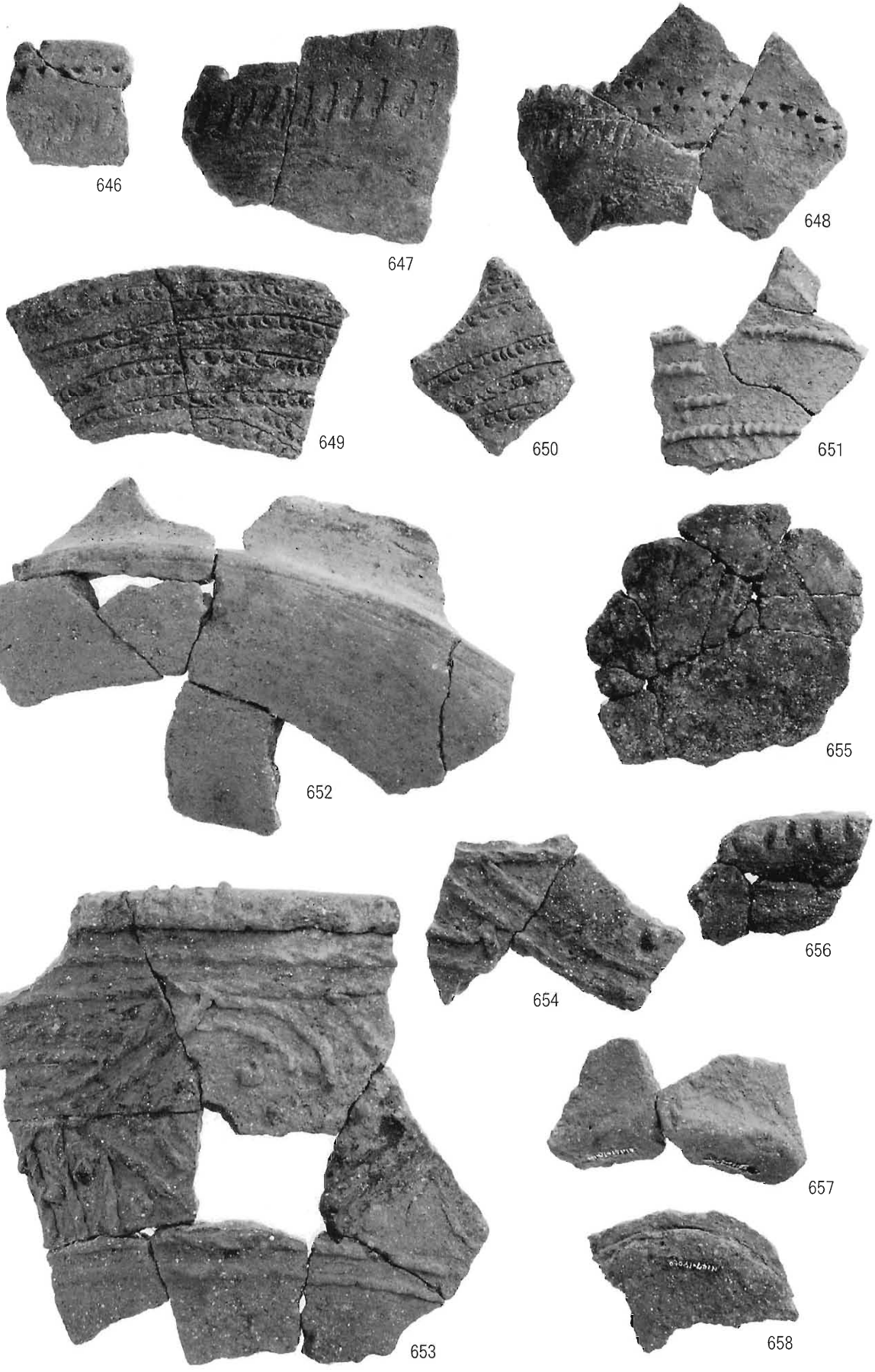
縄文時代　土器30


595
596
598
597
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625

写真図版62

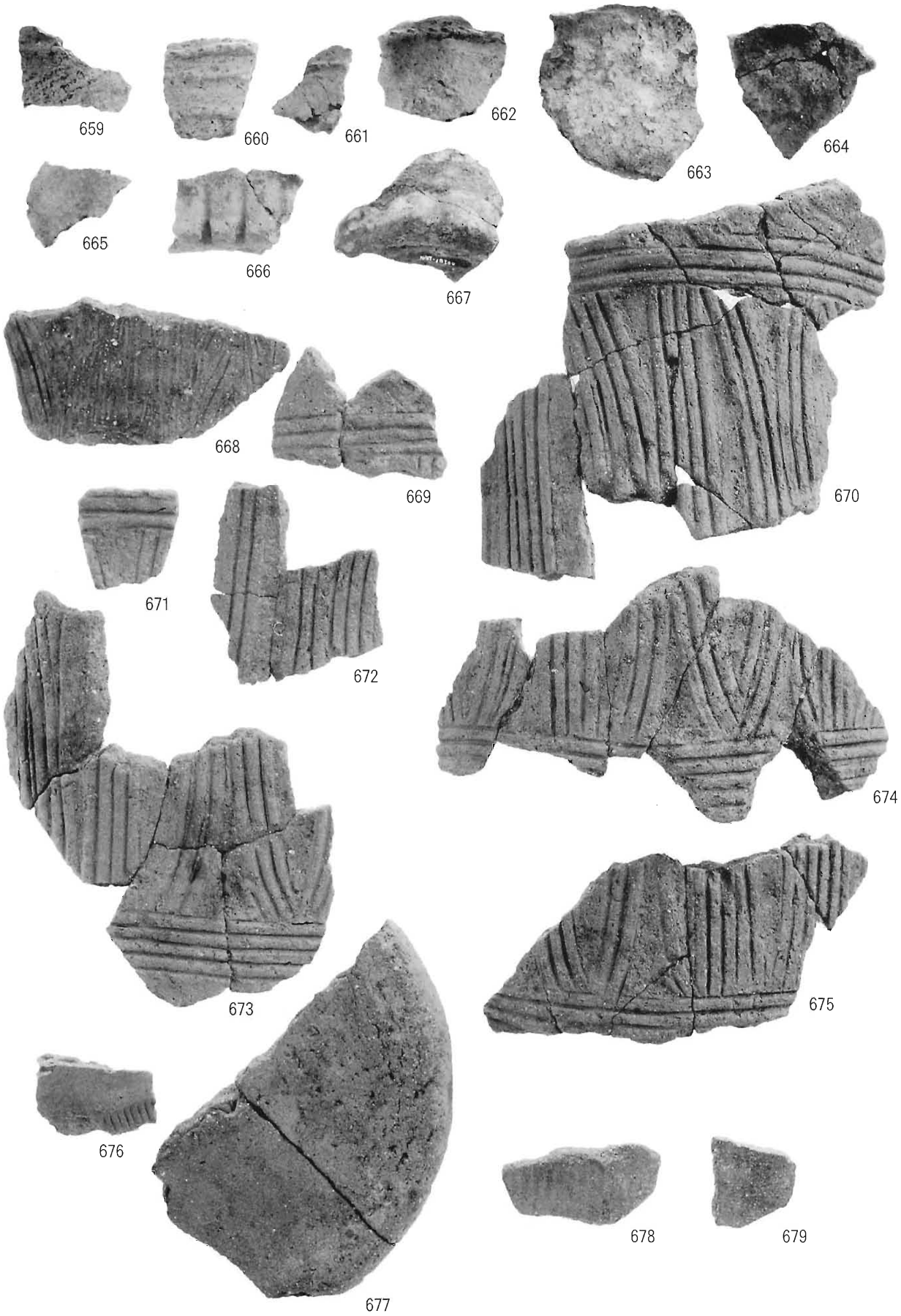


縄文時代　土器32



縄文時代　土器33

写真図版64



縄文時代　土器34

報告書抄録

ふりがな	ほとけがおいせき
書名	佛ヶ尾遺跡(第二東名No.147地点)
副書名	第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	裾野市-1
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第175集
編著者名	野田正人　成田修一
編集機関	財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　TEL054-262-4261(代表)
発行年月日	西暦　2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほとけがおいせき 佛ヶ尾遺跡	しずおかけん 静岡県 すそのし 裾野市 おおはた 大畑 279-1他	22220		世界測地系 35° 11′ 22″	世界測地系 138° 53′ 22″	20030401 ～ 20040322	5,630㎡	道路建設(第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査)
				旧日本測地形 35° 11′ 10″	旧日本測地形 138° 53′ 33″	20040401 ～ 20040731	2,270㎡	

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佛ヶ尾遺跡	散布地	旧石器時代	礫群5・土坑1	ナイフ形石器7・尖頭器3・掻器2・石刃・細石核・細石刃・削器・彫器	休場層期を主体とする。AT下位からは3点のみ。
	散布地	縄文時代 草創期	石器ブロック1	石槍6・有舌尖頭器1・半月形両面体・石鏃3・	該期の土器は出土していない。
	集落	縄文時代 早期 前期 中期	住居跡6・竪穴状遺構3・陥穴状土坑9・土坑6・小穴13・集石14・焼土跡5・石器ブロック1	石鏃・削器・掻器・石核・両面調整石器・楔形石器・玦状耳飾2・打製石斧・礫器・磨石類・石皿類 縄文土器(茅山式・打越式・石山式・天神山式・諸磯式・北白川下層式・五領ヶ台式)	打越式期と思われる住居跡6基及び竪穴状遺構3基を検出。打越式と併行する東海系土器との良好な共伴関係が見られた。
	散布地	弥生時代以降	円形土坑3	土師器・灰釉陶器・砥石	なし。

要約

佛ヶ尾遺跡は、愛鷹東南麓に立地する遺跡である。旧石器時代から縄文時代中期までの遺物があるが、主体となるのは集落の属する縄文時代早期である。集落はほぼ環状を呈し、打越式土器の検出が多い。また、打越式土器に併行する東海系の石山式や天神山式土器も数多く出土し、良好な共伴関係を示している。旧石器時代は休場層期を主体とし、ナイフ形石器などが検出された。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第175集

佛ヶ尾遺跡

第二東名No.147地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成19年３月31日発行

編集・発行　財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054-262-4261(代)
FAX　054-262-4266

印刷所　みどり美術印刷株式会社
〒410-0058　静岡県沼津市沼北町２丁目16番19号
TEL　055-921-1839(代)